PDF-Tools

マニュアル

Jungle

目次

1. PDF-Tools V10 8
2． インストール 11
2-1. システム要件 12
2-2. 使用許諾契約書 13
2-3. PDF-XChange アップデータ 22
3． PDF-Tools の特徴 27
4． ユーザーインターフェース 35
5． ツール作成 46
6． ツール複製 53
7． アクションライブラリ 59
7-1. [PDF 作成]アクション 61
7-1-1. ファイルを PDF に変換する 62
7-1-2. 画像から PDF を作成 69
7-1-3. ページを抽出 77
7-1-4. スキャナから画像を取得 79
7-1-5. ドキュメントを分割/結合 84
7-2. [PDF エクスポート]アクション 87
7-2-1. PDF を画像にエクスポート 88
7-2-2. PDF を Microsoft Excel スプレッドシートにエクスポート 92
7-2-3. PDF を Microsoft Word ドキュメントにエクスポート 97
7-2-4. 添付ファイルを抽出 102
7-2-5. PDF から画像を抽出 104
7-3. 入力/出力アクション 106
7-3-1. 入力ファイル選択 107
7-3-2. ドキュメントを保存 116
7-3-3. 画像を保存 118
7-3-4. メールを送信 121
7-3-5. ファイルを表示 123
7-4. ブックマーク・アクション 125
7-4-1. 目次の作成 126
7-4-2. ブックマークをエクスポート 131
7-4-3. ブックマークをテキストファイルにエクスポート 132
7-4-4. ブックマークテキストを検索して置換 135
7-4-5. ページテキストからブックマークを生成 137

7-4-6. ブックマークをインポート 146
7-4-7. テキストファイルからブックマークをインポート 148
7-5. PDF を最適化アクション 150
7-5-1. スキャンページの向上・改善 151
7-5-2. PDF を最適化 154
7-5-3. 画像の再圧縮 164
7-6. PDF 規格アクション 168
7-6-1. PDF/A に変換 169
7-6-2. PDF/X に変換 171
7-7. ページ・アクション 173
7-7-1. ベイツ番号を追加 175
7-7-2. ヘッダとフッタを追加 179
7-7-3. 透かしを追加 183
7-7-4. ページのトリミング 187
7-7-5. ページを削除 190
7-7-6. ページを複製 192
7-7-7. オーバーレイレイヤーとしてインポート 194
7-7-8. 空白ページを挿入 197
7-7-9. ページを挿入 199
7-7-10. ページを結合 201
7-7-11. ページを移動 204
7-7-12. ページをラスタライズ 206
7-7-13. ヘッダとフッタを削除 209
7-7-14. ページの置換 210
7-7-15. ページ・リサイズ 212
7-7-16. ページを回転 215
7-7-17. ページの分割 217
7-8. リンク・アクション 221
7-8-1. Web リンクを作成 222
7-8-2. リンクを削除 224
7-8-3. Web リンクを削除 226
7-9. フォーム・アクション 228
7-9-1. フォームフィールドを削除 229
7-9-2. フォームデータをエクスポート 231
7-9-3. フォームデータをインポート 233
7-9-4. フォームリセット 235

7-10. コメント・アクション 236
7-10-1. すべてのコメントを削除 237
7-10-2. 注釈マークを削除 239
7-10-3. コメントをエクスポート 241
7-10-4. コメントとフィールドをフラット化 243
7-10-5. コメントをインポート 245
7-10-6. コメントサマリーを作成 247
7-11. プロテクトアクション 250
7-11-1. PDF にタイムスタンプを追加 251
7-11-2. 墨消しの適用 254
7-11-3. セキュリティの付加 255
7-11-4. ドキュメントに署名 258
7-12. その他アクション 262
7-12-1. ドキュメントのプロパティの変更 263
7-12-2. 色変換 269
7-12-3. ファイルリストを作成 274
7-12-4. ファイルをフィルタ 275
7-12-5. 正規表現で検索 277
7-12-6. ドキュメントを印刷 279
7-12-7. アプリケーションを実行 285
8. デフォルトツール 287
8-1. [PDF 作成]ツール 289
8-1-1. ファイルを PDF に変換 290
8-1-2. 画像から PDF を作成 292
8-1-3. テキストから PDF を作成 294
8-1-4. PDF ポートフォリオを作成 296
8-1-5. ページを抽出 298
8-1-6. PDF へスキャン 300
8-1-7. PDF を分割/結合 302
8-2. [ページ]ツール 304
8-2-1. ベイツ番号を追加 306
8-2-2. ヘッダとフッタを追加 308
8-2-3. 透かしを追加 310
8-2-4. ページのトリミング 312
8-2-5. ページを削除 314
8-2-6. ページを複製 316

8-2-7. 空白ページを挿入 318
8-2-8. ページを挿入 320
8-2-9. ページを結合 322
8-2-10 ページを移動 324
8-2-11. OCR ページ 326
8-2-12. ページをラスタライズ 328
8-2-13. ページの置換 330
8-2-14. ページ・リサイズ 332
8-2-15. ページを回転 334
8-2-16. ページ背景を設定 336
8-2-17. ページ分割 338
8-3. [リンク]ツール 340
8-3-1. Web リンクを作成 341
8-4. [フォーム]ツール 343
8-4-1. フォームデータをエクスポート 344
8-4-2. フォームデータをインポート 346
8-5. [コメント]ツール 348
8-5-1. すべてのコメントを削除 349
8-5-2. 注釈マークを削除 351
8-5-3. コメントをエクスポート 353
8-5-4. コメントとフィールドをフラット化 355
8-5-5. コメントをインポート 357
8-5-6. コメントサマリーを作成 359
8-6. [ブックマーク]ツール 361
8-6-1. ブックマークをエクスポート 362
8-6-2. ブックマークをテキストファイルにエクスポート 364
8-6-3. ブックマークテキストを検索して置換 366
8-6-4. ページテキストからブックマークを生成 368
8-6-5. ブックマークをインポート 370
8-6-6. テキストファイルからブックマークをインポート 372
8-7. [プロテクト]ツール 374
8-7-1. 墨消しの適用 376
8-7-2. PDF の認証 378
8-7-3. すべてのデジタル署名を削除 380
8-7-4. 検索と墨消し 382
8-7-5. センシティブ情報を除去 384

8-7-6. セキュリティの付加 386
8-7-7. ドキュメントに署名 388
8-7-8. PDF にタイムスタンプを追加 390
8-8. [PDF 最適化]ツール 392
8-8-1. スキャンページを向上・改善 393
8-8-2. PDF を最適化 395
8-8-3. 画像の再圧縮 397
8-9. [PDF 規格]ツール 399
8-9-1. PDF/A に変換 400
8-9-2. PDF/X に変換 402
8-9-3. 特別な PDF 規格を破棄する 404
8-10. [PDF エクスポート]ツール 406
8-10-1. PDF を画像にエクスポート 407
8-10-2. PDF を Excel スプレッドシートにエクスポート 409
8-10-3. PDF を PowerPoint プレゼンテーションにエクスポート 411
8-10-4. PDF を Word ドキュメントにエクスポート 413
8-10-5. PDF をプレーンテキストにエクスポート 415
8-10-6. PDF から画像を抽出 417
8-11. [その他]ツール 419
8-11-1. ドキュメントのプロパティの変更 420
8-11-2. 色変換 422
8-11-3. 添付ファイルを抽出 424
8-11-4. ドキュメントを印刷 426
8-11-5. メールを送信 428
9. 付録 430
9-1. 利用可能なファイル・フィルタ 431
9-2. Windows シェルメニューにツールを追加 435
9-3. コマンドラインオプション 437
9-4. トリミング余白 449
9-5. バージョン 10 で追加された機能 451
9-6. フォントと段落のオプション 453
9-7. マクロ 455
9-8. メディアファンデーションのインストール 458
9-9. ページ範囲のオプション 460
9-10. 環境設定 462
9-10-1. 一般 465

9-10-2. 言語 467
9-10-3. パスワード 469
9-10-4. ユーザー登録 471
9-10-5. カラーマネジメント 472
9-10-6. PDF から変換 474
9-10-7. PDF に変換 476
9-10-8. UI カスタマイズ 477
9-10-9. ユーザー情報 479
9-10-10. 測定 480
9-10-11. OCR 481
9-10-12. パフォーマンス 483
9-10-13. プラグイン 484
9-10-14. スキャナプリセット 486
9-10-15. メール送信 490
9-10-16. 署名 492
9-10-17. アップデート 496
9-11. フォルダモニター 497

1. PDF-Tools V10

PDF-Tools は、PDF および画像ファイルの作成と操作のための動的でユーザーフレンドリーなソリューションです。76 のデフォルトツールと、完全にカスタマイズ可能なツールを複製、編集、作成するオプションを備えているため、既存の PDF 機能を補完するのに理想的なソフトウェアです。この製品には、**PDF-XChange** の次の2つのソフトウェアアプリケーションが含まれています。

PDF-XChange Editor – PDF ファイルの作成、表示、編集、注釈付け用として、世界中で利用されている最小、最速で、最も機能が豊富な PDF エディタ/ビューアのひとつです。

PDF-XChange Lite – 仮想プリンターとしてインストールされ、Windows アプリケーションから PDF への印刷に使用できるという各賞受賞歴のあるテクノロジーを搭載。最適化されたハイブリッド・エンジンを搭載し、画像や画像ベースのテキスト文字の変換品質を大幅に向上させることができ、GDI と XPS の両方に印刷できます。

このマニュアルは、次のようなセクションで構成されています。

- **「インストール」**
  インストール手順、システム要件、インストール・スイッチ・オプション、およびソフトウェアのライセンスの詳細が記されています。
- **「PDF-Tools の特徴」**
  PDF-Tools の主な機能について詳しく説明します。

- **「ユーザーインターフェース」**
  PDF-Tools のユーザーインターフェースのさまざまなコンポーネントの詳細について説明します。
- **「ツール作成」**
  カスタムツールの作成に使用される**ツール作成**機能の詳細について説明します。
- **「複製ツール」**
  デフォルトのツールの複製の作成に使用され、設定のカスタマイズも可能とする**複製ツール**機能の詳細について説明します。
- **「アクションライブラリ」**
  ツール作成の機能がツールの構築に使用するアクションの詳細について説明します。
- **「デフォルトツール」**
  当アプリケーションに含まれる 76 のデフォルトツールの詳細について説明します。

企業全体で **PDF-XChange** 関連製品を管理するためのシステム管理者ガイドは、**こちら**（英語サイト）から入手できます。

PDF 形式

Portable Document Format(PDF)は、1992 年に開発された国際的に認められたファイル形式で、相互に互換性のあるアプリケーション・ソフトウェアにアクセスできない可能性のある、異なるプラットフォーム、アプリケーション・ソフトウェア、ハードウェア、およびオペレーティングシステムのユーザー間で、テキスト・フォーマットや画像などのドキュメントを表示するために開発されました。PDF ファイルは **PostScript** ページ記述言語に基づいており、すべての PDF ファイルには、テキスト、フォント、ベクター画像、ラスターイメージ、および表示に必要なその他の情報を含む、固定レイアウトのフラット・ドキュメントの完全な説明が含まれています。PDF は 2008 年にオープン形式として標準化され、それ以来、フラットテキストやグラフィック以外にも、論理的な構造化要素、注釈やフォームフィールドなどのインタラクティブ要素、レイヤー、リッチメディア（ビデオコンテンツを含む）、**U3D** や **PRC** を使用する 3 次元オブジェクト、フォーマット、暗号化オプション、デジタル署名、添付ファイル、ドキュメントメタデータなどさまざまな追加コンテンツを含むように拡張されています。PDF 形式の仕様は、**国際標準化機構（ISO)**によって定義および管理され、PDF ドキュメントで許可されるコンテンツ、そのコンテンツのプロパティ、および操作方法が決定されます。元の PDF 仕様は 1993 年に作成され、それ以来、追加のコンテンツを含むように定期的に拡張および拡張されてき

ました。**ISO** は、2020 年 12 月に最新の仕様である **PDF 2.0**、**ISO 32000-2:2020** を公開しました。**PDF-XChange** ソフトウェアで作成および/または編集されるすべてのドキュメントは ISO 仕様に準拠しているため、**ISO** 仕様に準拠する世界中のすべてのシステムおよびソフトウェアと互換性があります。

---

2. インストール

PDF-Tools をインストールする際は、次の手順に従ってください。

1. 購入または製品ページの無料トライアルの評価版をダウンロードしてください。

2. ダウンロードが完了したら、ダブルクリックして、**実行/キャンセルのダイアログ**ボックスを開きます。

3. **実行**をクリックして、**セットアップを開きます。**

4. **インストールをクリックします。**

注:
インストーラーを初めて実行したときに、登録番号/アクティベーションキーの入力を求めるプロンプトが表示されます。領収書からこの情報をコピー＆ペーストすることをお勧めします。

重要
シリアルキー/アクティベーションキーは厳重に保管してください。著作権の侵害にあたり、違法となるため、これらを他者とは共有しないでください。不正使用の証拠が見つかった場合、アカウントの更新は無効となります。Web サイトで無料および違法なソフトウェアの配布等の提供が見つかった場合、それに対応するシリアルキー/アクティベーションキーは、直ちに無効となります。当社は、そのような Web サイトを毎日監視しています。将来的にも製品開発を可能とするために、製品の完全性の保護にご協力お願いいたします。ソフトウェアに関わる盗難は、すべてのクライアントの利益のために行っている製品の改善に対する投資を損なう結果につながります。

2-1. システム要件

PDF-Tools は、**Windows 11** を含む、**Windows7** 以降のすべての **Windows** (32/64 ビット) オペレーティングシステムをサポートしています。

以下の点にご注意ください。

- **V4** から **V10** までのすべてのバージョンは、**Microsoft/Citrix ターミナル・サーバー**と互換性があります。
- **V4** から **V7** までのすべてのバージョンは、**Windows XP/Vista** と互換性があります。
- **サポートが終了している Windows OS に起因するトラブルなどの技術的問題が発生した場合、調査および解決することができない状況になる可能性があります。製品を起因としていない問題はサポート対象外となります。**

2-2. 使用許諾契約書

ご注意ください
下記の日本語の EULA は英語を翻訳した内容となっております。
正式な内容を確認する際には原文をご参照ください。
原文：https://help.pdf-xchange.com/pdfxt10/license-agreements_ed.html

PDF-XChange® バージョン 10.x EULA（エンドユーザー使用許諾契約書）

このライセンス契約は、**PDF-XChange Lite**、**PDF-XChange Standard**、**PDF-XChange Viewer**、**PDF-XChange Editor**、**PDF-XChange Editor Plus**、**PDF-Tools**、**PDF-XChange PRO**(スイート/バンドル)、およびその他すべてのユーティリティおよびコンポーネントを使用する権利および資格について詳述しています。よくお読みいただき、大切にお取り扱いください。

本契約は、お客様(個人または法人)と PDF-XChange Co., Ltd.(以下、「PDF-XChange Co」といいます)との間間で締結されます。PDF-XChange Co は、使用中のバージョンに関連する本契約のすべての条件に拘束されることに同意する場合に限り、PDF-XChange Lite、PDF-XChange Standard、PDF-XChange Editor、PDF-XChange Editor Plus、PDF-Tools および/または PDF-XChange PRO、およびそれに付随するドキュメント(総称して「ソフトウェア」)として知られるソフトウェアを使用する以下の権利をお客様に付与します。本契約のいずれかの条件に同意しない場合、PDF-XChange Co はライセンスを付与することを望まず、封印されたメディアパッケージ(または電子配布によって提供された場合は配布ソフトウェアファイル)を開かないでください。代わりに、密封されたメディアのパッケージとドキュメントを速やかに返却するか、電子配布の場合は、保存したストレージメディアから完全に削除する必要があります。上記の条件を満たしている場合、支払い前にソフトウェアの試用版が使用され、その後ロック解除コードが提供された場合を除き、行った支払いはすべて返金されます。

このソフトウェアは、無料で使用するために(機能が制限されているか、評価モードでのみ利用できる場合があります)、またはライセンスされた有料製品として提供されます。ソフトウェアのすべての機能を制限または制限なしに使用する場合は、使用する特定のアプリケーションのライセンスが必要になります。
お客様は、お客様がエンドユーザーであり、本ライセンスに規定されている以外のいかなる目的においても、再販または配布を意図した他の製品またはソフトウェアパッケージと共に、またはそれらに組み込むことを意図していない場合に限り、これらのアプリケーションの無料版を無料で使用することができます。PDF-XChange Viewer/Editor(無料版)を何らかの目的で配布したい場合は、 sales@pdf-xchange.com PDF-XChange Co に電子メールを送信し、直接的または間接的な商業的または金銭的利益を受け取らない限り、そのような許可は通常、迅速かつ「無料」で付与されます。

PDF-XChange Editor または Editor Plus の体験版/評価版/無料版に含まれる高度な「PRO」機能を使用すると、ドキュメントに「DEMO」ラベルスタンプが押されることがあります。体験版/評価版/無料版を使用する際には、画面上のメッセージと警告にご注意いただき、ライセンスされた機能を使用しているかどうかについてわからない場合は、変更を加える前に必ずドキュメントのコピーを保持していることを確認してください。

1. 所有権: 本ソフトウェアは、PDF-XChange Co に所有権があり、今後も存続するものとします。第 2 条に定めるライセンス付与を除き、お客様は本ソフトウェアに対するいかなる権利、権原、または利益も有しません。本ソフトウェアは、お客様に対してライセンス供与されるものであり、販売されるものではなく、本契約の条件に基づいてのみ使用できます。本契約のすべての条件に拘束されることに同意する場合は、ソフトウェア自体を所有するのではなく、ソフトウェアが提供された可能性のあるメディア(存在する場合)のみを所有することになります。

2. ライセンスおよびボリュームライセンスの付与: PDF-XChange Co は、このライセンス契約の条件に従って、お客様および/またはお客様のビジネスがエンドユーザーであり、エンドユーザーに対するソフトウェア開発者またはディストリビューターではないことを条件として、お客様自身の個人的、商業的、またはビジネス目的でソフトウェアを使用するための**個人的、非独占的、譲渡不能、制限付きの権利**を付与します。**このライセンスは、ソフトウェアの API へのアクセスを許可していません-開発者キットを持っている場合でも-これはソフトウェアのエンドユーザーバージョンのみです-これは開発者ソフトウェアツールではありません。別のソフトウェアアプリケーションにリンクしている、または別のソフトウェアアプリケーション内から(直接的または間接的に)リンクしているこの製品のバージョンを使用する場合は、この目的に特化したソフトウェア開発キット(SDK)を購入してライセンスを取得**

する必要があります。これらの SDK は、PDF-XChange Co Ltd から限定的かつケースバイケースで入手できます。

ライセンスを取得した各ユーザーは、本ソフトウェアを**永続的に**使用することができ、購入したソフトウェアのバージョンの継続的な使用に対して、さらなる支払いを行う**必要はありません。 オプションの年間メンテナンス**は、ユーザーがメンテナンスの有効期限が切れた後にリリースされたバージョンに更新できるように利用可能であり、これらの新しいバージョンへのアクセスを希望する場合は、年間料金を支払うことになります。ライセンスを取得した各ユーザーは、ユーザーが両方の機器の**プライマリユーザー**である場合に限り、1 台のデスクトップ PC と 1 台のラップトップまたはノート PC に本ソフトウェアをインストールして使用することができます　。

企業（エンタープライズ）ライセンスおよび法人ライセンスの所有者は、すべてのユーザーを網羅するのに十分なライセンスを購入した場合に限り、無制限の数のワークステーションまたはサーバーで本ソフトウェアを使用およびインストールすることができます。さらに、「サイト」または「国」へ供与のライセンスパックが無制限の数のユーザーが使用できるように購入された場合、以下の地理的および範囲ベースの制限が適用されます。

- 単一の**サイト・ライセンス**は、単一の法人組織（企業体）用であり、単一の地理的/物理的な企業の所在箇所で使用するためのものです。

- **「国」としての法人ライセンス**の所有者は、単一の国境/国内の無制限のサイトにソフトウェアをインストールして使用することができますが、他の国では使用できず、単一の法人組織（企業体）、またはそれが**完全に所有する子会社**の利益のためにのみ使用できます。

- **ワールドワイド（グローバル）の法人ライセンス**の所有者は、国境に関する限りにおいて、無制限の数の場所にソフトウェアをインストールして使用する権利を有するものとします。これらのライセンスはすべて、単一の法人組織（企業体）、またはそれが**完全に所有する子会社**に関連するものとします。

- **ワールドワイド（企業）の法人ライセンス**の所有者は、国境に関する限りにおいて、無制限の数の場所にソフトウェアをインストールして使用する権利を有するものとします。ライセンスは、単一の法人、**50.1% 以上の最終的な支配権（構造の如何を問わず）を保有されている子会社**、および法人の代理店または関連会社に雇用されているすべてのスタッフに関連するものとします。

- 本ソフトウェアは、ライセンシーが直接所有またはリースし、ライセンシーと共に、かつライセンシーに利益をもたらすためだけに長期的に雇用されているスタッフまたは代理店のスタッフが使用する機器にのみインストールできます。

- **アカデミック・キャンパス・ライセンシー**の場合、教員は、アカデミックコースの作業を行うために使用される個人用の機器にソフトウェアをインストールすることができます。ただし、キャンパスの機器での学生によるソフトウェアの使用は許可されていますが、学生個人の機器へのソフトウェアのインストールと使用は禁止されています。

- **政府機関ライセンス**について。本契約の目的上、市町村および地方政府（行政）の事務所/部門は、単一の法人/団体と商業的に同等のものとして扱われるものとします。個々の州および連邦政府の部門は、単一の法人/団体と同等のものとして扱われるものとします。**州政府または連邦政府が複数の部門を網羅するライセンスを購入したい場合は、「連邦」ライセンスが必要となり**、その詳細はリセラー（販売業者）または PDF-XChange Co., Ltd.（ sales@pdf-xchange.com）に直接お問い合わせください。

3. 制限事項: I) PDF-XCHANGE CO は、お客様に明示的に付与されていない本ソフトウェアのすべての権利を留保します。II) 第 2 条で許可されている場合を除き、お客様は、本ソフトウェアを使用、複製（コピー）、変更、派生物の作成、販売、配布、譲渡、誓約、サブライセンス、リース、貸与、賃貸（レンタル）、タイムシェア、配信、電子送信、またはその他の方法で譲渡したり、第三者に上記のいずれかを許可したりすることはできません。III) お客様は、本ソフトウェアから商標、商号、ロゴ、特許または著作権表示またはマーキングを削除したり変更したりすることはできません。また、本ソフトウェアに上記のいずれかを追加することもできません。IV) いかなる手段によっても、ソースコードを派生させたり、派生を試みたり、それを第三者に許可したりすることはできません。V) お客様は、本ソフトウェアまたはその一部をリバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブル、または翻訳することはできません。VI) このライセンス契約の下では、画像の特許に基づくライセンスは付与されません。そのようなライセンスが必要であると思われる場合は、第三者に直接連絡して取得する必要があります。

PDF-XCHANGE CO は、すべての雑誌、印刷物、ソフトウェア・ダウンロード・サイトなどによるソフトウェアの無料版の配布を促進することを歓迎します。インストーラーまたはコンポーネントにリエンジニアリングが発生しないこと、およびソフトウェアの配布に追加料金が支払

われないことを条件として、出版社のサブスクリプション/ニューススタンド料金または出版物に常に請求されるその他の同様の費用を除きます。

4. 限定的保証: PDF-XChange Co は、本ソフトウェアに含まれる機能がお客様の要件を満たすこと、または本ソフトウェアの動作が中断されないこと、またはエラーがないことを保証しません（「現状のまま」で提供され、パフォーマンスまたは結果に関する保証はありません）。PDF-XChange Co は、本ソフトウェアが供給されるメディアが、本ソフトウェアの受領から 30 日間は欠陥がないこと、または電子的に供給される場合は、本ソフトウェアが収納されている「ラッパー（包装）」が完全であり、接続の側での欠陥がないことを保証します。ただし、供給手段は当社の絶対的な制御が及ばないため、同じ状態で受け取ることを保証することはできません。ソフトウェアが保証に準拠しなかった場合、この限定保証は無効になります。不適切なインストール、誤用、テスト、放置、事故、火災またはその他の危険、または本契約の違反に起因する場合。この保証はお客様に限定され、譲渡することはできません。PDF-XChange Co のサプライヤー、エージェント、または従業員は、この限定保証を変更、修正、改変、拡張、または追加することを許可されていません。

5. 限定的救済策: 前述の限定的保証に違反した場合、保証期間が終了する前に、本ソフトウェアの請求書のコピーを添えて、本ソフトウェアを PDF-XChange Co または本ソフトウェアを提供した PDF-XChange Co 認定販売代理店に送料前払いで返送する必要があります。PDF-XChange Co の全責任およびお客様の唯一の救済策は、PDF-XChange Co 単独の裁量により、i) お客様が支払ったライセンス料を返金して本契約を終了するか、ii)本ソフトウェアの代替コピーを 30 日間の交換保証期間内において提供するものとします。

6. その他の保証の否認: 他の PDF-XChange Co のサプライヤーでもなく、PDF-XChange Co のみによって作成される前述の限定的保証を除き、このソフトウェアには、いかなる種類の保証もなく、「現状のまま」でお客様にライセンス供与されます。PDF-XChange Co およびそのサプライヤーは、商品性、特定の目的への適合性、権原および第三者の権利の非侵害の保証を含むがこれらに限定されない、明示的または黙示的を問わず、他すべての保証を否認し、拒否します。一部の法域では黙示の保証の否認が認められていないため、上記の免責事項がお客様に適用されない場合があり、その場合、黙示の保証の期間は、お客様が本ソフトウェアを受け取った日から 60 日間です。この保証は、お客様に特定の法的権利を付与するものであり、お客様の管轄区域によっては、追加の法的権利を付与される場合があります。

7. 責任の制限: 本契約および本ソフトウェアに関連する PDF-XChange Co の賠償責任の総額は、かかる賠償を生じさせる訴訟の形式（契約、不法行為、その他を問わず）にかか

わらず、本契約に基づいてお客様が PDF-XChange Co に支払ったライセンス料を超えないものとします。PDF-XChange Co のサプライヤーは、本契約に基づいていかなる責任も負わないものとします。PDF-XChange Co および PDF-XChange Co のサプライヤーは、PDF-XChange Co またはそのようなサプライヤーがそのような損害の可能性について知らされていたとしても、あらゆる種類の間接的、懲罰的、特別、結果的、または偶発的な損害(逸失利益を含むがこれらに限定されない)について責任を負わないものとします。一部の法域では、結果的または偶発的な損害に対する責任の制限または除外が認められていないため、上記の制限または除外がお客様に適用されない場合があります。PDF-XChange Co は、本ソフトウェアに関連する第三者のいかなる請求についても責任を負わないものとします。本契約に含まれる限定的保証、限定的救済策、および責任の制限の条項は、本契約に基づく PDF-XChange Co の取引の基礎の基本部分であり、PDF-XChange Co はこれらの制限なしにソフトウェアをお客様に提供することはできません。

上記の補償に関して PDF-XChange Co が約束する唯一の例外は、PDF-XChange Co の作成した製品を使用して PDF ファイルを作成、表示、変更、または印刷した場合、その PDF 形式と製品の使用に関する賠償責任からライセンシーを PDF-XChange Co は補償するということです。PDF 形式は常にオープン規格であり、もともとは Adobe Systems Inc.によって設計および所有されていましたが、正式にその管理を放棄し、現在では国際標準化機構(ISO)の責任において現バージョン(1.x)の仕様が維持され、将来的なすべてのバージョンの更新および開発がなされています。さらに、PDF-XChange Co は、ISO 委員会によって指定された PDF 形式を製品が満たし、他のメーカーの他のすべての PDF 準拠製品との互換性を確保するために常に努力します。

8. 無償&試用版: 本ソフトウェアが恒久的、半永久的、限定的使用または試用的に無料で提供される場合、ライセンスに関連するすべての条件は、PDF-XChange Co の側に金銭的利益がなかったことを認めることを除いて、同一であるものとし、したがって、お客様はいかなる種類の保証または保証もなくソフトウェアを使用するものとします。リスクは完全にお客様のものであり、お客様もこれを認めるものとします。お客様は、理由の如何を問わず、お客様または第三者によるすべての請求に対して PDF-XChange Co を補償することに同意するものとします。お客様は、PDF-XChange Co がお客様の唯一の利益のために本ソフトウェアを提供したこと、および PDF-XChange Co が金銭的報酬を受け取っていないこと、およびいかなる方法および/または理由においても責任を負うことができないことに同意するものとします。

9. 終了:お客様はいつでも本契約を終了することができます。本契約は、本契約のいずれかの条項に違反した場合、自動的に終了するものとします。終了時に、お客様は、本契約に従い本ソフトウェアおよび本ソフトウェアから作成した追加のコピーを破棄するものとします。

10. 政府機関のエンドユーザー:本項は、お客様が米国政府の支部または機関である場合にのみ適用されます。本ソフトウェアは、48 C.F.R. 12.212（1995年9月）で使用されている「Commercial Computer Software」および「Commercial Computer Software Documentation」で構成され、I)C.F.R. 12.212 に規定されている方針に従い、民間機関による、または民間機関を代表しての取得のために、または II) 48 C.F.R. 227-7202-1 (1995 年 6 月)および 227-7202-3 (1995 年 6 月)に規定された方針と一致し、国防総省の部隊による、または国防総省の部隊の代理として取得するために、政府に提供されます。

11. 米国政府 ECCN 証明書:本ソフトウェアは、商務省の ECCN のプロセスによってテストされ、認定されています。ECCN 証明書情報の提供に関心のある個人または企業は support@pdf-xchange.com に連絡して詳細情報を入手することができます。

12. 一般条項:本契約は、あらゆる目的のために、イングランドの法律に準拠し、それに従って解釈されるものとし、両当事者がその選択に合意した場合、オプションとしてカナダを、ガバナンスおよび解釈のための優先法的管轄権として置き換えることができます。本契約のいずれかの条項が、管轄権を有する裁判所によって何らかの理由で執行不能と判断された場合、本契約の残りの条項はその影響を受けず、引き続き完全な効力を維持するものとします。本契約は、本契約の主題に関する両当事者間の最終的、完全かつ排他的な合意であり、口頭または書面を問わず、かかる主題に関する従前または同時期のすべての理解および合意に優先し、両当事者が作成した書面による場合を除き、修正することはできません。

** PDF-XChange Editor Plus/PDF-XChange PRO のユーザーについて： PDF-XChange Enhanced OCR(EOCR)プラグインとその使用に関連する以下に添付されている重要な追加ライセンス規約と条件も参考までにご覧ください。

著作権:本ソフトウェアおよび付随するすべてのドキュメントは著作権で保護されており、PDF-XChange Co はすべての権利を留保します。付属の EULA(エンドユーザー使用許諾契約)には、この製品の使用に適用される条件が指定されています。

Tracker Software Products(Canada)Ltd は、PDF-XChange Co., Ltd.の所有の完全子会社です。Registered in England. Registration No: 11091579
Copyright © 2001-2022 PDF-XChange Co Ltd; Horsmanshoad, Pickwell Lane, Bolney, Sussex. RH17 5RH. England.
www.pdf-xchange.com email: sales@pdf-xchange.com

商標:PDF-XChange® は PDF-XChange Co., Ltd.の登録商標です
ALL RIGHTS RESERVED.

PDF-XChange Enhanced OCR Plug-in は ABBYY FineReader® Engine 12 © 2017 ABBYY Production LLC.,ABBYY を利用しています。また FINEREADER は ABBYY Software Ltd. の登録商標または商標であり、ABBYY® Software Ltd. の書面による事前の同意なしに使用することはできません。
ABBYY FineReader SDK には、Datalogics Software と Adobe Products(Adobe PDF Library と Adobe Color Profile)が組み込まれています。
Copyright 2000 – 2012 Datalogics, Inc.
Copyright 1984 - 2012 Adobe Systems Incorporated とそのライセンサー。All rights reserved.
ABBYY SDK は、部分的または完全に CUMINAS DjVu に追加的に組み込まれています
このコンピュータプログラムの一部は、© 2008 Celartem, Inc. All rights reserved.
このコンピュータプログラムの一部は、© 2011 Caminova, Inc. All rights reserved.
このコンピュータプログラムの一部は、© 2013 Cuminas, Inc. All rights reserved.
DjVu は、米国特許第 6,058,214 号によって保護されています。外国特許出願中。AT&T Labs テクノロジーを搭載。
DjVu SDK には、次のサードパーティコードが含まれています。
Oniguruma Copyright © 2002-2006 K.Kosako <sndgk393 AT ybb DOT ne DOT jp>. All rights reserved.
このソフトウェアの一部は、RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm から派生したものです。
Mersenne Twister Copyright © 2006,2007 Mutsuo Saito, Makoto Matsumoto and Hiroshima University. All rights reserved.
WIBU、CodeMeter、SmartShelter、SmartBind は Wibu-Systems の登録商標です。
ドイツの輸出規制は、Wibu-Systems 製品の輸出時に適用されます。
Leptonica By Dan Bloomberg
ZLIB by Mark Adler & Jean-Loup Gailly
Little CMS by Marti Maria and IPG (C) 1991-1998

PDF-XChange は、Independent JPEG Group の作業に部分的に基づいており、libjpeg-turbo ライブラリを使用しています。
Copyright (C) 2009-2021 D. R. Commander. All Rights Reserved.
Copyright (C) 2015 Viktor Szathmáry. All Rights Reserved.

libjpeg-turbo ライブラリは、著作権者および寄稿者によって「現状のまま」で提供され、商品性および特定目的への適合性の黙示的保証を含むがこれらに限定されない、明示的または黙示的な保証は一切否認されます。いかなる場合においても、著作権者または寄稿者は

、直接的、間接的、偶発的、特別、懲罰的、または結果的損害(代替商品またはサービスの調達を含むがこれに限定されず、使用、データ、または利益の損失、または事業の中断)が生じて、契約、厳格責任、または不法行為(過失またはその他のものを含む)のいずれにおいても、また、そのような損害の可能性について知らされていたとしても、本ソフトウェアの使用から何らかの形で生じる責任を負わないものとします。

認められている他のすべての商標/著作権は、それぞれの所有者に帰属します。

最終更新日:2022 年 3 月 30 日

2-3. PDF-XChange アップデータ

PDF-XChange アップデータは、**PDF-Tools** の更新を確認し、ダウンロードするために使用されます。**ヘルプ**のドロップダウンメニューの**更新をチェック**をクリックして、**PDF X-Change アップデータ**を開きます。

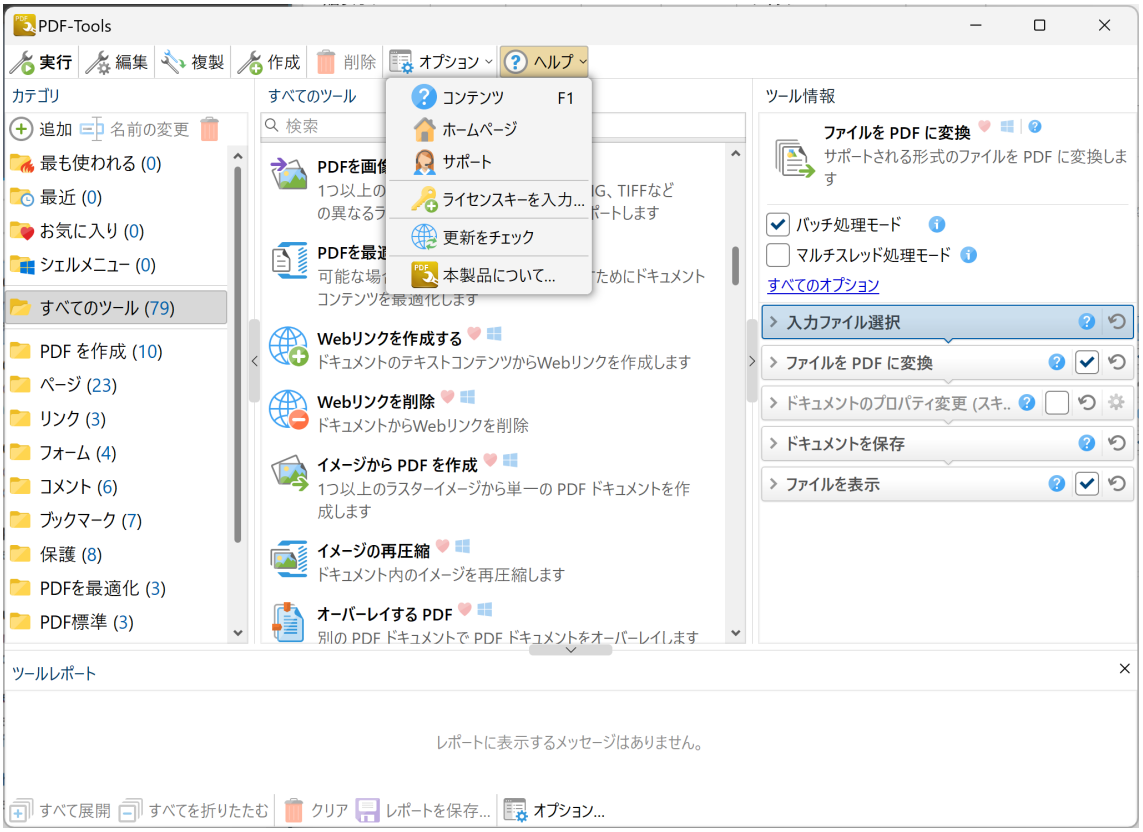

図 1. [ヘルプ]ドロップダウンメニュー、[更新をチェック]

PDF-XChange アップデートダイアログボックスが開きます。

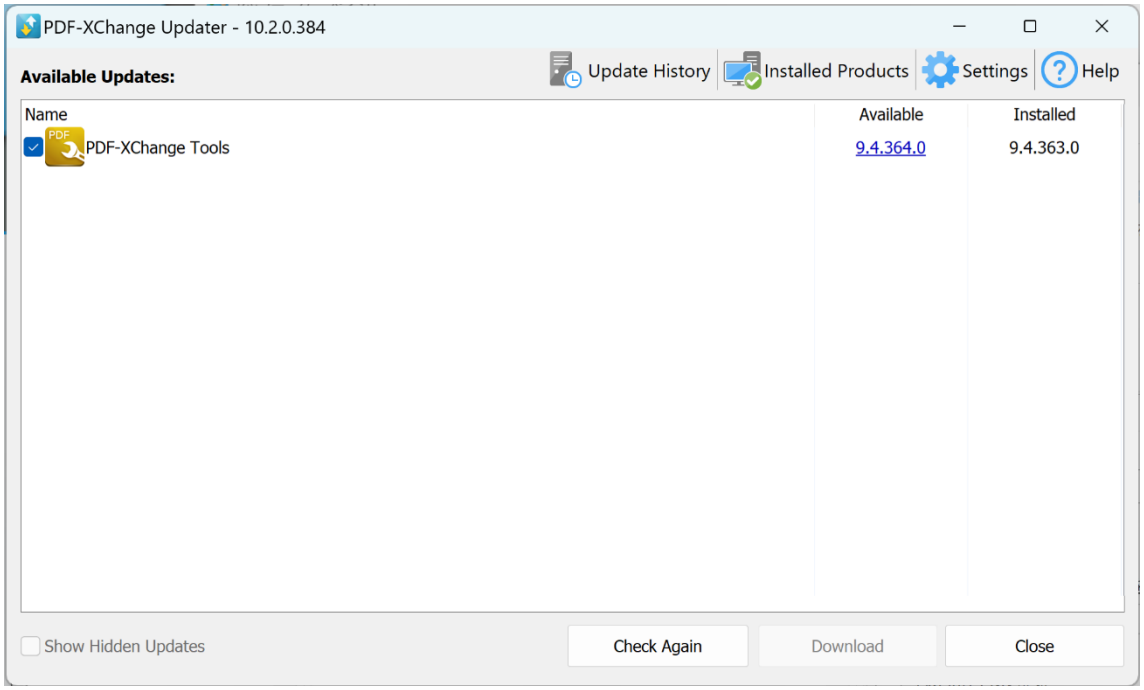

図 2. [PDF-XChange アップデート]ダイアログボックス

- 利用可能なアップデートがメインウィンドウに表示されます。**ダウンロード**ボタンをクリックし、利用可能な更新プログラムをダウンロードしてインストールします。
- **更新履歴**をクリックして、最新の更新の内訳を表示します。
- **インストール済み製品**をクリックして、**PDF-XChange** の製品からインストール済み製品の内訳を表示します。
- **設定**をクリックして、**PDF-XChange アップデータ**の設定をカスタマイズします。 これらのオプションについては、 以下の(**図 3)の下**において詳しく説明します。
- **ヘルプ**をクリックして、**PDF-XChange アップデータ**のオンラインヘルプを起動します。
- **非表示のアップデートを表示**のボックスをオン/オフすることで**非表示のアップデートを表示**/非表示することができます。
- **再確認**をクリックして、さらに最新のアップデートを確認します。
- **閉じる**をクリックして、**PDF-XChange アップデート**のダイアログボックスを閉じます。

設定

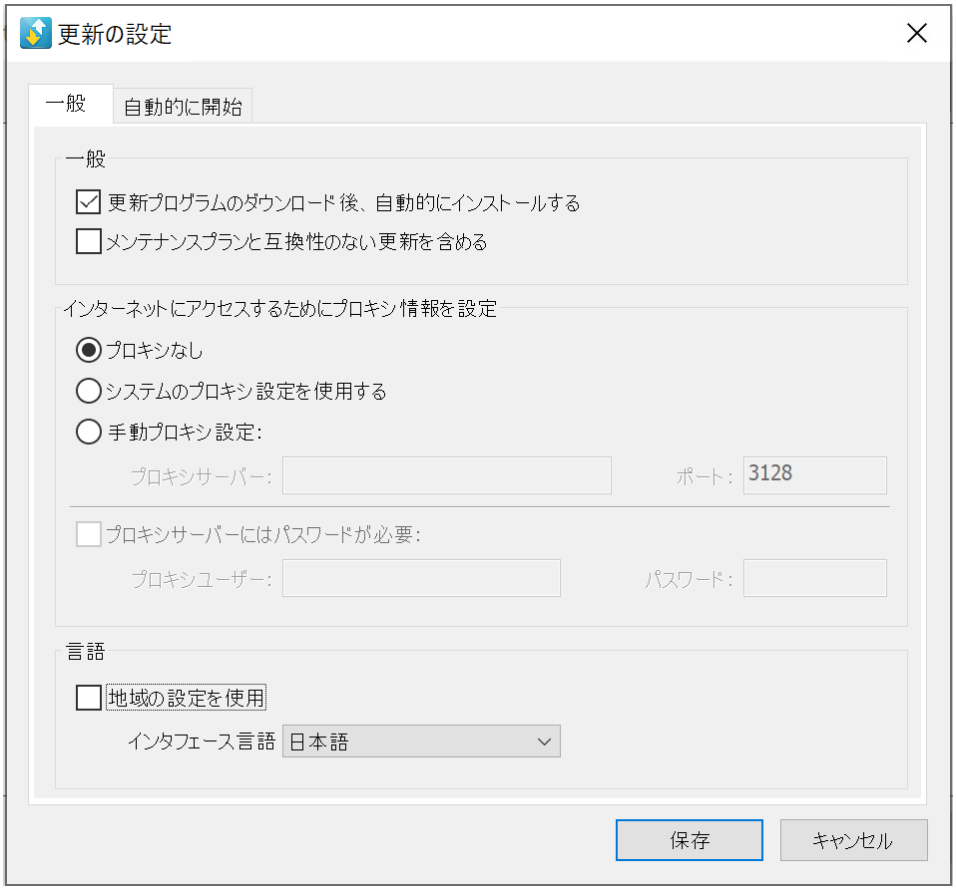

図 3. [アップデータ設定]ダイアログボックス

- **アップデートのダウンロード後に自動的にインストール** チェックボックスをオン/オフにして、ダウンロードしたアップデートの自動インストールを有効/無効にします。
- **メンテナンス計画に非対応の更新プログラムを含める** このボックスをオン/オフして、現在のメンテナンス計画に含まれていない製品を含めます/除外します。ここには更新プログラムが表示され、更新プログラムがダウンロードされたときに、もしライセンスの有効期限が切れている場合は、ソフトウェアは評価モードに戻ります。
- **インターネットにアクセスするようにプロキシを設定する** このセクションでオプションを選択し、アップデータがインターネットにアクセスするために使用するプロキシを決定します。
  - **プロキシなし** これを選択して、インターネットにアクセスするためのプロキシの使用を無効にします。
  - **システム・プロキシ設定を使用** これを選択し、現在使用中のシステム・プロキシ設定でインターネットにアクセスするようにします。

- **手動でプロキシ設定** これを選択し、カスタム・プロキシを使用します。選択後は**プロキシサーバー**と**ポート番号**の詳細をテキストボックスに入力します。
- 上記の**手動でプロキシ設定**のオプションでサーバーが使用されている場合に**プロキシサーバー**を使用するための**パスワード**を設定するには、**プロキシサーバーにパスワードが必要**ボックスを選択し、テキストボックスに**プロキシ・ユーザー**と**パスワード**の詳細を入力します。
- ダウンロードしたアップデートのインターフェース言語として、該当地域の言語を使用するには、**地域言語を使用**のボックスを選択するか、ドロップダウンメニューから別の言語オプションを選択します。ただし、ユーザーインターフェースの言語は、ユーザーの必要に応じて、その後、変更することができます。
- **保存**をクリックして設定を保存します。

自動起動

自動起動 このタブを使用して、ソフトウェアの更新を自動的にチェックするスケジュールを設定します。

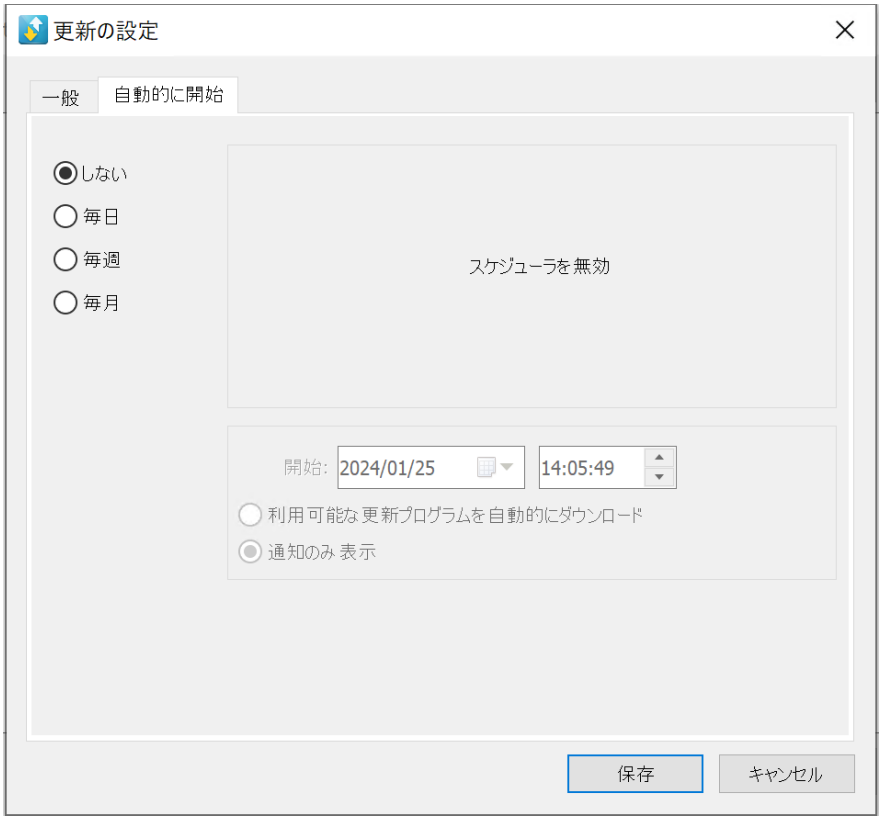

図 4. [アップデータ設定]ダイアログボックス、[自動起動]タブ

- **しない**　この機能を無効にします。
- **毎日**、**毎週**、**毎月**　必要に応じて日にちごと、**週ごと**、または**月ごとで**自動的に更新を確認するようにします。使用するオプションに応じて、異なるスケジュール設定オプションが利用可能です。
- **開始**　このテキストボックスを使用して、スケジュールを開始する日時を決定します。
- **利用可能なアップデートを自動的にダウンロード**　利用できるアップデートを自動的にダウンロードする設定にし、**通知のみを表示**を選択して、アップデートが利用可能であるという通知を受信する設定に変えることもできます。

保存をクリックして設定を保存します。

---

3. PDF-Tools の特徴

PDF-Tools の主な特徴は次のとおりです。

- 76もの**デフォルトツール**でドキュメントの編集、改善、操作を可能とします。それらのツールは以下に紹介されているとおりです。
- **ツール複製** **デフォルトツール**を複製し、カスタマイズすることができます。
- **ツール作成** 新規ツールの構築ができます。**アクションライブラリ**には86の**アクション**があり、必要に応じてそれらを組み合わせてツールの作成ができます。
- **フォルダモニター** フォルダの監視(モニタリング)の設定ができ、所定のフォルダに移動されたファイルに対して自動でツール操作が行われます。
- **インポート/エクスポート・ツール** カスタマイズされたツール設定とカスタムツールのインポート/エクスポートができます。
- **ツールレポート・ペイン** ここでツールの実行時にその内訳を見ることができます。

ツールと組み合わせて使用するソースファイルは、ローカルのコンピューターに配置するか、スキャナからアプリケーションに直接スキャンすることができます。サポートされているファイルの種類のリストは、**こちら**から入手できます。

デフォルトツール

PDF-Tools には 76 のデフォルトツールがあります。これらのツールを使用することで、PDF/画像ファイルを簡単かつ効果的に操作できます。それらは 11 のカテゴリに分類されています。

[PDF 作成]ツール

これらのツールで PDF ドキュメントの作成をします。

ファイルを PDF に変換 入力されたファイルを PDF へ変換します。

画像から PDF を作成 画像(イメージ)を PDF へ変換します。

テキストから PDF を作成 テキストファイルを PDF へ変換します。

PDF ポートフォリオを作成 PDF ポートフォリオ・ファイルを作成します。

ページを抽出 ドキュメントのなかの特定のページ範囲を抽出し、新規の PDF ドキュメントへと変換します。

PDF へスキャン スキャンされたコンテンツを PDF ドキュメントへ変換します。

PDF を分割/結合 個別の PDF へドキュメントを分割し、複数のドキュメントを結合して、ひとつの PDF ドキュメントにします。

[ページ]ツール

これらのツールで PDF ドキュメントのページの各種編集を行います。

ベイツ番号を追加 ベイツ番号(通し番号)をドキュメントに挿入します。

ヘッダとフッタを追加 ヘッダとフッタあるいはそれらのいずれかを挿入します。

透かしを追加 テキスト/画像の透かし(ウォーターマーク)をドキュメントに追加します。

ページのトリミング 表示されるページのエリア/マージン/編集ボックスを調整します。

ページを削除 ドキュメントのページ削除を行います。

ページを複製 ドキュメントのページを複製します。

空白ページを挿入 ドキュメントに空白ページを挿入します。

オーバーレイレイヤーとしてインポート 既存のファイルを使い、ドキュメントをオーバーレイします(重ねます)。

ページを挿入 入力されたドキュメントから特定のドキュメントへページを挿入します。

ページを結合 複数のページを結合して、ひとつのページにします。

ページを移動 ドキュメントのページを並べ替えます。

OCR ページ ドキュメントの光学式文字認識(OCR)を実行します。

PDF のオーバーレイ PDF ドキュメントを他のドキュメントでオーバーレイします。

ページをラスタライズ 入力されたドキュメントのページをラスタライズ(ビットマップ画像に)します。

ベイツ番号を削除 ベイツ番号をドキュメントから削除します。

ヘッダとフッタを削除 ヘッダとフッタをドキュメントから削除します。

ページ背景を削除 ページの背景をデフォルトの状態へリセットします。

透かしを削除 ドキュメントから透かしを削除します。

ページの置換 ドキュメントのページを他のドキュメントのページと置換します。

ページ・リサイズ ページのサイズを調整し、必要に応じてページのコンテンツを拡大/縮小します。

ページを回転 ドキュメントのページの回転をします。

ページ遷移の設定 全画面表示モードでのページ間の遷移の仕方を決定します。

ページ背景を設定 ドキュメントに背景をつけます。

ページ分割 ドキュメントのページを分割します。

[リンク]ツール

これらのツールはリンクの作成/削除に使います。

Web リンクを作成 ドキュメントのテキストからの Web(ウェブ)リンクを作成します。

リンクを削除 ドキュメントからリンクを削除します。

Web リンクを削除 ドキュメントから Web リンクを削除します。

[フォーム]ツール

これらのツールはフォームフィールドの削除、エクスポート、インポート、リセットに使います。

フォームフィールドを削除 ドキュメントからフォームフィールドを削除します。

フォームデータをエクスポート ドキュメントからフォームデータをエクスポートします。

フォームデータをインポート ファイルからフォームデータをインポートします。

フォームリセット ドキュメントからすべてのフォームデータを削除します。

[コメント]ツール

これらのツールで PDF ドキュメントのコメントを作成、削除、操作します。

すべてのコメントを削除 ドキュメントからすべてのコメントを削除します。

注釈マークを削除 ドキュメントから注釈マークを削除します。

コメントをエクスポート ドキュメントのコメントをファイルにエクスポートします。

コメントとフィールドをフラット化 コメントとフォームをベース(基本)・コンテンツのアイテムに変換します。

コメントをインポート コメントをドキュメントに変換します。

コメントサマリーを作成 ドキュメントのコメントのサマリーを作成します。

[ブックマーク]ツール

これらのツールで PDF のドキュメントのブックマークを変換、エクスポート/インポート、または生成します。

目次の作成 ブックマークを利用して目次を作成します。

ブックマークをエクスポート ドキュメントのブックマークのコピーをエクスポートします。

ブックマークをテキストファイルにエクスポート ドキュメントのブックマークのコピーをテキストファイルにエクスポートします。

ページテキストからブックマークを生成 ドキュメントのテキストからブックマークを作成します。

ブックマークテキストを検索して置換 ブックマークのタイトルのテキストを検索・置換します。

ブックマークをインポート ブックマークをドキュメントにインポートします。

テキストファイルからブックマークをインポート テキストファイルからブックマークをドキュメントにインポートします。

[プロテクト]ツール

これらのツールで PDF ドキュメントのセキュリティを保護し、強化します。

墨消しの適用 墨消し対象としてマークされたコンテンツをドキュメントから削除します。

PDF 認証 認証されたデジタル署名をドキュメントに追加します。

すべてのデジタル署名を削除 ドキュメントからデジタル署名を削除します。

検索と墨消し 特定の単語またはパターンを検索し、それらを墨消し用にマーキングするか、ただちに墨消しします。

センシティブ情報を除去 入力ドキュメントからセンシティブ情報(機微情報)を削除します。

セキュリティの付加 ドキュメントにパスワードを付加します。

ドキュメントに署名 デジタル署名をドキュメントへ追加します。

PDF にタイムスタンプを追加 ドキュメントへタイムスタンプを追加します。

[PDF 最適化]ツール

これらのツールで PDF ドキュメントを向上・改善および最適化します。

- **スキャンページを向上・改善**　スキャンしたドキュメントの画質を向上・改善させます。
- **PDF を最適化**　サイズを縮小するために PDF ファイルのコンテンツを最適化します。
- **画像の再圧縮**　ドキュメント内の画像（イメージ）を再圧縮します。

[PDF 規格]ツール

これらのツールでは各種 PDF 規格への準拠の有無を決めます。

- **PDF/A に変換**　長期アーカイブに使用される PDF/A 規格に準拠した PDF ドキュメントを作成します。
- **PDF/X に変換**　PDF ドキュメントを PDF/X 規格に準拠させ、グラフィックの交換を容易にします。
- **特殊な PDF 規格を破棄する**　PDF/A、PDF/X、PDF/E などの PDF 規格に準拠するドキュメントのコンポーネントを破棄します。

[PDF エクスポート]ツール

これらのツールで PDF ドキュメントや画像のコピーを別の形式にエクスポートします。

- **PDF からオーディオにエクスポート**　PDF ドキュメント内のテキストのコピーを音声ファイル形式にエクスポートします。

PDF を画像にエクスポート ドキュメントページのコピーを画像形式にエクスポートします。

PDF を Microsoft Excel スプレッドシートにエクスポート ドキュメントページのコピーを Microsoft Excel 形式にエクスポートします。

PDF を Microsoft Powerpoint プレゼンテーションにエクスポート ドキュメントページのコピーを Microsoft PowerPoint 形式にエクスポートします。

PDF を Microsoft Word ドキュメントにエクスポート ドキュメントページのコピーを Microsoft Word 形式にエクスポートします。 注:(*.docx) 形式にエクスポートされたファイルは、Microsoft Word 2010 以降と互換性があります。

PDF をプレーンテキストにエクスポート PDF ドキュメントのコピーをプレーンテキスト (*.txt) 形式にエクスポートします。

PDF から画像を抽出 PDF ドキュメントから画像を抽出し、新しいファイルへコピーします。

[その他]ツール

これらのツールでその他、高度な操作を実行します。

ドキュメントのプロパティの変更 タイトル、作成者、件名、キーワードなど、ドキュメントのメタデータを編集します。

色変換 入力されたドキュメントの色を変換します。

添付ファイルを抽出 ドキュメントから添付ファイルを抽出します。

ドキュメントを印刷 入力されたドキュメントの印刷をします。

メールを送信 ドキュメントを電子メール経由で送信します。

4. ユーザーインターフェース

PDF-Tools のユーザーインターフェースには、**メインウィンドウ**と**編集ウィンドウ**の 2 つのワークスペースがあります。

メインウィンドウ

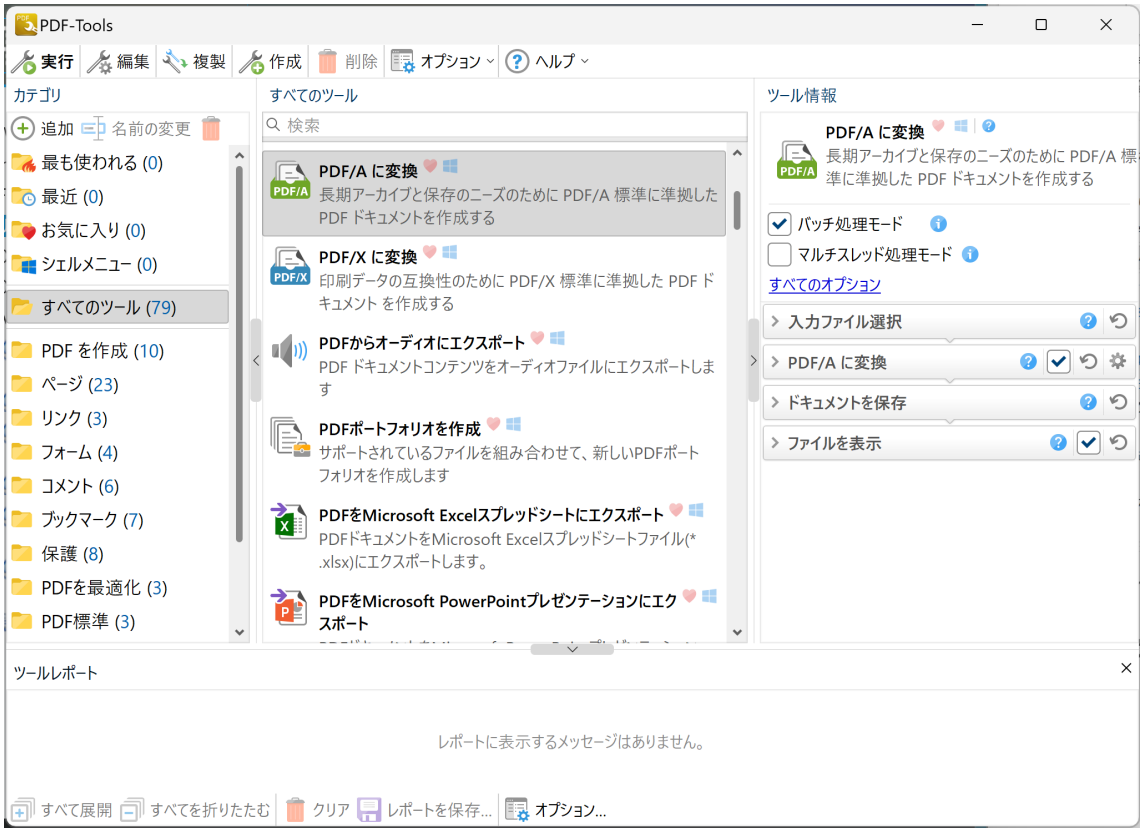

図 1. メインウィンドウ

メインウィンドウ ツールの表示、選択、編集、複製、および起動に使用されます。

- ツールの**カテゴリ**をクリックすると、メインウィンドウに表示されるツールが表示されます。すべてのツールのカテゴリの詳細は下記のとおりとなります。
- **ツール情報ペイン**には、選択したツールの名前、説明、オプションの設定、およびアクション（動作）が表示され、それらには次のような設定が含まれています。

  - **バッチ処理モード**　この設定では、複数の入力ファイルを扱う際の処理方法を決定します。これはデフォルトで有効になっているため、ファイルは一斉に処理されます。入力ファイルを 1 つずつ処理する場合は、**バッチ処理モード**のボックスをオフにします。このオプションを無効にすることでメモリ使用量を減らすことができますが、入力ファイルを 1 つのドキュメントに結合するツールについては予期しない出力結果を生み出す可能性があります。
  - **マルチスレッド処理モード**　この設定はデフォルトで無効となっています。マルチスレッド処理を有効にするボックスを選択すると、ツールの実行時に使用可能なすべての CPU コアを使用することになります。このことにより、処理パフォーマンスは向上しますが、コンピューターへの負荷が増え、同時に実行されている他の処理に悪影響を与える可能性があります。
  - **すべてのオプション**　クリックすると、その他オプションが表示されます。

    - **パスワードを確認しない**　この設定は、デフォルトで無効になっています。この状態で、パスワードで保護された入力ファイルに対応するパスワードが、**定義済みパスワードストレージ**に存在しない場合、PDF-Tools がそのパスワードの入力を求めてくることになります。ツールの実行時にこのようなファイルをスキップするには、このオプションを有効にします。
    - **出力ドキュメントの順を入力の順に揃える**　ドロップダウンメニューから入力ドキュメントに準じて出力ドキュメントの順序を指定できます。ただし、このオプションは、**バッチ処理モード**設定が無効で、**マルチスレッド処理モード**設定が有効になっている場合にのみ使用できます。なお、次のオプションが使用可能です。

      - **自動**　デフォルトで設定されていて、PDF-Tools がドキュメントの入力順序を保持する必要があるかどうかを自動的に決定するという状態になっています。
      - **はい**　入力順序を出力ドキュメント用に保持することを指定します。
      - **いいえ**　出力ドキュメントの入力順序を保持しないことを指定します。

- **処理されたファイル** ドロップダウンメニューを使用して、正常に処理されたファイルに対して実行されたアクションを見極めます。
- **処理されなかったファイル** ドロップダウンメニューを使用して、処理に失敗したファイルに対して実行されたアクションを見極めます。

- **ツール情報** このペインのドロップダウンの矢印をクリックすることで、ツールアクションパラメータをカスタマイズします。これらのパラメータについては、**アクションライブラリ**で詳しく説明しています。ツールアクションパラメータをデフォルト値にリセットするには、円形のリセット矢印をクリックします。
- **ツールアクション**のチェックボックスのオン/オフで（それが可能な場合）、ツールの実行時にそれらの有無を決めます。
- ツール名の横にある アイコンをクリックすると、オンラインマニュアルの関連ページが起動されます。

- **追加** をクリックして、カスタムカテゴリをカテゴリのリストに追加します。ツールはクリックしドラッグして、カスタムカテゴリに追加します。デフォルトのツールはホームカテゴリから移動できないことに注意してください。
- **名前の変更** または、**削除** をクリックして、カスタムカテゴリの名前の変更/削除を行います。
- **検索ツールを使用してツール**を検索します。
- **実行** をクリックして(または Ctrl+R を押して)、選択したツールを起動します。
- **編集** をクリックして(または Ctrl+E を押して)、選択したツールを編集します**(図5を参照)。**
- **複製** をクリックして(または Ctrl+D を押して)、)択したツールを複製(クローンを作成)することによって、**ここ**で詳しく説明するように、アクションあるいは、パラメータをフルカスタマイズすることが可能です。
- **作成** をクリックして(または Ctrl+N を押して)、**ここ**で詳しく説明するように新しいツールを作成します。

• **削除** をクリックして、選択したツールを削除します。このオプションは、カスタムツールのみで使用可能であることに注意してください。

• **オプション** をクリックして(または Alt + O を押して)プログラム・オプションを表示します。

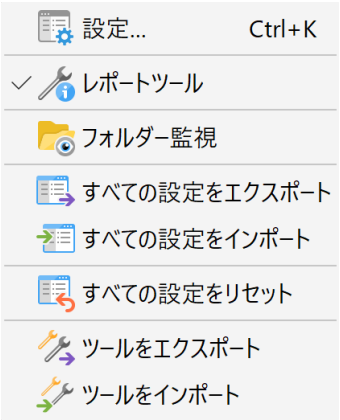

図 2.「オプション」タブ

- **設定** ここで詳しく説明するように、**PDF-Tools** の設定を表示/編集をします。
- **ツールレポート** **ツールレポート**・ペインを有効/無効にします。このペインには、ツール実行時の操作の内訳が詳細に表示されます。
- **フォルダモニター** フォルダモニターを表示/編集します。フォルダモニターでは、ユーザー指定のフォルダを監視し、そこに移動されたファイルに対して自動的にツール操作を実行します。詳細は、こちらから。
- **すべての設定をエクスポート** 現在のツール設定とカスタムツールをファイルにエクスポートします。これは、同じ組織の従業員など、複数の関係者が同じ設定を必要とする場合に便利な機能です。
- **すべての設定をインポート** **すべての設定のエクスポート**を使用してエクスポートされた際の設定をインポートします。
- **すべての設定をリセット** すべての設定をリセットし、すべてのカスタムツールを削除します。
- **ツールをエクスポート** 選択したツールをファイルにエクスポートします。
- **ツールをインポート** **ツールをエクスポート**を使用してエクスポートされたツールをインポートします。

・**ヘルプ** ヘルプ・オプションを表示します。

図 3.[ヘルプ]タブ

- **マニュアル** オンラインヘルプ・マニュアルに移動します。
- **ホームページ** **PDF-XChange** の Web サイト(英語サイト)内の **PDF-Tools** のページに移動します。
- **サポート** **PDF-XChange** サポートフォーラムに移動します。
- **ライセンスキーを入力** ここで説明するように、**PDF-Tools** のライセンスキーを表示/編集します。
- **更新を確認** **PDF-XChange アップデータ**を起動し、ローカルのコンピューターにインストールされている **PDF-XChange** のアプリケーションのすべてのアップデートを確認します。
- **バージョン情報** ライセンス/バージョン情報、および **PDF-Tools** の詳細が表示されます。

ツールを右クリックするとその他オプションが表示されます。

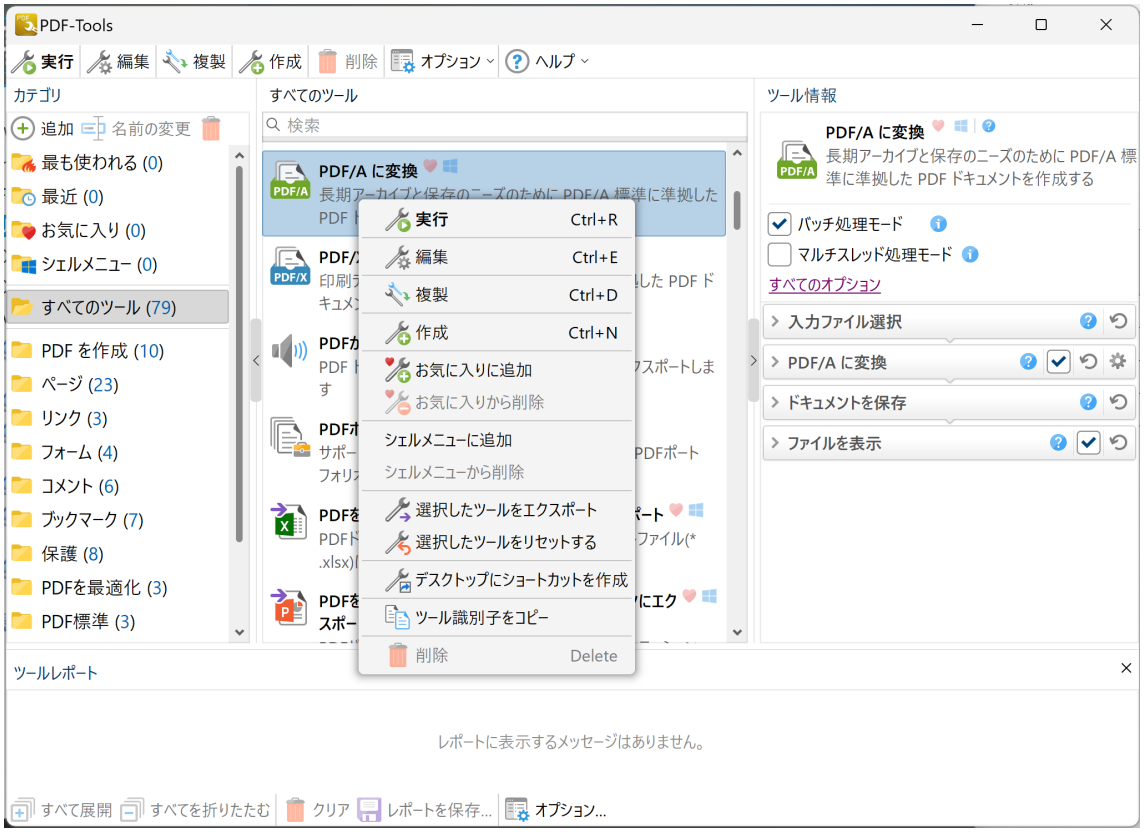

図 4. ツール・オプション・メニュー

- **実行**　クリック（またはツール上でダブルクリックのみをして）、選択したツールを起動します。
- **編集**　選択したツールを編集します（図5）。
- **複製**　選択したツールの複製を作成します。ここで詳しく説明するように、アクションパラメータのフルカスタマイズも可能です。
- **作成**　ここで詳しく説明するように、新しいツールを作成します。
- **お気に入りに追加**　**お気に入り**カテゴリにツールを追加します。
- **お気に入りから削除**　**お気に入り**カテゴリからツールを削除します。
- **シェルメニューに追加/シェルメニューから削除**　Windows シェルメニューにツールを追加あるいは、そこから削除します。詳細については、こちらを参照してください。
- **選択したツールをエクスポート**　ツールをエクスポートします。**エクスポートファイルを保存**のダイアログボックスが開くので、ファイルの名前と場所を選択します。ツールは **.pdtex** ファイルとして保存されます。これらのファイルは、上記説明の**インポートツール**のオプションを使用してインポートすることができます。
- **選択したツールをリセットする**　選択したツールの設定をデフォルト値に戻します。

- **デスクトップにショートカットを作成**　ツールのデスクトップショートカットを作成します。この機能を使用すると、デスクトップにショートカットアイコンが表示されます。そのアイコンをダブルクリックするか、ファイルをアイコンにドラッグ＆ドロップすると、該当するツールが起動します。
- **ツール識別子をコピー**　選択したツールの一意のツール識別子をクリップボードにコピーします。ツール識別子は、コマンドプロンプトからツールを実行するために、**/RunTool** コマンドラインと組み合わせて使用されます。
- **削除**　ツールを削除します。このオプションは、デフォルトのツールでは使用できません。

編集ウィンドウ

ツールの右クリックから、**編集**をクリックして、ツールの**編集**ウィンドウを表示します。**編集**ウィンドウは、ツール機能の表示とカスタマイズに使用されます。たとえば、**ファイルを PDF に変換**ツールの**編集**ウィンドウの詳細は以下となります。

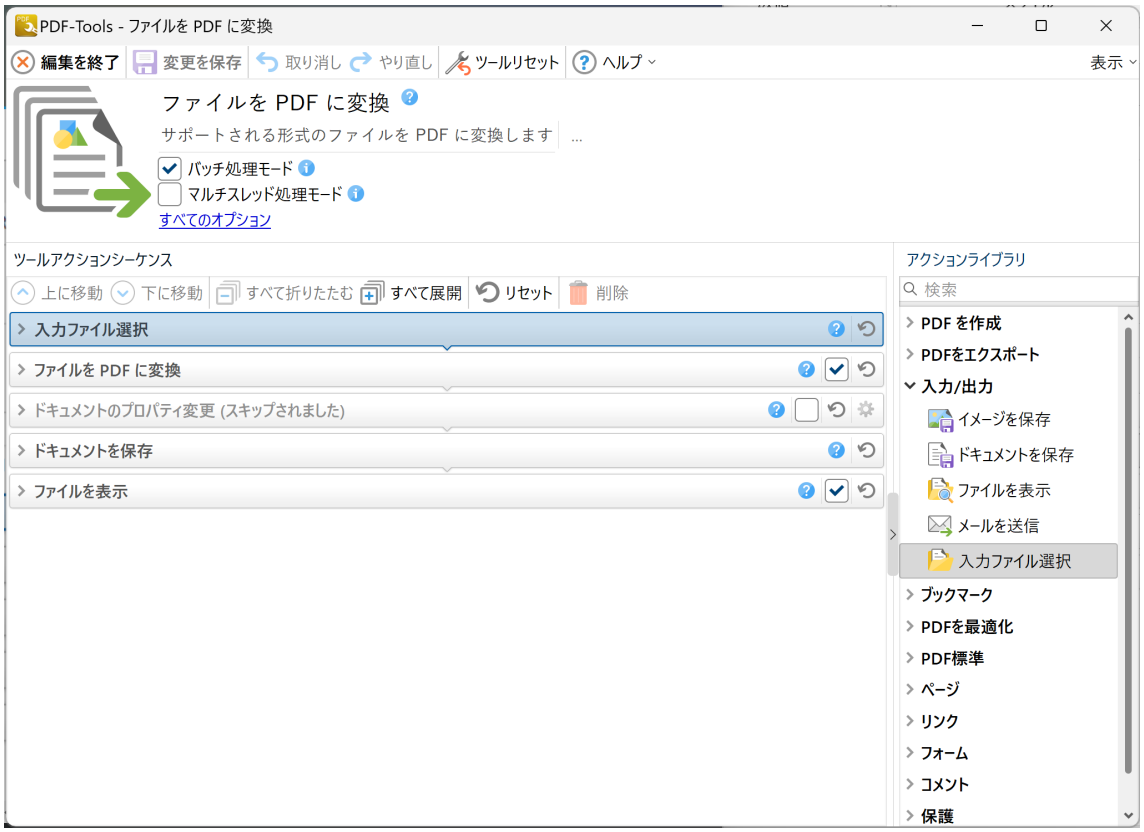

図 5.「ファイルを PDF に変換」の編集ウィンドウ

編集ウィンドウには選択したツールの名前、アイコン、説明が表示されます。これらのパラメータは、複製/カスタムツール用に編集できます。すべてのツールには、特定の要件を満たすように調整できるアクションがあります。これらのアクションは、**ツールアクションシーケンス**に含まれています。 **ツールアクションシーケンスのアクション**における順序によって、ツール実行時のアクションの順序が決まり、複製/カスタムツールにおいてそれらを並べ替えることもできます。各アクションの左側にある矢印アイコンをクリックして、各パラメータを展開し、**アクションライブラリ**で詳しく説明されているようにカスタマイズすることもできます。 **編集**ウィンドウのアイコンを使用して、以下の操作を実行します。

編集を終了 をクリックして、編集セッションを閉じます。

変更を保存 をクリックして、ツールに加えられた変更を保存します。

取り消し をクリックして、最後に行った編集操作を元に戻します。

やり直し をクリックして、最後に行った取り消しのアクションをやり直します。

ツール・リセット をクリックして、すべてのツール設定をリセットします。

上に移動 をクリックして、ツールアクションシーケンスにおいて選択したアクションを上へ移動します。

下に移動 をクリックして、ツールアクションシーケンスにおいて選択したアクションを下へ移動します。

すべて折りたたむ をクリックして、**ツールアクションシーケンス内のすべてのアクションを折りたたみ表示します。**

すべて展開 をクリックして、**ツールアクションシーケンス内のすべてのアクションを展開表示します。**

リセット をクリックして、**ツールアクションシーケンス**で選択したアクション・オプションをリセットします。

削除 をクリックして、選択したアクションを削除します。

選択/クリアのボックス ☑ で、ツールの実行時にアクションを含めるか、除外するかを設定します。

リセット(小) ↺ (上記、**選択/クリアのボックス**横)をクリックして、アクション・オプションをデフォルト値にリセットします。

ツールカテゴリ

PDF-Tools には、次のツールカテゴリがデフォルトで含まれています。

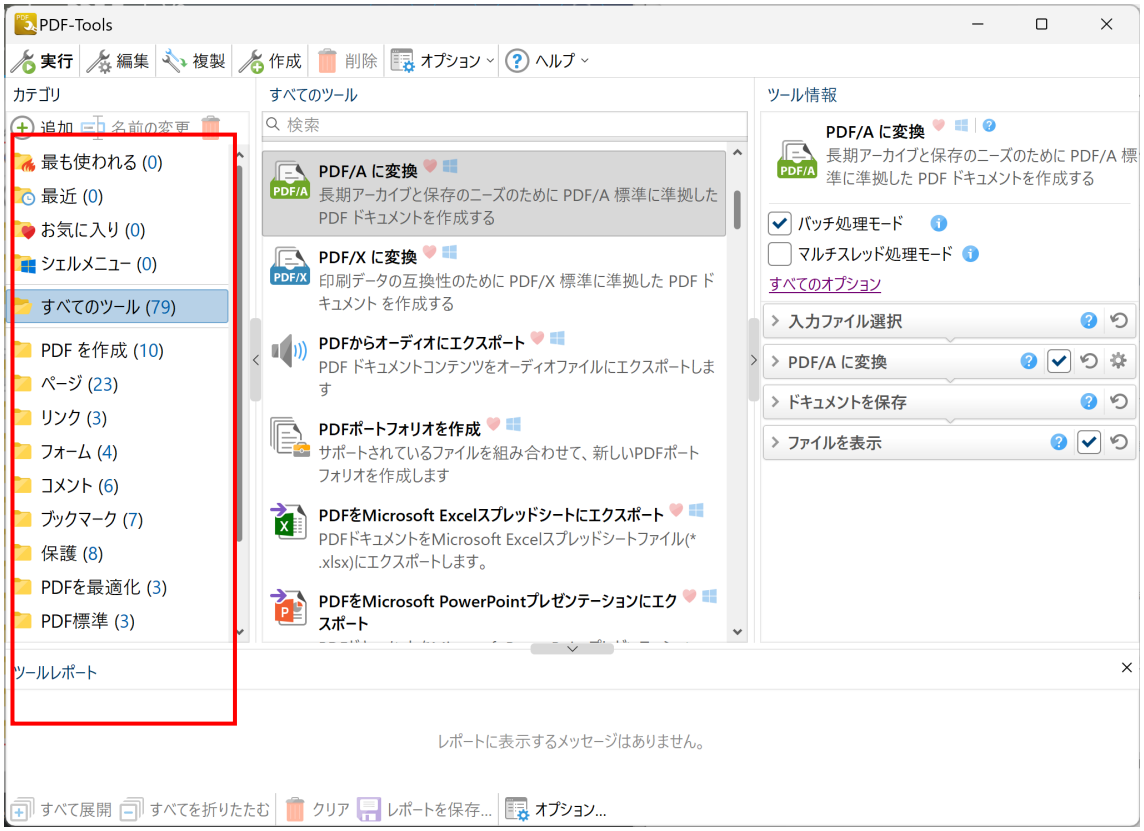

図 6.デフォルトのツールカテゴリ

- **よく使う** このカテゴリに含まれるのは、最も頻繁に使用されている 5 つのツールとなります。
- **最近** このカテゴリには、直近で使用した 10 個のツールが含まれます。

- **お気に入り** このカテゴリには、ユーザーのお気に入りのツールが含まれます。ツールをドラッグして、このフォルダに追加します。または、ツールウィンドウの左上にあるハートマークをクリックして、**お気に入り**カテゴリにツールを追加あるいは削除します。
- **シェルメニュー** ユーザーがこのカテゴリに追加したすべてのツールがここに含まれます。ユーザーはファイルを右クリックすれば、Windows コンテキストメニューからこれらのツールにアクセスすることができます。詳しくは**こちら**をご覧ください。
- **すべてのツール** **ここ**で詳しく説明する 76 のデフォルトツールのすべてが含まれています。
- **PDF を作成** PDF ファイルの作成に使用するツールが含まれています。これらのツールの詳細については、**こちら**をご覧ください。
- **ページ** ドキュメントページの編集、更新、削除に使用されるツールが含まれています。これらのツールの詳細については、**こちら**をご覧ください。
- **リンク** リンクと Web リンクを作成/削除するために使用されるツールが含まれています。これらのツールの詳細については、**こちら**をご覧ください。
- **フォーム** フォームとフォームデータのインポート/エクスポート、削除、またはリセットに使用されるツールが含まれています。これらのツールの詳細については、**こちら**をご覧ください。
- **コメント** Web リンクやフォームフィールドなどのドキュメント・コメントを操作するために使用されるツールが含まれています。これらのツールの詳細については、**こちら**をご覧ください。
- **ブックマーク** ドキュメントのブックマークを作成および操作するために使用されるツールが含まれています。これらのツールの詳細については、**こちら**をご覧ください。
- **プロテクト** ドキュメントの保護とセキュリティに使用されるツールが含まれています。これらのツールの詳細については、**こちら**をご覧ください。
- **PDF 最適化** ドキュメントの最適化と改善/向上のために使用されるツールが含まれています。これらのツールの詳細については、**こちら**をご覧ください。
- **PDF 規格** PDF ドキュメントについての PDF/A 形式や PDF/X 形式などの PDF 規格への準拠状態を追加/削除するために使用されるツールが含まれています。これらのツールの詳細については、**こちら**をご覧ください。
- **PDF エクスポート** PDF ドキュメントのコピーをプレーンテキスト、画像形式、Microsoft Word / Excel / PowerPoint などのさまざまな出力形式にエクスポートするために使用されるツールが含まれています。（ただし、(*.docx)形式にエクスポートされたファイルは、Microsoft Word 2010 以降と互換性のあるものとなります)。これらのツールの詳細については、**こちら**をご覧ください。

- **その他** ドキュメント・プロパティの変更やドキュメントの電子メール送信など、より高度な操作を実行するために使用されるツールが含まれています。これらのツールの詳細については、こちらをご覧ください。

---

5. ツール作成

PDF-Tools の**ツール作成**機能は、カスタムツールの作成に使用されます。ツールの作成は以下の手順に従って行います。

1. メイン・ツールバーの**作成**をクリックします。

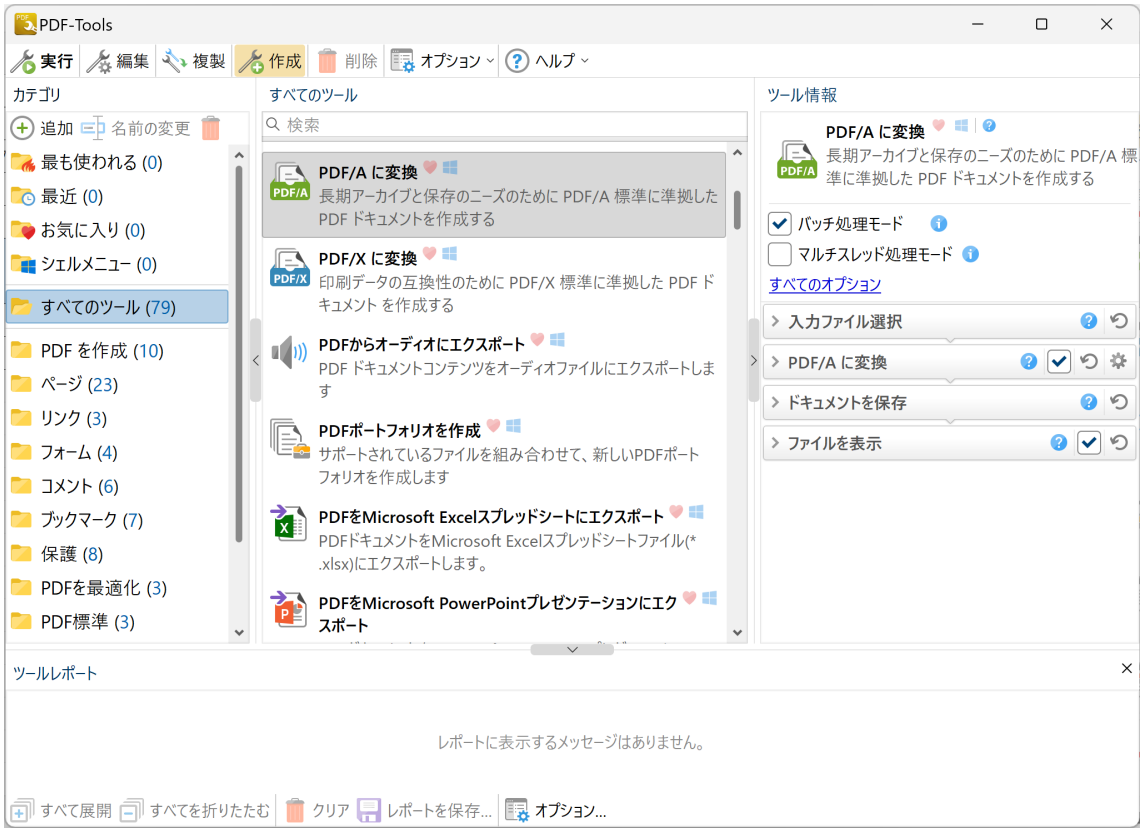

図 1. メインウィンドウ、ツール作成オプション

編集ウィンドウが開きます。

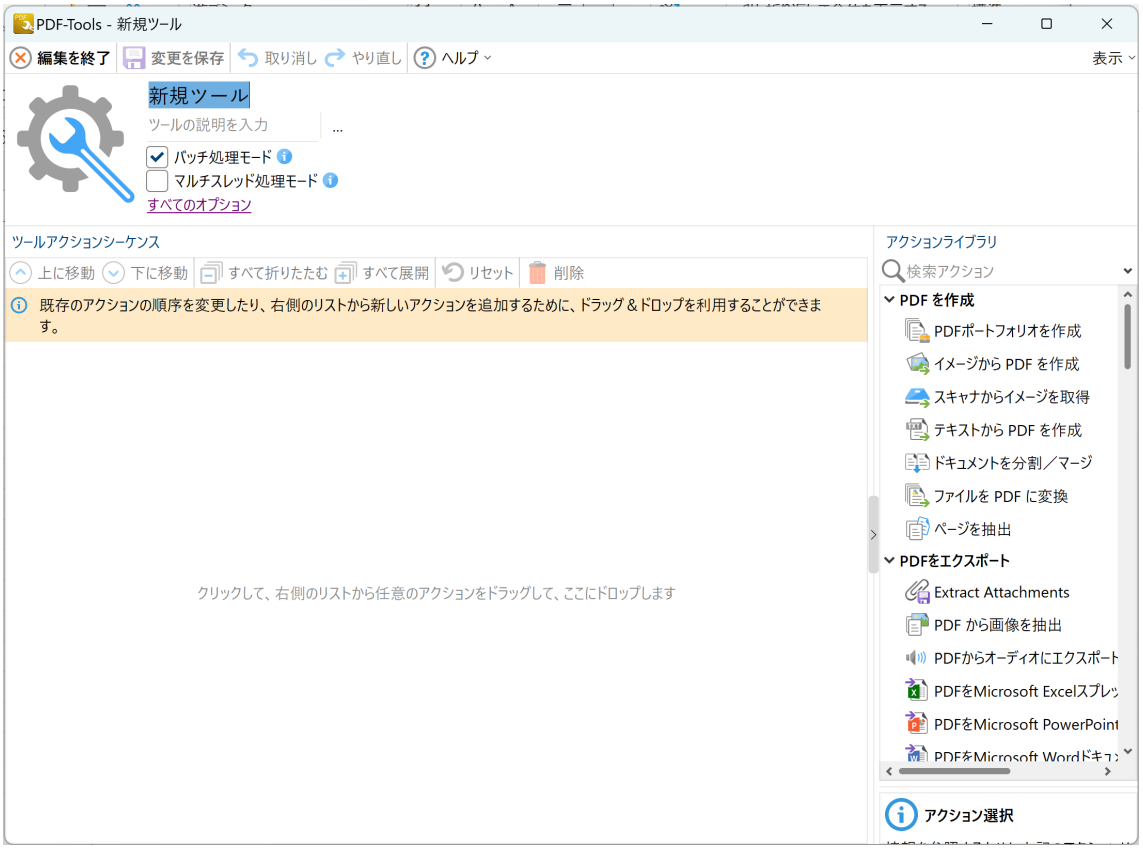

図 2. [編集]ウィンドウ、新規ツール作成

2. 新しいツールの名前と説明を入力します。アイコン をクリックして、ツールのアイコンを選択します。(ただし、アイコンは ***.ico** 形式である必要があります)。

3. **ツールアクションシーケンス**を作成します。**ツールアクションシーケンス**は、**アクションライブラリ**のアクションで構成され、ツールの機能を決定します。 したがって、ツールを作成するには、**アクションライブラリ**から**ツールアクションシーケンス**に**アクション**を追加する必要があります。**アクションライブラリ**からアクションをドラッグ(またはダブルクリック) して、**ツールアクションシーケンスに追加します。** 86 個のアクションが使用可能です。すべてのアクションとそれに関連するパラメータの説明については、**アクションライブラリ**を参照してください。

注：

- すべてのツールは操作するのに、入力ファイルが必要です。 したがって、**ツールアクションシーケンス**は、**入力ファイル選択**または**スキャナから画像を取得**アクションのいずれかで開始する必要があります。
- ほとんどすべてのツールでは、作成/変換後にファイルを保存する必要があるので、その場合は**ドキュメントを保存**または**画像の保存**のアクションを含める必要があります。
- **ツールアクションシーケンス**　ここでのアクションの順序によって、ツール実行時にアクションが実行される順序が決まるということに注意してください。アクションを選択し、**(図 2)** に表示されている**上に移動**ボタン、または**下に移動**ボタンをクリックして、**ツールアクションシーケンス**の順序を変更します。正しく機能させるために、いくつかのアクションでは、追加のアクションが必要となります。追加のアクションは、アクションの前（事前）またはアクション後（事後）に必要になる場合があります。たとえば、**ファイルを PDF に変換**のアクションでは、PDF に変換する入力ファイルをソースとして供給するアクションと、変換されたファイルを保存するアクションの両方が必要です。順番を間違えると、警告アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、詳細情報と問題の解決策が表示されます。
- **バッチ処理モード**　この設定では、複数の入力ファイルの場合の処理方法を決定します。これはデフォルトで有効になっており、ファイルが一斉に処理されることを意味します。**バッチ処理モード**のボックスをクリアすれば、入力ファイルを一度に 1 つずつ処理するようにできます。このオプションを無効にすると、メモリ使用量が削減されますが、入力ファイルを 1 つのドキュメントに結合するツールにおいて予期しない出力が発生する可能性もあります。
- **マルチスレッド処理モード**　デフォルトでは無効になっている設定です。ここのボックスを選択すると、ツールの実行時に使用可能なすべての CPU コアを使用するマルチスレッド処理が有効になります。これにより、処理パフォーマンスが向上しますが、コンピューターに対する負荷も増加し、同時に実行される他のプロセスに悪影響を及ぼす可能性があります。
- **すべてのオプション**　ここから、その他のオプションを表示します。
  - **パスワードを確認しない**　デフォルトでは無効になっている設定です。PDF-Tools は、パスワードで保護された入力ファイルが**定義済みパスワードストレージ**に対応するパスワードを持たない場合に、パスワードの入力を求めます。このオプションを有効にすると、ツールの実行時にこれに該当するファイルがスキップされます。

- **処理されたファイル** ドロップダウンメニューを使用して、正常に処理されたファイルに対して実行されるアクションを決定します。
- **処理されなかったファイル** ドロップダウンメニューを使用して、正常に処理されなかったファイルに対して実行されるアクションを決定します。

- **編集**ウィンドウ(**図 2**) とそれに含まれるオプションについては、**こちら**で詳しく説明します。

4. **変更を保存** をクリックして、新しいツールを保存します。

例

次の例では、テキストファイルから PDF ドキュメントを作成し、ドキュメントのプロパティを変更し、透かしとデジタル署名を追加して、ドキュメントをローカルのコンピューターに保存するツールを作成します。 これらの操作には、**アクションライブラリ**の次のアクションが必要となります。

1. **入力ファイル選択**
2. **テキストから PDF を作成**
3. **ドキュメントのプロパティの変更**
4. **透かしを追加**
5. **ドキュメントに署名**
6. **ドキュメントを保存**

以下の手順に従ってツールを作成します。

1. メインウィンドウで**作成**をクリックします。

図 3. メインウィンドウ、ツール作成オプション

新しいツールの**編集**ウィンドウが開きます。

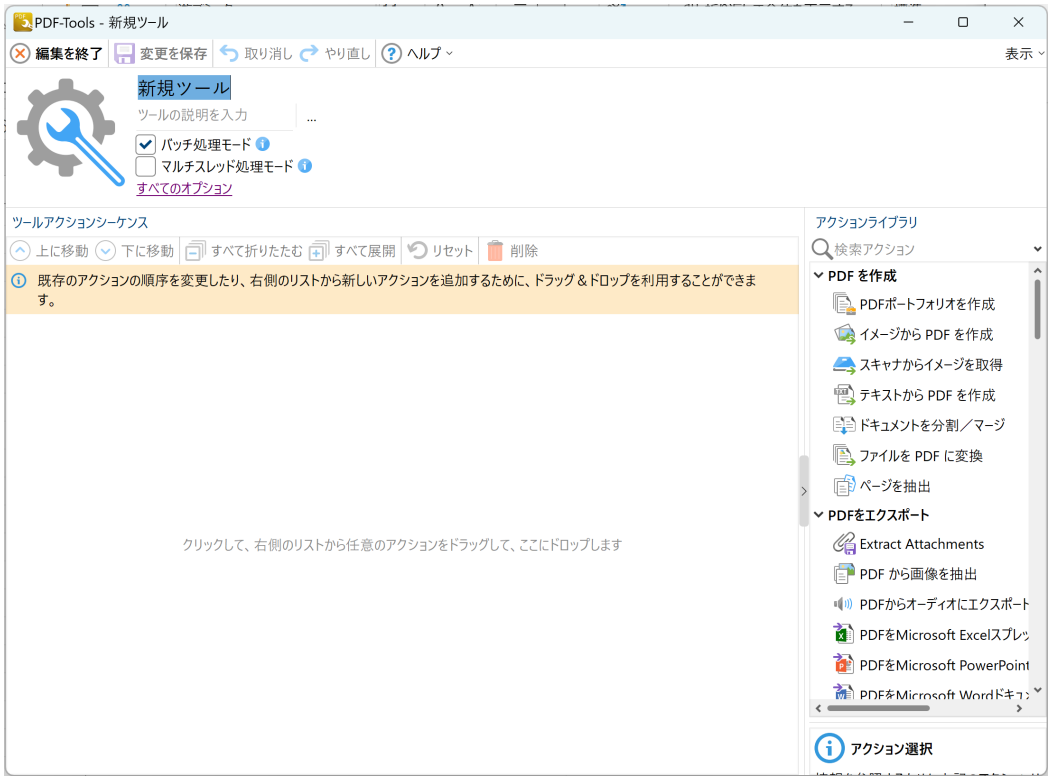

図 4. [編集]ウィンドウ、新規ツール作成

2. ツールの名前と説明を入力し、必要なアクションを**アクションライブラリ**から**ツールアクションシーケンス**にドラッグします。

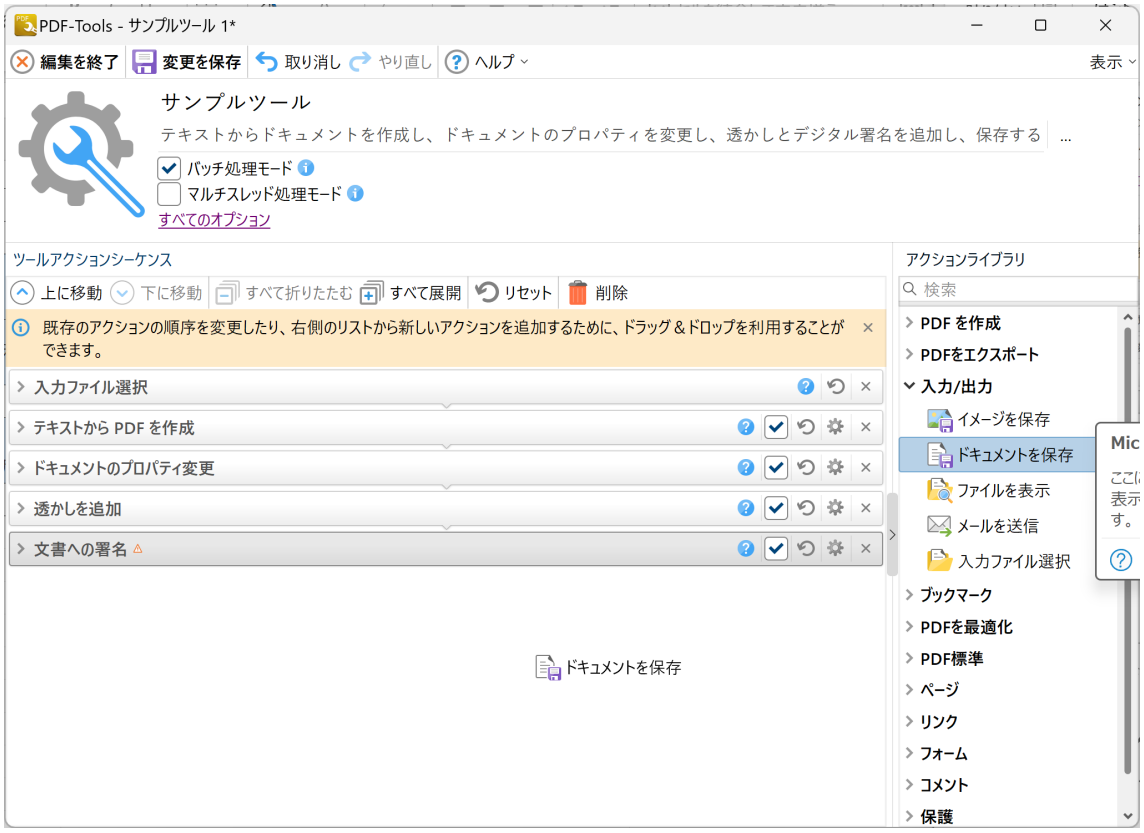

図 5. [編集]ウィンドウ、アクションの追加

ツールアクションシーケンスのアクションの順序によって、ツールの実行時に実行されるアクションの順序が決まることに注意してください。

- アイコンをクリックして、アクションを展開/折りたたみます。使用可能なパラメータは、アクションが展開されたときに表示されます。すべてのアクションとそのパラメータのすべての内訳は、**こちら**から確認できます。
- アイコンをクリックすると、アクションパラメータが変更された後でもデフォルトのパラメータに戻ります。
- アイコンをクリックして、**ツールアクションシーケンス**からアクションを削除します。
- チェックボックスが付いたアクションはオプションとなります。選択されたボックスは、ツールの実行時にアクションが**ツールアクションシーケンス**に含まれることを意味

します。オフのボックスは、ツールの実行時にアクションがスキップされるということ意味しますが、その後の使用のためにそれは**ツールアクションシーケンス**に保持されます。(これは、必要なときだけ、あるアクションを使いたい場合に利用すると便利な機能です)。

3. **変更を保存** をクリックしてツールを保存すると、**メインウィンドウ**で利用できるようになります。

図 6. メインウィンドウ、新しいツールの完成

- ダブルクリックをするとツールが起動し、右クリックをすれば**こちら**に表示のようなその他オプションが起動します。
- 新しいツールは、**作成**ボタンをクリックしたときに開いていたツール・カテゴリに移動されることに注意してください。必要に応じてツールをさまざまなカテゴリにドラッグしてください。
- ツールをクリックしてデスクトップにドラッグすると、ツールへのショートカットが作成されます。

6. ツール複製

PDF-Tools の**ツール複製**機能はツールの複製に使用されます。これで既存のツールとそのパラメータを保持しながら、ツールを複製し、その設定をカスタマイズすることができます。デフォルトのツールの場合、多くのパラメータが既にロックされているため、この機能は特に便利だといえます。デフォルトのツールを複製すると、必要に応じて**ツールアクションシーケンス**にアクションを追加、あるいはそこから削除ができるため、ツールの高度なカスタマイズが可能になります。たとえば、**テキストから PDF を作成**ツールはテキストファイルを PDF 形式に変換するために使用され、**アクションライブラリ**の 5 つのアクションを使用しています。

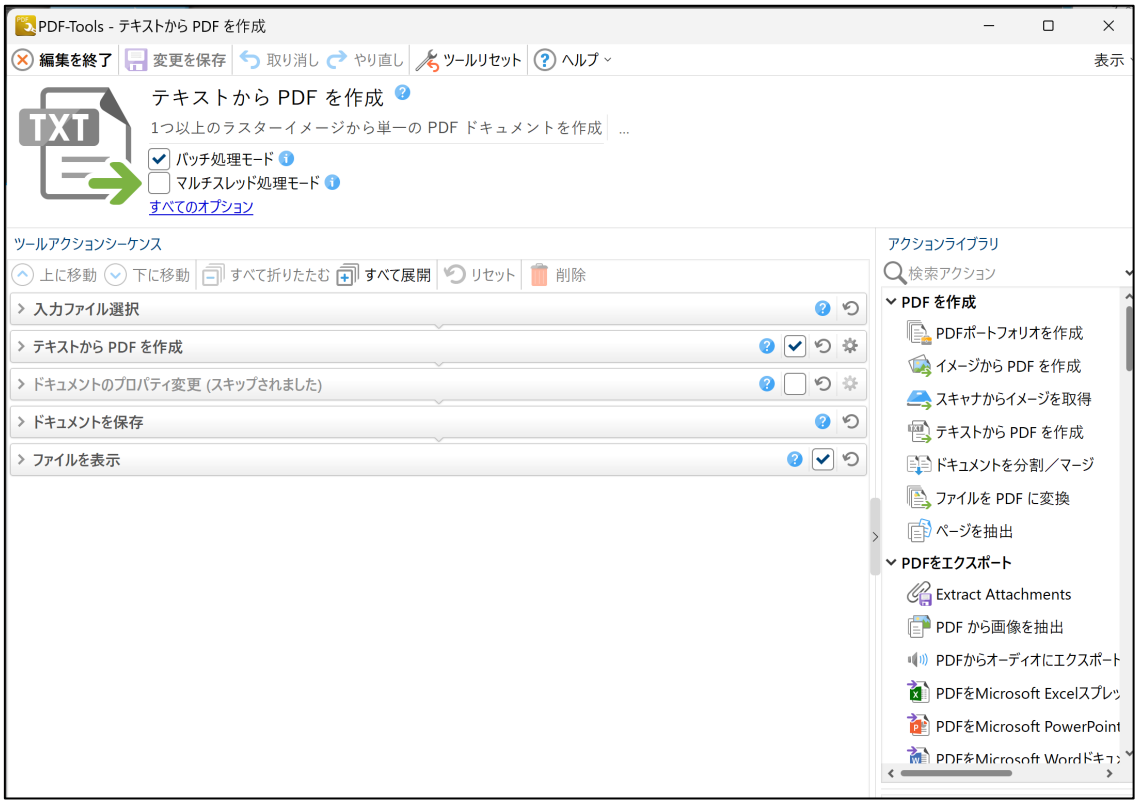

図 1. テキストから PDF を作成、ツールアクションシーケンス

ツールが起動すると、テキストファイルの入力、PDF 形式への変換、ドキュメント・プロパティの変更、ユーザーの指定に従ってファイルの保存、デスクトップ・フォルダへの表示を求めるプロンプトが表示されます。このツールが複製されると、さらに他のオプションが可能になります。たとえば、**ファイルを表示**アクションを削除し、**透かしを追加**アクションと**ドキュメントに署名**アクションを追加できます。この場合、**ツールアクションシーケンス**は以下のように表示されます。

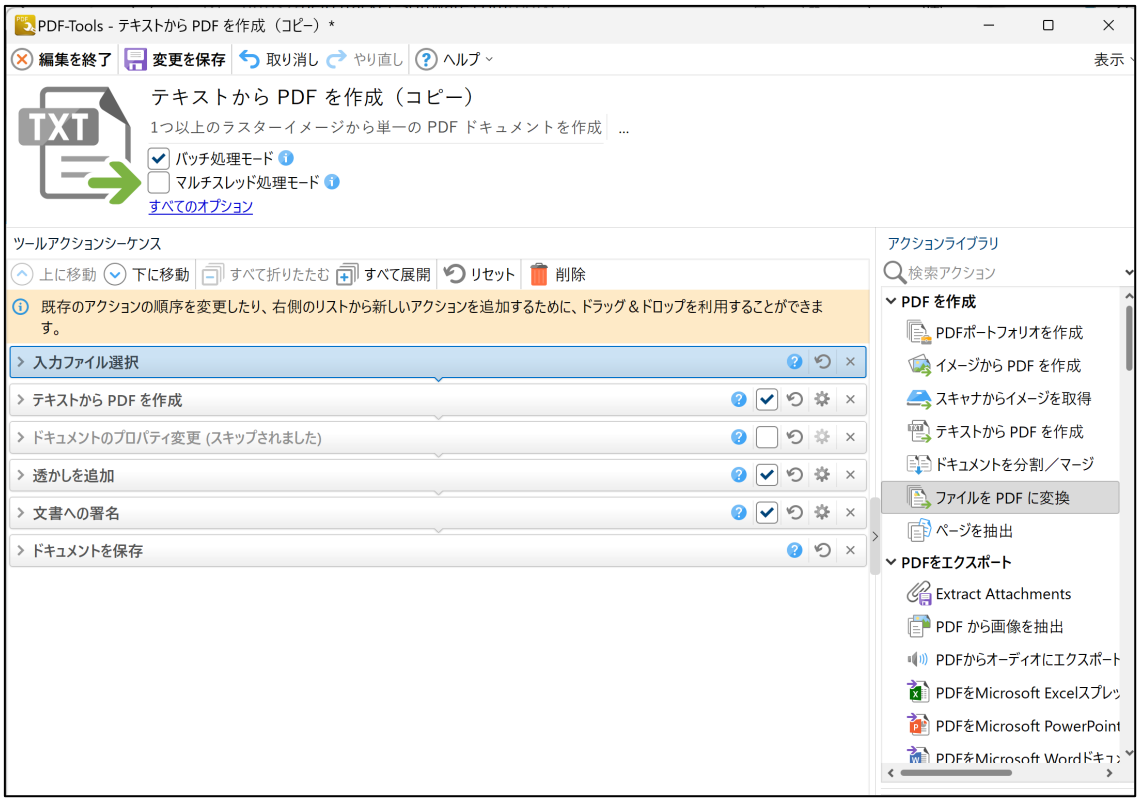

図 2. [テキストから PDF を作成]ツール複製、更新されたツールアクションシーケンス

これによって、このツールは、テキストファイルの入力、PDF 形式への変換、ドキュメント・プロパティの変更、カスタマイズされた透かしの追加とドキュメントへの署名、およびユーザーの指定に従って保存（ただし、**ファイルを表示**アクションが削除されているため、デスクトップ上の格納フォルダには表示されません）を求めるプロンプトを表示することになります。

複製および編集ツール

以下の手順に従ってツールを複製します。

1. 目的のツールを右クリックし、サブメニューの**複製**をクリックします。

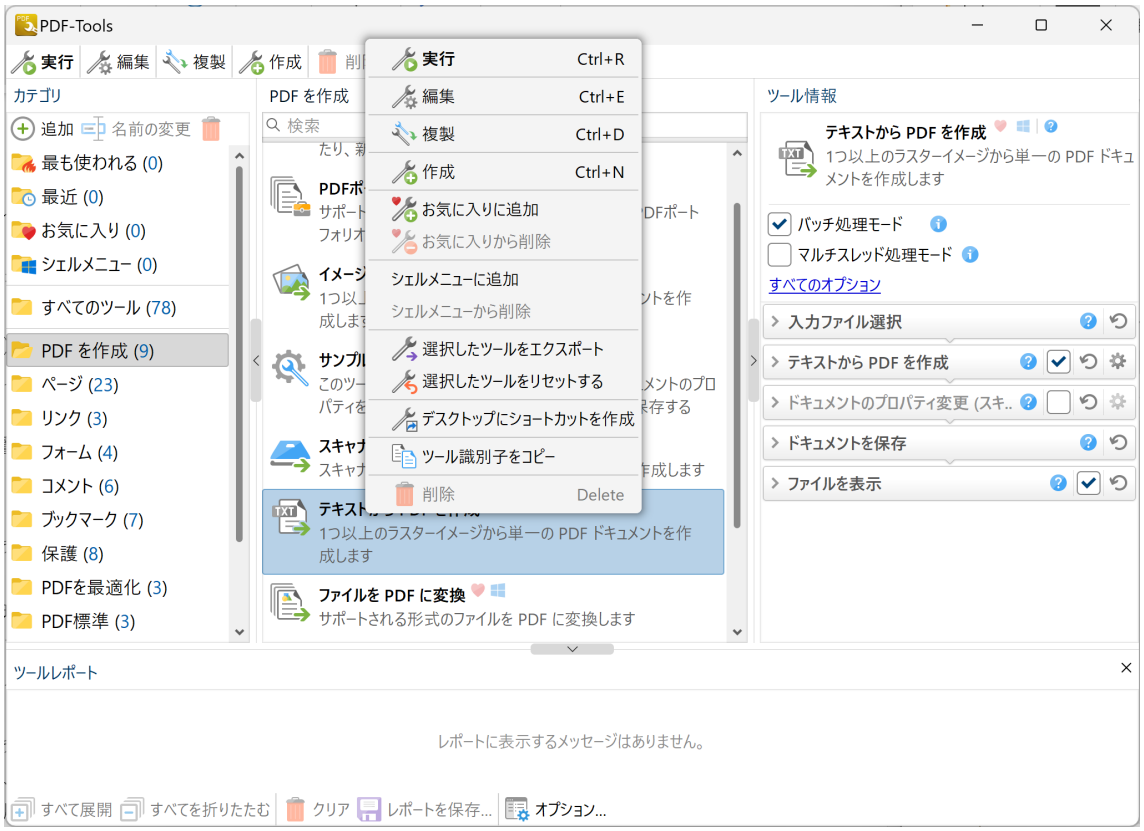

図 3. ツールのコンテンツ･メニューを右クリックし、[複製]オプション

PDF-Tools ダイアログボックスが開きます。

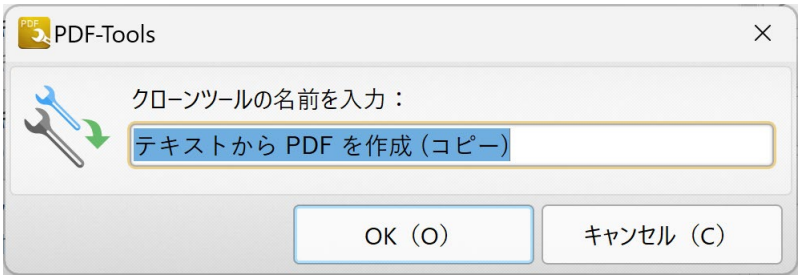

図 4. PDF-Tools ダイアログボックス、ツール名テキストボックス

2. 複製したツールの名前を入力し、「**OK**」をクリックします。 その後、メインウィンドウで利用できるようになります。複製されたツールを右クリックし、**編集**をクリックします。

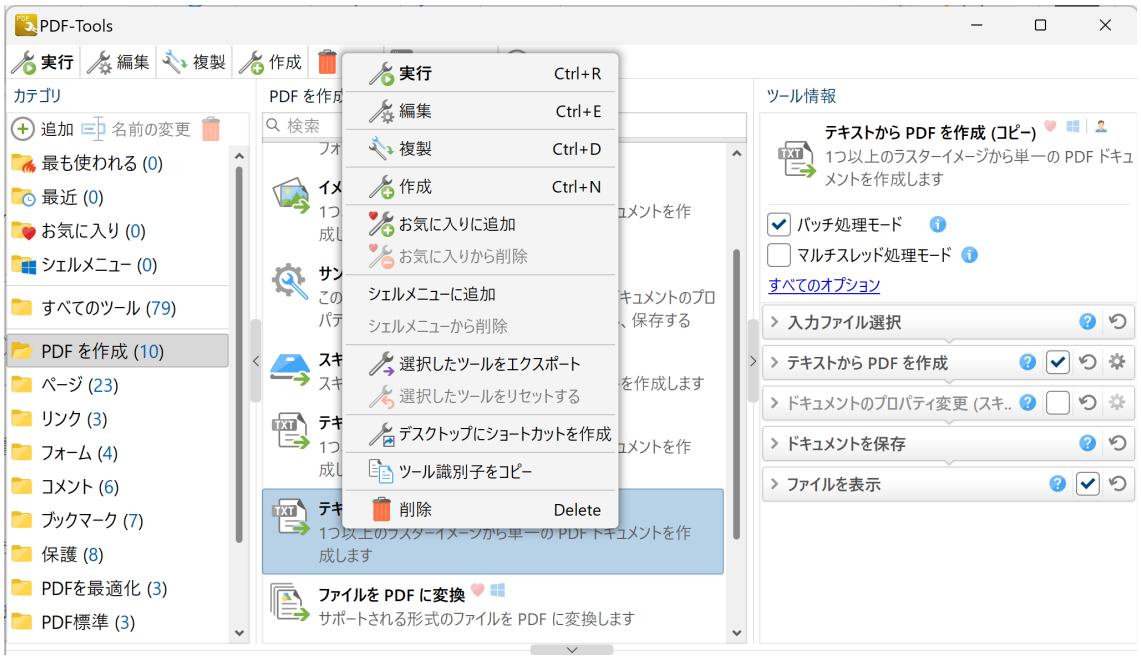

図 5. メインウィンドウ、[複製]ツールの右クリックメニュー

ツールの**編集**ウィンドウが開きます。

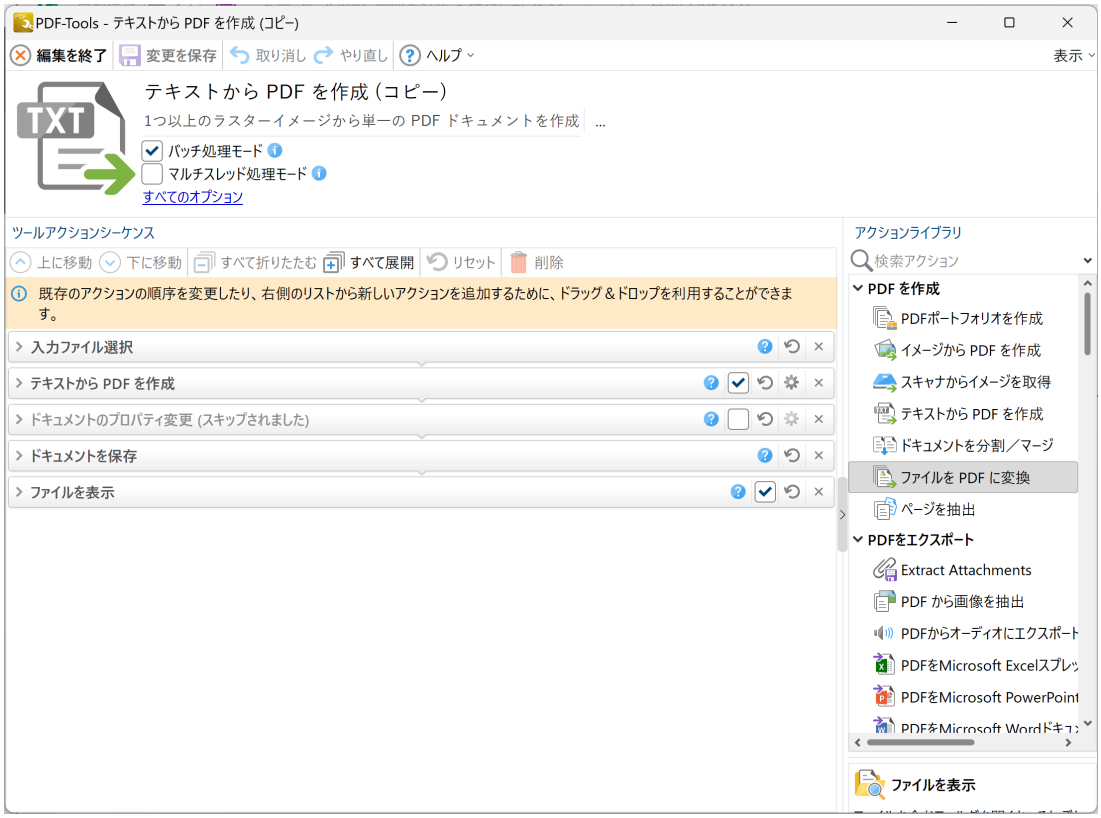

図 6. 複製ツールの[編集]ウィンドウ

- アイコンをクリックして、アクションを展開/折りたたみます。使用可能なパラメータは、アクションが展開されたときに表示されます。すべてのアクションとそのパラメータの内訳は、**こちら**から入手できます。
- アイコンをクリックすると、アクションパラメータが変更された後にデフォルトのパラメータに戻ります。
- アイコンをクリックして、**ツールアクションシーケンス**からアクションを削除します。
- チェックボックスが付いたアクションはオプションとなります。選択された(チェックマークの入っている)ボックスは、ツールの実行時にアクションが**ツールアクションシーケンス**に含まれていることを意味しています。クリアされたボックスは、ツールの実行時にアクションがスキップされることを意味しますが、後で使用するときのために**ツールアクションシーケンス**には保持されています。(これは、そのときどきでアクションが必要になる場合に便利な機能です)。
- **アクションライブラリ**からアクションをドラッグ(またはダブルクリック)して、**ツールアクションシーケンスに追加します。** 86 個のアクションを使用することできます。すべてのアクションとそれらに関連するパラメータの説明については、**アクションライブラリ**を参照してください。
- **ツールアクションシーケンス** ここでのアクションの順序によって、ツール実行時の操作の順序が決まります。アクションを選択し、**(図 6)** に表示されている**上に移動**ボタン、または**下に移動**ボタンをクリックして、**ツールアクションシーケンス**での順序を変更します。 いくつかのアクションでは、正しく機能するために追加のアクションが必要です。追加のアクションは、アクションの前(事前)またはアクション後(事後)に必要になる場合があります。たとえば、**テキストから PDF を作成**のアクションでは、入力ファイルをソースとして供給し PDF に変換するアクションと、変換されたファイルを保存するアクションの両方が必要です。順番を間違えると、警告アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、詳細情報と問題の解決策が表示されます。
- **バッチ処理モード** 複数の入力ファイルがある場合での処理方法を決定します。これはデフォルトで有効になっており、ファイルが一斉に処理されることを意味します。**バッチ処理モード**のボックスをクリアすれば、入力ファイルを一度に 1 つずつ処理するようにできます。このオプションを無効にすると、メモリ使用量が削減されますが、入力ファイルを 1 つのドキュメントに結合するツールにおいて予期しない出力が発生する可能性もあります。
- **マルチスレッド処理モード** デフォルトでは無効になっています。ここのボックスを選択すると、ツールの実行時に使用可能なすべての CPU コアを使用する

マルチスレッド処理が有効になります。これにより、処理パフォーマンスが向上しますが、コンピューターに対する負荷も増加し、同時に実行される他のプロセスに悪影響を及ぼす可能性があります。

- **すべてのオプション**　その他のオプションを表示します。
  - **パスワードを確認しない**　デフォルトでは無効になっています。つまり、PDF-Tools は、パスワードで保護された入力ファイルが**定義済みパスワードストレージ**に対応するパスワードを持たない場合に、パスワードの入力を求めます。 このオプションを有効にすると、ツールの実行時にこれらのファイルがスキップされます。
  - **処理されたファイル**　ドロップダウンメニューを使用して、正常に処理されたファイルに対して実行されるアクションを決定します。
  - **処理されなかったファイル**　ドロップダウンメニューを使用して、正常に処理されなかったファイルに対して実行されるアクションを決定します。
- **編集**ウィンドウ**(図 6)** とそれに含まれるオプションの詳細については、**こちら**をご覧ください。

3. **変更の保存** をクリックして、ツールへの変更を保存します。

---

7. アクションライブラリ

アクションライブラリには、**PDF-Tools** で使用可能な 86 個のアクションが含まれています。これらのアクションは、ツールの機能を決定する**ツールアクションシーケンス**を作成するために使用されます。 **アクションライブラリ**は、**編集**ウィンドウの右側にあります。

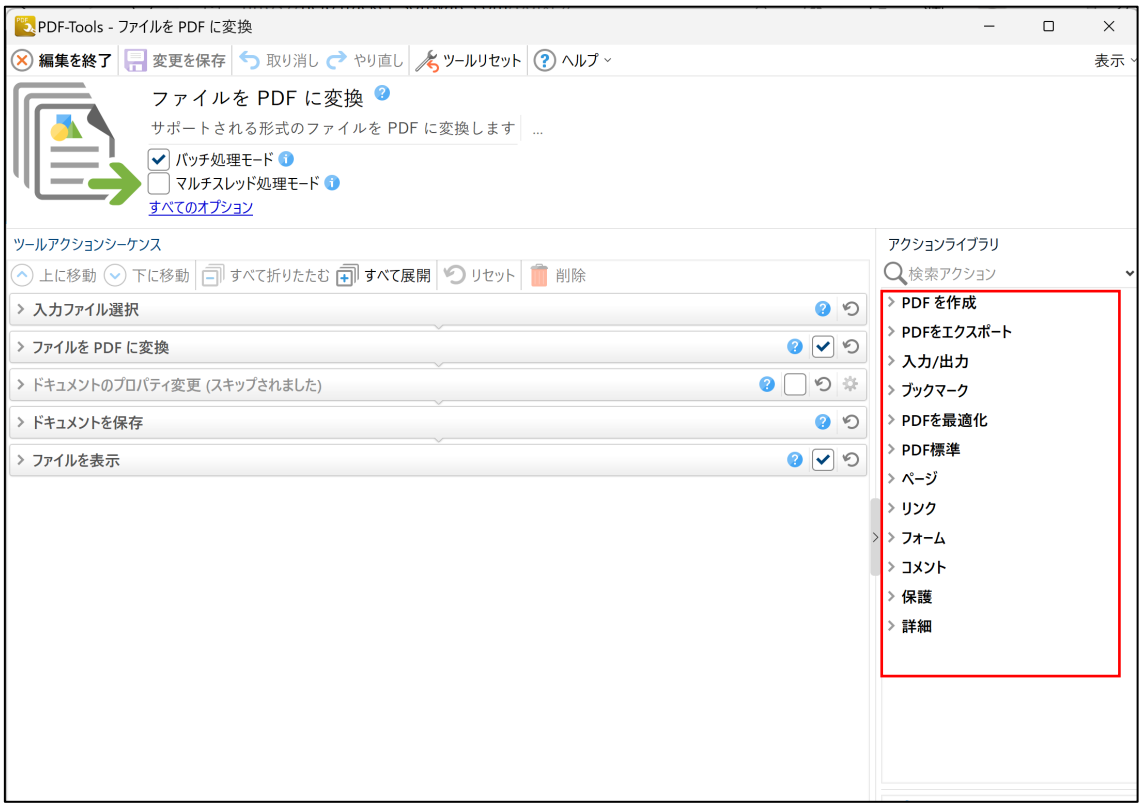

図 1. [編集]ウィンドウ、アクションライブラリ(囲み内)

アクションは、次の 12 のカテゴリに分類されています。

- **PDF 作成** 他の形式のドキュメント、画像ファイル、スキャン入力、または既存の PDF ドキュメントの分割/結合によって PDF ドキュメントを作成するために使用されます。
- **PDF エクスポート** PDF ドキュメントから画像ファイルや **Microsoft Office** 形式などの別形式にコンテンツをエクスポートするために使用されます。
- **入力/出力** ファイルがソースとして供給されたり、保存されるときの入出力プロセスに関連しています。
- **ブックマーク** ドキュメントのブックマークを作成および操作するために使用されます。
- **PDF 最適化** スキャンしたページの品質を向上させ、ドキュメントのサイズを最適化するために使用されます。
- **PDF 規格** PDF の規格である **PDF/A** および **PDF/X** への準拠を追加または削除するために使用されます。
- **ページ** ドキュメントページの編集と向上に使用されます。
- **リンク** リンクと Web リンクを作成/削除するために使用されます。
- **フォーム** フォームおよびフォームデータのインポート、エクスポート、リセット、または削除に使用されます。
- **コメント** ドキュメントのコメント、注釈、フォームフィールドのインポート/エクスポート、削除、および操作に使用されます。
- **プロテクト** デジタル署名、タイムスタンプ、およびパスワードを使用してドキュメントのセキュリティを確立させる際に使用されます。
- **その他** ドキュメントのプロパティを変更したり、電子メールでドキュメントを送ったりする際に使用されます。

詳細については、アクションのカテゴリをクリックしてください。

7-1. [PDF 作成]アクション

[PDF 作成]アクションは、他の形式のドキュメント、画像ファイル、スキャン入力、または既存の PDF ドキュメントを分割/結合して PDF ドキュメントを作成するために使用されます。

ファイルを PDF に変換 他の形式のドキュメントから PDF ドキュメントを作成します。

PDF ポートフォリオを作成 元となるドキュメントから PDF ポートフォリオ・ファイルを作成します。

画像から PDF を作成 画像ファイルから PDF ドキュメントを作成します。

テキストから PDF を作成 テキストファイルから PDF ドキュメントを作成します。

ページを抽出 既存のドキュメントのページから PDF ドキュメントを作成します。

スキャナから画像を取得 **アクションライブラリ**からの他のアクションと使用するために、ローカルのスキャナから画像を取得します。

ドキュメントを分割/結合 ひとつのドキュメントを複数の小さなドキュメントに分割したり、複数のドキュメントをひとつのファイルに結合したりします。

7-1-1. ファイルを PDF に変換する

ファイルを PDF に変換アクションは、他の形式のドキュメントから PDF ドキュメントを作成します。ただし、

- このアクションは、テキストと画像の両方を含むファイルで使用するためのものです。テキストファイルから PDF ドキュメントを作成するには**テキストから PDF を作成**のアクションを使用し、**画像から PDF を作成**のアクションを使用して、画像ファイルから PDF ドキュメントを作成します。
- このアクションにより、各入力ファイルから新しい PDF ドキュメントが作成されます。**ドキュメントを分割/結合**のアクションを使用して、複数の入力ファイルからひとつの PDF ドキュメントを作成します。
- このアクションは、**ツールアクションシーケンス**の**入力ファイル選択**アクションの後の順に配置される必要があり、そうでなければ、ツールは実行されません。
- サポートされているファイル形式の完全なリストは、**こちら**から入手できます。

ファイルを PDF に変換のアクションには、次のようなカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

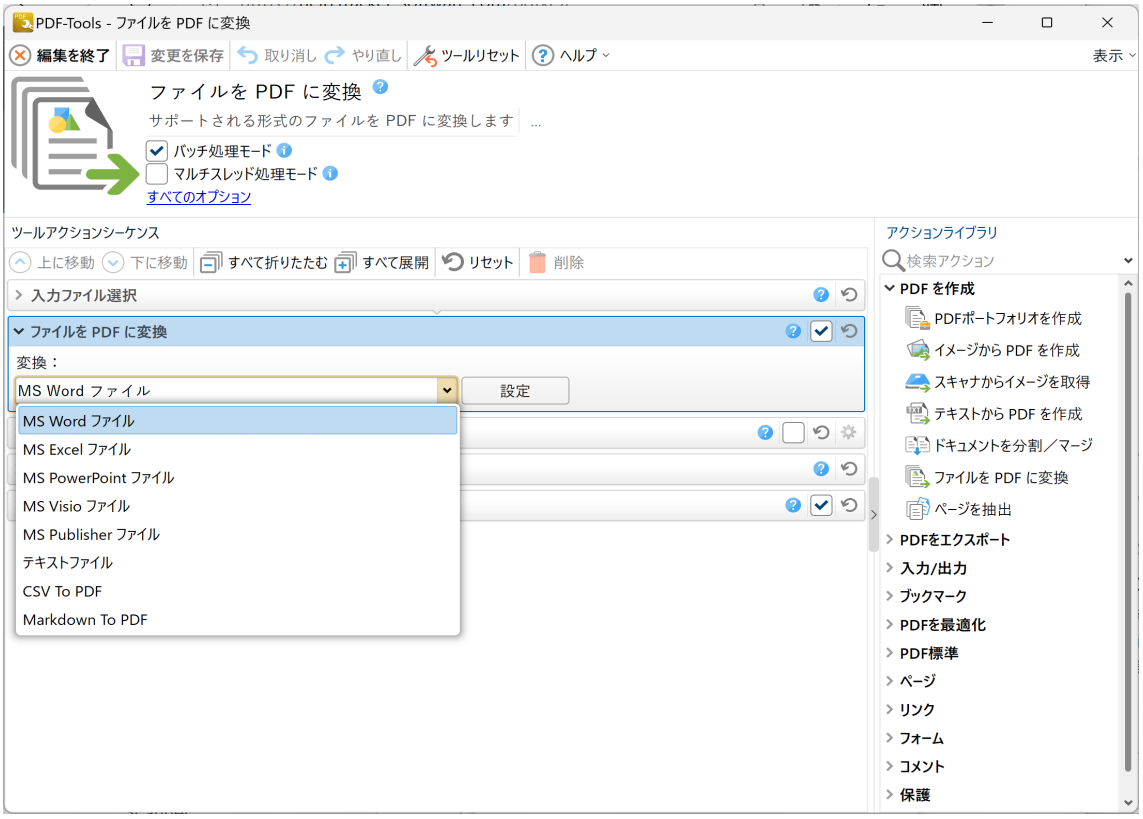

図 1. [ファイルを PDF に変換]のアクションパラメータ

- **変換** ドロップダウンメニューにカスタマイズができ、調整可能なパラメータを持つ入力形式の詳細が表示されます。形式を選択して**設定**をクリックし、指定した形式のファイルを PDF に変換するときに調整可能なパラメータを決定します。
  - **MS(Microsoft) Word ファイル** このオプションには、次の 3 つのパラメータがあります。
    - **MS Word で RTF ファイルの変換を許可** このボックスを選択すると、**MS Word** でファイルを **MS Word** 形式**(*.rtf)**に変換できるようになります。
    - **マクロ実行が可能なドキュメントでマクロを有効にする** このボックスを選択して、変換された MS Word ファイルの**マクロ**を有効にします。
    - **変換時にマークアップを含める** このボックスを選択して、MS Word ファイルに対して作成されたマークアップを PDF への変換に含めます。
  - **MS Excel、MS PowerPoint、**および **MS Visio** これらのファイルのオプションには、次のひとつのパラメータが含まれています。
    - **マクロ実行が可能なドキュメントでマクロを有効にする** このボックスを選択して、変換された **MS Excel/PowerPoint/Visio** ファイルの**マクロ**を有効にします。
  - **テキストファイル** このオプションの詳細は次のとおりです。

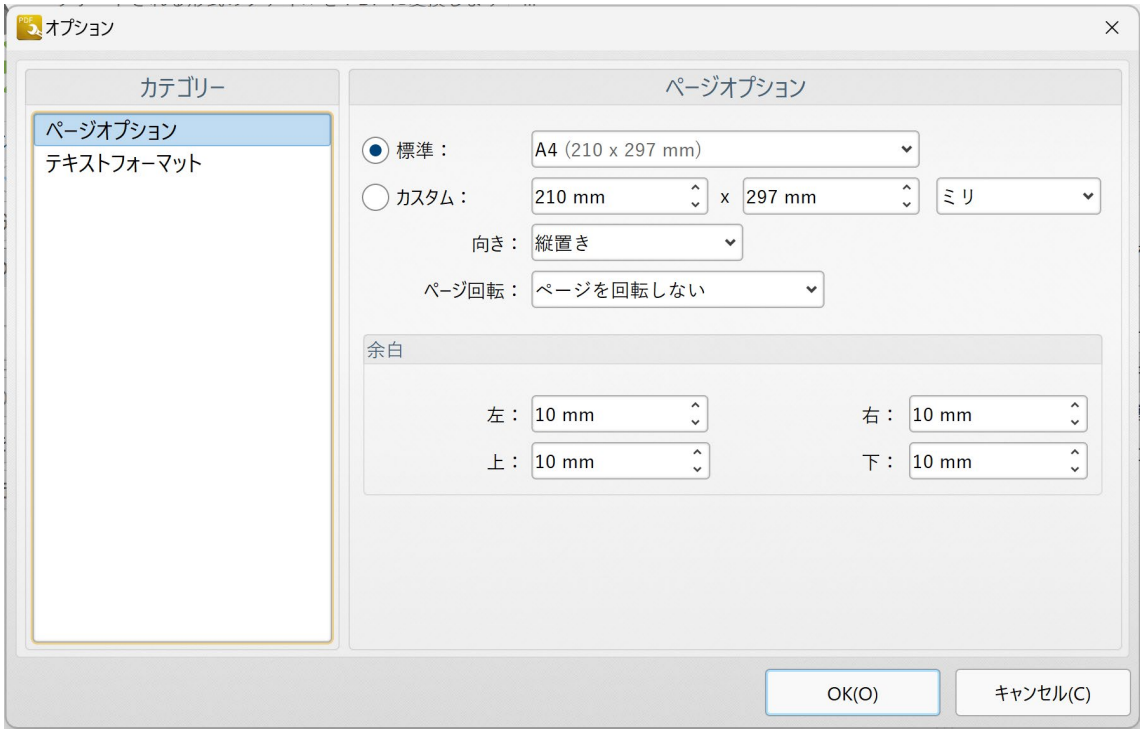

図 2. [テキストファイル]オプションのダイアログボックス、[ページ]オプション

これらのオプションは、変換されたテキストファイルのサイズとレイアウト・パラメータを決定するために使用されます。

- テキストファイルを標準規格の寸法の PDF に変換するには**標準規格**を選択し、ドロップダウンメニューでサイズを選択します。
- **カスタム**　テキストファイルを任意の寸法の PDF に変換できます。ボックスに寸法を入力し、寸法の単位、方向、およびページ回転の設定を選択します。
- **余白**　数値ボックスを使用して、ページ余白を決定します。

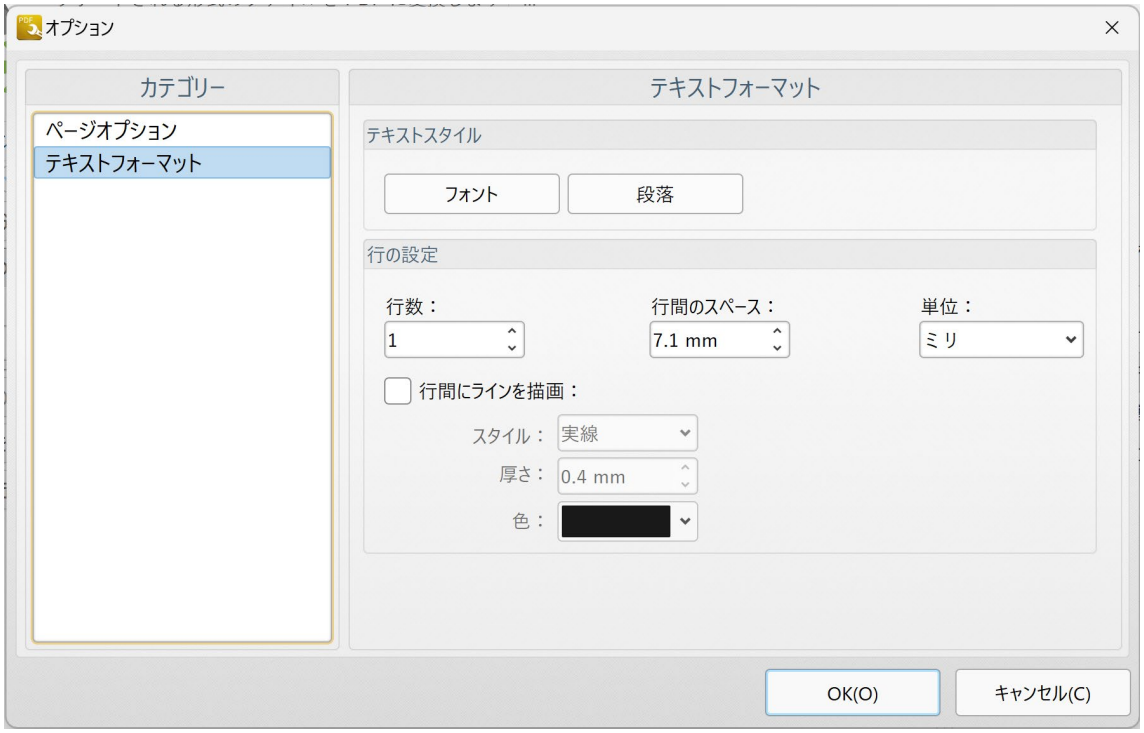

図 3. [テキストファイル]オプションのダイアログボックス、[テキスト・フォーマット]オプション

- **フォント/段落** ここの説明にあるように、フォント/段落についてのオプションを決定します。
- **行数** ドロップダウンメニューから、テキストの行数を決定します。
- **行間のスペース** ドロップダウンメニューから**行間の**幅を決定し、**単位**ドロップダウンメニューを使用して、その単位を決定します。
- **行間に線を挿入** ボックスを選択して、テキストの行間に線を挿入し、ドロップダウンメニューを使用して、必要に応じて行の**スタイル、太さ、**および**色**を決定します。

CSV から PDF に変換のオプションについては、以下で詳しく説明します。

図 4. [CSV から PDF に変換]オプションのダイアログボックス

- **区切り(デリミタ)** テキストボックスを使用して、CSV 入力のドキュメントについて値を区切るために使用する区切り文字(デリミタ)を指定します。または、**データから区切り文字を自動的に検出する** ボックスを選択すると、区切り文字が自動的に検出されます。
- **引用符** テキストボックスを使用して、CSV 入力のドキュメントで使用される引用符を指定します。
- **ページ設定** 変換されたファイルのサイズと方向を決定します。
  - **標準規格** ドロップダウンメニューから ISO や ANSI で使用される標準規格のページ寸法などを指定し、となりのドロップダウンメニューを使用して、出力ドキュメントの向きとして**縦**または**横**のいずれかを指定します。

- **カスタム** ボタンをクリックし、となりの数値ボックスに希望する寸法を入力します。また、その横のドロップダウンメニューを使用して、単位を指定します。
- **スタイル** 出力ドキュメントのスタイルを指定します。
  - **余白** 出力ドキュメントの余白を指定します。
  - **フォント** 出力ドキュメントのフォントを指定します。 **フォントの選択**ダイアログボックスが開くので、フォント、スタイル、サイズを選択し、**OK** をクリックして変更を保存します。
  - **線の太さ** 数値ボックスを使用して出力ドキュメントのページの罫線の幅を指定し、となりのドロップダウンメニューを使用して色を指定します。
  - チェックボックスを使用して、必要に応じて追加オプションを有効/無効にします。

OK をクリックして変更を保存します。

マークダウンから PDF に変換オプションについては、以下で詳しく説明します。

図 5. [マークダウンから PDF に変換]ダイアログボックス

- **標準規格** ドロップダウンメニューから、ISO や ANSI で使用される標準規格のページ寸法などを指定します。
- **カスタム** ボタンをクリックし、となりの数値ボックスに希望する寸法を入力します。また、その横のドロップダウンメニューを使用して、単位を指定します。
- **方向** ドロップダウンメニューから、出力ドキュメントの向きを指定します。
- **回転** ドロップダウンメニューから、出力ドキュメントのページの回転について指定します。
- **余白** 数値ボックスを使用して、出力ドキュメントの余白を指定します。
- 出力ドキュメントの**テキストスタイル**のオプションを指定するために、パステキストボックスを使用して CSS ファイルへのパスを指定します。

OK をクリックして変更を保存します。

7-1-2. 画像から PDF を作成

画像から PDF を作成のアクションで、画像ファイルから PDF ドキュメントを作成します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

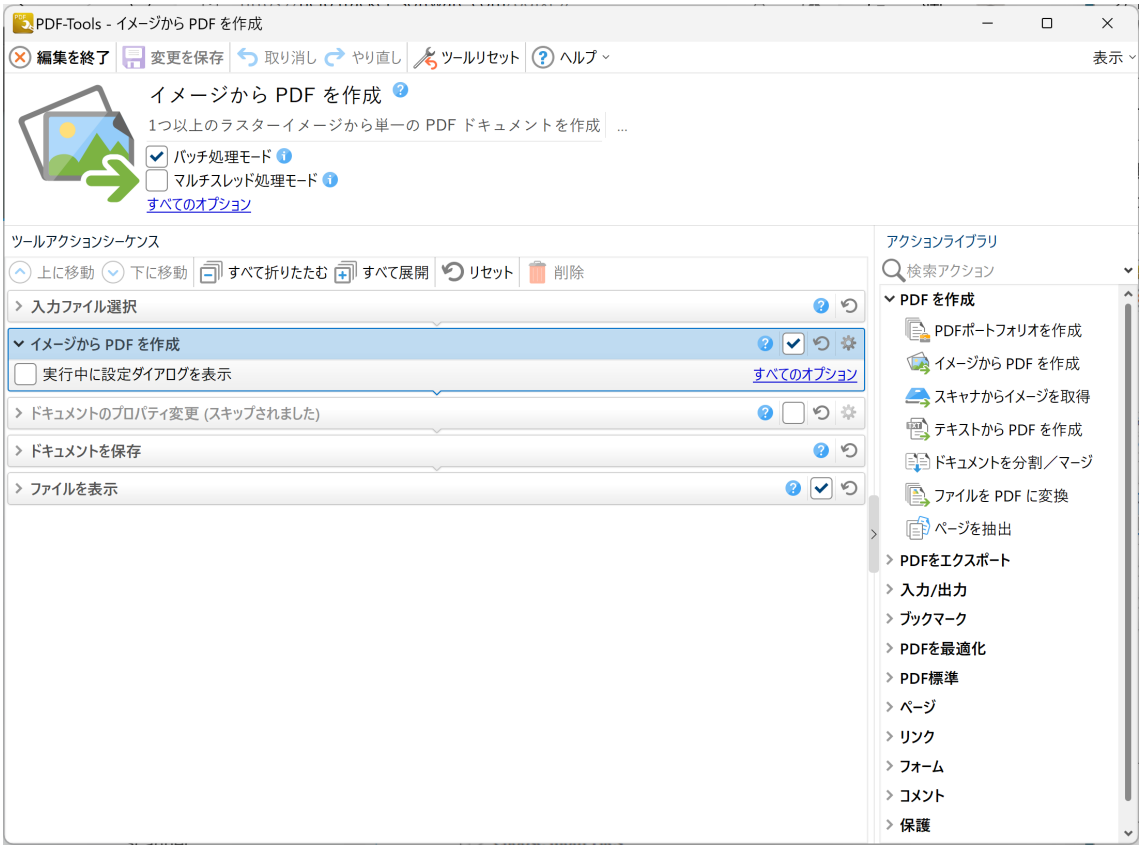

図 1. [画像から PDF を作成]のアクションパラメータ

- **すべてのオプション**　ここから画像の変換オプションを決定します。下記説明のとおり、**画像から PDF に変換オプション**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択して、**画像から PDF に変換オプション**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**画像か**

ら PDF に変換オプションの**ダイアログボックス**が開かなくなるようなります。これは、同じ設定が常に使用される場合に便利です。

[ページ]オプション

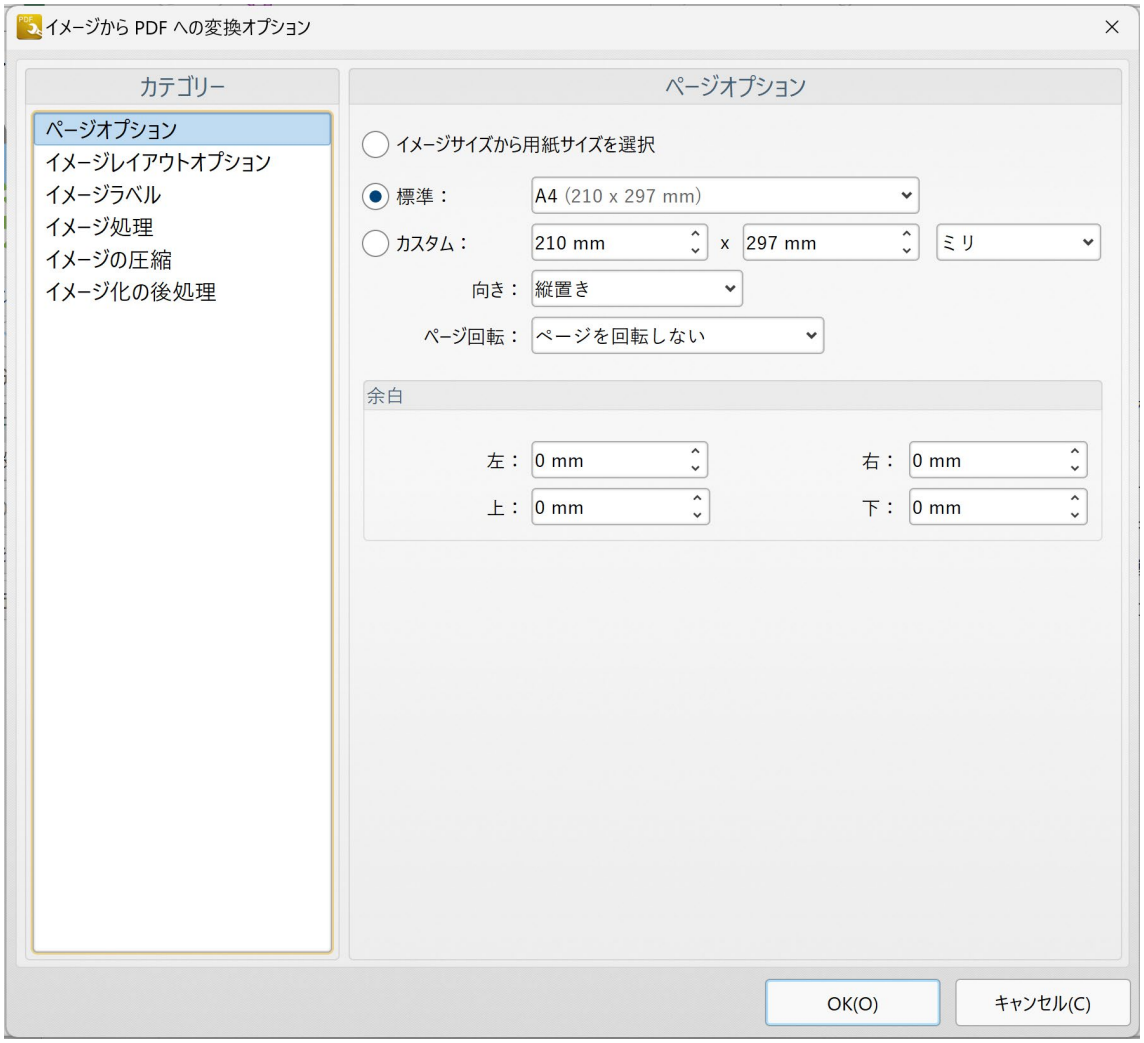

図 2. [画像から PDF を作成]ダイアログボックス、[ページ]オプション

- **[ページ]オプション**は、出力ドキュメントのページサイズを決定します。
  - **画像サイズから用紙サイズを選択**　ここを選択して、入力画像のサイズを出力ドキュメントのページサイズとして使用します。
  - **標準規格**　出力ドキュメントに標準規格のサイズを使用するには、このオプションを選択し、ドロップダウンメニューからオプションを選択します。
  - **カスタム**　出力ドキュメントにカスタム寸法を使用し、数値ボックスに寸法を入力し、単位、方向（向き）、およびページの回転の選択をします。

- **余白**　数値ボックスを使用して、出力ドキュメントのページ余白を決定します。

[画像レイアウト]オプション

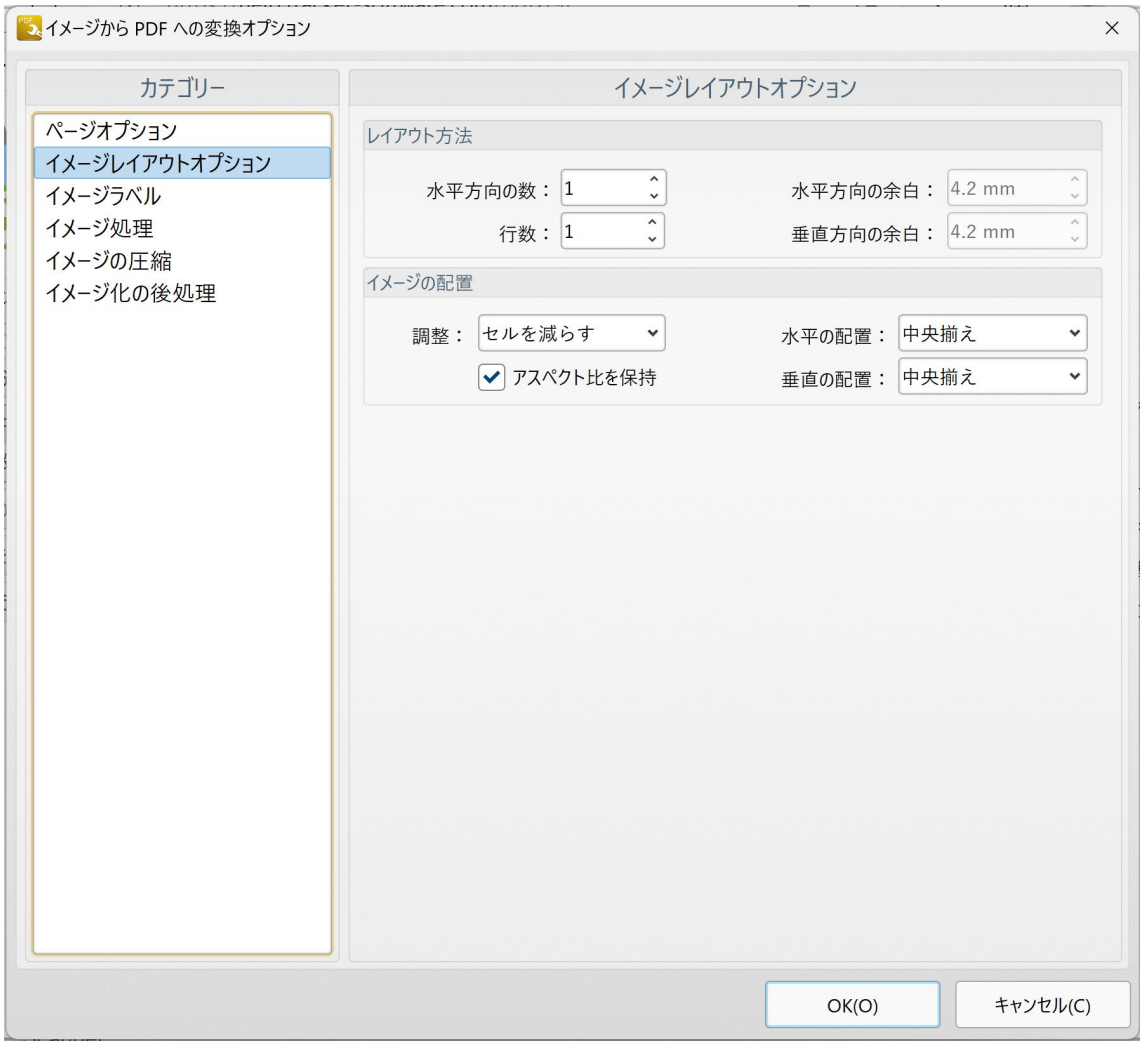

図 3. [画像から PDF を作成]ダイアログボックス、[画像レイアウト]オプション

これらの設定は、出力ドキュメント内の画像のレイアウトをカスタマイズするために使用されます。

- **列**（カラム）と**行**　数値ボックスを使用して、複数の画像を含む出力ドキュメントのレイアウトを決定します。右側の数値ボックスを使用して、出力ドキュメント内の画像の列と行の間隔を決定します。
- **調整**　ドロップダウンメニューから、画像が出力ドキュメントのサイズにどのように収まるかを決定します。

- **セルに縮小**　PDF ドキュメントのサイズに合わせて画像のサイズを縮小します。画像が PDF ドキュメントよりも小さい場合、元のサイズのままとなります。
- **セルに合わせる**　画像を PDF ドキュメントのサイズに合わせます。画像が PDF ドキュメントよりも小さい場合、サイズが拡大されます。
- **アスペクト比を保持**　チェックボックスはデフォルトでオンになっています。つまり、出力ドキュメントの指定された寸法内に収まる限り**画像の縦横比は保持されるというということになります**。チェックボックスをオフにすると、アスペクト比が無効となります。その場合、画像は出力ドキュメントの指定された寸法と一致しますが、結果として形状が歪むことがあります。
- **水平/垂直方向の配置**　ここのドロップダウンメニューは、出力ドキュメントで画像が表示される位置を決定します。

画像ラベル

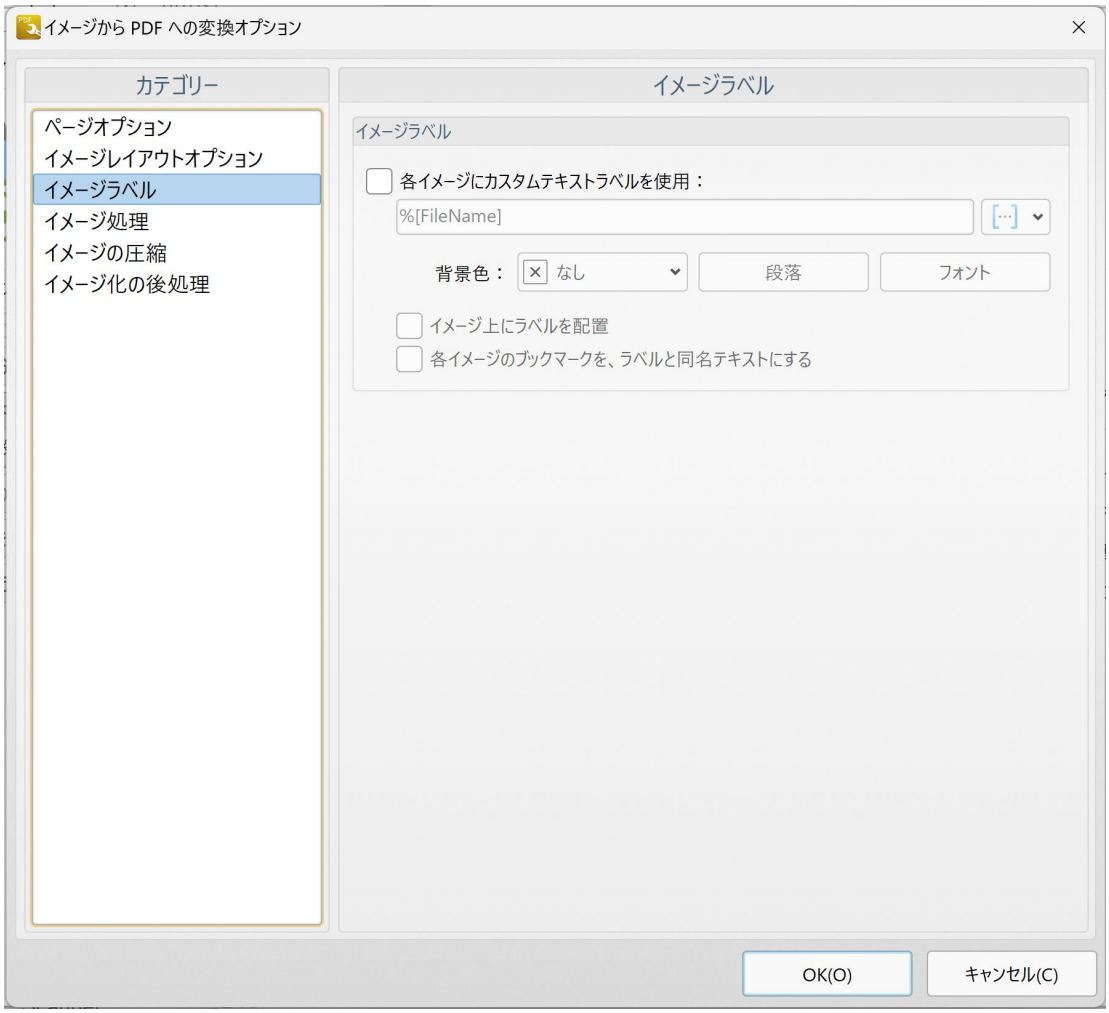

図 4. [画像から PDF を作成]ダイアログボックス、[画像ラベル]オプション

これらの設定は、出力ドキュメント内の画像にラベルを追加するために使用されます。

- **各画像にカスタマイズ可テキスト・ラベルを使用**　ボックスを選択して画像にラベルを追加し、残りの設定を使用してラベルをカスタマイズします。
  - 必要に応じて、テキストボックスにラベルにテキストを入力します。青いアイコンをクリックして、**マクロ**を表示/追加します。
  - **背景色**　ドロップダウンメニューから、ラベルの背景の色を決定します。
  - **段落**ボタンと**フォント**ボタン　これらをクリックして、段落とフォントの設定を決定します**(詳細はこちらを参照)。**
  - **画像の上にラベルを配置**　ボックスを選択して、**画像の上にラベル**を配置します。このボックスをオフにすると、ラベルが画像の下に配置されます。
  - **各画像にラベルと同テキストのブックマークを追加**　必要に応じて、選択すると、出力ドキュメント内の各画像についてのブックマークが作成され、**(図 4)**にあるように、テキストボックスに入力されたテキストがそれらのタイトルとなります。つまり、**マクロ**が使用されない限り、テキストはすべてのブックマークのタイトルに対して同じになるので、このオプションは推奨されます。

画像処理

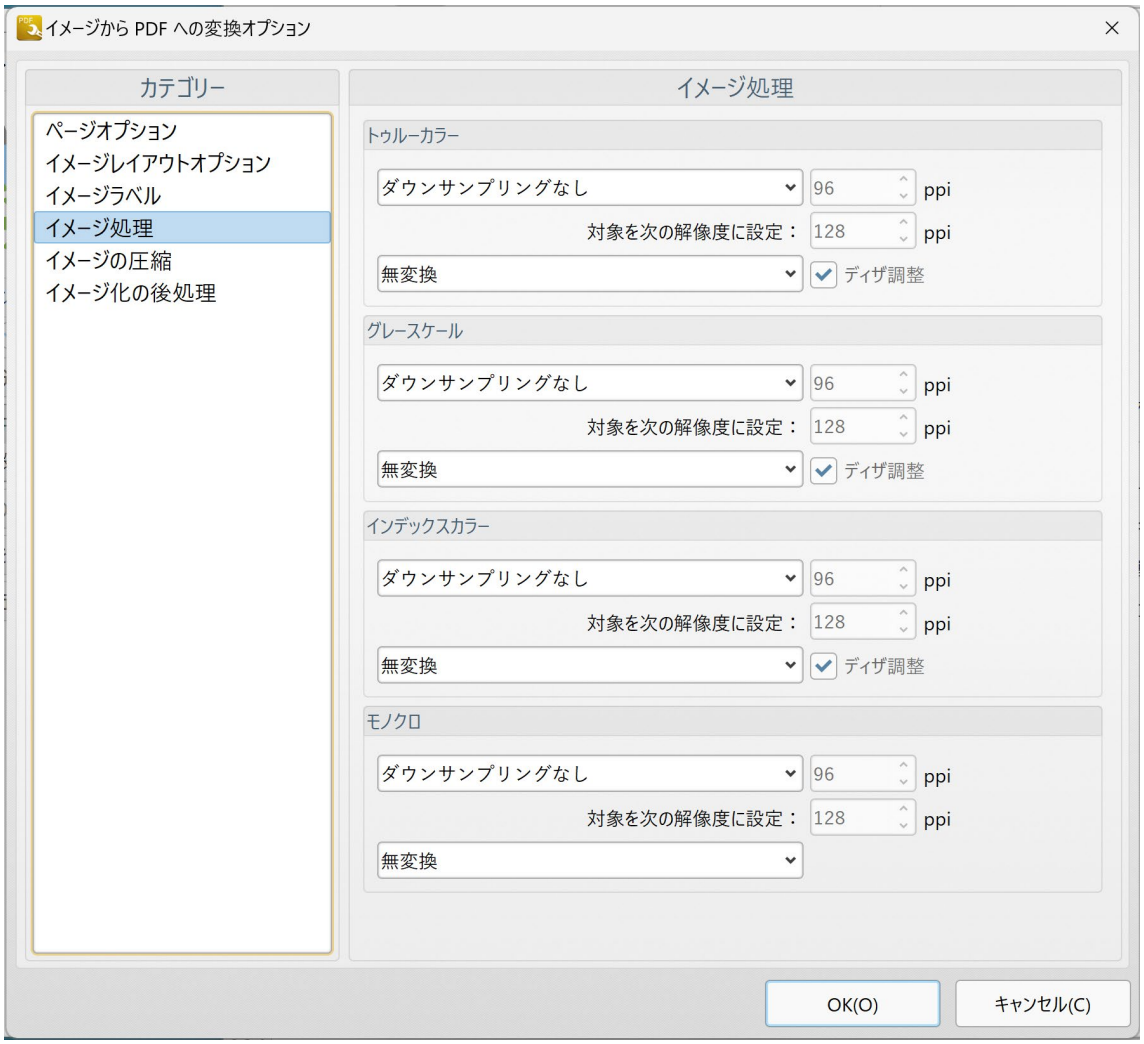

図 5. [画像から PDF を作成]ダイアログボックス、[画像処理]オプション

これらの設定で画像処理についてのオプションを決めますが、これは**トゥルーカラー(True Color)**、**グレースケール**、**インデックスカラー**、**モノクロ**の画像についても同様となります。

- **ダウンサンプリング** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、変換された画像について**リニア**、**バイリニア**、または**バイキュービック・ダウンサンプリング**を有効にします。**ピクセル/インチ(ppi)** この数値ボックスを使用して、画像をダウンサンプリングする解像度と、ダウンサンプリングされる最小解像度を設定します。
- **変換** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、画像を別の形式に変換します。**ディザリング**のボックスを選択して、必要に応じてディザリングを有効にします。

画像圧縮

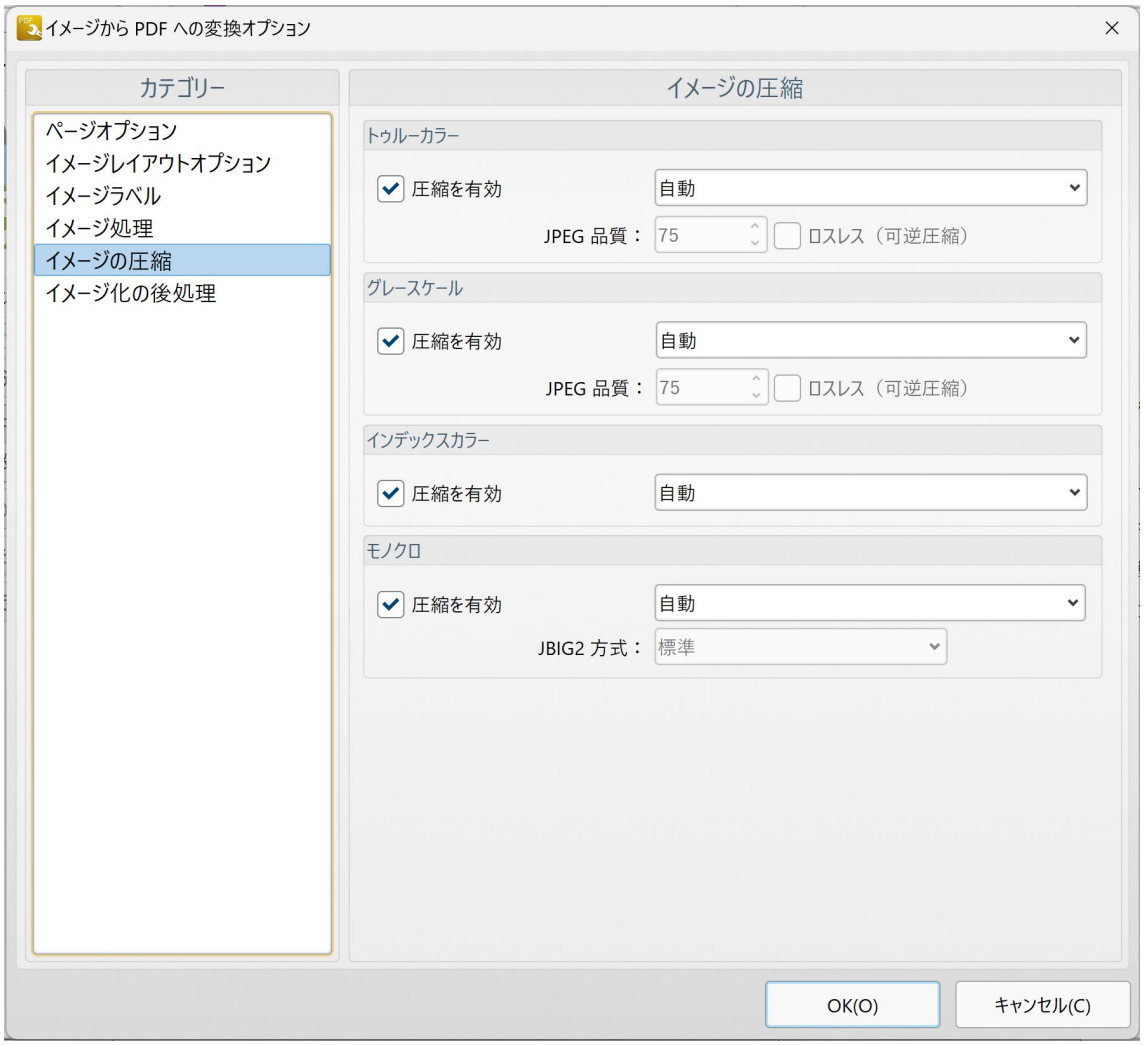

図 6. [画像から PDF を作成]ダイアログボックス、[画像圧縮]オプション

これらの設定によって、画像の圧縮オプションが決まります。

- **圧縮有効** ボックスを選択/クリアにして、**トゥルーカラー**、**グレースケール**、**インデックスカラー**、**モノクロ**のそれぞれの画像の圧縮を有効/無効にします。
- **自動** ドロップダウンメニューから、**トゥルーカラー**、**グレースケール**、**インデックスカラー**、**モノクロ**それぞれの画像に使用する圧縮形式を決定します。
- **JPEG 品質/JBIG2 方式** ドロップダウンメニューでオプションを選択し、必要に応じて**ロスレス**（可逆圧縮）ボックスを選択/クリアにします。

画像のポストプロセス

これらの設定は、画像のポストプロセスのオプションを決定します。

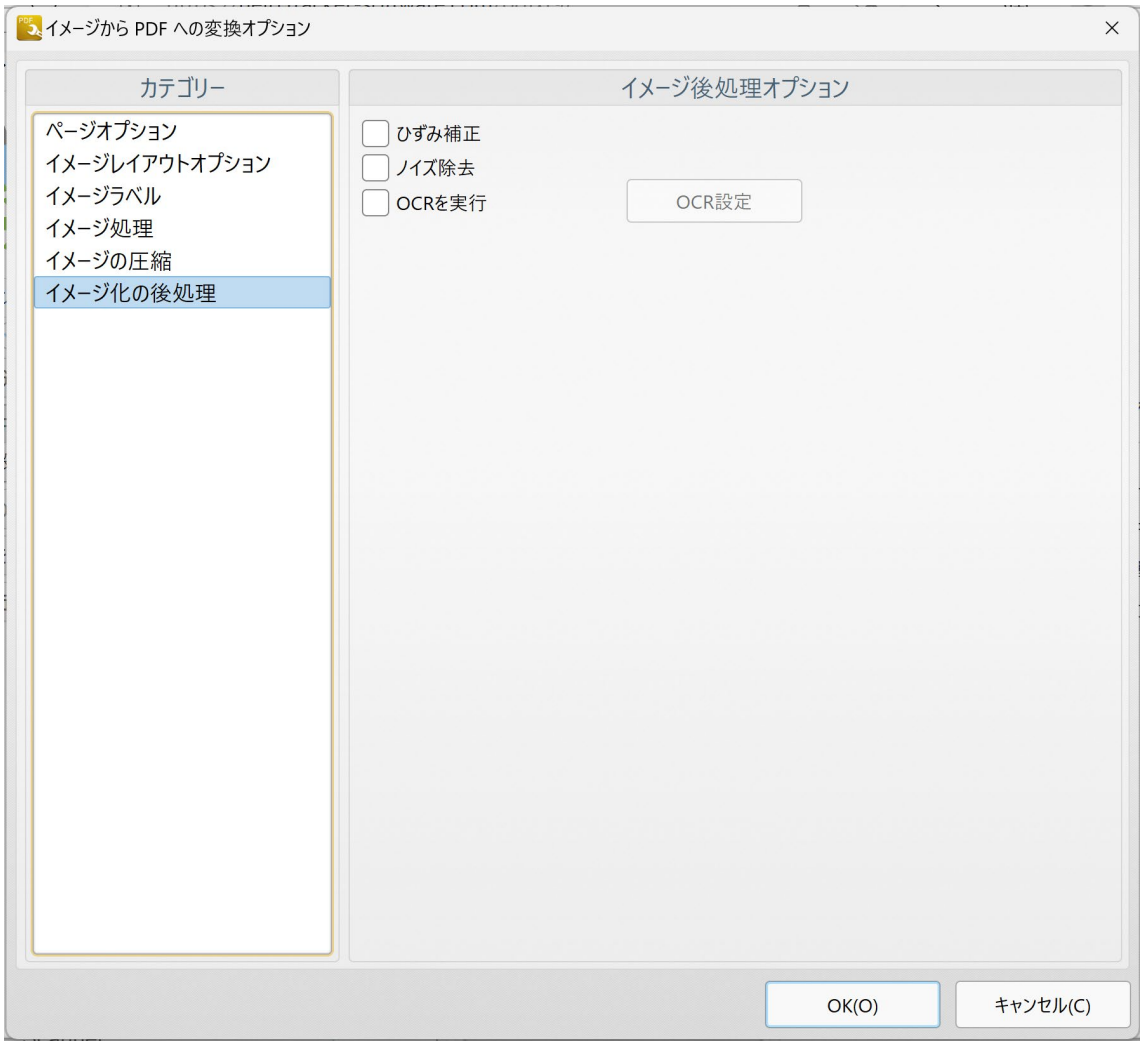

図 7. [画像から PDF を作成]ダイアログボックス、[画像のポストプロセス]オプション

- 画像の歪みを補正するには、**歪み補正**ボックスを選択します。これは、歪みのある状態でスキャン/撮影された画像のエッジをまっすぐにするために使用されます。
- ***ノイズ除去***ボックスを選択して、画像のノイズ(ゴミや斑点)を除去します。これは、変換中に画像からノイズを除去するために使用されます。

OK をクリックして変更を保存します。

7-1-3. ページを抽出

ページを抽出のアクションは、既存のドキュメントのページから PDF ドキュメントを作成します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

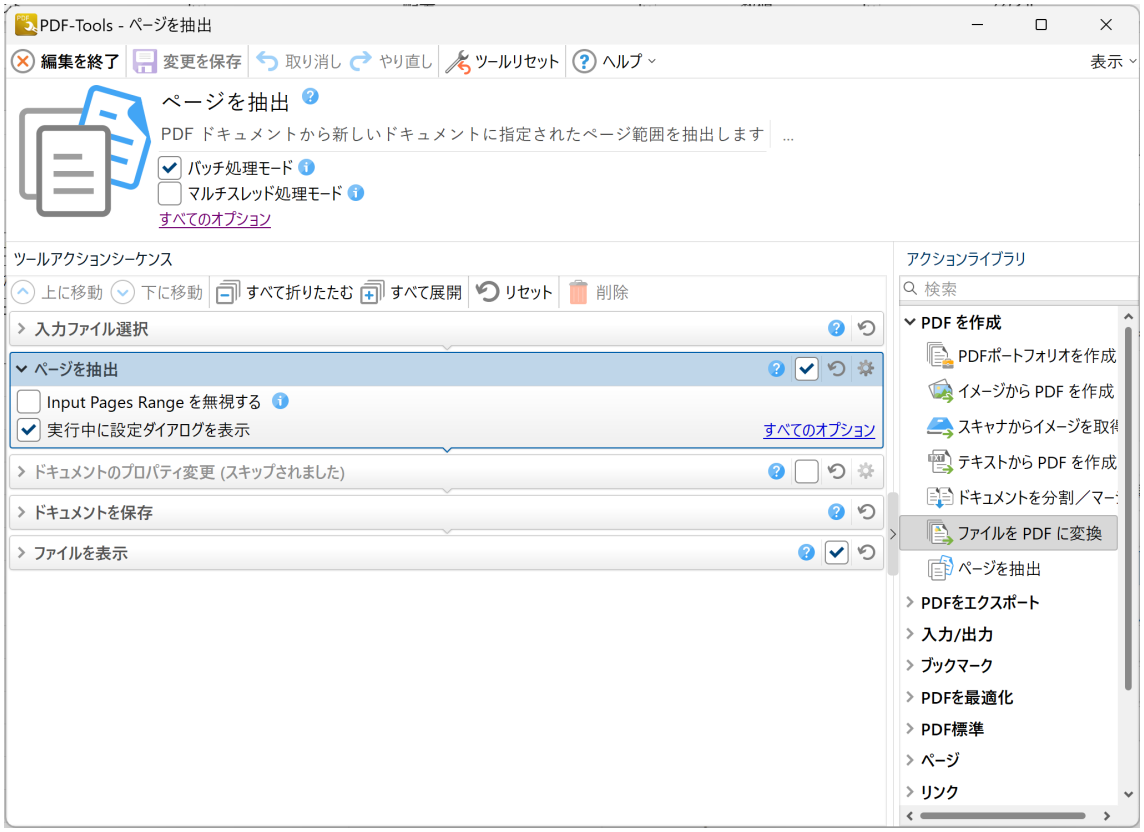

図 1. [ページを抽出]のアクションパラメータ

- **すべてのオプション**　抽出されたページの変換オプションを決定します。以下で説明するように、**ページを抽出**ダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択して、**ページを抽出**ダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、**ページを抽出**のダイアログボックスがアクション使用時ごと

に開かなくなるようになります。これは、同じ設定が常に使用される場合に便利な仕様です。

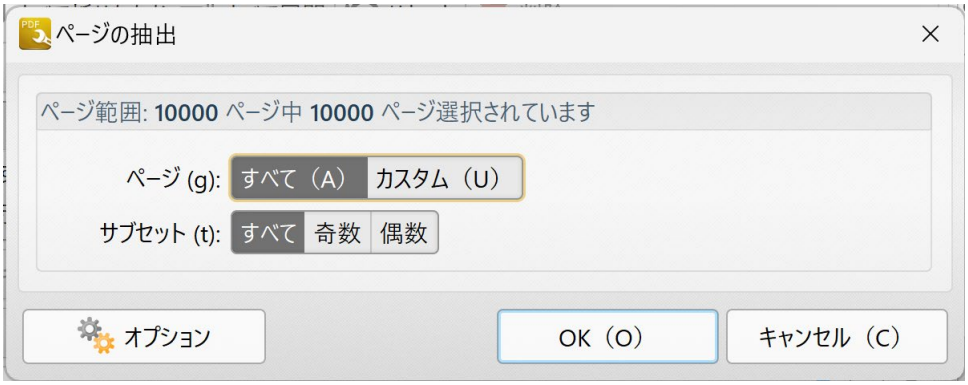

図 2. [ページを抽出]ダイアログボックス

- **ページ範囲**　新しい PDF ドキュメントを作成するために元となるドキュメントから抽出するページを決定します。
- **ページ　すべて**を選択すると、すべてのページを抽出します。
- **カスタム**　カスタムページの範囲を抽出します。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちらを参照してください。**
- **サブセット**　必要に応じて**すべてのページ**、**奇数ページ**、または**偶数ページ**を選択します。
- **オプション**　抽出されたページの**コメント**、**フォーム（フォームフィールド）**、**ブックマーク**の変換オプションを決定します。

OK をクリックして変更を保存します。

7-1-4. スキャナから画像を取得

スキャナから画像を取得のアクションは、**アクションライブラリ**の他のアクションで使用するために、ローカルのスキャナから画像を供給します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

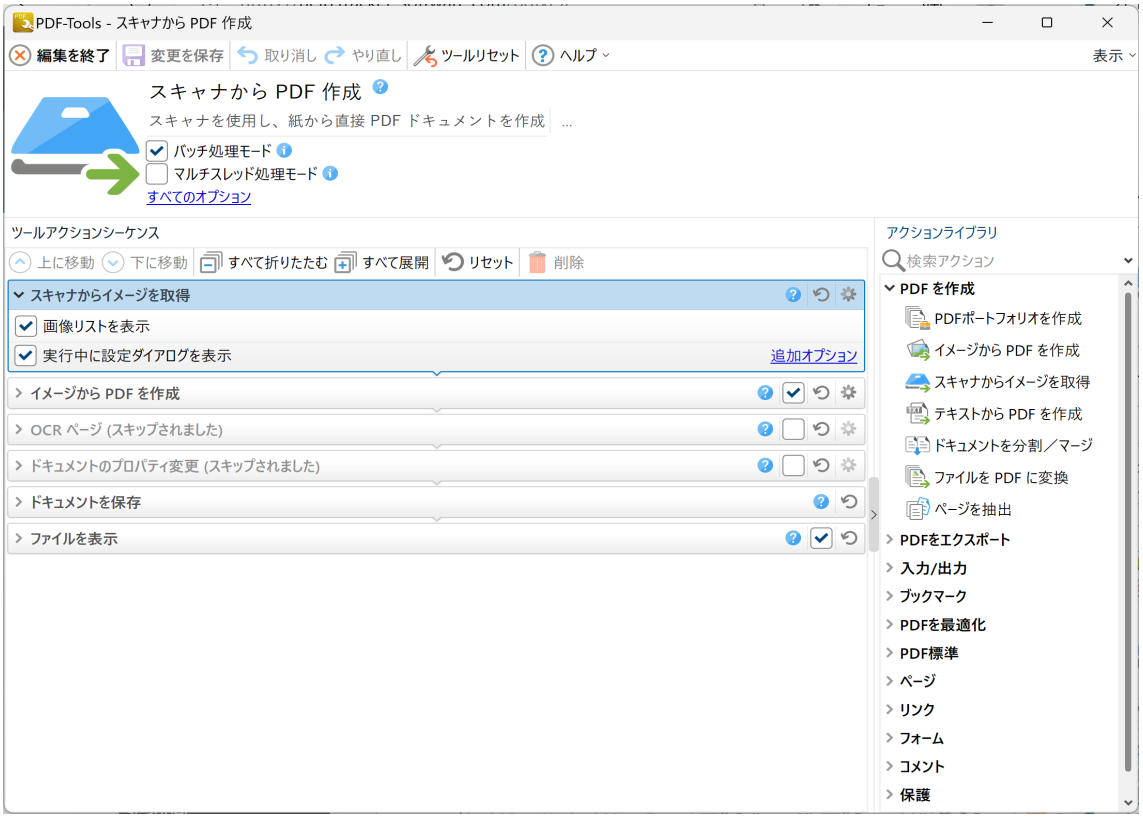

図 1. [スキャナから画像を取得]のアクション・オプション

- **その他オプション**　スキャン・パラメータを決定します。以下の説明にあるように、**スキャン・プロパティ**のダイアログボックスが開きます。
- **スキャン・プロパティ**　このダイアログボックスを起動させるには**実行中に設定ダイアログを表示**のボックスを選択しておき、このアクションが使用されるたびにスキャン・パラメータをカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用

されるたびに**スキャン・プロパティ**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が常に使用される場合に便利な仕様です。

図 2. [スキャン・プロパティ]ダイアログボックス

- **スキャナ設定** ドロップダウンメニューから、**(図 3)**に示すように、スキャン・プロファイルを保存/選択します。
- **スキャナ** ドロップダウンメニューから、画像の供給元となるスキャナを決定します。
- **データ転送方法** ドロップダウンメニューから**ネイティブモード**または**メモリモード**のいずれかを選択します。
  - **ネイティブモード** 単一のメモリバッファを使用します。これはデフォルトであり、最速のモードでもあり、最も幅広い範囲においてスキャナとの互換性があります。
  - **メモリモード** 複数のメモリバッファを使用できます。これは、メモリが不足している場合や、大きな画像がスキャンされる場合に便利な機能です。
- **ネイティブ UI 表示** このボックスがデフォルトで選択されており、これはデバイス・ドライバのユーザーインターフェースが使用されていることを意味します。これは最も

信頼性の高いオプションであり、スキャナはスキャン自体の特定のパラメータ(**カラーモード**、**解像度**、**用紙サイズ**、**ソース**)を選択します。**ネイティブ UI 表示**ボックスをオフにすると、次のオプションがカスタマイズできます。

- **カラーモード** ドロップダウンメニューから、スキャンしたドキュメントの形式として**自動検出**、**カラー**、**グレースケール**、または**白黒**を選択します。
- **解像度** ドロップダウンメニューから、スキャンしたドキュメントの **dpi**(ドット毎インチ)を設定します。
- **用紙サイズ** 数値ボックスを使用して、スキャンしたドキュメントの用紙サイズを決定します。横の**設定**をクリックして、その他のオプションを表示します。
  - 用紙サイズを自動的に決定させる場合は、**自動**を選択します。
  - 標準規格の用紙サイズを使用する場合は、**標準規格**を選択します。
  - 任意の寸法を使用する場合は、**カスタム**を選択します。

- **ソース** ドロップダウンメニューから、**自動**、**フラットベッド**、または**フィーダ(シートフィード)**のいずれかを操作で使用するスキャナのタイプとして指定します。
- **面** ドロップダウンメニューから、ドキュメントのどの面をスキャンするかを決定します。 **シンプルスキャン**、**手動で両面**、**手動で両面の反転**の 3 つのオプションがあります。ボックスの右側にあるドロップダウン矢印をクリックすると、これらのオプションの説明が表示されます。
- **他のページをスキャン** ドロップダウンメニューと数値ボックスを使用して、追加のページをどのタイミングでスキャンするかを決定します。

OK をクリックして変更を保存します。

スキャナ設定

スキャナ設定のドロップダウンメニューを使用して、プリセットのスキャン・モードを選択するか、カスタム設定を保存/管理/削除します。

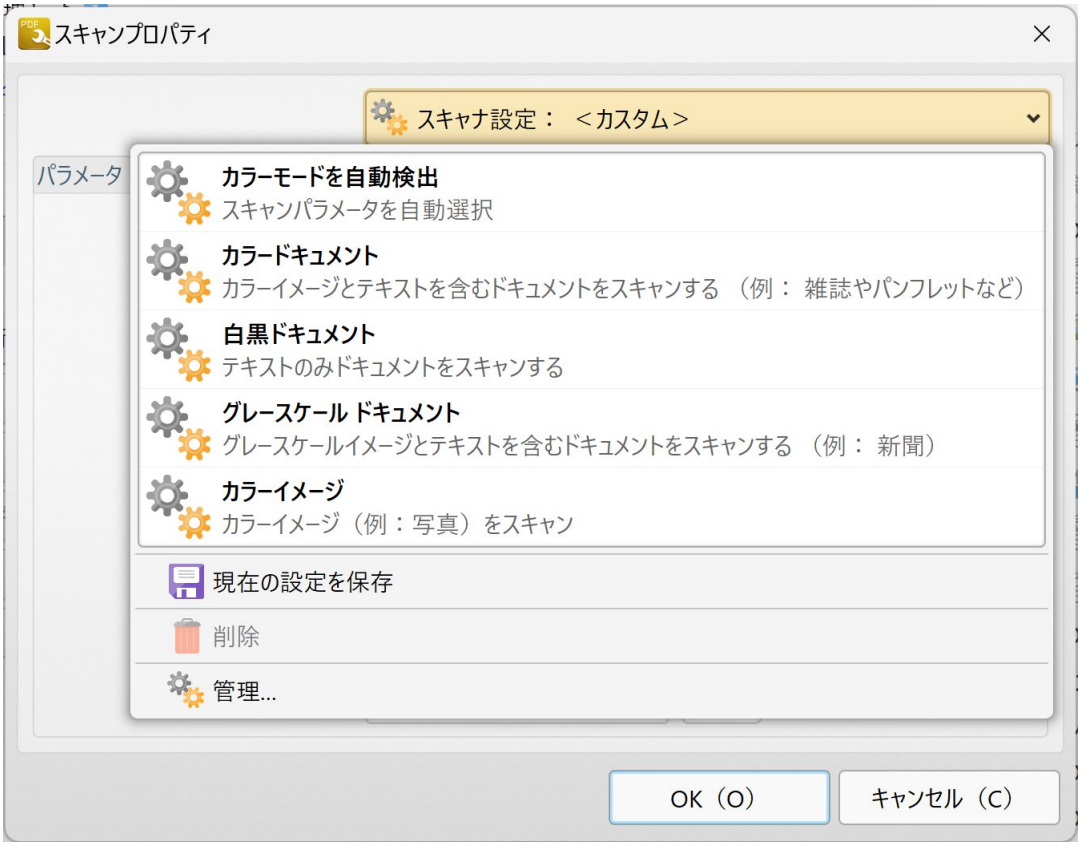

図 3. [スキャナ設定]ドロップダウンメニュー・オプション

- 必要に応じて定義済みのモードを選択します。
- **現在の設定を保存** ここをクリックして、現在の設定をプロファイルとして保存し、後で使用できるようにします。
- **削除** 選択したプロファイルを削除します。ただし、このオプションは、カスタマイズされたプロファイルでのみ使用できます。
- **管理** プリセットまたはカスタマイズされたプロファイルを管理します。**プリセット管理**のダイアログボックスが開きます。

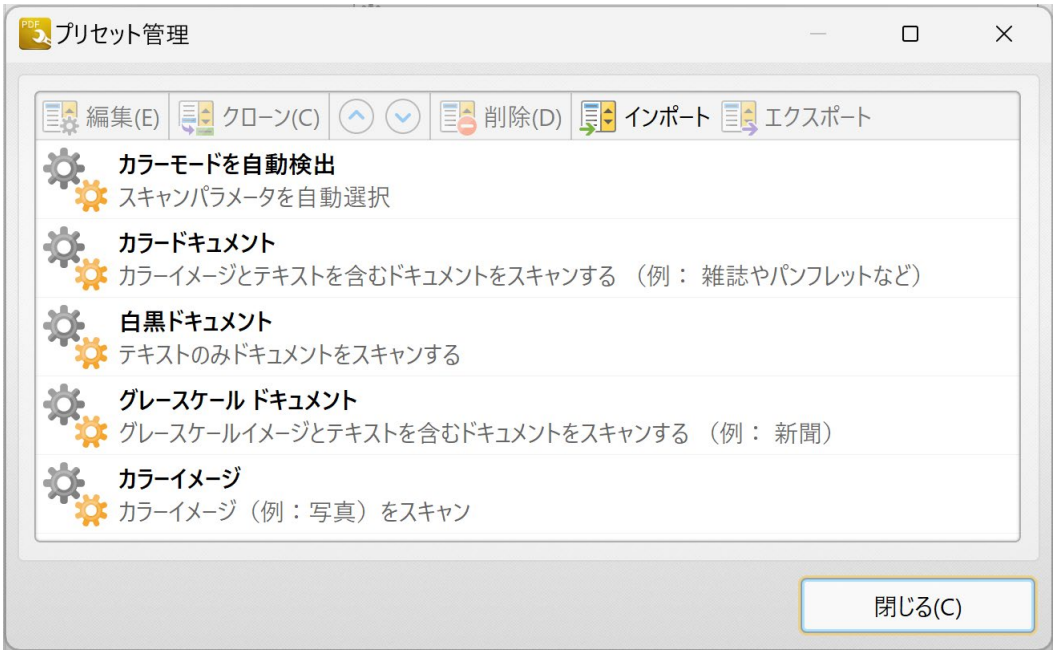

図 4. [プリセット管理]ダイアログボックス

- **編集**　選択したプロファイルを編集します。ただし、このオプションは、カスタマイズされたプロファイルでのみ使用できます。
- **複製**　選択したプロファイルを複製します。このオプションを使用すると、デフォルトの状態ではカスタマイズできないプリセット・プロファイルの設定をカスタマイズできます。
- 上下の矢印を使用して、選択したプロファイルをリスト内で上下に移動します。
- **削除**　選択したプロファイルを削除します。ただし、このオプションは、カスタマイズされたプロファイルでのみ使用できます。
- **インポート**　保存したファイルからプロファイルをインポートします。
- **エクスポート**　プロファイルをファイルにエクスポートします。

7-1-5. ドキュメントを分割/結合

ドキュメントを分割/結合のアクションは、単一のドキュメントを複数の小さなドキュメントに分割したり、複数のドキュメントを1つのファイルに結合したりします。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

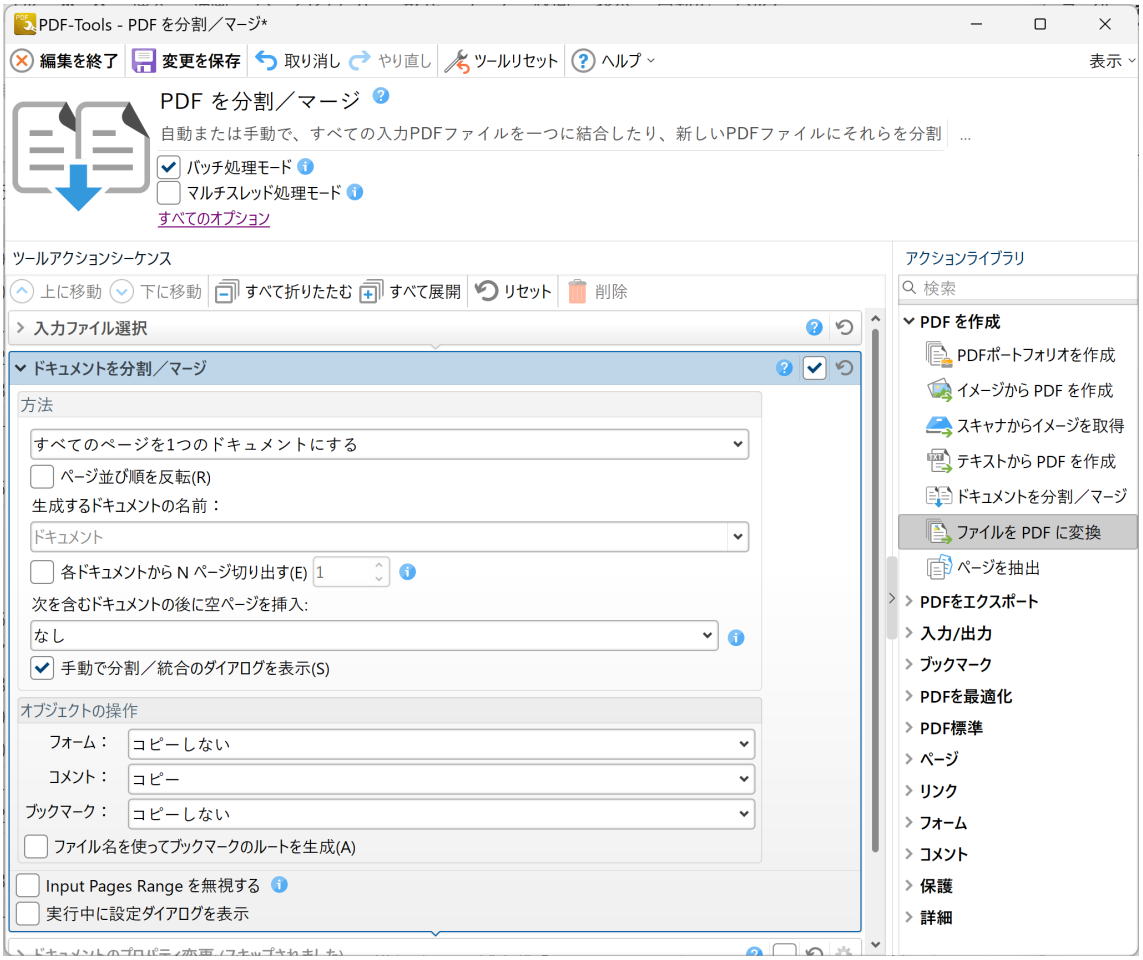

図 1. [ドキュメントを分割/結合]のアクション・オプション

- **方法**　ページの分割/結合方法を決定します。
  - ドロップダウンメニューでオプションを選択して、分割/結合のモードを決定します。

- **すべてのページを 1 つのドキュメントにする**　すべての入力ページを 1 つのドキュメントに結合します。
- **N ページごとに別々のドキュメントにする**　入力ドキュメントが n ページの小さなドキュメントに分割されます。隣接する数値ボックスに n の値を入力します。たとえば、9 ページのドキュメントが選択され、n の値が 3 の場合、1～3 ページ、4～6 ページ、7～9 ページというように、3 ページのドキュメントが3つ作られます。
- **入力ドキュメントを保持**　入力ドキュメントの元の形式が保持されます。
- **上位ブックマークで分割**　上位ブックマークとして定義される小さなドキュメントに入力ドキュメントを分割します。このオプションを選択すると、**生成するドキュメントの名前**のドロップダウンメニューからが表示されます。ドロップダウンメニューからオプションを選択して、ドキュメント名のソースを決定します。

- **ページの順序を逆転**　ボックスを選択して、入力ドキュメントのページの順序を逆にします。
- **生成されたドキュメントの名前**　テキストボックスを使用して、生成されたドキュメントの名前を指定します。ドロップダウン矢印をクリックすると、必要に応じてマクロを含めることができます。
- **N ページごとに差し込む**　ボックスを選択して、結合された別のドキュメントを差し込みます。隣接する数値ボックスを使用して、差し込みを行うページ間隔を指定します。
- **空白ページをこの後に挿入**　ドロップダウンメニューから、出力ドキュメントに空白ページを挿入します。各オプションは次のとおりです。
  - **なし**　この機能を無効にします。
  - **奇数ページ**　出力ドキュメントの奇数ページの最後に空白ページが挿入されます。
  - **偶数ページ**　出力ドキュメントの偶数ページの最後に空白ページが挿入されます。
- **手動で分割/結合のダイアログを表示**　ツールの実行時に**手動でドキュメントを分割/結合**のダイアログボックスを開くようにします。このダイアログボックスは、ページの順序変更、追加、削除、そして出力ドキュメントのプレビューに使用されます。

- **オブジェクトに対するアクション**　入力ドキュメント内のオブジェクトに対するアクションを決定します。

- **フォームフィールド、コメント、ブックマーク** ドロップダウンメニューからそれぞれについての各オプションを選択して、それらのオブジェクトに対して実行されるアクションを決定します。
- **ファイル名からルート・ブックマークを追加** ボックスを選択して、出力ドキュメントにルート・ブックマークを追加します。入力ファイルのファイル名がブックマークのタイトルとして使用されます。

- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**ドキュメントを分割/結合の**ダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ドキュメントを分割/結合**ダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が常に使用される場合に便利な仕様です。

変更を保存 をクリックして、変更を保存します。

7-2. [PDF エクスポート]アクション

[PDF エクスポート]アクションは、PDF ドキュメントと画像をコピーおよび別の形式に変換します。

- **PDF を画像にエクスポート** PDF ドキュメントをコピーし、それらをビットマップイメージ(ラスターイメージ)に変換します。
- **PDF を Microsoft Excel スプレッドシートにエクスポート** PDF ドキュメントをコピーし、**Microsoft Excel (.xlsx)** 形式に変換します。
- **PDF を Microsoft PowerPoint プレゼンテーションにエクスポート** PDF ドキュメントをコピーして、**Microsoft PowerPoint プレゼンテーション (*.pptx)** 形式に変換します。
- **PDF を Microsoft Word ドキュメントにエクスポート** PDF ドキュメントをコピーし、**Microsoft Word (.docx)** 形式に変換します。
- **PDF をプレーンテキストにエクスポート** PDF ドキュメントをコピーし、プレーンテキスト(*.txt)形式に変換します。
- **添付ファイルを抽出** ドキュメントから添付ファイルを抽出します。
- **PDF から画像を抽出** PDF ドキュメント内の画像をコピーし、それらをファイルとして保存します。
- **PDF からオーディオにエクスポート** PDF ドキュメント内のテキストをオーディオファイル形式にコピーします。

7-2-1. PDF を画像にエクスポート

PDF を画像にエクスポートのアクションは、PDF ドキュメントをコピーし、ビットマップイメージに変換します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

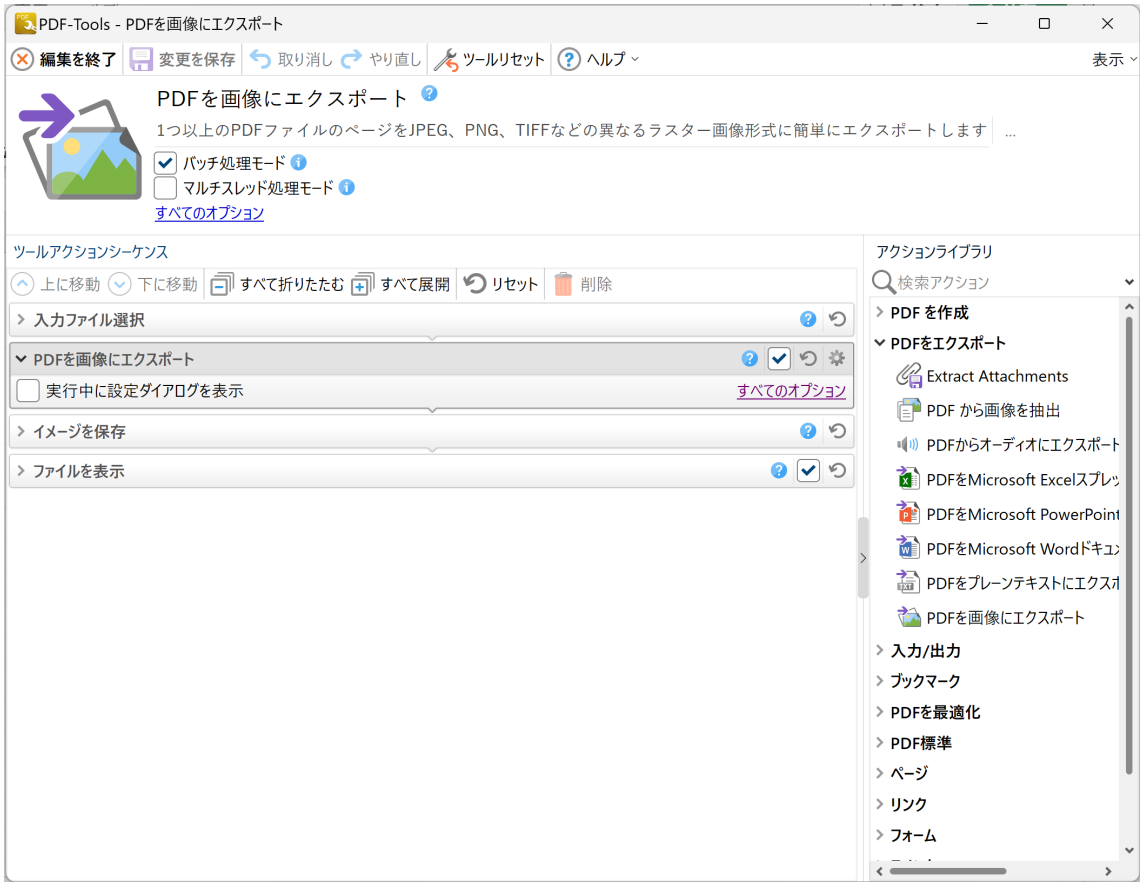

図 1. [PDF を画像にエクスポート]のアクションオプション

- **すべてのオプション**　抽出されたページの変換オプションを決定します。 以下で説明するように、**画像にエクスポート**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　チェックボックスを選択して**画像にエクスポート**ダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズ

します。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**画像にエクスポート**ダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定を継続して使用する場合に便利な仕様となります。

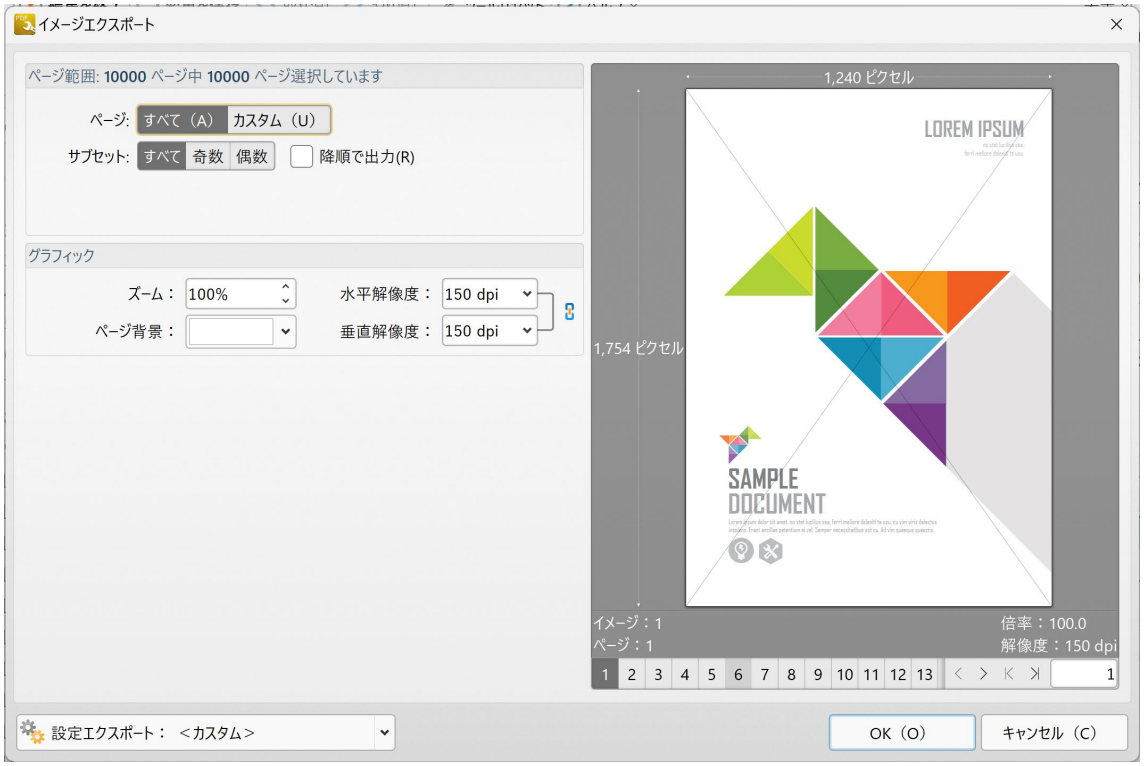

図 2. [画像にエクスポート]ダイアログボックス

- **ページ範囲**　画像形式にエクスポートするページの範囲を決定します。ページ範囲オプションの詳細については、**こちら**を参照してください。
- **グラフィック**　エクスポートされたグラフィック画像の設定を決定します。
  - **ズーム**　数値ボックスを使用して、ページのエクスポート時に使用されるズームのレベルを決定します。
  - **ページ背景**　ドロップダウンメニューから、エクスポートされたページの背景色を決定します。
  - **解像度**　数値ボックスを使用して、エクスポートされたページの水平方向と垂直方向の解像度を決定します。
- **エクスポート設定**　ドロップダウンメニューから、下記のようにカスタム・プロファイルを保存/管理/削除します。

図 3. [画像にエクスポート]ダイアログボックス、カスタム・プロファイル

- **現在の設定を保存**　後で使用するためにカスタム設定を保存します。保存されたプロファイルの詳細は、**エクスポート設定**のドロップダウンメニューから見ることができます。
- **削除**　選択したプロファイルを削除します。
- **管理**　保存されたカスタム設定を管理します。 以下で説明するように、**プリセット管理**のダイアログボックスが開きます。

OK をクリックして変更を保存します。

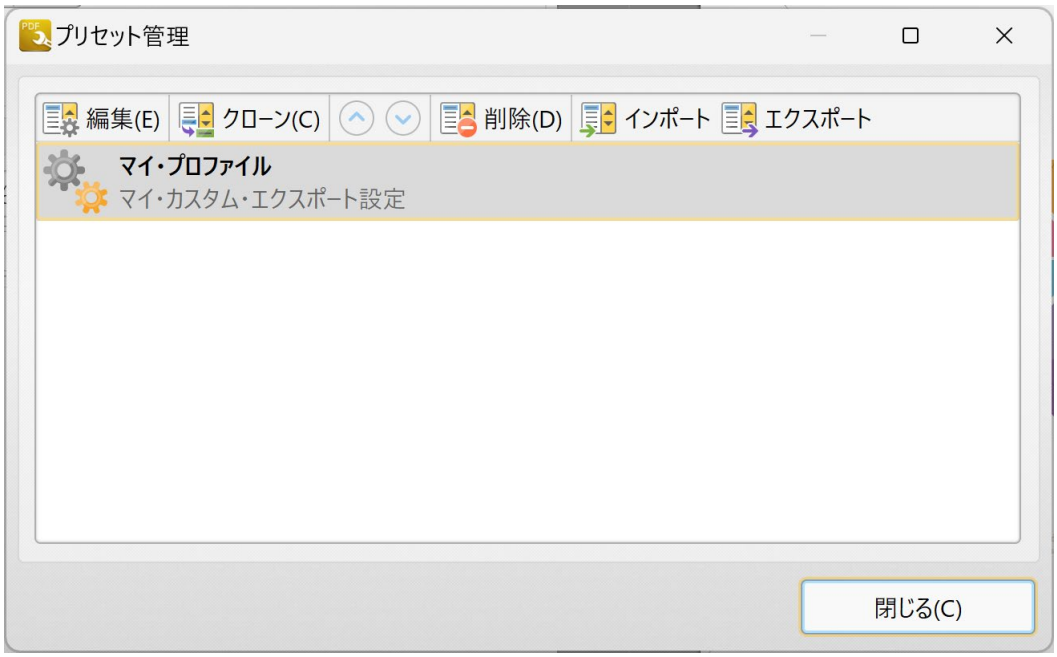

図 4. [プリセット管理]ダイアログボックス

- **編集**　選択したプロファイルを編集します。
- **複製**　選択したプロファイルを複製します。ここではプロファイルを複製して、既存のプロファイルとそのパラメータを保持しながら設定をカスタマイズすることができます。
- 上矢印と下矢印を使用して、選択したプロファイルをリスト内で上下に移動します。
- **削除**　選択したプロファイルを削除します。
- **インポート**　保存したファイルからプロファイルをインポートします。
- **エクスポート**　プロファイルをファイルにエクスポートします。

7-2-2. PDF を Microsoft Excel スプレッドシートにエクスポート

PDF を Microsoft Excel スプレッドシートにエクスポートのアクションは、PDF ドキュメントをコピーして **Microsoft Excel (*.xlsx)** 形式に変換します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

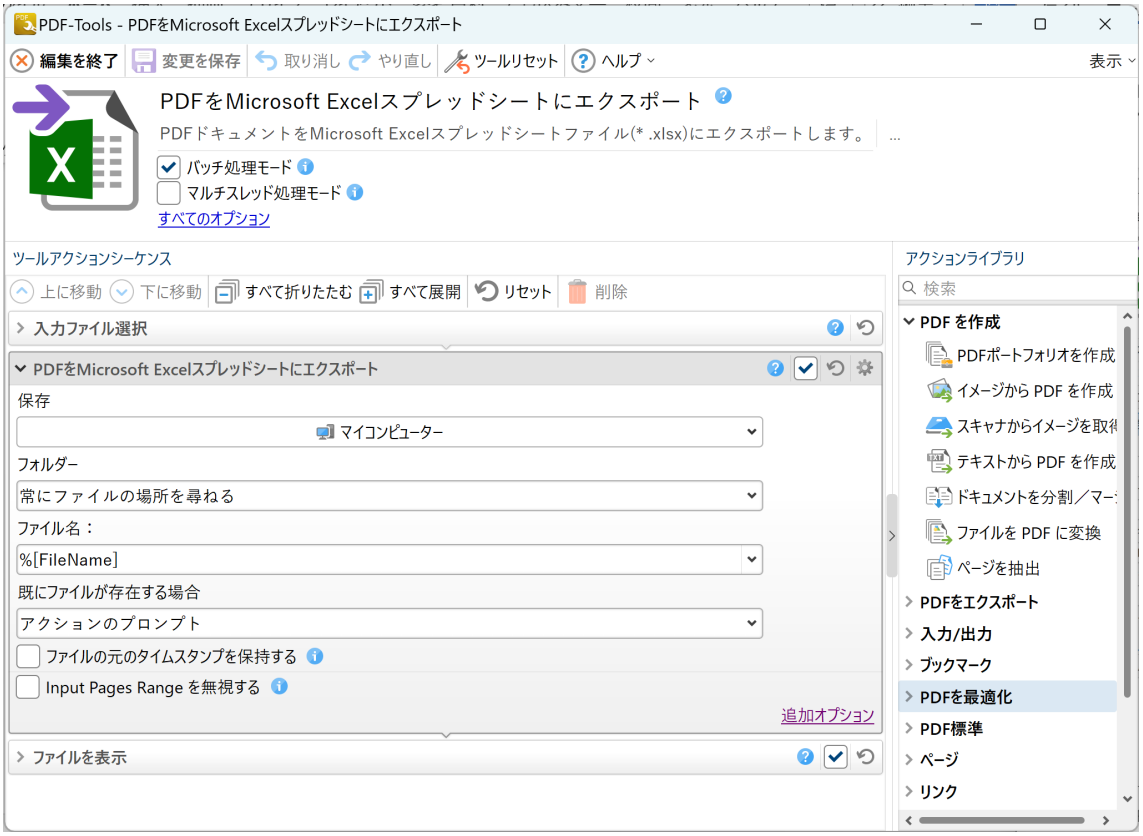

図 1. [PDF を Microsoft Excel スプレッドシートにエクスポート]アクション・オプション

- **保存先** ドロップダウンメニューを使用して、出力ファイルの保存先を決定します。
  - **マイコンピューター** ローカルのコンピューターにファイルを保存します。
  - **場所を追加** ここにカーソルを合わせてファイルを保存する新しい場所を追加し、**Box.com**、**Dropbox**、**Google ドライブ**、**OneDrive** または **SharePoint** をクリックして、それらの場所からアカウントを追加します。 **PDF-Tools** が選択したア

カウントのログイン情報の入力を求めてきます。情報を入力した際は、アカウント詳細がリストに表示されるので、必要な場合はファイルを保存するためにアカウントの利用ができます。

- **フォルダ** ドロップダウンメニューから、変換されたファイルの保存先を決定します。
  - **常にファイルの場所を求める** アクションが使用されるたびに保存先を選択するように求められます。
  - **元のフォルダを保存先として使用** 入力ファイルのある元のフォルダを保存先として使用します。
  - **指定されたカスタム・フォルダを使用** 保存先フォルダを指定できます。このオプションを使用する場合は、ドロップダウンメニューの下のテキストボックスでフォルダの場所を指定する必要があります。
- **ファイル名：** テキストボックスを使用して、出力ファイルに名前を付けます。デフォルト名は、元ファイルの名前を使用するマクロの**%[FileName]**によって定義されます。ドロップダウン矢印をクリックして、**マクロ**を追加します。
- **既にファイルが存在する場合** ドロップダウンメニューから、ファイル名が既に使用されているときに実行されるアクションを決定します。
  - **アクションのプロンプト** ユーザーに実行するアクションの入力を求めます。
  - **新しいファイルで上書き** 既存のファイルが新しいファイルで上書きされます。
  - **既存のファイルを変更しない** 既存のファイルは保持され、新しいファイルは保存されません。
  - **別名で新規保存** ファイル名の先頭にプレフィックスを挿入し、新しいファイルを保存します。
- **その他のオプション** その他のオプションについてはここをクリックします。**Microsoft Excel ファイル**のダイアログボックスが開きます。

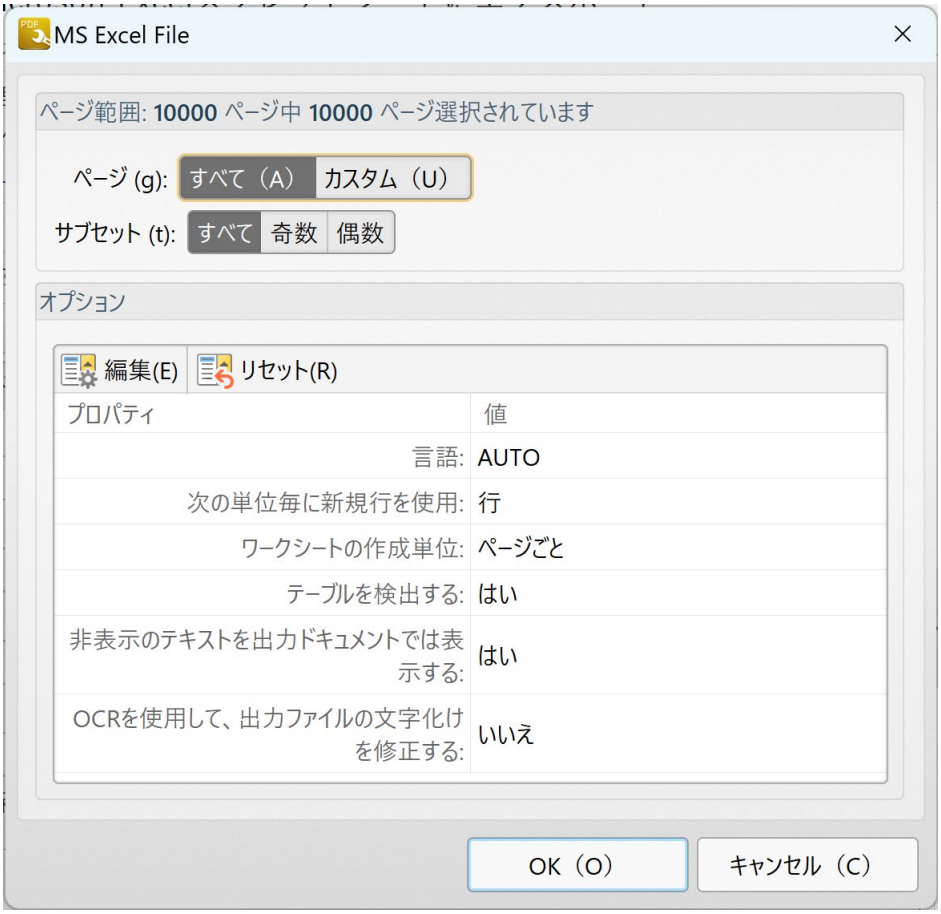

図 2. [Microsoft Excel ファイル] ダイアログボックス

Microsoft Excel 形式にファイルをエクスポートするための現在の設定は、ダイアログボックスで詳しく説明されます。

- **ページ範囲** このオプションを使用して、ページを **Microsoft Excel** 形式にエクスポートするページ範囲を決定します。ページ範囲のオプションの詳細については、**こちら**を参照してください。
- **編集** エクスポート設定を編集します。ここから**オプション**のダイアログボックスが開きます。

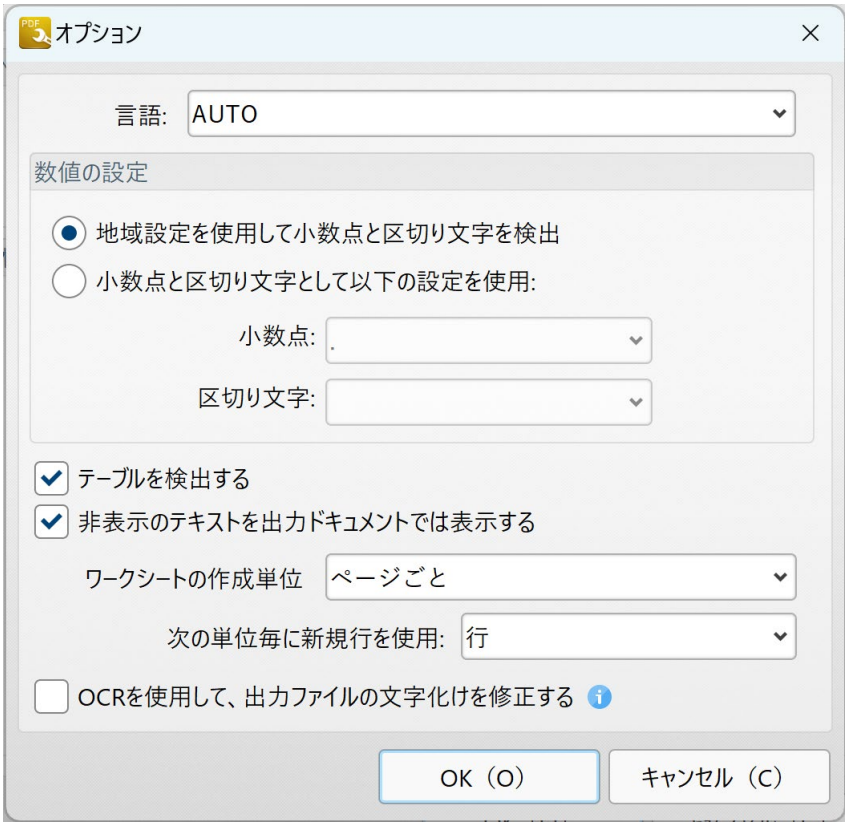

図 3. [オプション]ダイアログボックス

- **言語** ドロップダウンメニューから、元のドキュメントの言語を指定します。この設定は、ドキュメント・テキストのエンコーディングが正しくなく、正しいユニコードを決定するために OCR を使用する場合に必要です。 **自動**はデフォルトの設定であり、言語は使用時のドキュメントのプロパティから取得されます。
- **数値の設定** 小数点として使用される記号、そして 1000 以上の数値については千単位を示す記号の決定をします。
  - **地域設定を使用して小数点と千単位の区切り記号を検出** 小数点と千単位の区切り記号で地域設定を使用する場合は、これを選択します。
  - **小数点と千単位の区切り記号として以下の設定を使用** これを選択して、これらの関数のピリオドまたはカンマを指定し、ドロップダウンメニューで利用したいオプションを選択します。
- **透明テキストを出力ドキュメントに表示する** 透明テキストを出力ドキュメント内で見える状態に変換します。
- **ワークシートの作成単位** ドロップダウンメニューから選択して、ドキュメントの出力オプションを決定します。
  - **ページごと** 入力ドキュメントの各ページのワークシートを作成する際に選択します。

- **ドキュメントを一つのシートにする** 元ドキュメントを単一のワークシートにエクスポートします。
- **次の単位ごとに新規の行を使用** ドロップダウンメニューから段落または行を選択して、出力ドキュメントでどのように行を作成するか決めます。**段落**を選択すると、元ファイル内の各段落が出力ドキュメントの新しい行に変換されます。**行**を選択すると、元ファイルの各行が出力ドキュメントの新しい行に変換されます。

OK をクリックして変更を保存します。

この機能を動作させるには、**Microsoft Office** がローカルのコンピューターにインストールされている必要があり、**XPS として保存する**機能も、使用している **Microsoft Office** のバージョンで利用できる状態である必要があります。この機能は、**Microsoft Office 2007** で追加されたものとなっています。

7-2-3. PDF を Microsoft Word ドキュメントにエクスポート

PDF を Microsoft Word ドキュメントにエクスポートのアクションは、PDF ドキュメントをコピーし、それを **Microsoft Word ドキュメント（*.docx）** 形式に変換します。**（*.docx)**形式にエクスポートされたファイルは、**Microsoft Word 2010** 以降と互換性があります。このアクションには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

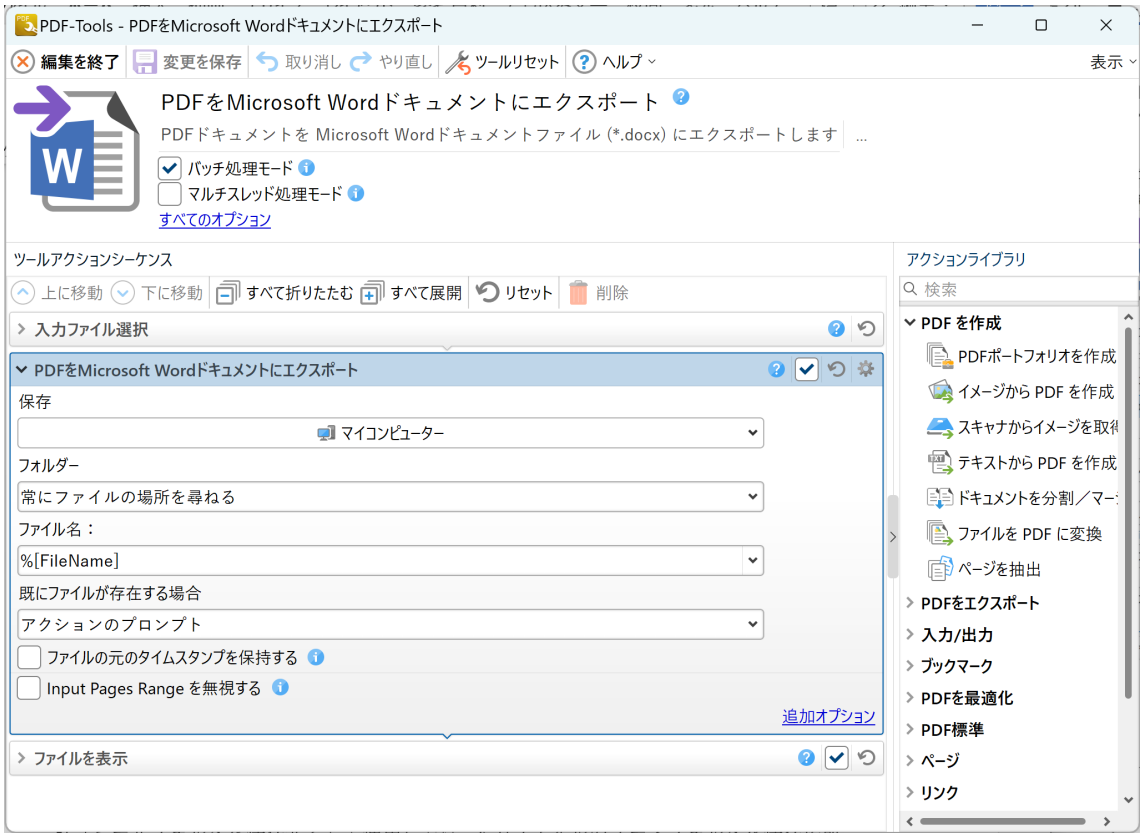

図 1. [PDF を Microsoft Word ドキュメントにエクスポート]アクションオプション

- **保存** ドロップダウンメニューから出力ファイルの保存場所を決定します。
  - **マイコンピューター** ローカルのコンピューターにファイルを保存します。
  - **場所を追加** カーソルを合わせてファイルを保存する新しい場所を追加し、**Box.com**、**Dropbox**、**Google ドライブ**、**OneDrive** または **SharePoint** をクリック

して、いずれかの場所からアカウントを追加します。**PDF-Tools** が、選択したアカウントのログイン情報の入力を求めます。この情報が入力されると、アカウントの詳細がリストに表示されるので、必要に応じてファイル保存用に使用できます。

- **フォルダ** ドロップダウンメニューから、変換されたファイルの保存先を決定します。
  - **常にファイルの場所を求める** アクションが使用されるたびに保存先を選択するように求められます。
  - **元のフォルダを保存先として使用** 入力ファイルのある元のフォルダを保存先として使用します。
  - **指定されたカスタム・フォルダを使用** 保存先フォルダを指定できます。このオプションを使用する場合は、ドロップダウンメニューの下のテキストボックスでフォルダの場所を指定する必要があります。
- **ファイル名：** テキストボックスを使用して、出力ファイルに名前を付けます。デフォルト名は、元ファイルの名前を使用するマクロの**%[FileName]**によって定義されます。ドロップダウン矢印をクリックして、**マクロを追加します。**
- **既にファイルが存在する場合** ドロップダウンメニューから、ファイル名が既に使用されているときに実行されるアクションを決定します。
  - **アクションのプロンプト** ユーザーに実行するアクションの入力を求めます。
  - **新しいファイルで上書き** 既存のファイルが新しいファイルで上書きされます。
  - **既存のファイルを変更しない** 既存のファイルは保持され、新しいファイルは保存されません。
  - **別名で新規保存** ファイル名の先頭にプレフィックスを挿入し、新しいファイルを保存します。
- **その他のオプション** その他のオプションについてはここをクリックします。**Microsoft Word ファイル**のダイアログボックスが開きます。

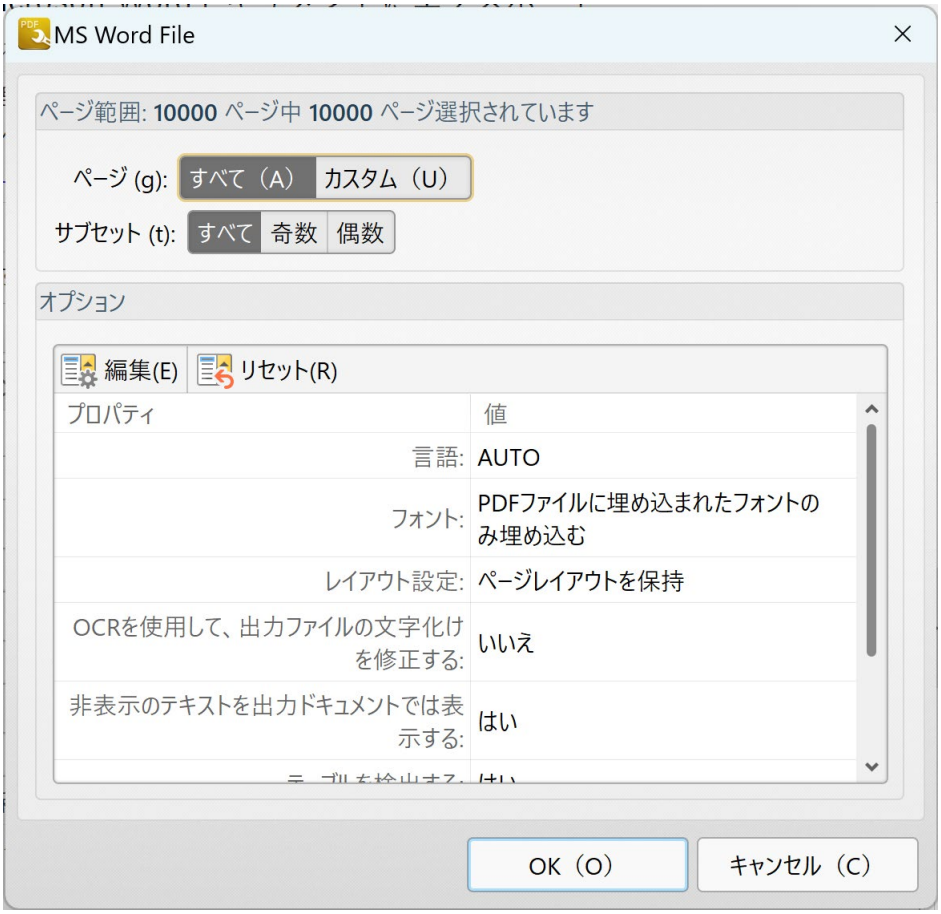

図 2. [Microsoft Word ファイル]ダイアログボックス

Microsoft Word 形式にファイルをエクスポートするための設定は、ダイアログボックスで詳しく説明されます。

- **ページ範囲** このオプションを使用して、ページを **Microsoft Word** 形式にエクスポートするページ範囲を決定します。ページ範囲のオプションの詳細については、**こちらを参照してください。**
- **編集** エクスポート設定を編集します。ここから**オプション**のダイアログボックスが開きます。

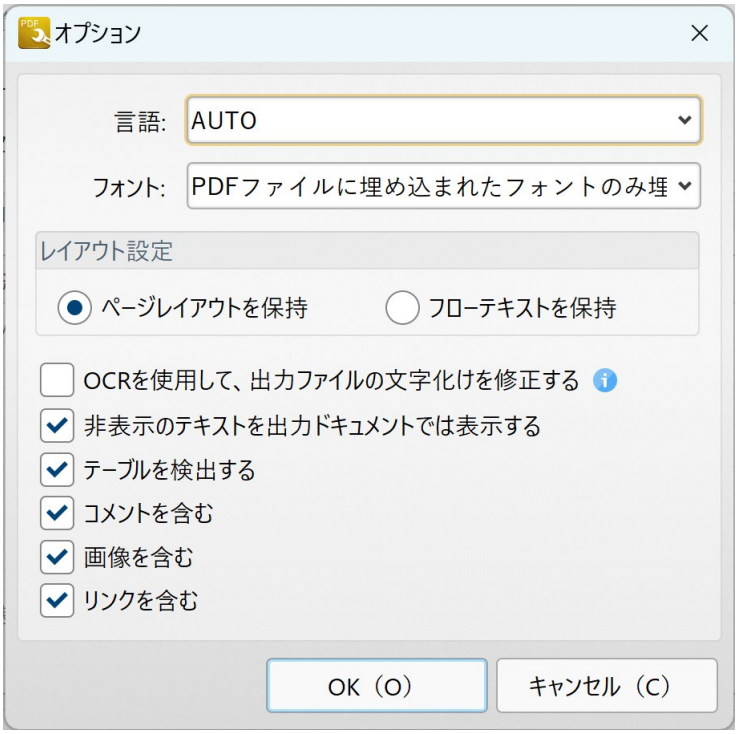

図 3. [オプション]ダイアログボックス

- **言語** ドロップダウンメニューから元ドキュメントの言語を指定します。この設定は、ドキュメントのテキストのエンコーディングが正しくなく、正しいユニコードを決定するために OCR が使用される場合に必要です。 **自動**はデフォルトの設定であり、使用時のドキュメント・プロパティから、言語が取得されます。
- **フォント** ドロップダウンメニューから出力ドキュメント内の埋め込みフォント・オプションを決定します。
  - **PDF ファイルに埋め込まれたフォントのみ埋め込む** 元ドキュメントの埋め込みフォントを出力ドキュメントに埋め込みます。
  - **埋め込まない** 出力ドキュメントへのフォントの埋め込みを除外するには、このオプションを選択します。
- **レイアウト設定** エクスポートされたドキュメントのレイアウト設定を決定します。
- 必要に応じて、**ページレイアウトを保持**ボタンまたは**フローテキストを保持**のボタンを選択します。**ページレイアウトを保持**では、各ページの後に改ページが追加され、また同じ段落内の他の行よりも短い行に対しては改行が追加されます。**フローテキストを保持**は、テキストの流れがページレイアウトよりも優先され、テキストが複数の列に渡る場合、テキストは折り返されます。
- **透明テキストを出力ドキュメントに表示する** 透明テキストを出力ドキュメント内で見える状態に変換します。

- **コメントを含む**　ボックスのオン/オフで、変換プロセスにコメントを含むか否かを設定します。
- **画像を含む**　ボックスのオン/オフで、変換プロセスに画像を含むか否かを設定します。
- **リンクを含む**　ボックスのオン/オフで、変換プロセスにリンクを含むか否かを設定します。

OK をクリックして変更を保存します。

この機能を動作させるには、**Microsoft Office** がローカルのコンピューターにインストールされている必要があり、**XPS として保存する**機能も、使用している **Microsoft Office** のバージョンで利用できる状態である必要があります。この機能は、**Microsoft Office 2007** で追加されたものとなっています。

7-2-4. 添付ファイルを抽出

添付ファイルを抽出のアクションでは、ドキュメントから添付ファイルを抽出します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

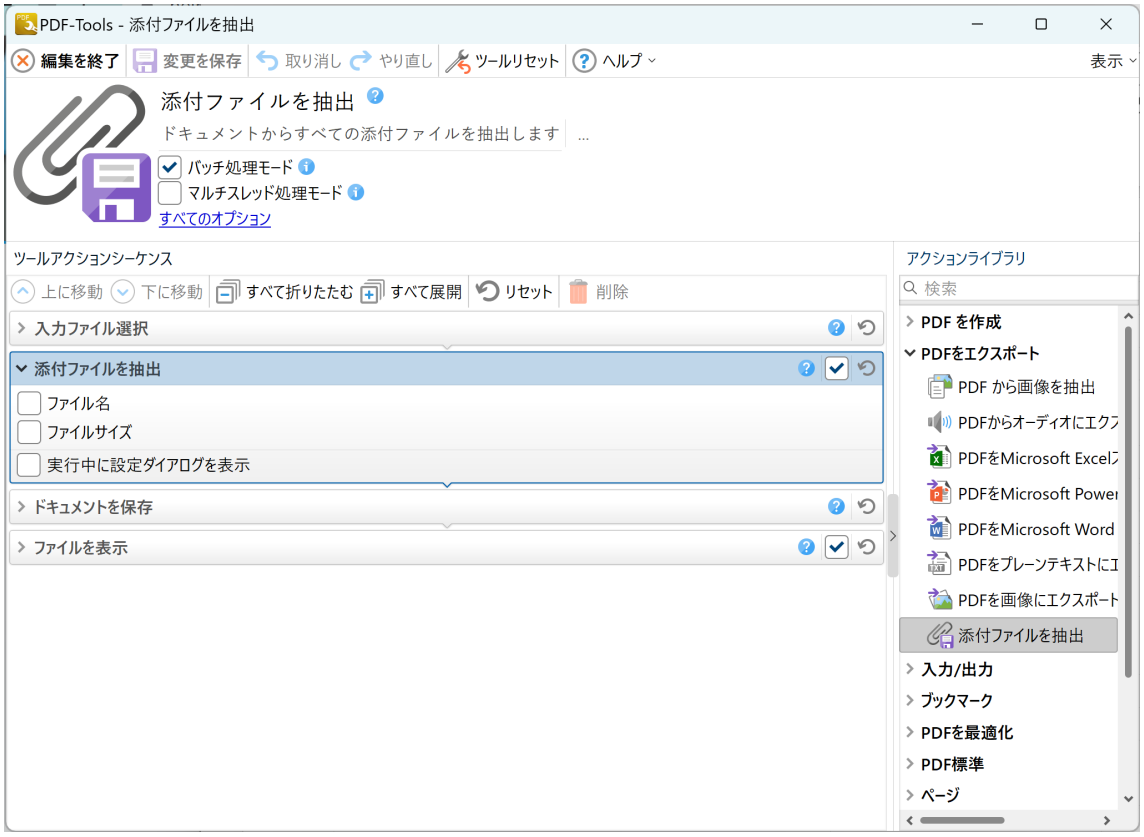

図 1. [添付ファイルを抽出]アクションオプション

- **ファイル名** ボックスを選択して、抽出する添付ファイルのファイルマスクを指定します。ファイルマスクとは、固定された文字パターンで、その後にファイルマスクの終わりを指定するワイルドカードが続きます。アスタリスクまたは疑問符を使用して、このアクションのマスクの指定ができます。アスタリスクは、0 個以上の任意の文字に一致します。たとえば、多数の添付ファイルを含むドキュメントでこのアクションを使用していて、プレフィックス ″test″ で始まる添付ファイルのみを抽出する場合

は、″test*″ というファイルマスクを入力すれば、それらの添付ファイルのみを抽出することができます。または、PDF 形式のファイルのみを抽出するように指定する場合は、ファイルマスク を″*.pdf″とします。疑問符を使用すると任意の 1 文字に一致させることができます。たとえば、ファイルマスクが″201 ″ では、ファイル名にプレフィックスの '201' が続き、その後に 1 文字だけが続く添付ファイルのすべてを抽出します。複数のマスクを指定する必要がある場合は、マスク間にセミコロンを使用する必要があります。

- **ファイルサイズ** ボックスを選択して、抽出する添付ファイルのサイズ範囲を指定します。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して**添付ファイルを抽出**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**添付ファイルを抽出**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

OK をクリックして変更を保存します。

7-2-5. PDF から画像を抽出

PDF から画像を抽出のアクションは、PDF ドキュメントから画像をコピーし、ファイルに保存します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

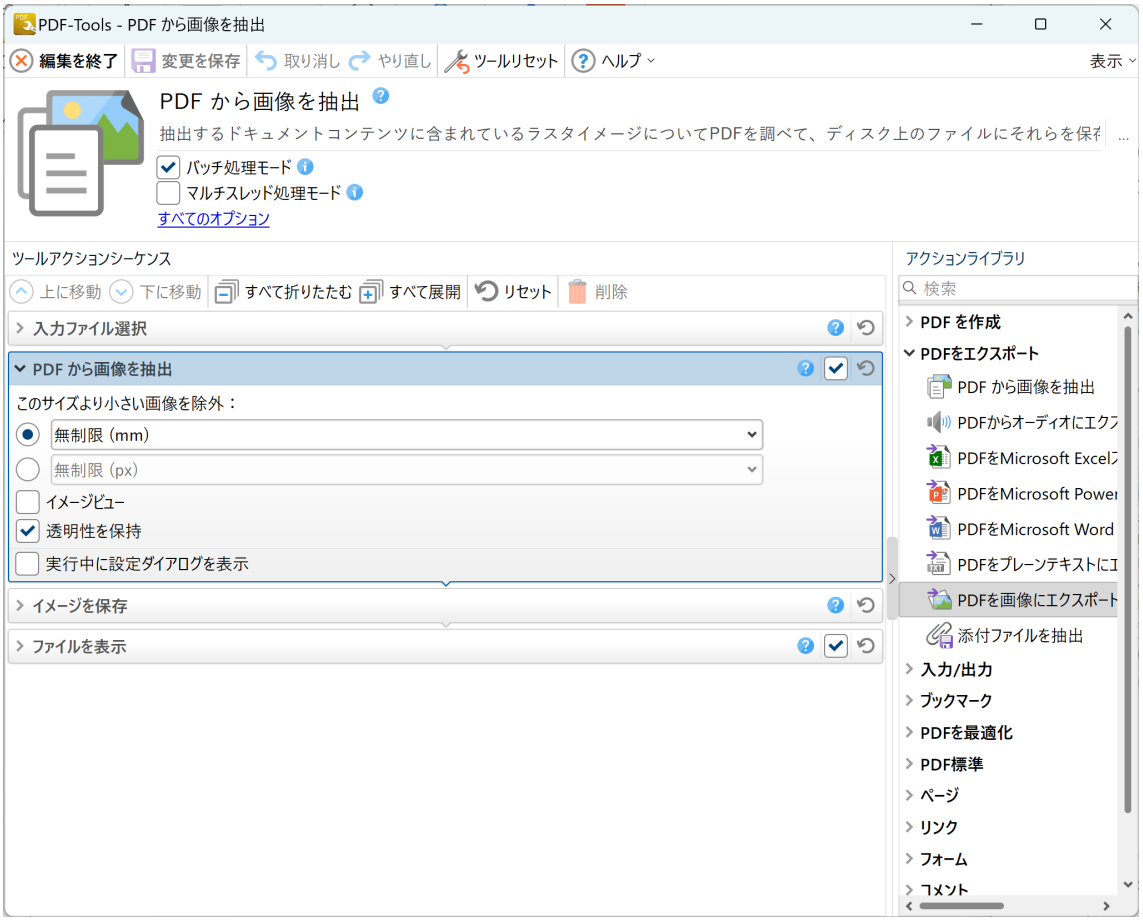

図 1. [PDF から画像を抽出]アクションオプション

- **このサイズより小さい画像を除外** ドロップダウンメニューから、抽出された画像の最小サイズを指定するか、テキストボックスに任意のサイズを入力します。
- **実際の画像** ボックスを選択して、元のドキュメントに表示されるとおりに画像を保存します。
- **透明度を保持** ボックスを選択して、画像の透明度を維持します。

- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**PDF から画像を抽出**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、**PDF から画像を抽出**のダイアログボックスはアクション使用のたびに開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更の保存 をクリックして、変更を保存します。

7-3. 入力/出力アクション

入力/出力のアクションは、ツールの実行時に入出力プロセスのパラメータを決定します。

- **入力ファイル選択** 他のツールアクションと組み合わせて使用するための入力ファイルの選択をユーザーに求めます。
- **ドキュメントを保存** 出力ドキュメントの保存オプションを決定します。
- **画像を保存** 出力画像の保存オプションを決定します。
- **メールを送信** ユーザーのデスクトップの電子メール・クライアントを介して出力ドキュメント/画像を送信します。
- **ファイルを表示** 出力ドキュメントを表示します。

7-3-1. 入力ファイル選択

入力ファイル選択のアクションは、**PDF-Tools** の他のアクションと組み合わせて使用するファイルを供給するために使います。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

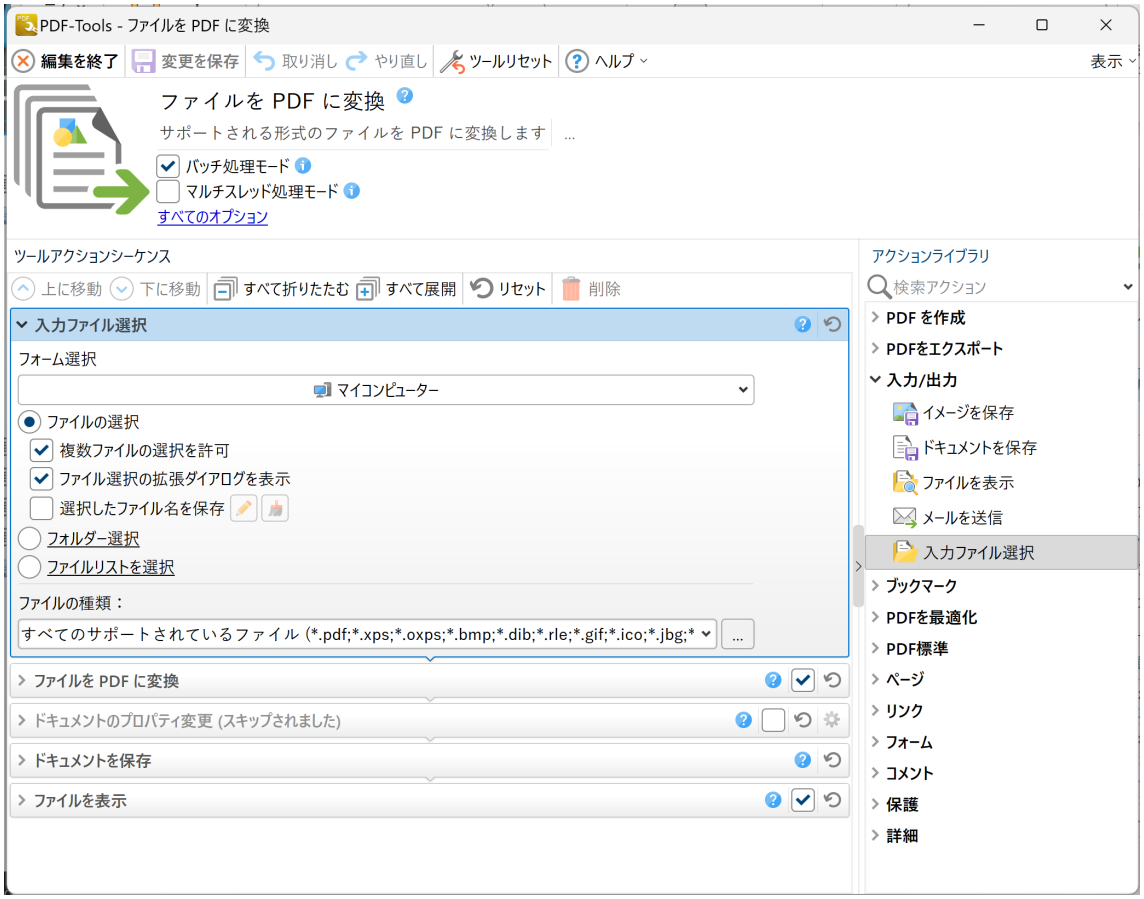

図 1. [入力ファイル選択]アクションオプション

- **選択元** ドロップダウンメニューから、元となるファイルの取得元を決定します。
  - **マイコンピューター** ローカルのコンピューターのファイルを使用の際にクリックします。

- **場所を追加**　カーソルを合わせてファイルを取得する新しい場所を追加し、**Box.com**、**Dropbox**、**Google ドライブ**、**OneDrive** または **SharePoint** をクリックして、いずれかの場所からアカウントを追加します。**PDF-Tools** は、選択したアカウントのログイン情報の入力を求めます。この情報が入力されると、アカウントの詳細がリストに表示されるので、必要に応じてファイル供給用に使用できます。

- **ファイルの選択**　個々の入力ファイルをソースとして取得します。このオプションを選択すると、次のオプションを使用できます。
  - **複数のファイルの選択を許可**　ボックスを選択して、複数のファイルの選択を有効にします。
  - **ファイル選択の拡張ダイアログを表示**　ボックスを選択すると、このアクションが使用されるたびに**入力ファイル選択**のダイアログボックスが起動します。**入力ファイル選択**のダイアログボックスの詳細については、**(図4)**を参照してください。これは入力ファイルを表示、編集、並べ替えのために使用されます。**ファイル選択の拡張ダイアログを表示**のボックスをオフにすると、**入力ファイル選択**のダイアログボックスはアクション使用のたびに開かなくなります。
  - **選択したファイル名を保存**　ボックスを選択して、次回ツールを実行するときのために使用した入力ファイルの記録を作成します。これらのファイルは、その後のツール実行時に自動的に追加されます。鉛筆アイコンをクリックすると保存ファイルを表示/編集することができ、ブラシアイコンをクリックすると保存ファイルを削除することができます。ただし、このオプションで次回使用のためにファイルが保存されている場合、ツールを使って別のファイルを選択することはできません。

- **フォルダ選択**　1 つのフォルダのすべてのファイルを入力ファイルとして供給します。この設定のパラメータの詳細については、**(図 3)**を参照してください。

- **ファイルリストを選択**　ファイルのリストからファイルを供給します。ただし、このオプションに対応させるためには、ファイルを拡張子 **(*.pdtfl)** で保存する必要があります。リストのファイルは、**メモ帳**(Microsoft Windows のテキストエディタ)などで作成でき、以下の **(図 2)** に示すように、元となるファイルの一覧のみを含むものである必要があります。フォルダパスも使用できます。

- **ファイルの種類**　ドロップダウンメニューからオプションを選択して、**入力ファイルを選択**のアクションで許可されるファイルの種類を決定します。「…」のアイコンをクリックして、**利用可能なファイル・フィルタ**を表示/編集します。

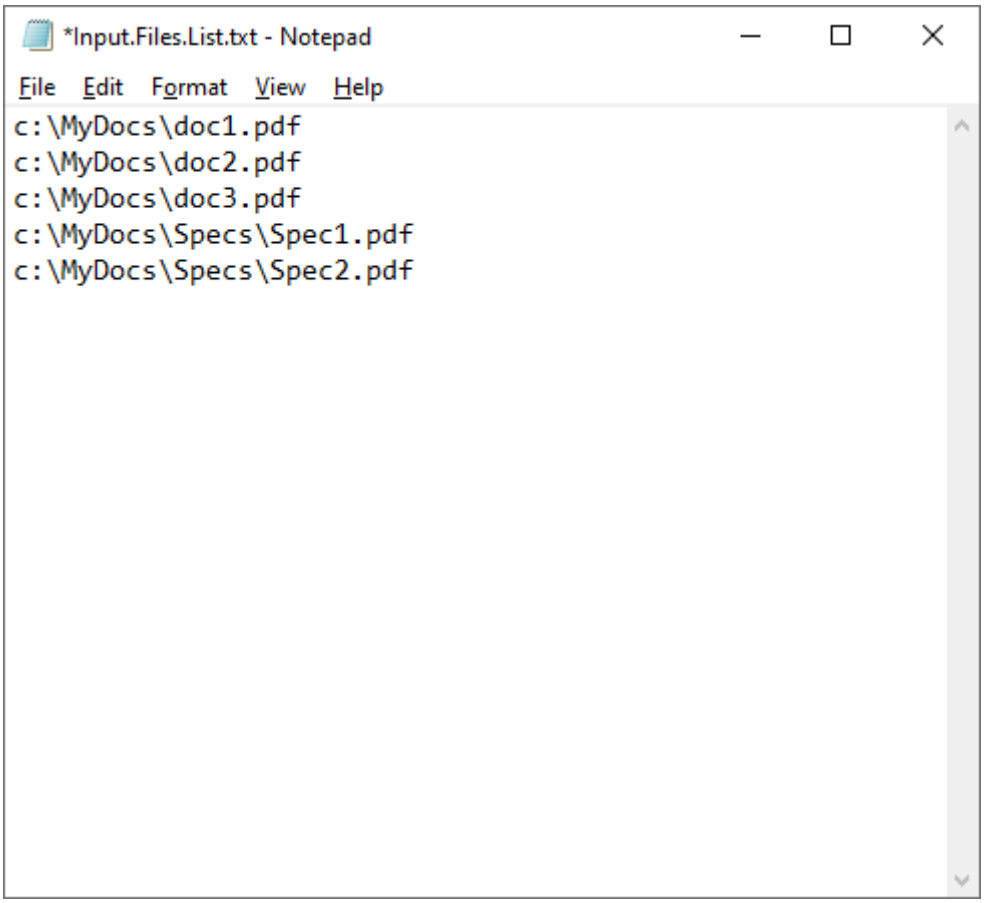

図 2. サンプルファイルリスト

[フォルダ選択]オプション

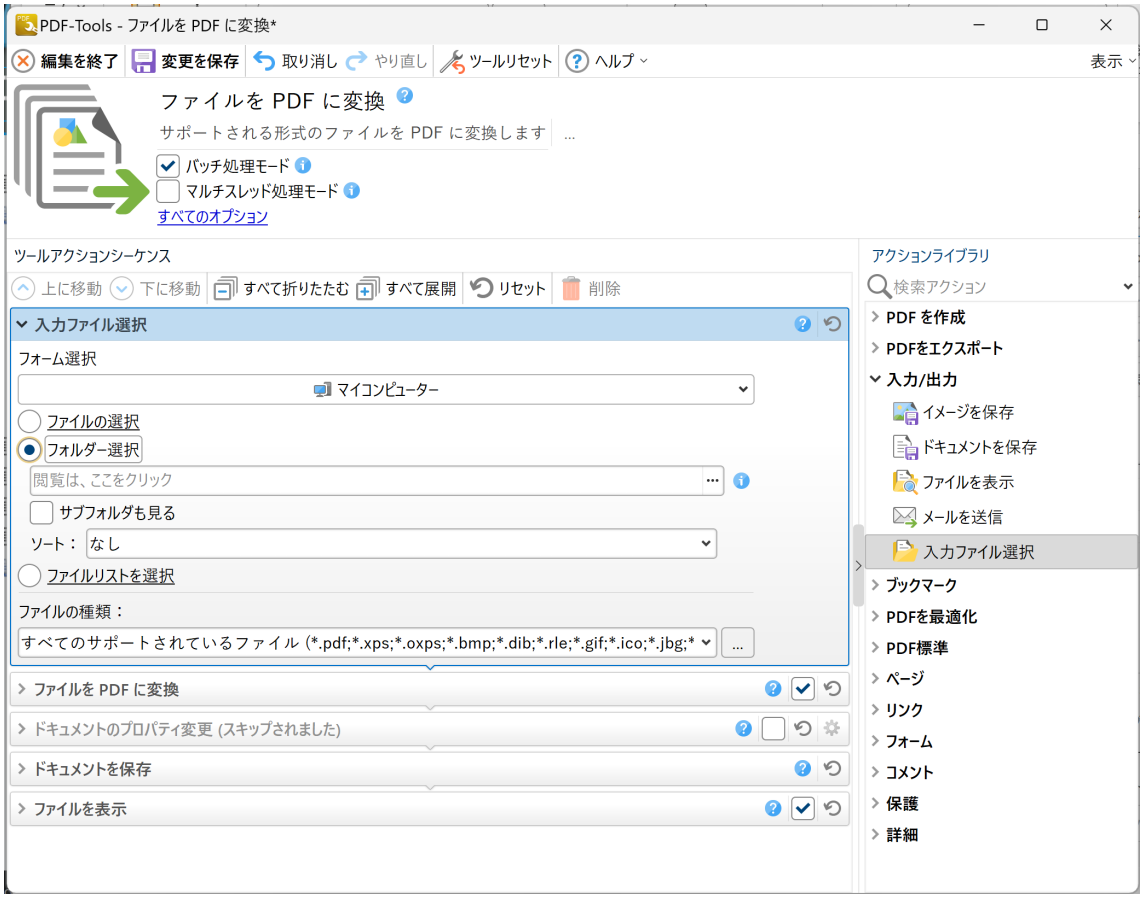

図 3. [フォルダ選択]オプション

- テキストボックスまたは「…」アイコンをクリックして、フォルダを選択します。
- **サブフォルダも見る** ボックスを選択すると、サブフォルダにあるファイルを含めることもできます。
- **ソート** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、入力ファイルが処理される順序を決定します。

入力ファイル選択

入力ファイル選択のダイアログボックスは、入力ファイルの表示、編集、および並べ替えに使用します。

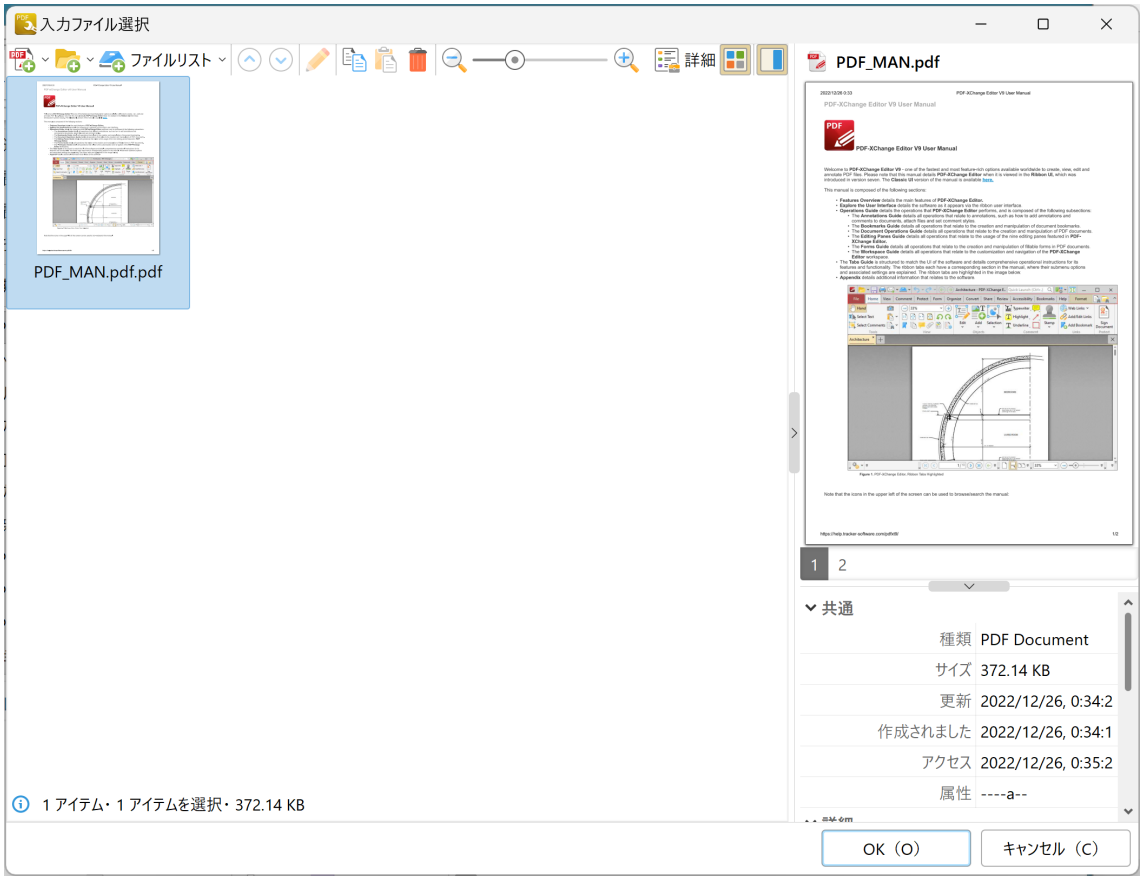

図 4. [入力ファイル選択]ダイアログボックス

アイコンは次のように使用します。

- **ファイルを追加** ローカルのコンピューターからファイルを追加します。
- **フォルダを追加** 指定したフォルダからすべてのファイルを追加します。
- **スキャナから追加** スキャナ経由で入力ファイルを追加します。**スキャン・プロパティ**のダイアログボックスが開き、ここでスキャン・パラメータの決定をします。このダイアログボックスの詳細については、**こちら**を参照してください。
- ファイルリスト **ファイルリスト** オプションが表示され、**すべてのファイルをファイルリストに保存**をクリックして、ダイアログボックス内のファイルを後で使用するためにリストに保存します。**選択したファイルをファイルリストに保存**をクリックして、選択し

たファイルのみをリストに保存します。**ファイルリストのロード**をクリックして、既存のファイルリストをダイアログボックスにロードします。

- **上へ移動** 選択したファイルの処理順を上に移動します。
- **下へ移動** 選択したファイルの処理順を下に移動します。
- **編集** 選択した画像ファイルを編集します。**画像の編集**ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスの詳細については、**(図 6)**を参照してください。
- **縮小**または **拡大**をクリックするか、スライダを使用して、サムネイルページ上で拡大/縮小します。
- **削除** 選択したファイルをダイアログボックスから削除します。
- **詳細** ダイアログボックスに追加されたファイルの詳細を表示します。あるいは、**サムネイル**をクリックすれば、ファイルのサムネイルが表示されます。
- **プレビュー** 選択したファイルの変換後のプレビューが表示されます。このプレビューは、**(図 4)**に示すように、ダイアログボックスの右側に表示されます。

OK をクリックして、ツール操作を続行します。

ダイアログボックスを右クリックして、追加オプションを表示します。

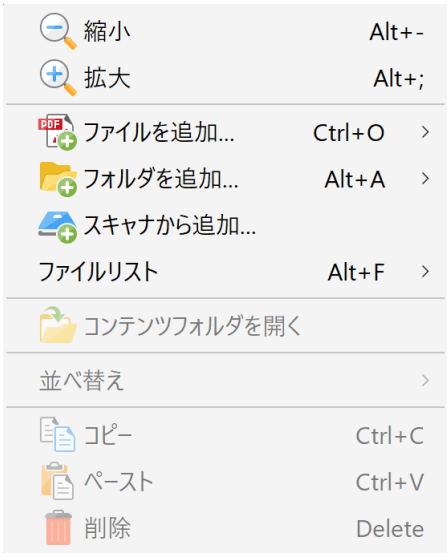

図 5. [入力ファイル選択]ショートカットメニュー

- **縮小/拡大** ダイアログボックスのドキュメントを縮小/拡大します。
- **ファイルを追加/フォルダを追加/スキャナから追加** ダイアログボックスにファイルを追加する際にそれぞれを選択します。
- **ファイルリスト** カーソルを合わせると、ファイルリストのオプションが表示されます。
  - **すべてのファイルをファイルリストに保存** ダイアログボックス内のファイルを後で使用するためにファイルリストに保存します。後で続けて使うツールで同じファイルのセレクションを使用する場合は、そのファイルリストをロードして使用することができます。
  - **選択したファイルをファイルリストに保存** ダイアログボックスで選択したファイルをファイルリストに保存します。
  - **ファイルリストのロード** ツールと組み合わせて使用する既存のファイルリストをロードします。
- **コンテンツフォルダを開く** 選択したファイルのコンテンツフォルダをダイアログボックスで開きます。
- **並べ替え** ダイアログボックス内でファイルを並べ替えます。ファイルは**名前**、**拡張子**、**場所**、**更新日**、**サイズ**、**ページ範囲**（上記で詳述した**ページの選択**オプションを使用して入力ドキュメントでページ範囲が指定されている場合）、**情報**、および**昇順**または**降順**で並べ替えることができます。
- **コピー/貼り付け/削除** 選択したファイルに対してこれらの操作を実行します。

画像の編集

画像を編集のダイアログボックスは、ツールで処理する前にイメージを編集するために使用します。

図 6. [画像を編集]ダイアログボックス

アイコンは次のように使用します。

- **左右反転** 画像を水平方向に反転します。
- **上下反転** 画像を垂直方向に反転します。
- **反時計回りに 90 度回転** 画像を反時計回りに 90 度回転させます。
- **時計回りに 90 度回転** 画像を時計回りに 90 度回転させます。
- **フィルタの適用** ドロップダウンメニューから画像のフィルタを表示/選択します。

- **変換** ドロップダウンメニューから画像の色深度を表示/選択します。
- **グレースケール** 画像をグレースケール形式に変換します。
- **傾き補正** 画像の傾きを補正します。曲がった状態でスキャン/撮影された画像の辺をまっすぐにするために使用します。
- **トリミング** 指定範囲の画像を切り抜きます。
- **表示に合わせる** 画像を編集ペインの境界線に合わせます。
- **拡大表示**/ **縮小表示** ボタンをクリックして画像を拡大/縮小表示、または数字ボックスを使用して拡大/縮小レベルを手動で調整します。

OK をクリックして変更を保存し、ツール操作を続行します。

7-3-2. ドキュメントを保存

ドキュメントを保存のアクションでは、出力ドキュメントの保存オプションを決定します。 これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

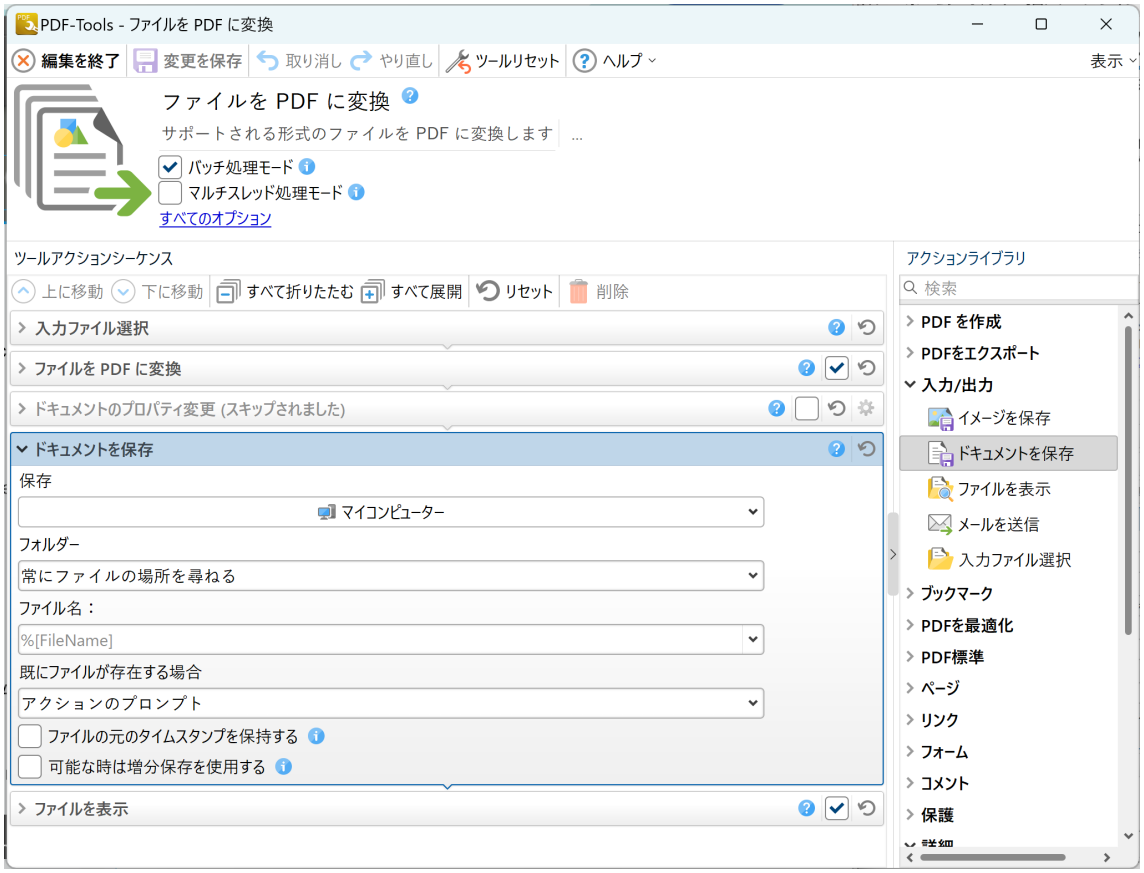

図 1. [ドキュメントを保存]アクションオプション

- **保存先** ドロップダウンメニューから出力ファイルの保存場所を指定します。
  - **マイコンピューター** ローカルのコンピューターにファイルを保存します。
  - **場所を追加** カーソルを合わせてファイルを保存する新しい場所を追加し、**Box.com**、**Dropbox**、**Google ドライブ**、**OneDrive** または **SharePoint** をクリックして、いずれかの場所からアカウントを追加します。**PDF-Tools** は、選択したアカウントのログイン情報の入力を求めます。この情報が入力されると、アカウント

の詳細がリストに表示されるので、必要に応じてファイル保存用に使用できます。

- **フォルダ** ドロップダウンメニューから、変換されたファイルの保存先を決定します。
  - **常にファイルの場所を求める** アクションが使用されるたびに保存先を選択するように求められます。
  - **元のフォルダを保存先として使用** 入力ファイルのある元のフォルダを保存先として使用します。
  - **指定されたカスタム・フォルダを使用** 任意の保存先フォルダを指定できます。このオプションを使用する場合は、ドロップダウンメニューの下のテキストボックスでフォルダの場所を指定する必要があります。
- **ファイル名：** テキストボックスを使用して、出力ファイルに名前を付けます。デフォルト名は、元ファイルの名前を使用するマクロの**%[FileName]**によって定義されます。ドロップダウン矢印をクリックして、**マクロ**を追加します。
- **既にファイルが存在する場合** ドロップダウンメニューから、ファイル名が既に使用されているときに実行されるアクションを決定します。
  - **アクションのプロンプト** ユーザーに実行するアクションの入力を求めます。
  - **新しいファイルで上書き** 既存のファイルが新しいファイルで上書きされます。
  - **既存のファイルを変更しない** 既存のファイルは保持され、新しいファイルは保存されません。
  - **既存のドキュメントに追加** ファイルが既存のドキュメントに追加されます。
  - **別名で新規保存** ファイル名の先頭にプレフィックスを挿入し、新しいファイルを保存します。
- **ファイルの元のタイムスタンプを保持する** ダイアログボックスを選択して、ドキュメントの最終更新日を保持します。 ただし、この設定はドキュメントがローカルに保存されている場合にのみ機能します。
- **可能な差分保存を使用** チェックボックスをオンにすると、可能な場合について、差分保存を使用してドキュメントの保存ができます。差分保存では、元のドキュメントの内容が保持され、新しい変更に関する情報も保存されます。このオプションを有効にすると、ファイルの保存にかかる時間が短縮されることもありますが、ファイルのサイズは大きくなります。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-3-3. 画像を保存

画像を保存のアクションは、出力画像の保存オプションを決定します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

図 1. [画像を保存]アクションオプション

- **グループ化モード** 保存された画像のグループ化の方法を決定します。
  - **それぞれの画像を別々のファイルにする** 各画像を別々のファイルに保存します。
  - **単一ページの全画像を 1 つの複数ページ画像ファイルに保存する** 各ページのすべての画像を 1 つの複数ページ画像ファイルに保存します。
  - **すべての画像を 1 つの複数ページ画像ファイルに保存する** 全画像ファイルを 1 つの複数ページ画像ファイルに保存します。
  - **ドキュメント内のすべての画像を 1 つの複数ページの画像ファイルに保存** 各ドキュメントのすべての画像を 1 つの複数ページ画像ファイルに保存します。
  - **逆順で保存** ボックスを選択すると、画像が逆の順序で保存されます。
- **保存先** ドロップダウンメニューから出力ファイルの保存場所を決定します。
  - **マイコンピューター** ローカルのコンピューターにファイルを保存します。
  - **場所を追加** カーソルを合わせてファイルを保存する新しい場所を追加し、**Box.com**、**Dropbox**、**Google ドライブ**、**OneDrive** または **SharePoint** をクリックして、いずれかの場所からアカウントを追加します。**PDF-Tools** は、選択したアカウントのログイン情報の入力を求めます。この情報が入力されると、アカウントの詳細がリストに表示されるので、必要に応じてファイル保存用に使用できます。
- **フォルダ** ドロップダウンメニューから、変換されたファイルの保存先を決定します。
  - **常にファイルの場所を求める** アクションが使用されるたびに保存先を選択するように求められます。
  - **元のフォルダを保存先として使用** 入力ファイルのある元のフォルダを保存先として使用します。
  - **指定されたカスタム・フォルダを使用** 任意にフォルダを指定できます。このオプションを使用する場合は、ドロップダウンメニューの下のテキストボックスでフォルダの場所を指定する必要があります。
- **ファイル名：** テキストボックスを使用して、出力ファイルに名前を付けます。デフォルト名は、元ファイルの名前を使用するマクロの**%[FileName]**によって定義されます。ドロップダウン矢印をクリックして、**マクロ**を追加します。
  - **単一ページ画像の種類を選択** ドロップダウンメニューのオプションを選択して、単一ページでの出力の形式を決定します。
  - **複数ページ画像の種類を選択** ドロップダウンメニューのオプションを選択して、複数ページ出力での形式を決定します。
  - **常に複数ページフォーマットを使用する** ボックスを選択すると、すべての画像を複数ページ出力します。

- **自動的に色の濃さを選択する** ボックスを選択すると、出力画像の色の濃さが自動選択されます。ただし、画像形式の画像タイプ・パラメータは無視されます。

- **既にファイルが存在する場合** ドロップダウンメニューから、ファイル名が既に使用されているときに実行されるアクションを決定します。
  - **アクションのプロンプト** ユーザーに実行するアクションの入力を求めます。
  - **新しいファイルで上書き** 既存のファイルが新しいファイルで上書きされます。
  - **既存のファイルを変更しない** 既存のファイルは保持され、新しいファイルは保存されません。
  - **別名で新規保存** ファイル名の先頭にプレフィックスを挿入し、新しいファイルを保存します。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択すると、**画像を保存**のダイアログボックスが起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズできるようになります。このボックスをオフにすると、アクションの使用時に**画像を保存**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-3-4. メールを送信

メールを送信のアクションは、ユーザーのデスクトップ電子メール・クライアントを介して、出力ドキュメント/画像を送信します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

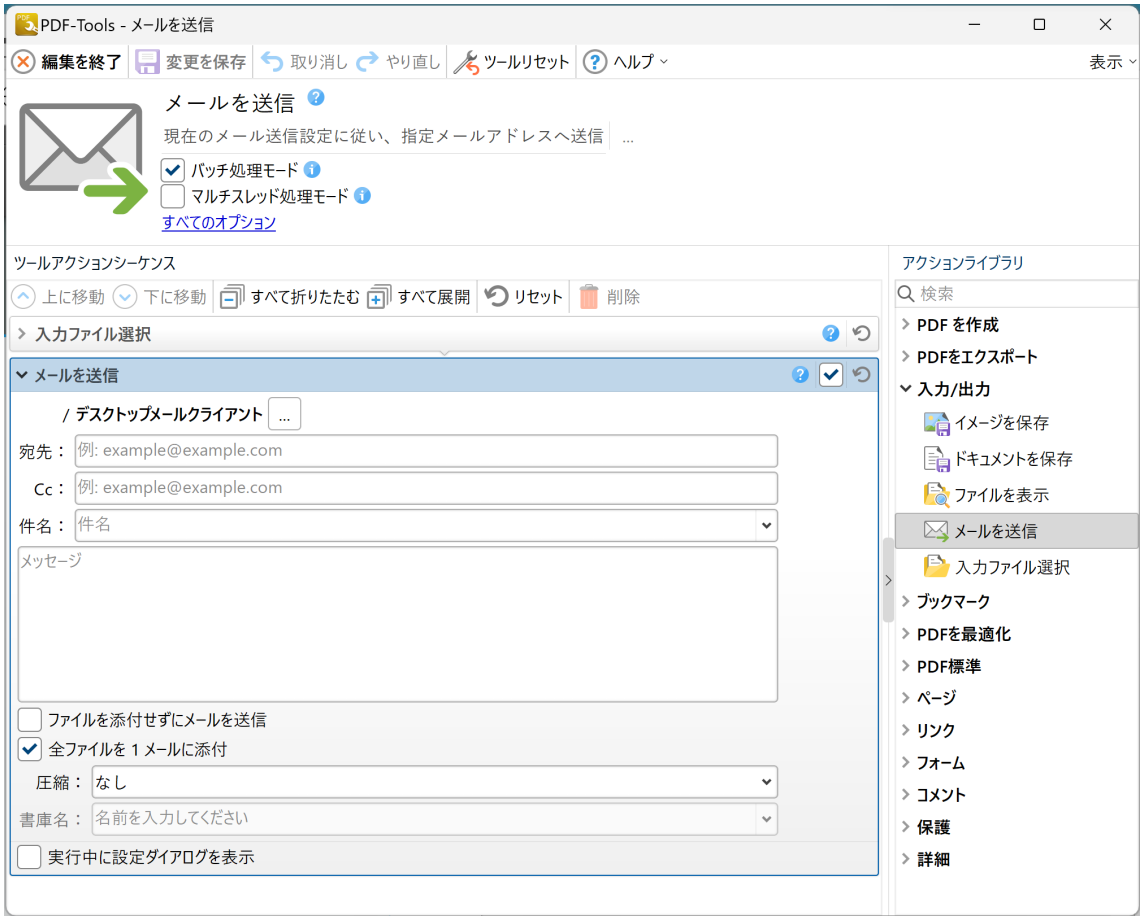

図 1. [メールを送信]アクションオプション

- **デスクトップメールクライアント**の横にある「…」アイコンをクリックして、現在のデスクトップメールクライアントの設定を表示/編集します**(詳細はこちらを参照)** 。
- **宛先**　テキストボックスに受信者の電子メールアドレスを入力します。
- **Cc**　追加の受信者の電子メールアドレスをここのテキストボックスに入力します。

- **件名**テキストボックスに電子メールの件名を入力し、**メッセージ**のテキストボックスに電子メールのテキストを入力します。
- **ファイルを添付せずにメールを送信**　ボックスを選択し、ファイルなしで電子メールを送信します。これは、ツールの実行が終了したときの通知方法として利用できます。
- **全ファイルを 1 メールに添付**　これを選択すると、すべてのファイルを 1 つの電子メールに添付します。このボックスをオフにすると、電子メールごとに 1 つのファイルが送信されます。
- **圧縮**　ドロップダウンメニューでオプションを選択して、送信前にファイルを圧縮します。
  - 必要に応じて、**それぞれのファイルを別々の圧縮ファイルにする**を選択するか、**すべてのファイルを 1 つに圧縮する**を選択し、**名前**のテキストボックスに圧縮アーカイブの名前を入力します。
- 実行中に設定ダイアログを表示　ボックスを選択すると、**メールを送信**のダイアログボックスが起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズできるようになります。このボックスをオフにすると、アクションが使用時に**メールを送信**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-3-5. ファイルを表示

ファイルを表示のアクションは、出力ドキュメントを表示します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

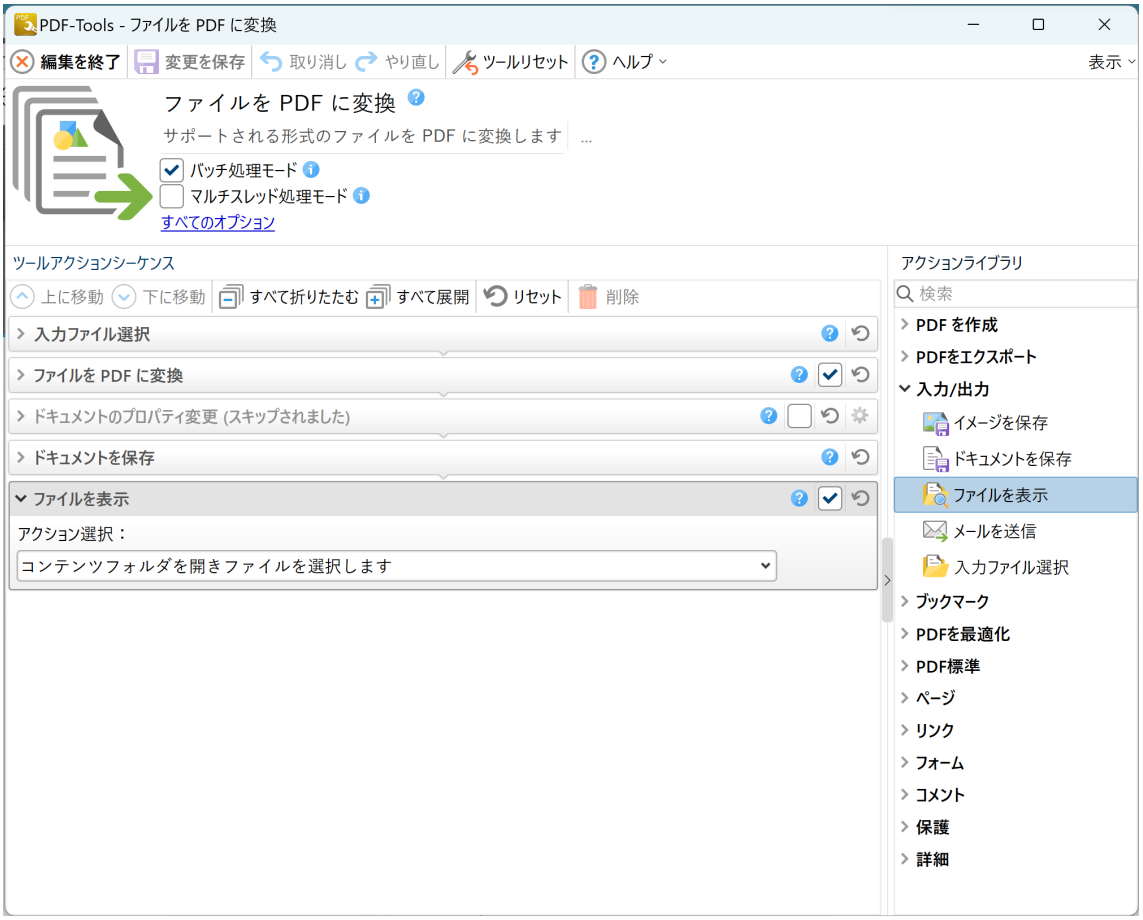

図 1. [ファイルを表示] アクションオプション

- **アクション選択**のドロップダウンメニューを使用して、出力ファイルの表示方法を決定します。
  - **フォルダを開きファイルを選択** 指定した出力フォルダを開き、出力ファイルをハイライト表示します。

・**関連付けられた外部プログラムを使用**　出力ファイル形式のデフォルト・プログラムを使用してファイルを開きます。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-4. ブックマーク・アクション

ブックマークのアクションでは、ブックマークの作成、インポート、エクスポート、および操作のためのパラメータを決定します。

- **目次の作成** ブックマークを使用して、入力ドキュメントの目次を作成します。
- **ブックマークをエクスポート** 入力ドキュメントにブックマークのコピーを作成し、ファイルに保存します。
- **ブックマークをテキストファイルにエクスポート** 入力ドキュメントにブックマークのコピーを作成し、プレーンテキスト(*.txt)ファイルに保存します。
- **ブックマークテキストを検索して置換** ブックマークのタイトル内のテキストを検索して置き換えます。
- **ページテキストからブックマークを生成** 入力ドキュメントのテキストからブックマークを作成します。
- **ブックマークをインポート** ブックマークをドキュメントにインポートします。
- **テキストファイルからブックマークをインポート** テキストファイルからドキュメントにブックマークをインポートします。

7-4-1. 目次の作成

目次の作成のアクションでは、ブックマークを使用してドキュメントの目次を作成します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

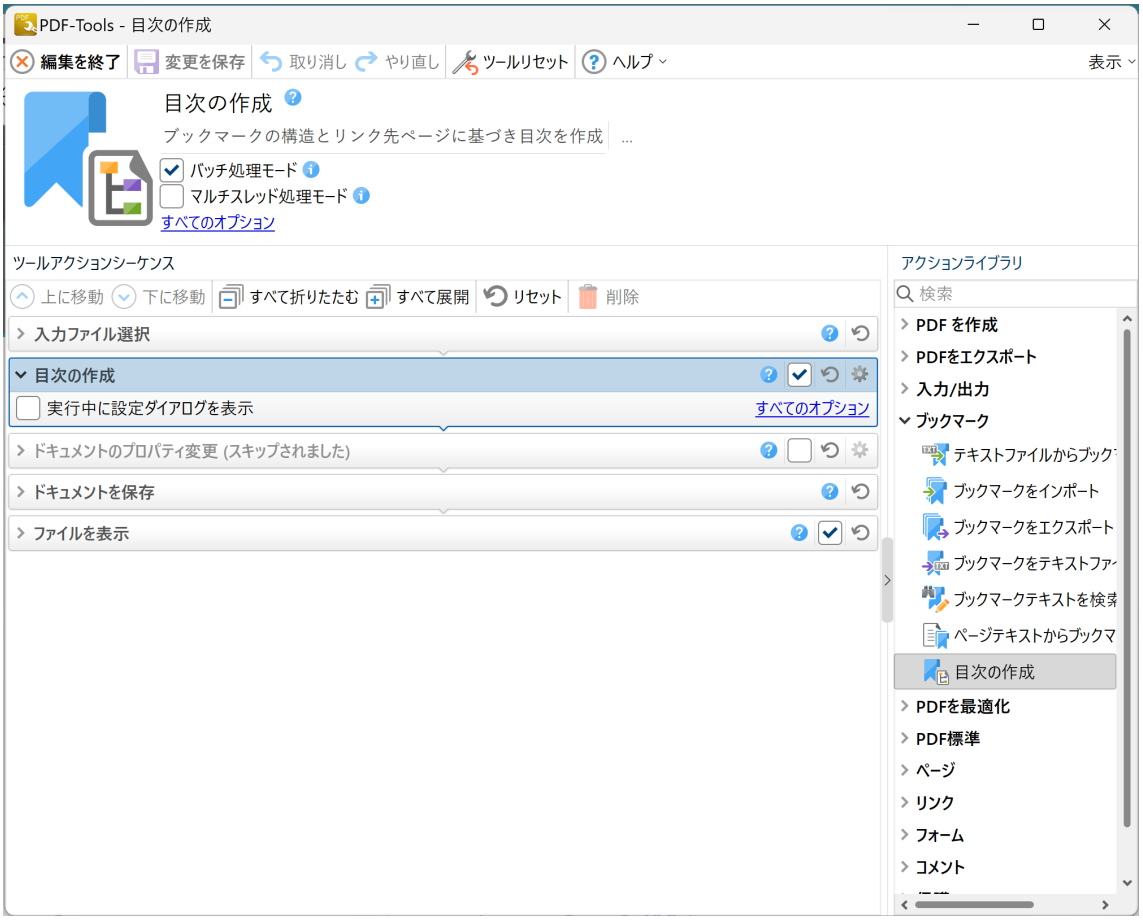

図 1. [目次の作成]アクションオプション

- **すべてのオプション** 目次の変換オプションを決定します。以下で説明するように、**目次の作成**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**目次の作成**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、**目次の作成**のダイアログボックスはアクションが使用される

たびに開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

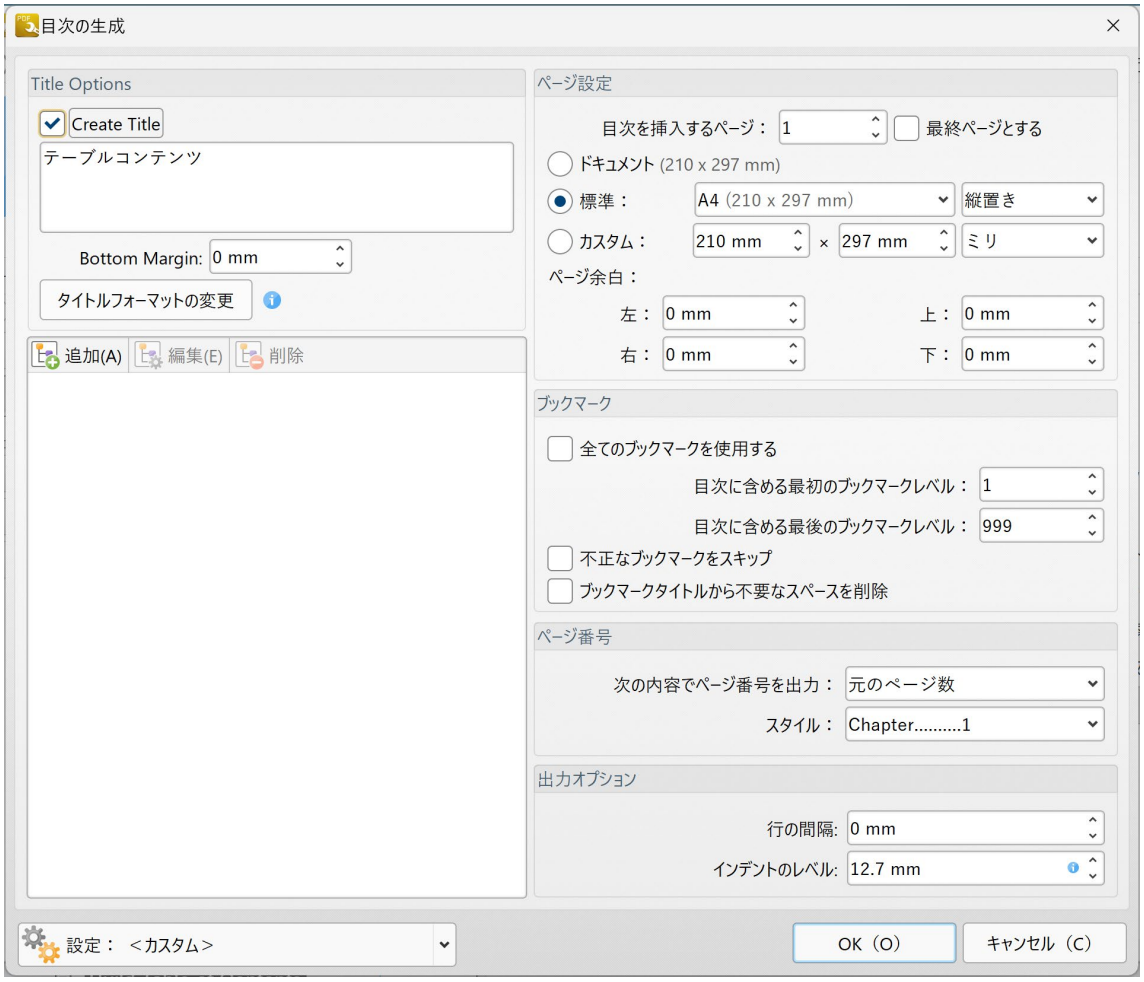

図 2. [目次の作成]ダイアログボックス

- **タイトル作成**　テキストボックスを使用して、目次のタイトルを入力します。また、**タイトルフォーマットの変更**をクリックすると、タイトルのフォントスタイルが変更できます。詳細は**こちら**を参照ください。
- **追加**　ブックマークのレベルにフォントスタイルを追加します。フォントスタイルについては、**こちら**で詳しく説明します。
- **ページ設定**　ここで目次の設定を決定します。
  - **目次を挿入するページ**　目次は指定されたページ番号の前に挿入され、**最終ページとする**のボックスを選択すれば、ドキュメントの最後のページのページとして追加されます。

- **ドキュメント** ここを選択すると、目次のページサイズを入力ドキュメントのページと同じサイズに設定します。
- **標準** 目次のページサイズを標準サイズに設定します。ドロップダウンメニューでサイズを選択し、向きを**縦**または**横**から選択します。
- **カスタム** カスタムのページサイズを設定し、数値のボックスと長さの単位のドロップダウンメニューを使用してサイズを決定します。
- **ページ余白** 数値ボックスを使用して、目次の余白を決定します。

- **ブックマーク** ここの設定で目次の作成に使用するブックマークを決定します。
  - **すべてのブックマークを使用** すべてのブックマークレベルを使用するにはボックスを選択します。また、数値ボックスを使用して、最初と最後のブックマークレベルを決定します。
  - **無効なブックマークをスキップ** ボックスを選択して、該当先のないブックマークなどの無効なブックマークを目次から除外します。
  - **ブックマークタイトルから不要なスペースを削除** 必要に応じてボックスを選択します。
- **ページ番号** このオプションを使用して、目次のページ番号の表示方法を決定します。
  - **出力するページ番号** ドロップダウンメニューからオプションを選択して、目次の項目に使用する参照について決定します。
  - **スタイル** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、目次の項目のスタイルを決定します。
- **出力オプション** その他の出力オプションを決定します:
  - **行の間隔** ドロップダウンメニューを使用して、目次の行間を決定します。
  - **インデント** ドロップダウンメニューを使用して、目次に使用するインデントの程度を決定します。

OK をクリックして変更を保存します。

目次の設定

設定のドロップダウンメニューを使用して、カスタム設定を保存/管理/削除します。

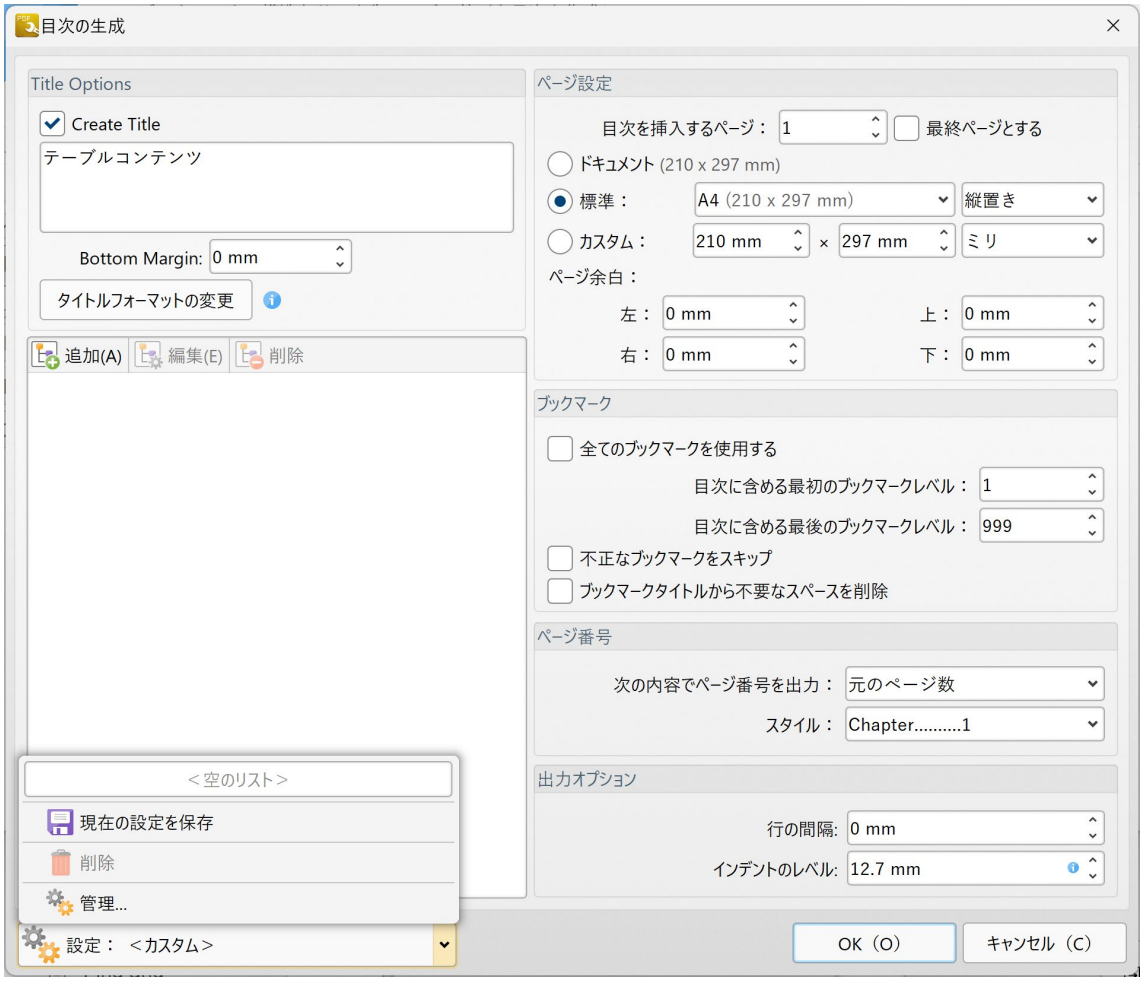

図 3. ［設定］ドロップダウンメニュー・オプション

- 必要に応じて定義済みのモードを選択します。
- **現在の設定を保存** 現在の設定をプロファイルとして保存し、後で使用できるようにします。
- **削除** 選択したプロファイルを削除します。ただし、このオプションは、カスタマイズされたプロファイルでのみ使用できます。
- **管理** プリセットされた、もしくはカスタマイズされたプロファイルを管理します。**プリセット管理**ダイアログボックスが開きます。

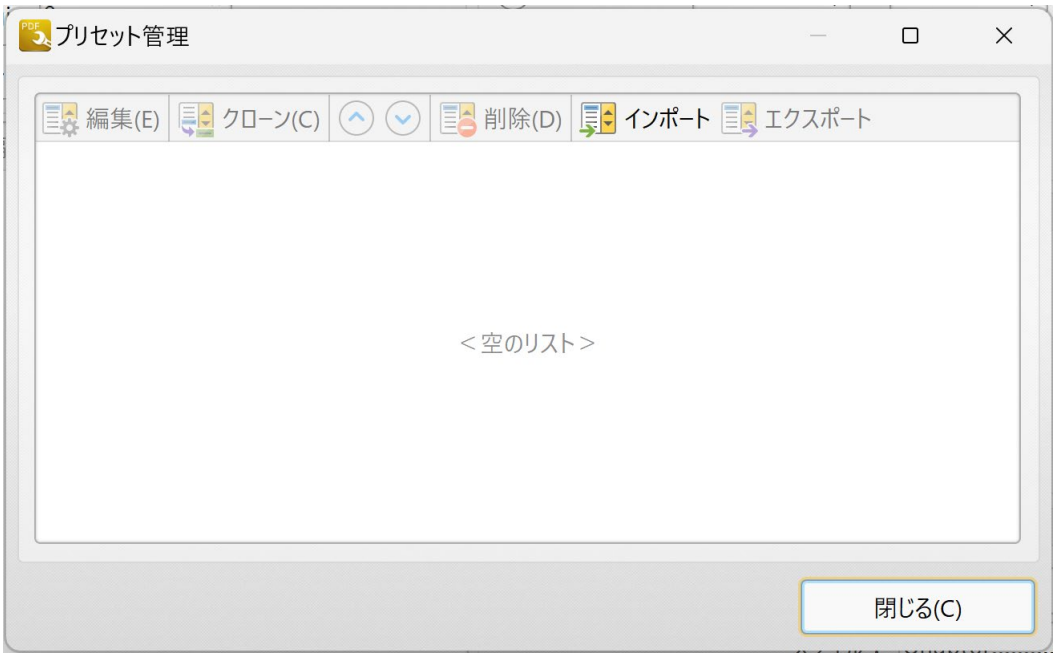

図 4. [プリセット管理]ダイアログボックス

- **編集**　選択したプロファイルを編集します。ただし、このオプションは、カスタマイズされたプロファイルでのみ使用できます。
- **複製**　選択したプロファイルを複製します。このオプションを使用すると、デフォルトの状態ではカスタマイズできないプリセット・プロファイルの設定をカスタマイズできます。
- 上下の矢印ボタンを使用して、選択したプロファイルをリスト内で上下に移動します。
- **削除**　選択したプロファイルを削除します。ただし、このオプションは、カスタマイズされたプロファイルでのみ使用できます。
- **インポート**　保存したファイルからプロファイルをインポートします。
- **エクスポート**　プロファイルをファイルにエクスポートします。

7-4-2. ブックマークをエクスポート

ブックマークをエクスポートのアクションは、ドキュメント内のブックマークのコピーを作成し、ファイルに保存します。

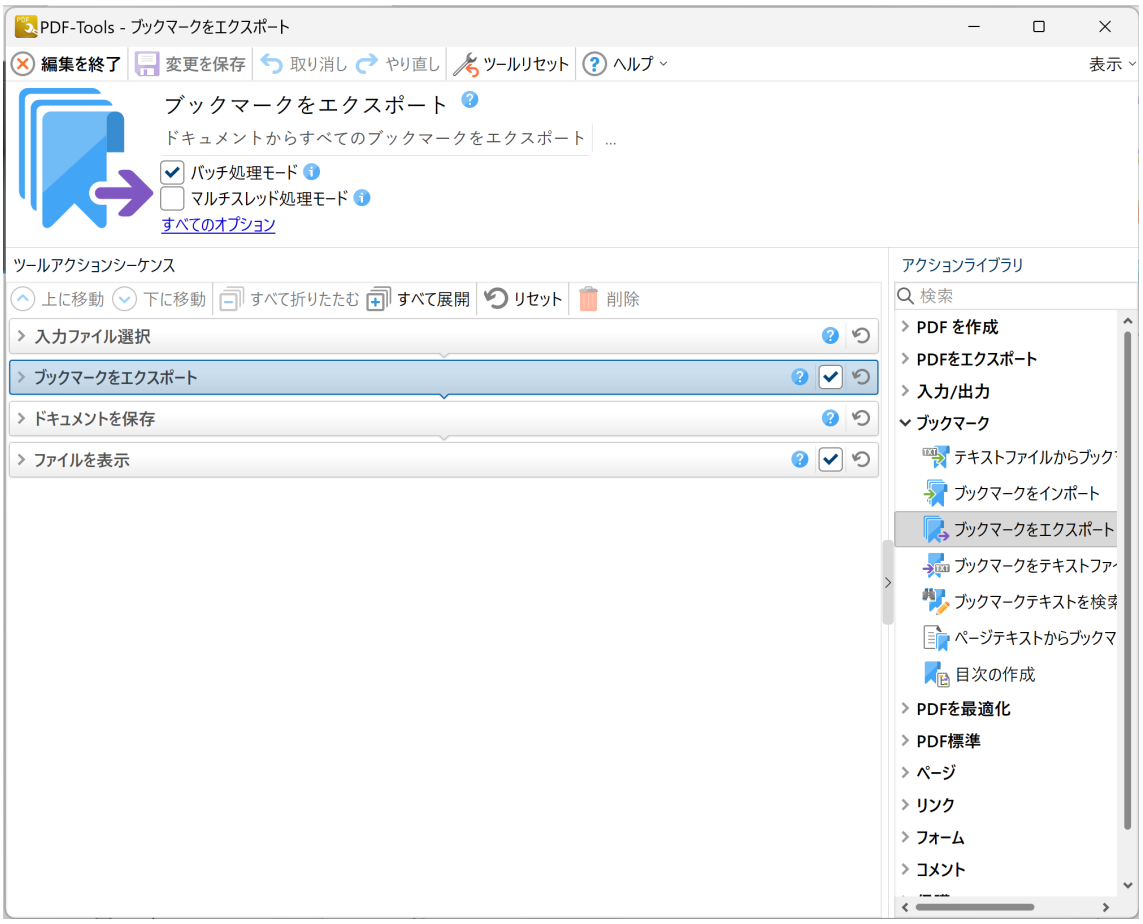

図 1. [ブックマークをエクスポート]アクションオプション

このアクションを有効/無効にするには、チェックボックスをオン/オフし、**変更の保存**をクリックして変更を保存します。

7-4-3. ブックマークをテキストファイルにエクスポート

ブックマークをテキストファイルにエクスポートのアクションは、入力ドキュメントにブックマークのコピーを作成し、プレーンテキスト(*.txt)ファイルに保存します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

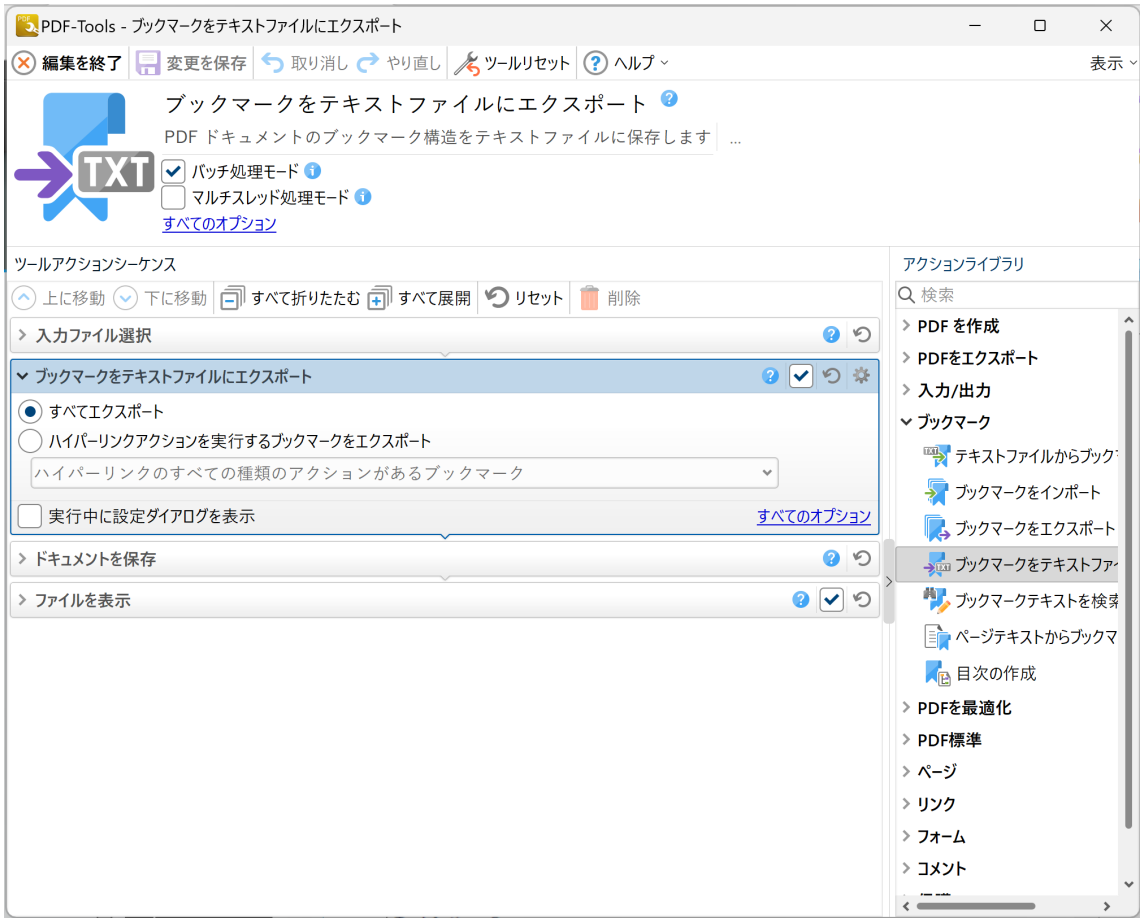

図 1. [ブックマークをテキストファイルにエクスポート]アクションオプション

- **すべてエクスポート** すべてのブックマークをテキストファイルにエクスポートします。

- **ハイパーリンク・アクションを実行するブックマークをエクスポート**　ハイパーリンク・アクションを実行するブックマークのみをエクスポートする際に選択し、ドロップダウンメニューを使用してエクスポートするハイパーリンクを決定します。
- **すべてのオプション**　エクスポート・オプションを表示/編集します。**ブックマークをテキストファイルにエクスポート**のダイアログボックスが開きます(詳細は以下で説明します)。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択して、**ブックマークをテキストファイルにエクスポート**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ブックマークをテキストファイルにエクスポート**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

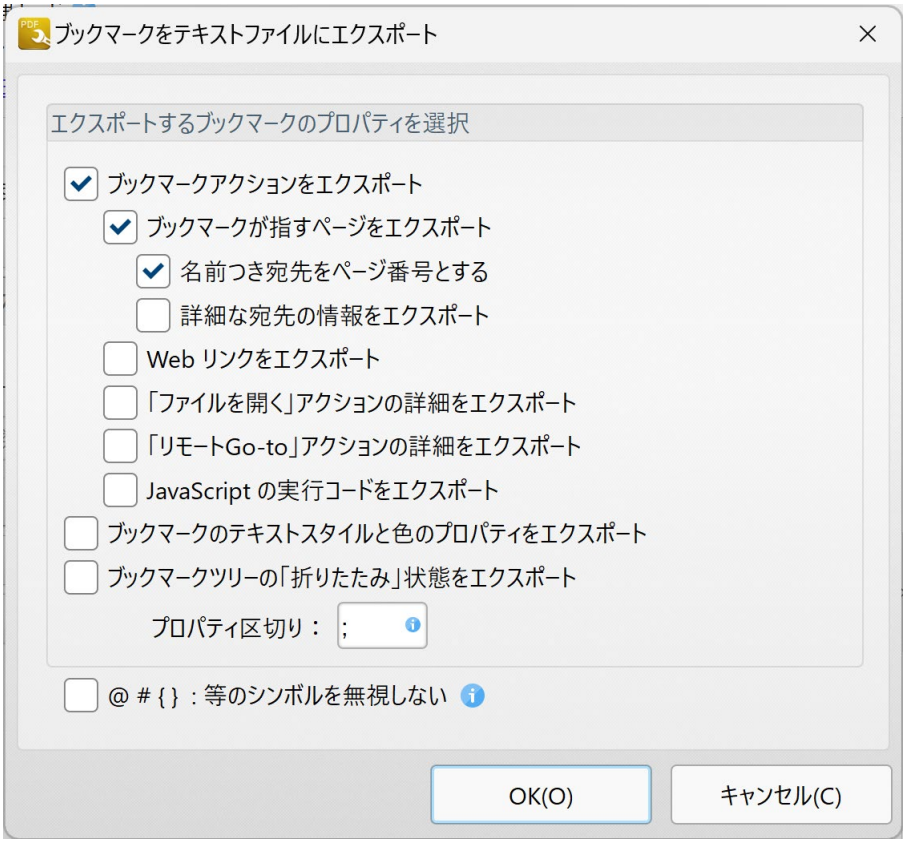

図 2. [ブックマークをテキストファイルにエクスポート]ダイアログボックス

- **ブックマーク・アクションをエクスポート**　ボックスを選択して、ブックマーク・アクションをエクスポートに含めます。
- **ブックマークが指すページをエクスポート**　ボックスを選択して、ブックマークリンクのページ番号を含めます。

- **指定された宛先名をページ番号とする** ボックスを選択すると、指定された宛先名が作成したテキストファイルのページ番号で表示されます。このボックスが選択されていない場合は、指定された宛先名の名前が代わりにエクスポートされます。
- **詳細な宛先の情報をエクスポート** ボックスを選択して、指定された宛先のより詳細な説明をエクスポートします。
- **Web リンクをエクスポート** ボックスを選択して、エクスポートファイルに Web リンクを含めます。
- **「ファイルを開く」アクションの詳細をエクスポート** ボックスを選択し、**「ファイルを開く」**のアクションの説明をエクスポートファイルに含めます。これらのアクションにより、ブックマークがクリックされたときにファイルが開きます。
- **「リモート Go-to」アクションの詳細をエクスポート** ボックスを選択し、**「Go-To」**のアクションの説明をエクスポートファイルに含めます。これらのアクションで、ブックマークをクリックすると、ドキュメントページに移動できます。ドキュメントページは、現在使用中のドキュメント、別のドキュメント、または埋め込みドキュメントの配置であっても大丈夫です。
- **JavaScript の実行コードをエクスポート** ボックスを選択し、エクスポートファイルにブックマークの JavaScript アクションを含めます。これらのアクションは、ブックマークがクリックされたときに JavaScript を実行します。
- **ブックマークのテキストスタイルと色のプロパティをエクスポート** 必要に応じて、ボックスを選択します。
- **ブックマークツリーの「折りたたみ」状態をエクスポート** ボックスを選択して、ブックマークを折りたたまれた形式でエクスポートします。
- **プロパティ区切り** ボックスを使用して、テキストファイル内のブックマーク・プロパティを区切る区切り文字を設定します。
- **@＃｛ ｝：等のシンボルを無視しない** 必要に応じて、ボックスを選択します。**ブックマークをテキストファイルにエクスポート**のアクションで作成されたファイルを**ページテキストからブックマークを生成**のアクションと組み合わせて使用する場合は、このボックスを選択することをお勧めします。

OK をクリックして変更を保存します。

7-4-4. ブックマークテキストを検索して置換

ブックマークテキストを検索して置換のアクションは、ブックマークのタイトル内のテキストを検索して置き換えます。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

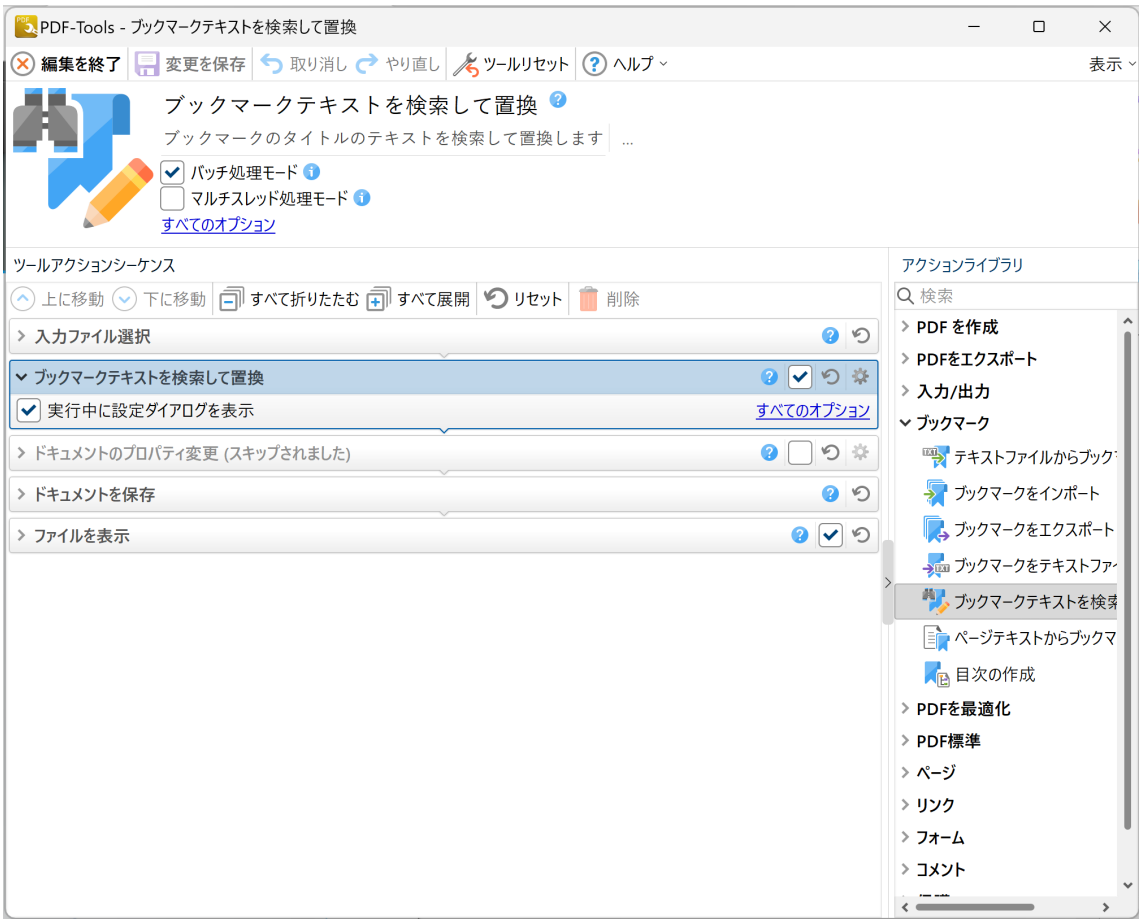

図 1. [ブックマークテキストを検索して置換]アクションオプション

- **すべてのオプション** ここからアクションオプションを表示/編集します。以下で詳しく説明するように、**ブックマークテキストを検索して置換**のダイアログボックスが開きます。

- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択して、**ブックマークテキストを検索して置換**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、このアクションが使用されるたびに**ブックマークテキストを検索して置換**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

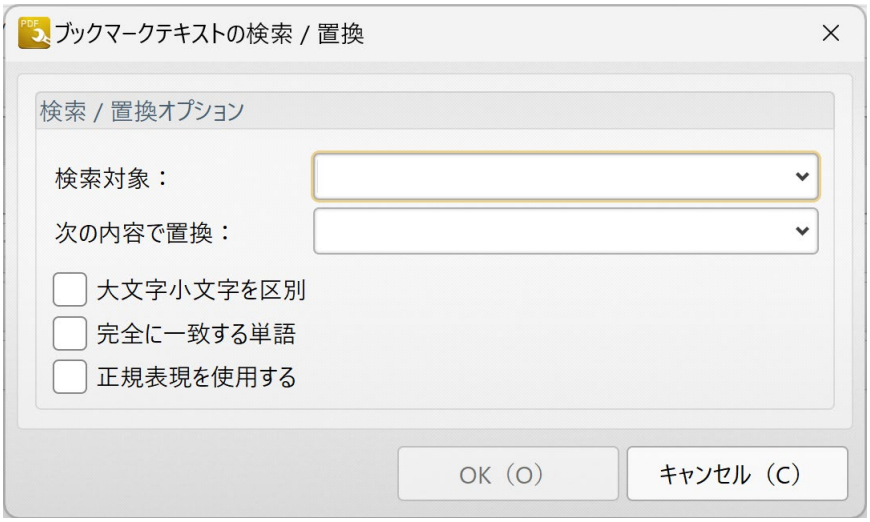

図 2. [ブックマークテキストを検索して置換]ダイアログボックス

- **検索対象**　置換する用語をテキストボックスに入力します。
- **次の内容で置換**　テキストボックスに置換する用語を入力します。
- 必要に応じて、**大文字と小文字を区別する**、**完全に一致する単語**、または**正規表現を使用する**ボックスを選択します。

OK をクリックして変更を保存します。

7-4-5. ページテキストからブックマークを生成

ページテキストからブックマークを生成のアクションでは、入力ドキュメントのテキストからブックマークを作成します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

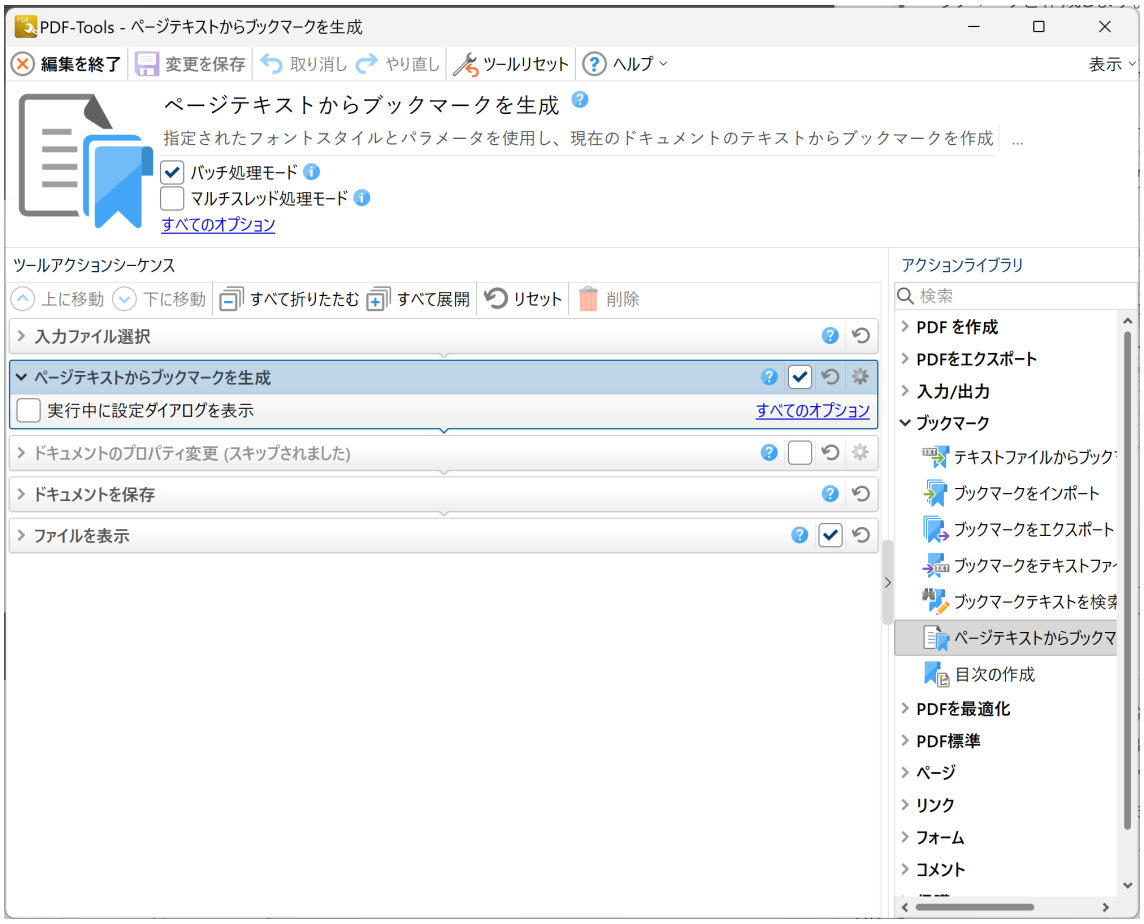

図 1. [ページテキストからブックマークを生成]アクションオプション

- **すべてのオプション**　ここからすべてのオプションを表示/編集します。以下で詳しく説明するように、**ページテキストからブックマークを生成**のダイアログボックスが開きます。

- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択して、**ページテキストからブックマークを生成**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ページテキストからブックマークを生成**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

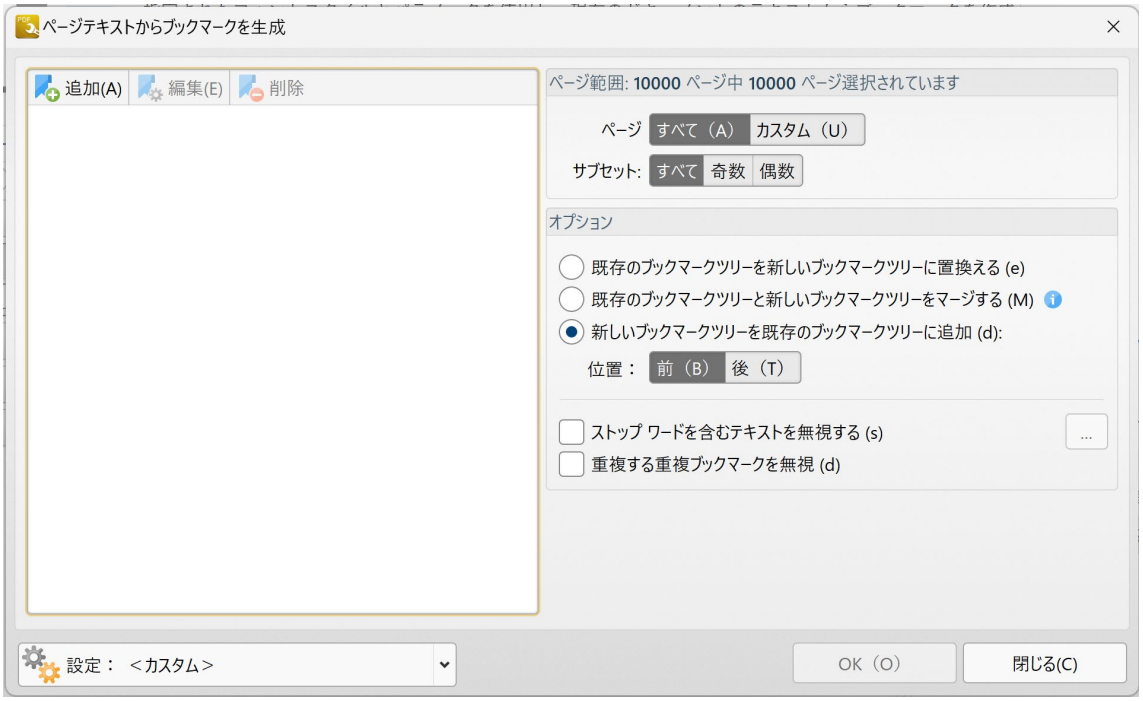

図 2. [ページテキストからブックマークを生成]ダイアログボックス

ページテキストからブックマークを生成するには、ブックマーク･ジェネレータを作成する必要があることに注意してください。

- **追加**　新しいブックマーク･ジェネレータを追加します。**ブックマーク生成のプロパティ**のダイアログボックスが開きます。詳細は（**図 5**）において記載されています。
- **編集**　選択したブックマーク･ジェネレータを編集します。
- **削除**　選択したブックマーク･ジェネレータを削除します。
- **ページ範囲**　このオプションでは、ブックマークの生成に含まれるページを決定します。
  - **すべて**　すべてのドキュメントページを使用する場合に選択します。
  - **カスタム**　任意のページ範囲を使用する場合に選択します。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちらを参照してください。**

- **サブセット** このオプションを使用して、必要に応じてすべてのページ、奇数ページ、または偶数ページを選択します。
- **ストップワードを含むテキストを無視する** 必要に応じて、ボックスを選択します。ストップワード(処理の際、あまり役に立たない語)を含むテキストは、このオプションを有効にするとブックマーク生成プロセスから除外されます。「…」アイコンをクリックして、ストップワードのリストを表示/編集します。
- **連続する重複ブックマークを無視する** ボックスを選択して、同一ブックマークが連続して作成されないようにします。
- **設定** ドロップダウン矢印をクリックして、ブックマーク・ジェネレータ設定を保存/管理/削除します。

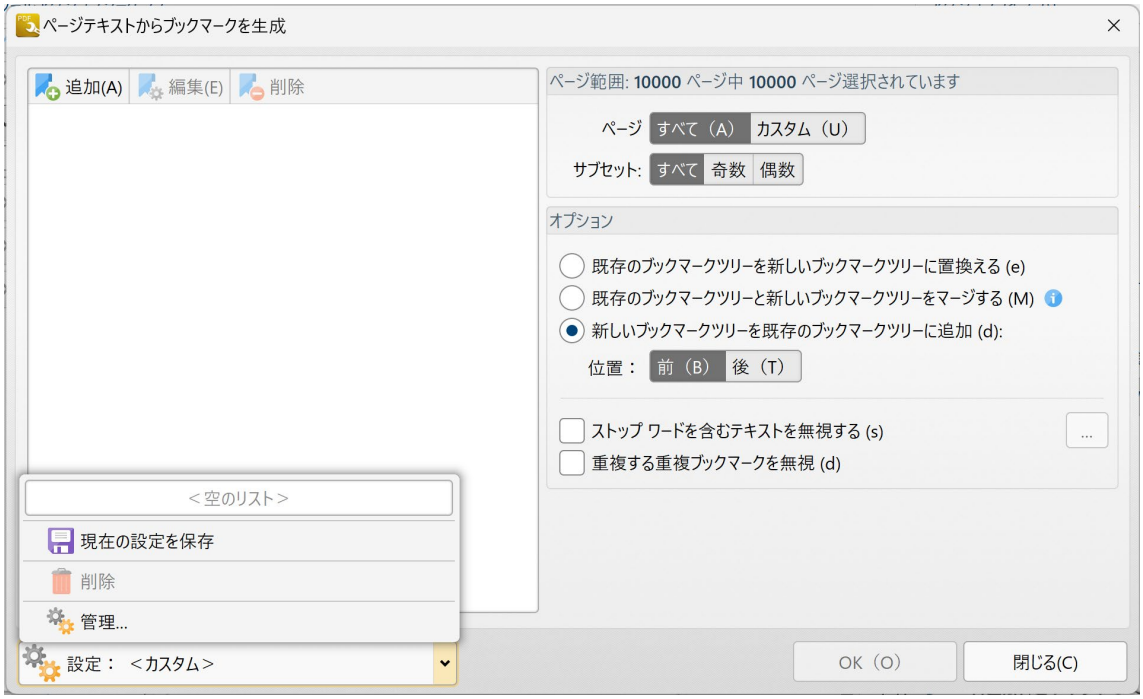

図 3. [ページテキストからブックマークを生成]ダイアログボックス、保存/管理/削除オプション

- **現在の設定を保存** 現在の設定をプロファイルとして保存し、後で使用できるようにします。
- **削除** 現在のプロファイルを削除します。
- **管理** プロファイルを管理します。**プリセット管理**のダイアログボックスが開きます。

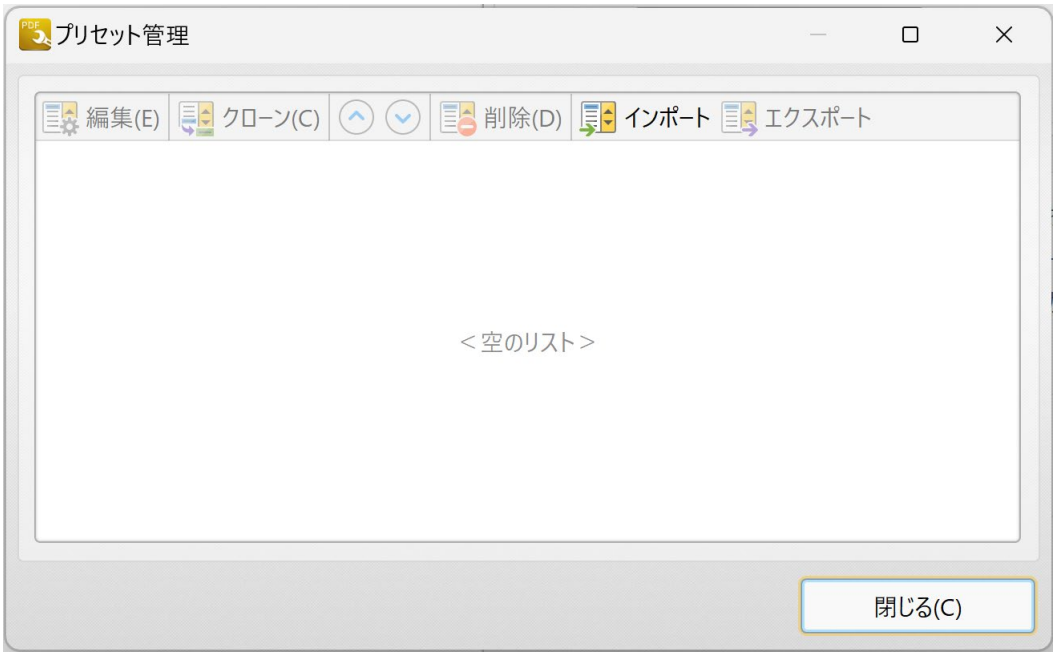

図 4. [プリセットの管理]ダイアログボックス

- **編集**　選択したプロファイルを編集します。
- **複製**　選択したプロファイルを複製します。
- 上下の矢印ボタンを使用して、選択したプロファイルをリスト内で上下に移動します。
- **削除**　選択したプロファイルを削除します。
- **インポート**　保存したファイルからプロファイルをインポートします。
- **エクスポート**　プロファイルをファイルにエクスポートします。

ブックマーク生成のプロパティ

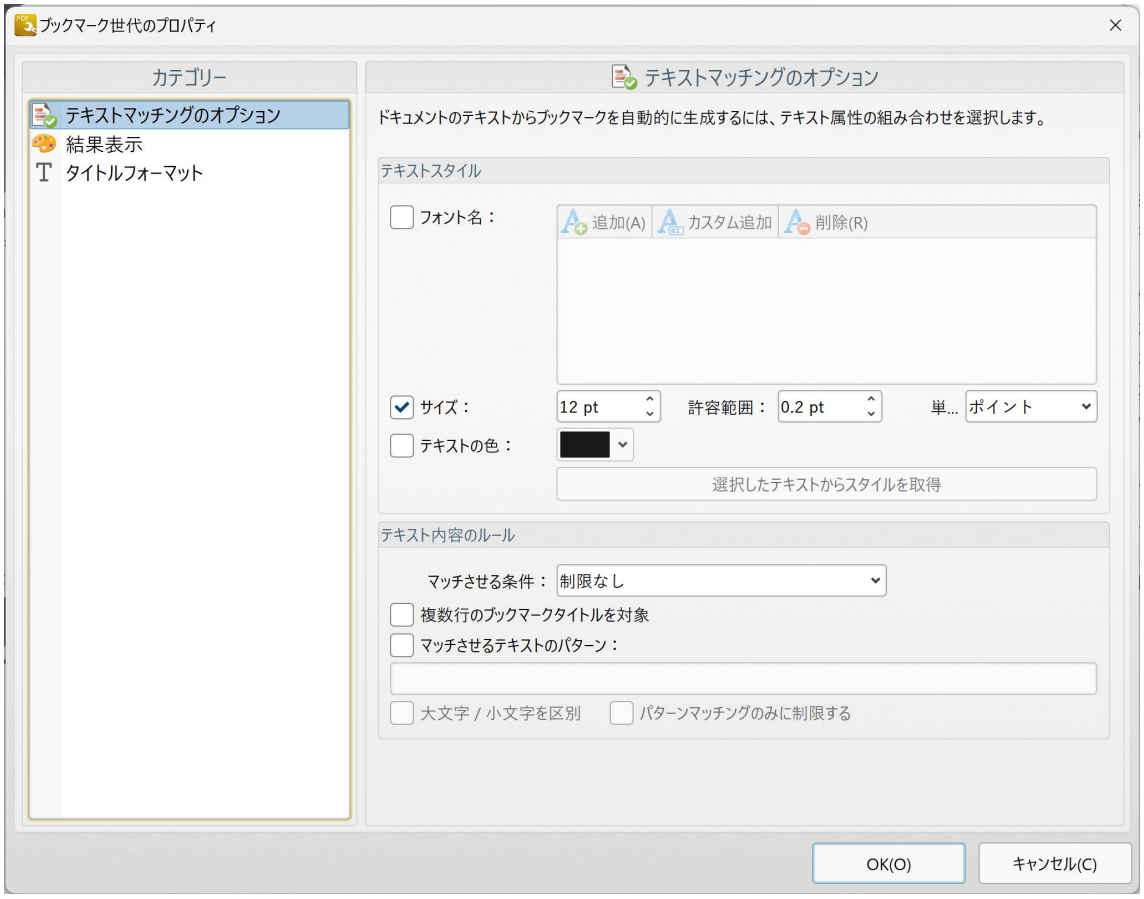

図 5. [ブックマーク生成のプロパティ]ダイアログボックス、[テキストマッチングのオプション]カテゴリ

ブックマーク生成のプロパティのダイアログボックスで選択するオプションによって、ブックマークの生成に使用するテキストと、生成されるブックマークのスタイルが決められます。

テキストマッチングのオプション

これらのオプションは、フォント、サイズ、色に応じてブックマークの生成に使用されるテキストを決定します。

- **フォント名**　ボックスを選択して、ブックマークの生成に特定のフォントのテキストを含めます。**追加**をクリックしてリストにフォントを追加し、**カスタム**をクリックしてカスタムフォントを追加し、**削除**をクリックして選択したフォントを削除します。
- **サイズ**　ボックスを選択して、ブックマークの生成に含めるテキストのサイズを指定します。数値ボックスを使用して、ブックマークの生成に含まれるテキストの**サイズ**

、**許容範囲**、および**単位**を決定します。**許容範囲**の値は、ブックマークの生成に含まれるには、選択したテキストと指定された**サイズ**との差がどの程度のまで許されるのかを決定します。

- **テキストの色**　ブックマークの生成に特定の色のテキストを含めるには、このボックスを選択し、ドロップダウンメニューで色を選択します。
- **選択したテキストからスタイルを取得**　このオプションは現在使用できません。これは、将来的に **PDF-Tools** のバージョンで利用可能になります。
- **一致条件**　ドロップダウンメニューで選択したオプションは、テキストの条件に従ってブックマークの生成に使用されるテキストを決定します。
  - **制限なし**　ブックマークの生成にすべての条件のテキストを含めます。
  - **全ての文字が大文字**　ブックマークの生成に大文字のテキストのみを含めます。
  - **最初の文字が大文字**　ブックマークの生成に大文字で始まるテキストのみを含めます。
  - **最初の文字が数字**　ブックマークの生成に数字で始まるテキストのみを含めます。
- **複数行のブックマーク・タイトルを許可**　ボックスを選択して、ブックマークのタイトルの長さが 1 行を超えてもよいことにします。これは、ブックマークのタイトルを短くすることができない場合に便利です。
- **一致させるテキストパターン**　ボックスを選択して、ブックマークの生成に含めるために、ドキュメントのテキスト上で一致する必要がある一連の単語を指定します。テキストボックスにそのテキストパターンを入力します。
- **大文字/小文字を区別**　ボックスを選択し、**一致させるテキストパターン**のボックスに入力したテキストの大文字と小文字の区別について一致するテキストのみを含めます。このボックスが選択されていない場合、大文字と小文字に関係なく、一致するすべてのテキストが含まれます。
- **一致するパターンのみに制限**　ボックスを選択して、ブックマークのタイトルについて、指定したパターンに一致するテキストのみがブックマークの生成に含まれるようにします。

結果表示

これらのオプションは、生成されたブックマークの特性を決定します。

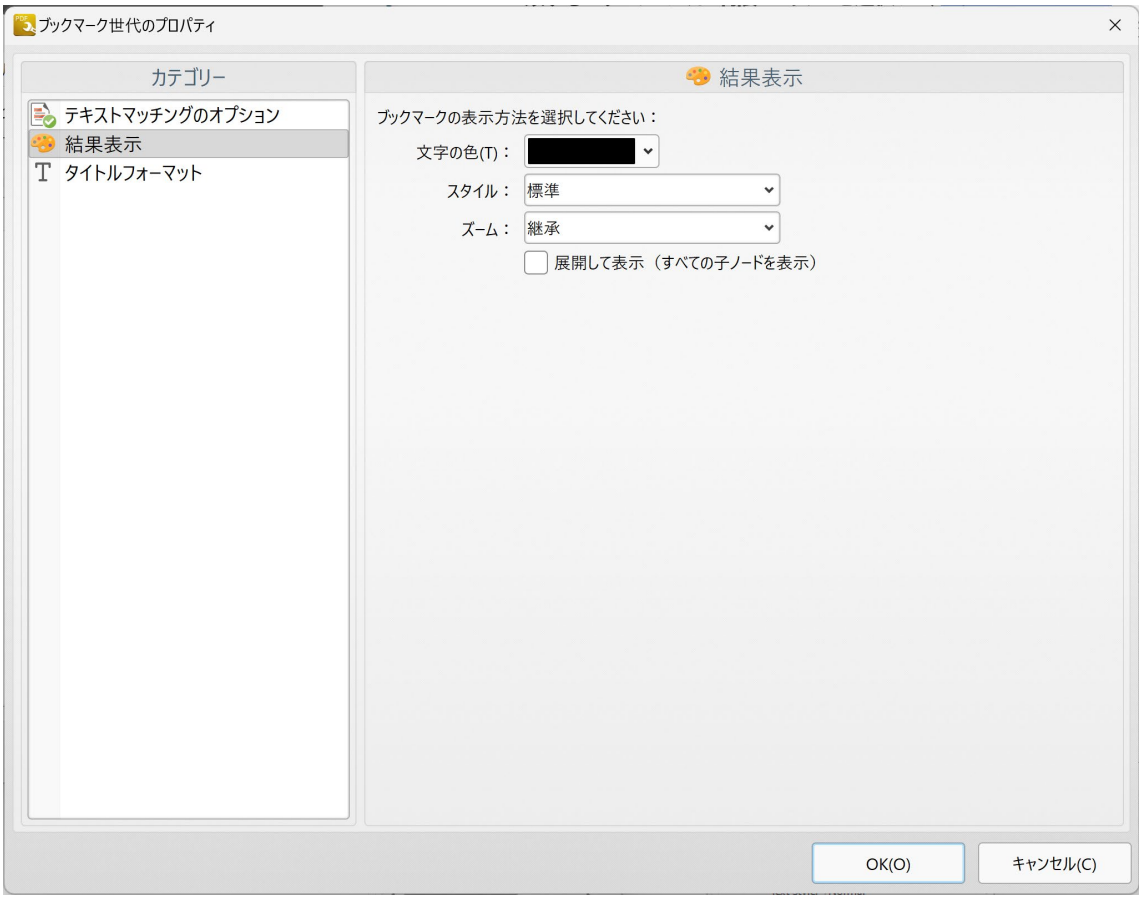

図 6. [ブックマーク生成のプロパティ]ダイアログボックス、[結果表示]カテゴリ

- **文字の色**　このメニューを使用して、ブックマークのテキストの色を決定します。
- **スタイル**　このメニューを使用して、ブックマークのテキストのスタイルを決定します。
- **ズーム**　このメニューを使用して、ブックマークがクリックされたときのズームのレベルを決定します。**現状のとおり**を選択して、現在のズーム･レベルを使用します。
- **展開して表示**　ボックスを選択して、生成されたすべてのブックマークを展開します。

タイトルの書式設定

これらのオプションは、ブックマークのタイトルの書式設定に使用されます。

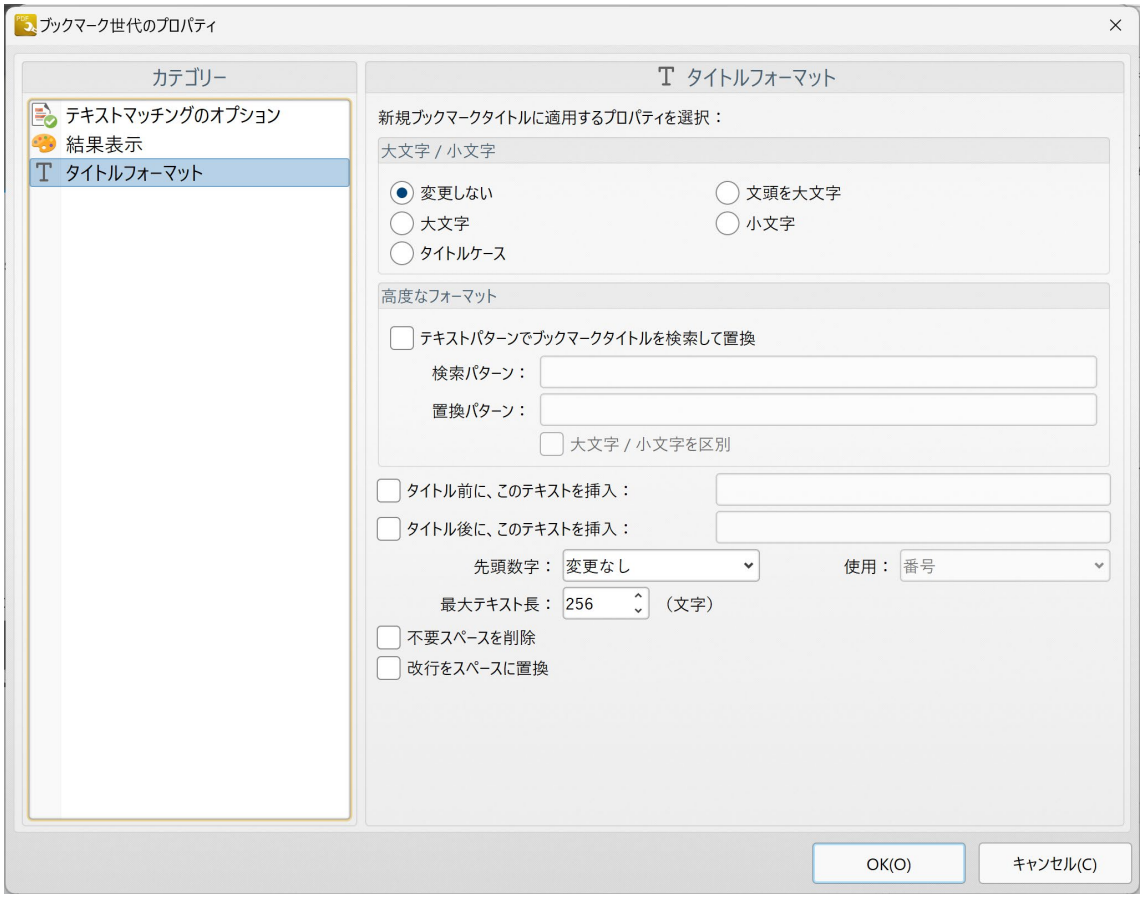

図 7. [ブックマーク生成のプロパティ]ダイアログボックス、[タイトルの書式設定]カテゴリ

- **大文字/小文字** オプションを選択して、生成されたブックマークのタイトルのテキストついて大文字か小文字かを決定します。
- **テキストパターンでブックマークのタイトルを検索して置換** ボックスを選択して、ブックマークのタイトル内の特定のテキストを検索し、カスタマイズされたテキストに置き換えます。
  - **検索パターン** 置換の対象となるテキストをテキストボックスに入力します。
  - **置換パターン** テキストボックスに置換テキストを入力します。
  - **大文字/小文字を区別** 必要に応じて、ボックスを選択します。
- **タイトルの前にテキストを挿入** ブックマークのタイトルの前にテキストを追加するには、このボックスを選択し、テキストボックスにテキストを入力します。

- **タイトルの後にテキストを挿入**　ブックマークのタイトルの後にテキストを追加するには、このボックスを選択し、テキストボックスにテキストを入力します。
- 先頭番号　ドロップダウンメニューからブックマークの先頭番号を追加/削除/保持のオプションを選びます。必要に応じて、**変更なし**、**追加**、**削除**を選択します。先頭の番号が追加された場合は、**番号書式**のドロップダウンメニューを使用して**数字**、**文字**、または**ローマ数字**と書式を選択します。
- **最大文字数**　テキストボックスで、生成されたブックマークの最大文字数を設定します。
- **不要なスペースの削除**　ボックスを選択して、隣接するスペース（空白）文字を削除します。
- **改行をスペースに置換**　ボックスを選択して、ブックマーク用に改行の代わりにスペースを置き換えます。

OK をクリックして変更を保存します。

7-4-6. ブックマークをインポート

ブックマークをインポートのアクションは、ブックマークをドキュメントにインポートします。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

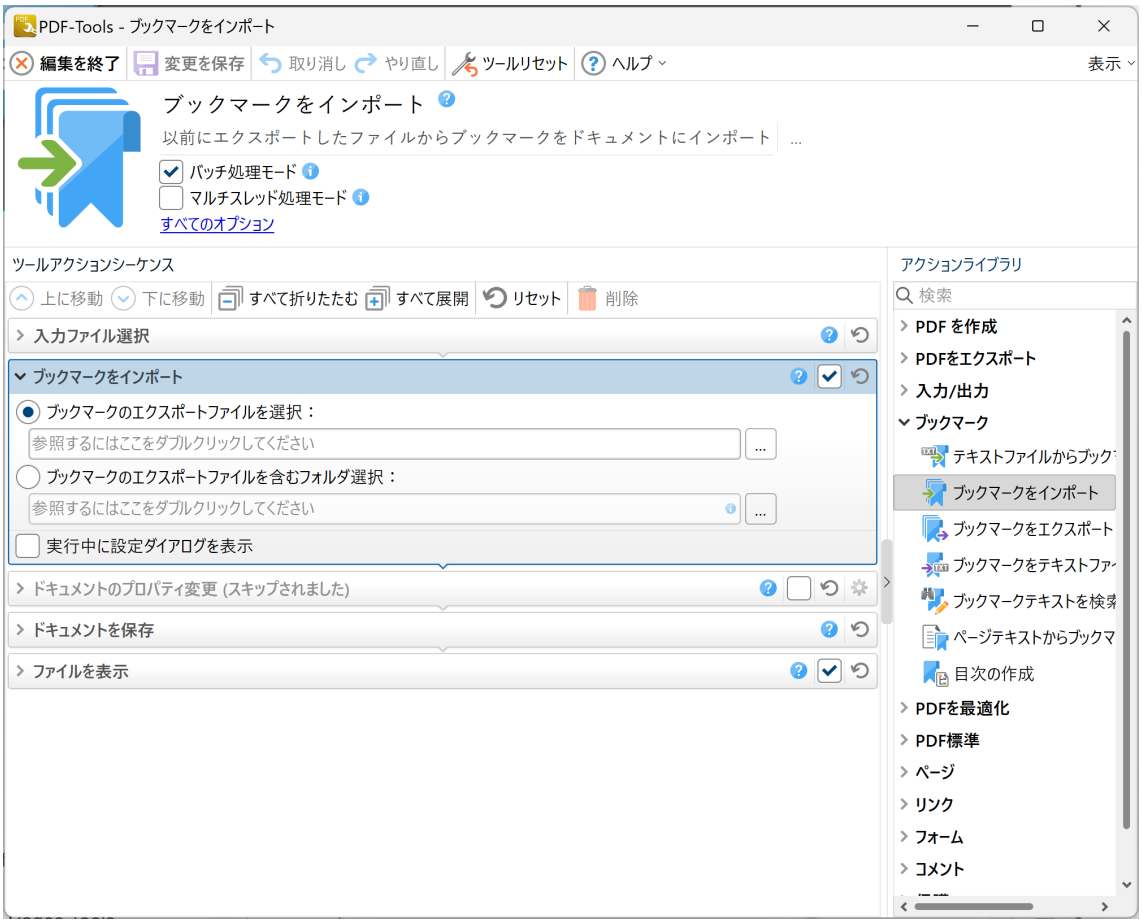

図 1. [ブックマークをインポート]アクションオプション

インポートされたブックマークは、(*.xcbkm) 形式のファイルに含まれている必要があることに注意してください。**ブックマークをエクスポート**のツールを使用して、これらのファイルを作成できます。

- **ブックマークのエクスポートファイルを選択**　ここを選択して、インポートするブックマークのファイルを選択します。テキストボックスにファイルのパスを入力するか、「…」のアイコンをクリックしてファイルを手動で選択します。
- **ブックマークのエクスポートファイルを含むフォルダを選択**　ここを選択して、インポートに使用する(*.xcbkm)形式のファイルを含むフォルダを指定します。テキストボックスにフォルダの場所を入力するか、「…」のアイコンをクリックしてフォルダを手動で選択します。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択して、**ブックマークをインポート**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ブックマークをインポート**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更を保存をクリックして、変更を保存します。

7-4-7. テキストファイルからブックマークをインポート

テキストファイルからブックマークをインポートのアクションは、テキストファイルからドキュメントにブックマークをインポートします。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

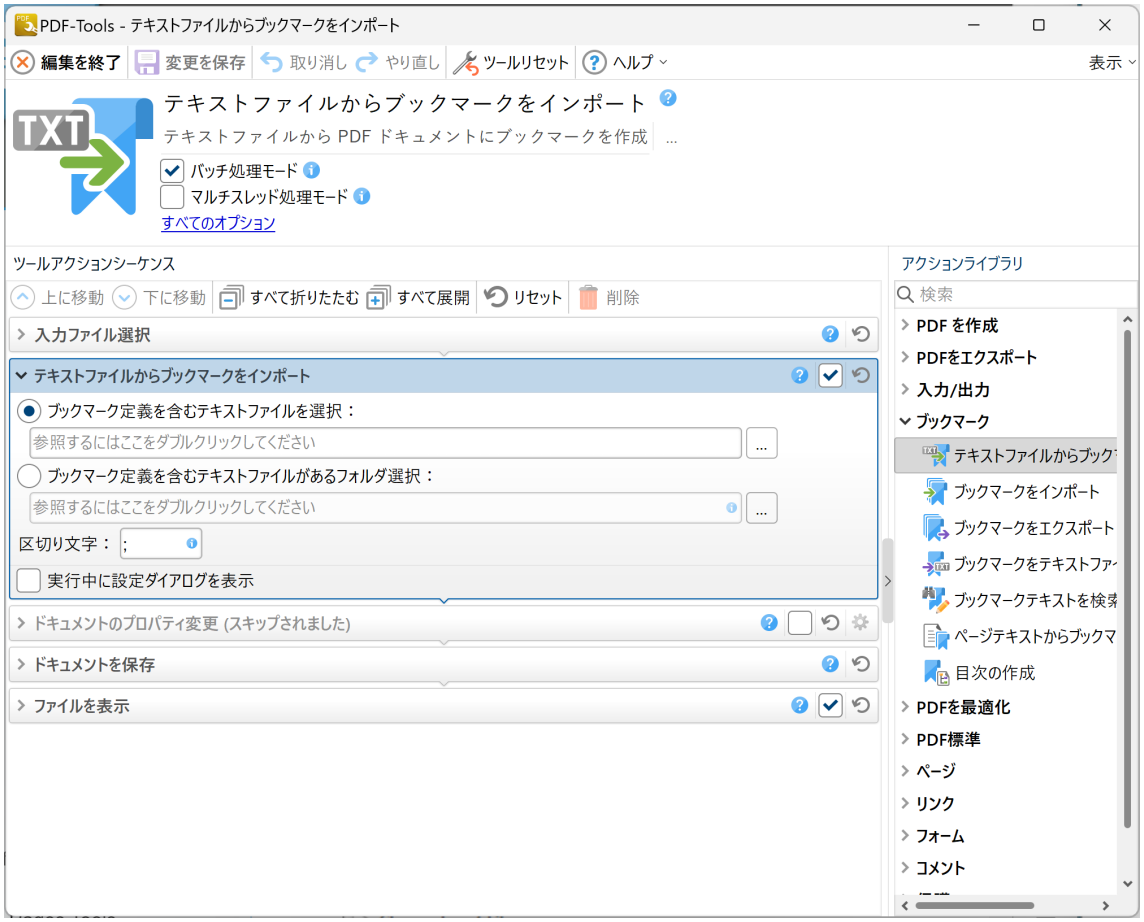

図 1. [テキストファイルからブックマークをインポート]アクションオプション

インポートされたブックマークは、(*.txt) ファイルに含まれ、**ブックマークをテキストファイルにエクスポート**のツールからの出力ファイルと同じ方法でフォーマットされている必要があります。

- **ブックマーク定義を含むテキストファイルを選択** ここを選択して、インポートするブックマークのファイルを選択します。テキストボックスにファイルのパスを入力するか、「…」アイコンをクリックしてファイルを手動で選択します。
- **ブックマーク定義を含むテキストファイルがあるフォルダを選択** ここを選択して、インポートに使用する(*.txt)ファイルを含むフォルダを指定します。テキストボックスにフォルダの場所を入力するか、「…」アイコンをクリックしてフォルダを手動で選択します。
- **区切り文字** テキストボックスを使用して、インポートするファイルで使用するフィールドの区切り文字を指定します。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**テキストファイルからブックマークをインポート**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**テキストファイルからブックマークをインポート**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更を保存をクリックして、変更を保存します。

7-5. PDF を最適化アクション

PDF を最適化のアクションは、入力ファイルの最適化のパラメータを決定します。

スキャンページの向上・改善 PDF ドキュメント内のスキャンされた画像を改善、あるいはその品質を向上させ、ファイルサイズを縮小します。

PDF を最適化 ファイルサイズを小さくするためにドキュメントの内容を最適化します。

画像の再圧縮 ドキュメントの画像を再圧縮します。

7-5-1. スキャンページの向上・改善

スキャンページの向上・改善のアクションは、PDF ドキュメント内のスキャンされた画像を改善、あるいはその品質を向上させ、ファイルサイズを縮小します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

図 1. [ページの向上・改善]アクションオプション

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**スキャンページの向上・改善**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**スキャンページの向上・改善**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**スキャンペ**

ージの向上・改善のダイアログ ボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

図 2. [スキャンページの向上・改善]ダイアログボックス

- **ページ範囲** このオプションを使用して、改善するページを決定します。ページ範囲のオプションの詳細については、**こちら**を参照してください。
- **適応圧縮を使用する** ボックスを選択して、スキャンしたページに適応圧縮を適用します。適応圧縮とは、データの圧縮に使用されるアルゴリズムを動的に調整するデータ圧縮の方法です。データの内容によって、その調整の具合は異なります。
- **カラー/グレースケール**および**モノクロ**のドロップダウンメニューを使用して、**カラー/グレースケール**および**モノクロ**のコンテンツにそれぞれ使用する圧縮形式を決定します。
- スライダを使用して、圧縮コンテンツにおける解像度を決定します。
- **フィルタ** 追加するフィルタを決定します。
  - **歪み補正** このフィルタを有効にして、スキャンしたページの歪みを補正します。歪み補正は、曲がってスキャンされたページの端をまっすぐにするために使用されます。
  - **背景の削除** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、スキャンしたページの背景削除についての程度を調整します。これは、グレースケールおよび/またはカラーの入力のページ内のオフホワイトな領域をさらに白くするために使用されます。
  - **モアレ低減** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、スキャンしたページのモアレ低減レベルを調整します。これは、スキャンされたコンテンツが印刷された画像である場合によく見られるハーフトーンのドット模様を除去するために使用されます。
  - **テキストをシャープにする** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、スキャンしたページのテキストをシャープにする程度を調整します。
- **テキスト認識オプション** スキャンしたページで OCR(光学式文字認識)を実行します。
  - **テキストを認識させる** ボックスを選択して、OCR を有効にします。OCR のプロセスでは、スキャンされたコンテンツを分析し、テキストを認識し、それらを選択可能かつ検索可能にします。なお、OCR プロセスの現在の対応言語と精度のレベルは、枠内で詳しく説明されています。**編集**をクリックして、言語を追加/削除したり、精度のレベルを調整したりします。(精度のレベルを下げると、操作の実行にかかる時間が短くなるという利点があります)。
- **デフォルト** ここをクリックすると、**スキャンページの向上・改善**のダイアログボックスのすべての値がデフォルト値に戻ります。

OK をクリックして変更を保存します。

7-5-2. PDF を最適化

PDF を最適化のアクションは、PDF ドキュメントのサイズを最適化します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

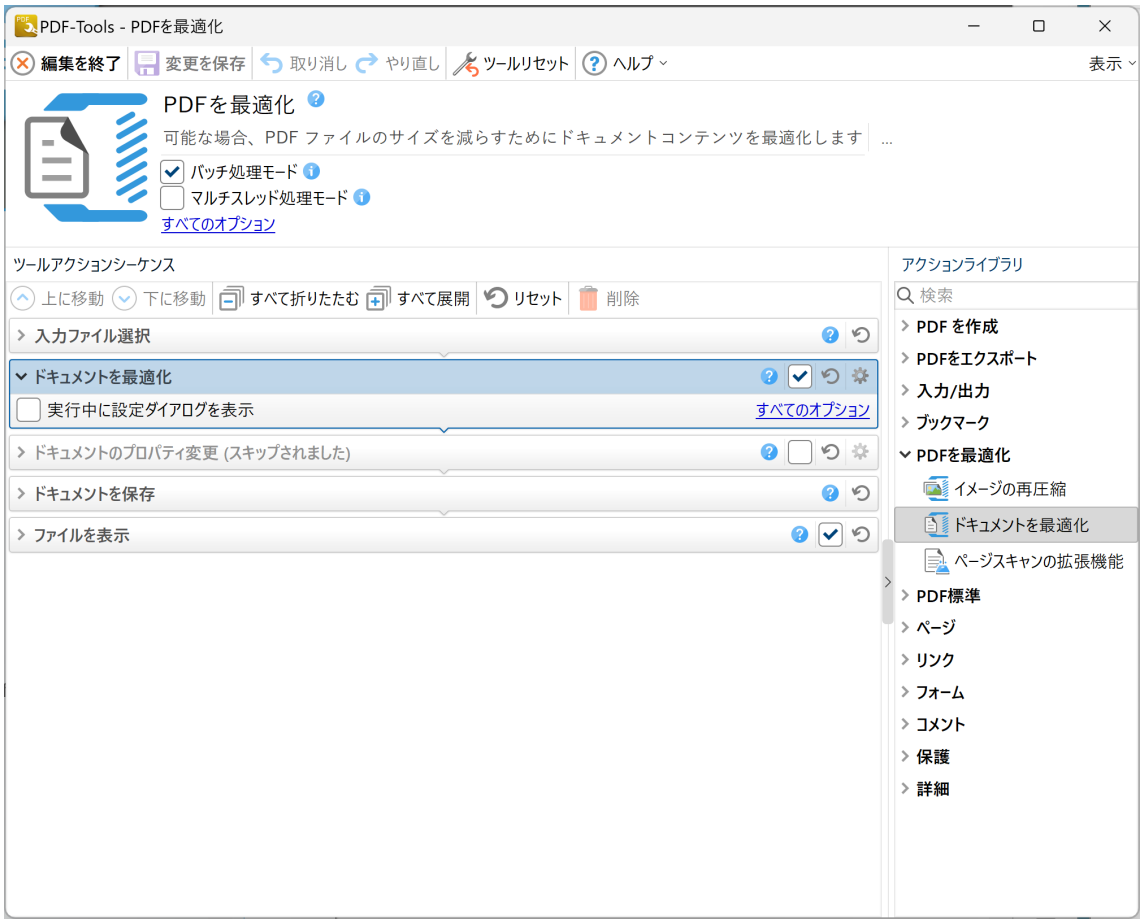

図 1. [PDF を最適化]アクションオプション

- **すべてのオプション**　すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**PDF を最適化**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択して、**PDF を最適化**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。こ

のボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに **PDF を最適化**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

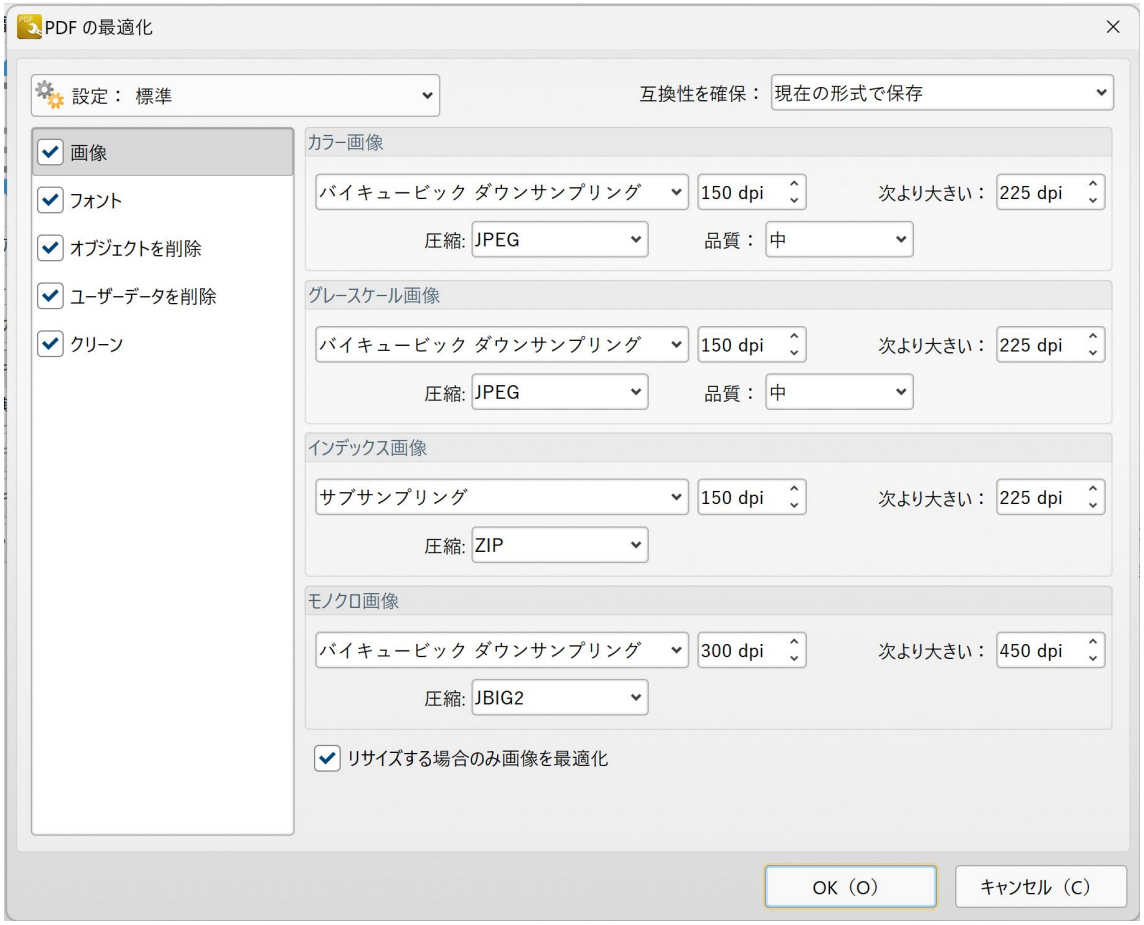

図 2. [PDF を最適化]ダイアログボックス、[画像]タブ

次の設定は、PDF コンテンツを最適化するために使用されます。

画像

画像を最適化するためのオプションについては、**(図 2)** に詳しく説明します。それらは次の通りです。

- **カラー画像**、**グレースケール画像**、**インデックス画像**、**モノクロ画像**のメニューをクリックして、それぞれの画像フォーマットの設定を選択します。

- **バイキュービック・ダウンサンプリング/サブサンプリング・メニュー**をクリックして、画像の解像度を増減します。
- **dpi** のボックスの矢印をクリックするか、手動で値を入力して、新しい画像の dpi での解像度を選択します。
- **次より大きい** ボックスの矢印をクリックするか、手動で値を入力して、画像をダウンサンプリング/サブサンプリングする最小 dpi を選択します。
- **圧縮** メニューをクリックして、画像の圧縮形式を選択します。該当する場合は、**品質**メニューをクリックして圧縮品質を選択します。
- **リサイズされている場合にのみ画像を最適化** デフォルトでこのボックスは選択されています。このボックスをオフにすると、サイズが縮小されていない場合でも画像が最適化されます。

フォント

フォントをクリックして、フォント最適化の設定を決定します。

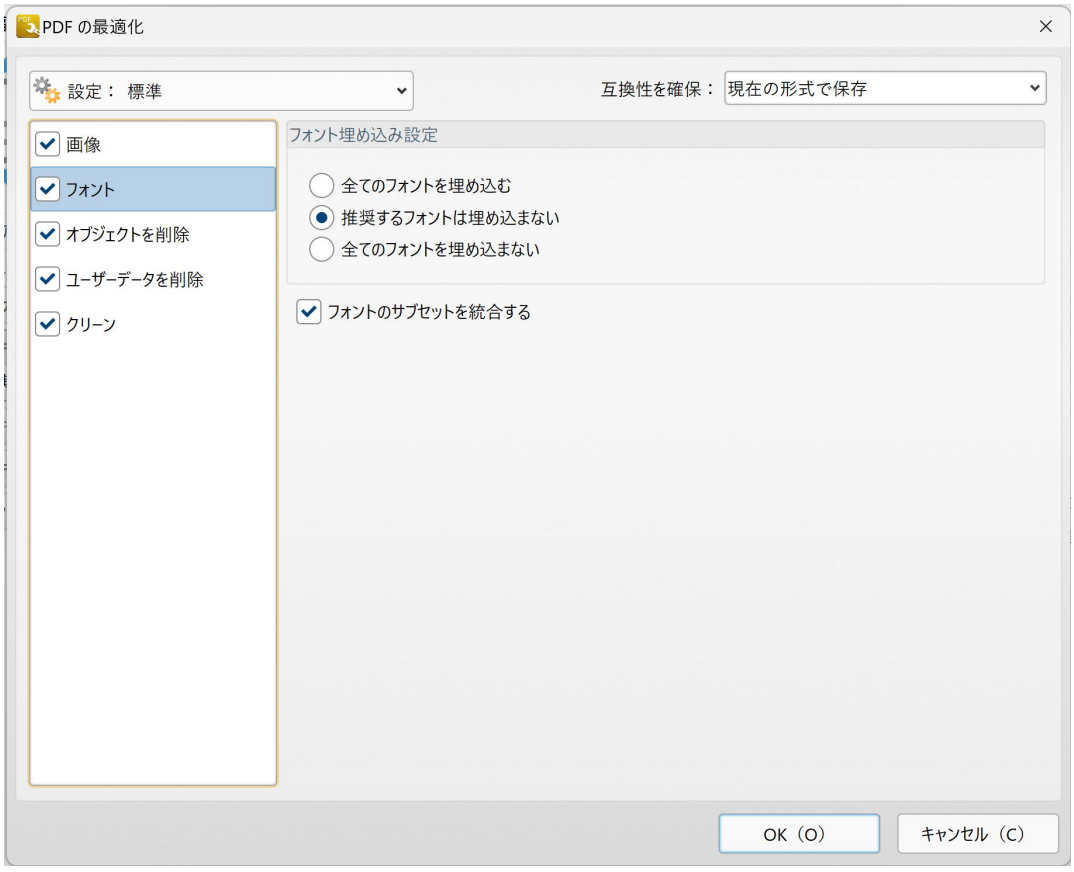

図 3. [PDF を最適化]ダイアログボックス、[フォント]タブ

- **全てのフォント埋め込む**　全ての埋め込みフォントを保持します　。
- **推奨のフォントは埋め込まない**　推奨フォントの埋め込みを解除します。これを選択すると、結果的に最も一般的なフォントが埋め込まれなくなり、ファイルサイズを小さくすることになります。
- **全てのフォントを埋め込まない**　全てのフォントの埋め込みを解除します。これにより、フォントに関する範囲において可能な限りファイルのサイズが小さくなります。ただし、他のユーザーがドキュメントを使用する際の互換性の問題が発生するリスクも高くなります。これは、ドキュメントの表示に使用しているアプリケーションに該当フォントが含まれていなければ、ドキュメントを読み取ることができないためです。したがって、この設定は、ドキュメントに汎用性のあるフォントのみが含まれている場合に限り使用してください。
- **フォントのサブセットを結合する**　ボックスを選択して、重複したフォントのサブセットを統合します。

オブジェクトを削除

オブジェクトを削除をクリックして、オブジェクトを削除するための設定を決定します。

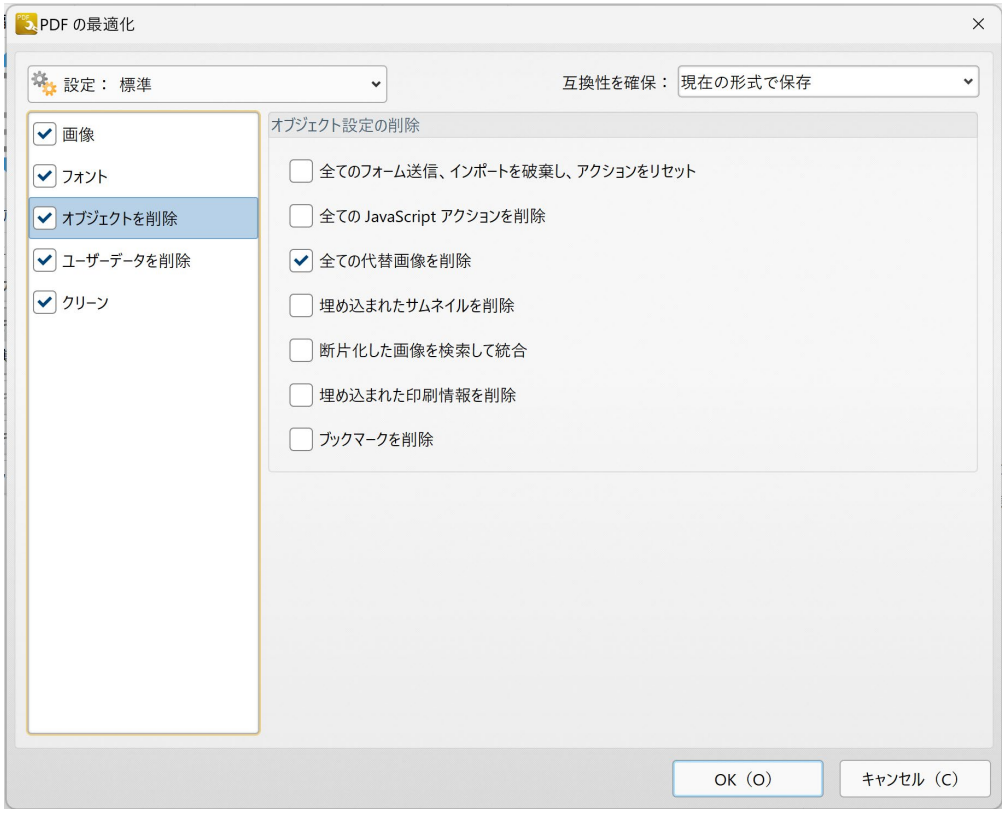

図 4. [PDF を最適化]ダイアログボックス、[オブジェクトを削除]タブ

- **全てのフォーム送信、インポートを破棄し、アクションをリセット**　ボックスを選択して、ドキュメントからこれらの要素を削除します。
- **全ての JavaScript アクションを削除**　ボックスを選択して、ドキュメントから JavaScript アクションを削除します　。
- **全ての代替画像を削除**　ボックスを選択して、ドキュメントから代替画像を削除します。代替画像とは、既存のイメージの別バージョンで、解像度や色空間など、若干異なる場合がありるものです。
- **埋め込まれたサムネイルを削除**　ボックスを選択して、ドキュメントから埋め込まれたページ・サムネイルを削除します。
- **断片化された画像を検索して統合**　ボックスを選択して、断片化された画像を統合します。ただし、一部の画像は、断片化されたセクションで構成され、それらがつなぎ合わされています。これらの断片を統合すると、ファイルサイズが小さくなります。
- **埋め込まれた印刷設定を削除**　ボックスを選択して、ドキュメントが仮想プリンターで作成された場合に残留しているエンコーディングを削除します。
- **ブックマークを削除**　ボックスを選択して、ドキュメントから全てのブックマークを削除します。

ユーザー・データを削除

ユーザー・データを削除をクリックして、ユーザー・データを削除するための設定を決定します。

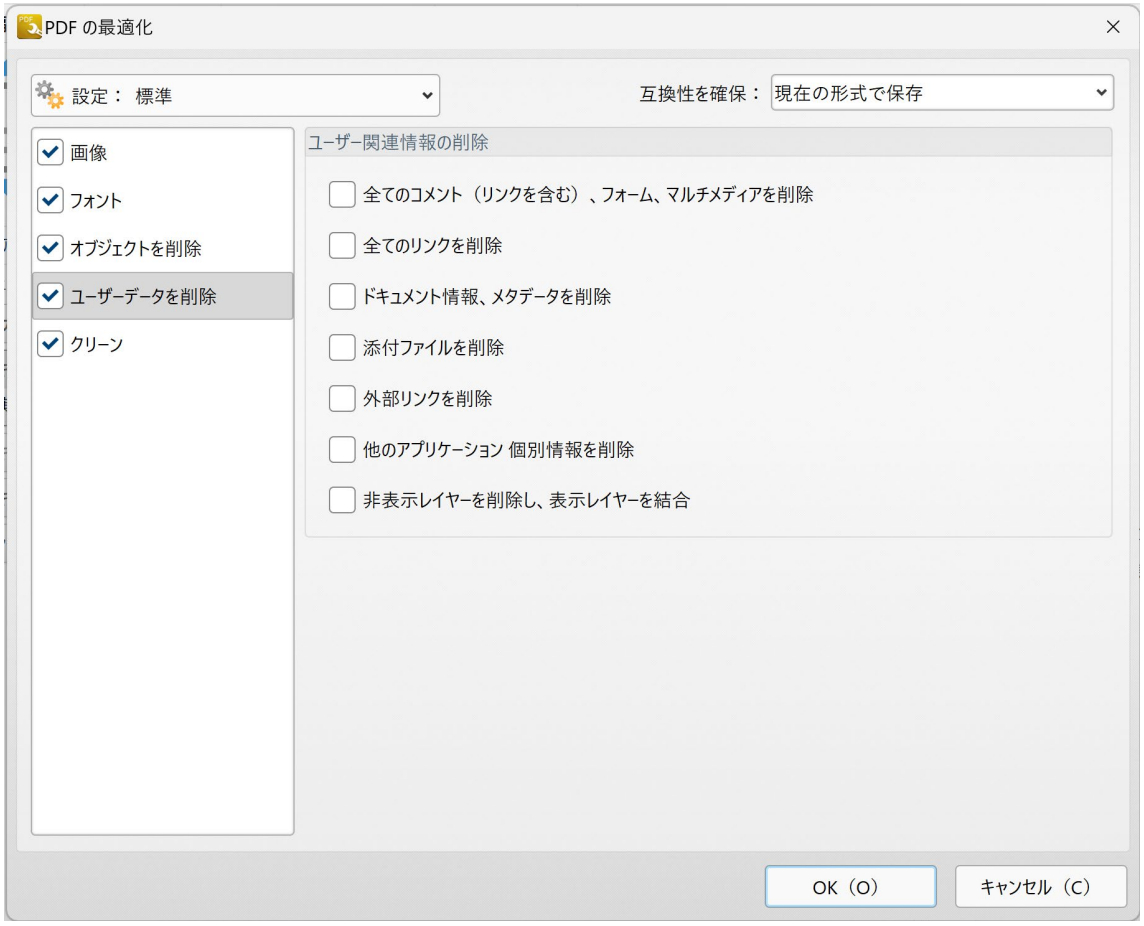

図 5. [PDF を最適化]ダイアログボックス、[ユーザー・データを削除]タブ

- **全てのコメント(リンクを含む)、フォーム、マルチメディアを削除** ボックスを選択して、ドキュメントからこれらの要素を削除します。
- **ドキュメント情報、メタデータを削除** ボックスを選択して、ドキュメントからすべてのメタデータを削除します。
- **添付ファイルを削除** ボックスを選択して、添付/埋め込みファイルをドキュメントから削除します。
- **他のアプリケーションの個別情報を削除** ボックスを選択して、ドキュメントの作成に使用したアプリケーションにのみ役立つ情報をドキュメントから削除します。

・**非表示レイヤーを削除し、可視レイヤーを統合** ボックスを選択して、ドキュメントから非表示レイヤーを削除し、可視レイヤーをベース・コンテンツに統合します。

クリーン

クリーンをクリックして、**クリーンの**オプションを決定します。

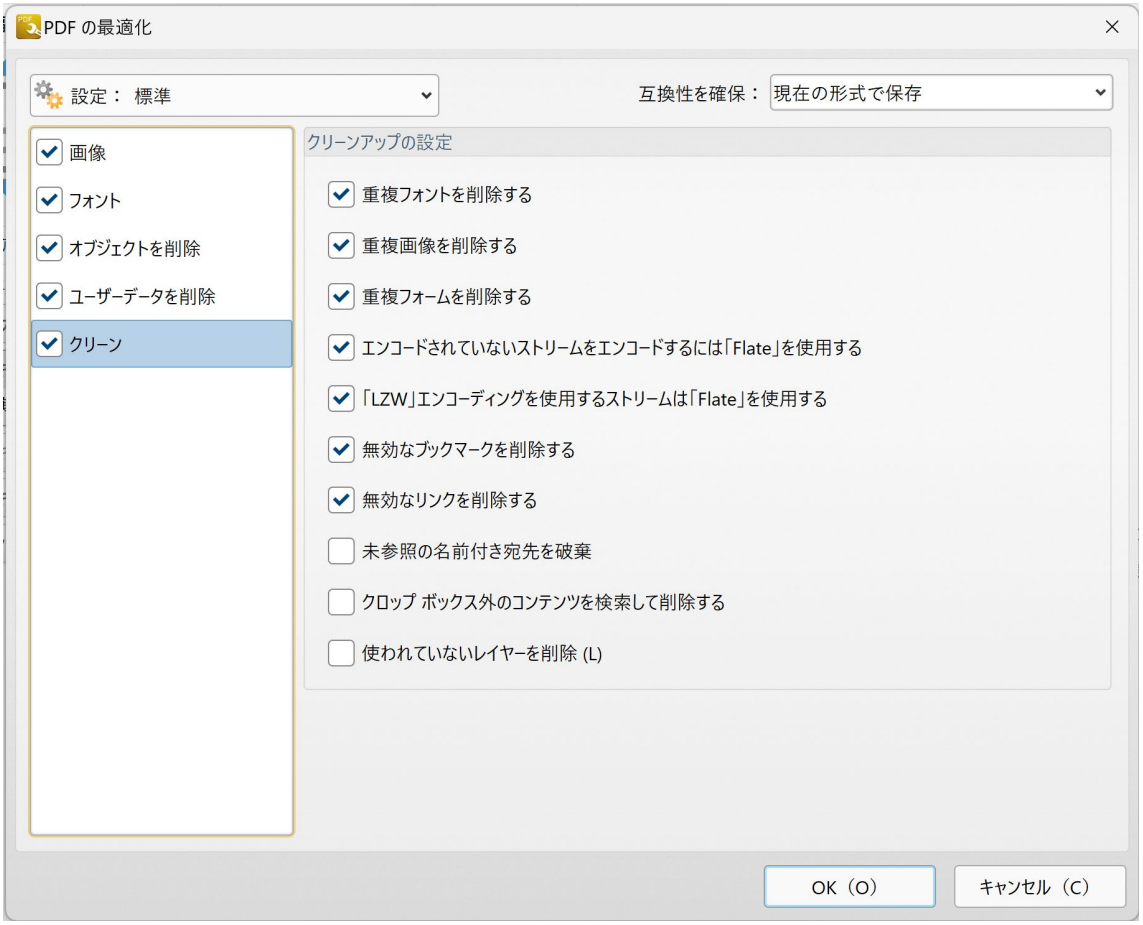

図 6. [PDF を最適化]ダイアログボックス、[クリーン]タブ

- **重複フォントを削除する** ボックスを選択して、ドキュメントから余計なフォントを削除します。
- **重複画像を削除する** ボックスを選択して、文書から重複した画像を削除します。
- **重複フォームを削除する** ボックスを選択して、重複するフォーム（XForms）をドキュメントから削除します。
- **Flate を使用してエンコードされていないストリームをエンコードする** ボックスを選択して、圧縮が保留中のドキュメント情報を圧縮します（Flate 圧縮）。

- **LZW エンコーディングを使用するストリームに Flate を使用する** ボックスを選択して、LZW エンコーディングの代わりに **Flate** 圧縮を使用します。**Flate** は幅広いプラットフォームと互換性があるため、推奨されます。
- **無効なブックマークを削除する** ボックスを選択して、アクションまたは有効な宛先を含まないブックマークを削除します。
- **参照されていない名前付き宛先を削除する** ボックスを選択して、ドキュメントで参照されていない名前付き宛先を削除します。
- **クロップボックス外のコンテンツを検索して削除する** ボックスを選択すると、クロップボックスの外のコンテンツが削除されます。ただし、このコンテンツは、ドキュメントが表示されるときは非表示になります。
- **未使用のレイヤーを削除する** ボックスを選択して、未使用のレイヤーをドキュメントから削除します。

設定

設定 ドロップダウンメニューをクリックして、コンピューターに適した**標準**モードとタブレットや携帯電話に適した**モバイル**モードに切り替えます。

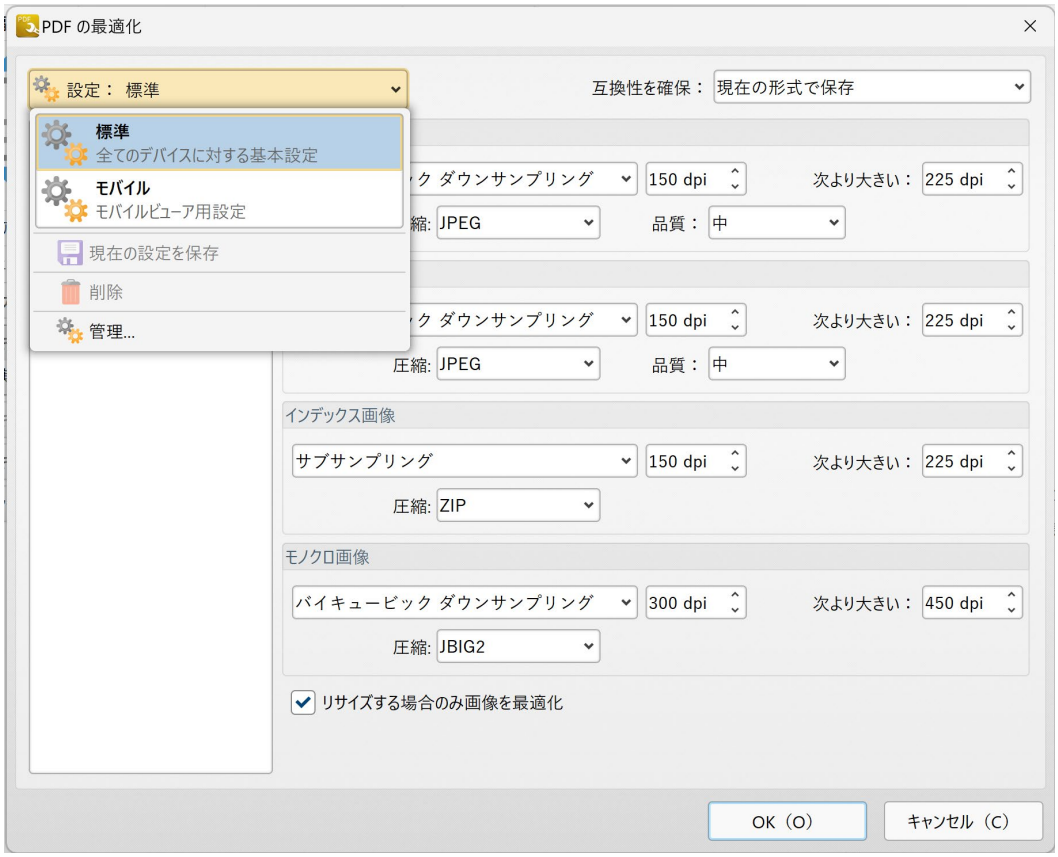

図 7. [PDF を最適化]ダイアログボックス、[設定]ドロップダウンメニュー

設定のドロップダウンメニューは、カスタマイズされた設定を保存、管理、削除するためにも使用されます。

- **現在の設定を保存**　後で使用するためにカスタム設定を保存します。保存されたプロファイルの詳細は、**設定**のドロップダウンメニューに表示されます。
- **削除**　選択したプロファイルを削除します。
- **管理**　保存されたカスタム設定を管理します。以下で説明するように、**プリセッ管理**のダイアログボックスが開きます。

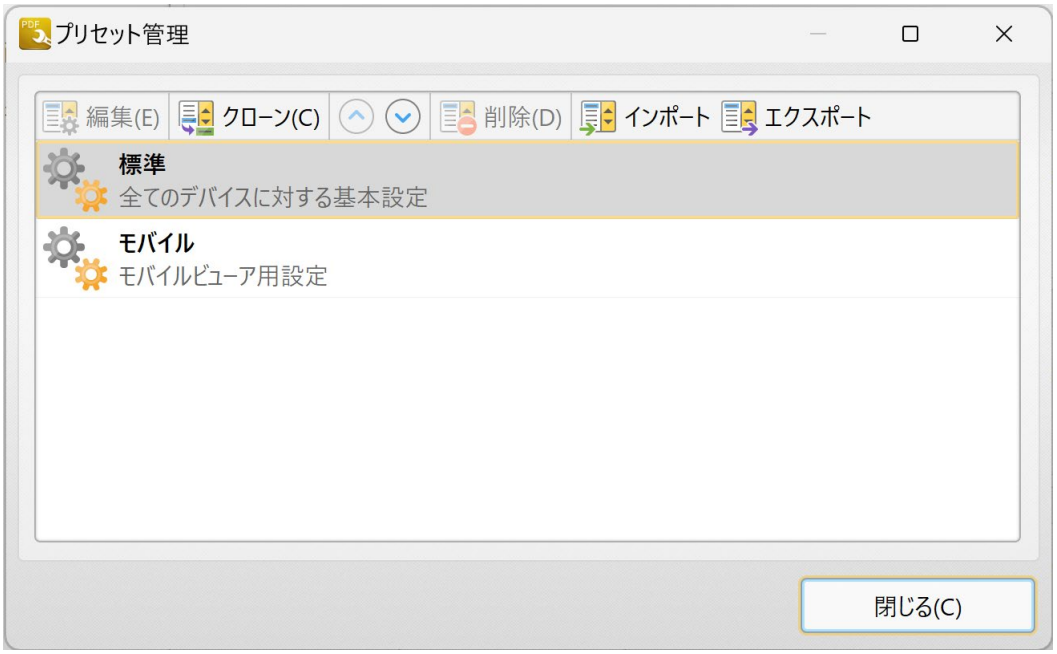

図 8. [プリセット管理]ダイアログボックス

- **編集**　選択したプロファイルを編集します。
- **複製**　選択したプロファイルを複製します。これにより、既存のプロファイルとそのパラメータを保持しながら、プロファイルを複製し、設定をカスタマイズすることができます。
- 上矢印と下矢印を使用して、選択したプロファイルをリスト内で上下に移動します。
- **削除**　選択したプロファイルを削除します。
- **インポート**　保存したファイルからプロファイルをインポートします。
- **エクスポート**　プロファイルをファイルにエクスポートします。

互換性を確保のドロップダウンメニューでオプションを選択して、最適化されたドキュメントを指定したバージョンの PDF と互換性を持つようにします。

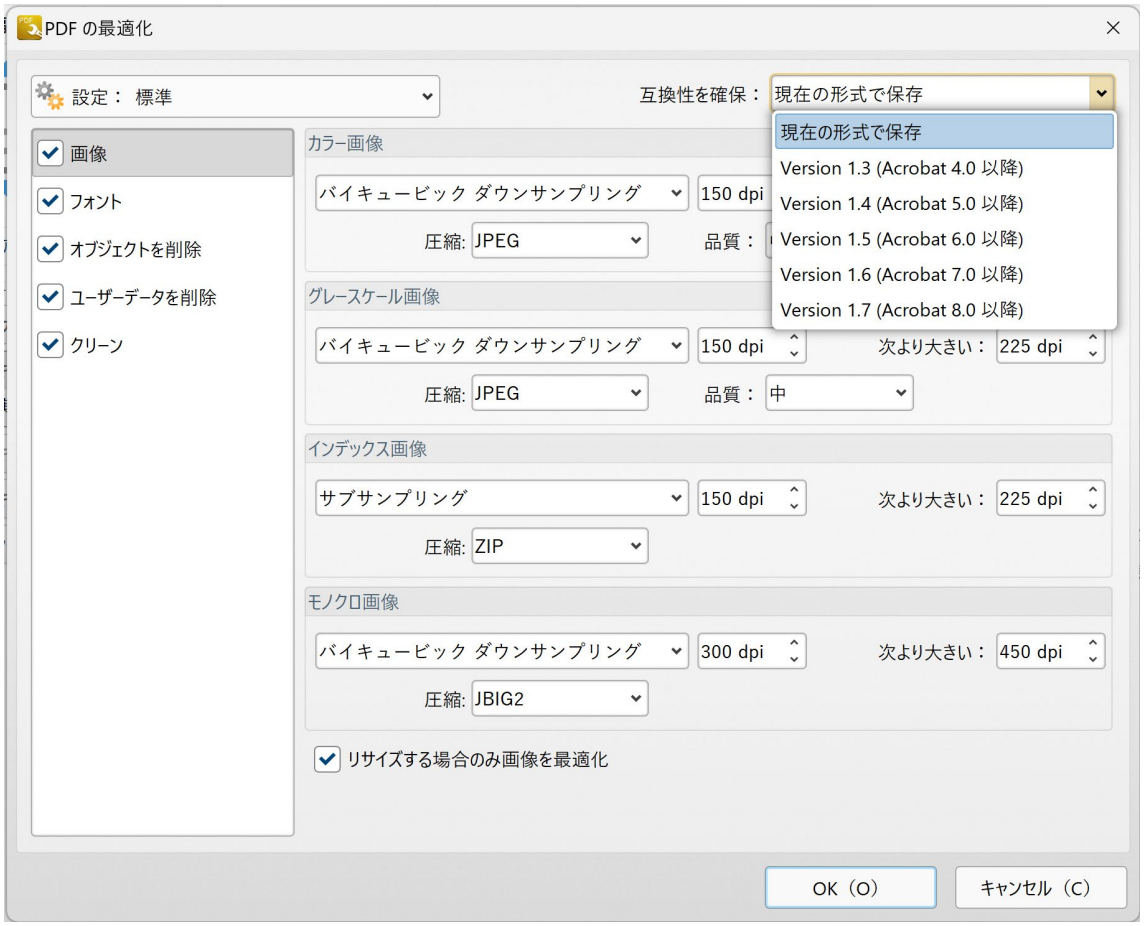

図 9. [PDF を最適化]ダイアログボックス、[互換性を確保]ドロップダウンメニュー

OK をクリックして変更を保存します。

7-5-3. 画像の再圧縮

画像の再圧縮では、ドキュメントのイメージを再圧縮します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

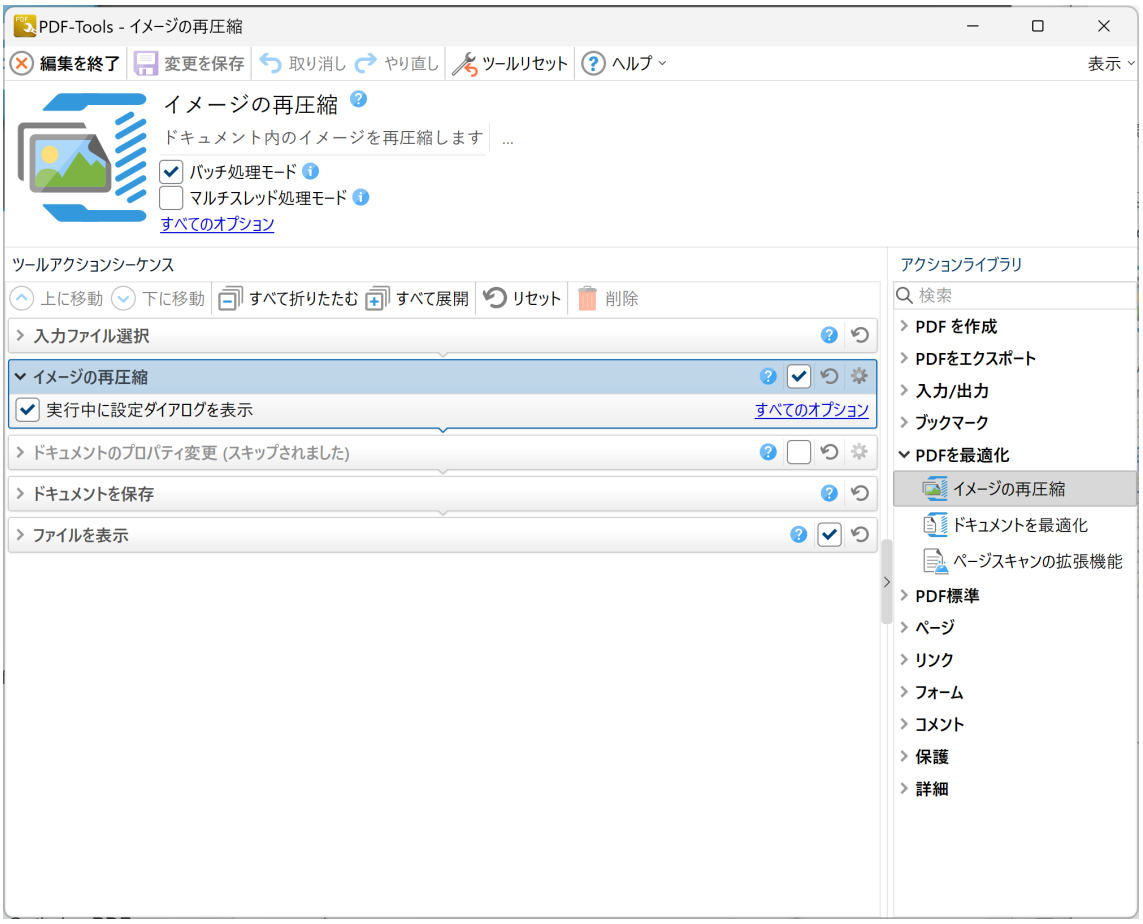

図 1. [画像の再圧縮]アクションオプション

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**画像の再圧縮**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定をダイアログ表示** ここから**画像の再圧縮**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックス

をオフにすると、アクションが使用されるたびに**画像の再圧縮**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

図 2. [画像の再圧縮]ダイアログボックス

- **ページ範囲** このオプションを使用して、再圧縮する画像のページ範囲を決定します。ページ範囲の設定については、**こちら**で詳しく説明します。 また、**選択された**

画像のボタンを選択して、ドキュメントでそのときに選択されている画像のみを再圧縮します。

・表示されている再圧縮オプションを選択して、操作する画像の再圧縮のタイプを決定します。**編集**または**リセット**をクリックすると、再圧縮の設定を編集/リセットできます。

- **すべてのインスタンスを置き換える** ボックスを選択すると、同じドキュメントにグラフィックが複数回表示される場合に、再圧縮される画像のすべてのインスタンスが置き換えられます。
- **新しい画像のサイズが元画像より小さい場合は置き換える** ボックスを選択して、その作成に使用された元画像よりも再圧縮された画像が小さい場合はそれは置き換えるようにします。
- **設定** ドロップダウンメニューから、再圧縮の品質を決定します。品質を上げるとファイルサイズが大きくなり、その逆も同様です。

OK をクリックして変更を保存します。

設定

設定のドロップダウンメニューをクリックして、プリセット・モードを切り替えるか、カスタム設定を保存/管理します。

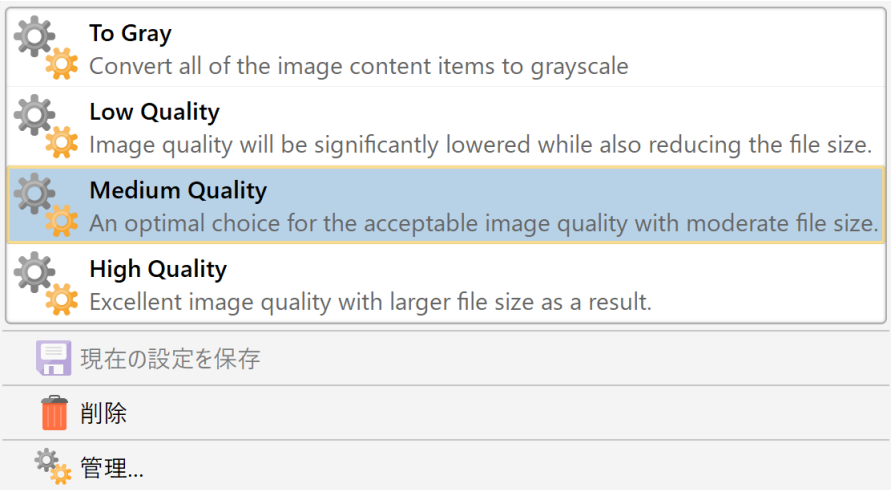

図 3. [画像の再圧縮]プリセット・オプション

- 必要に応じて、リストから現在のモードを選択します。

- **現在の設定を保存**　後で使用するためにカスタム設定を保存します。保存されたプロファイルの詳細は、**設定**のドロップダウンメニューに表示されます。
- **削除**　選択したプロファイルを削除します。
- **管理**　保存されたカスタム設定を管理します。以下で説明するように、**プリセット管理**のダイアログボックスが開きます。

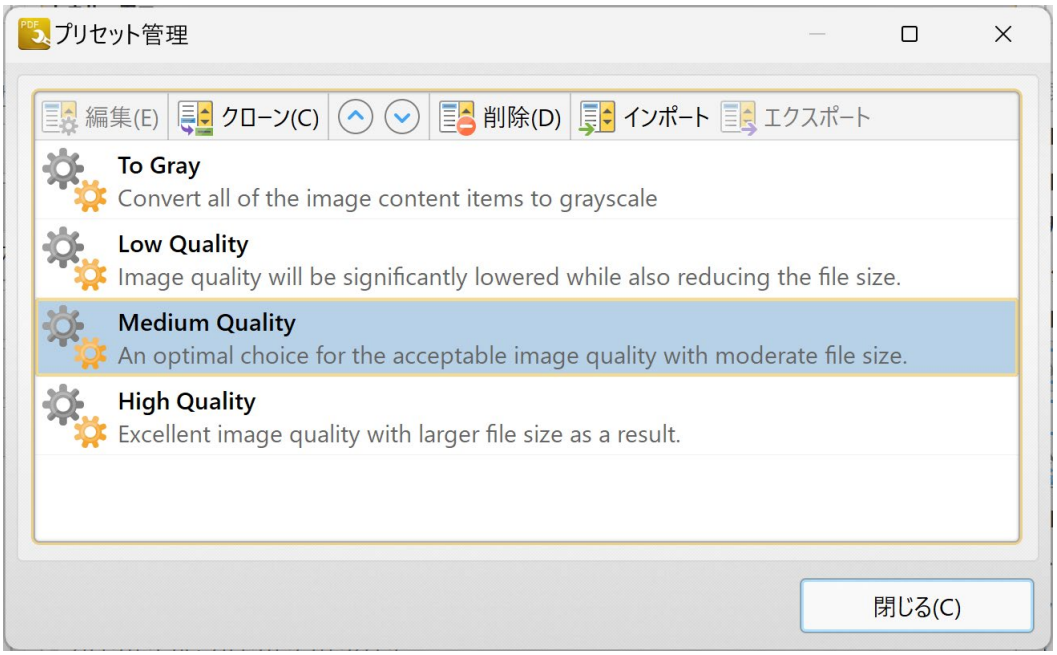

図 4. [プリセットの管理]ダイアログボックス

- **編集**　選択したプロファイルを編集します。
- **複製**　選択したプロファイルを複製します。これにより、プロファイルを複製し、既存のプロファイルとそのパラメータを保持しながら設定をカスタマイズすることができます。
- 上矢印と下矢印を使用して、選択したプロファイルをリスト内で上下に移動します。
- **削除**　選択したプロファイルを削除します。
- **インポート**　保存したファイルからプロファイルをインポートします。
- **エクスポート**　プロファイルをファイルにエクスポートします。

7-6. PDF 規格アクション

PDF 規格のアクションを使用すると、ドキュメントを別の PDF 形式に準拠させることができます。

- **PDF/A に変換** ドキュメントを長期保存の際に使われる PDF/A の形式に準拠させます。
- **PDF/X に変換** ドキュメントを印刷データの交換に使われる PDF/X の規格に準拠させます。
- **特殊な PDF を破棄する** PDF/X、PDF/A、PDF/E などのような特殊な PDF 情報をドキュメントから削除します。

7-6-1. PDF/A に変換

PDF/A に変換のアクションは、長期保存に使用される PDF/A の形式にドキュメントを準拠させます。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

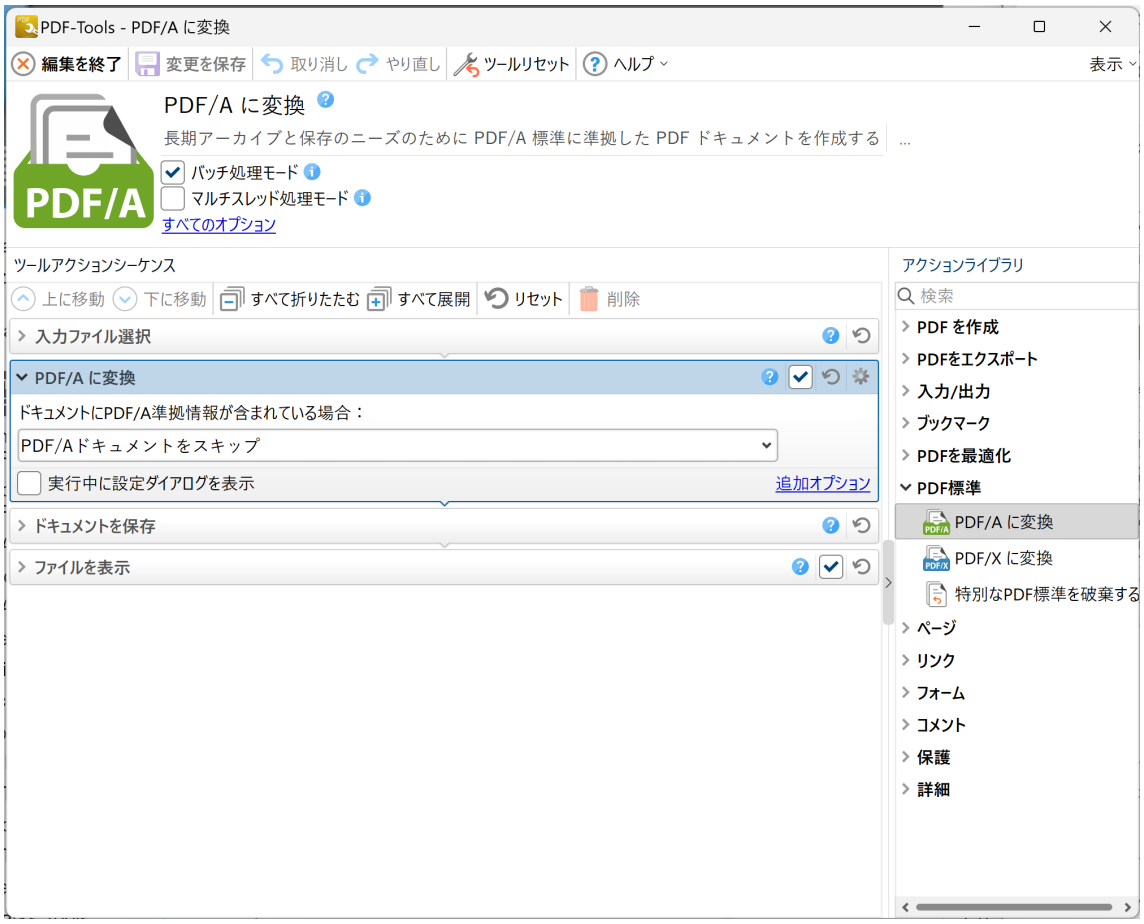

図 1. [PDF/A に変換]アクションオプション

- ドロップダウンメニューでオプションを選択して、入力ドキュメントにすでに PDF/A 情報が含まれている場合に実行されるアクションを決定します。
  - **PDF/ドキュメントをスキップ**　プロセスからドキュメントを除外します。

- **PDF/A ドキュメントを変更せずに保持** ドキュメントの既存のバージョンが保持されます。
- **ドキュメントの再変換** ドキュメントを PDF/A 形式に新規で変換します。

・その他オプション　すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**PDF/A に変換**のダイアログボックスが開きます。

- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**PDF/A に変換**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに **PDF/A に変換**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利な機能です。

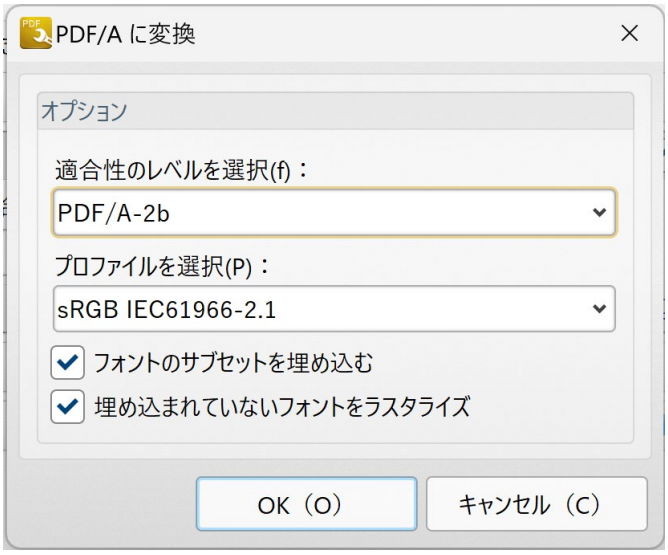

図 2. [PDF/A に変換]ダイアログボックス

- **準拠性を選択** ドロップダウンメニューのオプションを選択から、ファイルの準拠性を決定します。
- **プロファイルを選択** ドロップダウンメニューのオプションから、カラープロファイルを選択します。

・必要に応じて、ボックスの選択/クリアで、**フォントのサブセットを埋め込む**ことや、**埋め込まれていないフォントをラスタライズ**（ビットマップ形式/ラスター形式に）することができます。

OK をクリックして変更を保存します。

7-6-2. PDF/X に変換

PDF/X に変換のアクションは、印刷データの相互交換に使用される PDF/X 規格に準拠したドキュメントを作成します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

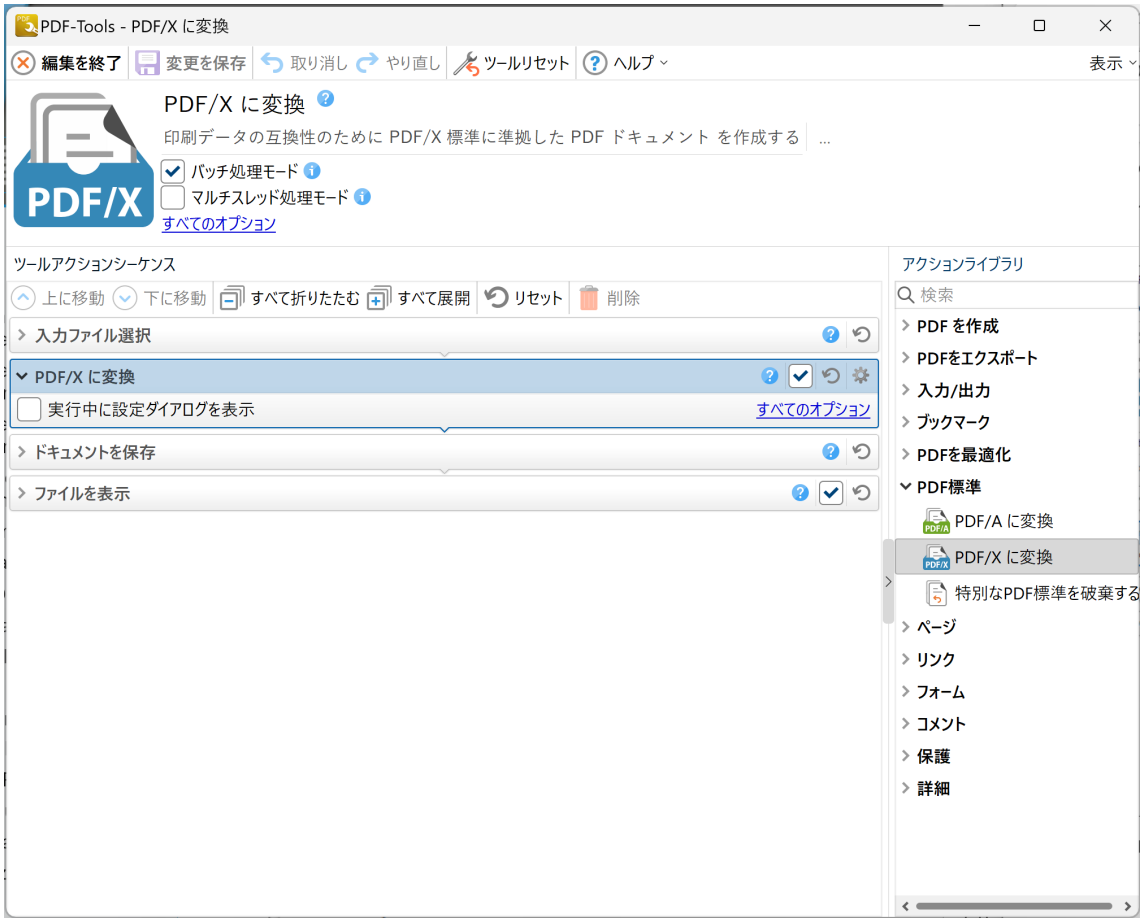

図 1. [PDF/X に変換]アクションオプション

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**PDF/X に変換**のダイアログボックスが開きます。

- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して **PDF/X に変換**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに **PDF/X に変換**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利な機能です。

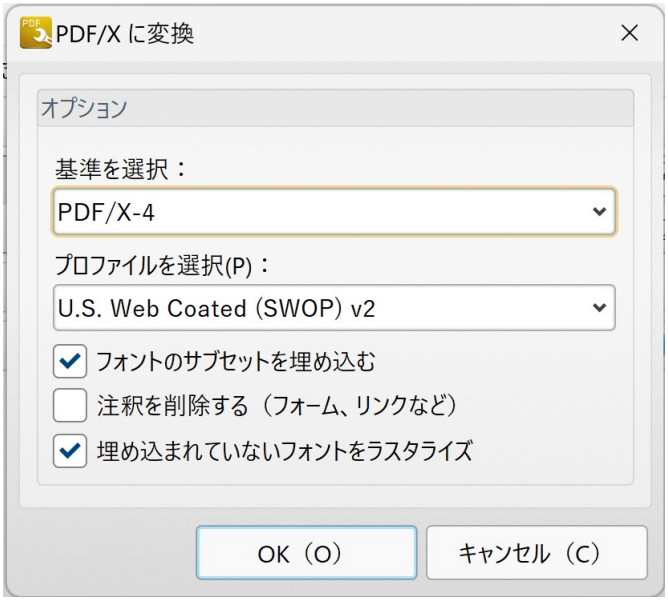

図 2. [PDF/X に変換]ダイアログボックス

- **規格を選択** ドロップダウンメニューを使用して、PDF/X の形式を選択します。
- **プロファイルを選択** ドロップダウンメニューを使用して、カラープロファイルを選択します。
- **フォントのサブセットを埋め込む** ボックスを選択して、出力ドキュメントにフォントのサブセットを埋め込みます。
- **注釈を削除** ボックスを選択し、出力ドキュメント内の注釈を削除します。
- **埋め込まれていないフォントをラスタライズ** ボックスを選択して、埋め込まれていないフォントをラスタライズします。

OK をクリックして変更を保存します。

7-7. ページ・アクション

ページのアクションは、入力ドキュメントのページを編集および改善します。

- **ベイツ番号を追加** 入力ドキュメントにベイツ番号を挿入します。
- **ヘッダとフッタを追加** ヘッダとフッタを入力ドキュメントに挿入します。
- **透かしを追加** 入力ドキュメントに透かしを挿入します。
- **ページ背景を設定** 入力ドキュメントの背景を変更します。
- **ページのトリミング** 入力ドキュメントの寸法、余白、およびページボックスを調整します。
- **ページを削除** 入力ドキュメントのページを削除します。
- **ページを複製** 入力ドキュメントのページを複製します。
- **オーバーレイレイヤーとしてインポート** 既存のファイルをオーバーレイ・ドキュメントにインポートします。
- **空白ページを挿入** 入力ドキュメントに空白ページを挿入します。
- **ページを挿入** 既存のドキュメントのページを入力ドキュメントに挿入します。
- **ページを結合** 複数のページを 1 つのページに結合します。

OCR ページ 入力ドキュメントに対して OCR(光学式文字認識)を実行します。

PDF のオーバーレイ 入力ドキュメントを既存のファイルでオーバーレイします。

ページをラスタライズ 入力ドキュメントのページをラスタライズします。

ベイツ番号を削除 入力ドキュメントからベイツ番号を削除します。

ヘッダとフッタを削除 ヘッダとフッタを入力ドキュメントから削除します。

ページ背景を削除 入力ドキュメントから背景を削除します。

透かしを削除 入力ドキュメントから透かしを削除します。

ページの置換 入力ドキュメントの指定されたページを既存のドキュメントのページに置き換えます。

ページ・リサイズ 入力ドキュメントの指定されたページのサイズを変更します。

ページを回転 入力ドキュメントの指定されたページを回転します。

ページ遷移の設定 全画面表示モードでドキュメントのページ間を移動するときのアニメーション効果を決定します。

ページ分割 入力ドキュメントのページを任意のセクションに分割します。

7-7-1. ベイツ番号を追加

ベイツ番号を追加のアクションは、入力ドキュメントにベイツ番号を挿入します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

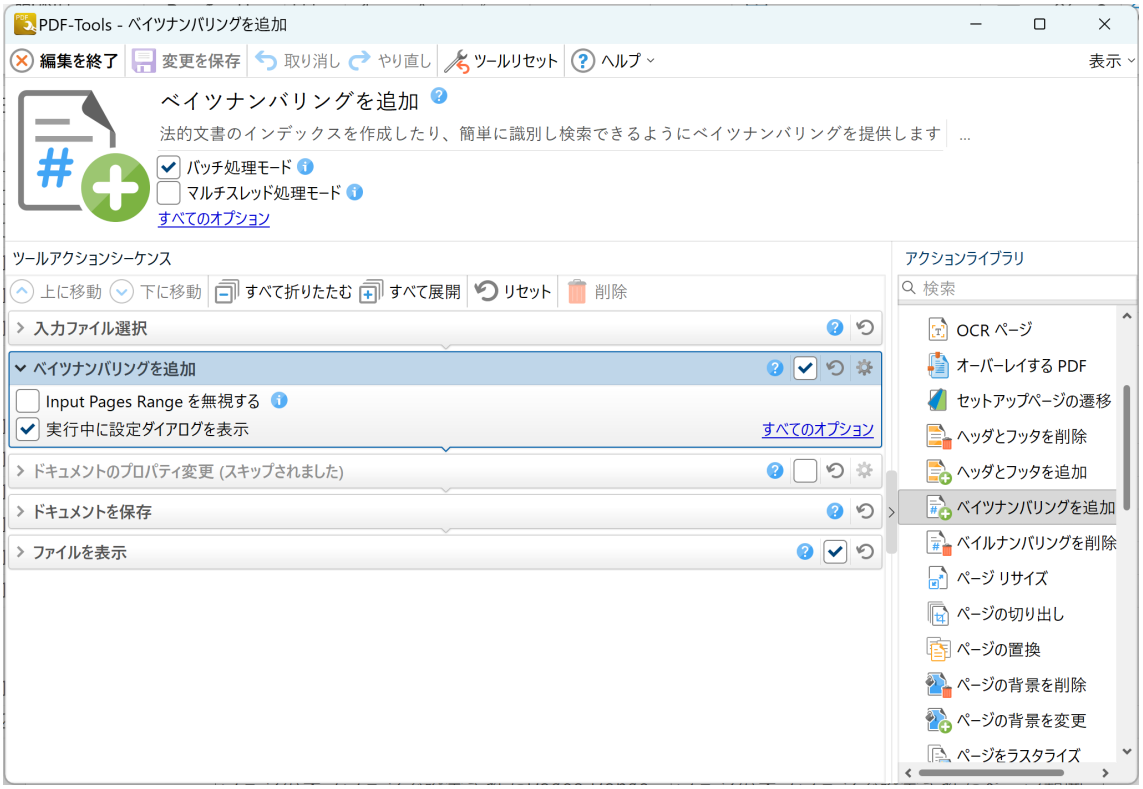

図 1. [ベイツ番号を追加]アクションオプション

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。以下で詳しく説明するとおり、**ベイツ番号を追加**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**ベイツ番号を追加**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ベイツ番号を追加**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

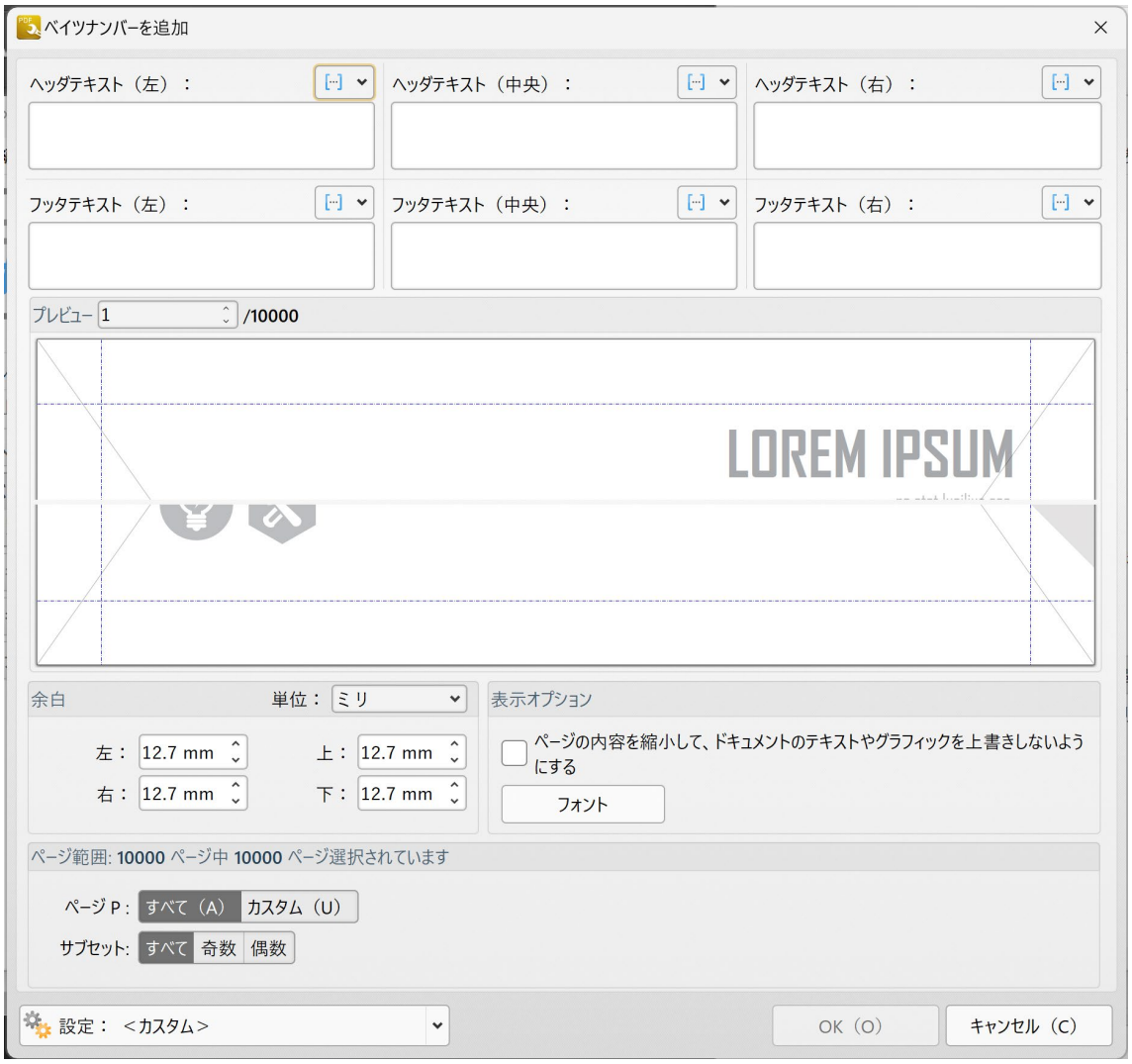

図 2. [ベイツ番号を追加]ダイアログボックス

- テキストボックスにテキストを入力して、左/中央/右にベイツ番号を挿入し、必要に応じてページのヘッダ/フッタとして挿入します。

  または、 のマクロ・アイコンをクリックして、ベイツ番号付けのコンテンツのソースとして**マクロ**を使用します。マクロのドロップダウンメニューで**ベイツナンバリング**（ベイツ番号を追加）を選択して、デフォルトのスタイルでベイツ番号を追加するか、**ベイツナンバー設定**をクリックして使用するベイツ番号付けのスタイルをカスタマイズします。マクロの詳細については、**こちら**を参照してください。
- **余白** ここで、ベイツ番号の位置を変更します。

- **ページの内容を縮小して、ドキュメントのテキストやグラフィックを上書きしないようにする** ボックスを選択すると、ページのコンテンツを縮小する際に、ベイツ番号のナンバリングをそれがドキュメントに追加されたときに既存のページのコンテンツと重複しないようにします。
- **フォント** ベイツ番号付けのフォント設定を決定します**(詳細はこちらを参照)** 。
- **プレビュー** 数値ボックスにページ番号を入力して、プレビューウィンドウでベイツ番号のナンバリングのプレビューを表示します。
- **ページ範囲** オプションをクリックして、ベイツ番号付けが有効となっているドキュメントのページを選択します。ページ範囲の指定の詳細については、**こちら**を参照してください。
- **設定** ドロップダウンの矢印をクリックして、カスタマイズされた設定を保存/削除したり、既存のカスタマイズされた設定を管理したりします。以下で詳しく説明します。

OK をクリックして設定を保存します。

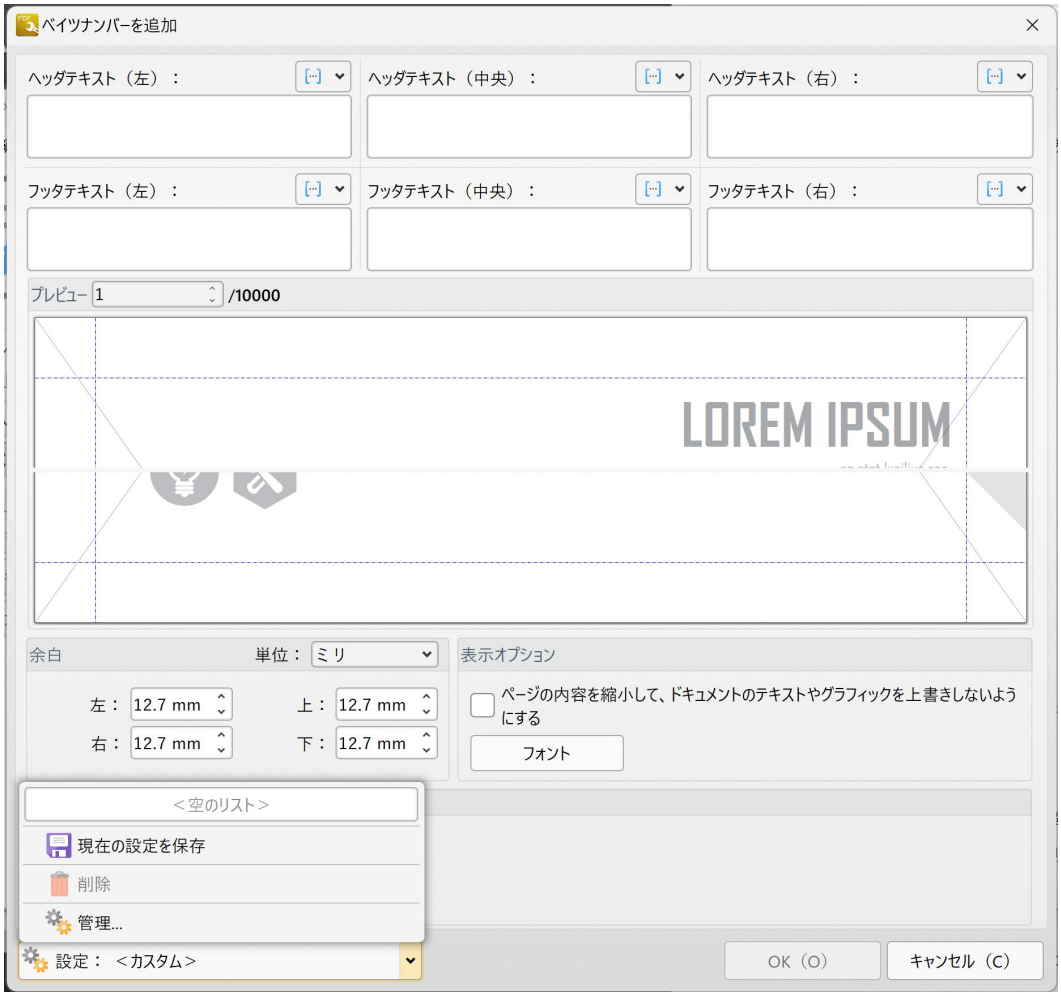

図 3. [ベイツ番号を追加]ダイアログボックス、[設定]ドロップダウンメニュー

- **現在の設定を保存** 後で使用できるように現在の設定をプロファイルに保存します。
- **削除** 現在のプロファイルを削除します。
- **管理** 保存されたプロファイルを管理します。**プリセット管理**のダイアログボックスが開きます。

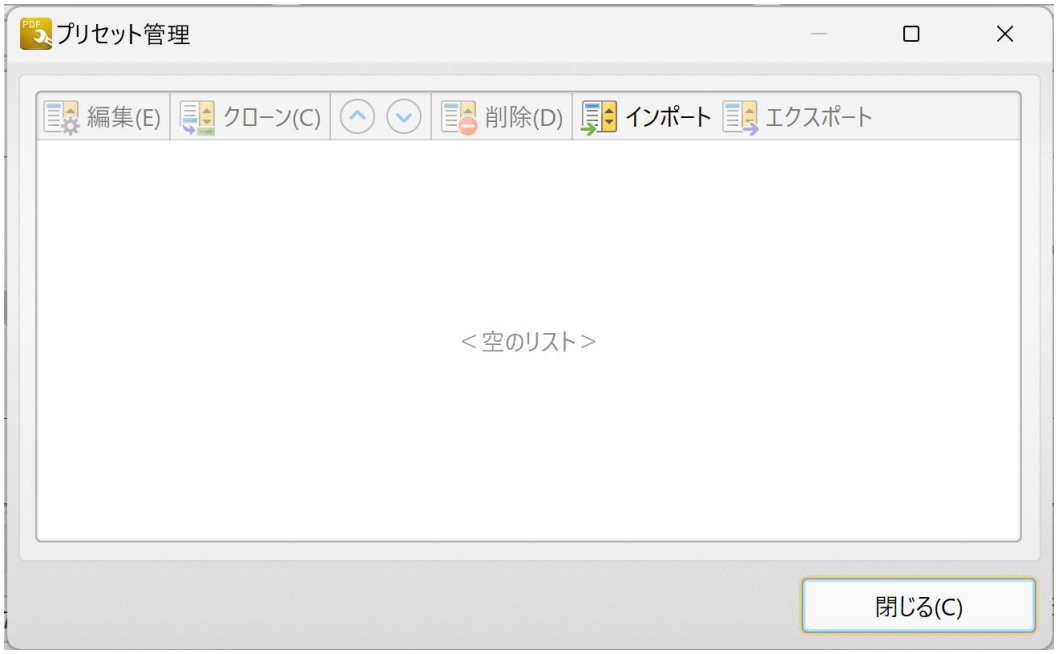

図 4. [プリセット管理]ダイアログボックス

- **編集** 選択したプロファイルを編集します。
- **複製** 選択したプロファイルを複製します。
- 上下の矢印を使用して、選択したプロファイルをリスト内で上下に移動します。
- **削除** 選択したプロファイルを削除します。
- **インポート** 保存したファイルからプロファイルをインポートします。
- **エクスポート** プロファイルをファイルにエクスポートします。

7-7-2. ヘッダとフッタを追加

ヘッダとフッタを追加のアクションは、ヘッダとフッタを入力ドキュメントに挿入します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

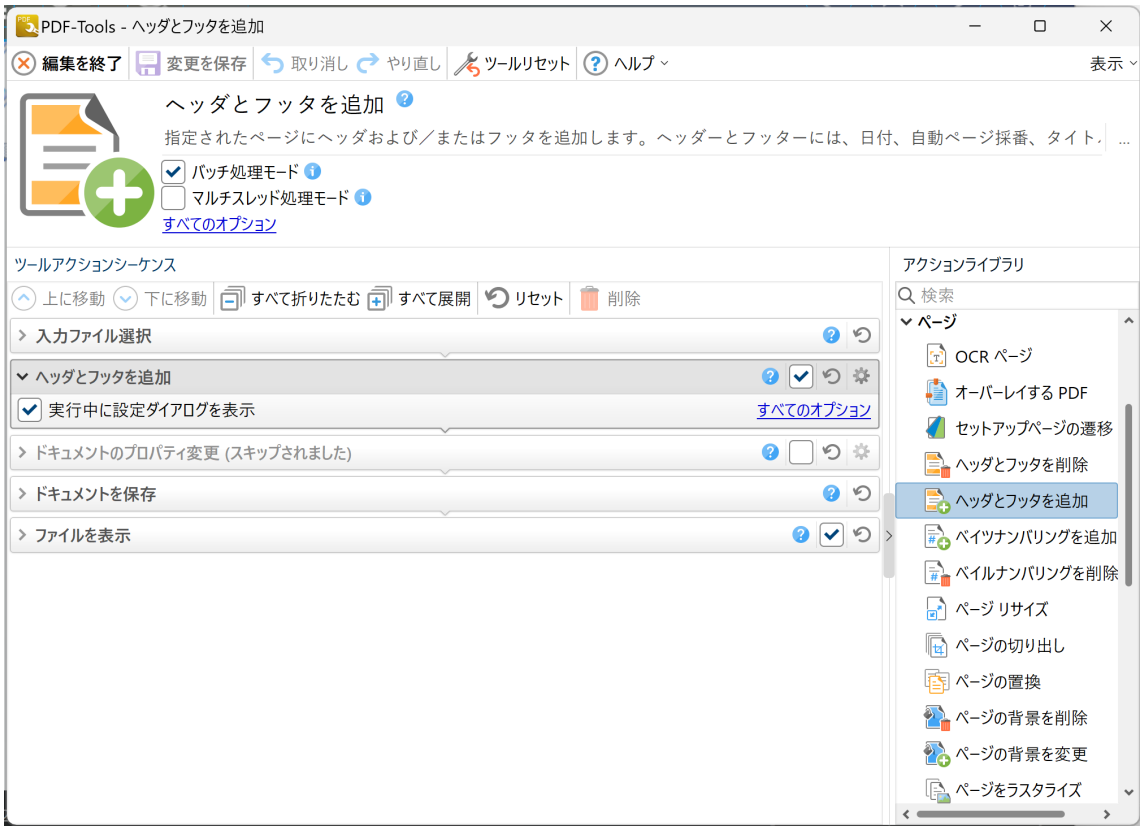

図 1. [ヘッダとフッタを追加]アクションオプション

- **すべてのオプション**　その他のオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**ヘッダとフッタを追加**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択し、**ヘッダとフッタを追加**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ヘッダとフッタを**

追加のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

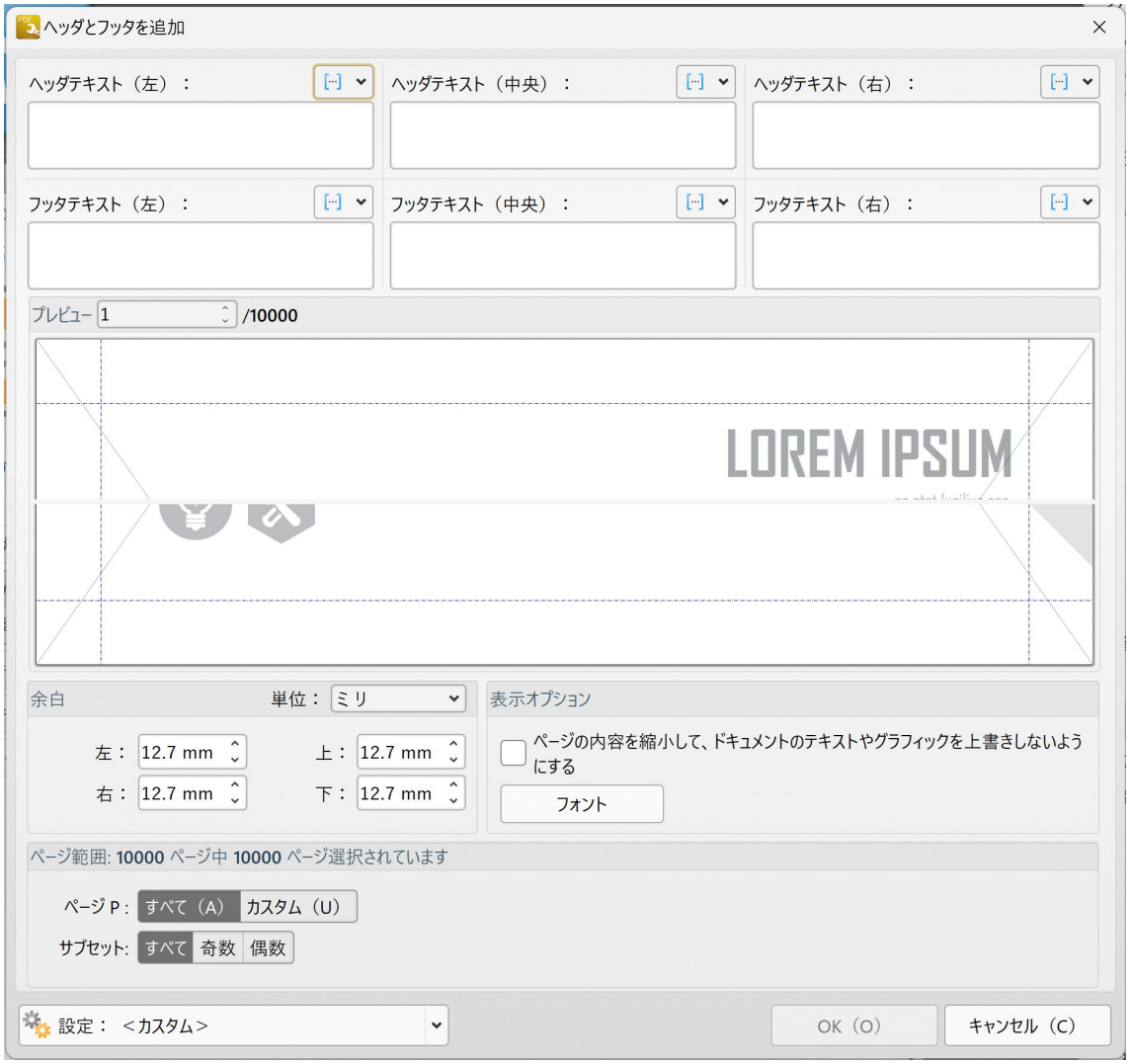

図 2. [ヘッダとフッタを追加]ダイアログボックス

- テキストボックスにテキストを入力して、ドキュメントの左/中央/右側にヘッダ/フッタを挿入します。

  または、 マクロ・アイコンをクリックして、マクロでヘッダ/フッタの元となる内容を選びます。現在のページ番号の書式は、マクロのドロップダウンメニューで詳しく説明されています。**ページ番号の書式を編集**をクリックして、ページ番号の書式を変更します。マクロの詳細については、**こちら**を参照してください。
- **余白** ここで、ヘッダとフッタの位置を変更します。

- **ページの内容を縮小して、ドキュメントのテキストやグラフィックを上書きしないようにする** ボックスを選択すると、ページのコンテンツを縮小する際に、ヘッダとフッタをそれらがドキュメントに追加されたときに既存のページのコンテンツと重複しないようにします。
- **フォント** ヘッダ/フッタのフォント設定を決定します**(詳細はこちらを参照)** 。
- **プレビュー** ページ番号ボックスにページ番号を入力して、プレビューウィンドウでヘッダ/フッタのプレビューを表示します。
- **ページ範囲** オプションをクリックして、ヘッダ/フッタを表示するドキュメントのページを選択します。ページ範囲の指定の詳細については、**こちらを参照してください。**
- **設定** ドロップダウン矢印をクリックして、カスタマイズされた設定を保存/削除したり、既存のカスタマイズされた設定を管理したりします(以下で詳しく説明します)。

OK をクリックして設定を保存します。

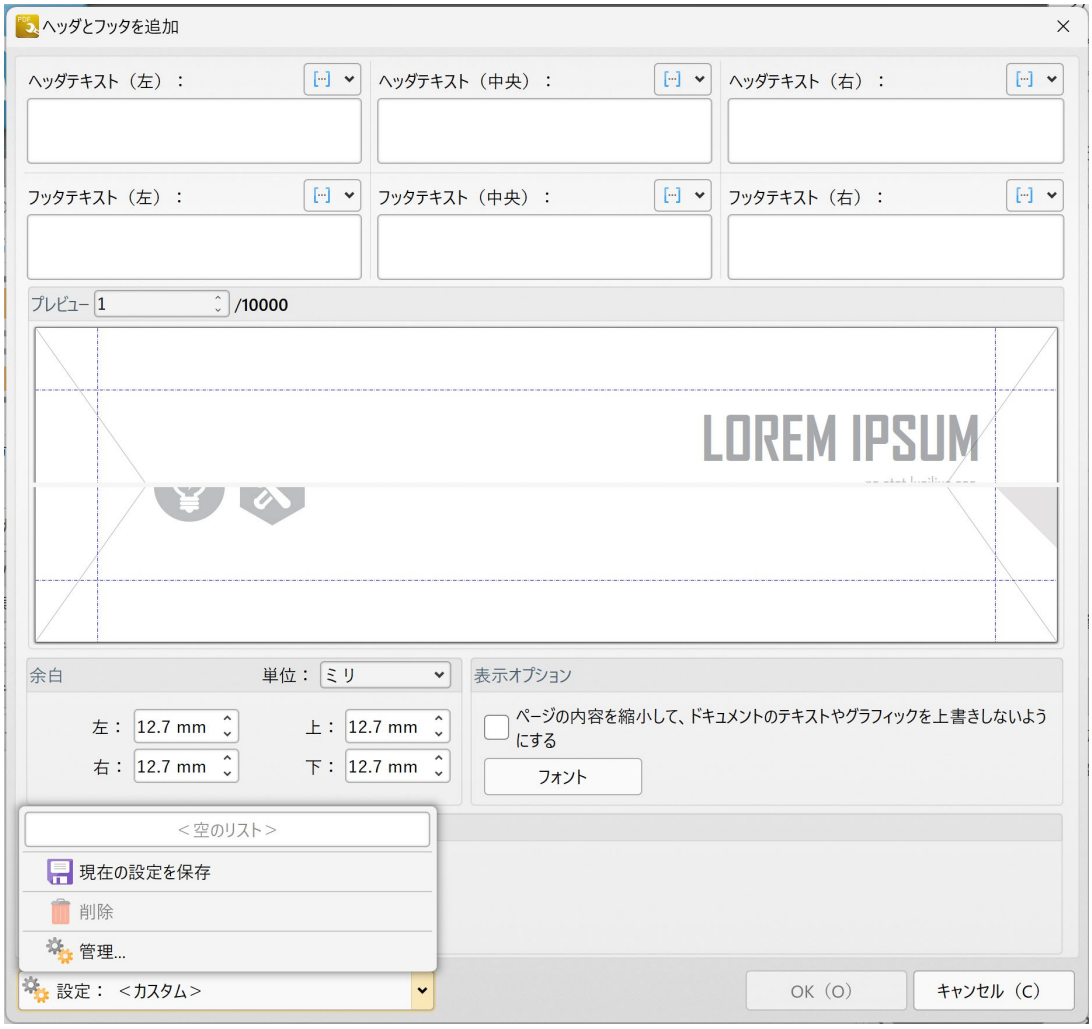

図 3. [ヘッダとフッタを追加]ダイアログボックス、[設定]ドロップダウンメニュー

- **現在の設定を保存** 後で使用できるように、現在の設定をプロファイルに保存します。
- **削除** 現在のプロファイルを削除します。
- **管理** 保存されたプロファイルを管理します。プリセットの管理ダイアログボックスが開きます。

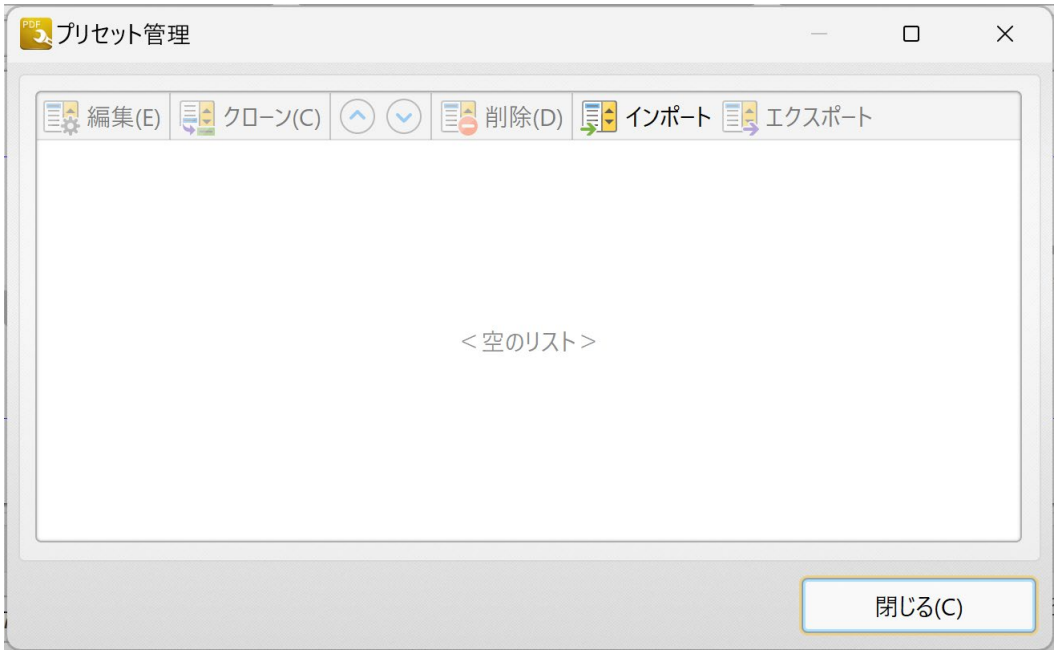

図 4. [プリセット管理]ダイアログボックス

- **編集** 選択したプロファイルを編集します。
- **複製** 選択したプロファイルを複製します。
- 上下の矢印を使用して、選択したプロファイルをリスト内で上下に移動します。
- **削除** 選択したプロファイルを削除します。
- **インポート** 保存したファイルからプロファイルをインポートします。
- **エクスポート** プロファイルをファイルにエクスポートします。

7-7-3. 透かしを追加

透かしを追加のアクションは、入力ドキュメントに透かしを挿入します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

図 1. [透かしを追加]アクションオプション

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**透かしを追加**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**透かしを追加**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**透かしを追加**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

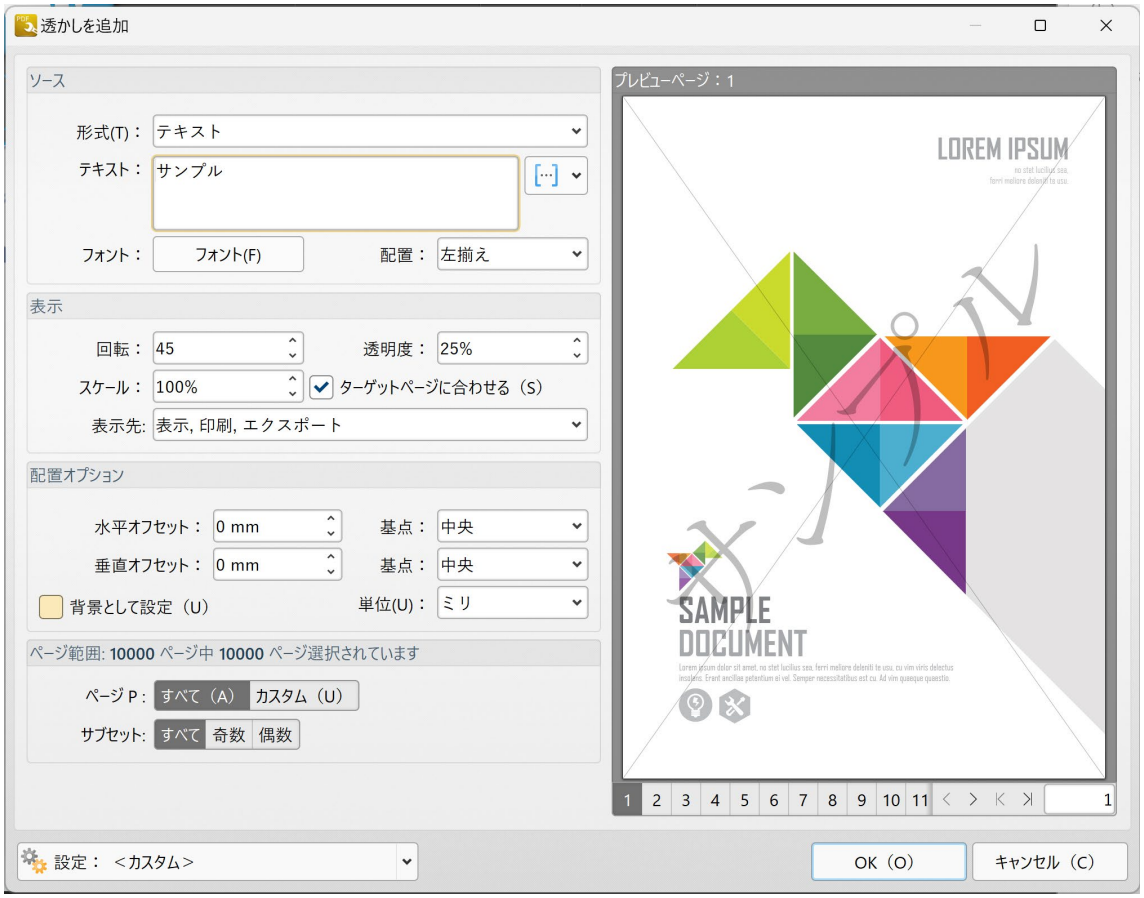

図 2. [透かしを追加]ダイアログボックス

- **ソース** オプションから透かしのソースを決定します。ボックスにテキストを入力するか、ファイルを選択します。フォント、**マクロ**、および配置オプションを使用して、テキストをソースとして使用する際の透かしをカスタマイズします。
- **表示** 透かしの回転、透明度、スケール（縮尺）を決定します。
  - **回転** 透かしの回転（度単位）を決定します。
  - **透明度** 透かしの透明度を決定します。
  - **スケール** 透かしのスケール（縮尺）を決定します。このボックスを選択すると、透かしがターゲットとなるページに合わせて調節されます。このボックスが選択されていない場合、透かしのソースとして使用されている元の画像の縮尺が基準になります。
- **配置オプション** ドキュメントの左、右、または中央からの透かしの水平および/または垂直オフセットを決定します。
- **背景として設定** ボックスを選択すると、ドキュメントの前景ではなく背景に透かしが挿入されます。

- **ページ範囲**
  - **すべて** すべてのページに透かしを追加します。
  - **カスタム** カスタムページの範囲に透かしを追加します。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちら**を参照してください。
  - **サブセット** ここのオプションを使用して、必要に応じて**すべて**のページ、**奇数**ページ、または**偶数**ページを選択します。
- **プレビューページ** このペインには、ページのプレビューが表示されます。ペインの下部にある番号を選択して、対応するドキュメントページをプレビューします。
- **設定** ドロップダウンから以下の説明にあるように、カスタマイズされた設定を保存/削除/管理します。

OK をクリックして変更を保存します。

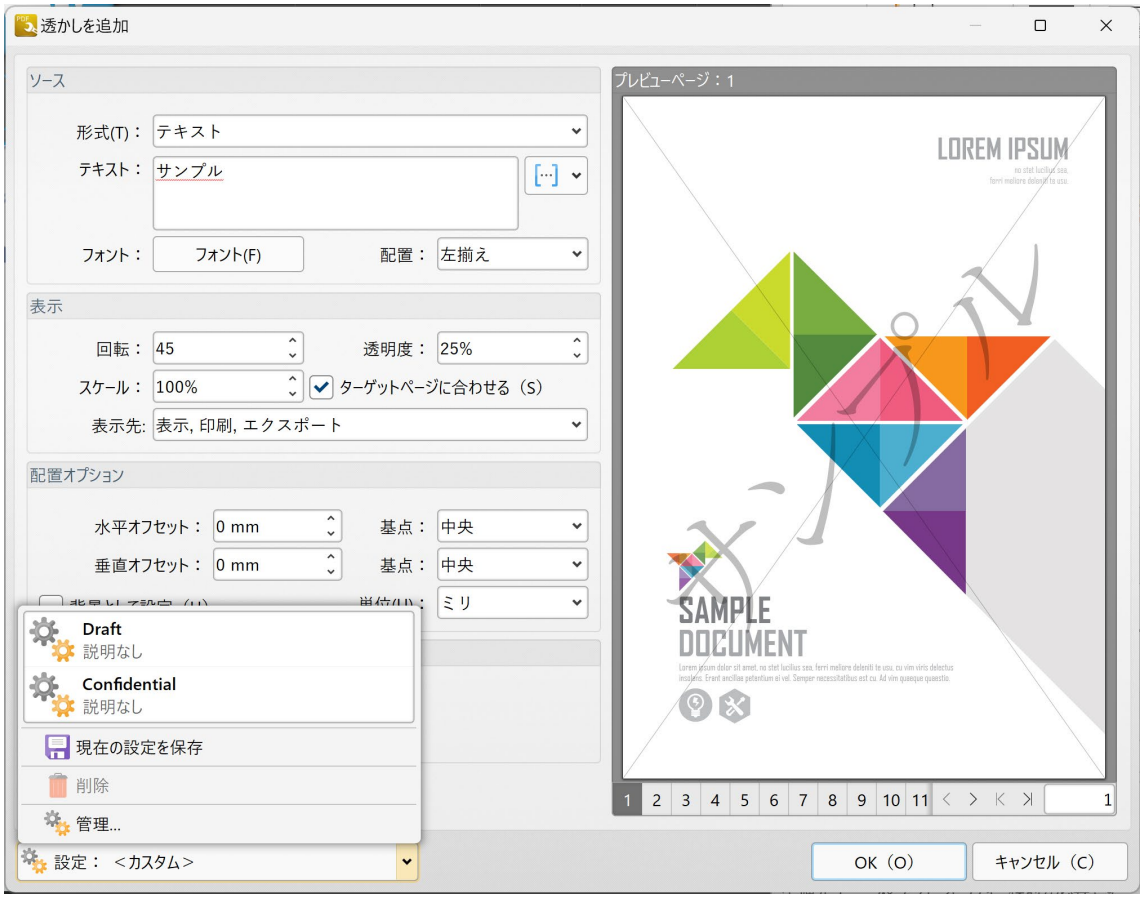

図 3. [透かしを追加]ダイアログボックス、[設定]ドロップダウンメニュー

- **ドラフト**または**機密**をクリックして、これらのプリセットの透かしのプロファイルをロードします。

- **現在の設定を保存** 後で使用できるように現在の設定をプロファイルに保存します。
- **削除** 現在のプロファイルを削除します。
- **管理** 保存されたプロファイルを管理します。**プリセット管理**のダイアログボックスが開きます。

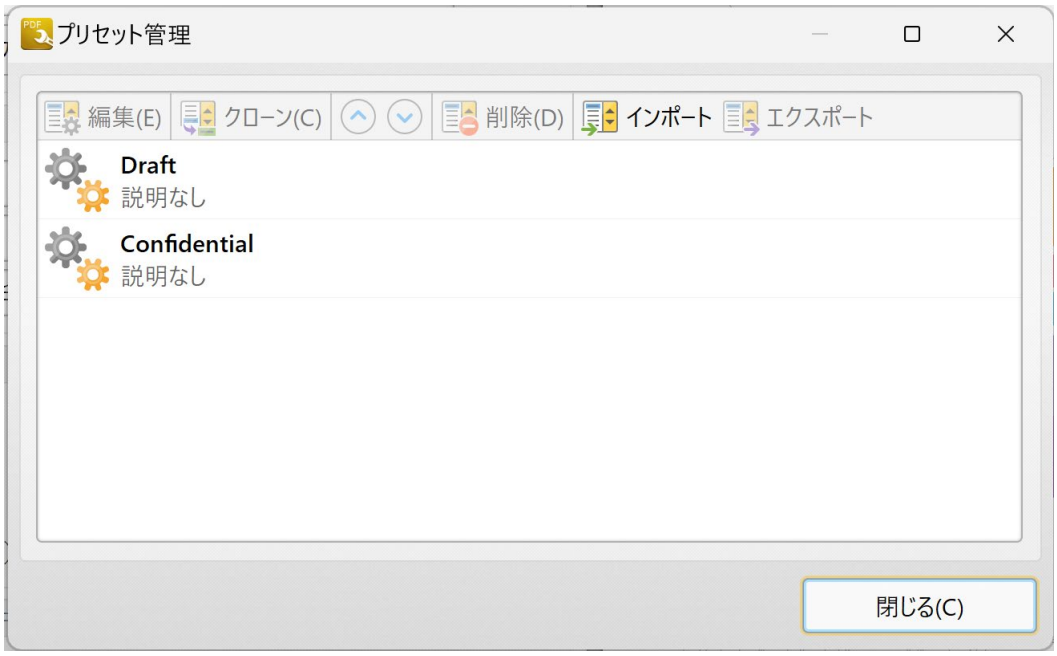

図 4. [プリセットの管理]ダイアログボックス

- **編集** 選択したプロファイルを編集します。プリセット・プロファイルは編集または削除できないので、ご注意してください。
- **複製** 選択したプロファイルを複製します。
- 上下の矢印を使用して、選択したプロファイルをリスト内で上下に移動します。
- **削除** 選択したプロファイルを削除します。
- **インポート** 保存したファイルからプロファイルをインポートします。
- **エクスポート** プロファイルをファイルにエクスポートします。

7-7-4. ページのトリミング

ページのトリミングのアクションは、入力ドキュメントの寸法、余白、およびページボックスを調整します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

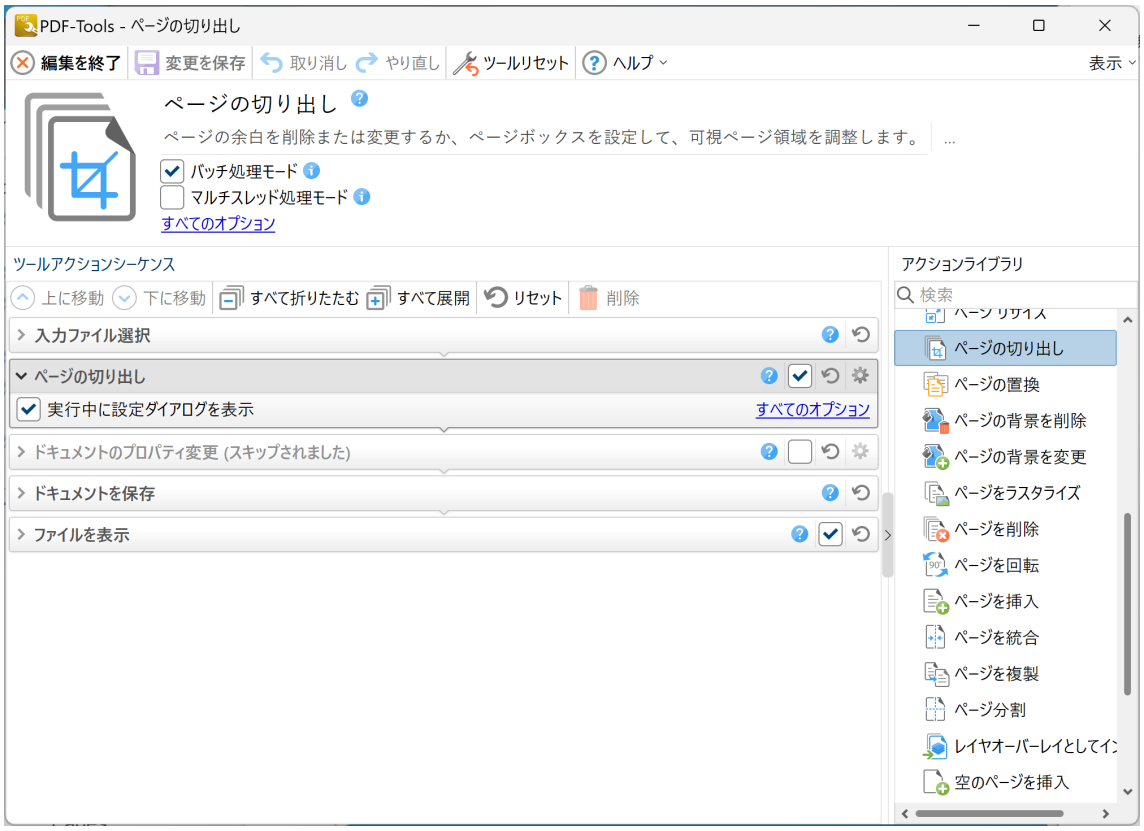

図 1. [ページのトリミング]アクションオプション

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。 以下で説明するように、**ページのトリミング**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**ページのトリミング**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ページのトリミング**

のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

図 2. [ページのトリミング]ダイアログボックス

PDF ドキュメントでは、イメージプロセッシングを制御する 5 つの境界サイズ（**トリミング・ボックス**、**裁ち落としボックス**、**仕上がりボックス**、**グラフィック・オブジェクト・ボックス**、**出力メディア・ボックス**）が各種ボックスの範囲として定義されています。**PDF-Tools** では、これらのボックスを使用して、**ページのトリミング**機能を適用する際の範囲領域を決定します。以下で説明する**適用ボックス**のドロップダウンメニューを使用してプレビューペインに編集ボックスを表示し、ボックスをクリックしてドラッグするか、数値ボックスを使用して寸法を調整します。編集ボックスの詳細については、**こちら**を参照してください。**ページのトリミング**のダイアログボックスでは、次のオプションを使用できます。

- **すべてのボックスを表示** ここをクリックして、プレビューペインに**トリミング・ボックス**、**裁ち落としボックス**、**仕上がりボックス**、**グラフィック・オブジェクト・ボックス**を表示します。ただし、 **裁ち落としボックス**、**仕上がりボックス**、**グラフィック・オブジェクト・ボックス**は、デフォルトで**トリミング・ボックス**と同じ寸法を使用します。

- **トリミング方法** ドロップダウンメニューを使用して、使用するトリミング方法を決定します。
  - **手動で余白を調整** これによりトリミング余白を決定できます。**適用ボックス**のドロップダウンのメニューをクリックして、プレビューペインに表示します。プレビューペインでボックスをクリックしてドラッグするか、数値ボックスを使用して寸法を調整します。**適用ボックス**のドロップダウンのメニューのチェックボックスをオンにして、**ページのトリミング**の操作に含めます。
  - **すべての余白を削除** ドキュメントからすべての余白を削除する定義済みモードです。
  - **水平方向の余白を削除/垂直方向の余白を削除** 必要に応じて水平/垂直方向の余白を削除する定義済みのモードです。
- **縦横比を固定** ボックスを選択して、余白の比率を固定し維持します。たとえば、**左**ボックスの余白が 5 mm に変更されると、**右**、**上**、**下**ボックスの余白も 5mm に変更されます。
- **ゼロに設定**、**元に戻す**、**余白(白色)に設定** これらを使用して、**適用ボックス**のドロップダウンメニューで選択したボックスにこれらの機能を適用します。
- **トリミングした範囲外にあるコンテンツを削除** ボックスを選択して、**トリミング・ボックス**の外側のコンテンツを削除します。ただし、ページをトリミングすると、表示されるページ・コンテンツは減らされますが、トリミングされたコンテンツはファイルの下にあるコードに残り、たとえば、ドキュメントのページのサイズが大きくなると表示されるようになります。このオプションを選択すると、トリミングされたコンテンツがファイルから削除されます。
- **ページ範囲** ここの設定を使用して、トリミングされたページのページ範囲を決定します。
  - **すべて** すべてのページをトリミングします。
  - **カスタム** カスタムページの範囲をトリミングします。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちら**を参照してください。
  - サブセットオプションを使用して、必要に応じて**すべて**のページ、**奇数**ページ、または**偶数**ページを選択します。

OK をクリックして変更を保存します。

7-7-5. ページを削除

ページを削除のアクションは、入力ドキュメントのページを削除します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

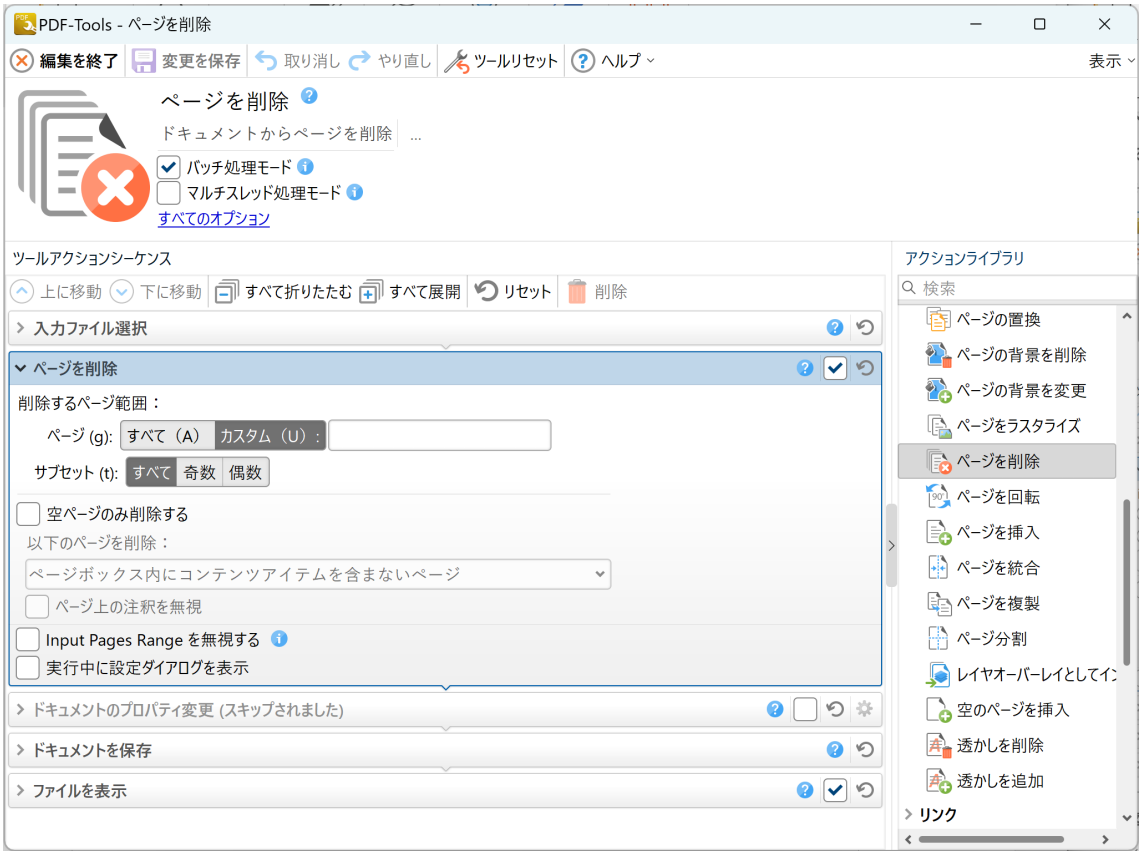

図 1. [ページを削除]アクションオプション

- **削除するページ範囲** 番号ボックスを使用して、削除するページ範囲を決定します。
  - **すべて** すべてのドキュメントページを削除します。
  - **ページ** ここで説明するようにカスタムページの範囲を指定します。
  - カスタムの範囲が指定されている場合は、ドロップダウンメニューでオプションを選択して、ページのサブセットを決定します。

- **空白ページのみを削除する** ボックスを選択し、指定した範囲から空白のページのみを削除します。
- **以下のページの削除** ドロップダウンメニューから特定のタイプのページの削除を指定します。
  - **ページボックス内にコンテンツ・アイテムを含まないページ** ページボックス内にコンテンツの項目が含まれないページのみを削除します。ページボックスは、ここで説明するように、トリミング・ボックスと出力メディア・ボックスの交点として定義されます。
  - **コンテンツ・アイテムを含まないページ** コンテンツ項目を含まないページのみを削除します　。
  - **単色背景のみのページ** 単色の背景のみを含むページが削除されます。
- **ページ上の注釈を無視** ボックスを選択すると、PDF-Tools が削除するページを決定する際に注釈が無視されます。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックス選択で、**ページを削除**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに、**ページを削除**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更を保存をクリックして、設定を保存します。

7-7-6. ページを複製

ページを複製のアクションは、入力ドキュメントのページを複製します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

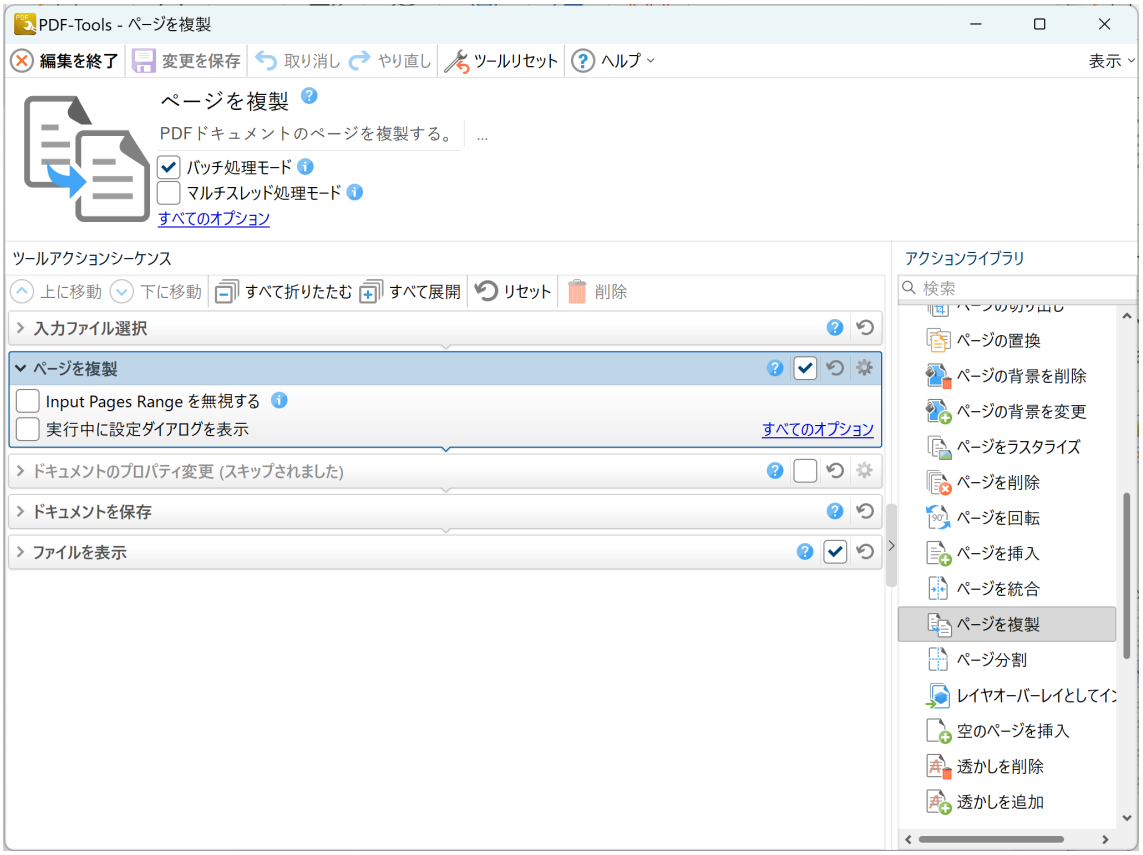

図 1. [ページを複製]アクションオプション

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。 以下で説明するように、**ページを複製**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**ページを複製**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ページを複製**のダイアロ

グボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

図 2. [ページを複製]ダイアログボックス

- **ページ範囲** ここの設定を使用して、複製するページを決定します。
  - **すべて** すべてのページを複製します。
  - **カスタム** カスタムページ範囲を複製します。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちら**を参照してください。
  - **サブセット** ここのオプションを使用して、必要に応じて**すべて**のページ、**奇数**ページ、または**偶数**ページを選択します。
- **挿入先** ここの設定を使用して、複製されたページの挿入位置を指定します。
  - **位置** ドロップダウンメニューで**前**または**後**を選択します。
  - **ページ** 必要に応じて、**最初**のページまたは**最後**のページを選択します。あるいは、**カスタム**を選択して、別のドキュメントページを指定します。
  - **部数** ドロップダウンメニューを使用して、作成する複製の量を決定します。

OK をクリックして設定を保存します。

7-7-7. オーバーレイレイヤーとしてインポート

オーバーレイレイヤーとしてインポートのアクションは、既存のファイルを使用してドキュメントをオーバーレイします。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

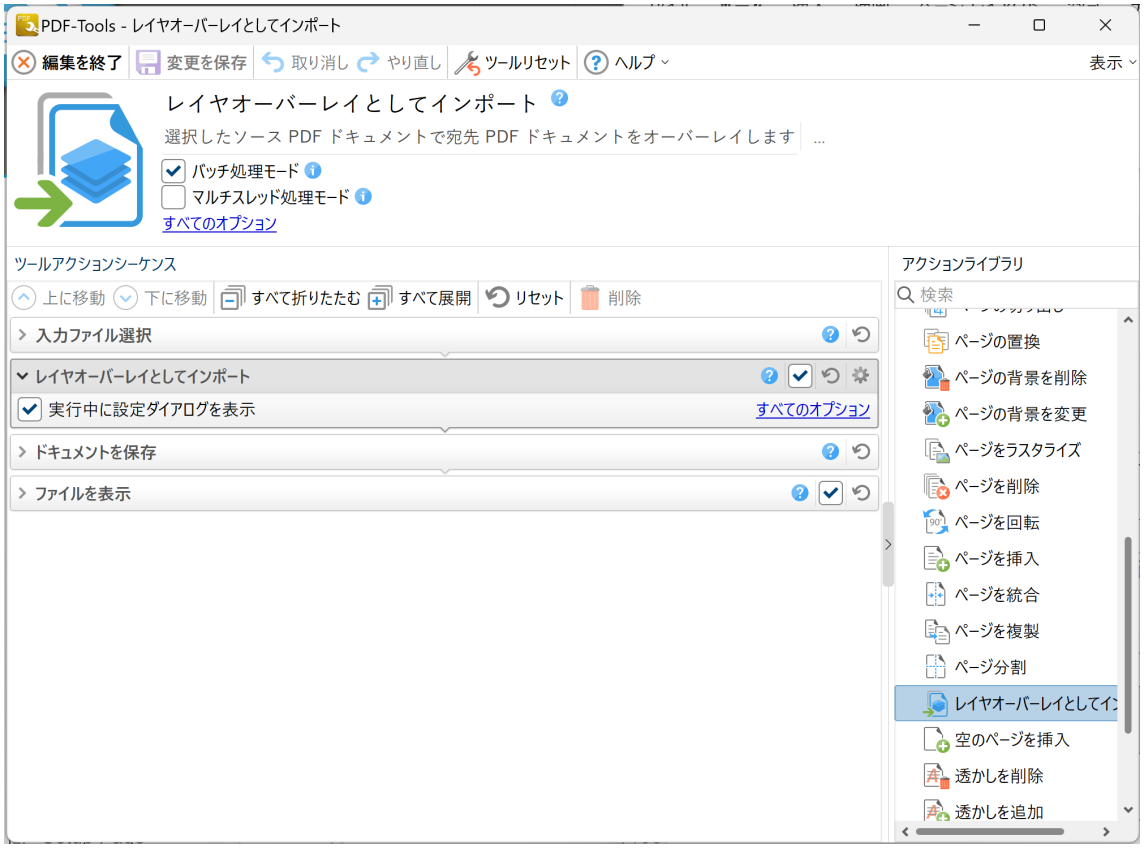

図 1. [オーバーレイレイヤーとしてインポート]アクションオプション

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**レイヤーとしてインポート**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**レイヤーとしてインポート**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**レイヤーとし**

てインポートのダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

図 2. [レイヤーとしてインポート]ダイアログボックス

- **ファイル** ドロップダウンメニューからレイヤーとしてドキュメントにインポートするファイルを選択します。
- **ページ** オプションを使用して、元となるドキュメントから使用するページを決定します。**すべて**をクリックしてすべてのページを使用するか、**カスタム**をクリックして任意のページ範囲を指定します。
- **インポート・オプション** 新しいレイヤーのインポート・オプションを決定します。
  - **新しいレイヤーを作成** 読み込んだコンテンツの新しいレイヤーを作成します。テキストボックスに新しいレイヤーの名前を入力し、**プロパティ**をクリックしてレイヤー・プロパティを決定します。
  - **既存のレイヤーに追加** 読み込んだコンテンツを既存のレイヤーに追加し、ドロップダウンメニューから使いたいレイヤーを選択します。
  - **ソースから対応レイヤーをコピー** 対応するレイヤーをソースドキュメントから現在のドキュメントにコピーします。

- **ソースから対応レイヤーの構造をコピー** レイヤー構造を元のドキュメントから作業中のドキュメントにコピーします。
- **インポート先ページ範囲** オプションを使用して、レイヤーをインポートするページ範囲を決定します。
  - **ページ** ソースドキュメントから使用するページを決定します。**すべて**をクリックして、すべてのページを使用するか、**カスタム**をクリックして任意のページ範囲を指定します。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちら**を参照してください。
  - **ソースの繰り返し** 現在のドキュメントよりもページ数が少ない場合に、ドロップダウンメニューを使用して、ソースドキュメントを繰り返すにあたってのオプションを決定します。
    - **いいえ** 現在のドキュメント内のソースドキュメントのレイヤーの繰り返しを無効にします。
    - **最後に選択したページ** ソースドキュメントで最後に選択したレイヤーを繰り返します。
    - **選択したページを連続して繰り返す** ソースドキュメントで選択したレイヤーが現在のドキュメントをいっぱいにするまで繰り返されます。
  - **表示** 現在のドキュメント内のソースドキュメントのレイヤーの表示のされ方を決定します。
    - **回転** ドロップダウンメニューから、レイヤーの回転を決定します。
    - **透明度** ドロップダウンメニューから、レイヤーの透明度を決定します。
    - **スケール** ドロップダウンメニューから、レイヤーの縮尺を決定します。
  - **配置オプション** レイヤーの配置を決定します。
    - **水平オフセット** 数値ボックスを使用して、レイヤーの水平オフセットを決定します。隣接するドロップダウンを使用して、オフセットの基準となる位置を決定します。
    - **垂直オフセット** 数値ボックスを使用して、レイヤーの垂直オフセットを決定します。隣接するドロップダウンを使用して、オフセットの基準となる位置を決定します。
    - **単位** ドロップダウンメニューから、オフセットの長さの単位を指定します。
    - **背景として設定** ボックスを選択して、レイヤーを背景として読み込みます。

OK をクリックして変更を保存します。

7-7-8. 空白ページを挿入

空白ページを挿入のアクションでは、空白のページを入力ドキュメントに挿入します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

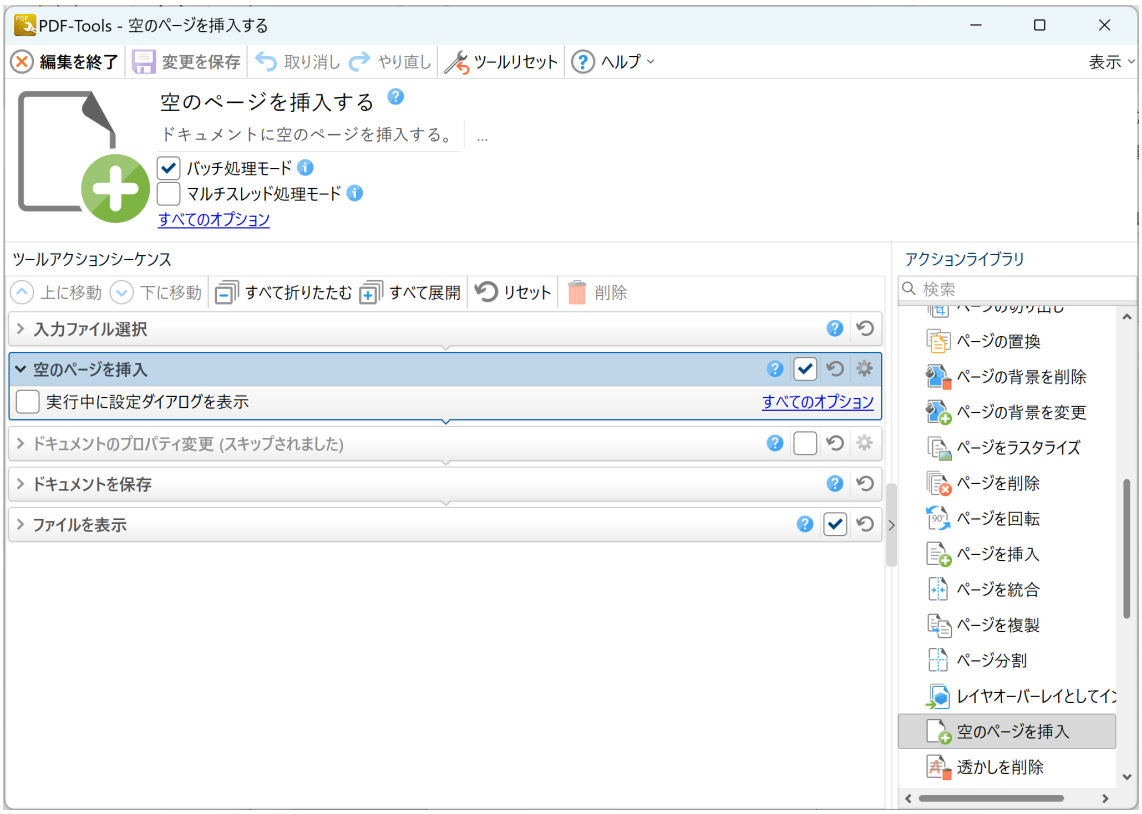

図 1. [空白ページを挿入]アクションオプション

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**空白ページを挿入**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**空白ページを挿入**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**空白ページを挿入**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

図 2. [空白ページを挿入]ダイアログボックス

- **ページ** このセクションで、オプションを選択し、新しいページのサイズを決定します。
  - **ドキュメント** ここを選択し、現在のドキュメントのサイズと一致するようにします。
  - **標準規格** ISO や ANSI で使用されるドキュメントのサイズの規格などを選択します。
  - **カスタム** 任意のサイズを入力します。必要に応じてサイズの数値をボックスに入力します。
  - **方向** 新しいページの向きを縦または横のいずれかで選択します。
  - **ページ数** メニューを使用して、挿入するページ数を決定します。
- **挿入先** オプションを使用して、新しいページを挿入する個所を決定します。

OK をクリックして設定を保存します。

7-7-9. ページを挿入

ページを挿入のアクションでは、既存のドキュメントのページを入力ドキュメントに挿入します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

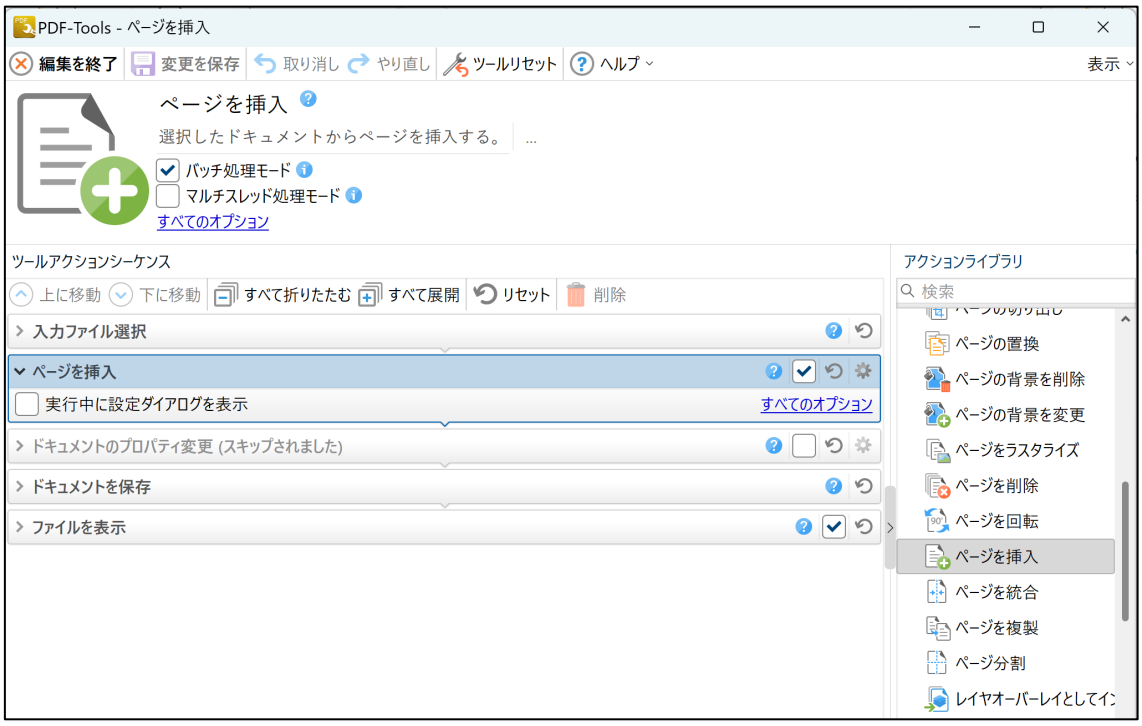

図 1. [ページを挿入]アクションオプション

- **すべてのオプション**　すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**ページを挿入**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択して、ページを挿入のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ページを挿入**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

図 2. [ページを挿入]ダイアログボックス

- **ファイル** テキストボックスを使用して、ページの挿入元のドキュメントを指定するか、フォルダアイコンをクリックしてファイルを手動で選択します。
- **オブジェクトの操作** ここのオプションを使用して、挿入されたページに含まれる**コメント**、**フォームフィールド**、**ブックマーク**に対して実行されるアクションを決定します。
- **ファイル名でルート・ブックマークを追加** ボックスを選択して、挿入されたページからルート・ブックマークを作成します。
- **ページ範囲** オプションを使用して、挿入するページを決定します。
  - **すべて** すべてのページを挿入します。
  - **カスタム** 数値ボックスを使用して、ページ番号をカンマで区切り、個々のページ、および/またはハイフンで区切り、ページ範囲を指定します。ページ範囲の指定の詳細については、**こちら**を参照してください。
  - **サブセット** カスタムで範囲が指定されている場合は、ここのドロップダウンメニューでオプションを選択して、必要に応じてページのサブセットを決定します。
- **挿入先** オプションを使用して、新しいページを挿入する個所を決定します。

OK をクリックして設定を保存します。

7-7-10. ページを結合

ページを結合のアクションでは、複数のページを 1 つのページに結合します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

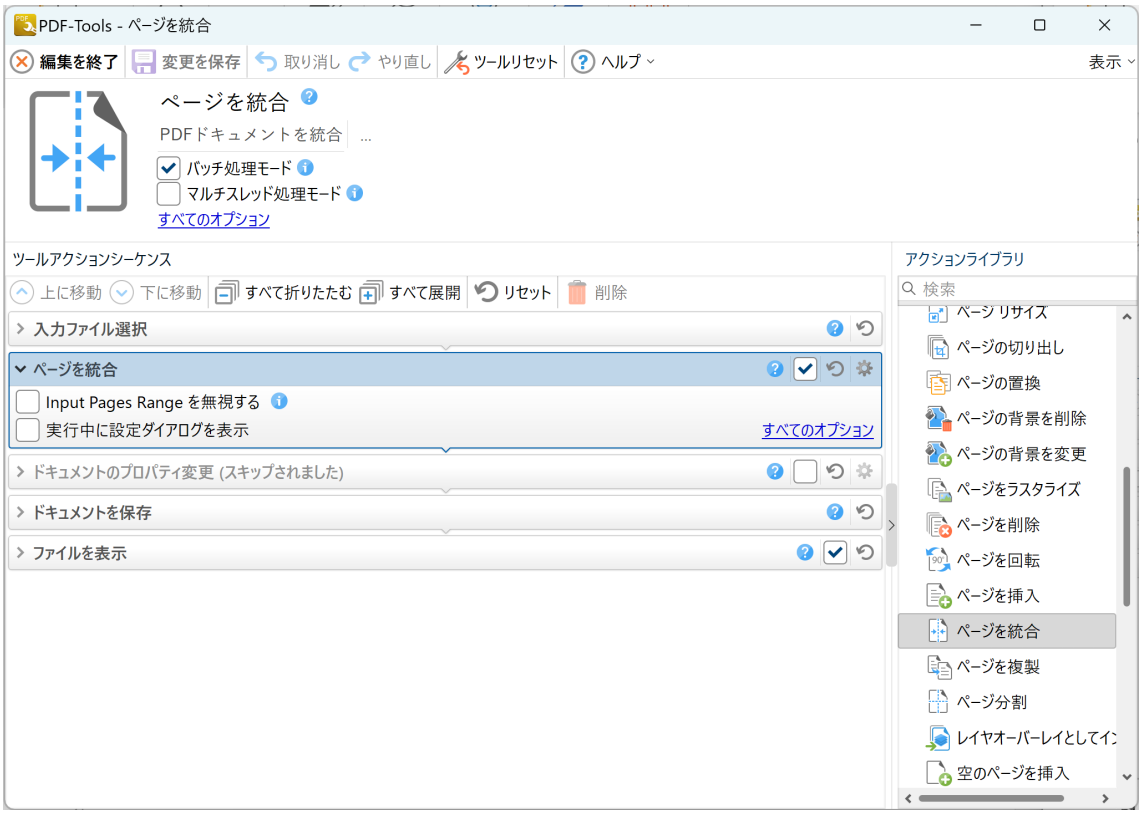

図 1. [ページを結合]アクションオプション

- **すべてのオプション**　すべてのオプションを表示/編集します。以下で詳しく説明するように**ページを結合**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択して、**ページを結合**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ページを結合**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

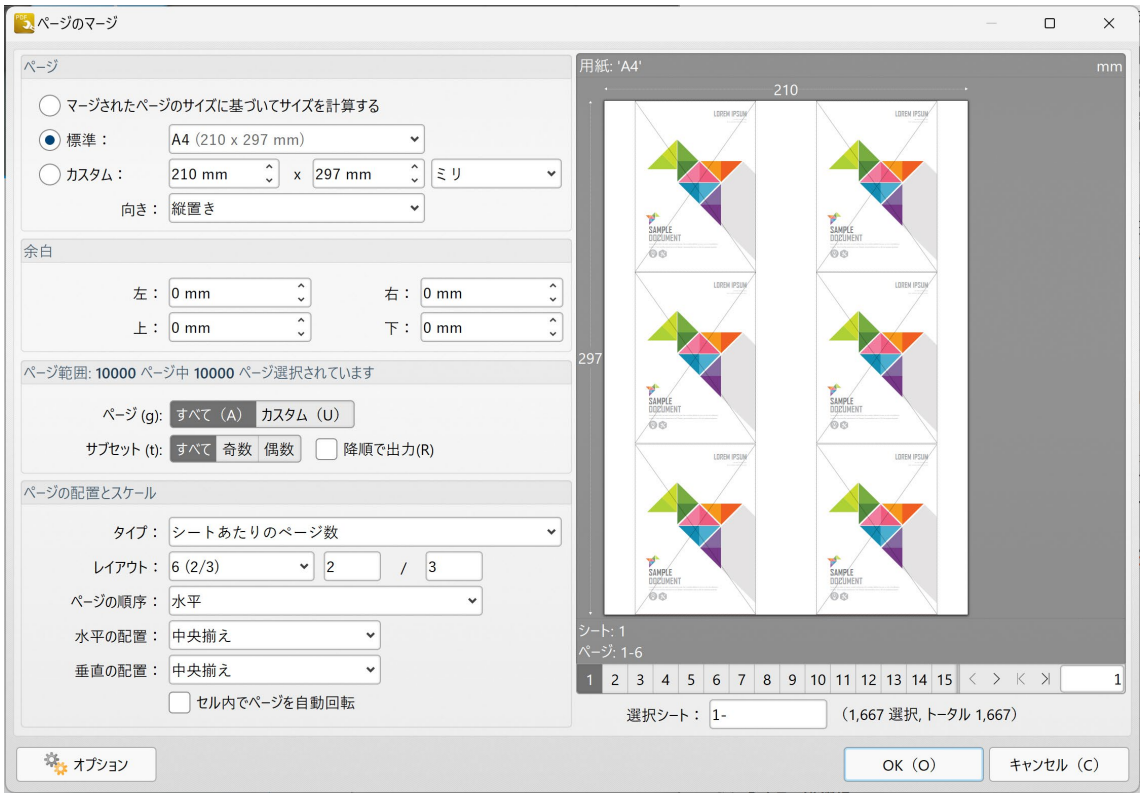

図 2. [ページを結合]ダイアログボックス

- **ページ** このオプションを使用して、新しいページのサイズを決定します。
  - **結合されたページサイズに基づきサイズを計算する** ここをクリックすると出力ドキュメント内で元のページサイズを保持します。
  - **標準規格** 出力ドキュメントに標準規格のページサイズを使用する際、ここをクリックし、ドロップダウンメニューでオプションを選択します。
  - **カスタム** 出力ドキュメントに任意のページサイズを使用する際、ここをクリックし、必要に応じてボックスに値を入力し単位を選択します。
  - **方向** ドロップダウンメニューを使用して、出力ドキュメントの向きを決定します。
- **余白** 数値ボックスを使用して、出力ドキュメントの余白を決定します。
- **ページ範囲** オプションを使用して、出力ドキュメントの作成に使用する元のドキュメントのページ範囲を決定します。
  - **すべて** すべてのページを含めます。
  - **カスタム** クリックして、カスタムページ範囲を指定し、ボックスにその範囲を入力します。ページ範囲の指定に関する情報は、**こちら**から確認できます。

- **サブセット**　カスタム範囲が指定されている場合は、ここのオプションを選択して、必要に応じてページのサブセットを決定します。
- **ページの配置と縮尺**　オプションを使用して、出力ドキュメント内での元ページの配置方法を指定します。詳細は設定の編集時にプレビューペインで説明されているとおりです。
- **結合後に元ページを削除**　必要に応じて、このボックスを選択/クリアします。

OK をクリックして設定を保存します。

7-7-11. ページを移動

ページを移動のアクションでは、ドキュメントページを並べ替えます。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

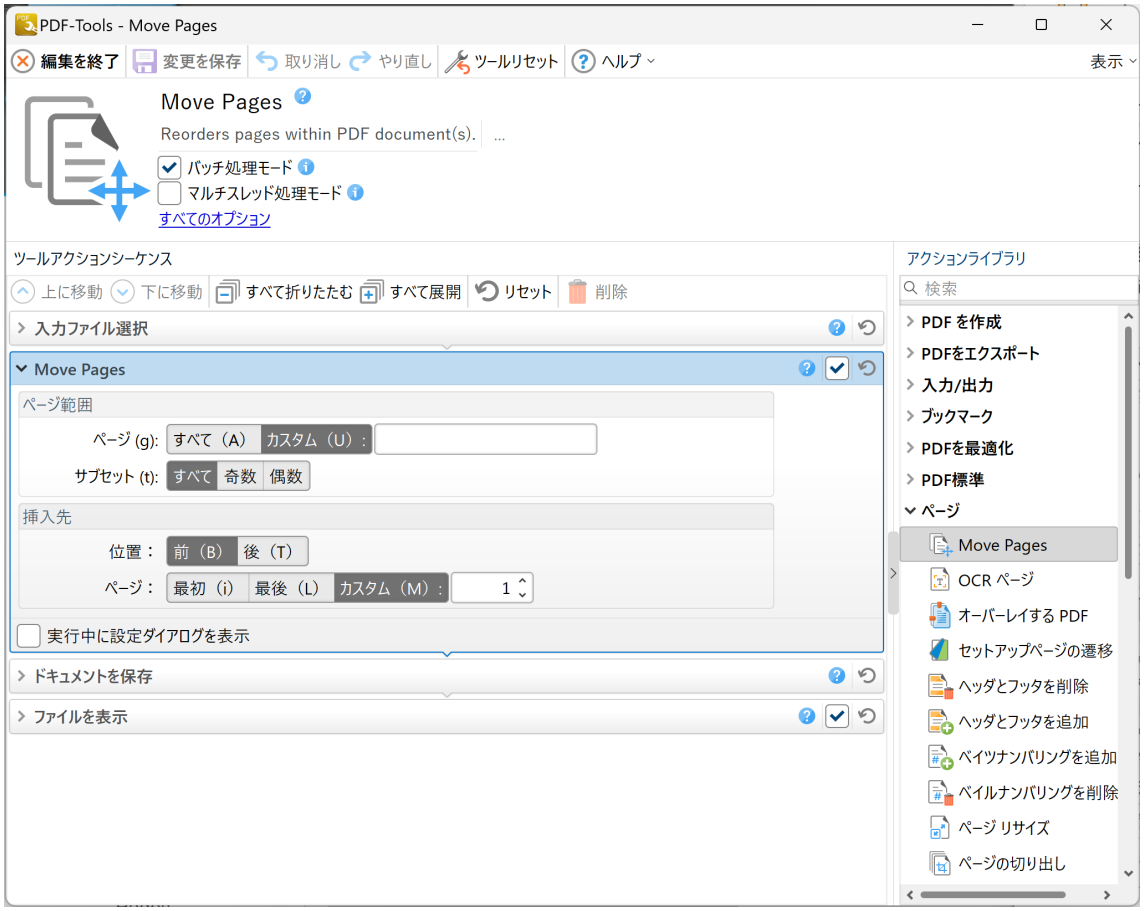

図 1. [ページを移動]アクションオプション

- **ページ範囲**　移動ページのページ範囲を決定します。
  - **すべて**　すべてのページを含めるには、ここをクリックします。
  - **カスタム**　カスタムページ範囲を指定し、ボックスに必要な範囲を入力します。ページ範囲の指定については、**こちら**を参照してください。

- **サブセット**　カスタム範囲が指定されている場合、オプションを選択し、必要に応じてページのサブセットを決定します。

- **挿入先**　指定したページ範囲のページの移動先を指定します。
  - ·位置　指定したページの前後にページを移動するように指定するには、**前**または**後**を選択します。
  - **ページ**　**最初**、**最後**、または**カスタム**を選択して、指定したページ範囲の移動先となる最初、最後、またはカスタムのページを指定します。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択すると、**ページを結合**のダイアログボックスが開き、このアクションを使用するたびに設定をカスタマイズできます。このボックスをオフにすると、アクションを使用するたびに**ページを結合**のダイアログボックスが開かなくなりますので、この同じ設定を一貫して使用する場合には便利です。

OK をクリックして設定を保存します。

7-7-12. ページをラスタライズ

ページをラスタライズのアクションでは、ドキュメントページをラスタライズします。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

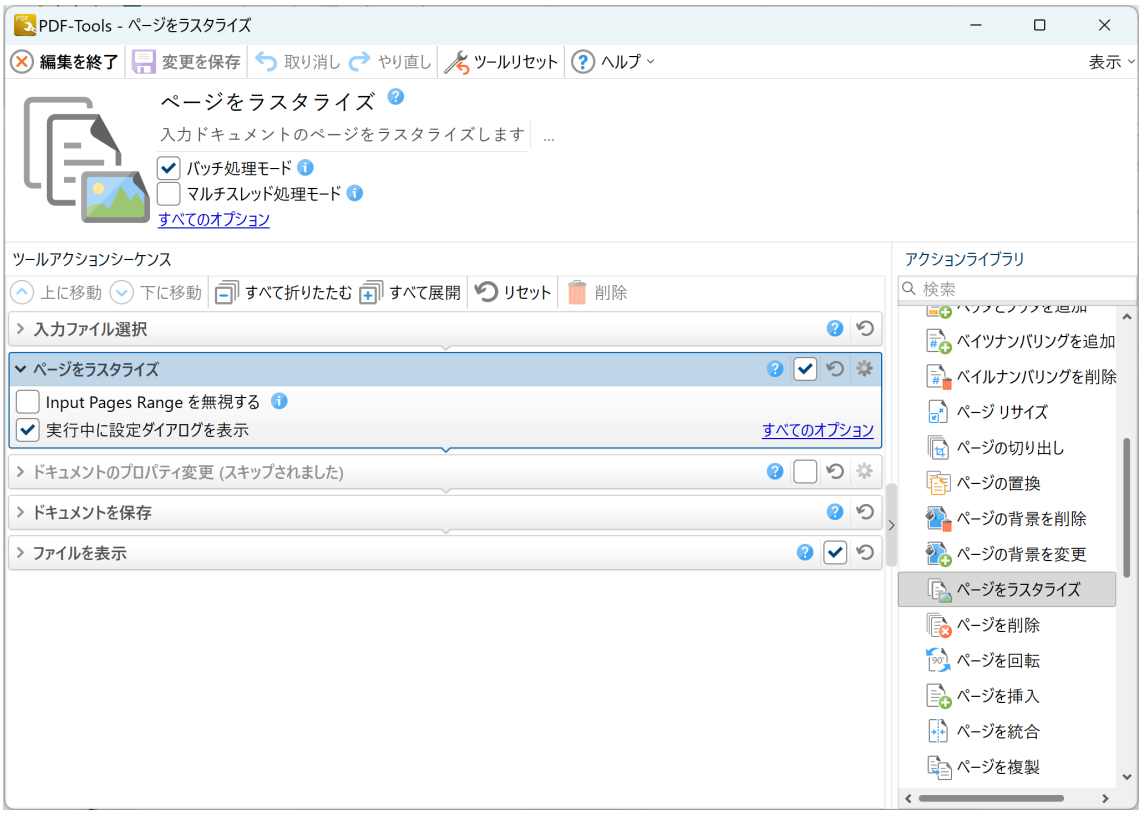

図 1. [ページをラスタライズ]アクションオプション

- **すべてのオプション**　すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**ページをラスタライズ**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択して、**ページをラスタライズ**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ページをラスタライズ**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

図 2. [ページをラスタライズ]ダイアログボックス

- **ページ範囲** オプションを使用して、ラスタライズするページ範囲を決定します。
  - **すべて** すべてのページを指定します。
  - **カスタム** 任意のページの範囲を指定します。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちら**を参照してください。
  - **サブセット** ここのオプションを使用して、必要に応じて、**すべて**のページ、**奇数**ページ、または**偶数**ページを選択します。
- **オブジェクトの操作** ドロップダウンメニューを使用して、ラスタライズ実行時にコメント、フォームフィールド、およびリンクに対して実行されるアクションを決定します。

- **タイプ** ドロップダウンメニューを使用して、ドキュメントに対して実行されるラスタライズのタイプを決定します。
- **圧縮** ドロップダウンメニューを使用して、ラスタライズに使用する圧縮のタイプを決定します。
- **ページ背景** ドロップダウンメニューを使用して、ラスタライズが行われるときのドキュメントの透明部分の塗りつぶし色を決定します。
- **JPEG 画質** ドロップダウンメニューを使用して、JPEG 圧縮を使用するときの JPEG 画質を決定します。
- **水平解像度**と**垂直解像度**の数値ボックスを使用して、ラスタライズされた画像の解像度を決定します。

OK をクリックして設定を保存します。

7-7-13. ヘッダとフッタを削除

ヘッダとフッタを削除のアクションでは、入力ドキュメントからヘッダとフッタを削除します。

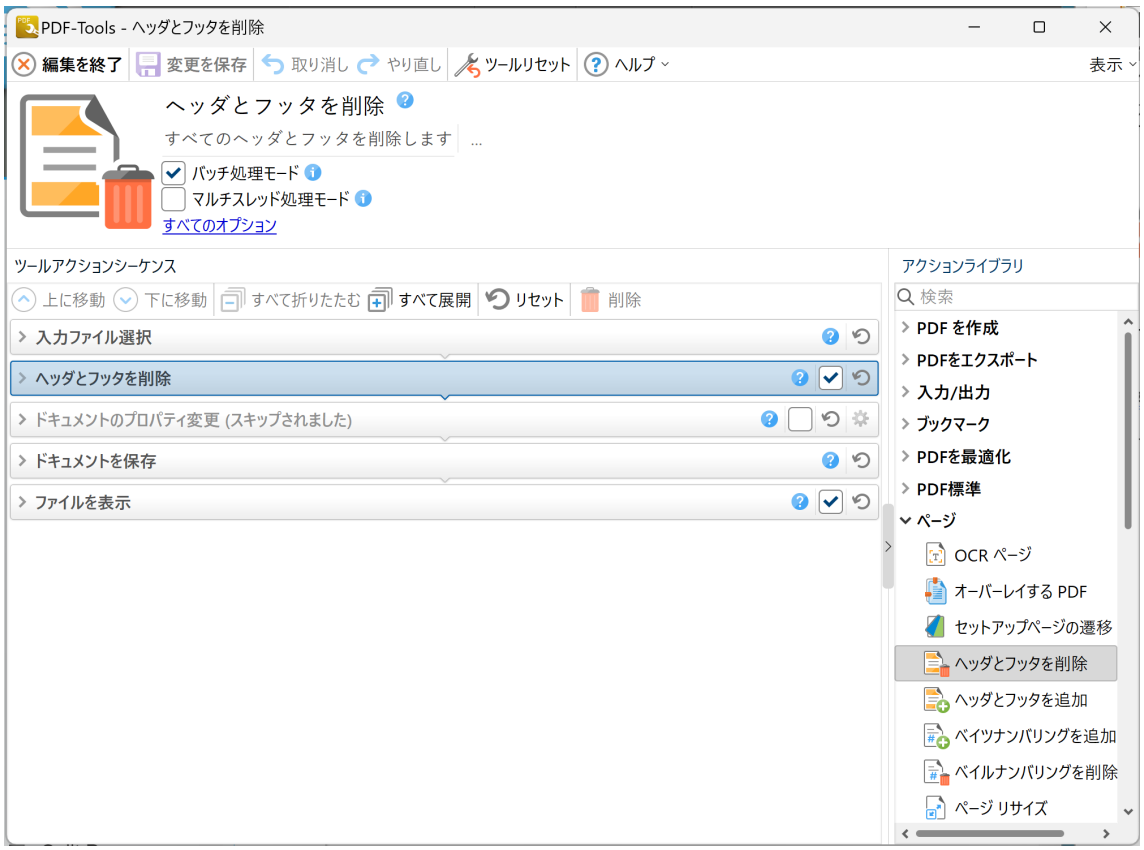

図 1. [ヘッダとフッタを削除]アクションオプション

このアクションを有効/無効にするには、チェックボックスをオン/オフにし、それから **変更を保存**をクリックして、変更を保存します。

7-7-14. ページの置換

ページの置換のアクションでは、入力ドキュメントの指定されたページを既存のドキュメントのページに置き換えます。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

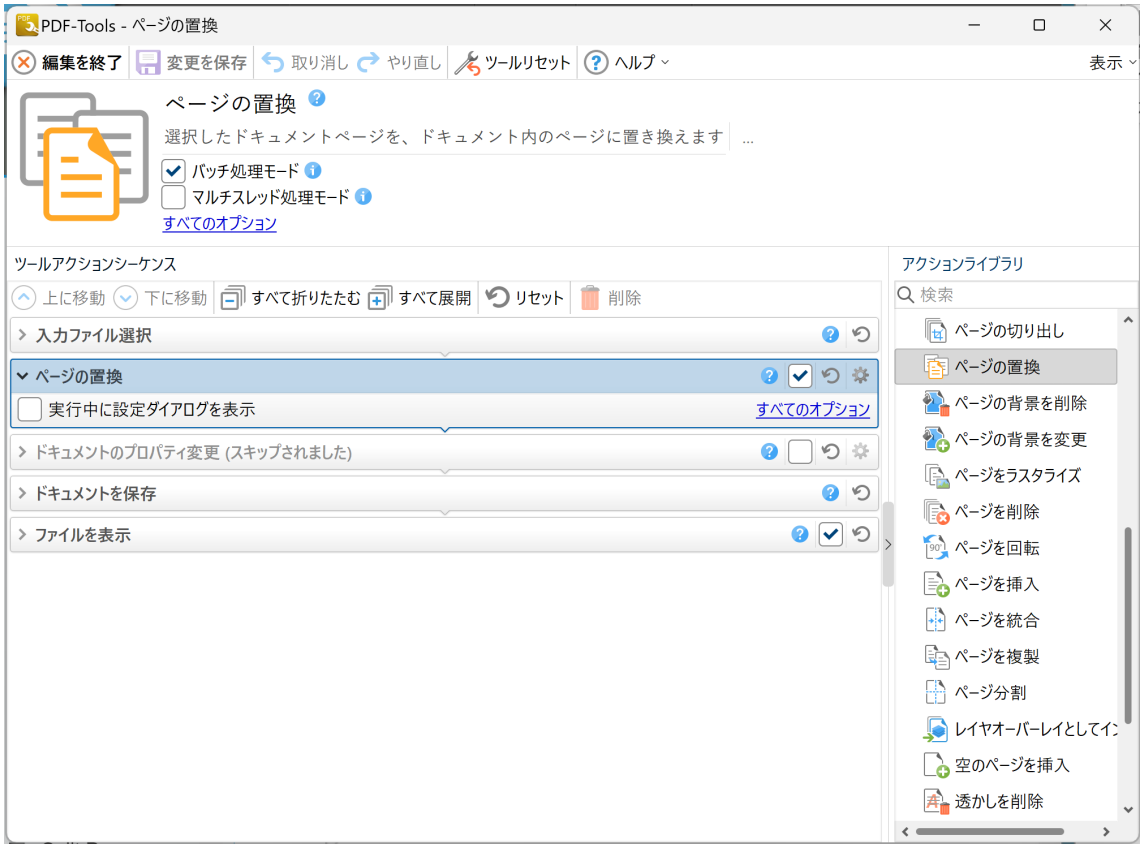

図 1. [ページの置換]アクションオプション

- **すべてのオプション**　すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**ページの置換**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択して**ページの置換**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ページの置換**のダイアロ

グボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

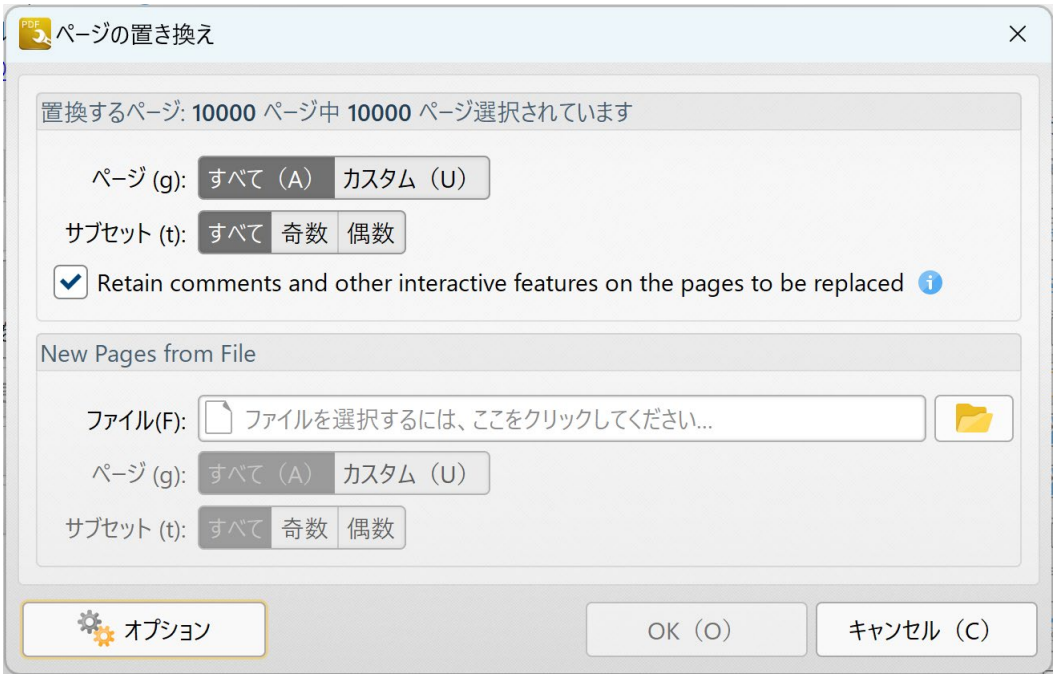

図 2. [ページの置換]ダイアログボックス

- **置換するページ**　置換するページのページ番号をボックスに入力します。
- **ファイル**　ボックスを使用して、ページの置換に使用するドキュメントを指定するか、フォルダアイコンをクリックしてファイルを手動で選択します。
- **ページ範囲**　このオプションを使用して、置換ファイルから使用するページ範囲を決定します。
  - **すべて**　すべてのページを指定します。
  - **カスタム**　カスタムページ範囲を指定します。ページ範囲を指定する方法の詳細については、こちらを参照してください。
  - **サブセット**　このオプションを使用して、必要に応じて**すべて**のページ、**奇数**ページ、または**偶数**ページを選択します。
- **ページ置換オプション**　ここに記載の内容に応じてページ置換のパラメータをラジオボタンで選択し、決定します。 ドロップダウンメニューを使用して、置換ファイル内の**コメント**、**フォームフィールド**、**ブックマーク**に対して実行されるアクションを決定します。

OK をクリックして変更を保存します。

7-7-15. ページ・リサイズ

ページ・リサイズのアクションでは、入力ドキュメントの指定されたページのサイズを変更します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

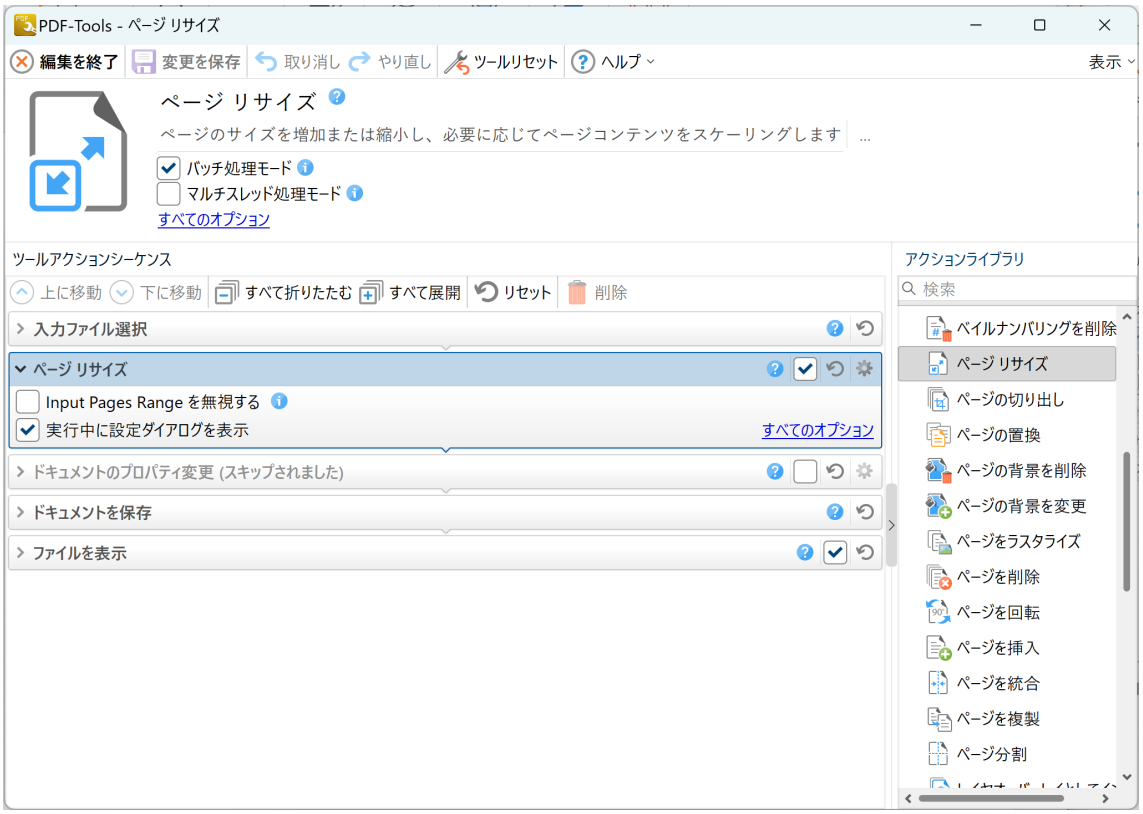

図 1. [ページ・リサイズ]アクションオプション

- **すべてのオプション**　すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**ページ・リサイズ**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　**ページ・リサイズ**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ページ・リサイズ**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

図 2. [ページ･リサイズ]ダイアログボックス

- **用紙サイズ** このオプションを使用して、リサイズされたページの大きさとレイアウトを決定します。
  - **標準規格** ISO や ANSI における標準サイズ規格などを使用するに選択します。
  - **カスタム** 任意の寸法を入力します。数値ボックスに寸法を入力し、必要に応じて単位を選択します。

    - **倍率**　新しい用紙サイズを既存の用紙サイズの倍率で設定する場合は、数値ボックスに希望の倍率を入力します。
- **配置オプション**　リサイズされたページの水平/垂直オフセットとオフセット元の位置を決定します。
- **ページ範囲**　リサイズされたページのページ範囲を決定します。
    - **すべて**　すべてのページのサイズを変更します。
    - **カスタム**　任意のページ範囲のサイズを変更します。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちら**を参照してください。
    - **サブセット**　このオプションを使用して、必要に応じて**すべて**のページ、**奇数**ページ、または**偶数**ページを選択します。
- **縮尺オプション**　新しいページサイズに関連するページ・コンテンツの縮尺を決定します。
    - **新規ページサイズに合わせて、ページ・コンテンツをリサイズ**　ボックスを選択して、リサイズされたページのコンテンツを新しいページサイズに合わせて拡大縮小します。
    - **コンテンツのアスペクト比を保持**　ボックスをオフにして、リサイズされたページのすべてのコンテンツを新しいページのサイズに拡大縮小します。
    - **コメント/フォームフィールドのサイズを拡大・縮小**、**コメント/フォームフィールドのテキストを拡大・縮小**　必要に応じてこれらのボックスを選択します。

OK をクリックして設定を保存します。

7-7-16. ページを回転

ページを回転のアクションでは、入力ドキュメントの指定したページを回転させます。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

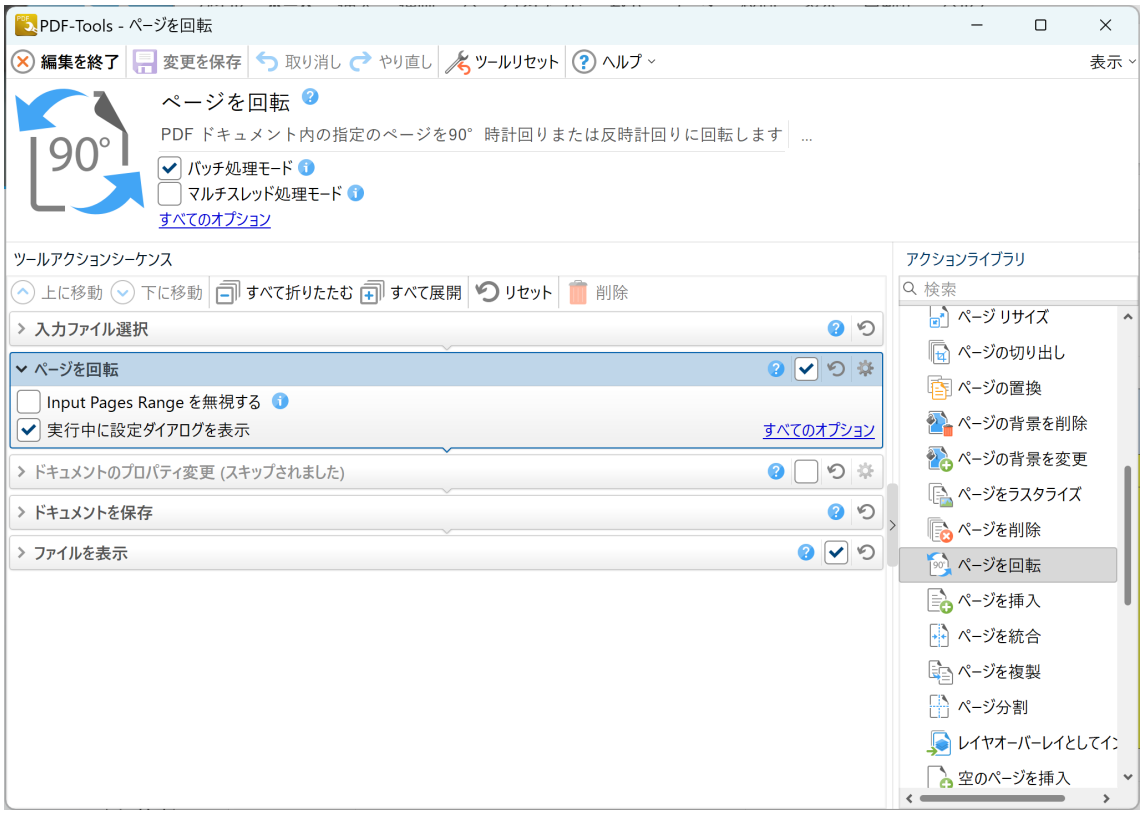

図 1. [ページを回転]アクションオプション

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。 以下で説明するように、**ページを回転**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**ページを回転**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ページを回転**のダイアログボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

図 2. [ページを回転]ダイアログボックス

- **方向** ドロップダウンメニューを使用して、回転を指定します。
- **ページ範囲** オプションを使用して、回転するページのページ範囲を決定します。
  - **すべて** すべてのページを回転させます。
  - **カスタム** 任意のページの範囲を回転させます。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちら**を参照してください。
  - **サブセット** このオプションを使用して、必要に応じて**すべて**のページ、**奇数**ページ、または**偶数**ページを選択します。
  - ドロップダウンメニューを使用して、必要に応じて**任意の方向**のページ、**縦**のページ、または**横**のページを指定します。

OK をクリックして設定を保存します。

7-7-17. ページの分割

ページの分割のアクションは、入力ドキュメントのページを必要に応じたセクションに分割します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

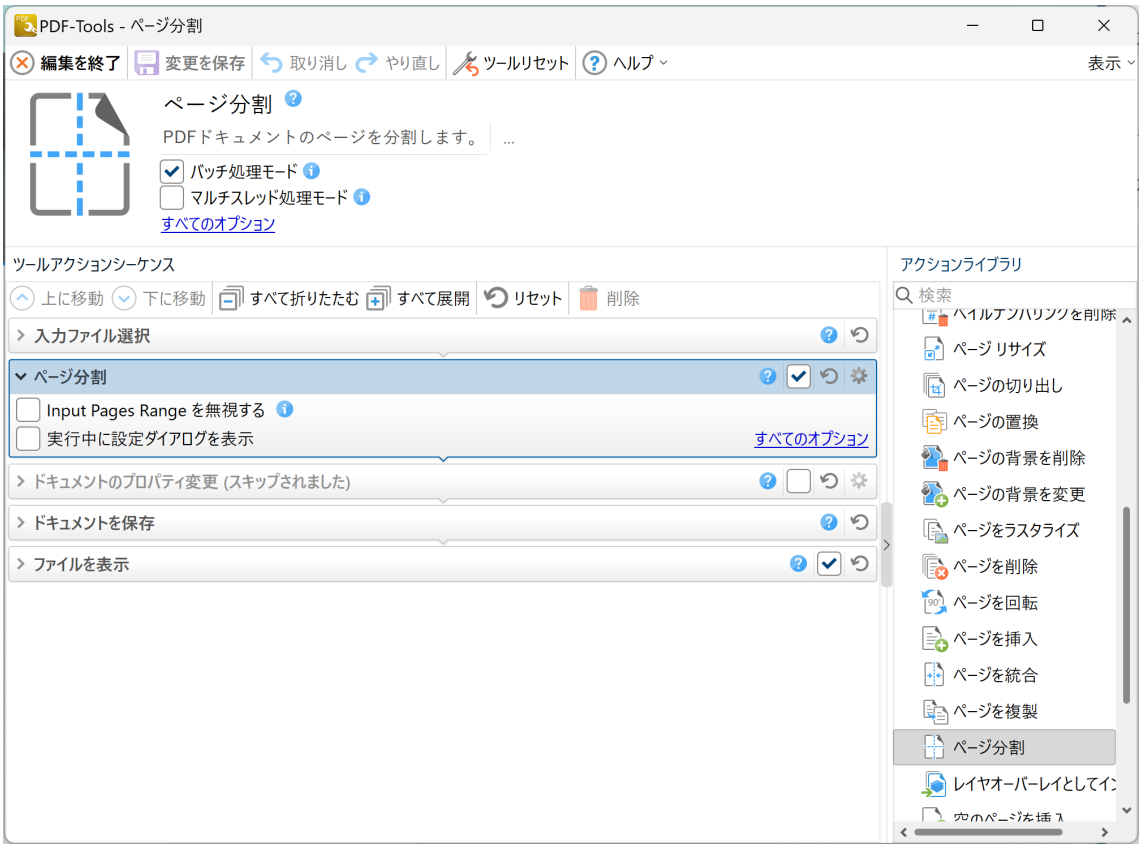

図 1. [ページの分割]アクションオプション

- **すべてのオプション**　すべてのオプションを表示/編集します。 以下で説明するように、**ページの分割**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択して**ページの分割**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ページの分割**のダイアロ

グボックスは開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

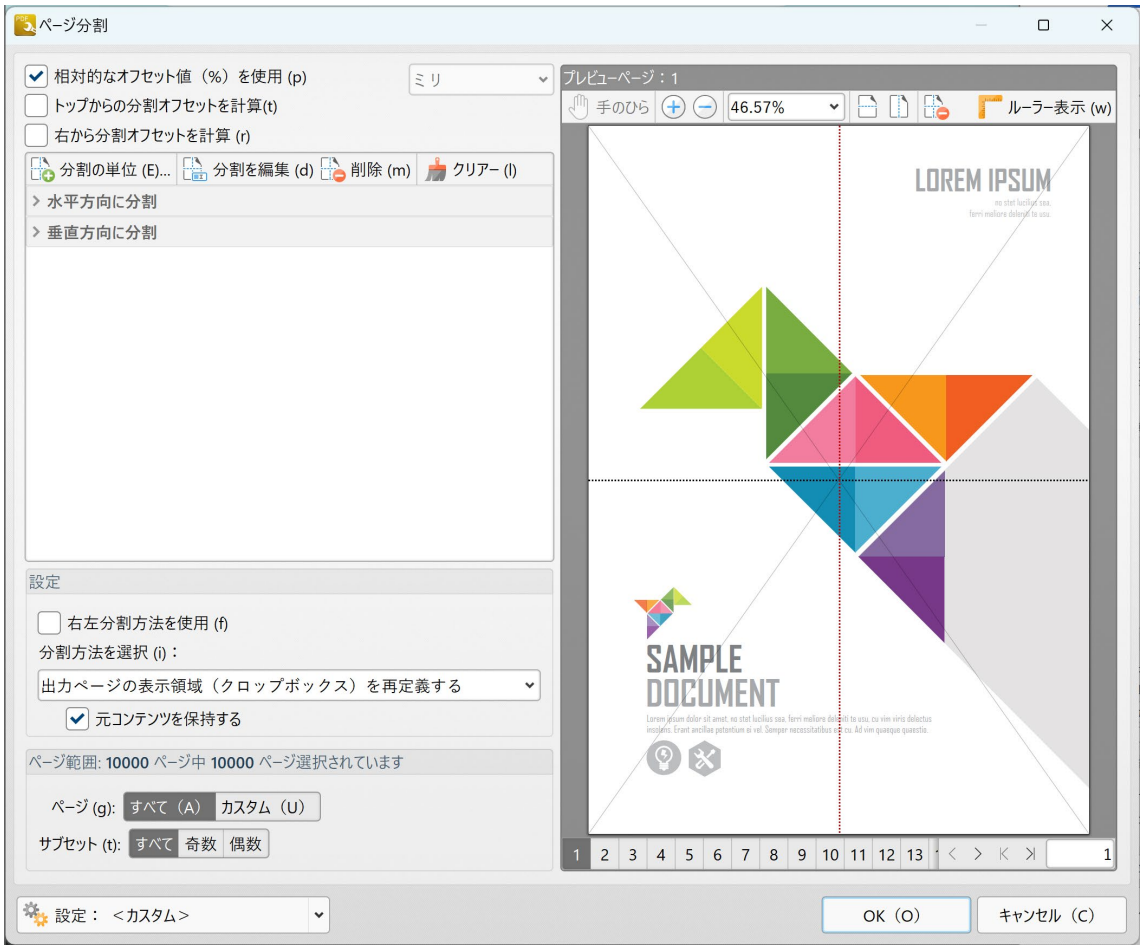

図 2. [ページの分割]ダイアログボックス

・パーセンテージは、ページを分割するために使用されるデフォルトの方法です。**相対オフセット値を使用**ボックスをオフにして、代わりにミリ寸法を使用します。

- **上部から分割オフセットを計算** ボックスを選択して、ページの上部から分割について計算します。ただし、デフォルト設定ではページ下部から計算されることになります。
- **分割の単位** ここをクリックすると、ドキュメント全体について、その単位で等間隔に分割されます。以下で詳しく説明するように、**分割の単位**のダイアログボックスが開きます。
- **水平方向に分割**または**垂直方向に分割** プレビューウィンドウの上部にある**水平方向に分割**または**垂直方向に分割**のアイコンをクリックして、ドキュメントを分割します。分割はデフォルトで 50% の位置で挿入され、プレビューウィンドウとこれらのオ

プションを使用した際の分割リストに表示されます。クリックしてドラッグすれば、必要に応じて分割の位置を変更できます。

- プラスとマイナスのズームアイコンを使用して、プレビューウィンドウの表示を編集します。
- **分割を編集/削除**　ここをクリックして、分割リストで選択した分割について編集/削除します。
- **右から左への分割方法を使用**　ボックスを選択して、ドキュメントを右から左に分割します。ドキュメントが分割される順序によって、分割されたドキュメント内のセクションの順序が決まることに注意してください。
- **分割後に元ページを削除する**　これを選択すると、ページが分割されたときにアクティブなウィンドウから元のドキュメントが削除されます。このボックスをオフにすると、ページが分割された後、元のドキュメントと分割されたページの両方が存在することになります。
- **分割方法を選択**　ドロップダウンメニューからオプションを選択して、ドキュメントの分割に使用する方法を決定します。
  - **出力ページの実寸(物理的なサイズ)を変更**　ページのサイズを調整して分割します。
  - **出力ページの表示領域(トリミング・ボックス)を再定義する**　ページのトリミング・ボックスを調整します。トリミング・ボックスの詳細については、**こちら**をご覧ください。 このオプションを使用すると、**元のコンテンツを保持する**のボックスが使用可能になります。このオプションを有効にすると、表示されるページ領域は縮小されますが、トリミングされたコンテンツは引き続きそこに存在し、使用可能になり、たとえば、後でページのサイズを変更する場合に活用できます。
- **ページ範囲**　設定は次のとおりです。
  - **すべて**　すべてのページについて分割します。
  - **カスタム**　任意のページ範囲を分割します。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちら**を参照してください。
  - **サブセット**　このオプションを使用して、必要に応じて**すべて**のページ、**奇数**ページ、または**偶数**ページを選択します。

OK をクリックして変更を保存します。

図 3. [分割の単位]ダイアログボックス

- **標準規格**　標準規格を基準とした寸法の間隔でドキュメントを分割するにはここを選択します。ドロップダウンメニューで任意の寸法を選択し、ドロップダウンメニューでその方向を指定します。
- **カスタム**　任意の寸法の間隔でドキュメントを分割するにはここを選択し、隣接する数値ボックスとドロップダウンメニューで目的の寸法と単位を決めます。
- **%**　ドキュメントページのサイズの割合に従ってドキュメントが分割されます。
- **水平/垂直方向に分割**　必要に応じて、ボックスを選択します。

OK をクリックして変更を保存します。

7-8. リンク・アクション

リンク・アクションは、リンクとウェブリンクを作成/削除します。

- **Web リンクを作成** 入力ドキュメントのテキストから Web リンクを作成します。
- **リンクを削除** 入力ドキュメントからリンクを削除します。
- **Web リンクを削除** 入力ドキュメントから Web リンクを削除します。

7-8-1. Web リンクを作成

Web リンクを作成アクションでは、入力ドキュメントのテキストから Web リンクを作成します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

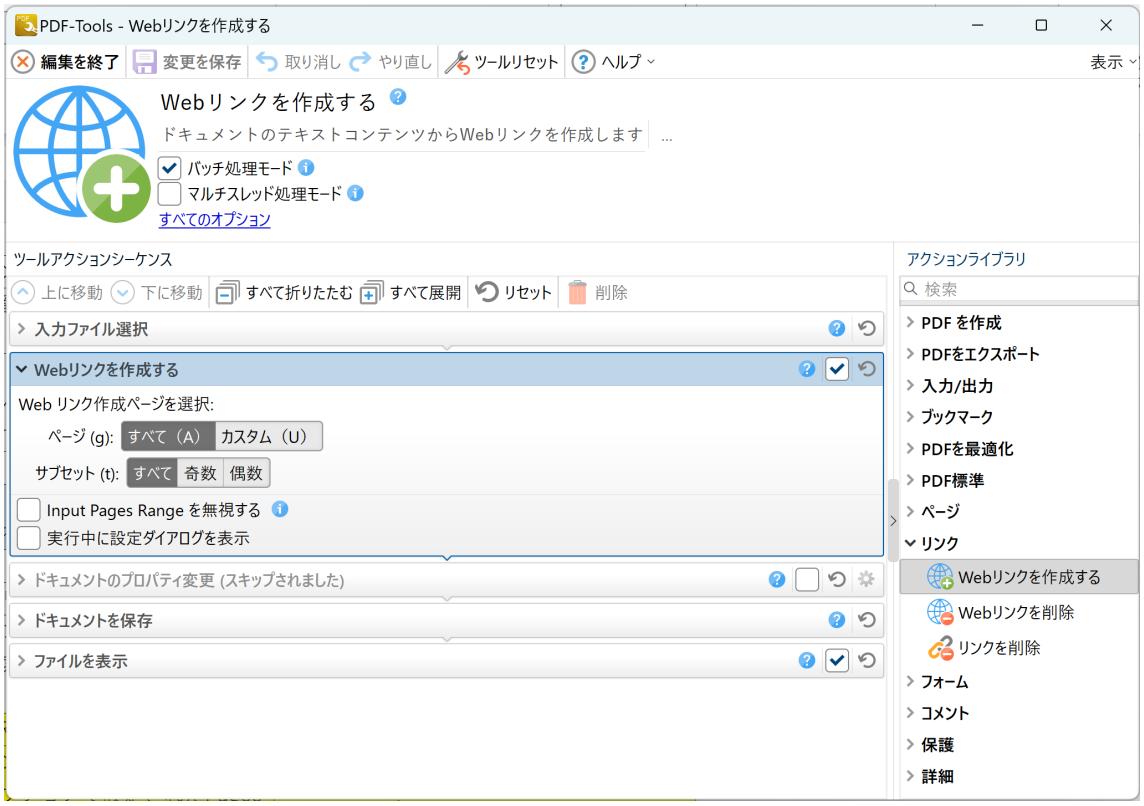

図 1. [Web リンクを作成]アクションオプション

- **ページ:すべて**　入力ドキュメント内のすべてのページの適切なテキストから Web リンクを作成します。
- **ページ:カスタム**　テキストボックスにページ範囲などを入力します。ページ範囲の指定の詳細については、こちらを参照してください。
- **サブセット**　必要に応じて指定されたページ範囲のサブセットを選択します。

- **実行中に設定ダイアログを表示**　**Web リンクを作成**ダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに **Web リンクを作成**ダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-8-2. リンクを削除

リンクを削除のアクションでは、入力ドキュメントからリンクを削除します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

図 1. [リンクを削除]アクションオプション

- **ページ:すべて** 入力ドキュメントのすべてのページからリンクを削除します。
- **ページ:カスタム** テキストボックスにページ範囲などを入力します。ページ範囲の指定の詳細については、**こちら**を参照してください。
- **サブセット** 必要に応じて指定されたページ範囲のサブセットを選択します。
- **実行中に設定ダイアログを表示** リンクを削除のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにする

と、アクションが使用されるたびにリンクを削除のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-8-3. Web リンクを削除

Web リンクを削除のアクションは、入力ドキュメントから Web リンクを削除します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

図 1. [Web リンクを削除]アクションオプション

- **ページ:すべて** 入力ドキュメントのすべてのページから Web リンクを削除します。
- **ページ:カスタム** テキストボックスに目的のページ範囲などを入力します。ページ範囲の指定の詳細については、**こちら**を参照してください。
- **サブセット** 必要に応じて指定されたページ範囲のサブセットを選択します。
- **実行中に設定ダイアログを表示** Web リンクを削除のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフ

にすると、アクションが使用されるたびに Web リンクを削除のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-9. フォーム・アクション

フォーム・アクションは、リンクと Web リンクを作成/削除します。

フォームフィールドを削除 入力ドキュメントからフォームフィールドを削除します。

フォームデータをエクスポート フォームデータをファイルにエクスポートします。

フォームデータをインポート ファイルからフォームデータをインポートします。

フォームリセット 入力ドキュメント内のすべての フォームフィールドをリセットします。

7-9-1. フォームフィールドを削除

フォームフィールドを削除のアクションは、入力ドキュメントからフォームフィールドを削除します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

図 1. [フォームフィールドを削除]アクションオプション

- **ページ:すべて**　入力ドキュメントのすべてのページからフォームフィールドを削除します。
- **ページ:カスタム**　テキストボックスにページの範囲などを入力します。ページ範囲の指定の詳細については、**こちら**を参照してください。
- **サブセット**　必要に応じて指定されたページ範囲のサブセットを選択します。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　**フォームフィールドを削除**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボック

スをオフにすると、アクションが使用されるたびに**フォームフィールドを削除**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-9-2. フォームデータをエクスポート

フォームデータをエクスポートのアクションは、フォームデータをドキュメントからファイルにエクスポートします。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

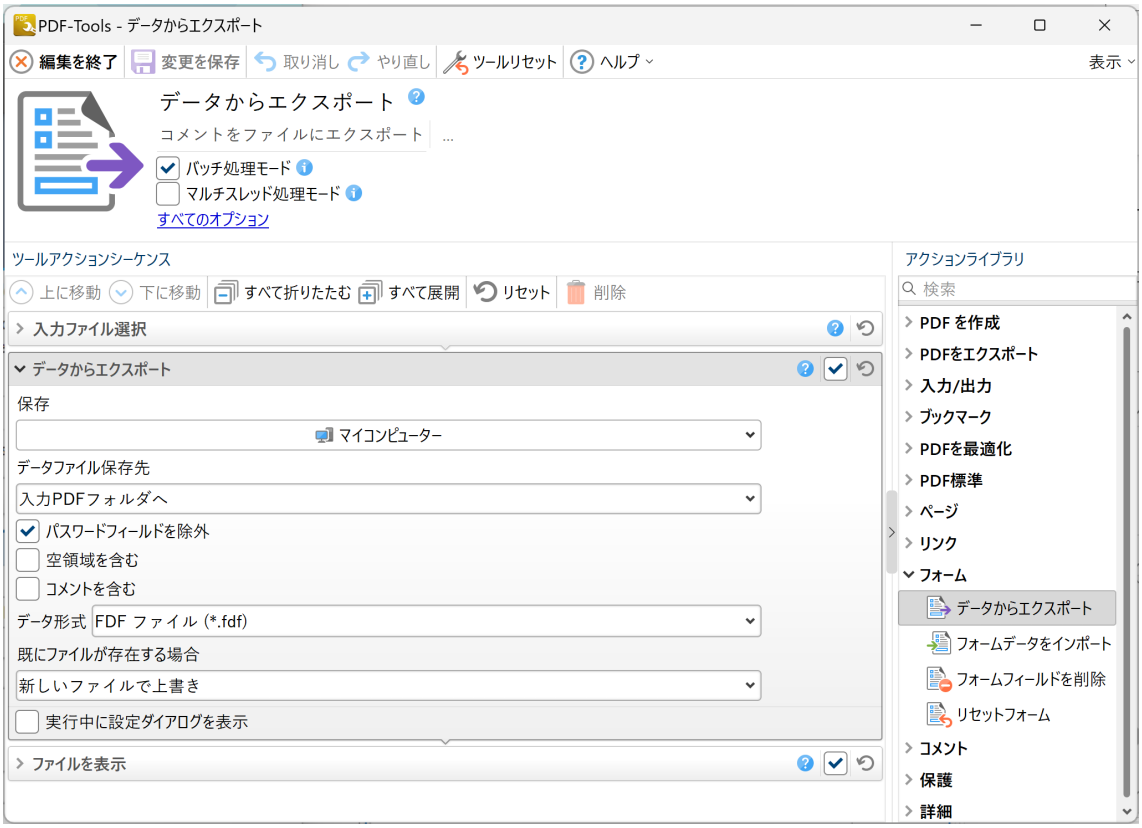

図 1. [フォームデータをエクスポート]アクションオプション

- **データファイル保存先** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、出力ドキュメントのフォルダを決定します。
  - **入力 PDF フォルダへ** 出力ドキュメントを元のドキュメントと同じフォルダに配置します。
  - **カスタム・フォルダへ** 出力ドキュメントをカスタム・フォルダに配置します。テキストボックスまたは「…」アイコンをクリックしてフォルダを選択します。

- **パスワード・フィールドを除外** このアクションの使用時にエクスポートされたデータにパスワード・フィールドを除外/含める際に、このボックスをオン/オフします。
- **空のフィールドを含む** このアクションの使用時にエクスポートされたデータに空のフィールドを含む/除外するには、このボックスをオン/オフします。
- **コメントを含む** このアクションの使用時にエクスポートされたデータにコメントを含む/除外するには、このボックスをオン/オフ　します。
- **データ形式** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、出力ファイルの形式を決定します。
- **既にファイルが存在する場合** ドロップダウンメニューでオプションを選択し、出力ドキュメントに指定されたファイル名が既に使用されている場合に実行されるアクションを決定します。
  - **新しいファイルで上書き** 既存のファイルを新しいファイルで上書きします。
  - **既存のファイルを変更しない** 既存のファイルは保持され、新しいファイルは保存されません。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択してフォームデータをエクスポートのダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびにフォームデータをエクスポートのダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-9-3. フォームデータをインポート

フォームデータをインポートのアクションは、ファイルからフォームデータをインポートします。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

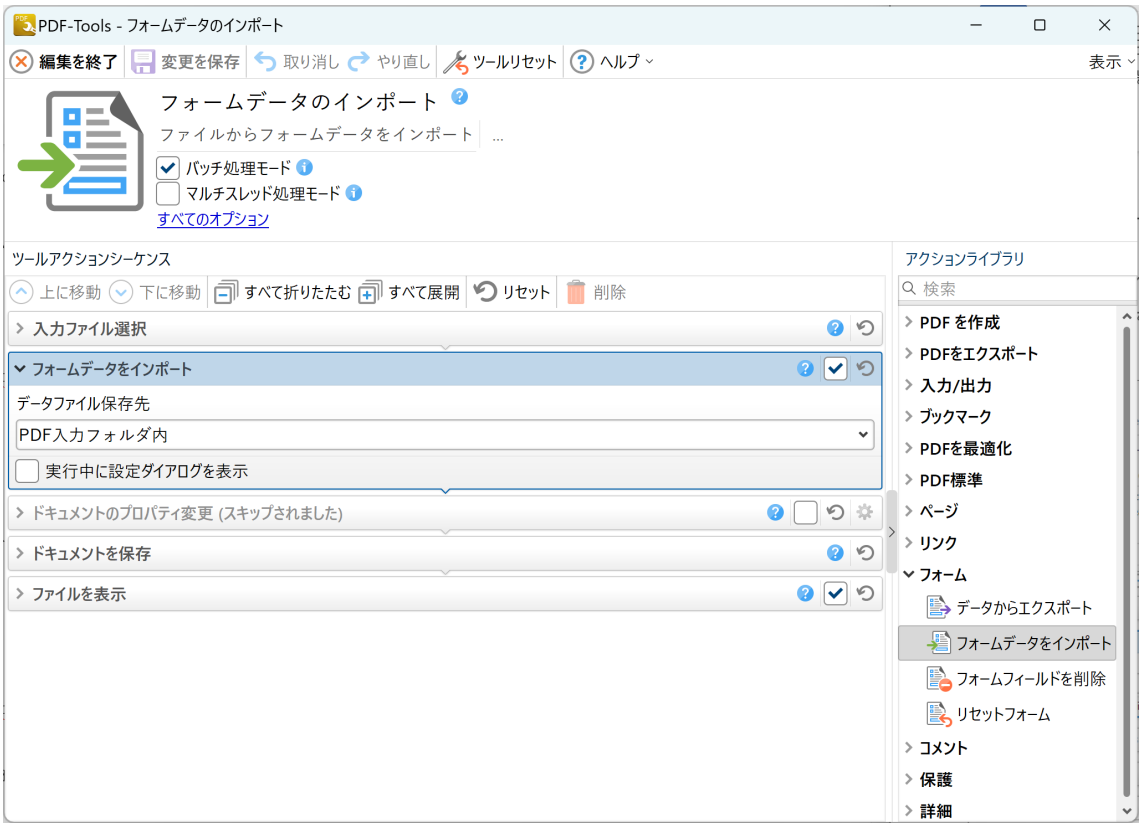

図 1. [フォームデータをインポート]アクションオプション

- **データファイル保存先** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、インポートするフォームデータを含むファイルの保存先を指定します。
  - **入力 PDF のフォルダ内** これを選択すると、元のドキュメントと同じフォルダ内にあるファイルを指定します。
  - **カスタム・フォルダ内** カスタム・フォルダを指定し、テキストボックスまたは「…」アイコンをクリックしてフォルダを選択します。

- **指定ファイル**　特定のファイルを指定し、テキストボックスまたは「…」アイコンをクリックしてファイルを選択します。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　ボックスを選択して**フォームデータをインポート**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**フォームデータをインポート**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

フォームデータをインポートするには、フォームのフィールド名が一致する必要があることに注意してください。たとえば、データのインポート元のファイルに、フィールド名がそれぞれ「Text1」、「Text2」、および「Text3」の3つのフォームがある場合、フォームデータをインポートするには、ターゲットとなるドキュメントに同じフィールド名のフォームが含まれている必要があります。

また、インポートされたフォームデータを含むファイルのファイル形式は、**(*.fdf)**、**(*.xfdf)**、または **(*.csv)**でなければなりません。**フォームデータをエクスポート**のツールを使用して、フォームデータをドキュメントからこれらの形式にエクスポートできます。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-9-4. フォームリセット

フォームリセットのアクションは、入力ドキュメントからすべてのフォームデータを削除します。

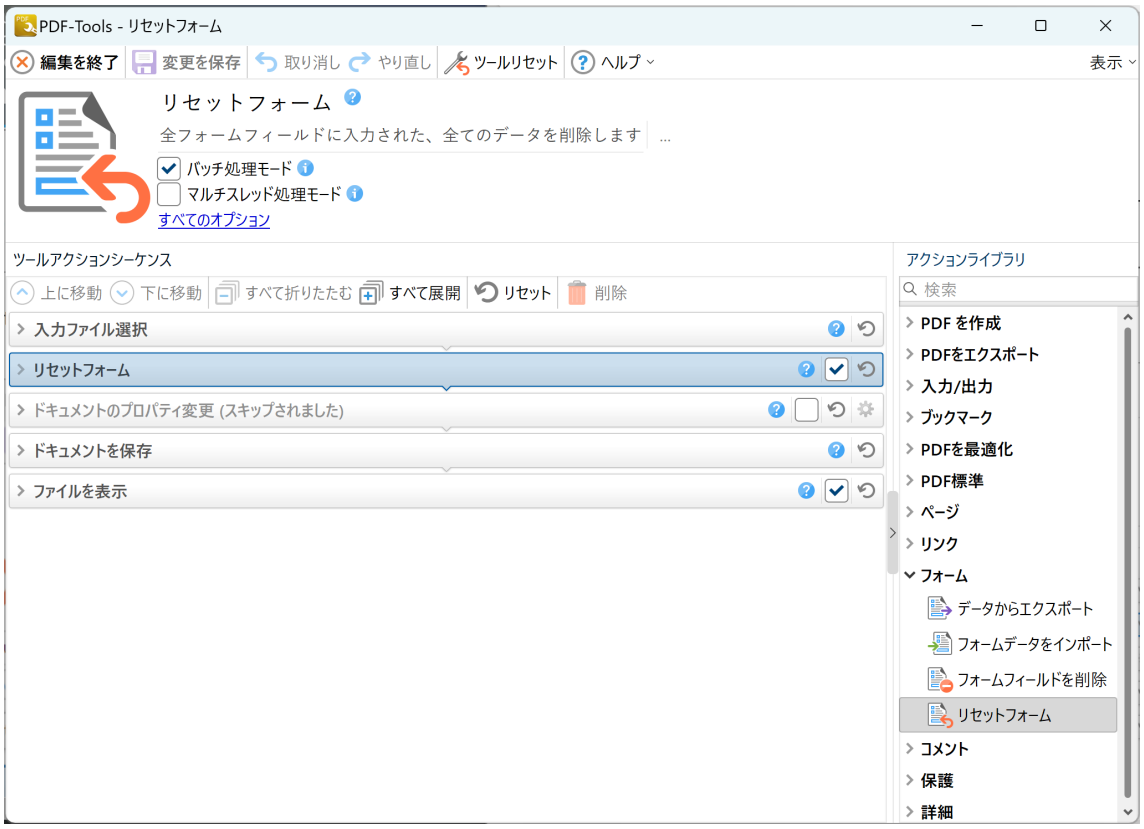

図 1. [リセット・フォーム]アクションオプション

このアクションを有効/無効にするには、チェックボックスをオン/オフし、それから **変更の保存**をクリックして変更を保存します。

7-10. コメント・アクション

コメント・アクションでは、入力ドキュメントのコメントを編集、操作します。

すべてのコメントを削除 入力ドキュメントからすべての形式のコメントを削除します。

注釈マークを削除 入力ドキュメントから注釈マークを削除します。

コメントをエクスポート 入力ドキュメントからファイルにコメントをエクスポートします。

コメントとフィールドをフラット化 入力ドキュメントのコメントとフィールドをフラット化します。

コメントをインポート コメントを入力ドキュメントにインポートします。

コメントサマリーを作成 入力ドキュメントのコメントのサマリーを作成します。

7-10-1. すべてのコメントを削除

すべてのコメントを削除のアクションは、入力ドキュメントからすべての形式のコメントを削除します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

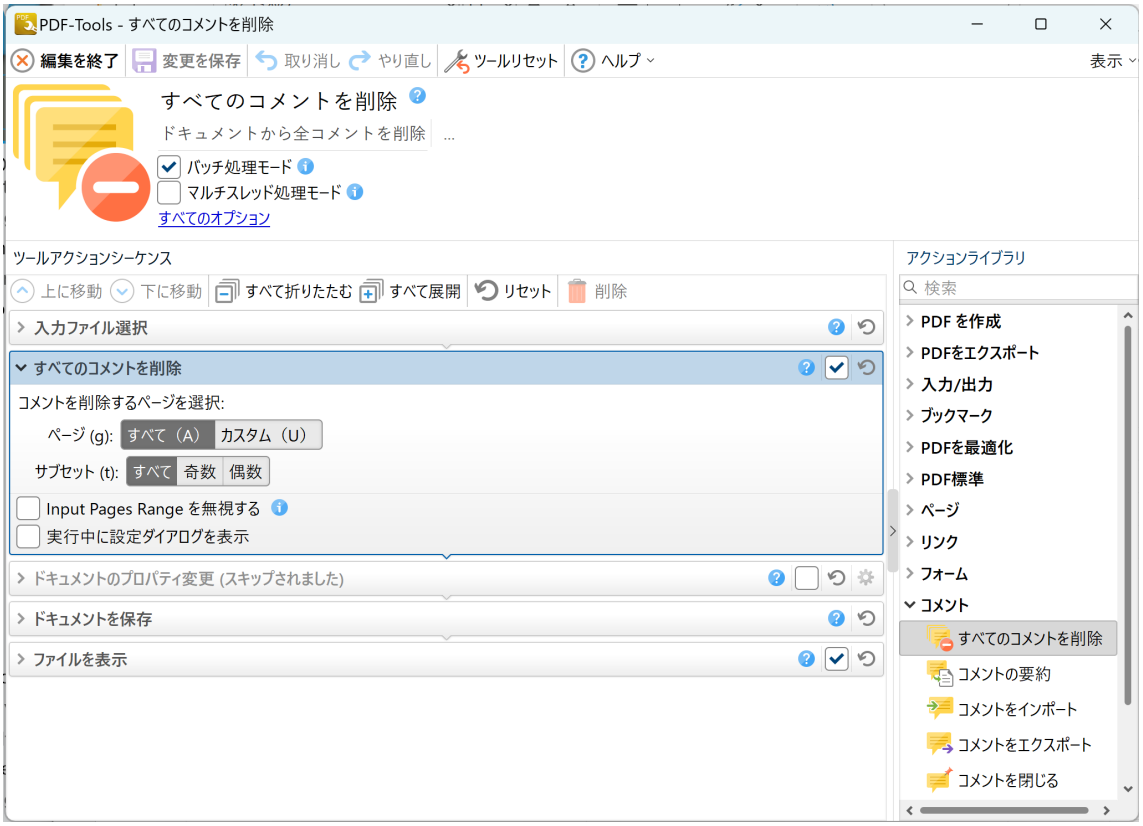

図 1. [すべてのコメントを削除]アクションオプション

- **ページ:すべて**　入力ドキュメントのすべてのページからコメントを削除します。
- **ページ:カスタム**　テキストボックスにページ範囲などを入力します。ページ範囲の指定の詳細については、こちらを参照してください。
- **サブセット**　必要に応じて指定されたページ範囲のサブセットを選択します。

- **実行中に設定ダイアログを表示**　**すべてのコメントを削除**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**すべてのコメントを削除**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-10-2. 注釈マークを削除

注釈マークを削除のアクションは、注釈マークを入力ドキュメントから削除します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

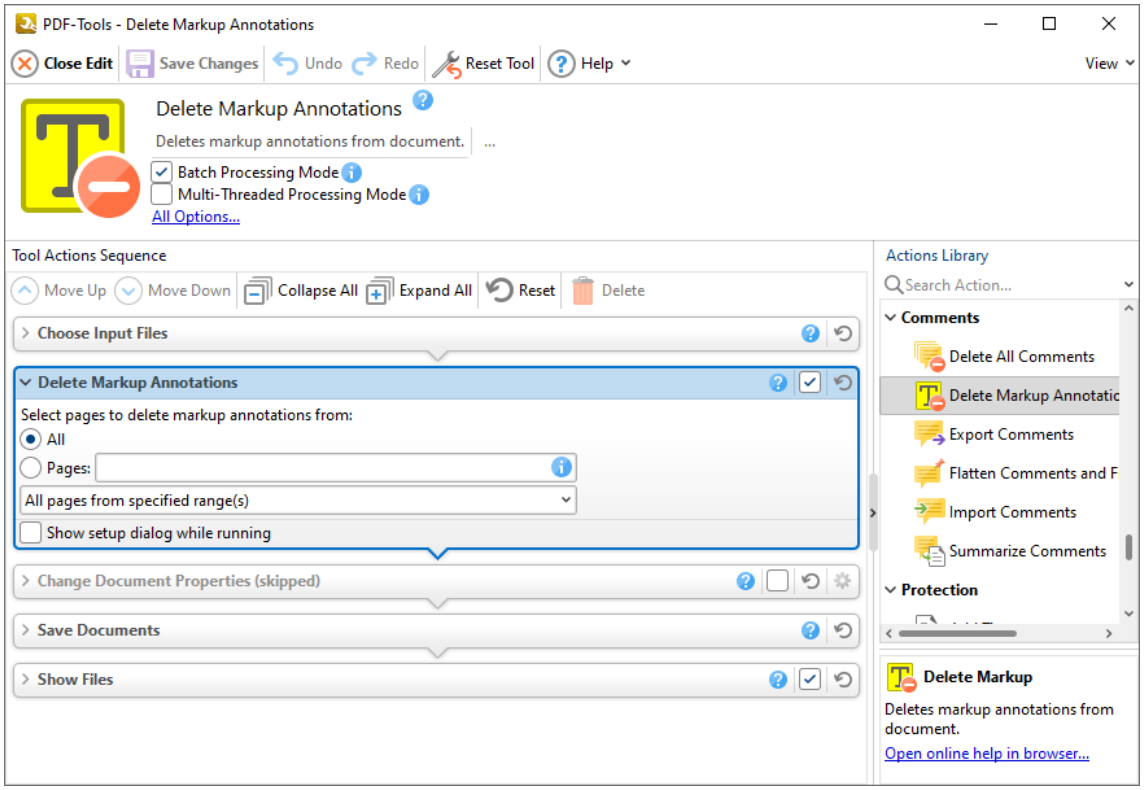

図 1. [注釈マークを削除]アクションオプション

- **ページ:すべて**　入力ドキュメント内のすべてのページから注釈マークを削除します。
- **ページ:カスタム**　テキストボックスにページ範囲などを入力します。ページ範囲の指定の詳細については、**こちら**を参照してください。
- **サブセット**　必要に応じて指定されたページ範囲のサブセットを選択します。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　**注釈マークを削除**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオ

フにすると、アクションが使用されるたびに**注釈マークを削除**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-10-3. コメントをエクスポート

コメントをエクスポートのアクションは、入力ドキュメントからコメントをエクスポートします。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

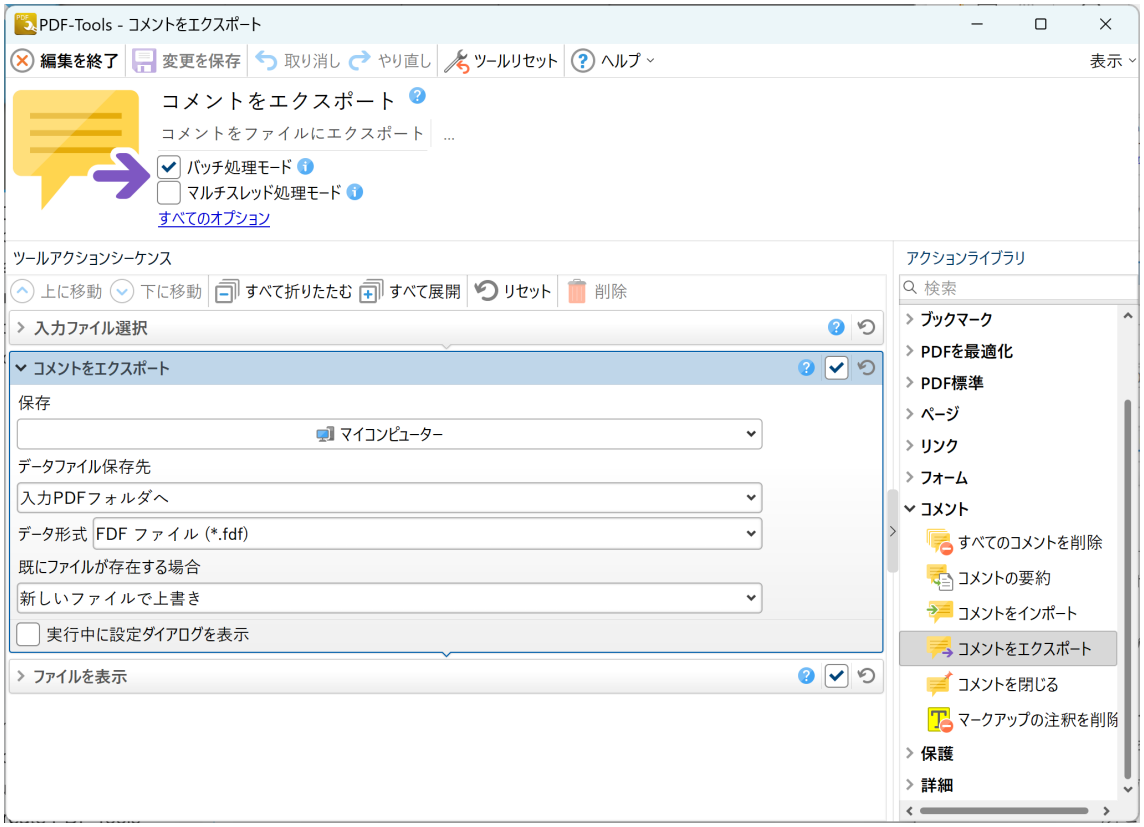

図 1. [コメントをエクスポート]アクションオプション

- **保存先** ドロップダウンメニューを使用して、出力ファイルの保存場所を決定します。
  - **マイコンピュータ** ローカルコンピュータにファイルを保存します。
  - **場所を追加** ここにカーソルを合わせて、ファイルを保存する新しい場所を追加し、**Box.com**、**Dropbox**、**Google ドライブ**、**OneDrive** または **SharePoint** をクリックして、これらの場所からアカウントを追加します。**PDF-Tools** は、選択した

アカウントのログイン情報の入力を求めます。この情報が入力されると、アカウントの詳細がリストに表示され、必要に応じてファイルを保存するために使用できます。

- **データファイル保存先** ドロップダウンメニューを使用して、出力ドキュメントのフォルダを決定します。
  - **入力 PDF のフォルダへ** 出力ドキュメントを元ドキュメントと同じフォルダに配置します。
  - **カスタム・フォルダへ** 出力ドキュメントをカスタム・フォルダに配置します。テキストボックスまたは「…」アイコンをクリックしてフォルダを選択します。
- **データ形式** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、出力ドキュメントの形式を決定します。
- **既にファイルが存在する場合** ドロップダウンメニューでオプションを選択し、出力ドキュメントのファイル名が既に使用されている場合に実行されるアクションを決定します。
  - **新しいファイルで上書き** 既存のファイルを新しいファイルで上書きします。
  - **既存のファイルを変更しない** 既存のファイルは保持され、新しいファイルは保存されません。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**コメントをエクスポート**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**コメントをエクスポート**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-10-4. コメントとフィールドをフラット化

コメントとフィールドをフラット化のアクションは、入力ドキュメントのコメントとフォームフィールドをベース・コンテンツにフラット化します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

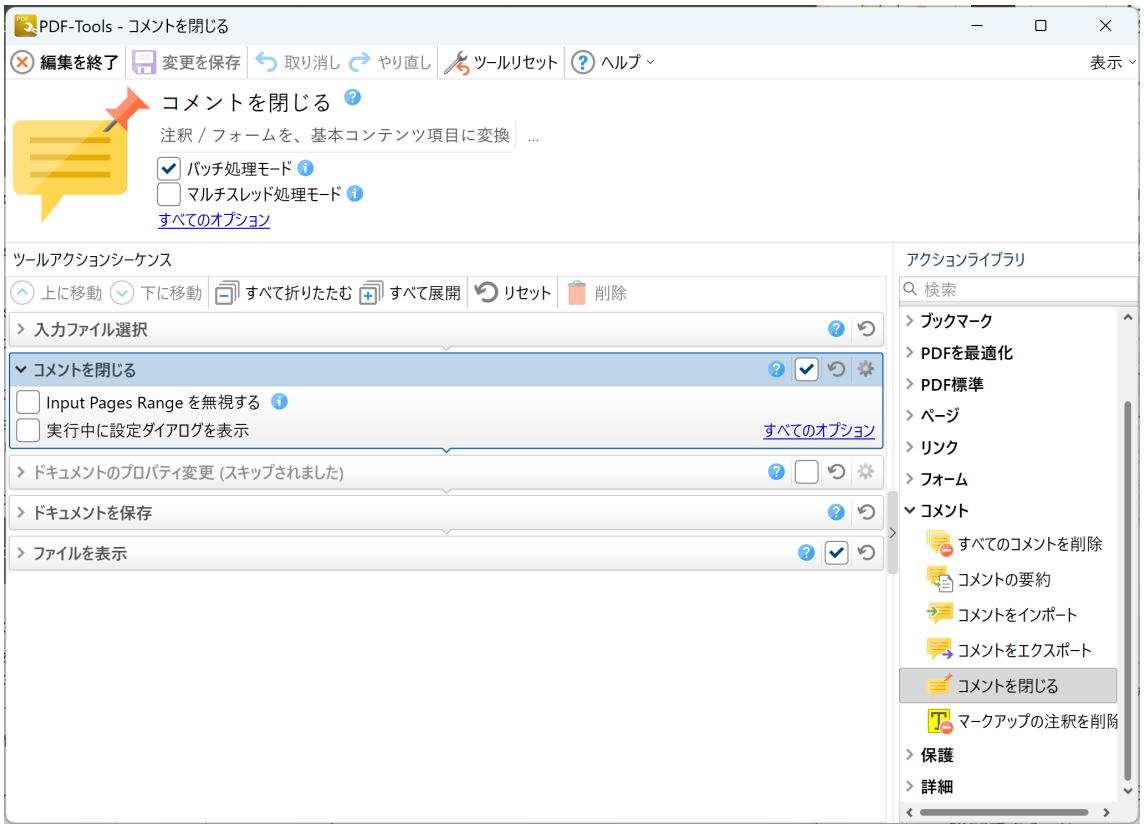

図 1. [コメントとフィールドのフラット化]アクションオプション

- **すべてのオプション**　すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**注釈をフラット化**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　**注釈をフラット化**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフ

にすると、アクションが使用されるたびに**注釈をフラット化**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

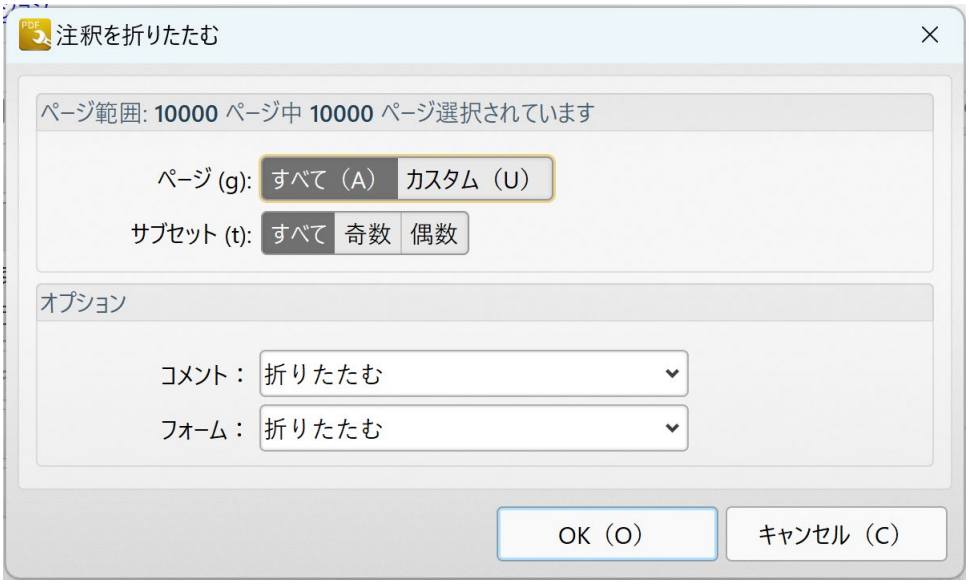

図 2. [注釈をフラット化]ダイアログボックス

- **ページ範囲** このオプションを使用して、コメントをフラット化するページ範囲を決定します。
  - **ページ：すべて** すべてのページのコメントをフラット化します。
  - **ページ：カスタム** カスタムページ範囲を指定します。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちら**を参照してください。
  - **サブセット** 必要に応じてすべてのページ、奇数ページ、または偶数ページを選択します。
- **コメント**および**フォームフィールド** ドロップダウンメニューを使用して、印刷しない注釈およびフォームフィールドのフラット化のプロセスの結果を決定します。
  - **フラット化** コンテンツをフラット化します。
  - **そのままにする** 既存のコンテンツ状態を保持します。
  - **削除** ドキュメントからコンテンツを削除します。

OK をクリックして変更を保存します。

7-10-5. コメントをインポート

コメントをインポートのアクションは、コメントを入力ドキュメントにインポートします。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

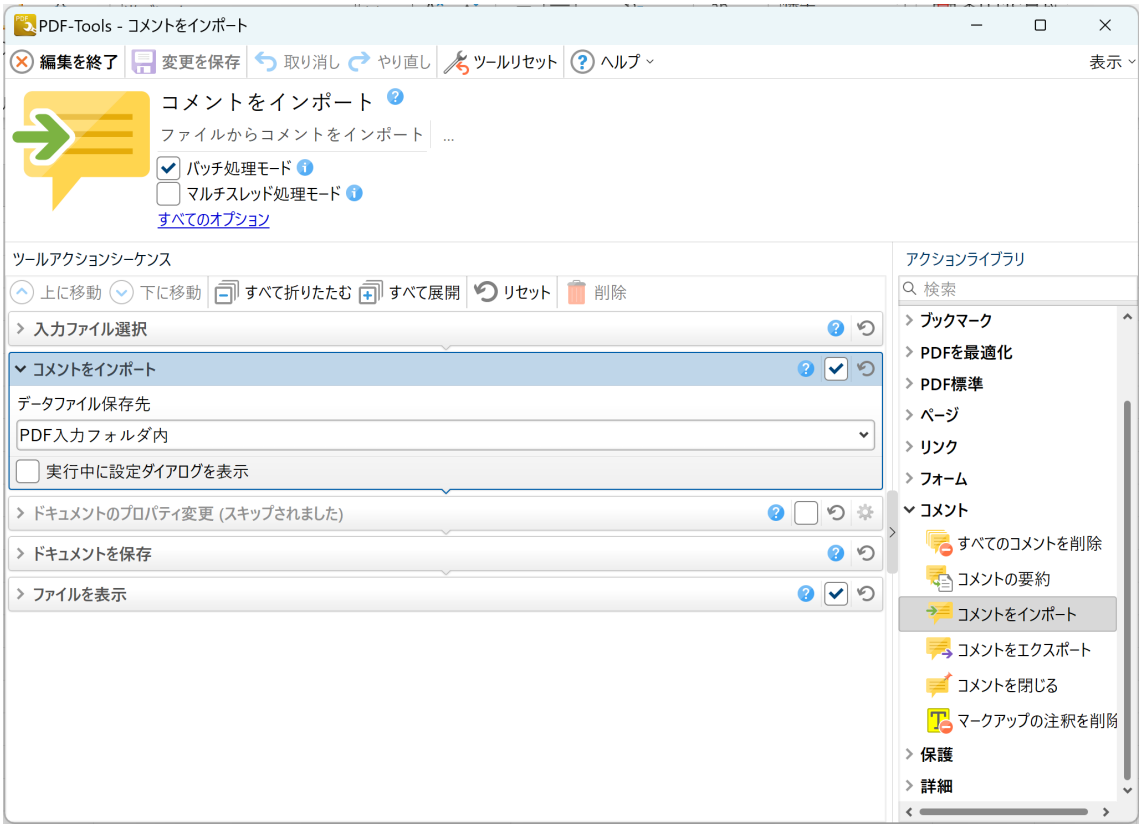

図 1. [コメントをインポート]アクションオプション

- **データファイル保存先** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、インポートするコメントを含むファイルの場所を指定します。
  - **入力 PDF のフォルダ内** これを選択して、元のドキュメントと同じフォルダにあるファイルを指定します。
  - **カスタム・フォルダ内** カスタム・フォルダを指定し、テキストボックスまたは「…」アイコンをクリックしてフォルダを選択します。

- **指定ファイル**　特定のファイルを指定し、テキストボックスまたは「…」アイコンをクリックしてファイルを選択します。

- **実行中に設定ダイアログを表示**　**コメントをインポート**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**コメントをインポート**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

変更の保存をクリックして、変更を保存します。

7-10-6. コメントサマリーを作成

コメントサマリーを作成のアクションは、入力文書にコメントのサマリーを作成します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

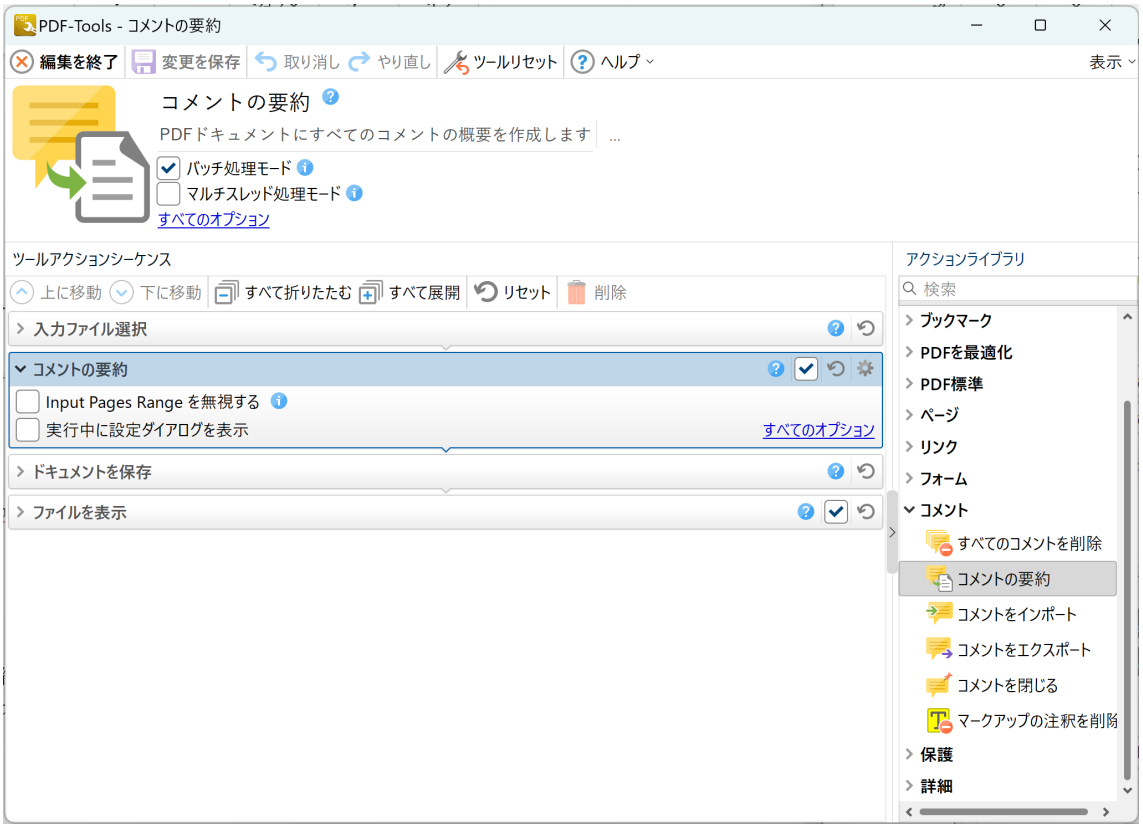

図 1. [コメントサマリーを作成]アクションオプション

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**コメントサマリーを作成**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** **コメントサマリーを作成**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**コメントサマリーを作成**のダイアログ

ボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

図 2. [コメントサマリーを作成]ダイアログボックス

- **グループ化**のドロップダウンメニューと**並べ替え**のドロップダウンメニューを使用して、コメントのグループ化とサマリーの作成方法を決定します。
  - **ページ** コメントをページごとにグループ化/並べ替えます。
  - **タイプ** タイプ別にコメントをグループ化/並べ替えます。
  - **作成者** 作成者別にコメントをグループ化/並べ替えます。
  - **日付** コメントを日付でグループ化/並べ替えます。
  - **件名** 件名でコメントをグループ化/並べ替えます。
  - **表示順** コメントを表示順で並べ替えます。
  - **リプライを除外** ボックスを選択して、サマリーからコメントへのリプライを除外します。
  - **非表示のコメントを含む** ボックスを選択して、サマリーに非表示のコメントを含めます。
- **ページ範囲** コメントサマリーの元のページ範囲を決定します。
  - **ページ:すべて** ページのすべてを含めます。
  - **ページ:カスタム** カスタムページ範囲を指定します。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちら**を参照してください。
  - **サブセット** このオプションを使用して、必要に応じて**すべてのページ**、奇**数ページ**、または**偶数ページ**を選択します。
- **出力** ドロップダウンメニューを使用して、サマリーの形式を決定します。
- **オプション** ドロップダウンメニューなどを使用して、選択した出力形式についての各種カスタマイズ可能なオプションを決定します。
- **出力先フォルダ** テキストボックスを使用してサマリーの出力先フォルダを決定するか、アイコンをクリックしてローカルのコンピューター上のフォルダを選択します。
- **ファイル名** テキストボックスを使用して、サマリーの名前を決定します。マクロのドロップダウンメニューをクリックして、必要に応じて**マクロ**を追加します 。

OK をクリックして変更を保存します。

7-11. プロテクトアクション

プロテクトアクションではデジタル署名、認証済み署名フィールド、タイムスタンプ、パスワードを入力ドキュメントの追加/削除をし、コンテンツのセンシティブ情報を除去/編集します。

PDF にタイムスタンプを追加 入力ドキュメントにドキュメント上のタイムスタンプを追加します。

墨消しの適用 墨消し対象としてマークされたコンテンツをドキュメントから削除します。

PDF 認証 入力ドキュメントに認証済み署名フィールドを追加します。

すべてのデジタル署名を削除 入力ドキュメントからデジタル署名を削除します。

検索と墨消し ドキュメント内の特定の単語またはパターン（電話番号、クレジット カード番号、社会保障番号、電子メール、または日付）を検索し、墨消しのマークを付けるか、即座に削除対応します。

センシティブ情報を除去 入力ドキュメントからセンシティブ情報を除去します。

セキュリティの付加 入力ドキュメントにパスワードによるセキュリティを付加します。

ドキュメントに署名 証明書ベースのデジタル ID を使用して、入力ドキュメントに署名フィールドおよび署名を追加します。

7-11-1. PDF にタイムスタンプを追加

PDF にタイムスタンプを追加のアクションは、ドキュメント上のタイムスタンプを入力ドキュメントに追加します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

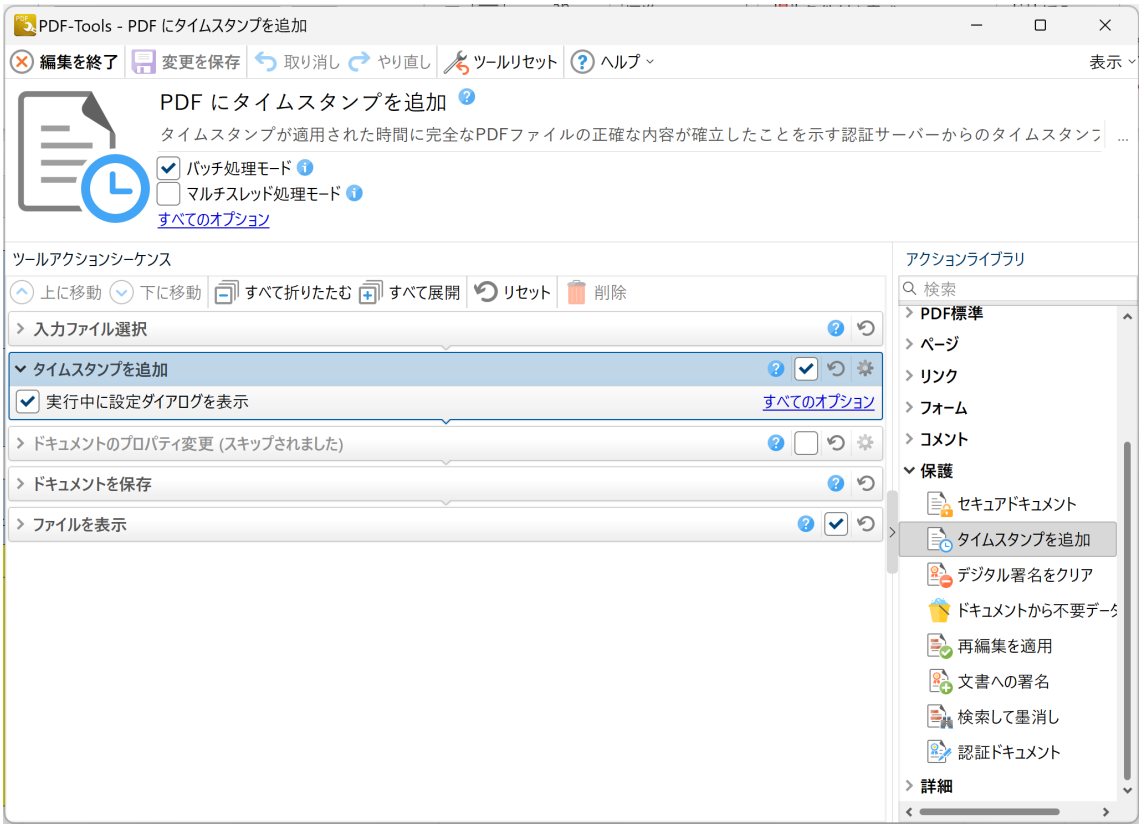

図 1. [PDF にタイムスタンプを追加]アクションオプションの追加

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。以下で詳しく説明するように、タイムスタンプサーバー・ダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** ボックスを選択して、**タイムスタンプサーバー**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**タイムスタン**

プサーバーのダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

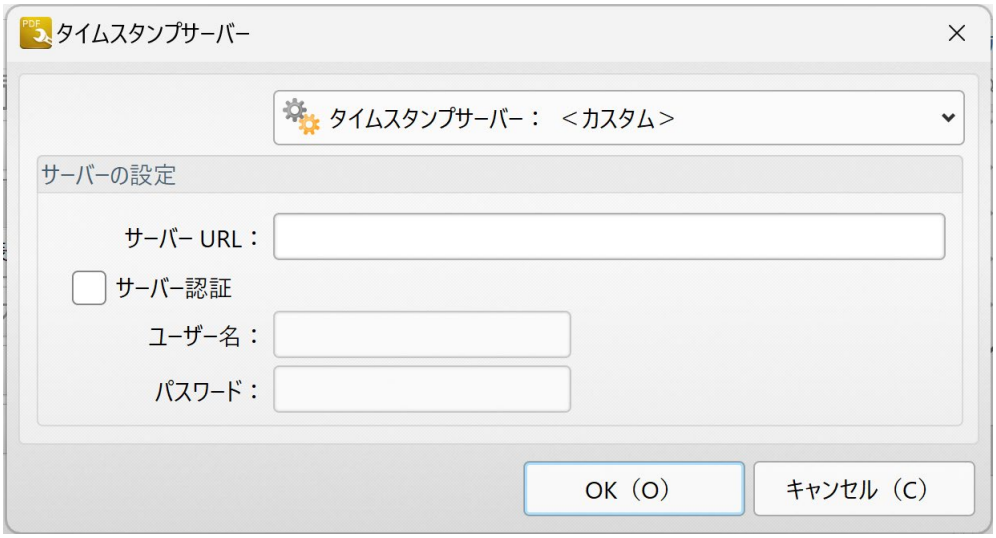

図 2. [タイムスタンプサーバー]ダイアログボックス

- **タイムスタンプサーバー** ドロップダウンメニューを使用して、タイムスタンプサーバーを選択します。
- **サーバーURL** タイムスタンプサーバーが初めて使用される場合は、ここのテキストボックスに Web サイトのアドレスを入力します。
- **サーバー認証** 選択したタイムスタンプサーバーが認証を必要とする場合は、このボックスを選択し、テキストボックスに**ユーザー名**と**パスワード**を入力します。
- 以下に詳述するように、**タイムスタンプサーバー**のドロップダウンメニューをクリックして、カスタマイズされた設定を保存/削除/管理します。

OK をクリックして設定を保存します。

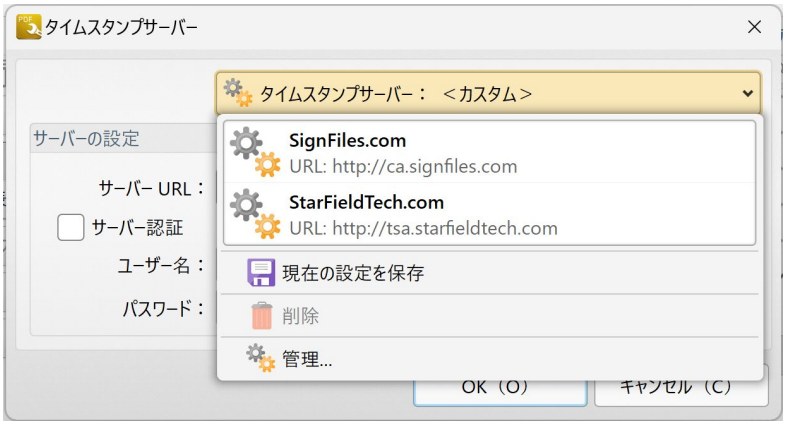

図 3. [タイムスタンプサーバー]ドロップダウンメニュー

- **保存** クリックして、後で使用できるように現在の設定をプロファイルに保存します。
- **削除** クリックして、現在のプロファイルを削除します。
- **管理** クリックして、保存されたプロファイルを管理します。**プリセット管理**ダイアログボックスが開きます。

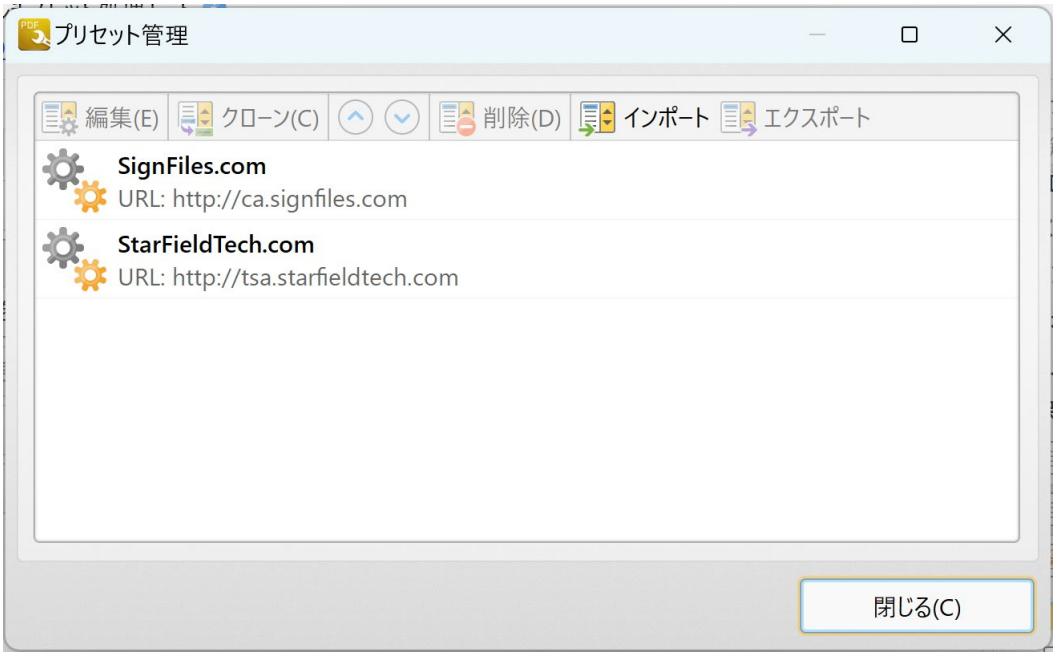

図 4. [プリセット管理]ダイアログボックス

- **編集** 選択したプロファイルを編集します。
- **複製** 選択したプロファイルを複製します。
- 上下の矢印で選択したプロファイルをリスト内で上下に移動します。
- **削除** 選択したプロファイルを削除します。
- **インポート** 保存したファイルからプロファイルをインポートします。
- **エクスポート** プロファイルをファイルにエクスポートします。

7-11-2. 墨消しの適用

墨消しの適用のアクションは、墨消しのマークが付けられたコンテンツをドキュメントから削除します。

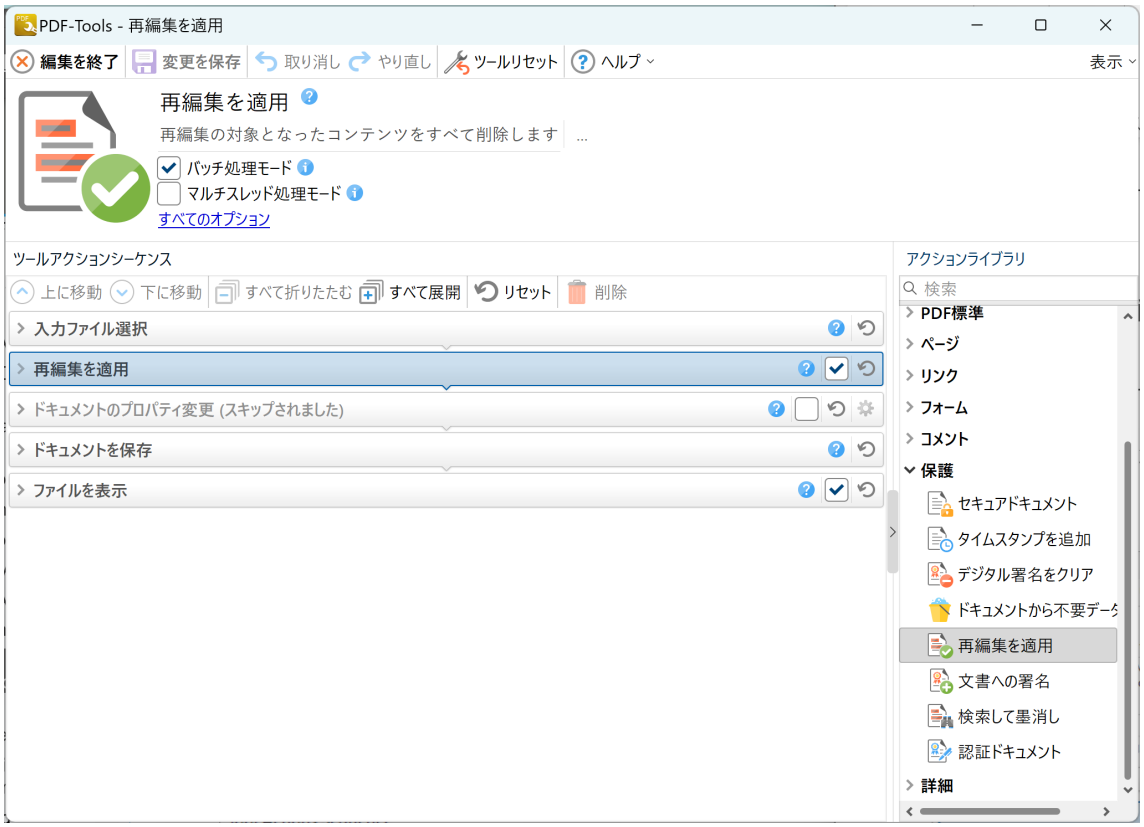

図 1. [墨消しを適用]アクションオプション

チェックボックスをオンまたはオフにしてこのアクションを有効/無効にし、 **変更を保存** をクリックして変更を保存します。

7-11-3. セキュリティの付加

セキュリティの付加のアクションは、入力ドキュメントにセキュリティ・パスワードを追加します。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

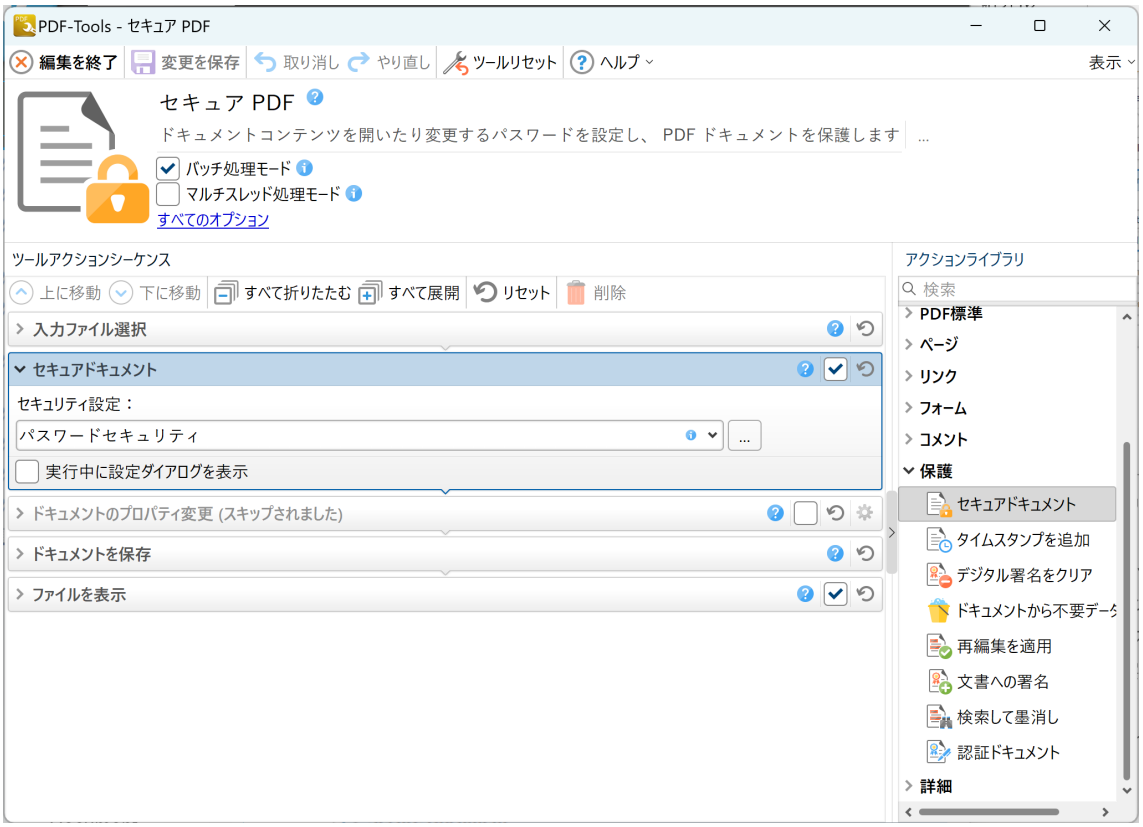

図 1. [セキュリティの付加]アクションオプション

- **セキュリティ・パスワード** ドロップダウンメニューから選択して、入力ドキュメントのパスワードを設定します。以下で詳しく説明するように**セキュリティ・パスワード設定**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** **セキュリティ・パスワード設定**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**セキュリティ・パスワード設定**

のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

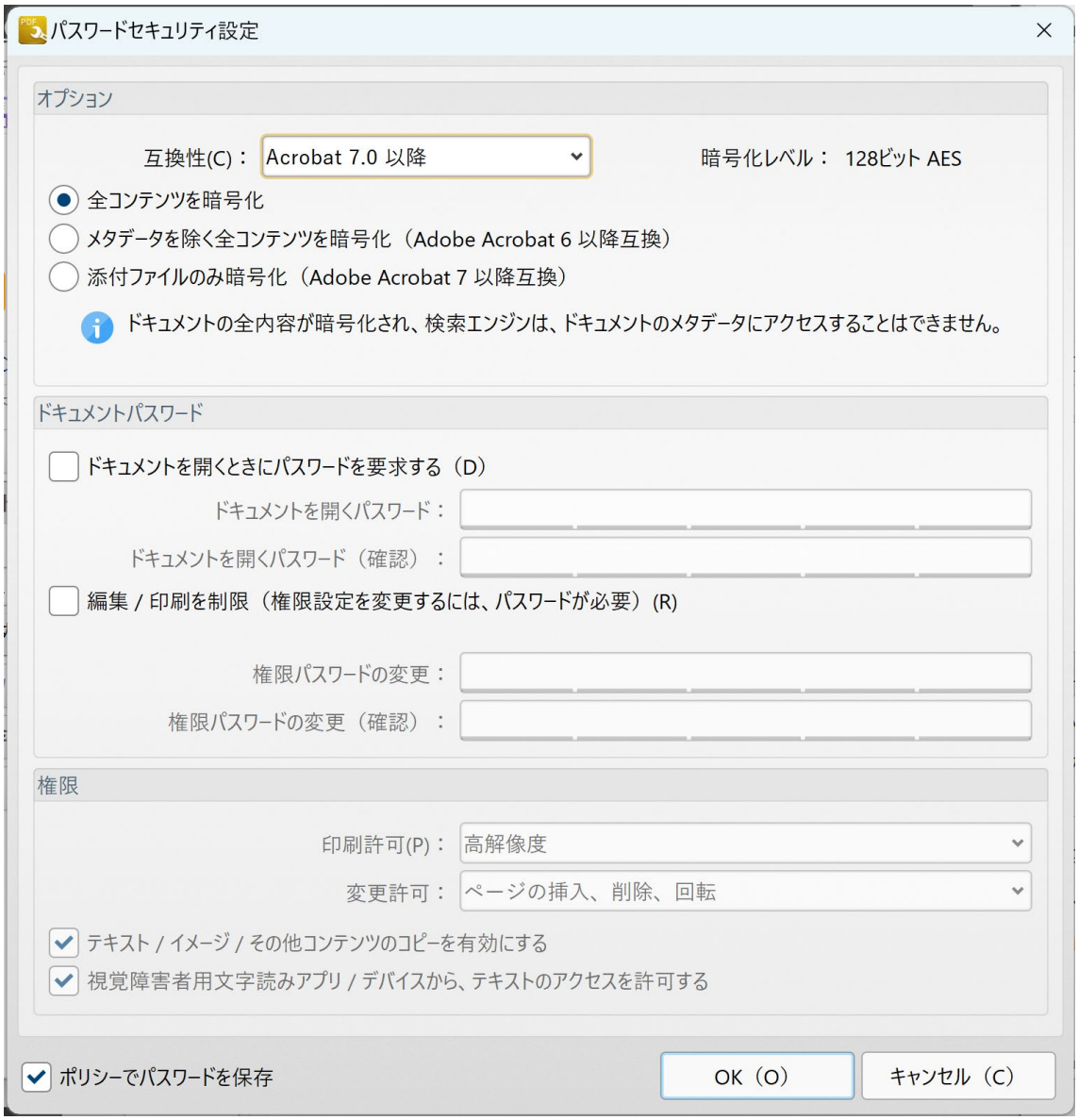

図 2. [セキュリティ・パスワード設定]ダイアログボックス

- **互換性** このメニューを使用して、ドキュメントのセキュリティの互換性を選択します。
- 暗号化の各オプションボタンを選択して、暗号化するドキュメントのエレメンツを決定します。

- **ドキュメントを開くときにパスワードを要求する** ドキュメントを開くためのパスワードを設定するにはこのボックスを選択します。**ドキュメントを開くパスワード**のテキストボックスにパスワードを入力し、下のテキストボックスで確認します。
- **編集/印刷を制限** このボックスを選択して、ドキュメントを編集および印刷するためのパスワードを設定します。**権限パスワードの変更**のテキストボックスにパスワードを入力し、下のテキストボックスで確認します。**許可**セクションのドロップダウンメニューとチェックボックスを使用して、これらのパスワードで有効にする設定を選択します。

OK をクリックして変更を保存します。

7-11-4. ドキュメントに署名

ドキュメントに署名のアクションは、証明書ベースのデジタル ID を使用して、入力ドキュメントに署名および署名フィールドの追加をします。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

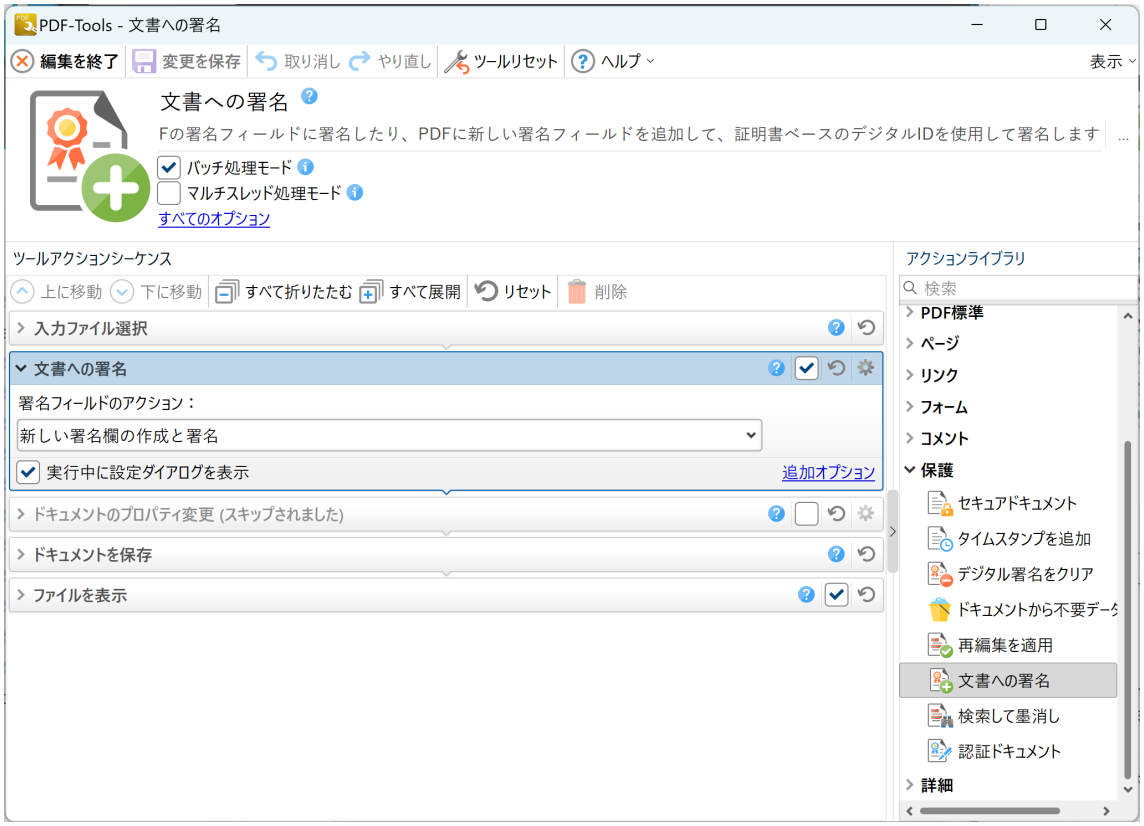

図 1. [ドキュメントに署名]アクションオプション

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。以下に詳述するように、**ドキュメントに署名**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** **ドキュメントに署名**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオ

フにすると、アクションが使用されるたびに、**ドキュメントに署名**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

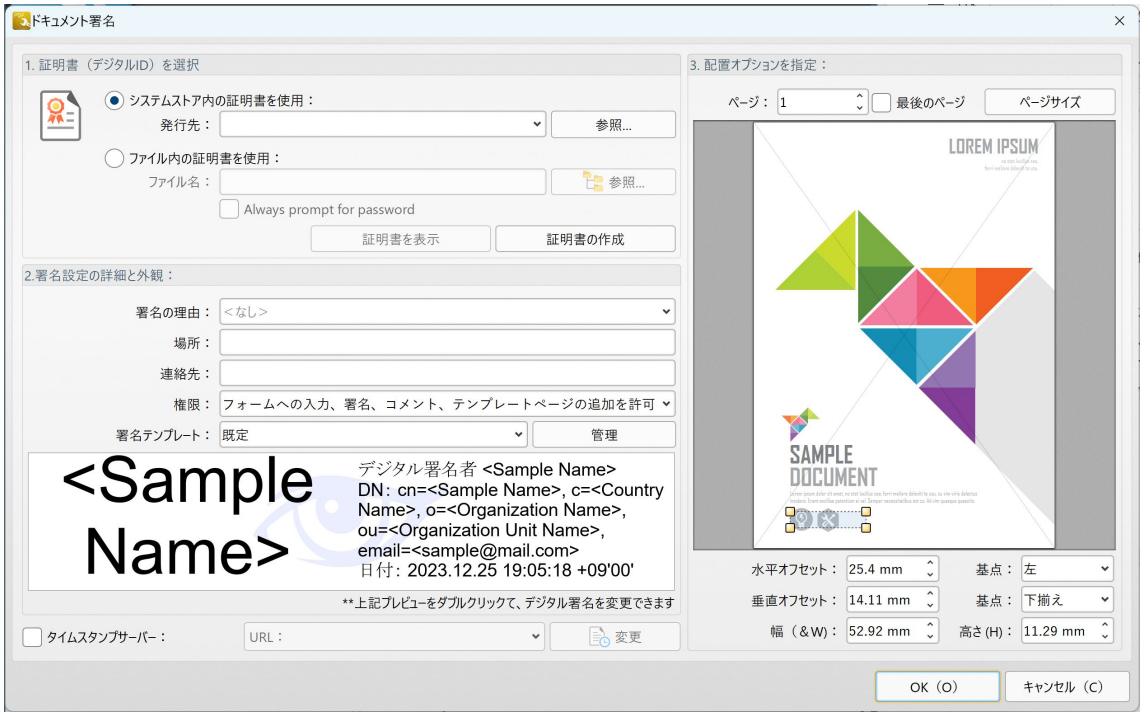

図 2. [ドキュメントに署名]ダイアログボックス

- システムストアまたはローカルコンピューターから証明書を選択します。
- **証明書を表示**　選択した証明書の詳細を表示します。
- **証明書の作成**　新しい証明書を作成します。**(図 3.)** に示すダイアログボックスが開きます。
- **署名の理由**　メニューをクリックするか、ボックスにテキストを手動で入力して、ドュメントに署名する理由を追加します。
- **場所**　ボックスをクリックして、必要に応じて場所を入力します。
- **連絡先**　ボックスをクリックして、署名に連絡先情報を追加します。
- **権限**　ボックスをクリックして、ドキュメントの署名後に許可される権限の変更を決定します。
- **署名テンプレート**　メニューをクリックして、署名および関連情報のレイアウト・オプションを選択します。
- **管理**　ここから**署名テンプレート**をさらにカスタマイズします。
- **タイムスタンプサーバー**　ボックスを選択して署名に追加するタイムスタンプサーバーを選択し、ドロップダウンメニューからタイムスタンプサーバーを選択します。**変更**をクリックして、使用するタイムスタンプサーバーの詳細を表示/編集します。

- **配置オプション**　デジタル署名が入力ドキュメントに追加される場所を決定します。
  - **ページ**　ボックスにページ番号を入力するか、**最後のページ**のボックスを選択してデジタル署名を追加するページを指定します。
  - プレビューのボックス枠をクリックしてドラッグし、署名フィールドを手動で配置したり、寸法を変更したりします。
  - または、番号ボックスを使用して、デジタル署名の場所と寸法を決定します。
  - **ページサイズ**　ボタンをクリックして、プレビューでページのサイズ/向きを設定します。

OK をクリックして変更を保存します。

デジタル証明書の作成

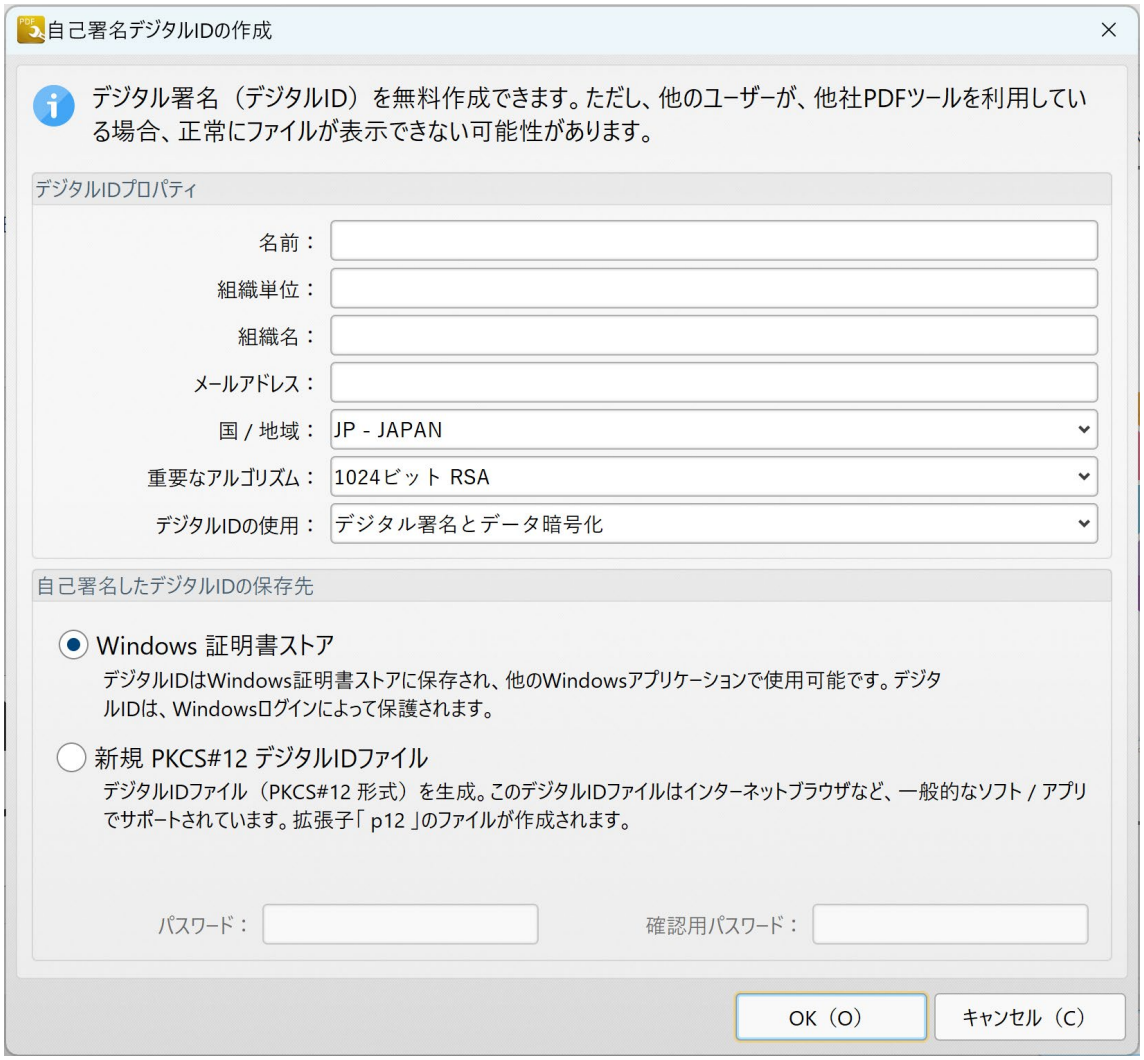

図 3. [自己署名デジタル ID の作成]ダイアログボックス

- **名前**、**組織**、**電子メール**に関するテキストボックスに該当のユーザー情報を入力します。
- **国/地域** ドロップダウンメニューを使用して、デジタル証明書の所有者の国籍を入力します。
- **鍵アルゴリズム**として **1024-bit RSA** または **2048-bit RSA** のいずれかを選択します。**1024-bit RSA** は **2048-bit RSA** よりも汎用的に互換性がありますが、**2048-bit RSA** はセキュリティを強化します。
- デジタル証明書の保存場所を選択します。**PKCS#12** オプションを使用する場合は、**パスワード**のテキストボックスにパスワードを入力して確認します。

OK をクリックして、デジタル証明書を作成します。その後、（図 2.）にあるように**システムストア内の証明書を使用**ドロップダウンメニューに表示されます。

7-12. その他アクション

その他アクションではドキュメントのプロパティの変更やドキュメントの印刷ができます。

ドキュメントのプロパティの変更 入力ドキュメントのプロパティを編集します。

色変換 入力ドキュメントの色を変換します。

ファイルリストを作成 ツールの実行時に使用されるファイルのファイルリストを作成します。

ドキュメントをフィルタ は、同じツール内の後続のアクションによって処理されるドキュメントの自動選択の基準を設定します。

ファイルをフィルタ 同じツール内の後続のアクションで処理されるファイルの自動選択の基準を設定します。

ページをフィルタ 同じツール内の後続のアクションによって処理されるページの自動選択の基準を設定します。

正規表現で検索 正規表現を使用してドキュメント内のテキストを検索します。

ドキュメントを印刷 入力ドキュメントを印刷します。

アプリケーションを実行 コマンドラインからサードパーティ・アプリケーションを起動します。

7-12-1. ドキュメントのプロパティの変更

ドキュメントのプロパティの変更のアクションは、ドキュメントのプロパティを編集するために使用されます。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

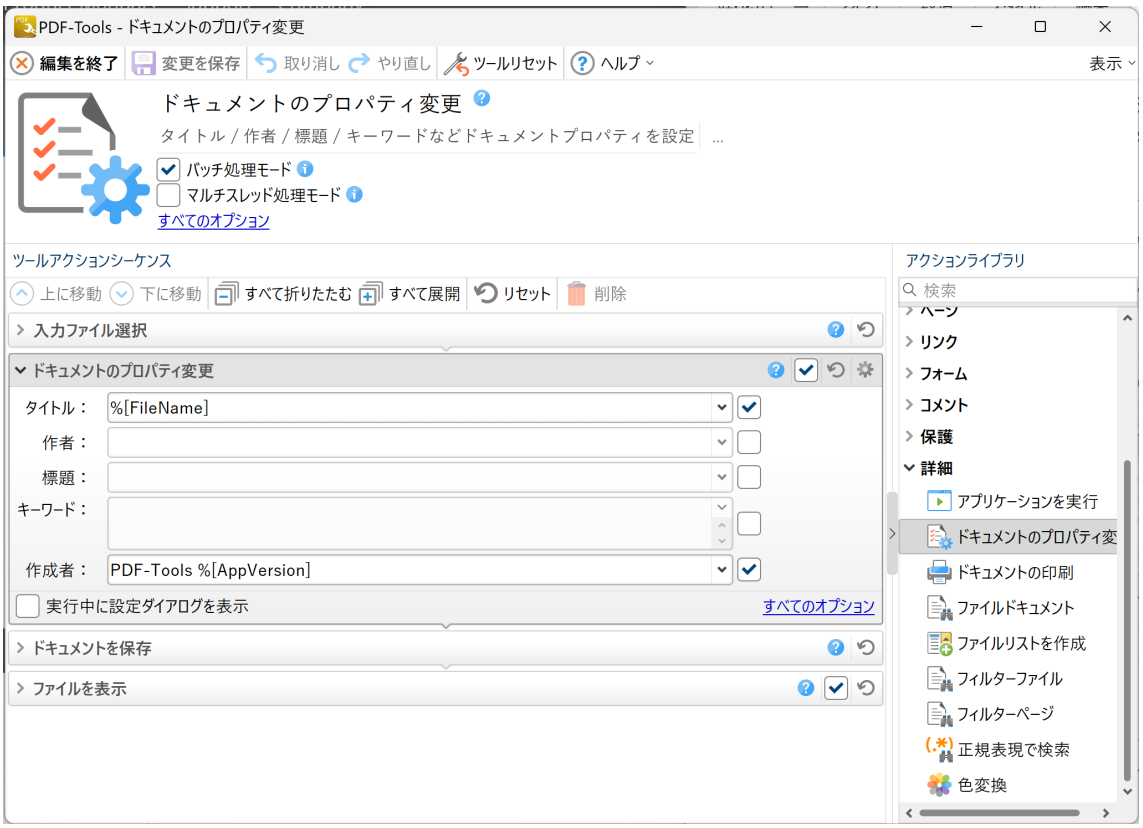

図 1. [ドキュメントのプロパティの変更]アクションオプション

- テキストボックスを使用して、ドキュメントの**タイトル**、**作者**、**件名**、**キーワード**、**作成者**のプロパティを作成/編集します。
- ドロップダウン矢印をクリックして**マクロ**を追加します。
- **すべてのオプション**　すべてのオプションを表示/編集します。以下で詳しく説明するように、ドキュメント・プロパティのダイアログボックスが開きます。

- **実行中に設定ダイアログを表示** ドキュメント・プロパティのダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ドキュメント・プロパティ**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

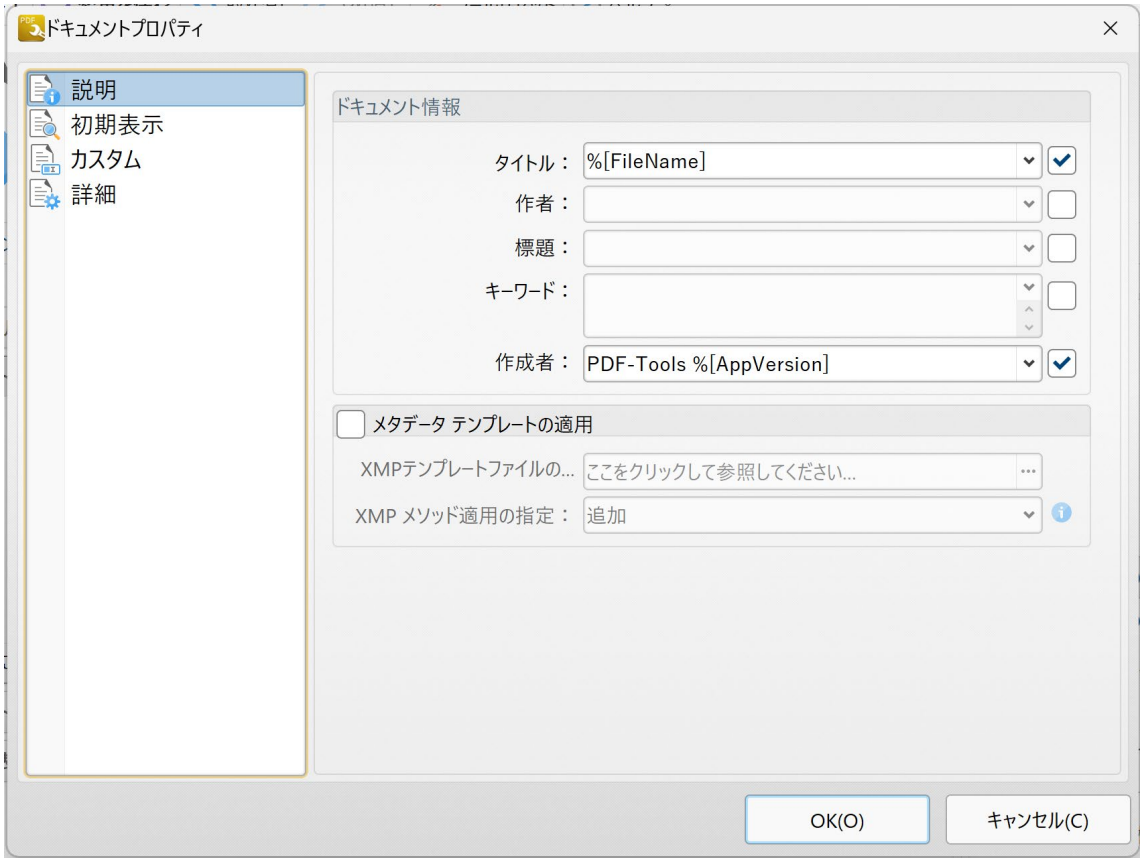

図 2. [ドキュメント・プロパティ]ダイアログボックス、[説明]カテゴリ

左ウィンドウでオプションを選択して、ドキュメントのプロパティを表示/編集します。**説明**でのドキュメント・プロパティは、入力ドキュメントのメタデータを決定します。これらのプロパティの詳細については、**(図 1)** を参照してください。

初期表示

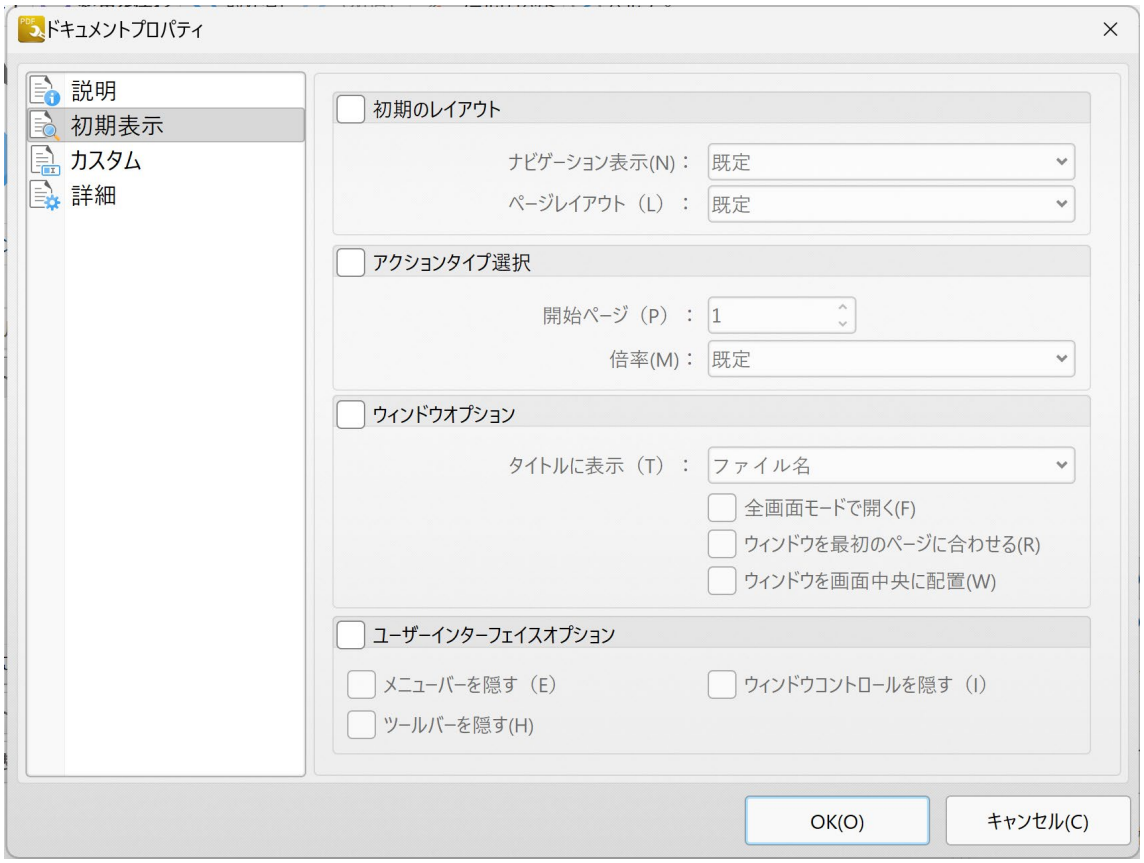

図 3. [ドキュメント・プロパティ]ダイアログボックス、[初期表示]カテゴリ

ドキュメント・プロパティの**初期表示**では、入力ドキュメントの初期表示について決定します。

初期レイアウト・オプションについては次のとおりです。

- **ナビゲーション表示** ドキュメントを開いたときに表示されるペインを決定します。
  - **デフォルト（既定）** ドキュメントを開くために使用するアプリケーションのデフォルト設定を保持します　。
  - **ページのみ** ドキュメント自体のみを表示します。
  - **ブックマーク・ペインとページ** ドキュメントとブックマーク・ペインを表示します。
  - **サムネイル・ペインとページ** ドキュメントとサムネイル・ペインを表示します。
  - **レイヤー・ペインとページ** ドキュメントとレイヤー・ペインを表示します。
  - **添付ファイル・ペインとページ** ドキュメントと添付ファイル・ペインを表示します。

- **ページレイアウト** ドキュメントを開いたときのページレイアウトを決定します。
  - **デフォルト（既定）** ドキュメントを開くために使用するアプリケーションのデフォルト設定を保持します　。
  - **単一ページ** 一度に 1 つのページを表示します。
  - **連続** スクロール列に単一ページが表示されます。
  - **連続ー見開き** スクロール列に一度に見開きでページを表示します。
  - **連続ー表紙付き** 一度に見開きの状態で表示されますが、表紙も含まれています。
  - **見開き** 一度に見開きでページを表示します。
  - **見開きー表紙付き** 表紙付きで見開きページを表示します。

- **開始ページ** ドロップダウンメニューを使用して、ドキュメントを開くページを決定します。
- **拡大率** ドキュメントを開いたときの拡大のレベルを決定します。
  - **デフォルト（既定）** ドキュメントを開くために使用するアプリケーションのデフォルト設定を保持します　。
  - **実際のサイズ** 実寸でページを表示します。結果の表示には、解像度の設定が含まれます。
  - **ページに合わせる** サイズに関係なくページのコンテンツの全範囲が表示されます。
  - **幅に合わせる** 幅に応じてページを合わせます。
  - **高さに合わせる** 高さに応じてページを合わせます。
  - **表示に合わせる** 表示領域の範囲内でページ全体を表示します。
  - その他、数値パーセンテージのリストから倍率を決定します。

ウィンドウ・オプションは次のとおりです。

- **タイトルに表示** ドロップダウンメニューを使用して、ドキュメントを開いたときにドキュメントタブに表示される名前を決定します。
- **全画面モードで開く** ボックスを選択して、ドキュメントを全画面モードで開きます。
- **ウィンドウを最初ページに合わせる** ボックスを選択して、ドキュメントの最初のページのサイズに応じて表示ウィンドウのサイズを変更します。
- **ウィンドウを画面中央に配置** ボックスを選択して、表示ウィンドウを一画面の中央に配置します。

- **メニューバーを隠す**　ボックスを選択して、ドキュメントを開くために使用するアプリケーションのメニューバーを非表示にします。
- **ツールバーを隠す**　ボックスを選択して、ドキュメントを開くために使用するアプリケーションのツールバーを非表示にします。
- **ウィンドウ・コントロールを隠す**　ボックスを選択して、ドキュメントを開くために使用するアプリケーションのウィンドウ・コントロールを非表示にします。

その他

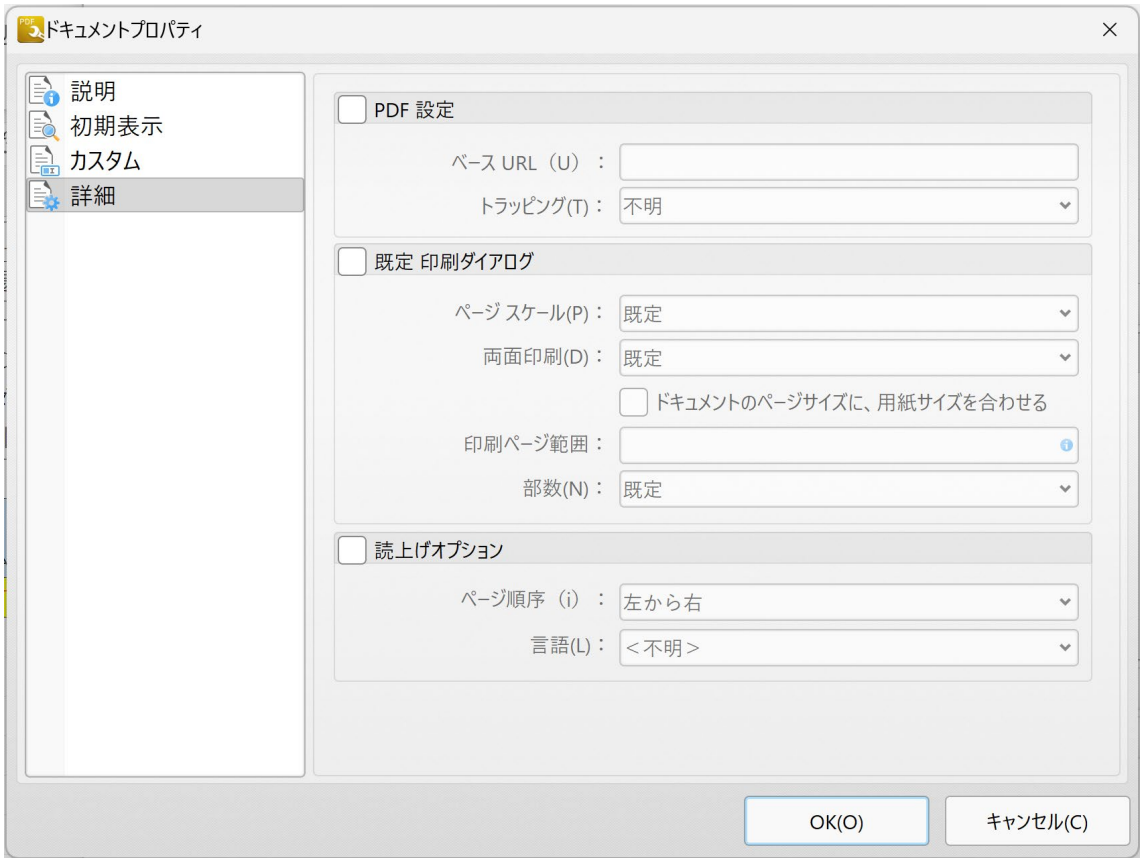

図 4. [ドキュメント・プロパティ]ダイアログボックス、[その他]カテゴリ

その他のドキュメント・プロパティは、印刷/読み取りのオプションを決定します。

- 印刷ダイアログ（プリセット）　ボックスを選択すると、表示アプリケーションのデフォルトの印刷設定がファイルそのものにおいて指定された設定で上書きされます。
  - **ページの拡縮設定**　ドロップダウンメニューでオプションを選択して、使用するページの設定を決定します。
    - **デフォルト**　デフォルト設定を保持します。

- **なし** ページの拡大縮小を無効にします。
- **両面印刷** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、両面印刷の際のデフォルトの様態を決定します。
- **ドキュメントのページサイズに用紙サイズを合わせる** ボックスを選択すると、ドキュメントのページのサイズに用紙サイズを合わせます。
- **印刷ページ範囲** 印刷するページの範囲をテキストボックスに入力します。ページ範囲の指定の詳細については、**こちら**を参照してください。
- **部数** ドロップダウンメニューを使用して、印刷するドキュメントの部数を決定します。

- **読み取りオプション** ボックスを選択して、ページ順と言語オプションを有効にします。
  - **ページ順序** 左から右または右から左を選択します。
  - **言語** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、ドキュメントの言語を決定します。

OK をクリックして設定を保存します。

7-12-2. 色変換

色変換のアクションは、ドキュメントの色を変換するために使用されます。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

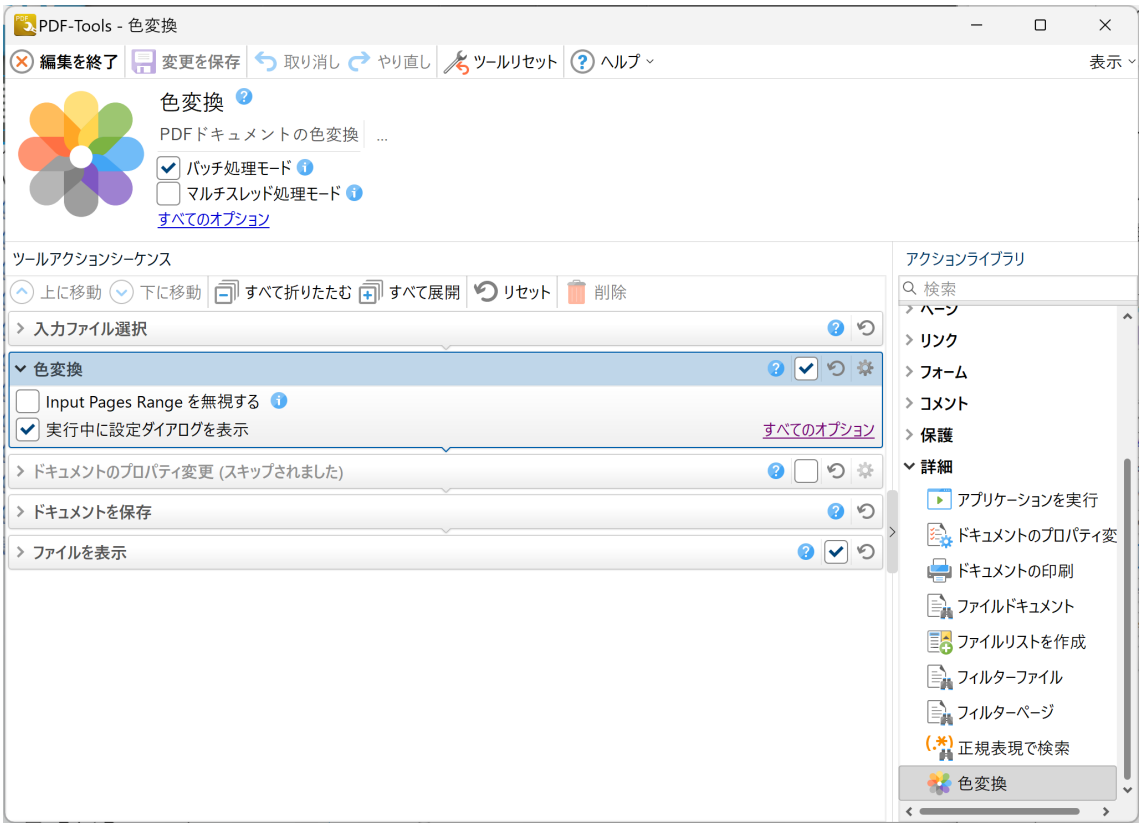

図 1. [色変換]アクションオプション

- **すべてのオプション** すべてのオプションを表示/編集します。 以下に詳述するように、**色変換**のダイアログボックスが開きます。
- **実行中に設定ダイアログを表示** **色変換**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**色変換**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

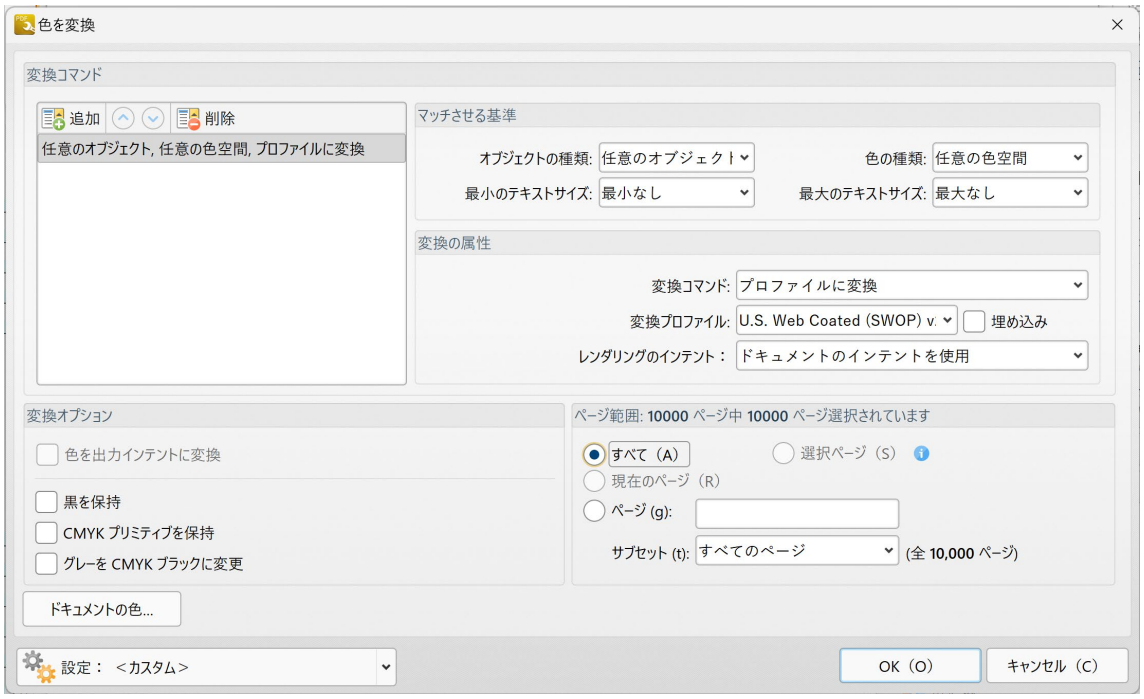

図 2. [カラー変換]ダイアログボックス

・色変換のデフォルト設定プロファイルは、左側のペインで操作できます。色変換用にカスタマイズした設定を作成する場合は、**追加**をクリックして、以下に詳述するように設定をカスタマイズします。

- **マッチングの基準**　変換するドキュメント・コンテンツをここで決定します。
  - **オブジェクトの種類**　ドロップダウンメニューを使用して、変換するオブジェクトのタイプを指定します。
  - **色の種類**　ドロップダウンメニューを使用して、変換する色空間（カラースペース）を指定します。
  - **最小/最大のテキストサイズ**　ドロップダウンメニューから変換するテキストの最小／最大サイズを指定します。
- **変換の属性**　**マッチング基準**を満たすドキュメント内のオブジェクトの色の変換方法を決定します　。
  - **変換コマンド**　ドロップダウンメニューから実行される変換操作を決定します。
    - **保持**　オブジェクトを変換から保護します。
    - **プロファイルに変換**　**変換プロファイル**のドロップダウンメニューで選択したプロファイルを使用して、オブジェクトを変換先の色空間に変換します。

- **キャリブレーションの取り消し** オブジェクトから埋め込みプロファイルを削除します。
- **変換プロファイル** ドロップダウンメニューからオブジェクトを変換するプロファイルを決定します。**埋め込み**のボックスを選択して、選択した ICC プロファイルでオブジェクトにタグを付け、色を調整します。これは、PDF を異なるデバイス上のユーザー間で共有する場合に便利です。
- **レンダリング・インテント** ドロップダウンメニューから色変換時に使用されるレンダリング・インテントを決定します。

- **変換オプション** ここで追加オプションを決定します。
  - ・色を出力インテントに変換 ボックスを選択して、ドキュメントの色を**レンダリング・インテント**のドロップダウンメニューで指定した**出力インテント**に変換します。ただし、ドキュメントの色を変換するには、出力インテントのプロファイルがドキュメントに含まれている必要があります。
  - ・変換後のドキュメントの CMYK、RGB、またはグレースケールのコンテンツ内の黒いオブジェクトを保持するには、**黒を保持**のボックスを選択します。たとえば、変換実行の際、RGB テキストがリッチブラックの CMYK に変換されないようにします。
  - ・**CMYK の基本色を保持** これを選択すると、着色料を 1 つだけ含む色を保持します。
  - **グレーを CMYK ブラックに変更** ブラック(黒)のコンポーネントのみを使用してデバイスグレー(DeviceGray)を CMYK ブラックに変換します。
- **ページ範囲** このオプションを使用して、入力ドキュメントで色変換が行われるページ範囲を指定します。
  - **すべて** すべてのページの色を変換します。
  - **ページ** ページ範囲を指定します。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちら**を参照してください。
  - **サブセット** このオプションを使用して、必要に応じて**すべてのページ**、**奇数ページ**、または**偶数ページ**を選択します。
- **ドキュメントの色** 現在のドキュメント内の色の内訳を表示し、どの色が変換されるか確認できます**(図 4)**。
- **設定** ドロップダウンから、カスタム設定を保存/管理/削除します。
  - **現在の設定を保存** 現在の設定をプロファイルとして保存し、後で使用できるようにします。
  - **削除** 選択したプロファイルを削除します。このオプションは、カスタマイズされたプロファイルでのみ使用できることに注意してください。

- **管理**　プリセット/カスタマイズされたプロファイルを管理します。プリセットの管理ダイアログボックスが開きます。

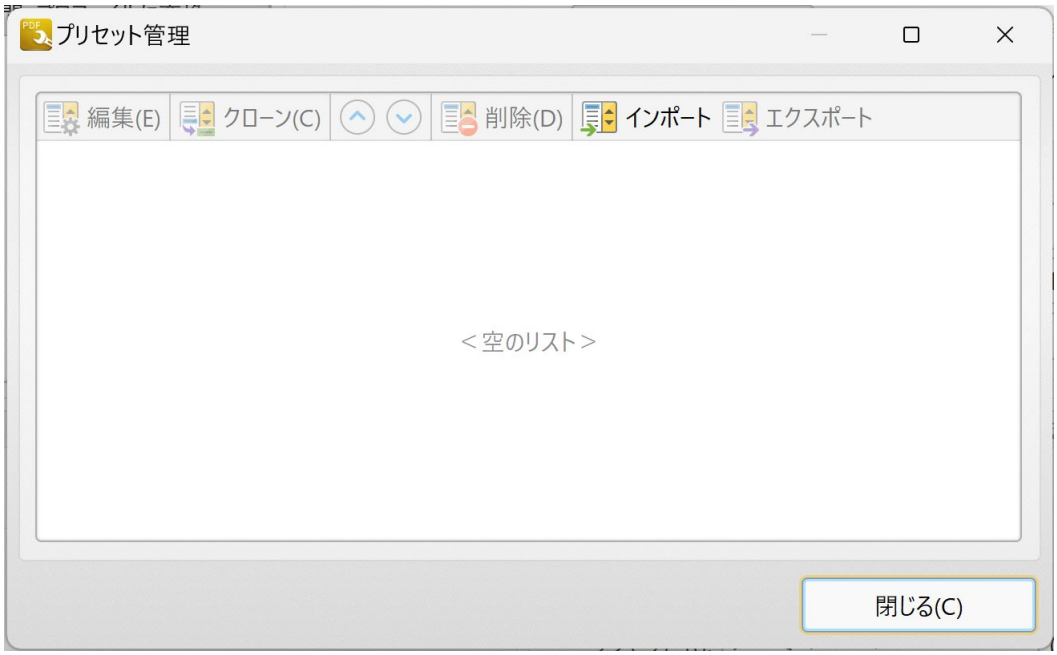

図 3. [プリセットの管理]ダイアログボックス

- **編集**　選択したプロファイルを編集します。このオプションは、カスタマイズされたプロファイルでのみ使用できることに注意してください。
- **複製**　選択したプロファイルを複製します。このオプションを使用すると、デフォルトの状態ではカスタマイズできないプリセット・プロファイルの設定をカスタマイズできます。
- 上下の矢印を使用して、選択したプロファイルをリスト内で上下に移動します。
- **削除**　選択したプロファイルを削除します。このオプションは、カスタマイズされたプロファイルでのみ使用できることに注意してください。
- **インポート**　保存したファイルからプロファイルをインポートします。
- **エクスポート**　プロファイルをファイルにエクスポートします。

ドキュメントの色

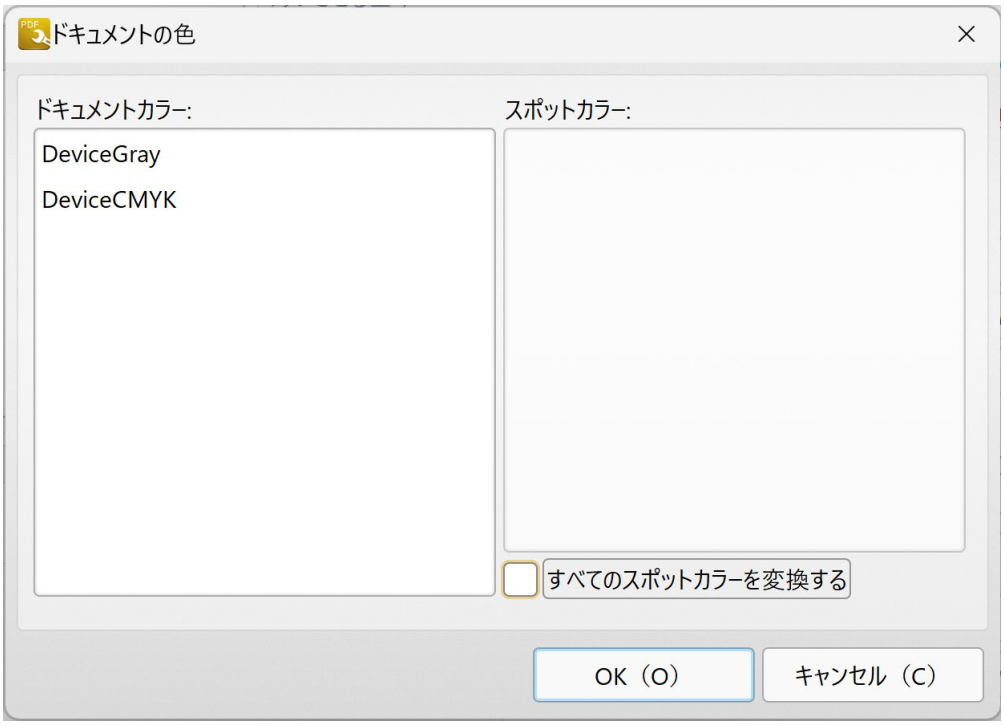

図 4. [ドキュメントの色]ダイアログボックス

ドキュメントに含まれるすべての色は、このダイアログボックスで詳しく説明されています。スポットカラー（特色）のボックスを選択して変換に含めるか、**すべてのスポットカラーを変換する**のボックスを選択してすべてのスポットカラーを変換します。

7-12-3. ファイルリストを作成

ファイルリストを作成のアクションは、ツールの実行時に使用されるファイルのファイルリストを作成するために使用されます。

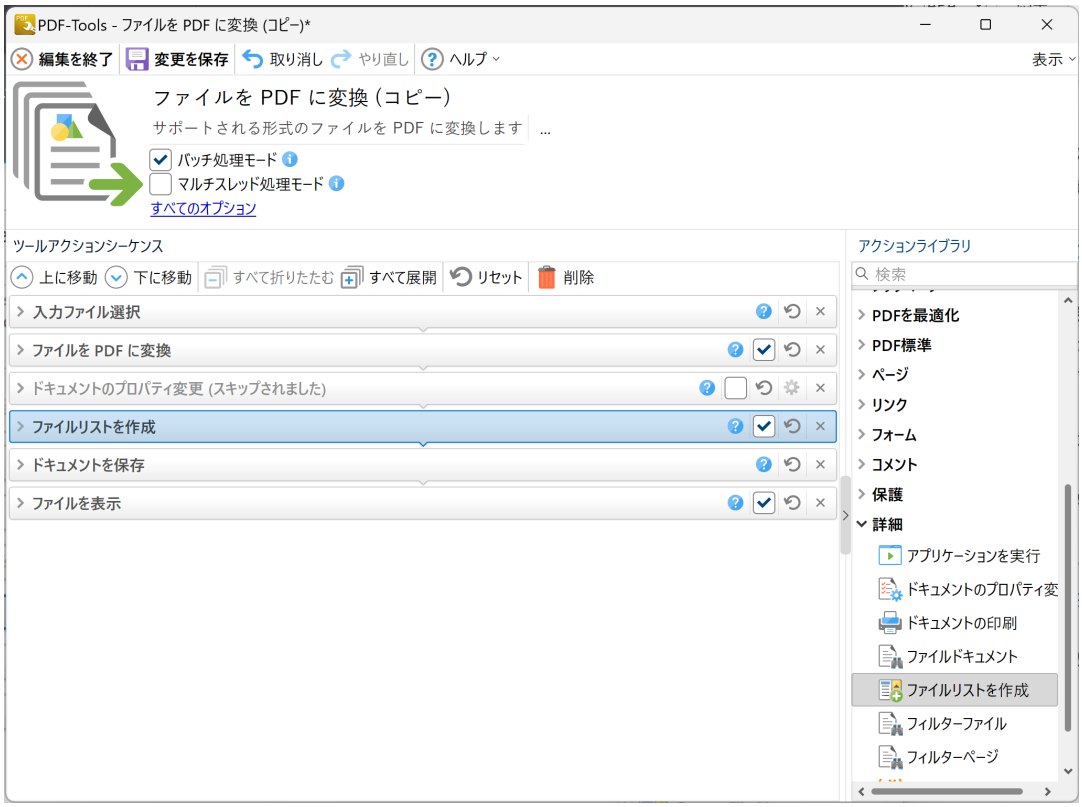

図 1. [ファイルリストの作成]アクションオプション

このアクションを含むツールが実行されると、ツールの実行時に使用されたファイルを含む **(*.pdtfl)** ファイルが作成されます。これらのファイルは、ツールの実行時に**入力ファイル選択**のダイアログボックスで入力ファイルとして使用できるため、同じファイルのセットを手動で繰り返し入力する必要がなくなります。

このアクションを有効/無効にするには、チェックボックスをオン/オフし、

変更の保存をクリックして変更を保存します。

7-12-4. ファイルをフィルタ

ファイルをフィルタのアクションは、同じツール内の後続のアクションによって処理されるファイルの自動選択の基準を設定するために使用されます。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

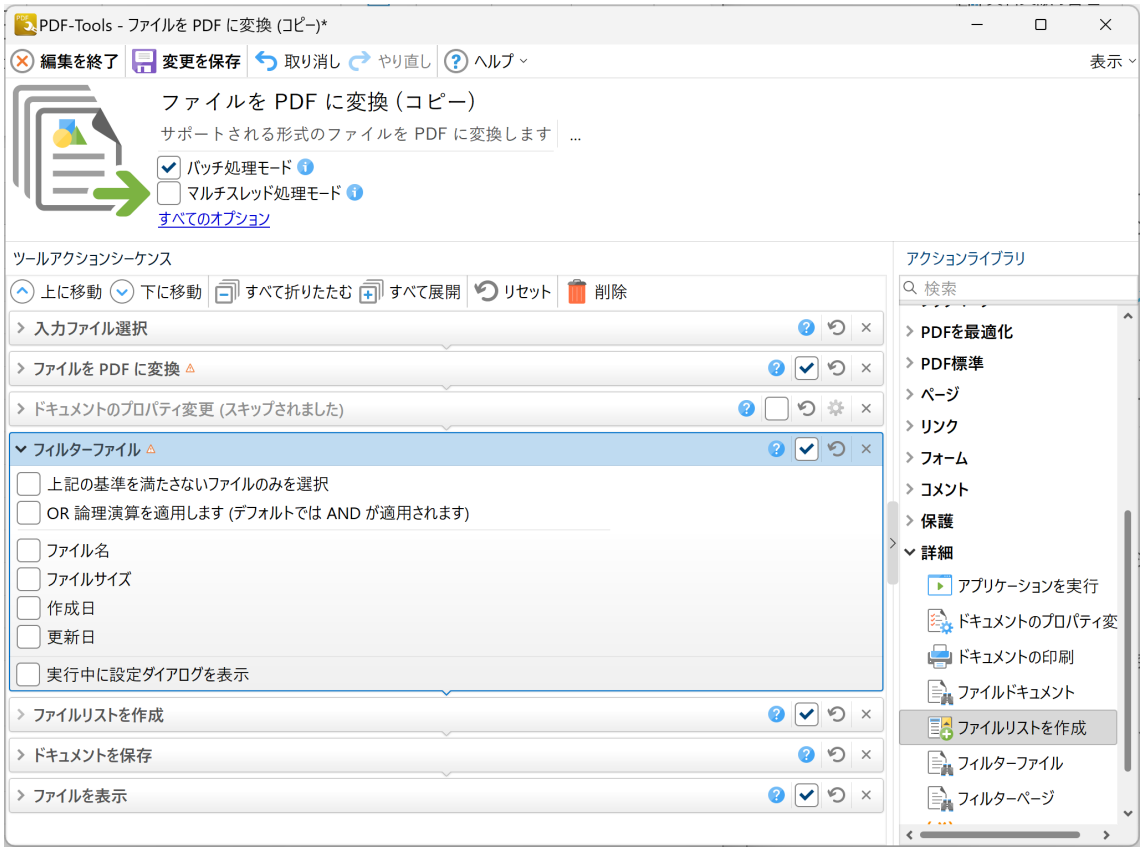

図 1. [ファイルをフィルタ]アクションオプション

チェックボックスを使用して、選択するドキュメントを指定します。

- **ファイル名** ボックスを選択し、ファイル名に従ってファイルをフィルタリングします。テキクスにファイルの名前を入力します。

- **ファイルサイズ**　ボックスを選択して、サイズに応じてファイルをフィルタリングし、ドロップダウンメニューを使用して、ファイルの最小/最大/正確なサイズを指定します。
- **作成日**　ボックスを選択して、作成日に従ってファイルをフィルタリングし、ドロップダウンメニューとボックスを使用して作成日を指定します。
- **変更日**　ボックスを選択して、変更日に従ってファイルをフィルタリングし、ドロップダウンメニューとボックスを使用して変更日を指定します。
- **実行中に設定ダイアログを表示**　**ファイルをフィルタ**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**ファイルをフィルタ**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

7-12-5. 正規表現で検索

正規表現で検索のアクションは、正規表現を使用してドキュメント内のテキストを検索するために使用されます。

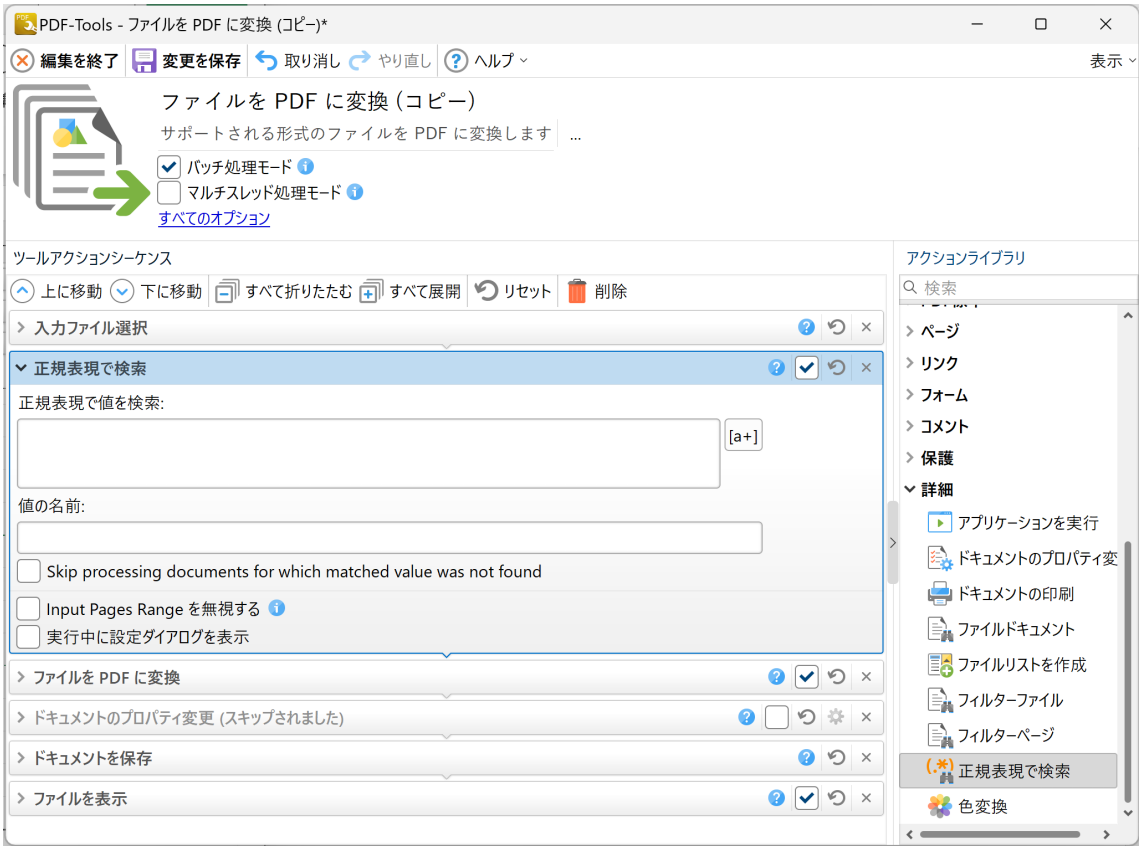

図 1. [正規表現で検索]アクションオプション

- **正規表現で検索**　使用する正規表現をテキストボックスに入力します。この機能には **ECMAScript** の正規表現を使用できます。
- **Value 名**　検索する value の名前をテキストボックスに入力します。
- **一致する Value がないドキュメントの処理をスキップする**　検索条件を満たさないドキュメントの処理から除外します。
- **入力ページ範囲を無視する**　このアクションが含まれている場合、アクションオプションで指定されたページ範囲設定を無視します。

- **実行中に設定ダイアログを表示**　**正規表現で検索**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**正規表現で検索**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

7-12-6. ドキュメントを印刷

ドキュメントを印刷のアクションは、入力ドキュメントを印刷するために使用されます。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

図 1. [ドキュメントを印刷]アクションオプション

- 現在のプリンターと用紙サイズに関する詳細は、このアクションの上部に表示されます。
- **部数**　ボックスに希望の部数を入力し、**部単位**ボックスを選択して出力を部単位で並べます。

- **両面印刷** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、両面印刷をサポートするプリンターと組み合わせて、このアクションを使用するときに使用する両面印刷のタイプを指定します。

・すべてのオプション　すべてのオプションを表示/編集します。以下で説明するように、**印刷**のダイアログボックスが開きます。

- **実行中に設定ダイアログを表示**　**印刷**のダイアログボックスを起動し、このアクションが使用されるたびに設定をカスタマイズします。このボックスをオフにすると、アクションが使用されるたびに**印刷**のダイアログボックスが開かなくなります。これは、同じ設定が一貫して使用される場合に便利です。

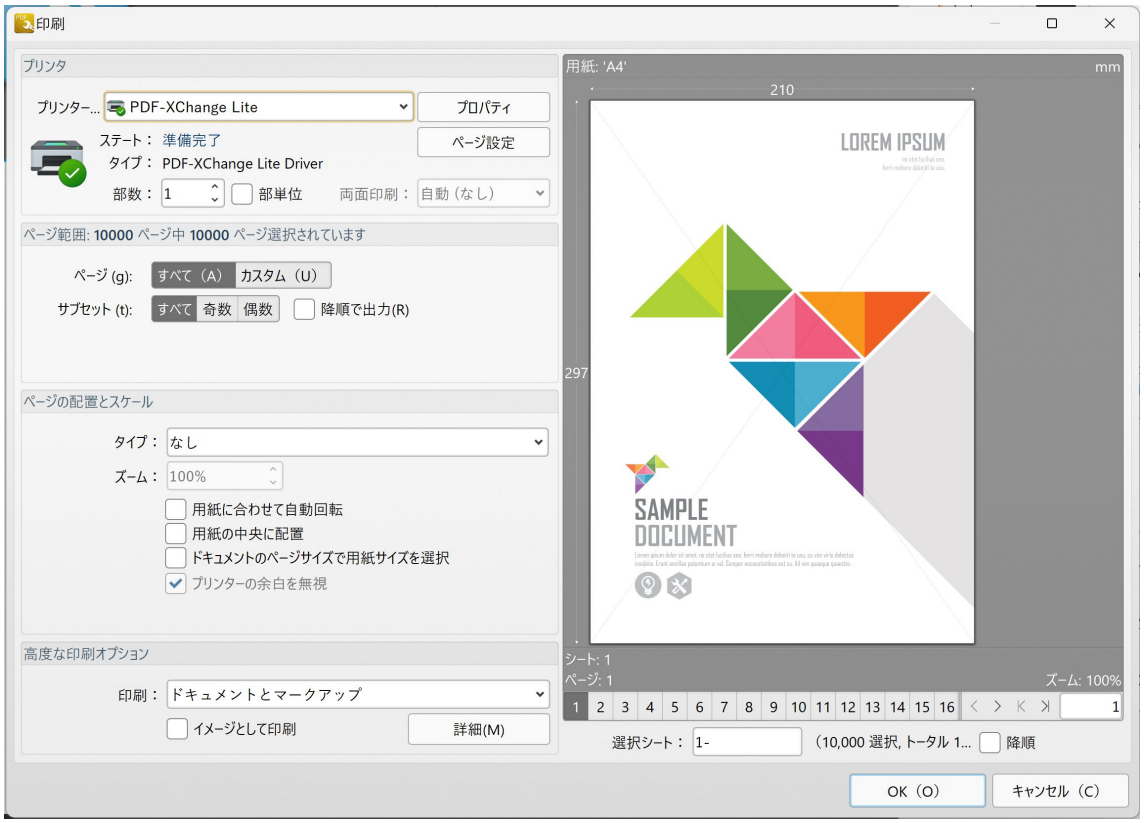

図 2. [印刷]ダイアログボックス

- **プリンター**　このセクションのオプションで使用するプリンターとそれに関連する設定を決めます。
  - **プリンター名**　テキストボックスを使用して、使用するプリンターを選択します。
  - **部数**　テキストボックスを使用して、ドキュメントの印刷部数を決定します。
  - **部単位**　ボックスを選択して、ドキュメントのページを部単位で印刷します。これは、複数ページのドキュメントを複数部印刷する場合に便利な機能です。各

ページを一度に複数コピーするのではなく、ドキュメントのコピー全体を一緒に印刷します。

- **プロパティ** 選択したプリンターの**プロパティ**のダイアログボックスを開きます。
- **ページ設定** ページ設定ダイアログボックスを開き、以下の**(図 3.)** に示すように、**ページ設定**オプションを決定します 。

- **ページ範囲** ドキュメントのどのページを印刷するかを決定します。
  - **ページ:すべて** すべてのページに印刷します。
  - **ページ:カスタム** カスタムページ範囲を印刷します。ページ範囲を指定する方法の詳細については、**こちら**を参照してください。
  - **サブセット** 必要に応じて**すべてのページ**、**奇数ページ**、または**偶数ページ**を選択します。
  - **降順で出力** ボックスを選択して、文書を降順で印刷します。
- **ページの配置と拡縮** このセクションのオプションでは、ドキュメントの配置と拡縮を決定します。
  - **タイプ** ここのメニューを使用して、標準の配置設定を選択します。設定が選択すると、対応する機能がプレビューウィンドウなどに表示されます。各設定には、設定が選択されたときに使用できるその他のオプションがあります。これらが持つ効果は、調整時にプレビューウィンドウに表示されます。
  - **ズーム** 番号ボックスを使用して、ページのズーム度合を決定します。チェックボックスをオンにして、追加設定を有効にします。
- **その他印刷オプション** その他の印刷オプションを決定します。
  - **印刷** メニューを使用して、ドキュメントのどの要素を印刷するかを決定します。詳細については、**詳細**をクリックして、以下の**(図 4.)** に詳述されているようにしてください。
  - **画像として印刷** 選択したページを画像として印刷します。
- 目的のパラメータが選択されたら、**印刷**をクリックしてドキュメントを印刷します。

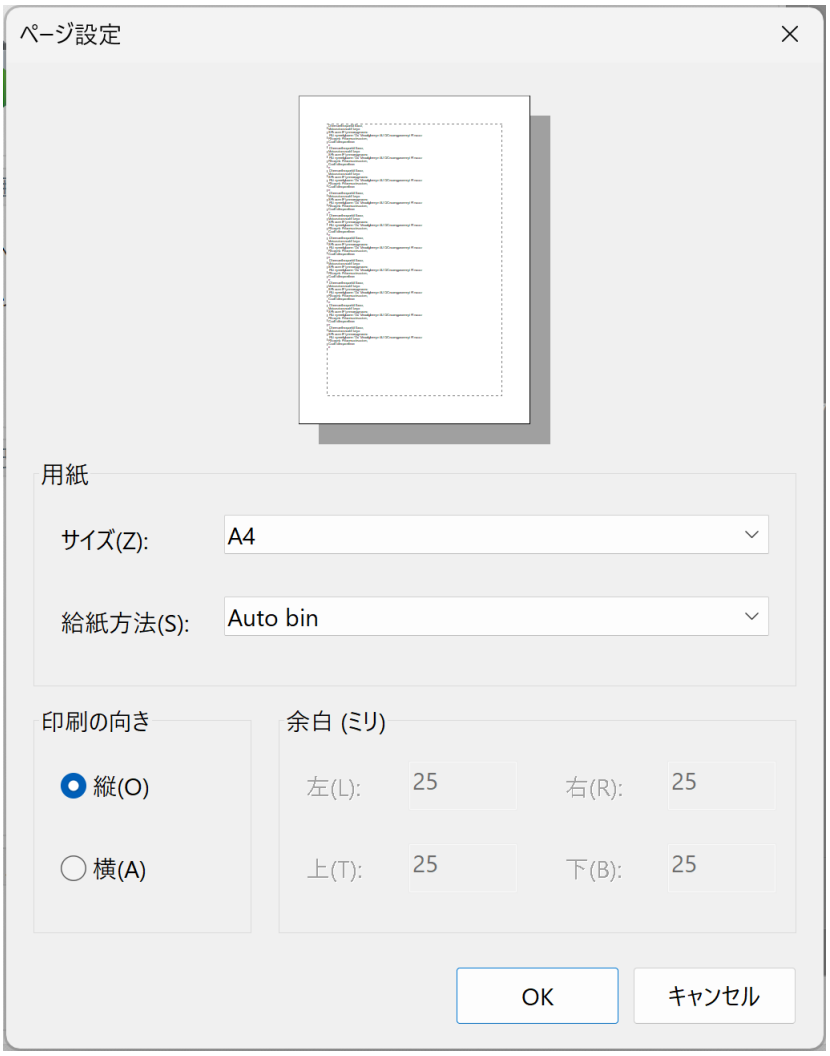

図 3. [ページ設定]ダイアログボックス

- **サイズ** メニューからドキュメントのサイズを選択します。
- **給紙方法** ドキュメントの給紙方法を選択します　。
- **印刷の向き** ボタンを使用して、ドキュメントの向きとして**縦**または**横**を選択します。
- **OK** をクリックして変更を適用します。

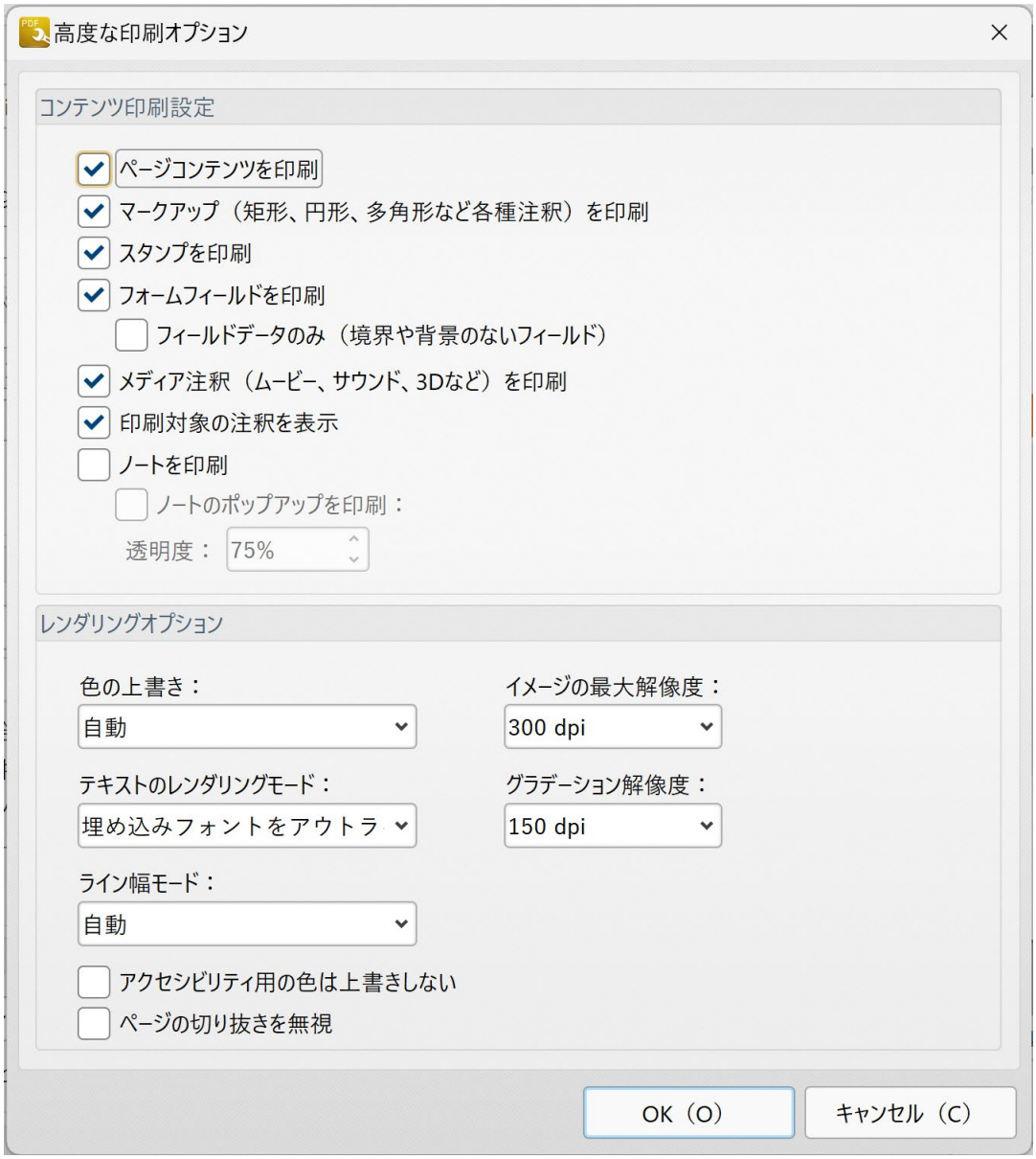

図 4. [その他印刷オプション]ダイアログボックス

- **印刷コンテンツ設定** 印刷されたドキュメントのコンテンツを決定します。
- **レンダリング・オプション** ドキュメントのレンダリング方法を決定します。
  - **色の上書き** ドロップダウンメニューを使用して、上書きする色についてのオプションを決定します。
    - **自動** PDF-XChange Editor が上書き色の設定を選択します。
    - **グレースケール** グレースケールでドキュメントを印刷します。
    - **モノクロ** モノクロでドキュメントを印刷します。
    - **カラー** ドキュメントをカラーで印刷します。

- **テキストのレンダリング・モード** ドロップダウンメニューを使用して、テキストのレンダリング方法を決定します。
  - **自動** PDF-XChange Editor がテキストのレンダリング・モードを選択します。さらに、このオプションは埋め込みフォントを印刷するために必要であることに注意してください。
  - **埋め込みフォントをアウトライン化** 埋め込みフォントをベクター画像であるアウトラインとして印刷します。
  - **常にアウトライン化** 常にすべてのフォントをアウトラインとして印刷します。
  - **埋め込みフォントのビットマップ化** 埋め込みフォントをビットマップイメージ画像として印刷します。
  - **常にビットマップ化** 常にすべてのフォントをビットマップ画像として印刷します。
- **画像の最大解像度** ドロップダウンメニューを使用して、印刷ドキュメント内の画像の最大解像度を設定します。
- **グラデーション解像度** ドロップダウンメニューを使用して、グラデーションによる塗りつぶしの際の解像度を決定します。

・必要に応じて、**アクセシビリティ用の色は上書きしない**やペ**ージの切り抜きを無視**のチェックボックスをオンにします。

OK をクリックして変更を保存します。

7-12-7. アプリケーションを実行

アプリケーションを実行のアクションは、コマンドラインからサードパーティー・アプリケーションを起動するために使用されます。これには、次のカスタマイズ可能なパラメータが含まれています。

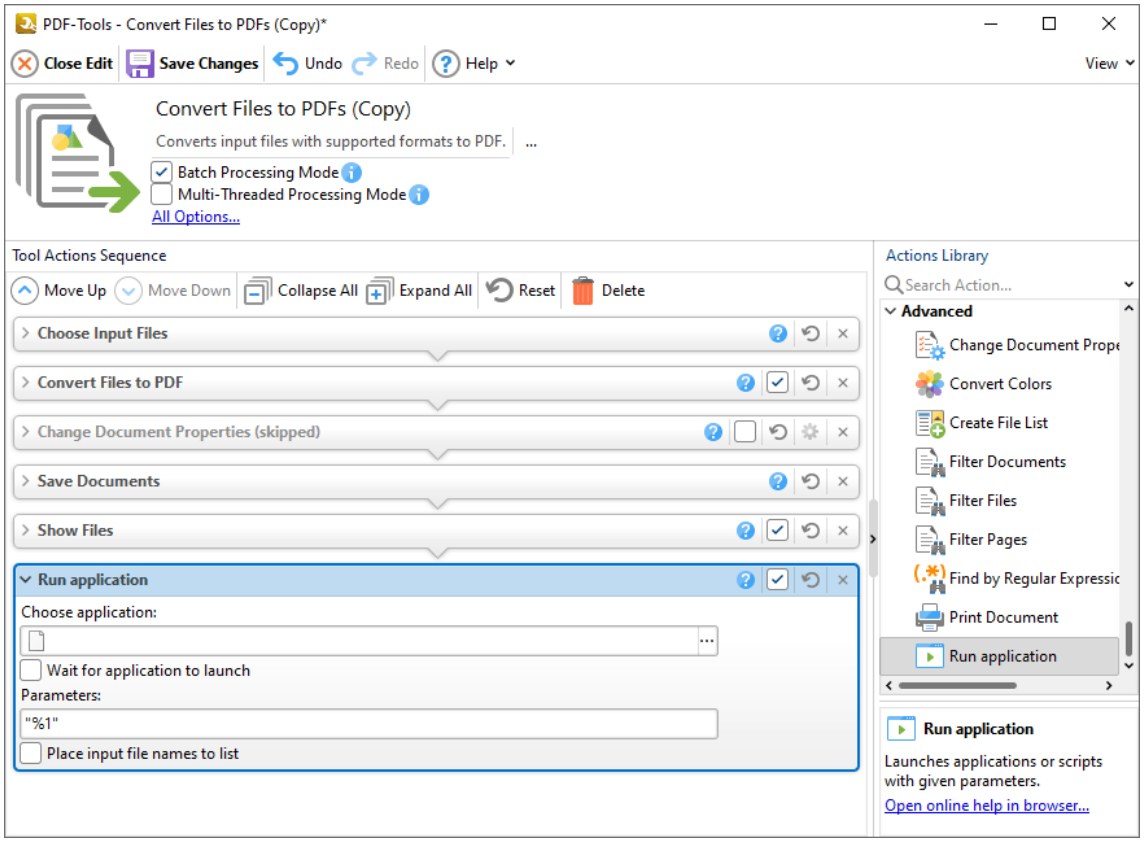

図 1. [アプリケーションを実行]アクションオプション

- **アプリケーションを選択** テキストボックスの右側にある[…]アイコンをクリックして、コマンドラインから起動するアプリケーションを選択します。
- **アプリケーションの起動を待つ** コマンドラインを実行する前に、アプリケーションが完全に起動するのを待ちます。このオプションは、大量のリソースを必要とするアプリケーションの場合にのみ必要です。

- **パラメータ**　テキストボックスに使用するコマンドラインを入力します。
- **入力ファイル名をリストに配置**　ボックスを選択して、アプリケーションを選択のテキストボックスで指定したアプリケーションに送信されるリストに使用するファイルの名前を追加します。

OK をクリックして変更を保存します。

---

8. デフォルトツール

PDF-Tools には 76 の**デフォルトツール**があります。それらは 11 のカテゴリにグループ化されています。

- **[PDF 作成]**ツール　PDF ドキュメントの作成に使用されます。
- **[ページ]**ツール　ドキュメントページを編集および改善するために使用されます。
- **[リンク]**ツール　リンクと Web リンクを作成/削除するために使用されます。
- **[フォーム]**ツール　フォームおよびフォームデータのインポート/エクスポートまたは削除するために使用されます。
- **[コメント]**ツール　コメントのインポート/エクスポート、削除、要約、および平坦化に使用されます。
- **[ブックマーク]**ツール　ブックマークから目次を作成、インポート、エクスポート、および構築するために使用されます。
- **[プロテクト]**ツール　デジタル署名フィールド、パスワード保護、およびタイムスタンプをドキュメントに追加（またはクリア）するために使用されます。
- **[PDF 最適化]**ツール　スキャンしたページを改善し、ドキュメントのサイズを最適化するために使用されます。

[PDF 規格]ツール　PDF ドキュメントを PDF/A や PDF/X などの PDF サブセットとの間で変換します。

[PDF エクスポート]ツール　PDF ドキュメントを Microsoft Office や画像形式などのさまざまな形式に変換します。

[その他]ツール　ドキュメントのプロパティを変更し、ドキュメントを印刷または電子メールで送信するためなどに使用されます。

[ツール複製]または **[作成ツール]**機能を使用して、複雑な要件を満たすためにツールの機能を編集および拡張できることに注意してください。

8-1. [PDF 作成]ツール

[PDF 作成]ツールは、PDF ドキュメントの作成に使用されます。

- **ファイルを PDF に変換** ファイルを PDF に変換します。
- **画像から PDF を作成** ラスターイメージから PDF ファイルを作成します。
- **テキストから PDF を作成** テキストファイルから PDF ファイルを作成します。
- **PDF ポートフォリオを作成** 元のドキュメントから PDF ポートフォリオ・ファイルを作成します。
- **ページを抽出** PDF ドキュメントの指定したページを抽出します。
- **PDF へスキャン** ローカルのスキャナを使用して PDF ファイルを作成します。
- **PDF を分割/結合** 単一の PDF ドキュメントを複数のファイルに分割するか、複数の PDF ドキュメントを 1 つのファイルに結合します。

[ツール複製]機能と**[ツール作成]**機能を使用すると、既存のツールの機能を強化したり、複雑な要件を満たすために新しいツールを作成したりできます。

8-1-1. ファイルを PDF に変換

ファイルを PDF に変換ツールでは、ファイルを PDF に変換します。

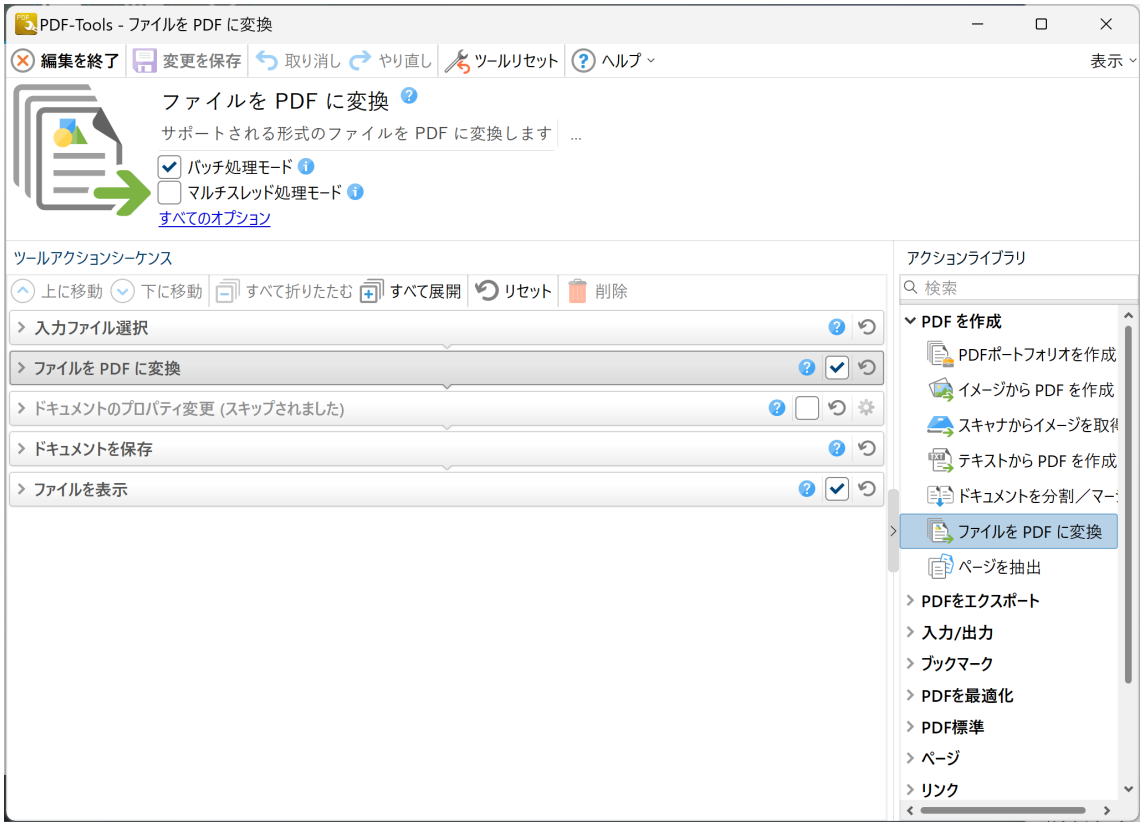

図 1. [ファイルを PDF に変換]ツールアクションシーケンス

ファイルを PDF に変換のツールでは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ファイルを PDF に変換** – 元ドキュメントが PDF に変換されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-1-2. 画像から PDF を作成

画像から PDF を作成のツールは、ラスターイメージから PDF ファイルを作成します。

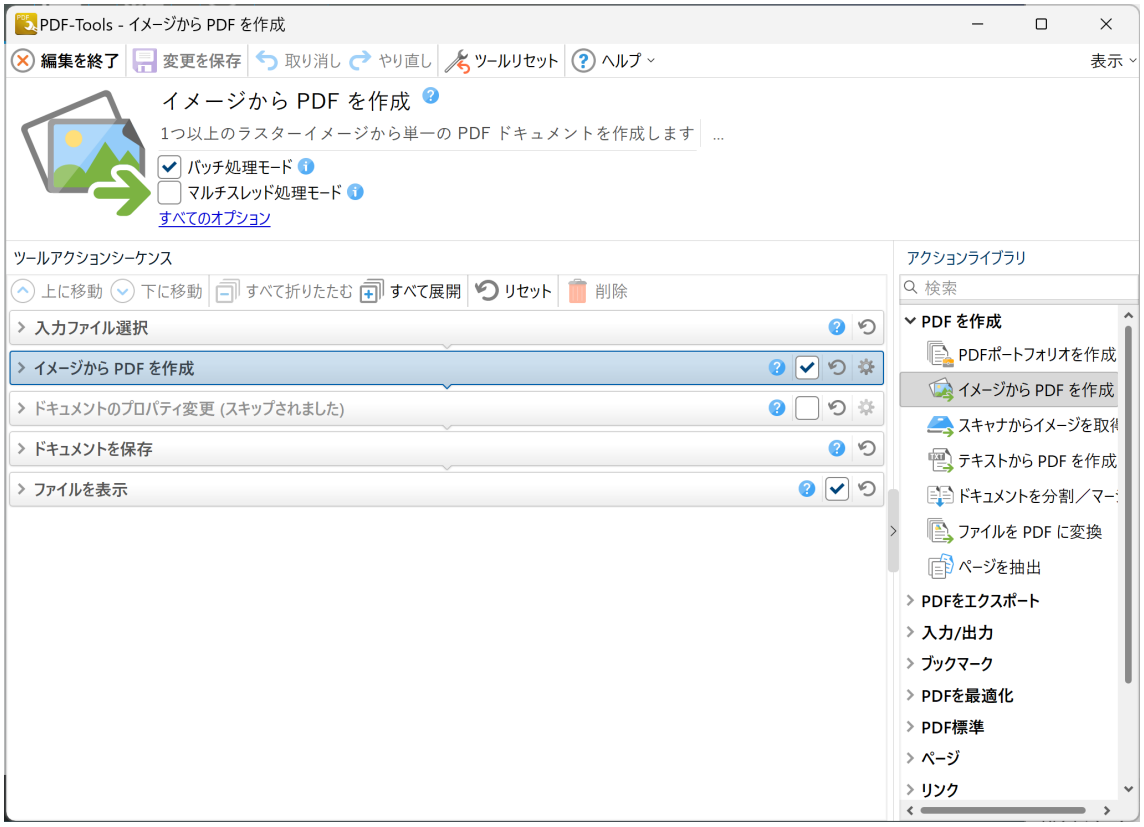

図 1. [画像から PDF を作成]ツールアクションシーケンス

画像から PDF を作成のツールでは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **画像から PDF を作成** – ラスターイメージが識別され、新しい PDF ファイルに保存されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-1-3. テキストから PDF を作成

テキストから PDF を作成のツールは、テキストファイルから PDF ファイルを作成します。

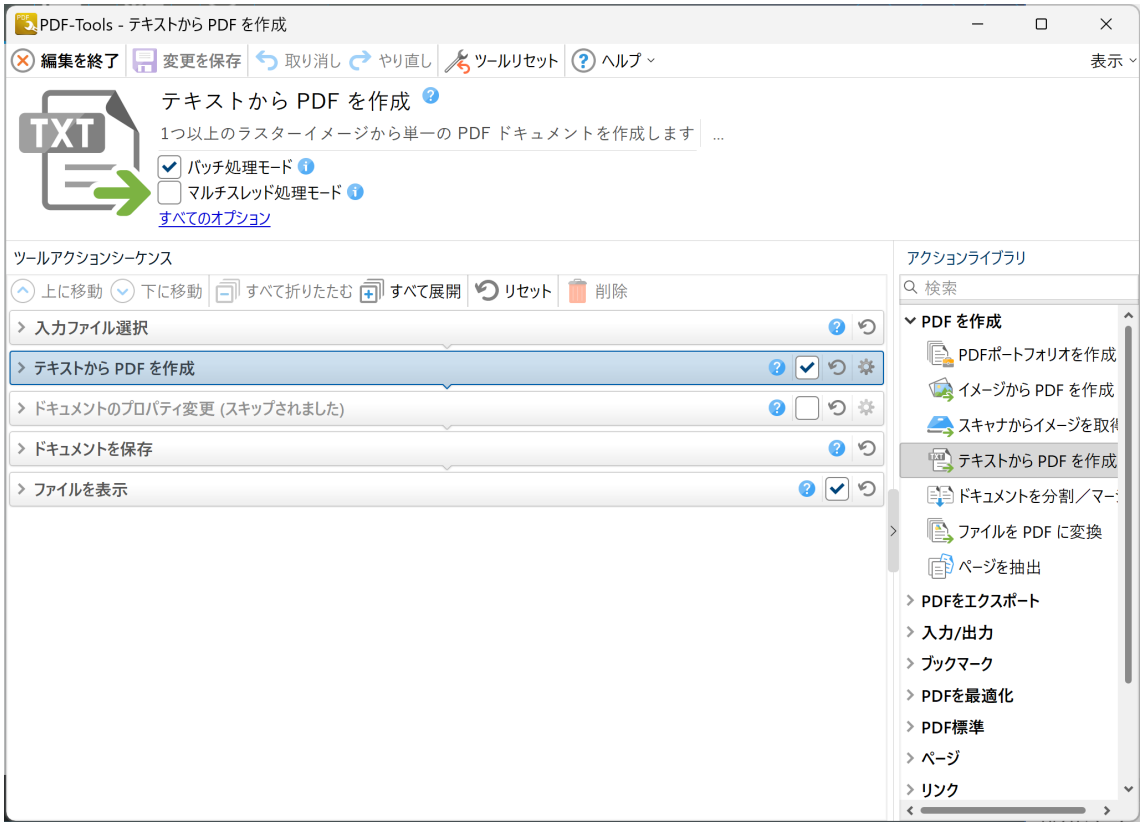

図 1. [テキストから PDF を作成]ツールアクションシーケンス

テキストから PDF を作成のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – ツールはプレーンテキスト(***.txt**)の元ドキュメントの入力を求めます。
2. **テキストから PDF を作成** – ドキュメントが PDF 形式に変換されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-1-4. PDF ポートフォリオを作成

PDF ポートフォリオを作成のツールは、PDF ポートフォリオ・ファイルを作成します。

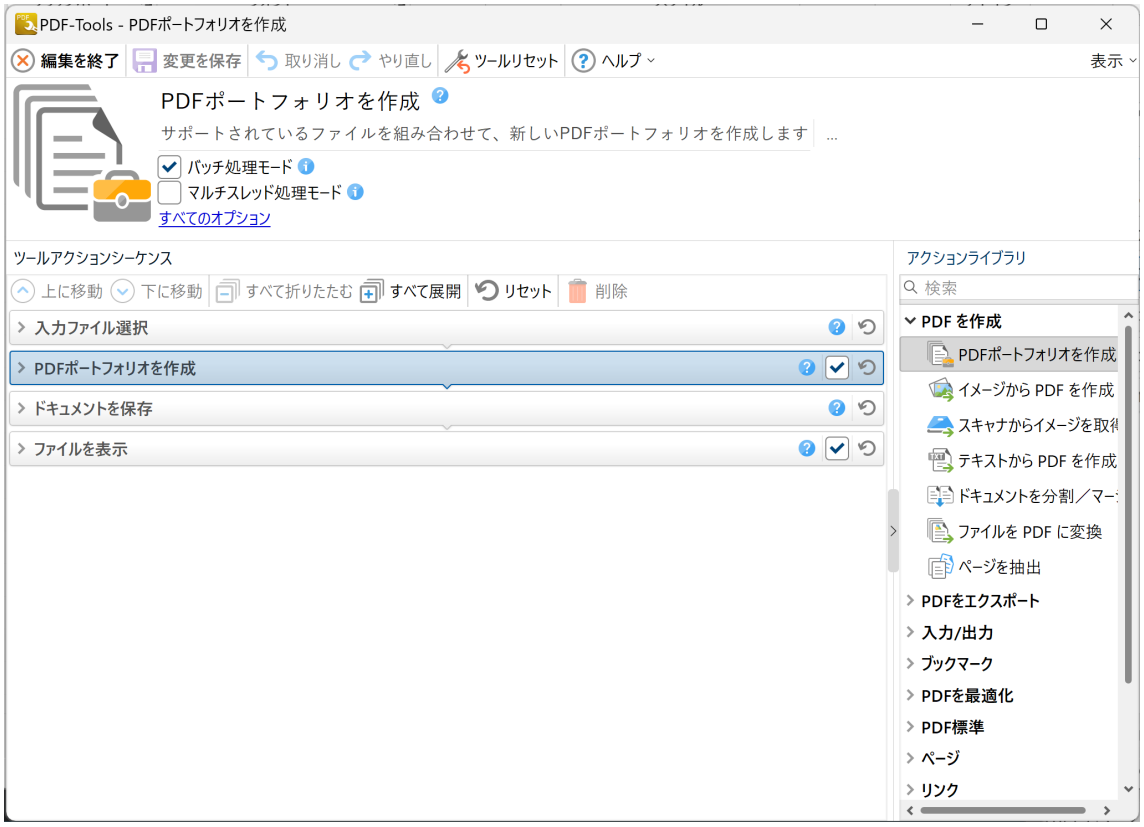

図 1. [PDF ポートフォリオを作成]ツールアクションシーケンス

PDF ポートフォリオを作成ツールは、次の 4 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **PDF ポートフォリオを作成** – ドキュメントが PDF ポートフォリオ・ファイルに結合されます。

3. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

4. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-1-5. ページを抽出

ページを抽出のツールは、PDF ドキュメントから指定したページを抽出し、新しいファイルとして保存します。

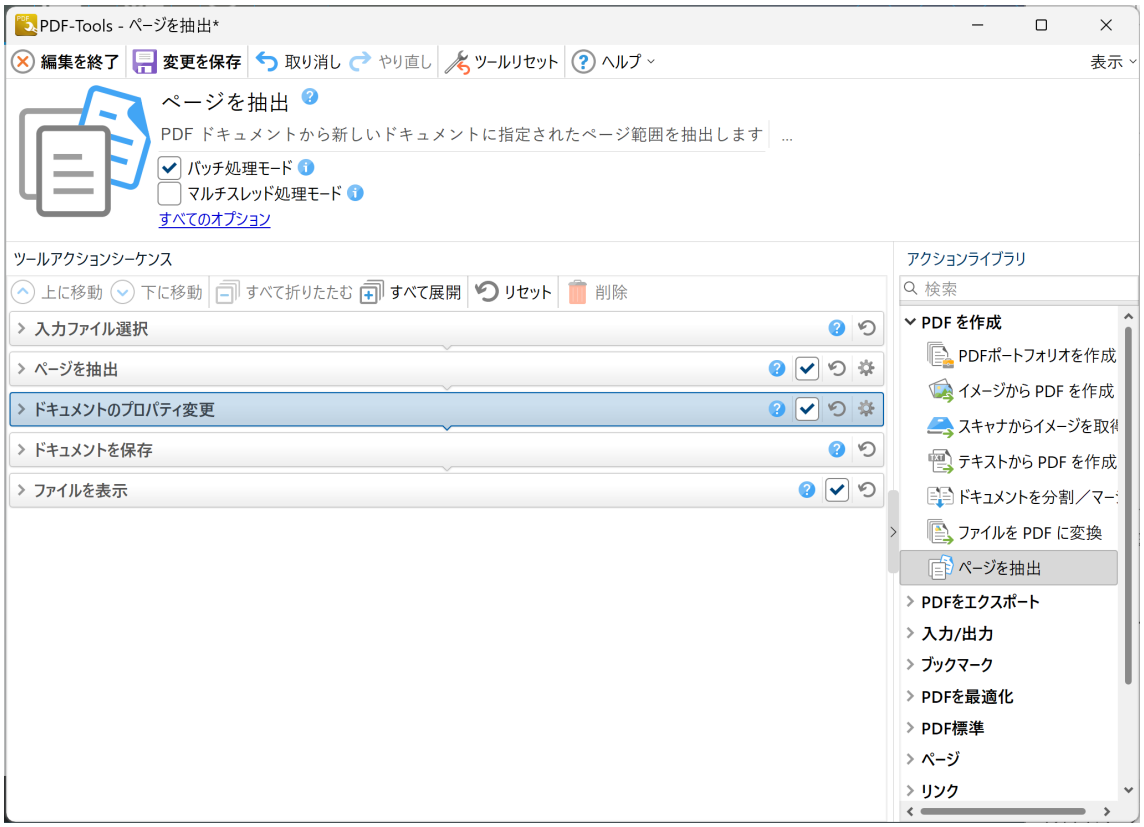

図 1. [ページを抽出]ツールアクションシーケンス

ページの抽出のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **ページを抽出** – ドキュメントページが指定され、抽出され、PDF に変換されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-1-6. PDF へスキャン

PDF へスキャンのツールは、ローカルのスキャナを使用して PDF ファイルを作成します。

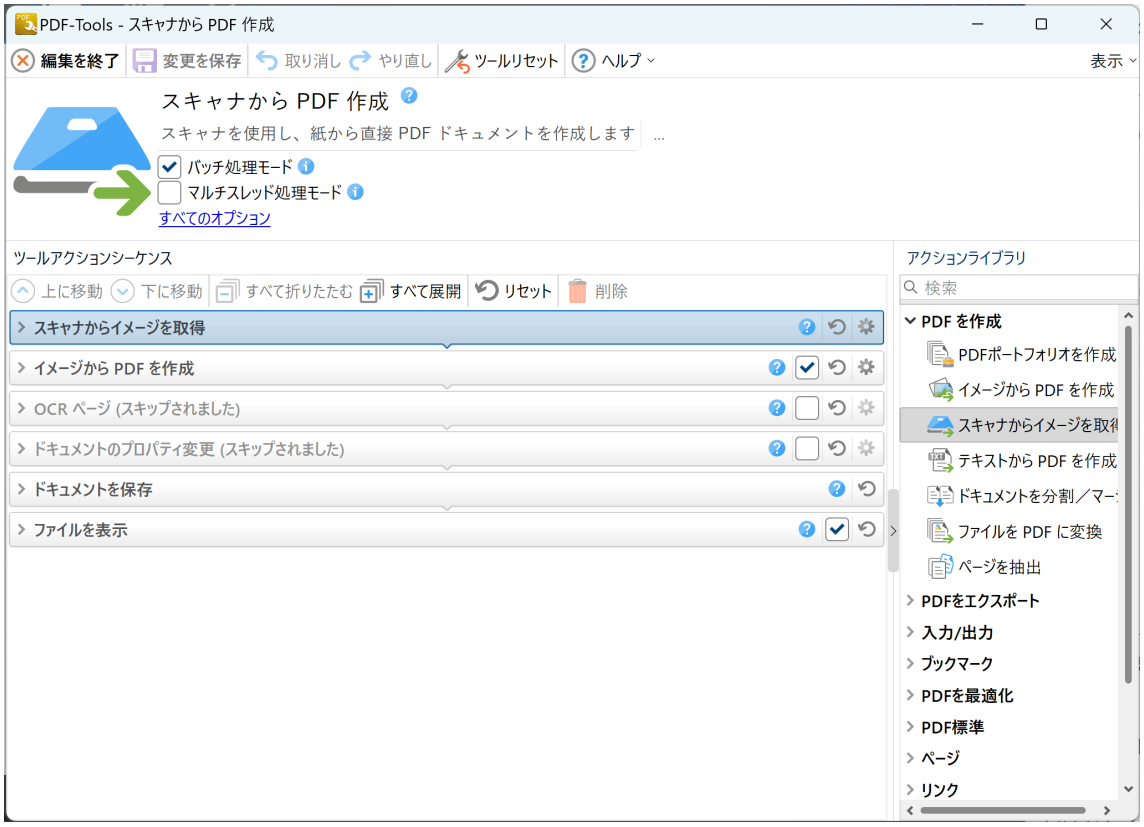

図 1. [PDF へスキャン]ツールアクションシーケンス

PDF へスキャンのツールは、次の 6 つのツールアクションを使用します。

1. **PDF へスキャン** – 画像はローカルのスキャナから供給されます。
2. **画像から PDF を作成** – ラスターイメージが識別され、新しい PDF ファイルに保存されます。

3. **OCR ページ**（デフォルトではスキップされます）– 光学式文字認識がスキャンされたドキュメントに対して実行されます。

4. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

5. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

6. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-1-7. PDF を分割/結合

PDF を分割/結合のツールは、単一の PDF ドキュメントを複数のファイルに分割したり、複数の PDF ドキュメントを 1 つのファイルに結合したりします。

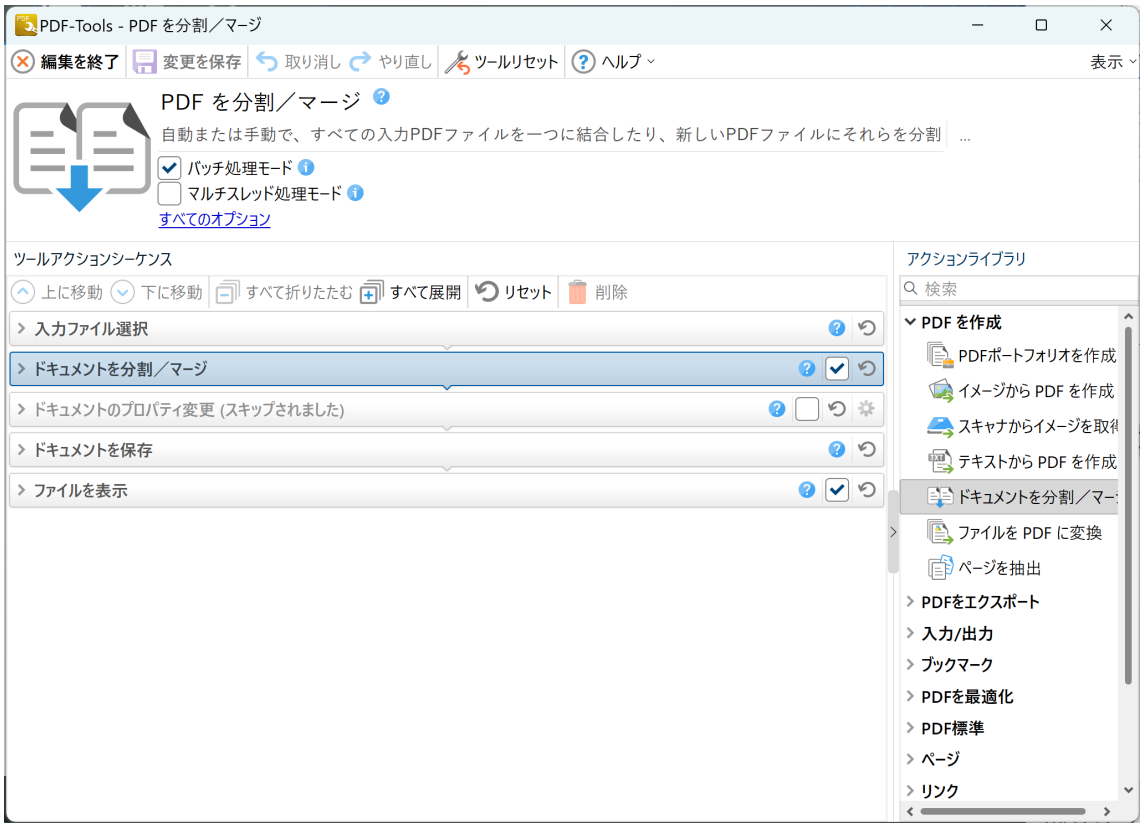

図 1. [PDF を分割/結合]ツールアクションシーケンス

PDF を分割/結合のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **PDF を分割/結合** – 単一の PDF ドキュメントを複数のドキュメントに分割したり、複数の PDF ドキュメントを単一のドキュメントに結合します。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2. [ページ]ツール

[ページ]ツールは、ドキュメントページの編集と改善に使用されます。

ベイツ番号を追加 入力ドキュメントにベイツ番号を追加します。

ヘッダとフッタを追加 ヘッダとフッタを入力ドキュメントに挿入します。

透かしを追加 入力ドキュメントに透かしのマークを挿入します。

ページのトリミング 入力ドキュメントのサイズ、白い余白、およびページボックスを調整します。

ページを削除 入力ドキュメントからページを削除します。

ページを複製 入力ドキュメントのページを複製します。

オーバーレイレイヤーとしてインポート 既存のファイルを使用してドキュメントをオーバーレイします。

空白ページを挿入 入力ドキュメントに空白ページを挿入します。

ページを挿入 既存のドキュメントのページを入力ドキュメントに挿入します。

ページを結合 複数のページを 1 つのページに結合します。

ページを結合 ドキュメントのページを並べ替えます。

OCR ページ 入力ドキュメントに対して光学式文字認識を実行します。

PDF のオーバーレイ 入力ドキュメントを既存のファイルでオーバーレイします。

ページをラスタライズ 入力ドキュメントのページをラスタライズします。

ベイツ番号を削除 入力ドキュメントからベイツ番号を削除します。

ヘッダとフッタを削除 入力ドキュメントからヘッダとフッタを削除します。

ページ背景を削除 入力ドキュメントから背景を削除します。

透かしを削除 入力ドキュメントから透かしを削除します。

ページの置換 入力ドキュメントの指定されたページを既存のドキュメントのページに置き換えます。

ページ・リサイズ 入力ドキュメントの指定したページのサイズを変更します。

ページを回転 入力ドキュメントの指定されたページを回転します。

ページ遷移の設定 フルスクリーンモードでドキュメントページ間を移動するときのアニメーション効果を決定します。

ページ背景を設定 入力ドキュメントの背景を変更します。

ページ分割 入力ドキュメントのページを任意のセクションに分割します。

[ツール複製]機能と**[ツール作成]**機能を使用すると、既存のツールの機能を強化したり、複雑な要件を満たすために新しいツールを作成したりできます。

8-2-1. ベイツ番号を追加

ベイツ番号を追加のツールは、入力ドキュメントにベイツ番号を挿入します。ベイツ番号の追加は、ドキュメントが処理/スキャンされるときに、ドキュメント内を識別、保護し、自動での連番ナンバリングを提供する動的な方法です。

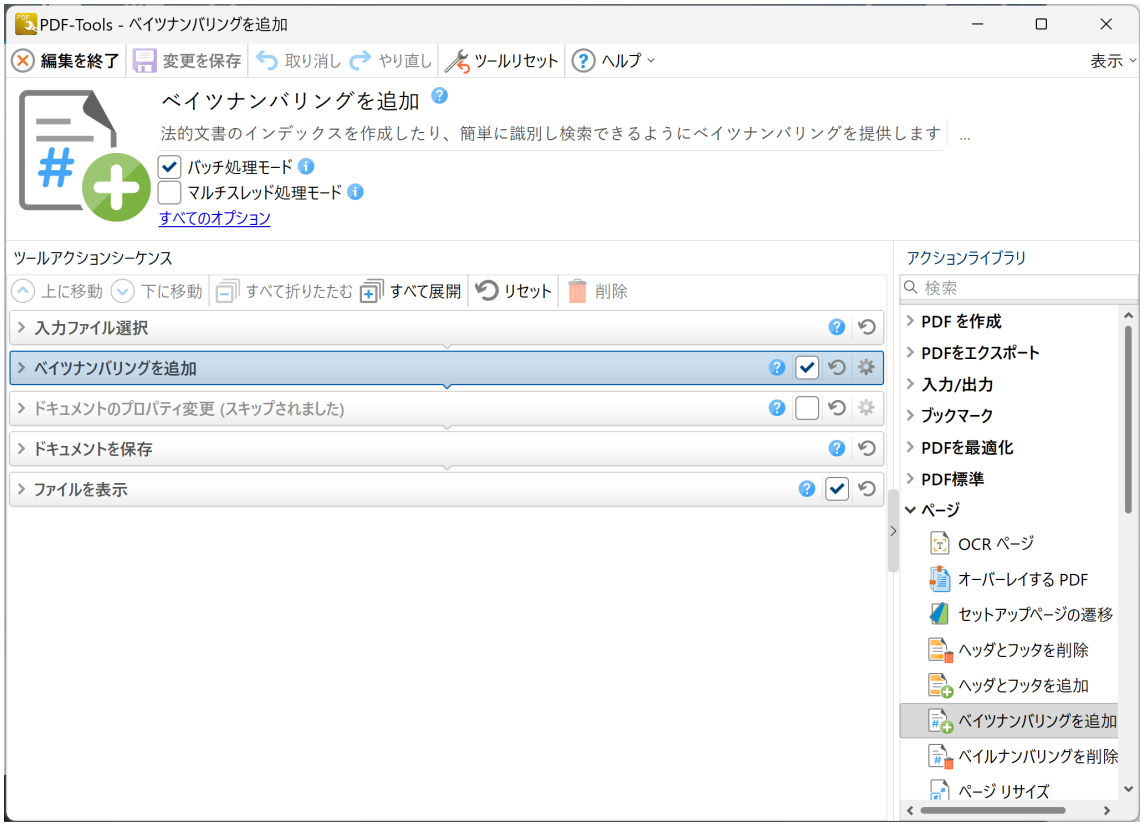

図 1. [ベイツ番号を追加]ツールアクションシーケンス

ベイツ番号を追加のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **ベイツ番号を追加** – ベイツ番号がドキュメントに挿入されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-2. ヘッダとフッタを追加

ヘッダとフッタを追加のツールは、入力ドキュメントにヘッダとフッタを追加します。

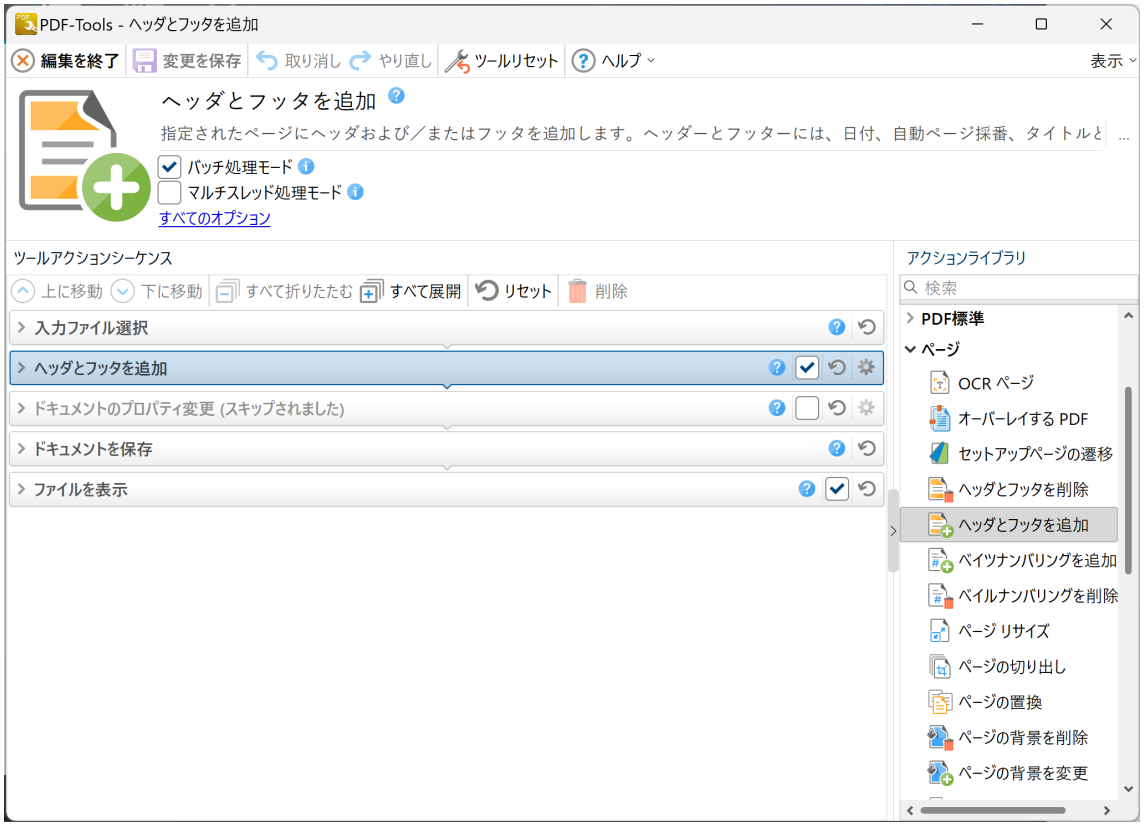

図 1. [ヘッダとフッタを追加]ツールアクションシーケンス

ヘッダとフッタを追加のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ヘッダとフッターを追加** – ヘッダとフッタがドキュメントに追加されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-3. 透かしを追加

ウォーターマークの追加ツールは、入力ドキュメントにウォーターマークを挿入します。

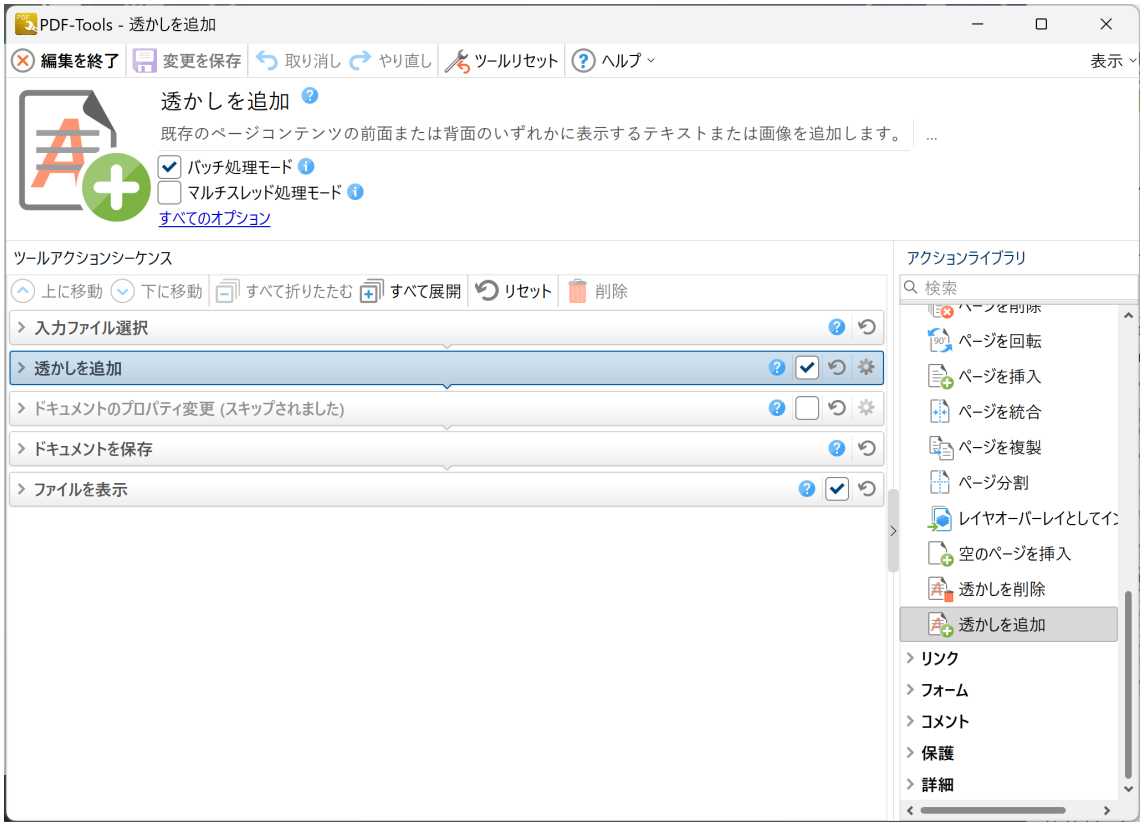

図 1. [透かしを追加]ツールアクションシーケンス

透かしを追加のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **透かしを追加** – 透かしがドキュメントに追加されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-4. ページのトリミング

ページのトリミングのツールは、入力ドキュメントのドキュメント・サイズ、余白、およびページボックスを調整します。

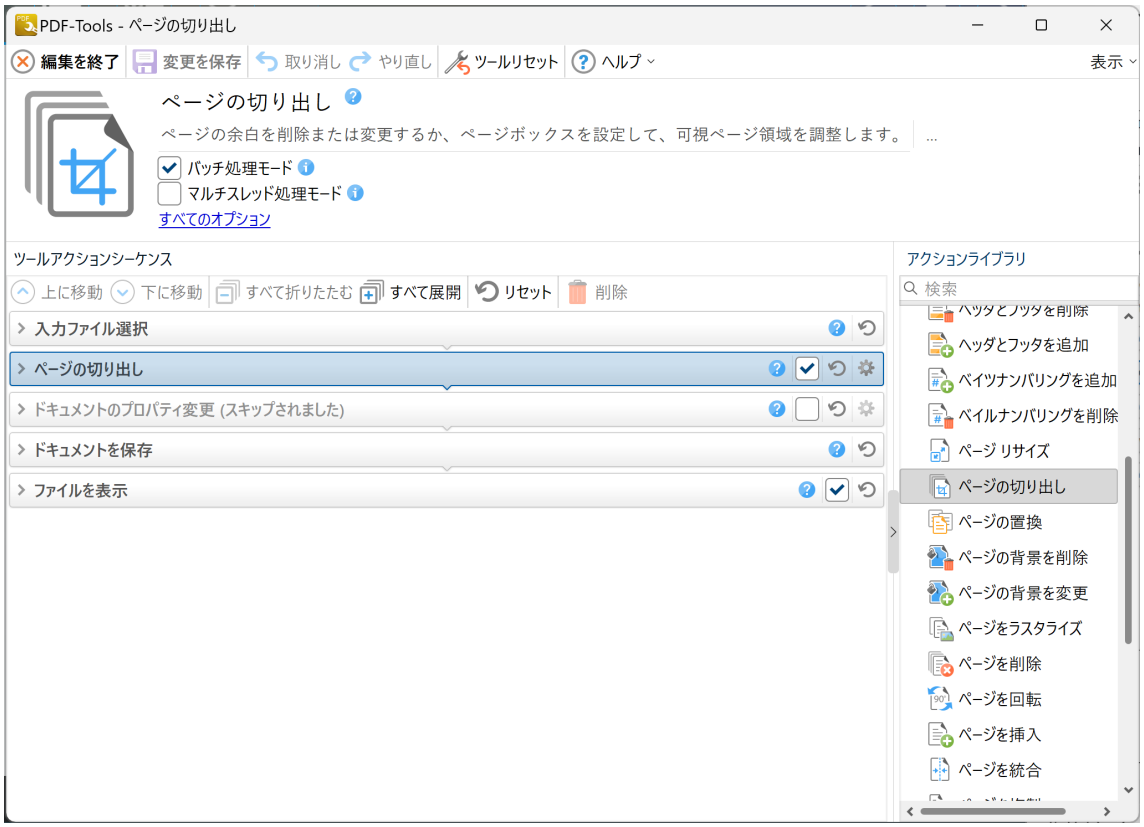

図 1. [ページのトリミング]ツールアクションシーケンス

ページのトリミングのツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **ページのトリミング** – ドキュメントのサイズ、余白、および/またはページボックスが調整されます。
3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。
4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。
5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-5. ページを削除

ページを削除のツールは、入力ドキュメントからページを削除します。

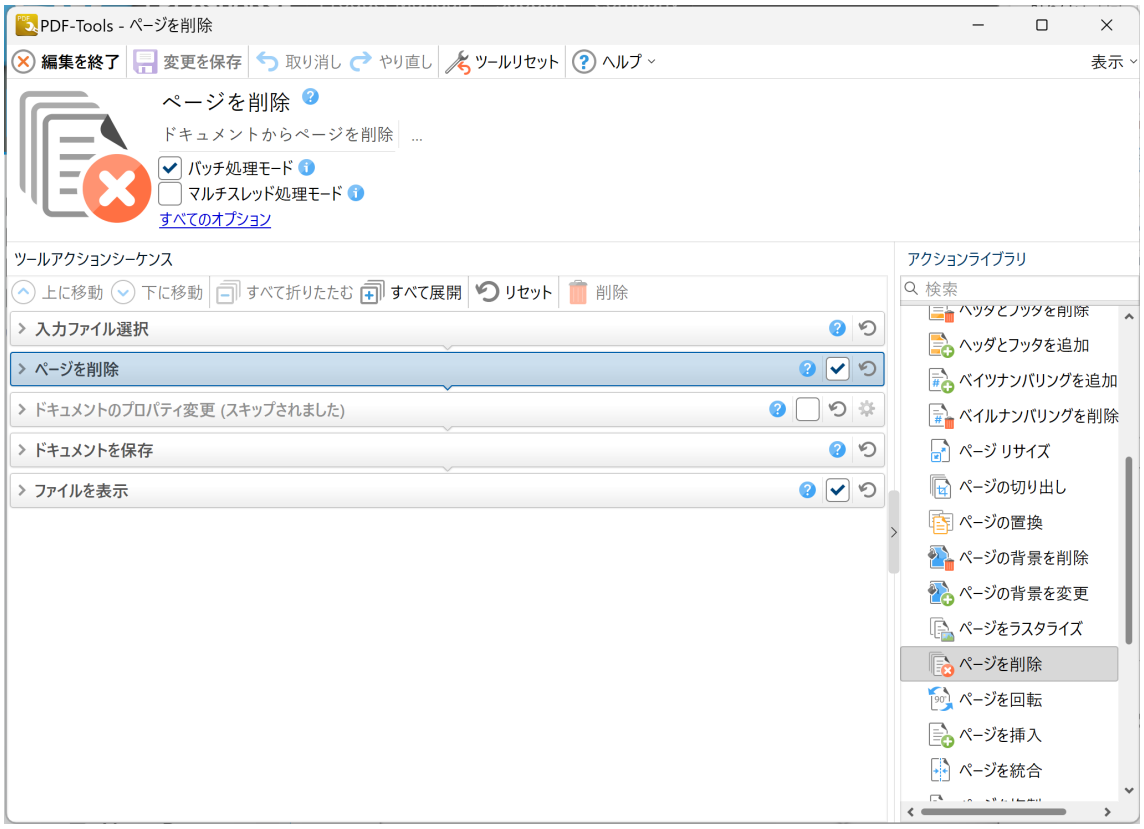

図 1. [ページを削除]ツールアクションシーケンス

ページを削除のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ページを削除** – ドキュメントの指定されたページが削除されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-6. ページを複製

ページを複製のツールは、入力ドキュメントのページを複製します。

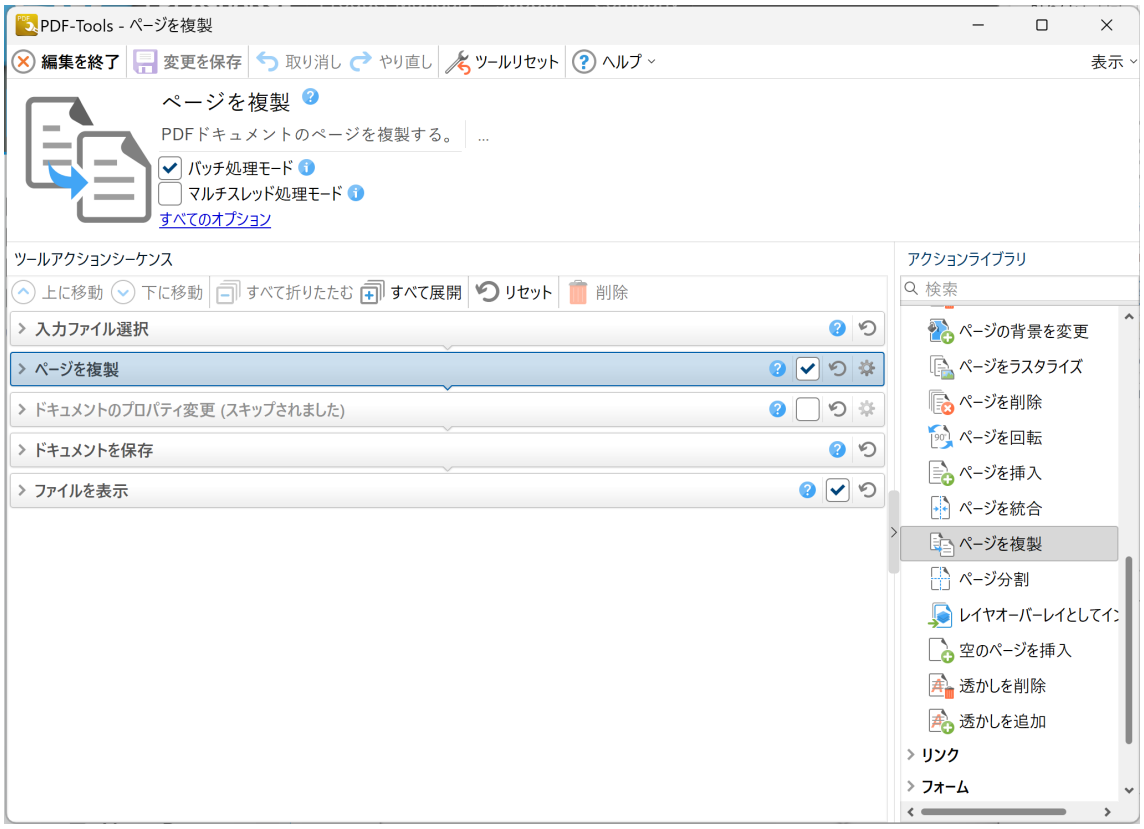

図 1. [ページを複製]ツールアクションシーケンス

ページを複製のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ページを複製** – 指定されたドキュメントのページが複製されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-7. 空白ページを挿入

空白ページを挿入のツールは、空白のページを入力ドキュメントに挿入します。

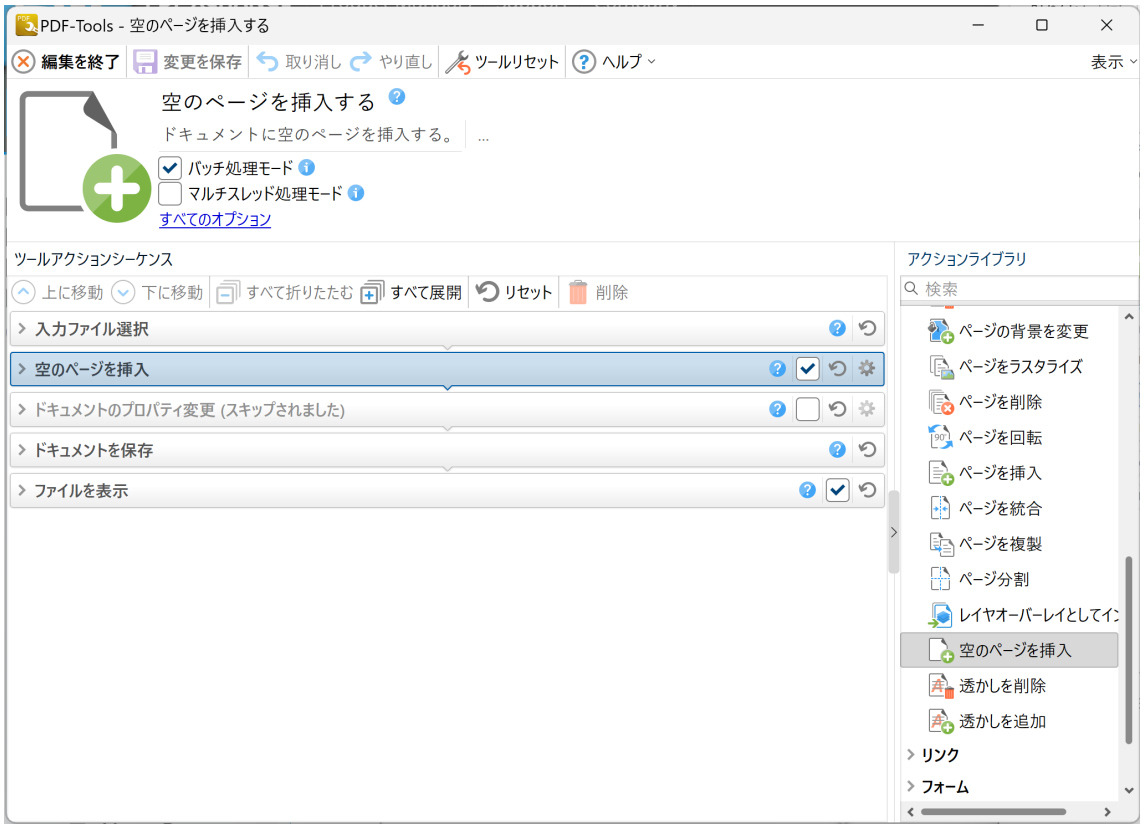

図 1. [空白ページを挿入]ツールアクションシーケンス

空白ページを挿入のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **空白ページを挿入** – 空白のページがドキュメントに挿入されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-8. ページを挿入

ページを挿入のツールは、既存のドキュメントのページを入力ドキュメントに挿入します。

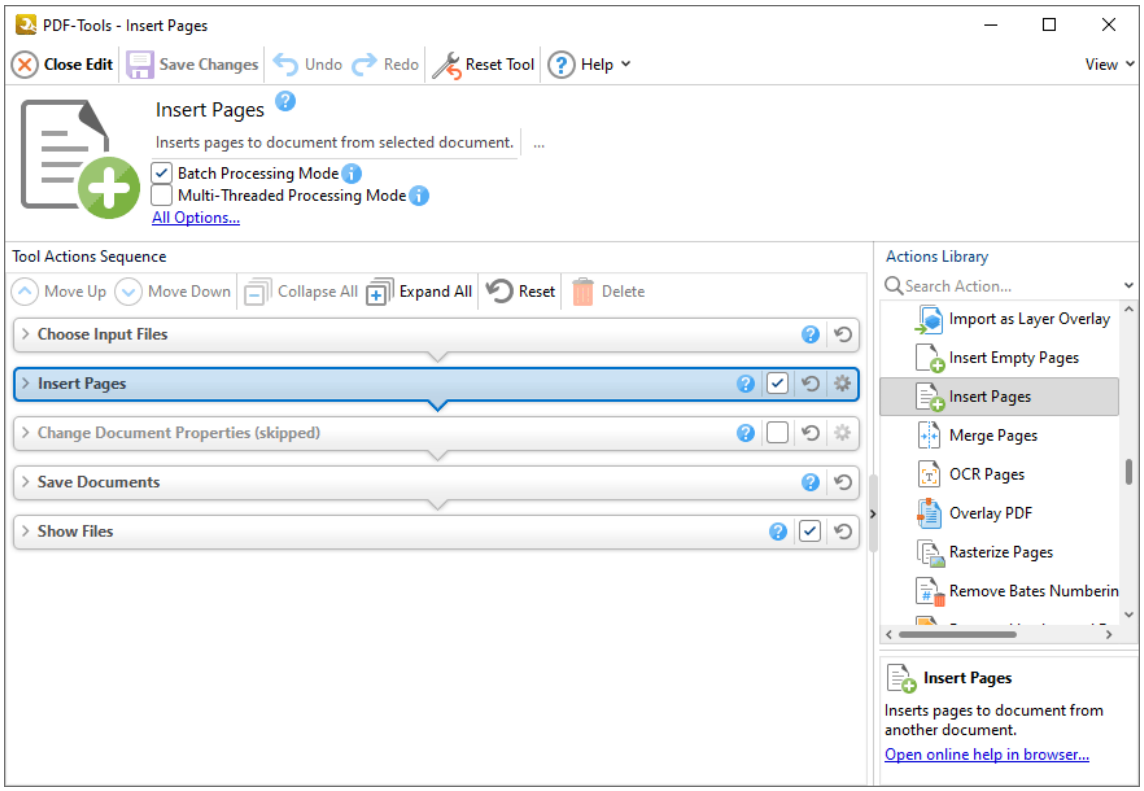

図 1. [ページを挿入]ツールアクションシーケンス

ページを挿入のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ページを挿入** – 既存のドキュメントのページが指定され、元のドキュメントに挿入されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-9. ページを結合

ページを結合のツールは、複数のページを 1 つのページに結合します。

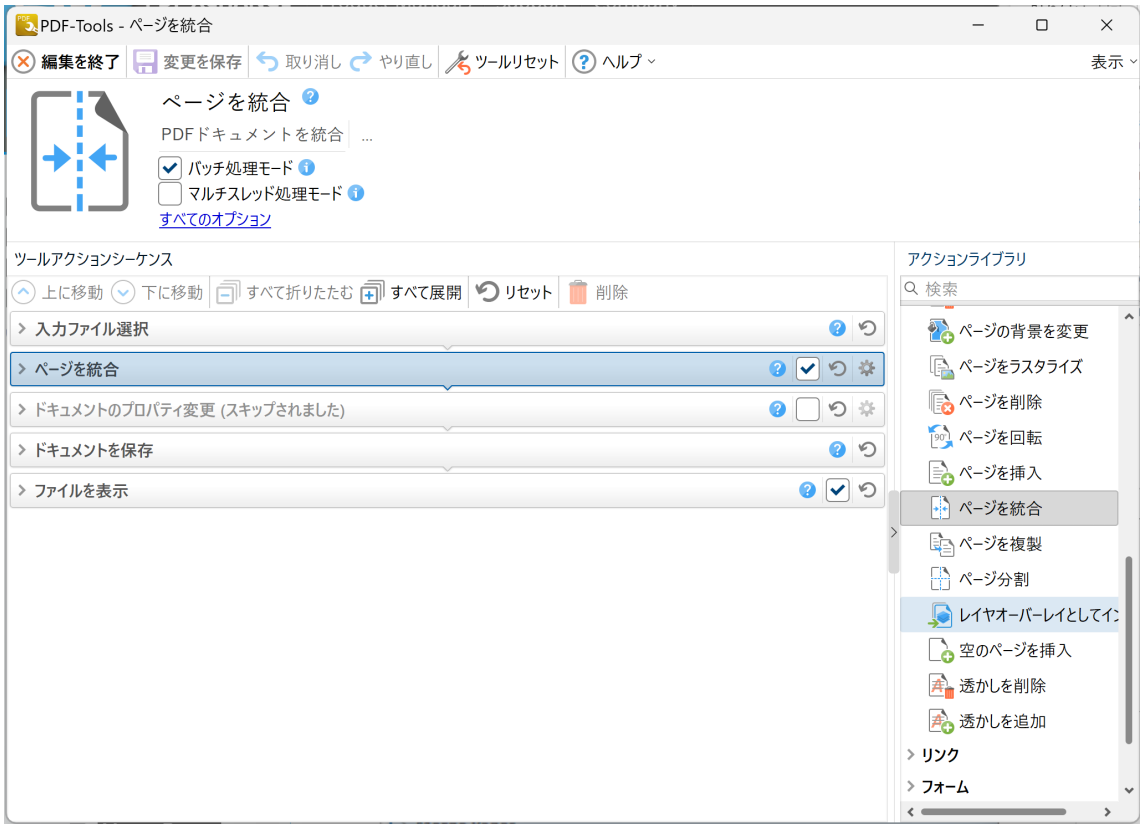

図 1. [ページを結合]ツールアクションシーケンス

ページを結合のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ページを結合** – 既存のドキュメントのページが指定され、元のドキュメントに挿入されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-10 ページを移動

ページを結合のツールは、複数のページを 1 つのページに結合します。

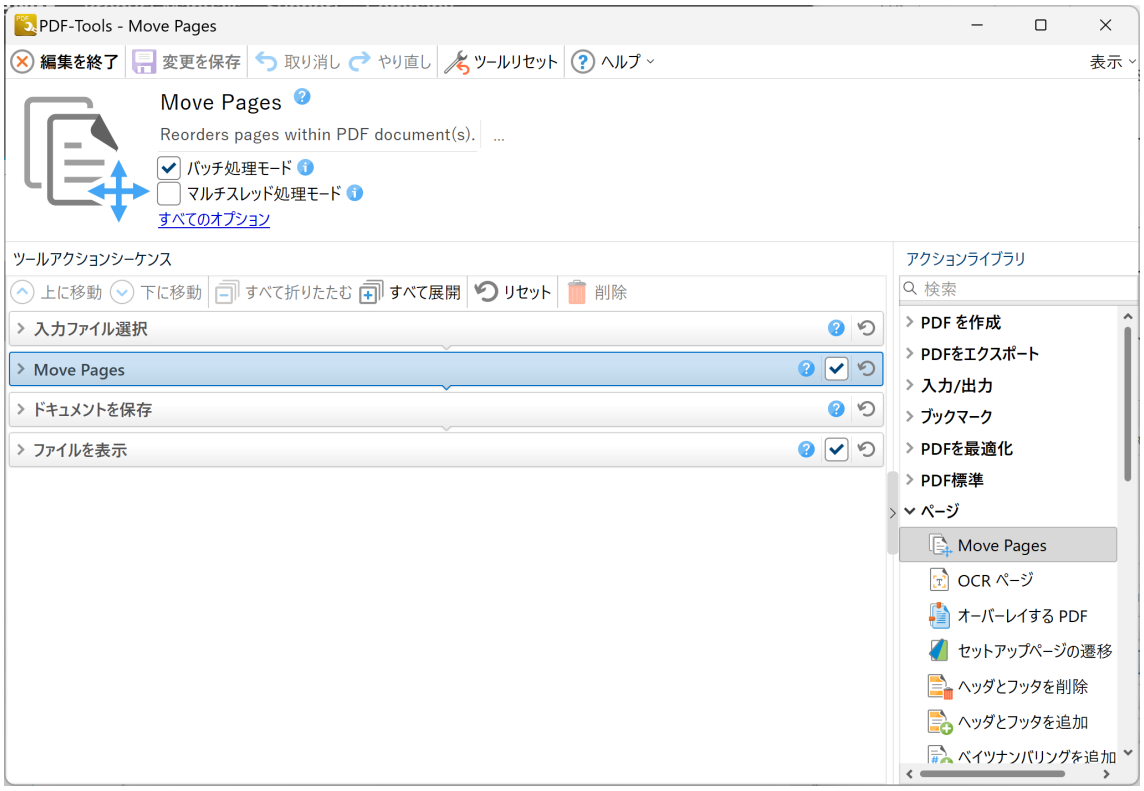

図 1. [ページを結合]ツールアクションシーケンス

ページを結合のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ページを移動** – 既存のドキュメントのページが指定され、新しい場所へ移動されます。

3. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

4. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-11. OCR ページ

OCR ページのツールは、入力ドキュメントに対して光学式文字認識を実行します。

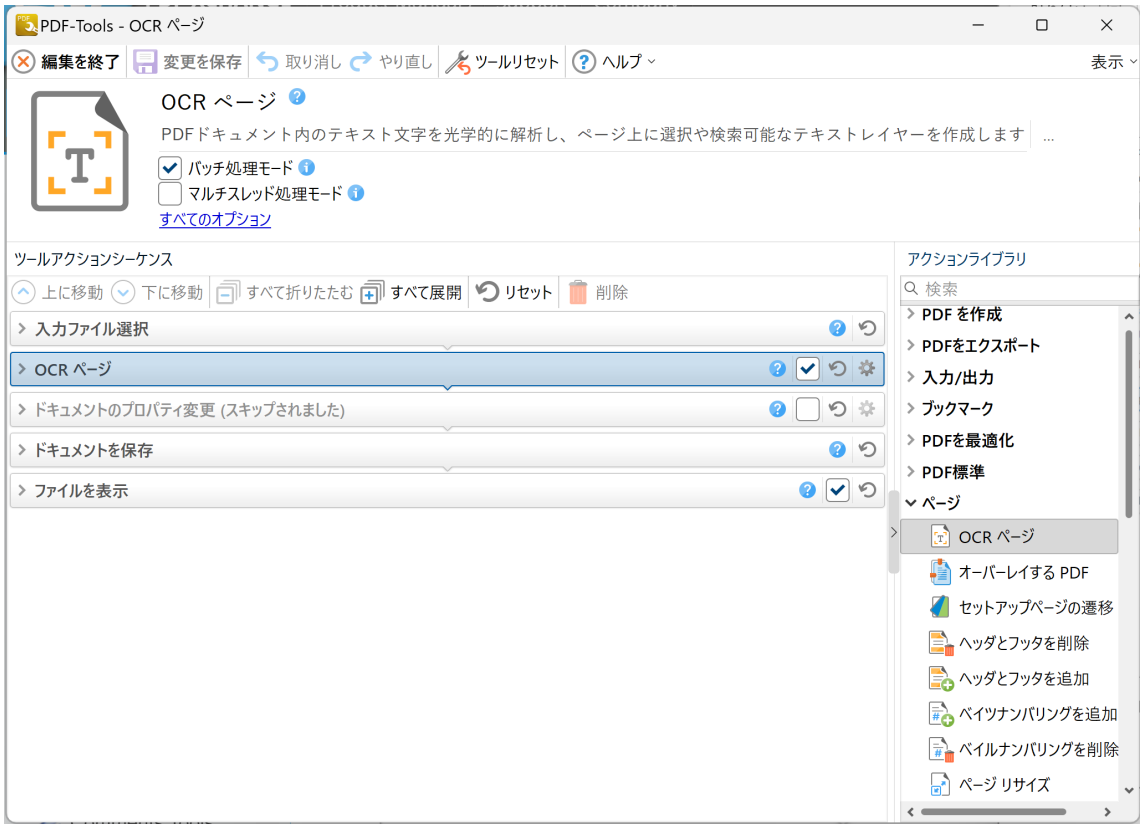

図 1. [OCR ページ]ツールアクションシーケンス

OCR ページのツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **OCR ページ** – 光学式文字認識がドキュメントに対して実行されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-12. ページをラスタライズ

ページをラスタライズのツールは、ドキュメントのページをラスタライズします。

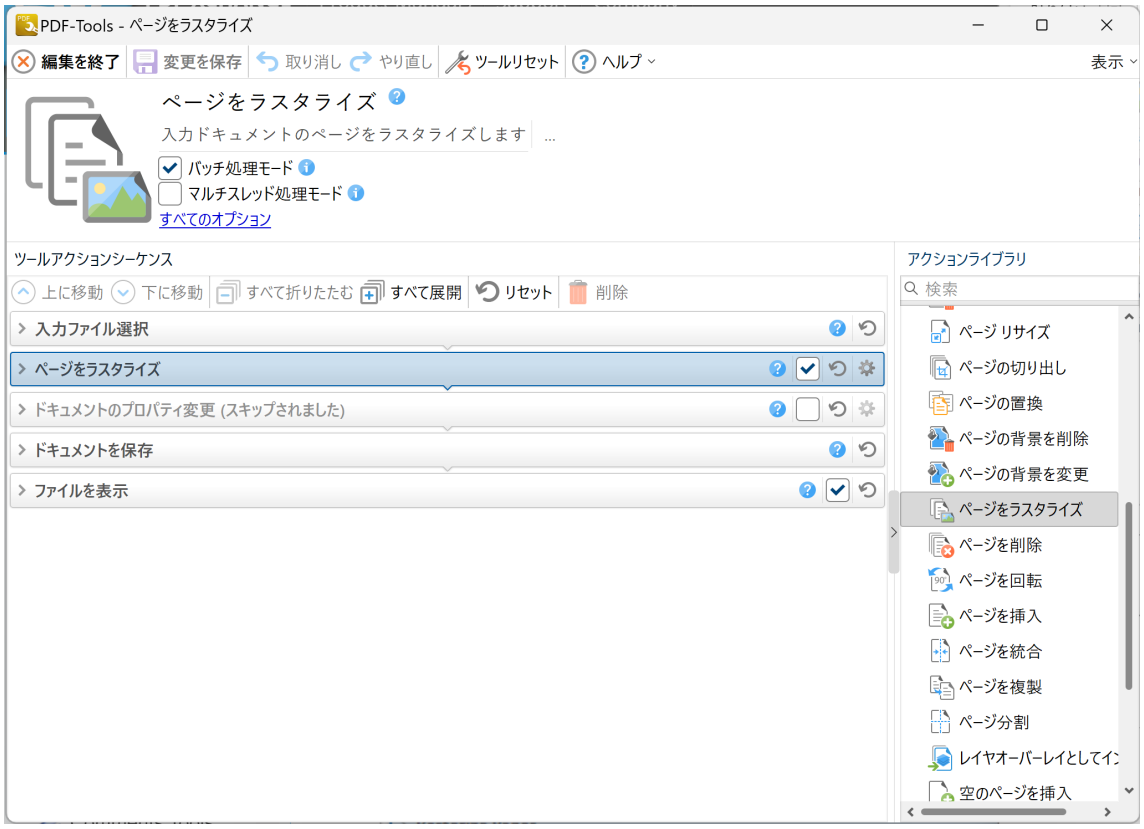

図 1. [ページをラスタライズ]ツールアクションシーケンス

ページをラスタライズのツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ページをラスタライズ** – 指定したドキュメントのページがラスタライズされます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-13. ページの置換

ページの置換のツールは、入力ドキュメントの指定されたページを既存のドキュメントのページに置き換えます。

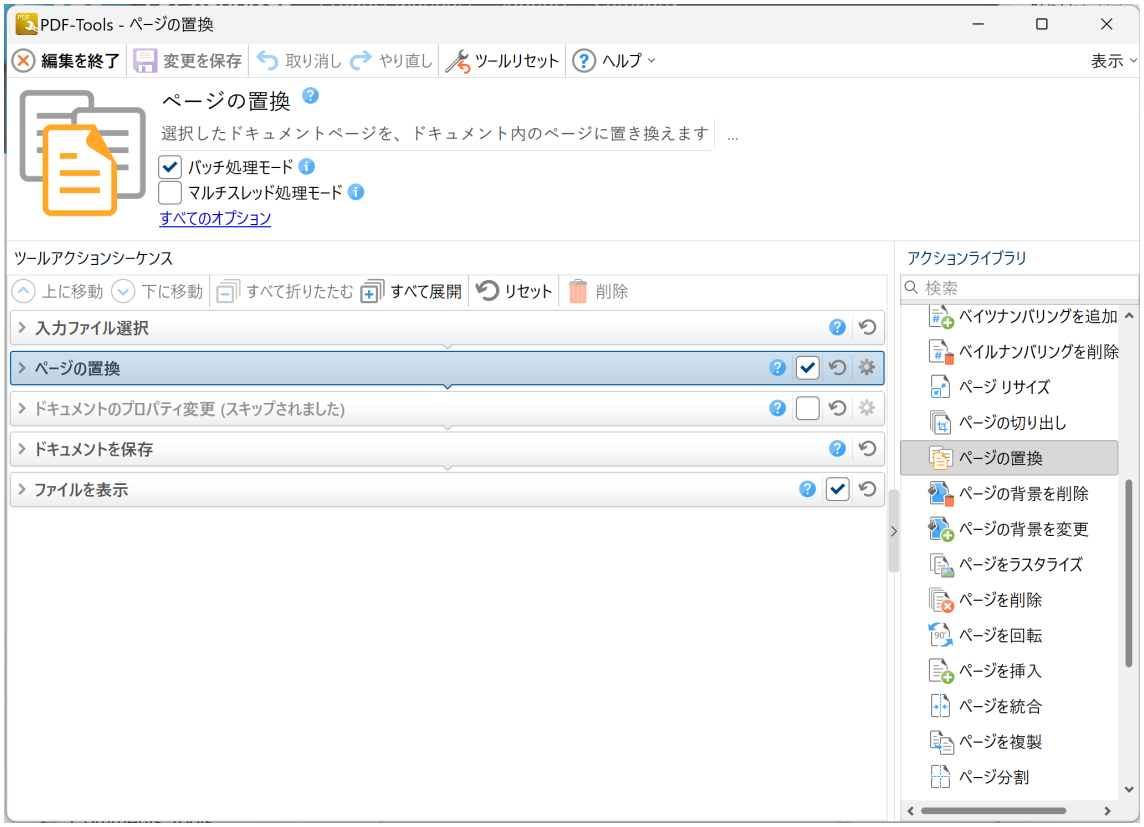

図 1. [ページの置換]ツールアクションシーケンス

ページの置換のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **ページの置換** – 指定したドキュメントのページが、既存のドキュメントのページに置き換えられます。
3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。
4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。
5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-14. ページ・リサイズ

ページ・リサイズのツールは、入力ドキュメントの指定したページのサイズを変更します。

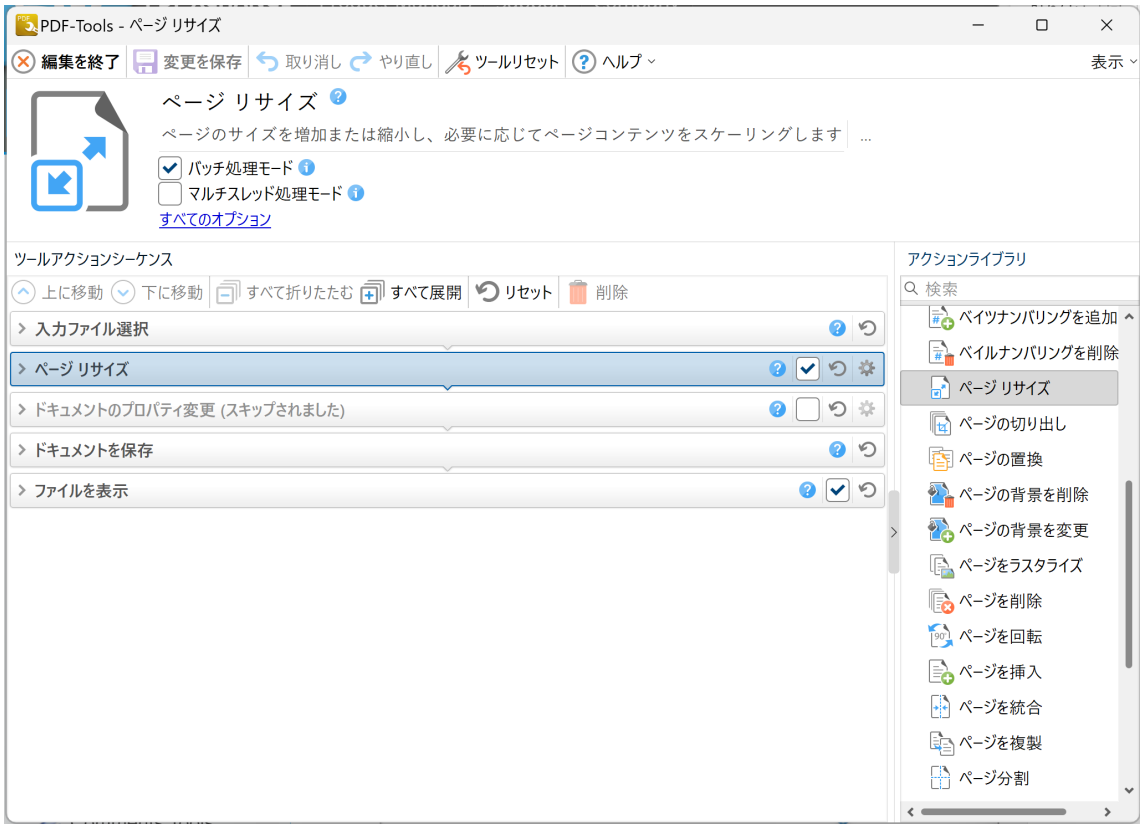

図 1. [ページ・リサイズ]ツールアクションシーケンス

ページ・リサイズのツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ページ・リサイズ** – 指定したドキュメントのページのサイズが変更されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-15. ページを回転

ページを回転のツールは、入力ドキュメントの指定したページを回転します。

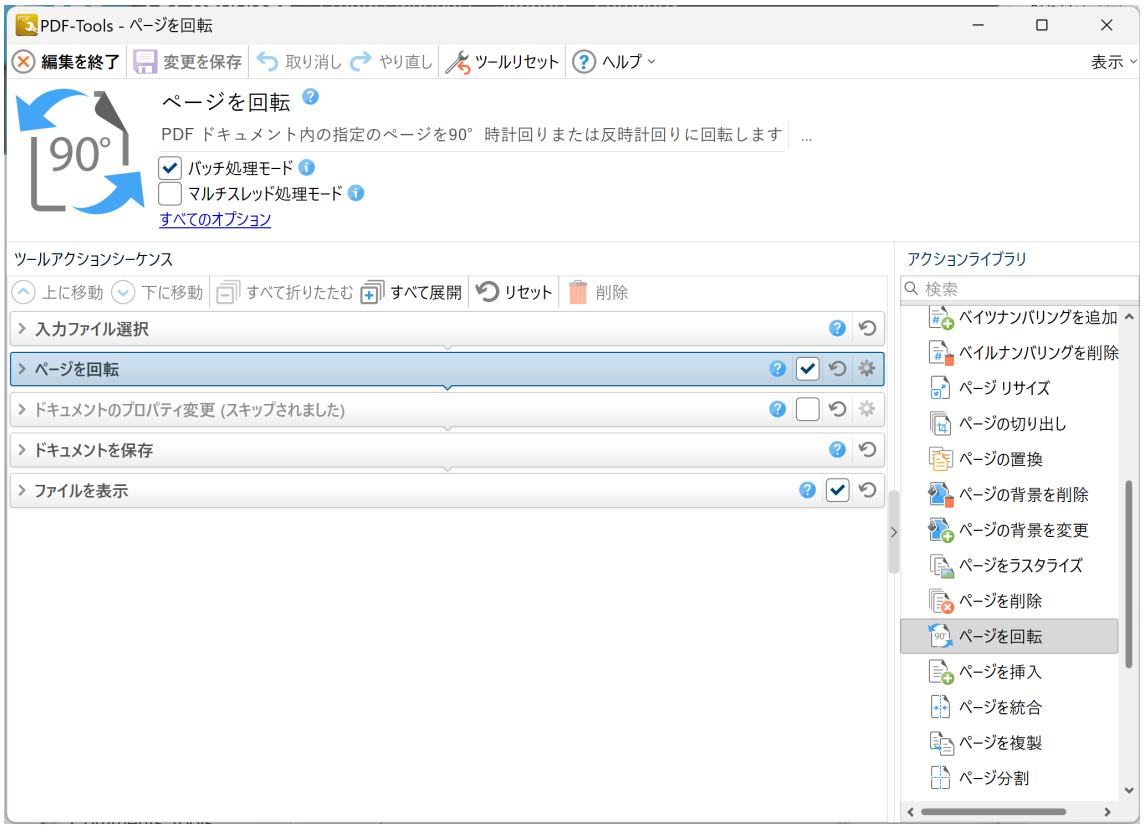

図 1. [ページを回転]ツールアクションシーケンス

ページを回転のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ページを回転** – 指定したドキュメントのページを回転します。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-16. ページ背景を設定

ページ背景を設定のツールは、入力ドキュメントの背景を変更します。

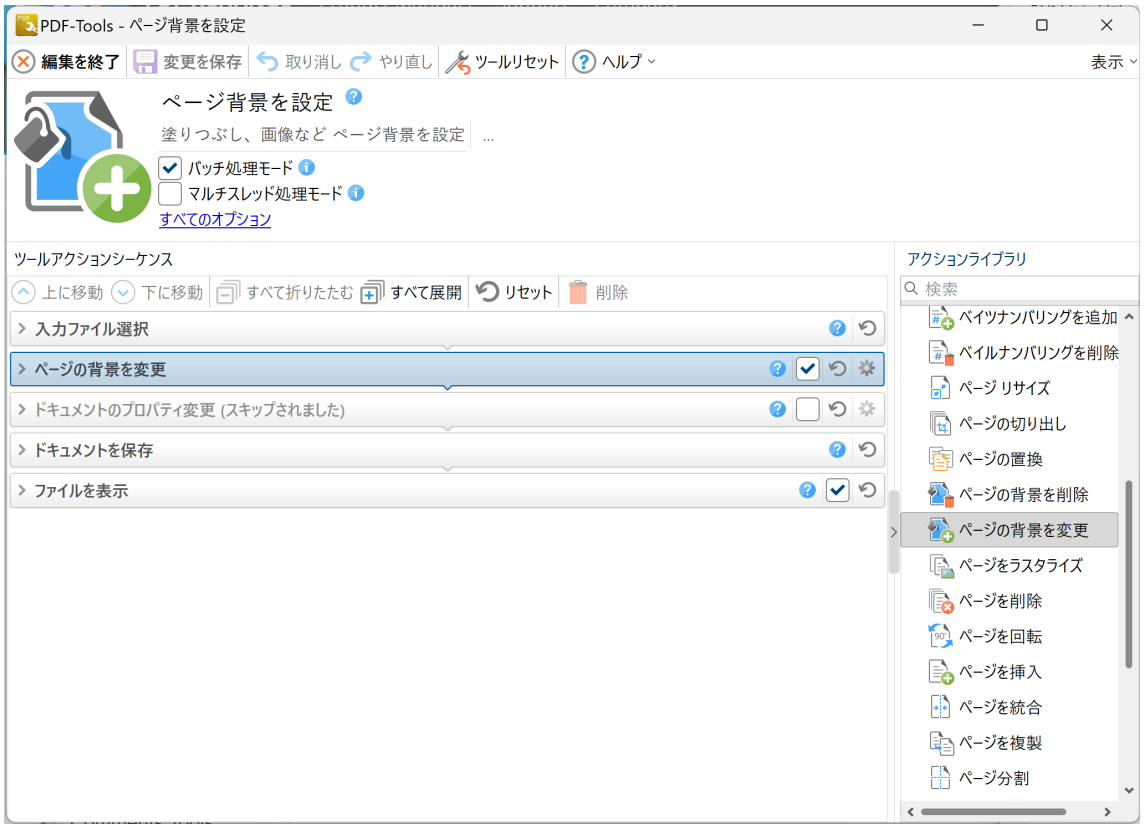

図 1. [ページ背景を設定]ツールアクションシーケンス

ページ背景を設定のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ページ背景を設定** – ドキュメントの背景を追加/編集します。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。
4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。
5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-2-17. ページ分割

ページ分割のツールは、入力ドキュメントのページを任意のセクションに分割します。

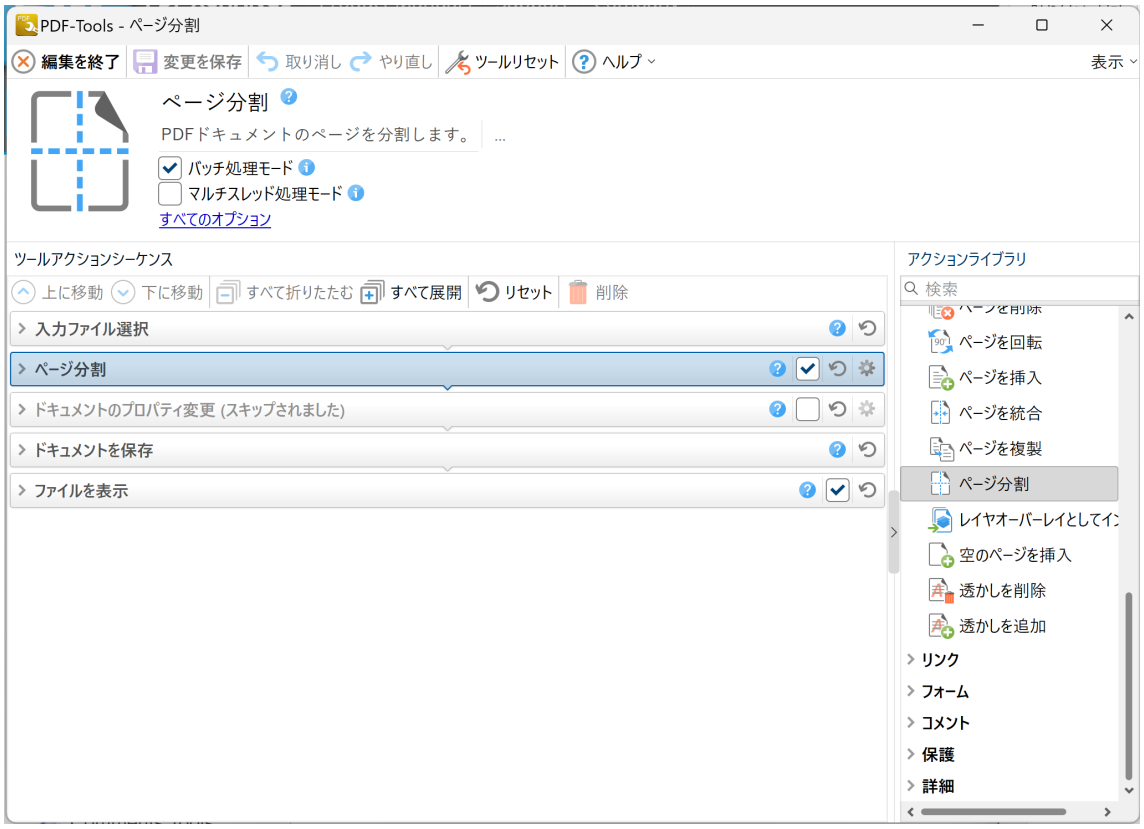

図 1. [ページ分割]ツールアクションシーケンス

ページ分割のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ページ分割** – ドキュメントが任意のセクションに分割されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。
4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。
5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-3. [リンク]ツール

[リンク]ツールは、リンクと Web リンクを作成/削除するために使用されます。

- **Web リンクを作成**　入力ドキュメントのテキストから Web リンクを作成します。
- **リンクを削除**　入力ドキュメントから Web リンクを削除します。
- **Web リンクを削除**　入力ドキュメントから Web リンクを削除します。

[ツール複製]機能と**[ツール作成]**機能を使用すると、既存のツールの機能を強化したり、複雑な要件を満たすために新しいツールを作成したりできます。

8-3-1. Web リンクを作成

Web リンクを作成のツールは、入力ドキュメントのテキストから Web リンクを作成します。

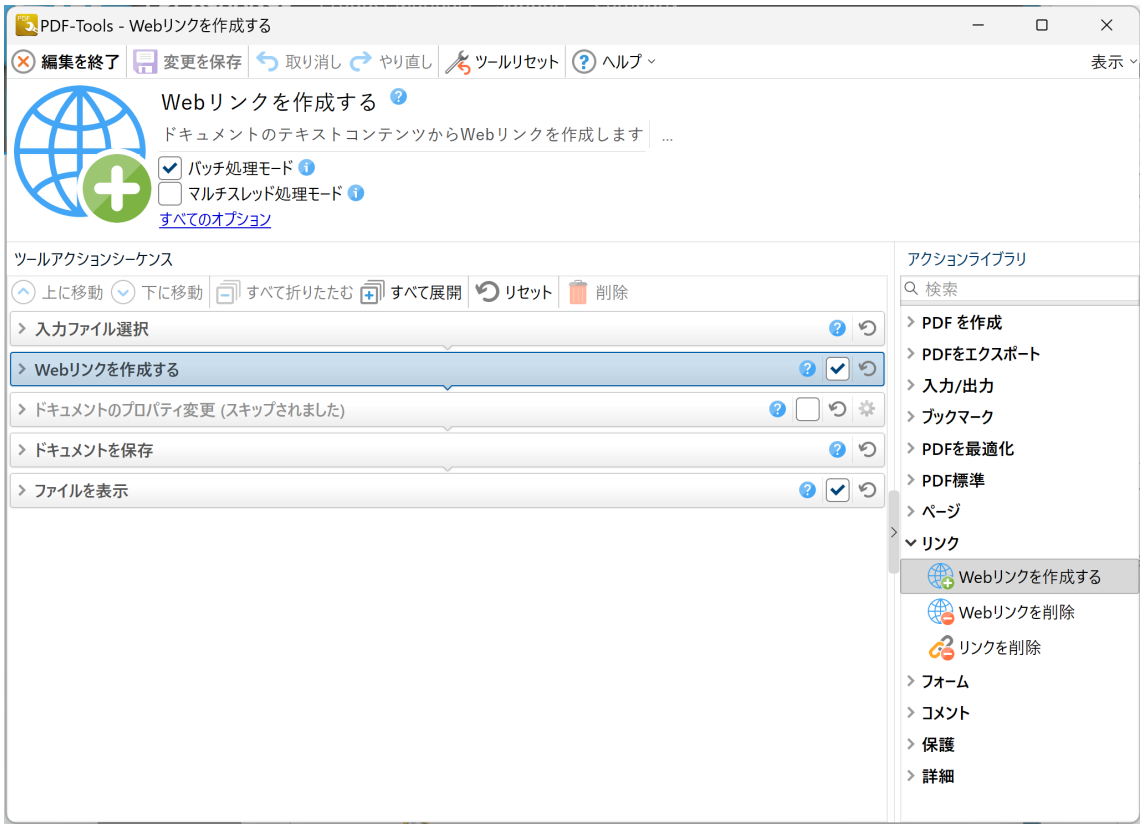

図 1. [Web リンクを作成]ツールアクションシーケンス

Web リンクを作成のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **Web リンクを作成** – Web リンクは、ドキュメント内の指定されたテキストから作成されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-4. [フォーム]ツール

[フォーム]ツールは、フォームおよびフォームデータのインポート/エクスポートまたは削除に使用されます。

- **フォームフィールドを削除** 入力ドキュメントからフォームフィールドを削除します。
- **フォームデータをエクスポート** フォームデータをドキュメントからファイルにエクスポートします。
- **フォームデータをインポート** ファイルからフォームデータをインポートします。
- **フォームリセット** 入力ドキュメントからすべてのフォームデータを削除します。

[ツール複製]機能と**[ツール作成]**機能を使用すると、既存のツールの機能を強化したり、複雑な要件を満たすために新しいツールを作成したりできます。

8-4-1. フォームデータをエクスポート

フォームデータをエクスポートのツールは、フォームデータをドキュメントからファイルにエクスポートします。

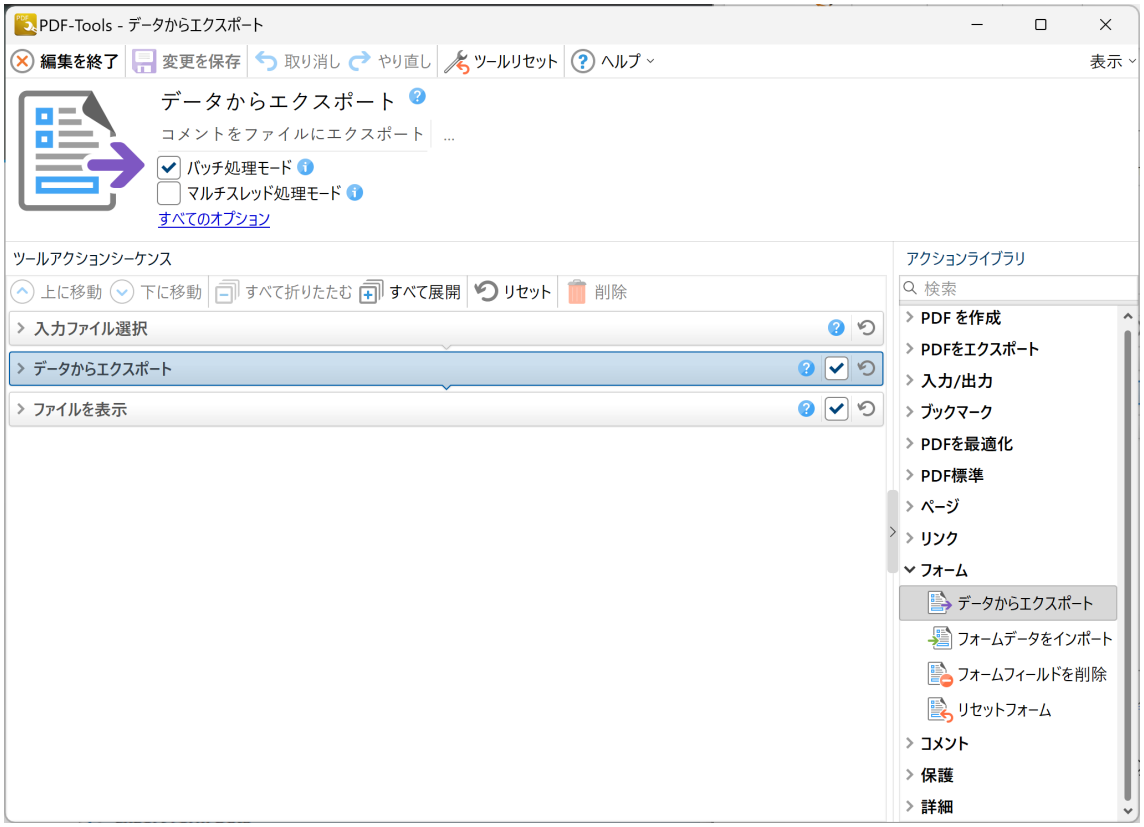

図 1. [フォームデータをエクスポート]ツールアクションシーケンス

フォームデータをエクスポートのツールは、次の 3 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **フォームデータをエクスポート** – ドキュメントのフォームデータがエクスポートされます。

3. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-4-2. フォームデータをインポート

フォームデータをインポートのツールは、フォームデータをドキュメントにインポートします。

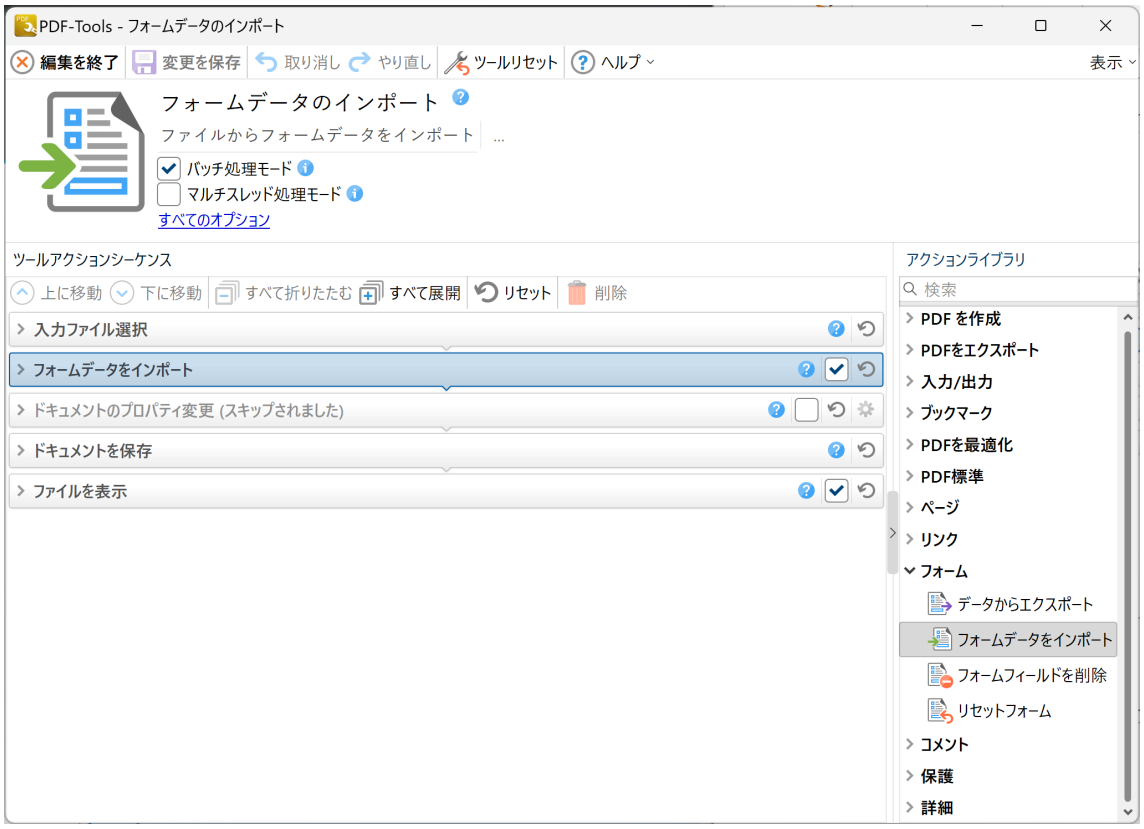

図 1. [フォームデータをインポート] ツールアクションシーケンス

フォームデータをインポートのツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **フォームデータをインポート** – フォームデータがドキュメントにインポートされます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-5. [コメント]ツール

[コメント]ツールは、入力ドキュメントのコメントを編集および操作するために使用されます。

- **すべてのコメントを削除** 入力ドキュメントからすべての形式のコメントを削除します。
- **注釈マークを削除** 入力ドキュメントから注釈マークを削除します。
- **コメントをエクスポート** 入力ドキュメントからコメントをエクスポートします。
- **コメントとフィールドをフラット化** 入力ドキュメントのコメントとフォームフィールドをフラット化します。
- **コメントをインポート** コメントを入力ドキュメントにインポートします。
- **コメントサマリーを作成** 入力ドキュメント内のコメントのサマリーを作成します。

[ツール複製]機能と**[ツール作成]**機能を使用すると、既存のツールの機能を強化したり、複雑な要件を満たすために新しいツールを作成したりできます。

8-5-1. すべてのコメントを削除

すべてのコメントを削除のツールは、入力ドキュメントからコメントを削除します。

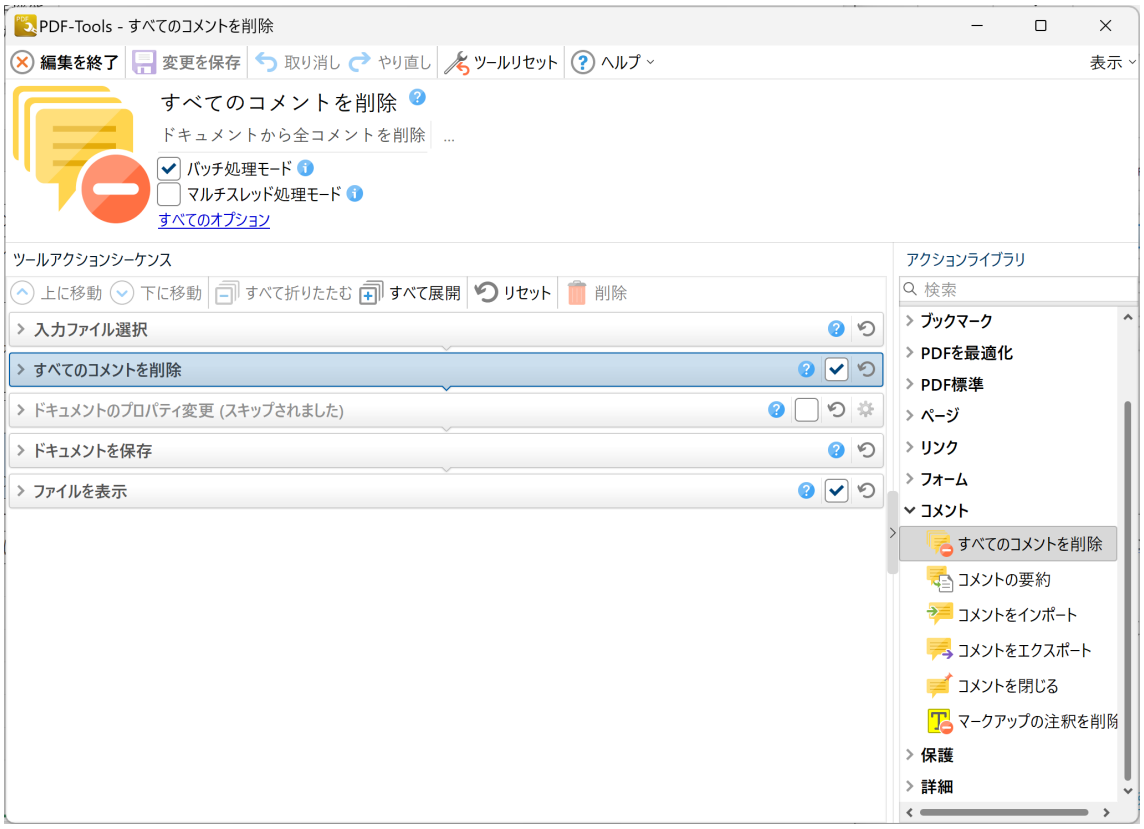

図 1. [すべてのコメントを削除]ツールアクションシーケンス

すべてのコメントを削除のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します

。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **すべてのコメントを削除** – ドキュメント内の指定されたページからすべてのコメントが削除されます。
3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。
4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。
5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-5-2. 注釈マークを削除

注釈マークを削除のツールは、入力ドキュメントから注釈マークを削除します。

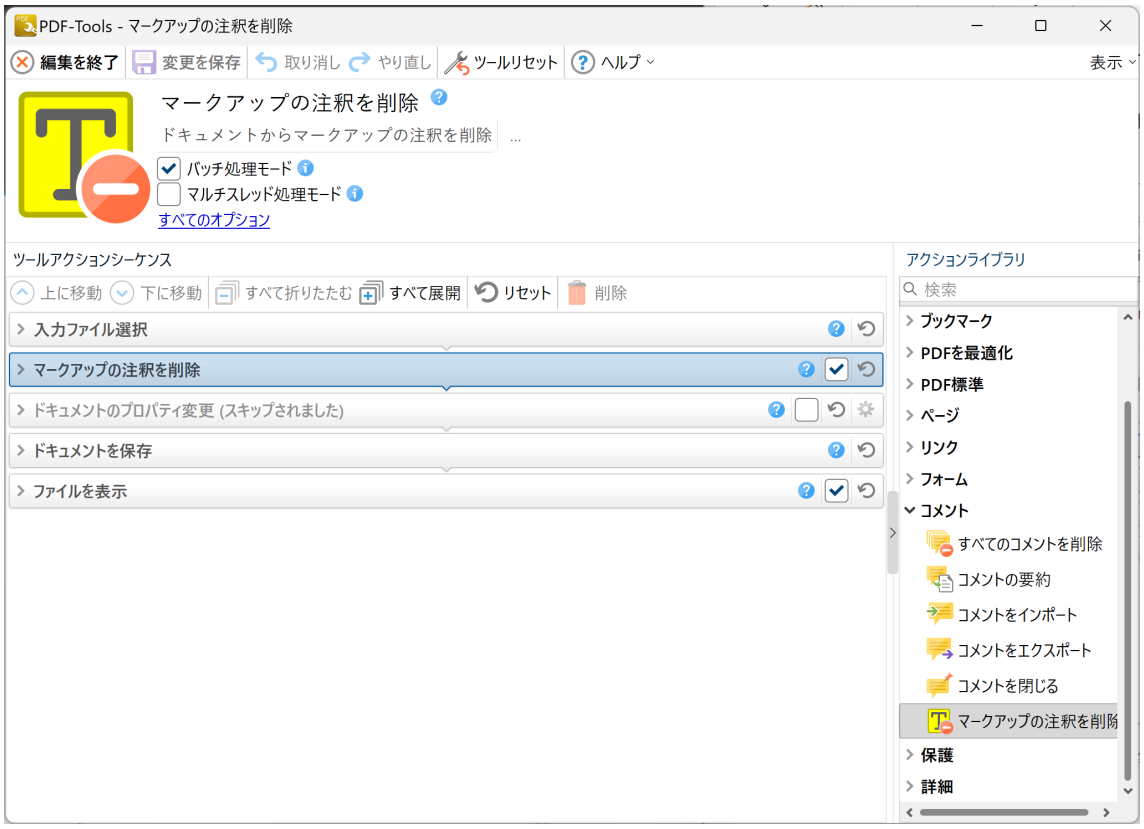

図 1. [注釈マークを削除]ツールアクションシーケンス

注釈マークを削除のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **注釈マークを削除** – すべての注釈マークがドキュメント内の指定されたページから削除されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-5-3. コメントをエクスポート

コメントをエクスポートのツールは、入力ドキュメントからコメントをエクスポートします。

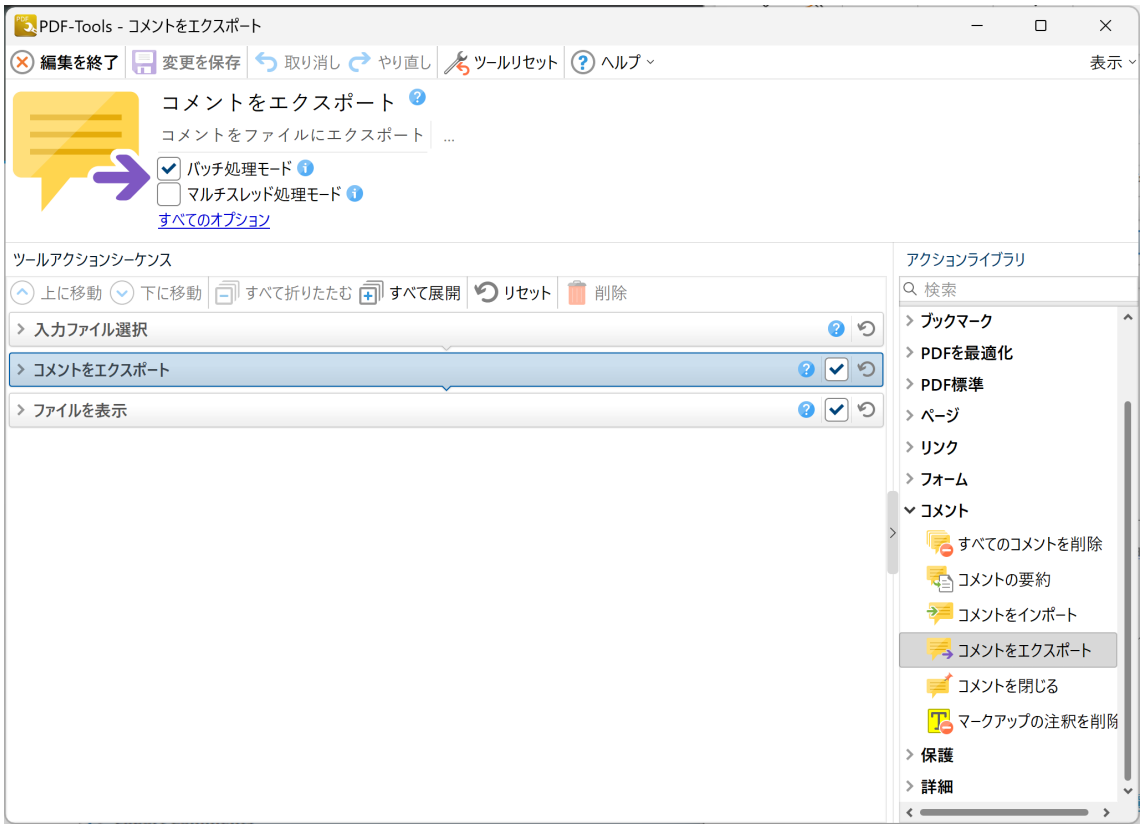

図 1. [コメントをエクスポート]ツールアクションシーケンス

コメントをエクスポートのツールは、次の 3 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **コメントをエクスポート** – コメントがドキュメントからエクスポートされます。

3. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-5-4. コメントとフィールドをフラット化

コメントとフィールドをフラット化のツールは、入力ドキュメントのコメントとフォームフィールドをベース・コンテンツにフラット化します。

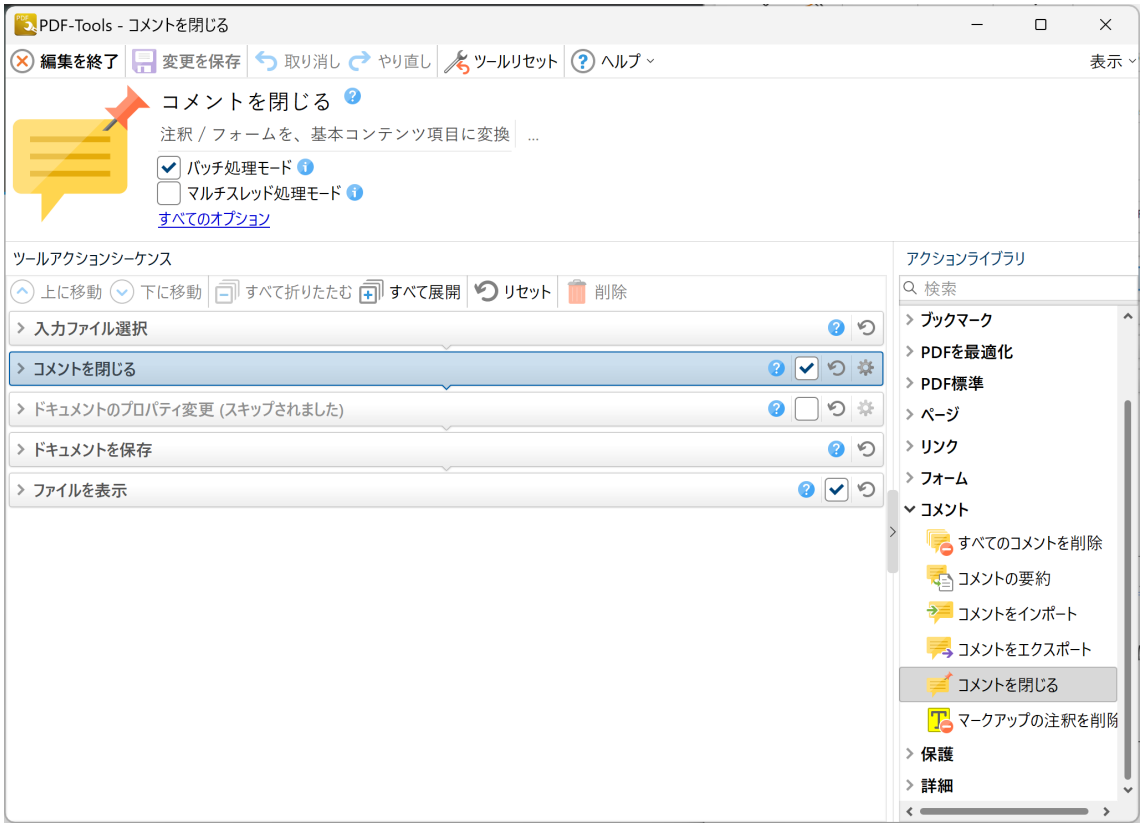

図 1. [コメントとフィールドフラット化]ツールアクションシーケンス

コメントとフィールドをフラット化のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **コメントとフィールドをフラット化** – 入力ドキュメントのコメントとフォームフィールドがベース・コンテンツにフラット化されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-5-5. コメントをインポート

コメントをインポートのツールは、コメントを入力ドキュメントにインポートします。

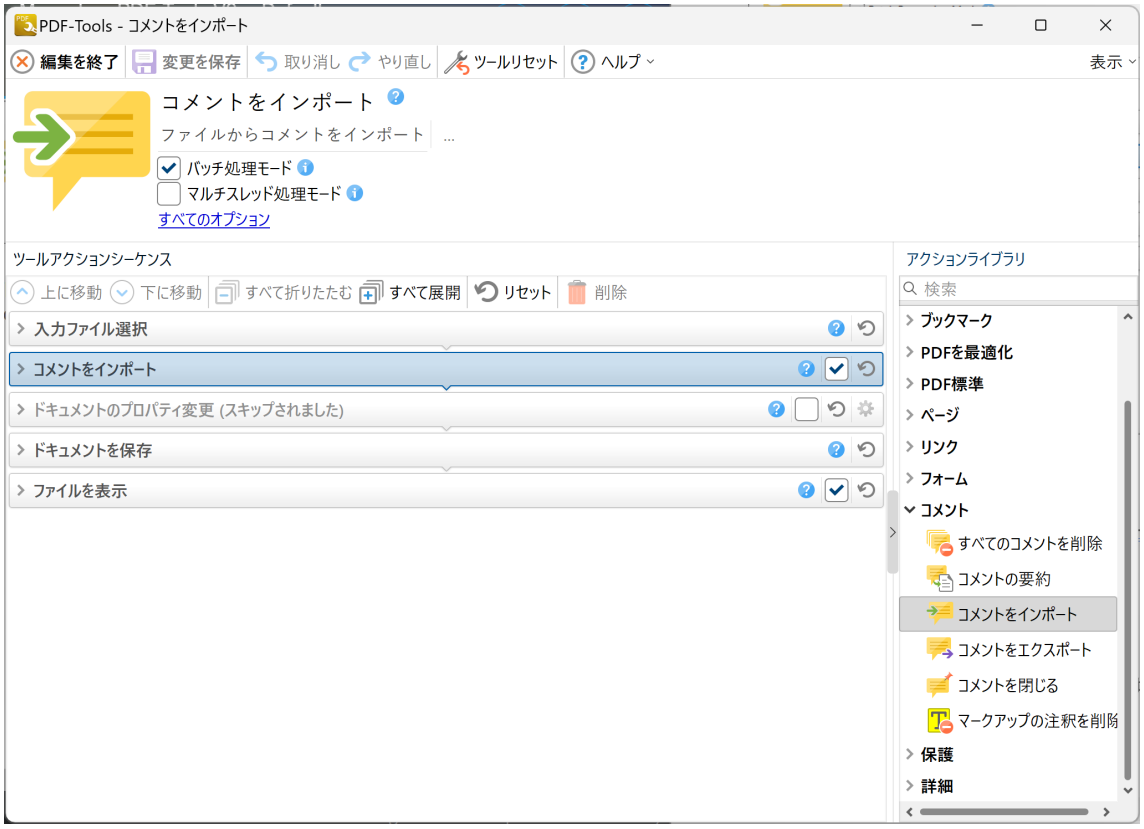

図 1. [コメントをインポート]ツールアクションシーケンス

コメントをインポートのツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **コメントをインポート** – コメントがドキュメントにインポートされます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-5-6. コメントサマリーを作成

コメントサマリーを作成のツールは、入力文書にコメントのサマリー(要約)を作成します。

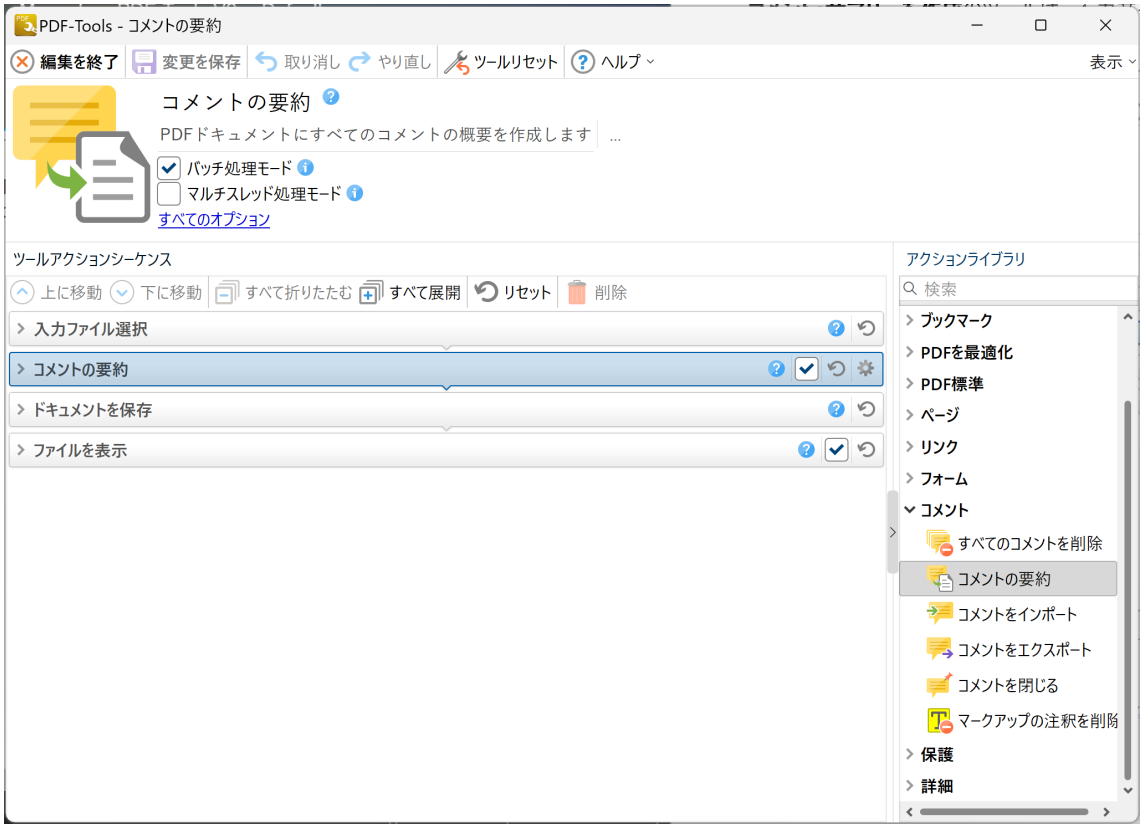

図 1. [コメントサマリーを作成]ツールアクションシーケンス

コメントサマリー作成のツールは、次の 4 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **コメントサマリーの作成** – ドキュメントのコメントからサマリーが作成されます。

3. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

4. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-6. [ブックマーク]ツール

[ブーマーク]ツールは、ブックマークの作成、インポート、エクスポート、および操作に使用されます。

目次の作成 ブックマークを使用して、入力ドキュメントの目次を作成します。

ブックマークをエクスポート 入力ドキュメントにブックマークのコピーが作成され、ファイルに保存されます。

ブックマークをテキストファイルにエクスポート 入力ドキュメントにブックマークのコピーが作成され、プレーンテキスト(*.txt)ファイルに保存されます。

ブックマークテキストを検索して置換 ブックマーク・タイトル内のテキストを検索して置き換えます。

ページテキストからブックマークを生成 入力ドキュメントのテキストからブックマークを作成します。

ブックマークをインポート ブックマークをドキュメントにインポートします。

テキストファイルからブックマークをインポート テキストファイルからドキュメントにブックマークをインポートします。

[ツール複製]機能と**[ツール作成]**機能を使用すると、既存のツールの機能を強化したり、複雑な要件を満たすために新しいツールを作成したりできます。

8-6-1. ブックマークをエクスポート

ブックマークをエクスポートのツールは、入力ドキュメントにブックマークのコピーを作成し、新しいファイルに保存します。

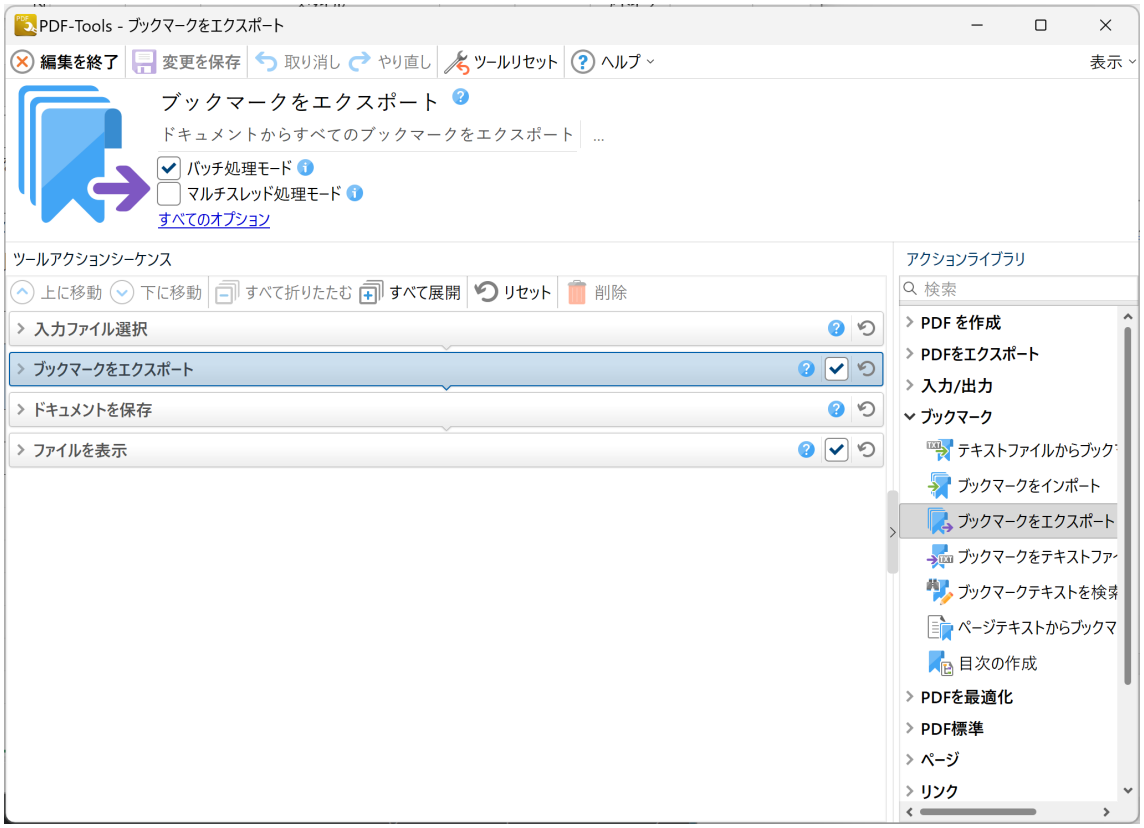

図 1. [ブックマークをエクスポート]ツールアクションシーケンス

ブックマークをエクスポートのツールは、次の 4 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **ブックマークをエクスポート** – ドキュメントのブックマークのコピーが作成されます。

3. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

4. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-6-2. ブックマークをテキストファイルにエクスポート

ブックマークをテキストファイルにエクスポートのツールは、入力ドキュメントにブックマークのコピーを作成し、新しいテキストファイルに保存します。

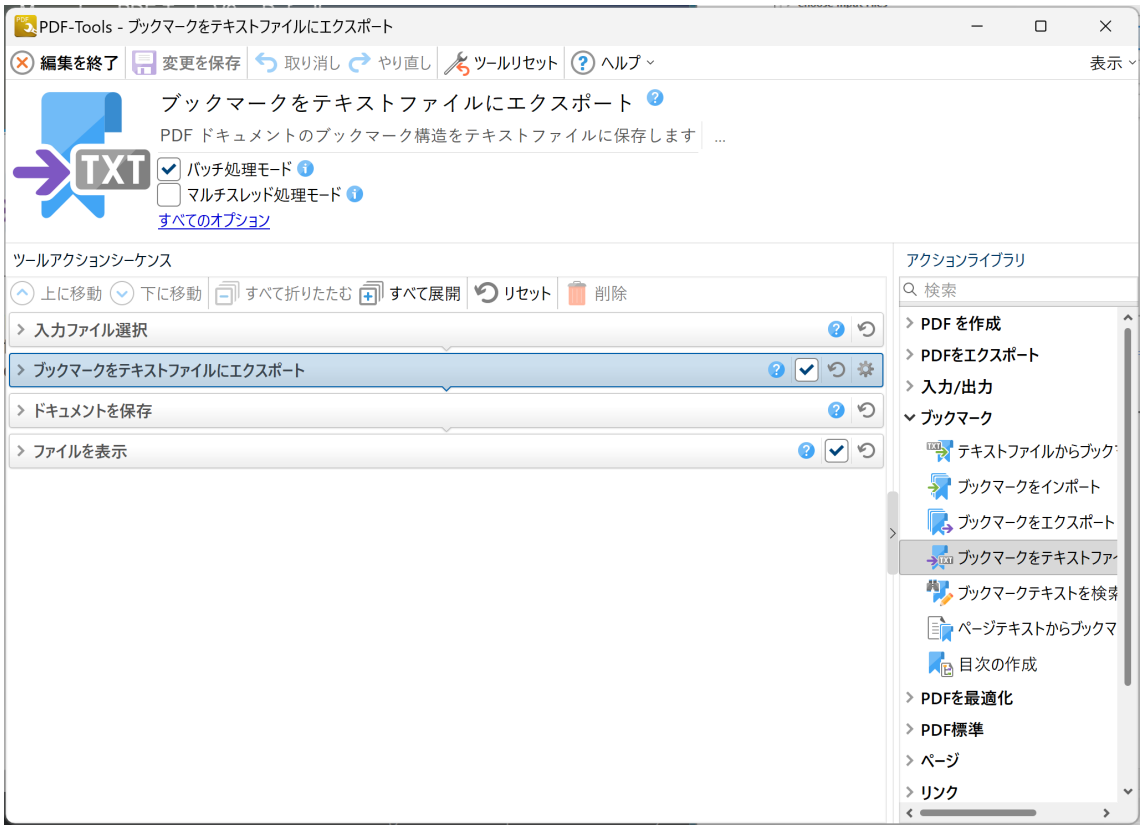

図 1. [ブックマークをテキストファイルにエクスポート]ツールアクションシーケンス

ブックマークをテキストファイルにエクスポートのツールは、次の 4 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **ブックマークをテキストファイルにエクスポート** – ドキュメントにブックマークのコピーが作成されます。

3. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

4. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-6-3. ブックマークテキストを検索して置換

ブックマークテキストを検索して置換のツールは、ブックマーク・タイトル内のテキストを検索して置き換えます。

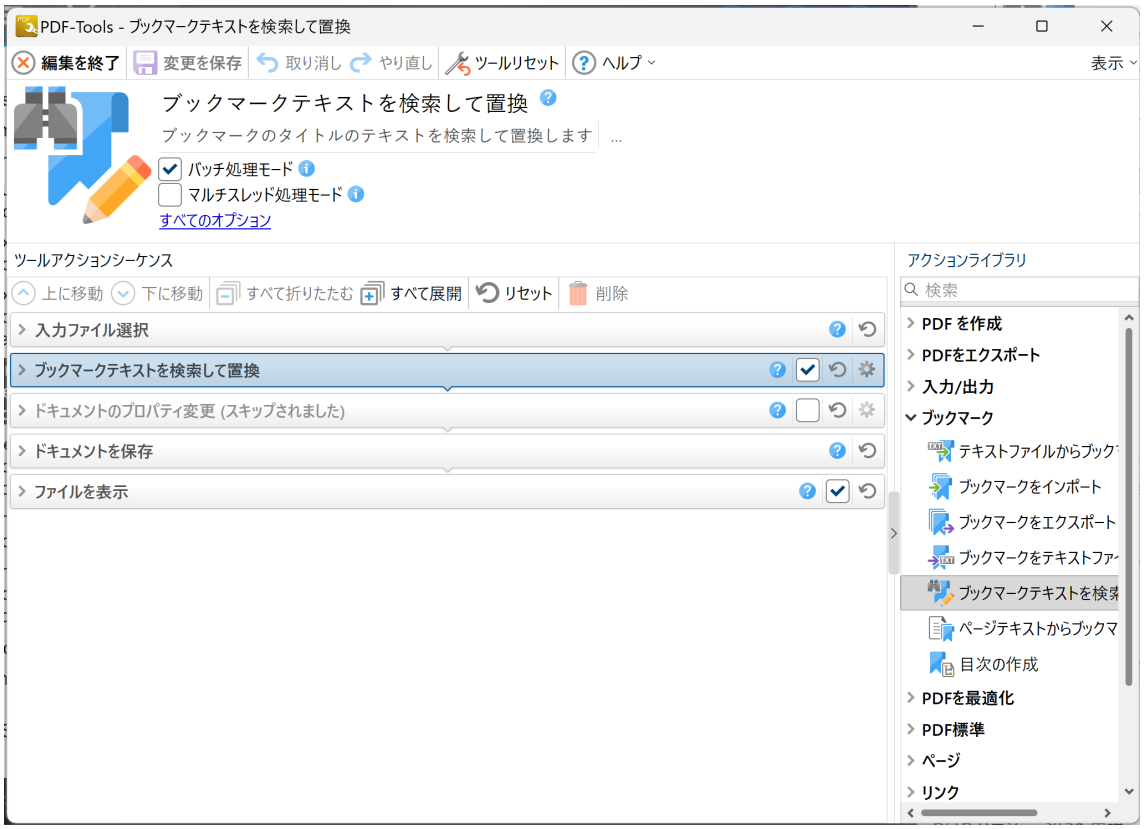

図 1. [ブックマークテキストを検索して置換] ツールアクションシーケンス

ブックマークテキストを検索して置換のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **ブックマークテキストを検索して置換** – 指定されたことばなどが検索され、置き換えられます。
3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。
4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。
5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-6-4. ページテキストからブックマークを生成

ページテキストからブックマークを生成のツールは、入力ドキュメントのテキストからブックマークを作成します。

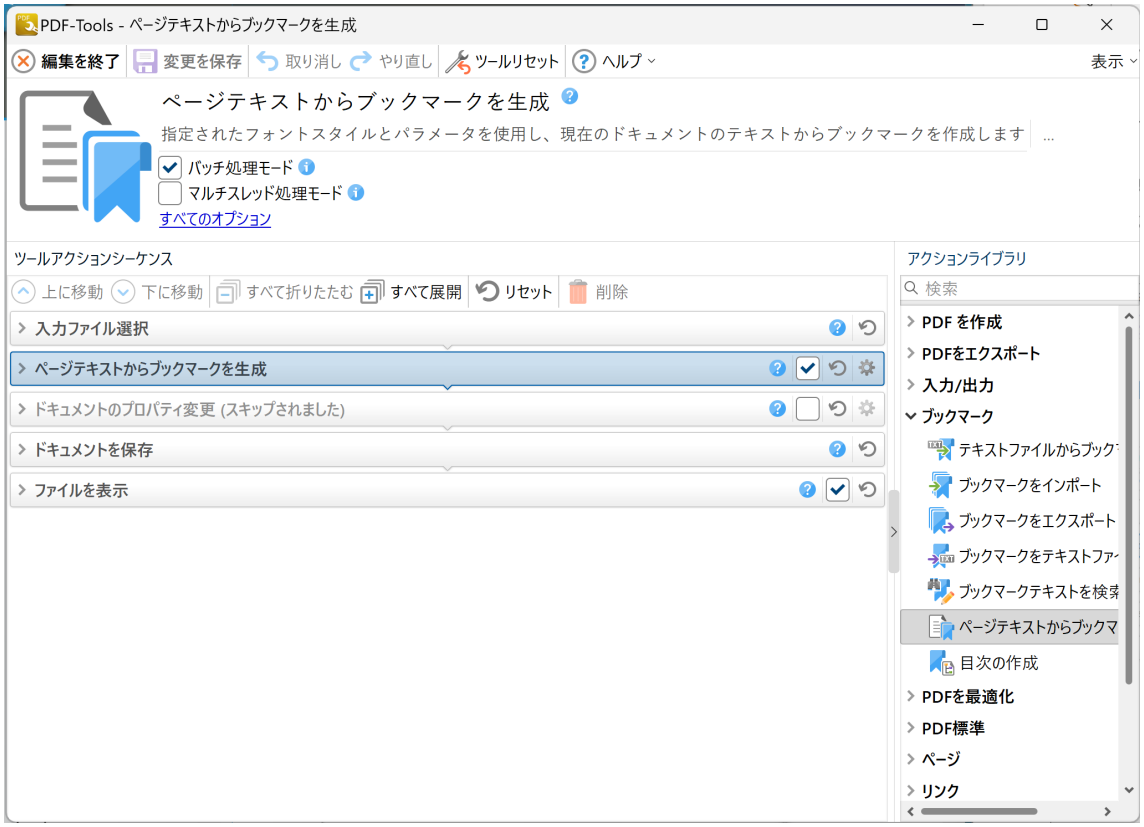

図 1. [ページテキストからブックマークを生成]ツールアクションシーケンス

ページテキストからブックマークを生成のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **ページテキストからブックマークを生成** – ブックマークが指定されたドキュメント・テキストから生成されます。
3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。
4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。
5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-6-5. ブックマークをインポート

ブックマークをインポートのツールは、ブックマークをドキュメントにインポートします。

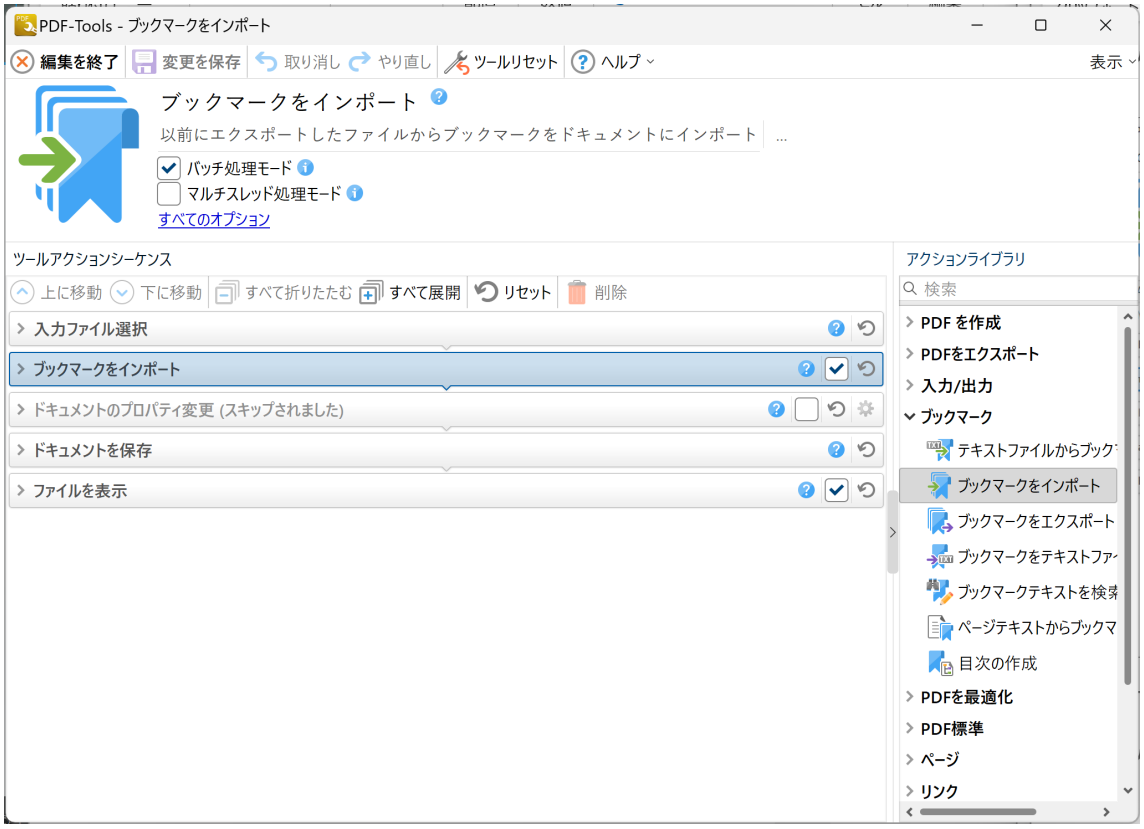

図 1. [ブックマークをインポート]ツールアクションシーケンス

ブックマークをインポートのツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ブックマークをインポート** – ブックマークがドキュメントにインポートされます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。
4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。
5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、このツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-6-6. テキストファイルからブックマークをインポート

テキストファイルからブックマークをインポートのツールは、テキストファイルからドキュメントにブックマークをインポートします。

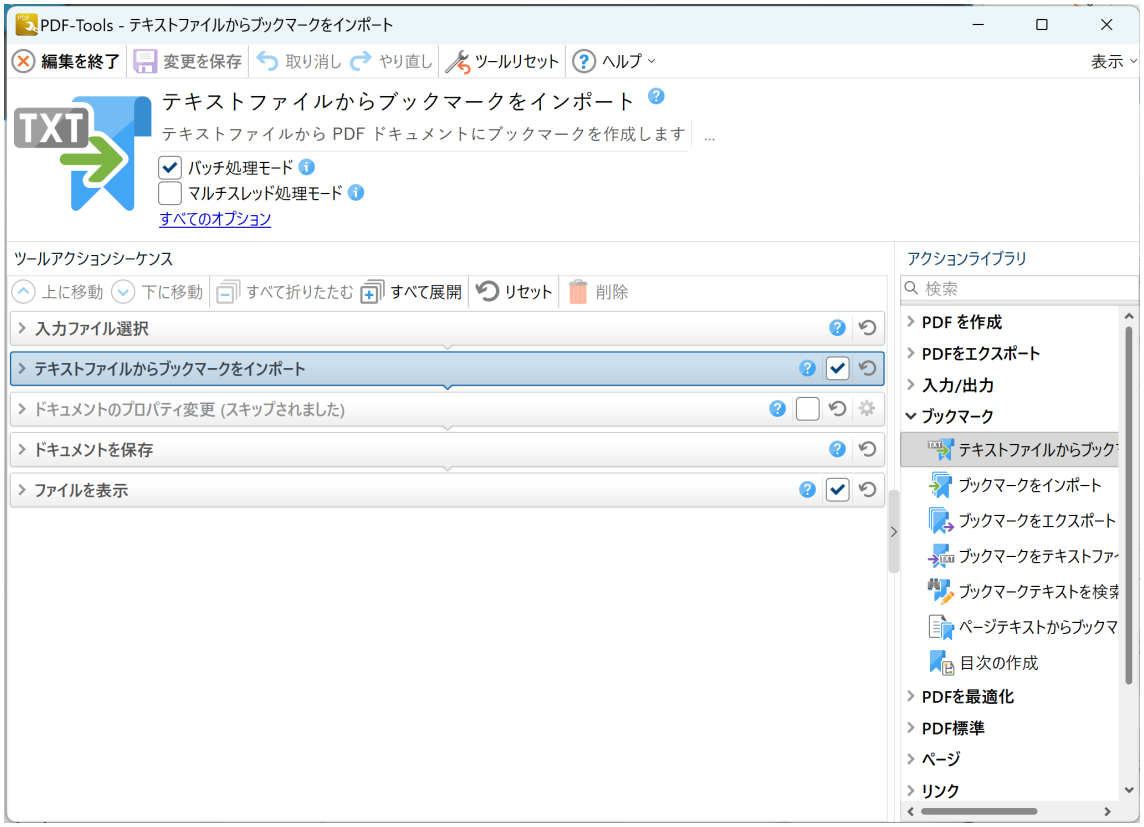

図 1. [テキストファイルからブックマークをインポート]ツールアクションシーケンス

テキストファイルからブックマークをインポートのツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **テキストファイルからブックマークをインポート** – ブックマークがテキストファイルからドキュメントにインポートされます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-7. [プロテクト]ツール

[プロテクト]ツールは、デジタル署名、認証済み署名フィールド、タイムスタンプ、パスワードを入力ドキュメントに追加/削除したり、コンテンツのセンシティブ情報の除去/墨消しなどをするために使用されます。

墨消しの適用 墨消し対象としてマークされたコンテンツをドキュメントから削除します。

PDF 認証 入力ドキュメントに認証済み署名フィールドを追加します。

すべてのデジタル署名を削除 入力ドキュメントからデジタル署名が削除されます。

検索と墨消し ドキュメント内の特定の単語またはパターン（電話番号、クレジット カード番号、社会保障番号、電子メール、または日付）を検索し、墨消しのマークを付けるか、ただちに墨消しします。

センシティブ情報を除去 入力ドキュメントからセンシティブ情報が削除されます。

セキュリティの付加 入力ドキュメントにパスワードによるセキュリティを追加します。

ドキュメントに署名 証明書ベースのデジタル ID を使用して、入力ドキュメントに署名フィールドを追加、および署名します。

PDF にタイムスタンプを追加 入力ドキュメントにドキュメント・ベースのタイムスタンプを追加します。

[ツール複製]または **[作成ツール]**機能を使用して、複雑な要件を満たすためにツールの機能を編集および拡張できることに注意してください。

8-7-1. 墨消しの適用

墨消しの適用のツールは、墨消し対象としてマークされたコンテンツをドキュメントから削除します。

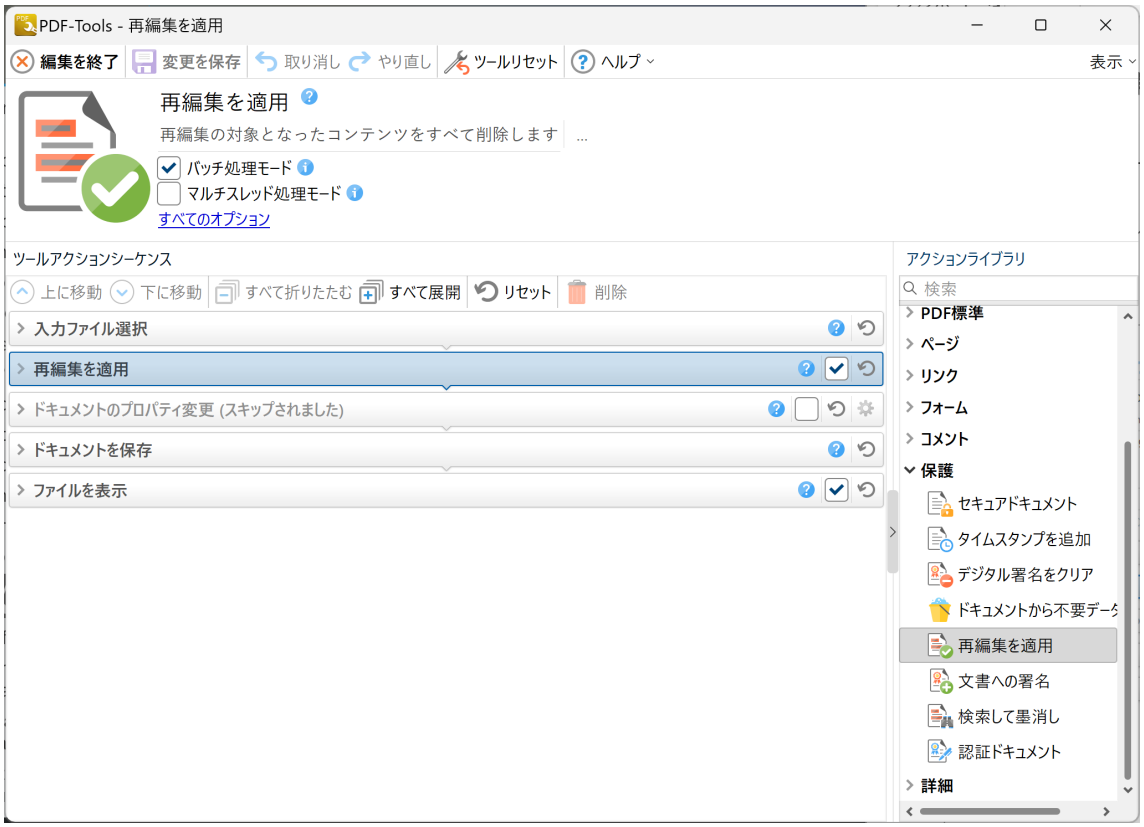

図 1. [墨消しの適用]ツールアクションシーケンス

墨消しの適用のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **墨消しの適用** – 墨消しのマークが付けられたコンテンツはドキュメントから削除されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-7-2. PDF の認証

PDF 認証のツールは、入力ドキュメントに認証済み署名フィールドを追加します。

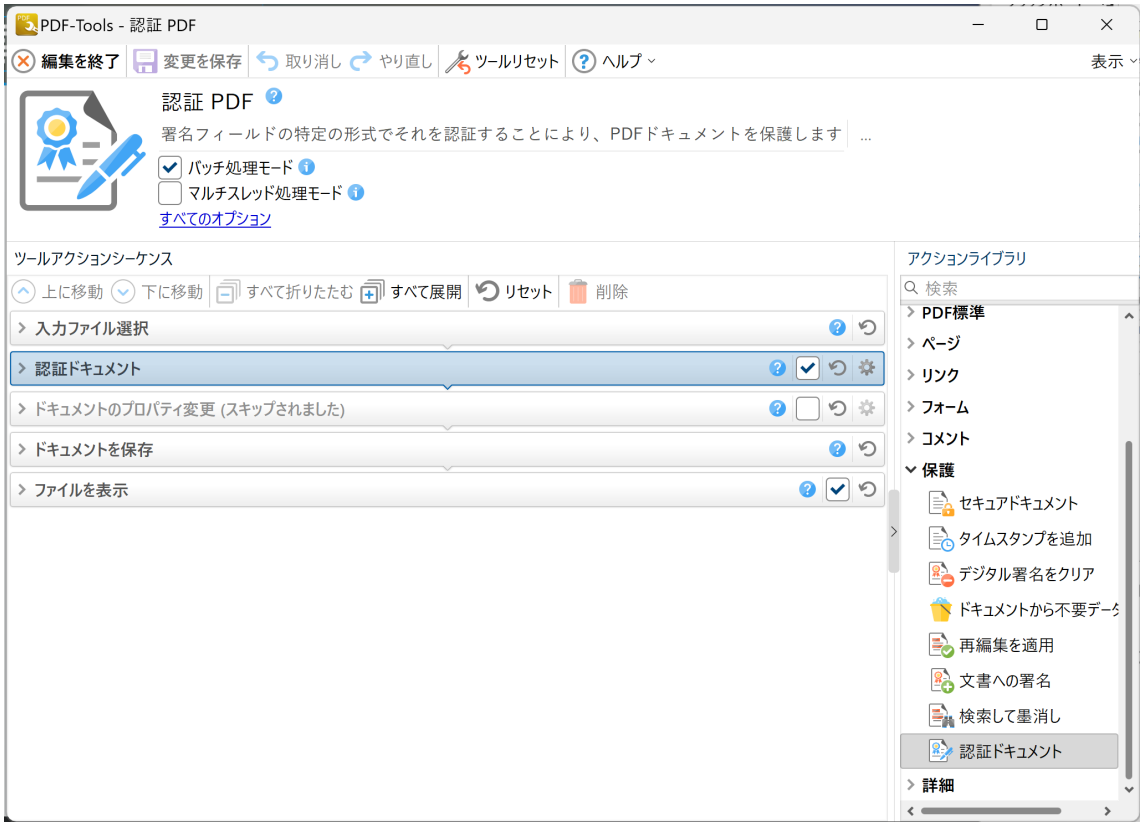

図 1. [PDF 認証]ツールアクションシーケンス

PDF 認証のツールでは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **PDF 認証** – 認証された署名フィールドがドキュメントに追加されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。
4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。
5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-7-3. すべてのデジタル署名を削除

すべてのデジタル署名を削除のツールは、入力ドキュメントからデジタル署名を削除します。

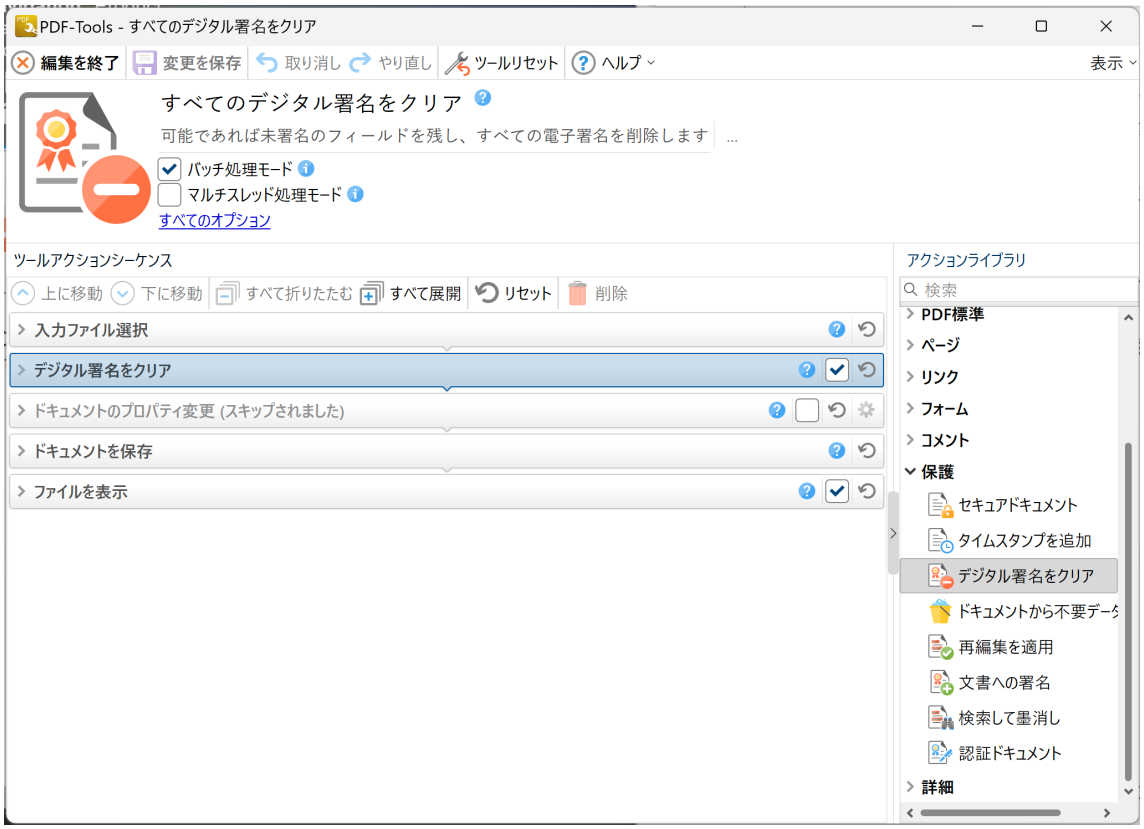

図 1. [すべてのデジタル署名を削除]ツールアクションシーケンス

すべてのデジタル署名を削除のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **すべてのデジタル署名を削除** – デジタル署名がドキュメントから削除されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-7-4. 検索と墨消し

検索と墨消しのツールは、ドキュメント内の特定の単語またはパターン（電話番号、クレジット カード番号、社会保障番号、電子メール、または日付）を検索し、墨消しのマークを付けるか、ただちに墨消しします。

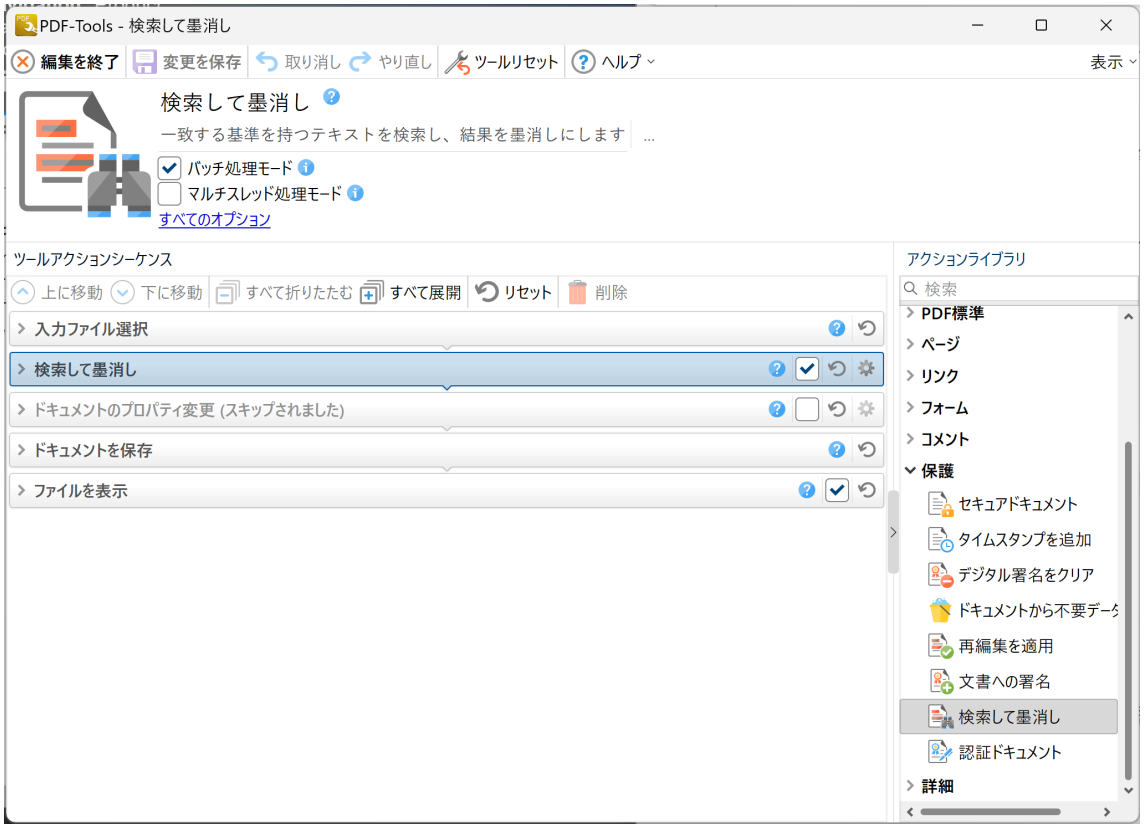

図 1. [検索と墨消し]ツールアクションシーケンス

検索と墨消しのツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **検索と墨消し** – 指定されたことば/パターンが検索され、墨消しのマークが付けられます(またはすぐに墨消しされます)。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-7-5. センシティブ情報を除去

センシティブ情報を除去のツールは、入力ドキュメントからセンシティブ情報を削除します。

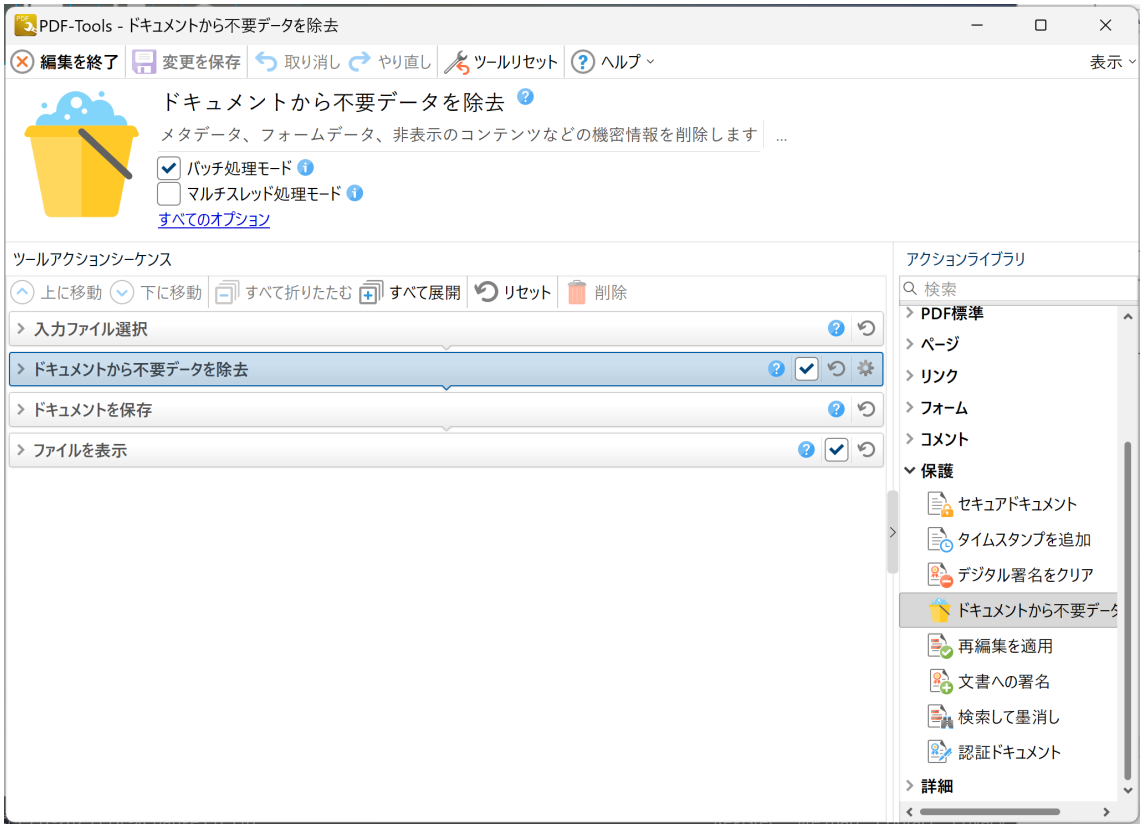

図 1. [センシティブ情報を除去]ツールアクションシーケンス

センシティブ情報を除去のツールは、次の 4 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **センシティブ情報を除去** – 入力ドキュメントセンシティブ情報を削除します。

3. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

4. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-7-6. セキュリティの付加

セキュリティの付加のツールは、入力ドキュメントにパスワードによるセキュリティを追加します。

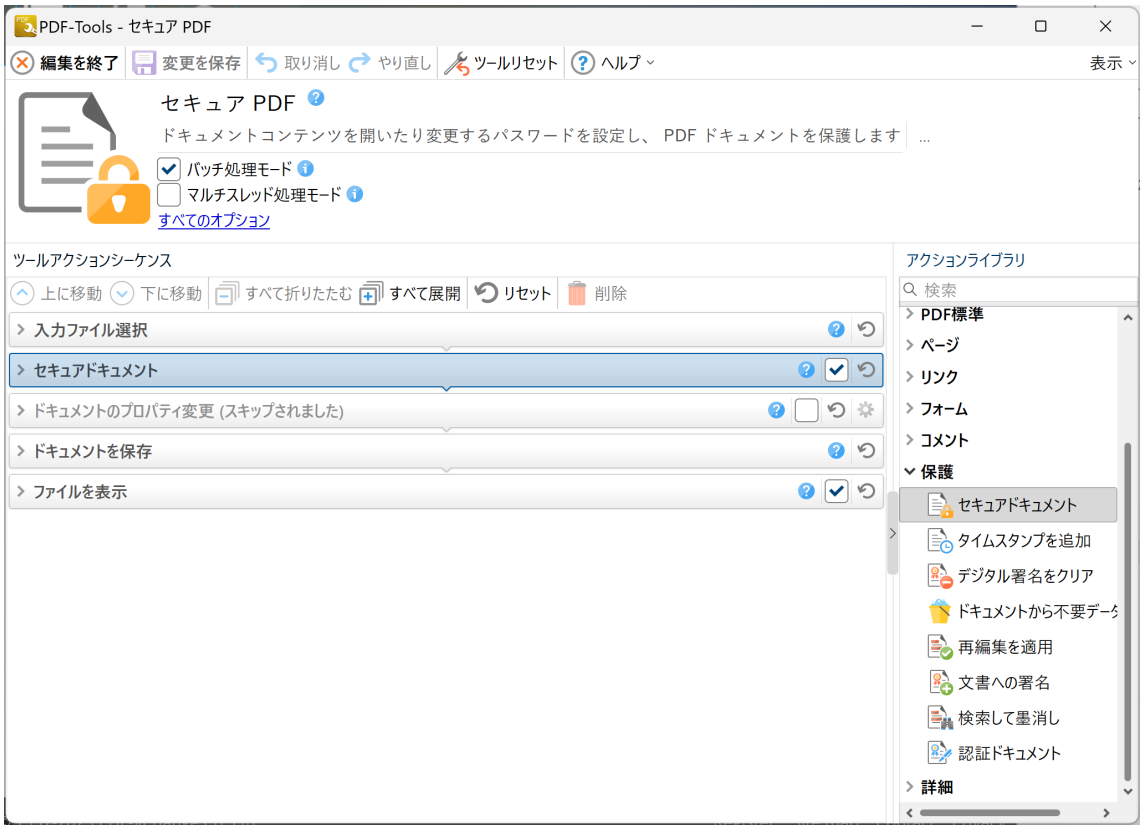

図 1. [セキュリティの付加]ツールアクションシーケンス

セキュリティの付加のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **セキュリティの付加** – パスワードによるセキュリティがドキュメントに追加されます。
3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。
4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。
5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-7-7. ドキュメントに署名

ドキュメントに署名のツールは、証明書ベースのデジタル ID を使用して、入力ドキュメントに署名フィールドを追加し、署名します。

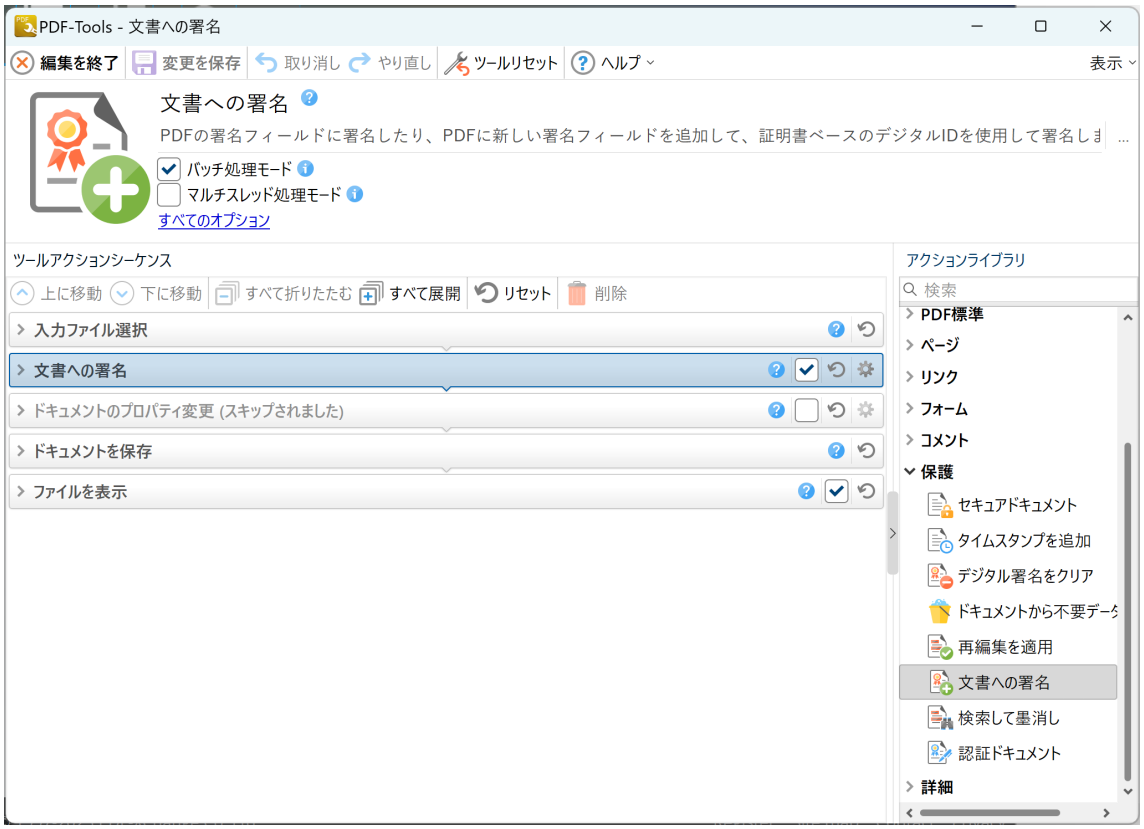

図 1. [ドキュメントに署名]ツールアクションシーケンス

ドキュメントに署名のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ドキュメントに署名** – デジタル署名がドキュメントに追加されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-7-8. PDF にタイムスタンプを追加

PDF にタイムスタンプを追加のツールは、入力ドキュメントにドキュメントレベルのタイムスタンプを追加し、新しいファイルとして保存します。

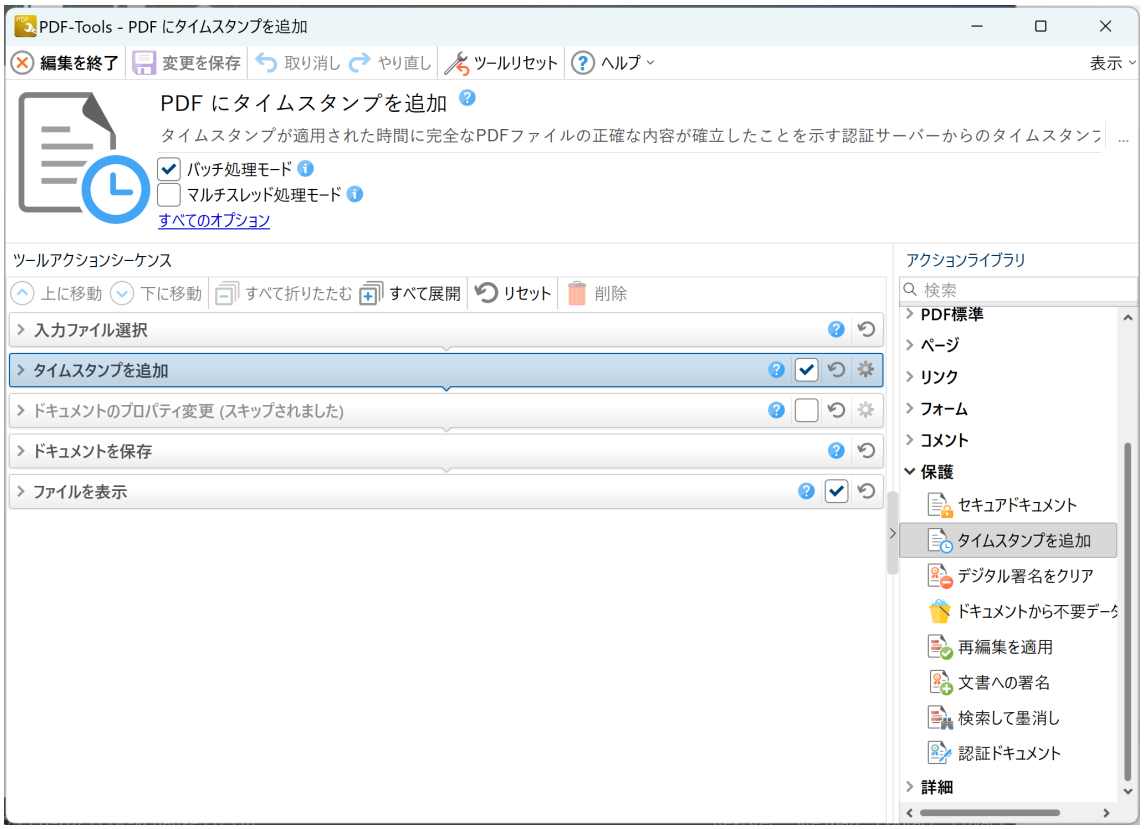

図 1. [PDF にタイムスタンプを追加]ツールアクションシーケンス

PDF にタイムスタンプを追加のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **PDF にタイムスタンプを追加** – ドキュメントレベルのタイムスタンプがドキュメントに追加されます。
3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。
4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。
5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-8. [PDF 最適化]ツール

[PDF 最適化]ツールは、入力ファイルを改善および最適化するために使用されます。

- **スキャンページを向上・改善** 入力ドキュメント内のスキャンされた画像を改善し、品質を向上させ、ファイルサイズを縮小します。
- **PDF を最適化** ファイルサイズを小さくするために入力ドキュメントのコンテンツを最適化します。
- **画像の再圧縮** ドキュメントの画像を再圧縮します。

[ツール複製]機能と**[ツール作成]**機能を使用すると、既存のツールの機能を強化したり、複雑な要件を満たすために新しいツールを作成したりできます。

8-8-1. スキャンページを向上・改善

スキャンページを向上・改善のツールは、入力ドキュメント内のスキャンされた画像を改善して、品質を向上させ、ファイルサイズを縮小します。

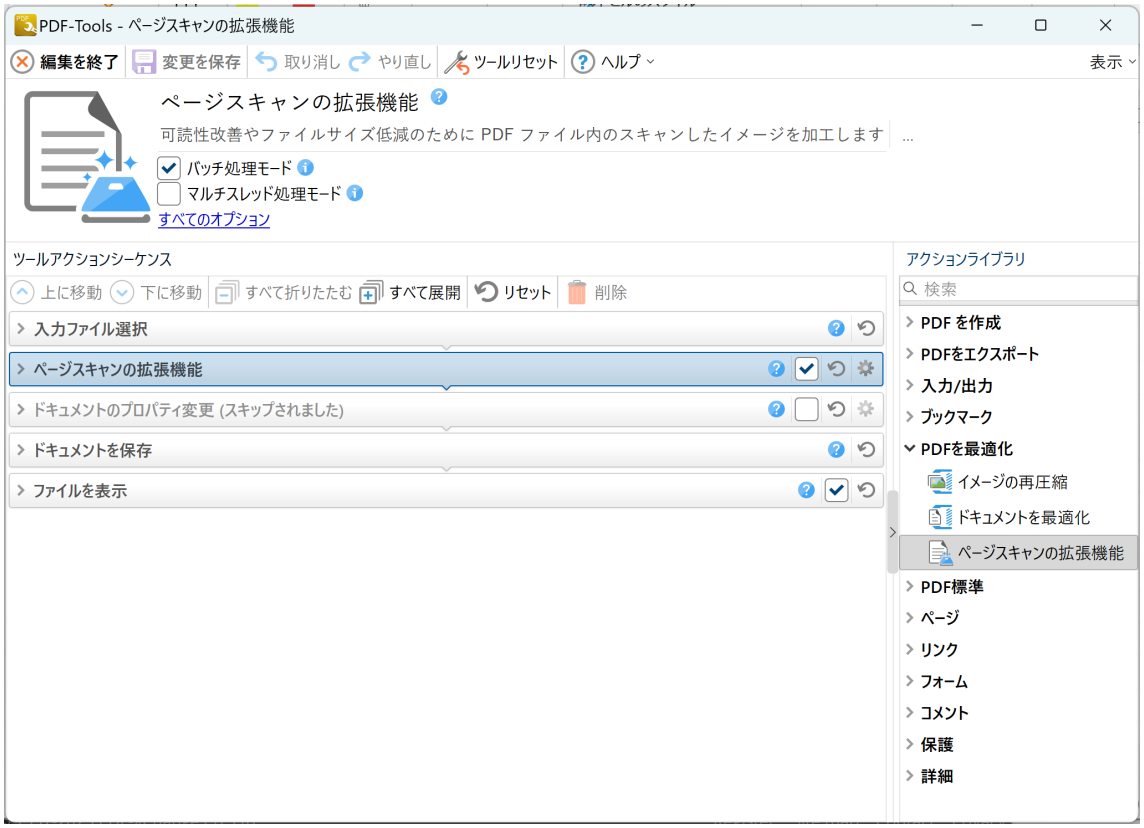

図 1. [スキャンページを向上・改善]ツールアクションシーケンス

スキャンページを向上・改善のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **スキャンページを向上・改善** – ドキュメントの画像が改善され、ファイルサイズが縮小されます。
3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。
4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。
5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-8-2. PDF を最適化

PDF を最適化のツールは、ファイルサイズを小さくするために入力ドキュメントのコンテンツを最適化します。

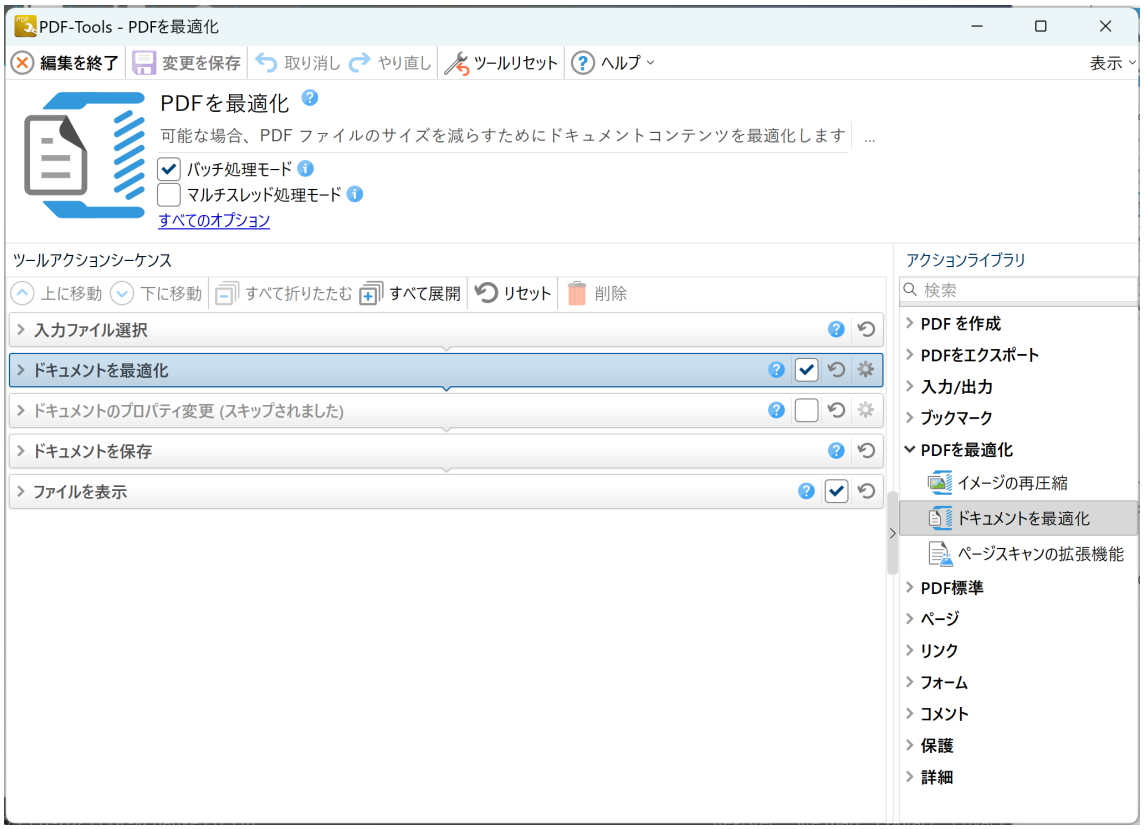

図 1. [PDF を最適化]ツールアクションシーケンス

PDF を最適化ツのールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **PDF を最適化** – ドキュメントが最適化されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-8-3. 画像の再圧縮

画像の再圧縮のツールは、ドキュメントの画像を再圧縮します。

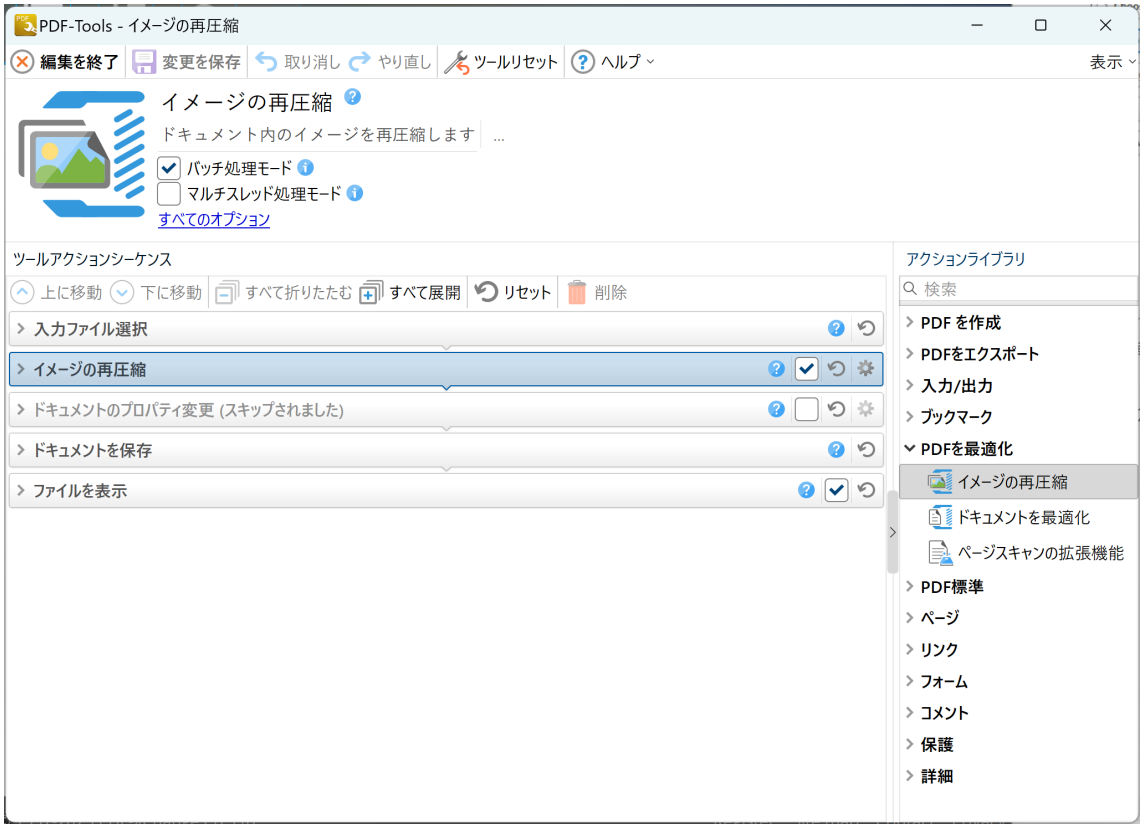

図 1. [画像の再圧縮]ツールアクションシーケンス

画像の再圧縮のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **画像の再圧縮** – ドキュメントの画像が再圧縮されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-9. [PDF 規格]ツール

[PDF 規格]ツールは、入力ドキュメントを代替 PDF 規格に準拠したものにします。

- **PDF/A に変換** ドキュメントを長期アーカイブに使用される PDF/A 規格に準拠させます。
- **PDF/X に変換** ドキュメントを印刷データの交換に使用される PDF/X 規格に準拠させます。
- **特殊な PDF 規格を破棄する** ドキュメントから PDF/X、PDF/A、PDF/E の情報のような特殊な PDF 規格情報を破棄します。

[ツール複製]機能と**[ツール作成]**機能を使用すると、既存のツールの機能を強化したり、複雑な要件を満たすために新しいツールを作成したりできます。

8-9-1. PDF/A に変換

PDF/A に変換のツールは、長期アーカイブに使用される PDF/A 形式に準拠したドキュメントを作成します。

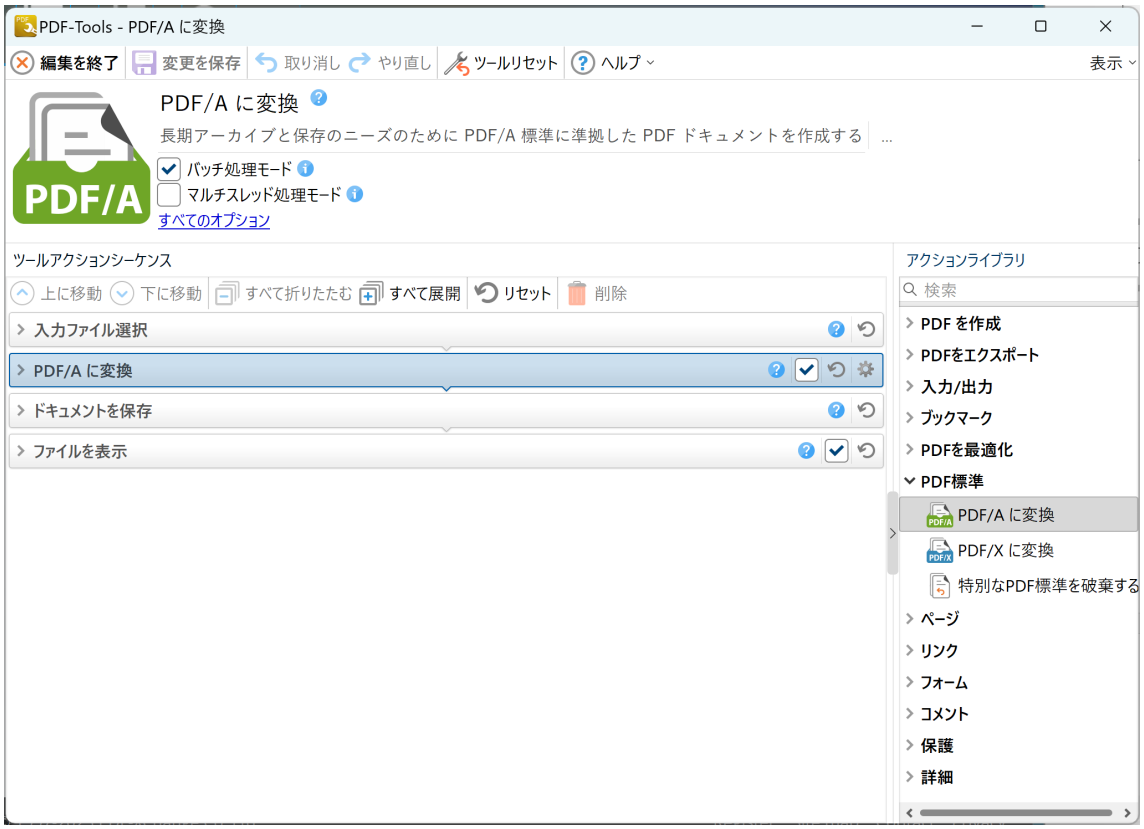

図 1. [PDF/A に変換]ツールアクションシーケンス

PDF/A に変換のツールは、次の 4 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **PDF/A に変換** – ドキュメントが PDF/A 形式に準拠されます。

3. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

4. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-9-2. PDF/X に変換

PDF/X に変換のツールは、印刷データの交換に使用される PDF/X 形式に準拠したドキュメントを作成します。

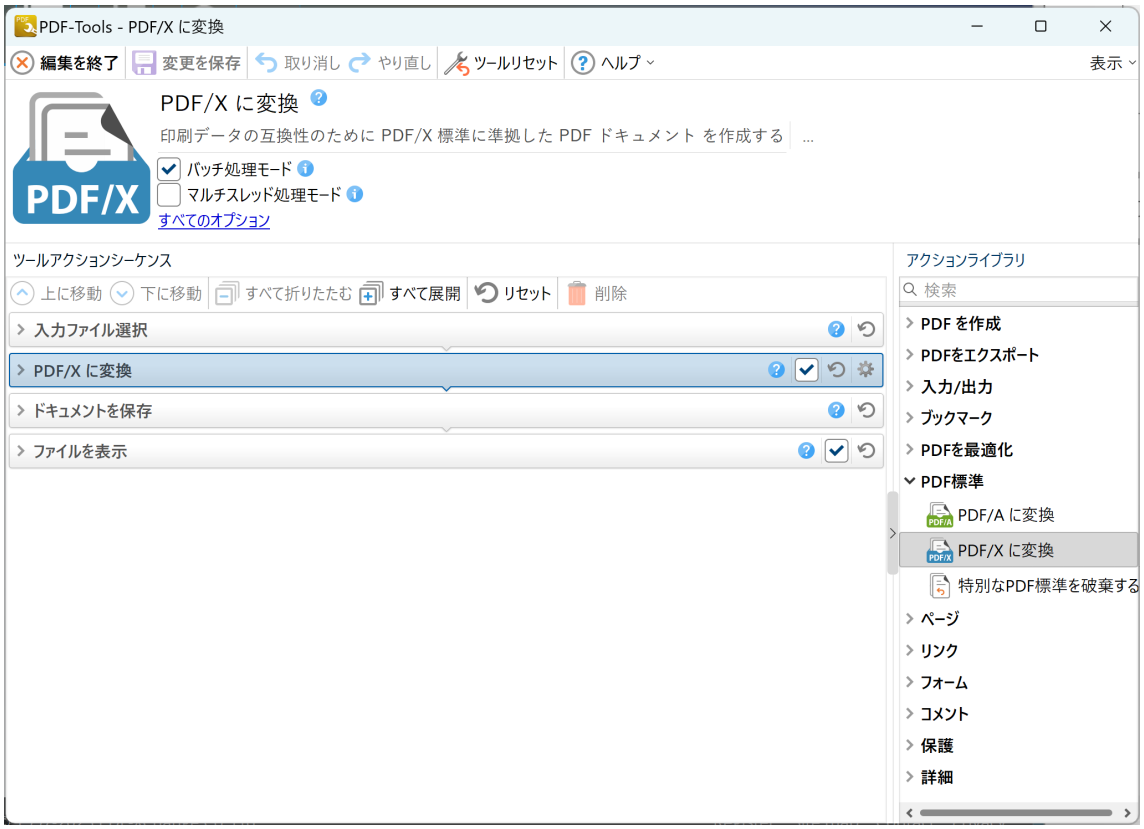

図 1. [PDF/X に変換]ツールアクションシーケンス

PDF/X に変換のツールは、次の 4 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **PDF/X に変換** – ドキュメントが PDF/X 形式に準拠されます。

3. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

4. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-9-3. 特別な PDF 規格を破棄する

特殊な PDF 企画を破棄するのツールは、特殊な PDF 規格の情報を PDF/X、PDF/A、PDF/E などの規格のドキュメントから破棄します。

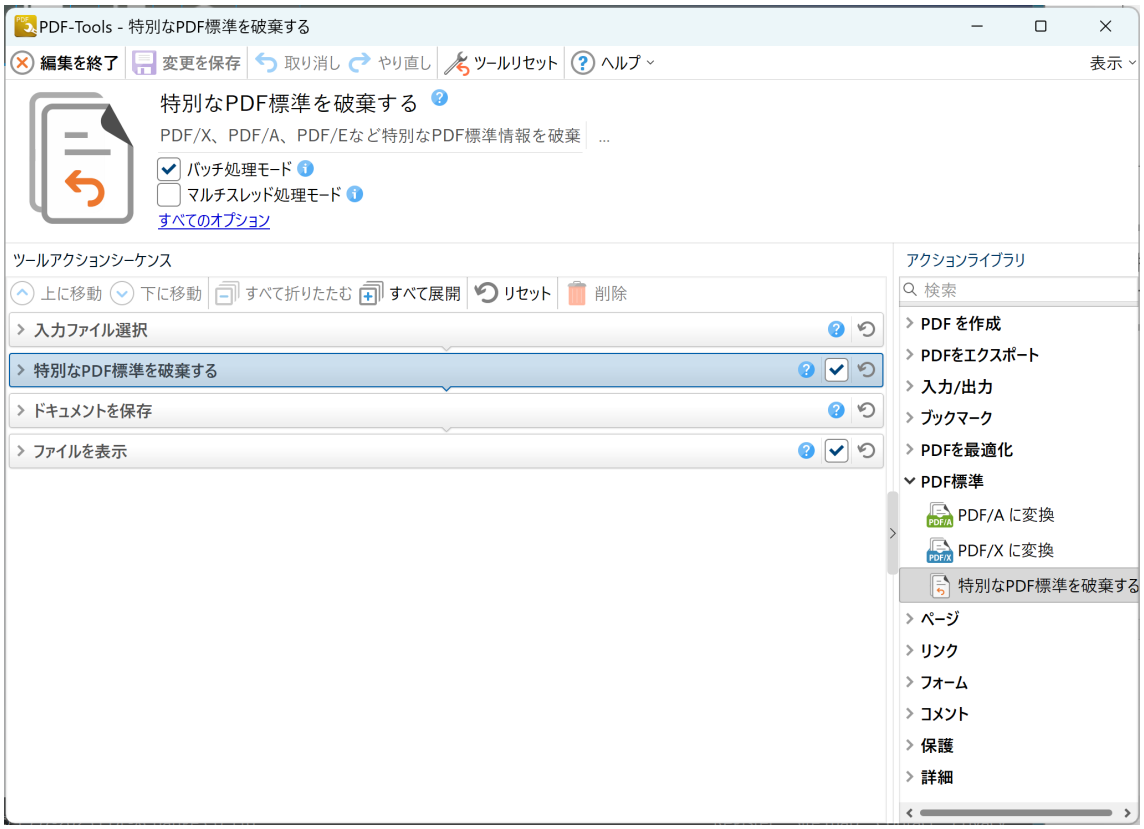

図 1. [特殊な PDF 規格を破棄する]ツールアクションシーケンス

特殊な PDF 規格を破棄するのツールは、次の 4 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **特殊な PDF 規格を破棄する** – 特殊な PDF 規格情報がドキュメントから破棄されます。

3. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

4. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-10. [PDF エクスポート]ツール

[PDF エクスポート]ツールは、PDF ドキュメント/画像をコピーおよび別形式に変換します。

- **PDF からオーディオにエクスポート** PDF ドキュメント内のテキストをコピーし、オーディオファイル形式にエクスポートします。
- **PDF を画像にエクスポート** PDF ドキュメントをコピーし、ラスターイメージに変換します。
- **PDF を Microsoft Excel スプレッドシートにエクスポート** PDF ドキュメントをコピーし、**Microsoft Excel (.xlsx)** 形式に変換します。
- **PDF を Microsoft PowerPoint プレゼンテーションにエクスポート** PDF ドキュメントをコピーして、**Microsoft PowerPoint プレゼンテーション (*.pptx)** 形式に変換します。
- **PDF を Microsoft Word ドキュメントにエクスポート** PDF ドキュメントをコピーし、**Microsoft Word (.docx)** 形式に変換します。
- **PDF をプレーンテキストにエクスポート** PDF ドキュメントがコピーし、**プレーンテキスト(*.txt)**形式に変換します。
- **PDF から画像を抽出** PDF ドキュメント内の画像をコピーし、新しいファイルに保存します。

[ツール複製]機能と**[ツール作成]**機能を使用すると、既存のツールの機能を強化したり、複雑な要件を満たすために新しいツールを作成したりできます。

8-10-1. PDF を画像にエクスポート

PDF を画像にエクスポートのツールは、PDF ドキュメントをコピーして、ラスターイメージに変換します。

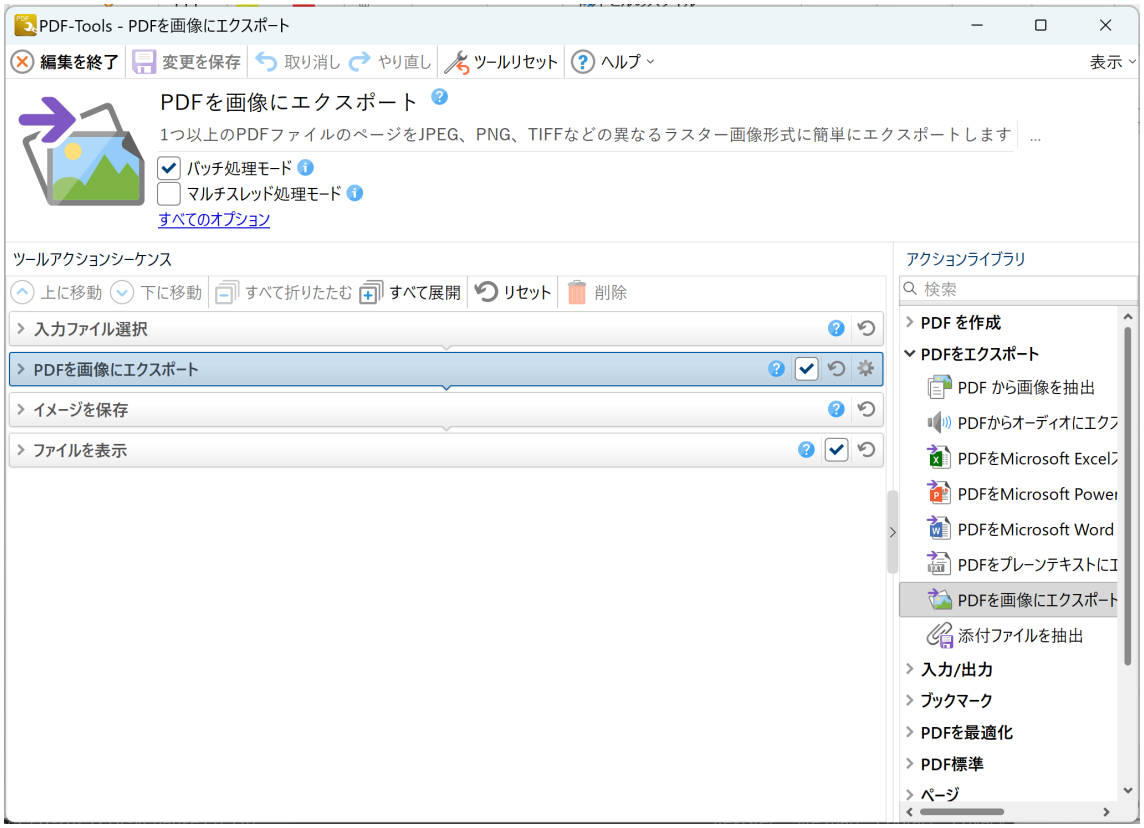

図 1. [PDF を画像にエクスポート]ツールアクションシーケンス

PDF を画像にエクスポートのツールは、次の 4 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **PDF を画像にエクスポート** – ドキュメントが画像形式にコピーされます。

3. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

4. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-10-2. PDF を Excel スプレッドシートにエクスポート

[PDF を Microsoft Excel スプレッドシートにエクスポート] ツールは、PDF ドキュメントをコピーし、Microsoft Excel (.xlsx) 形式に変換します。

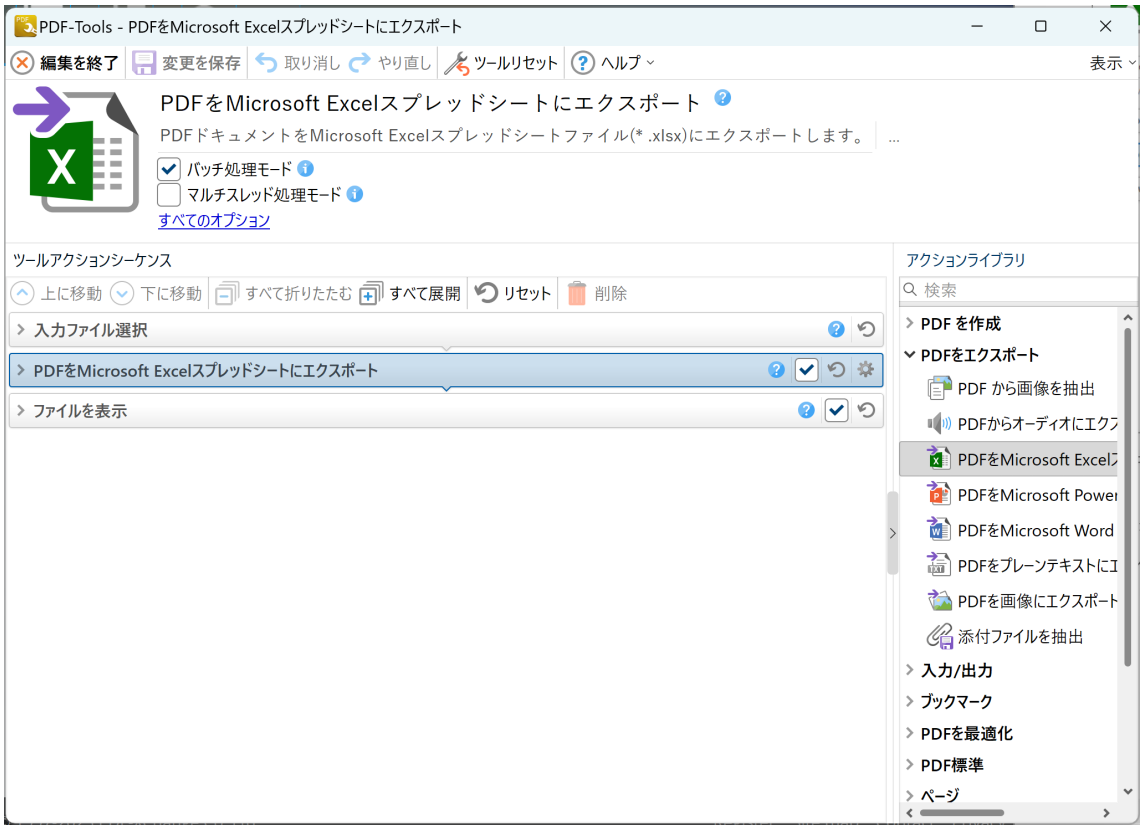

図 1. [PDF を Microsoft Excel スプレッドシートにエクスポート] ツールアクションシーケンス

PDF を Microsoft Excel スプレッドシートにエクスポートするのツールは、次の 3 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **PDF を Microsoft Excel スプレッドシートにエクスポート** – ドキュメントが Microsoft Excel (.xlsx) 形式にコピーされ、保存されます。
3. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

この機能を動作させるには、Microsoft Office がローカルのコンピューターにインストールされている必要があり、**XPS として保存**の機能が、使用中の Microsoft Office のバージョンで利用できる状態である必要があります。この機能は、Microsoft Office 2007 で追加されたものとなります。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-10-3. PDF を PowerPoint プレゼンテーションにエクスポート

PDF を Microsoft PowerPoint プレゼンテーションにエクスポートのツールは、PDF ドキュメントをコピーし、**Microsoft PowerPoint プレゼンテーション（*.pptx）**形式に変換します。

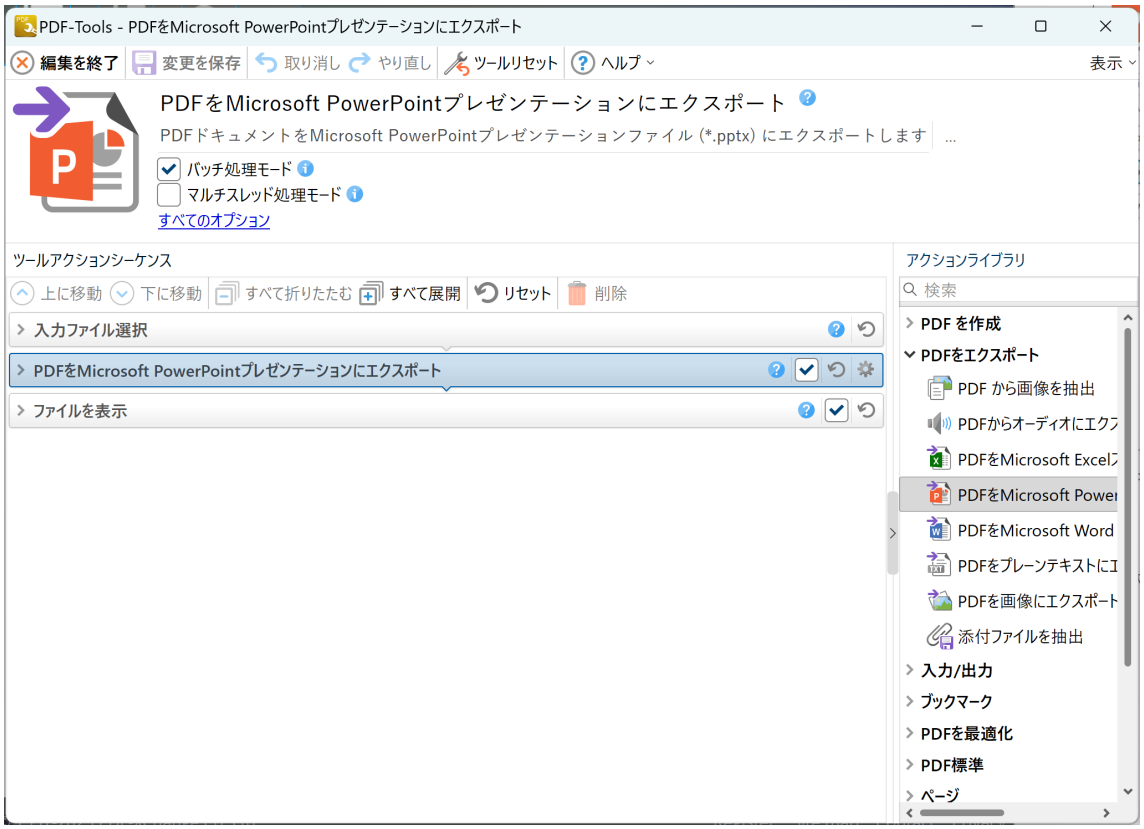

図 1. [PDF を Microsoft PowerPoint プレゼンテーションにエクスポート]ツールアクションシーケンス

PDF を Microsoft PowerPoint プレゼンテーションにエクスポートのツールでは、次の 3 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **PDF を Microsoft PowerPoint プレゼンテーションにエクスポート** – ドキュメントが **Microsoft PowerPoint プレゼンテーション(*.pptx)**形式にコピーされ、保存されます。

3. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

この機能を動作させるには、**Microsoft Office** がローカルのコンピューターにインストールされている必要があり、**XPS として保存**の機能が、使用中の **Microsoft Office** のバージョンで利用できる状態である必要があります。この機能は、**Microsoft Office 2007** で追加されたものとなります。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-10-4. PDF を Word ドキュメントにエクスポート

PDF を Microsoft Word ドキュメントにエクスポートのツールは、PDF ドキュメントをコピーし、**Microsoft Word (.docx)** 形式に変換します。

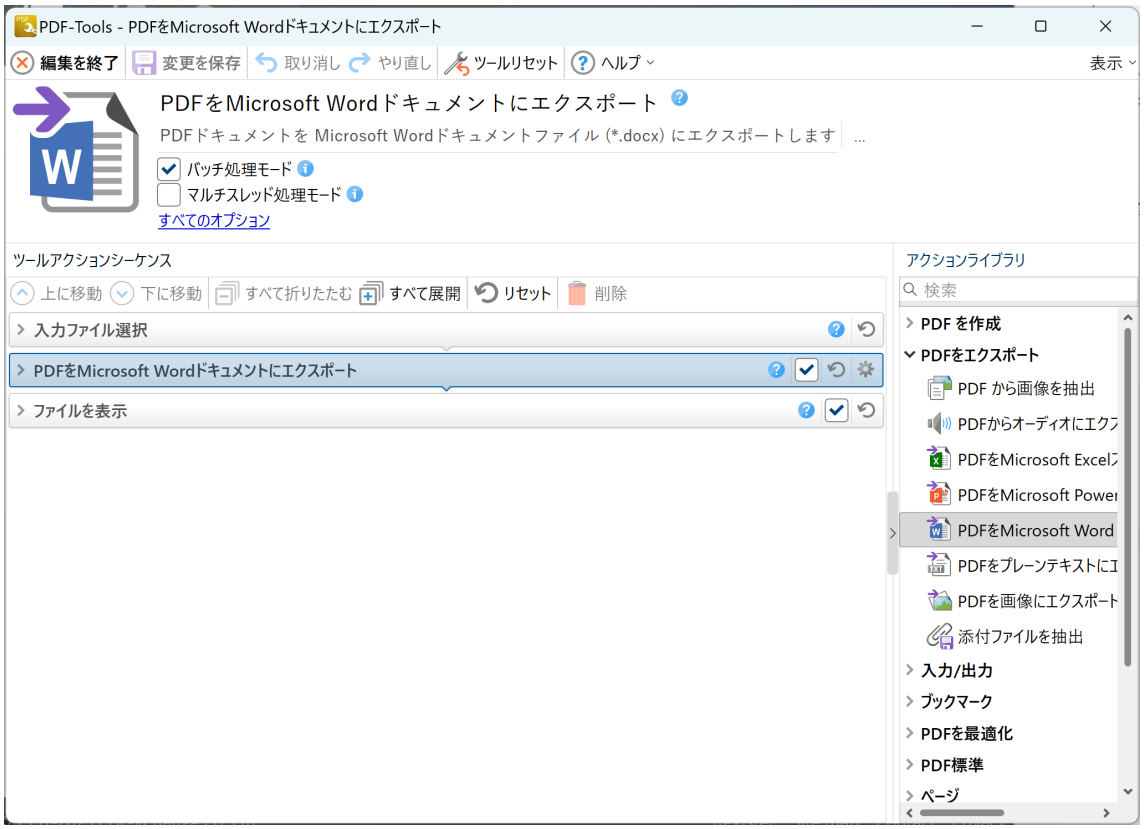

図 1. [PDF を Microsoft Word ドキュメントにエクスポート]ツールアクションシーケンス

PDF を Microsoft Word ドキュメントにエクスポートのツールでは、次の 3 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **PDF を Microsoft Word ドキュメントにエクスポート** – ドキュメンが Microsoft Word (.docx)形式にコピーされ、保存されます。

3. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

この機能を動作させるには、**Microsoft Office** がローカルのコンピューターにインストールされている必要があり、**XPS として保存**の機能が、使用中の **Microsoft Office** のバージョンで利用できる状態である必要があります。この機能は、**Microsoft Office 2007** で追加されたものとなります。

(*.docx)形式にエクスポートされたファイルは、**Microsoft Word 2010** 以降と互換性があります。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-10-5. PDF をプレーンテキストにエクスポート

PDF をプレーンテキストにエクスポートのツールは、PDF ドキュメントをコピーし、プレーンテキスト(*.txt)形式に変換します。

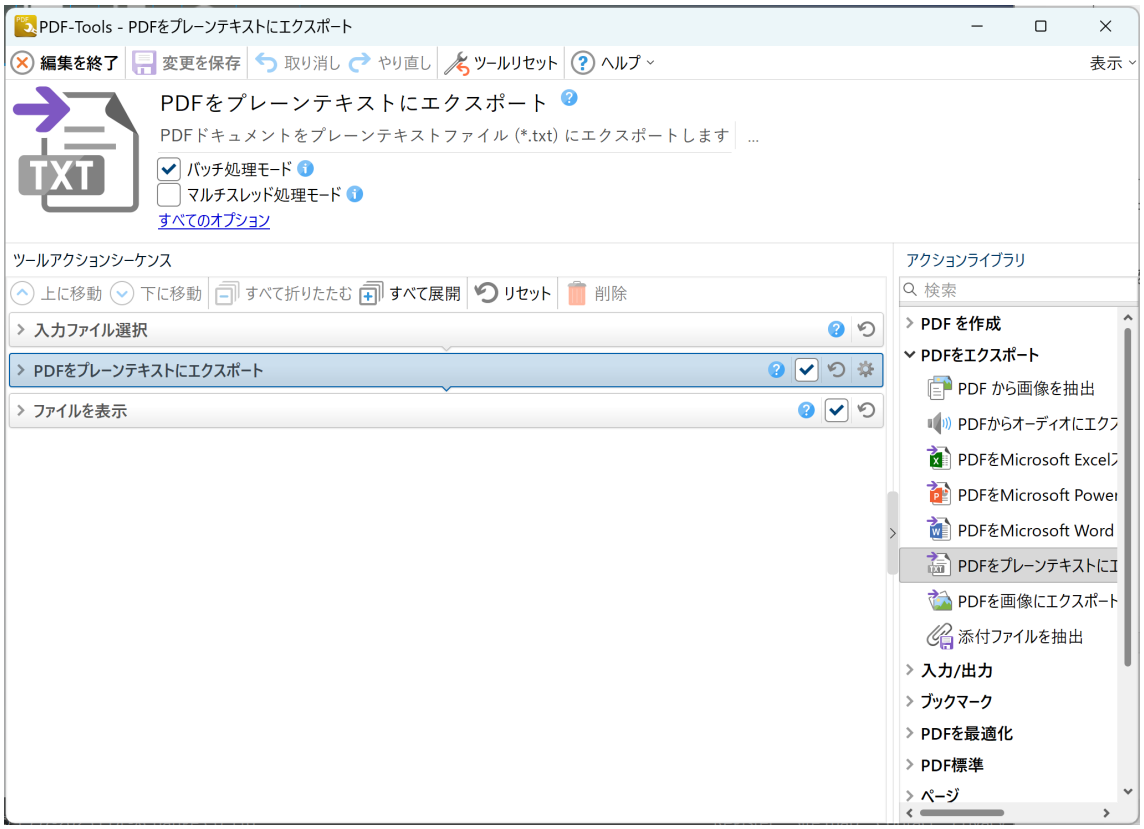

図 1. [PDF をプレーンテキストにエクスポート]ツールアクションシーケンス

PDF をプレーンテキストにエクスポートのツールは、次の 3 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **PDF をプレーンテキストにエクスポート** – ドキュメントがプレーンテキスト(*.txt)形式にコピーされ、保存されます。

3. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-10-6. PDF から画像を抽出

PDF から画像を抽出のツールは、PDF ドキュメント内の画像をコピーし、新しいファイルに保存します。

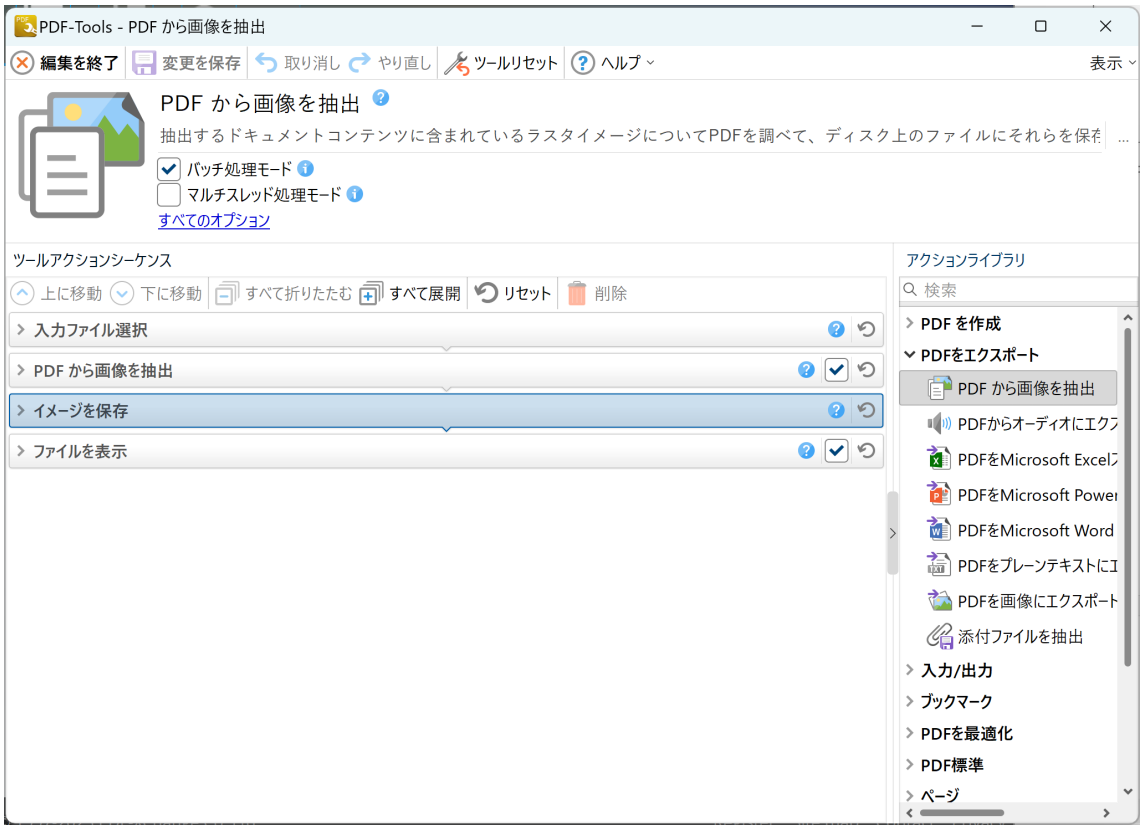

図 1. [PDF から画像を抽出]ツールアクションシーケンス

PDF から画像を抽出のツールは、次の 4 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **PDF から画像を抽出** – すべての画像がドキュメントから抽出されます。

3. **画像を保存** – 画像がファイルに保存されます。

4. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-11. [その他]ツール

[その他]ツールは、入力ドキュメントのプロパティを変更し、電子メール送信などのために使用されます。

ドキュメントのプロパティの変更 ドキュメントのプロパティを編集するために使用されます。

色変換 入力ドキュメント内のカラーを変換します。

添付ファイルを抽出 ドキュメントから添付ファイルを抽出します。

ドキュメントを印刷 入力ドキュメントを印刷するために使用されます。

メールを送信 ユーザーのデスクトップ電子メール・クライアントを介して出力ドキュメント/画像を送信します。

[ツール複製]または **[作成ツール]**機能を使用すると、既存のツールの機能を強化したり、複雑な要件を満たすために新しいツールを作成したりできます。

8-11-1. ドキュメントのプロパティの変更

ドキュメントのプロパティの変更のツールは、入力ドキュメントのプロパティを編集するために使用します。

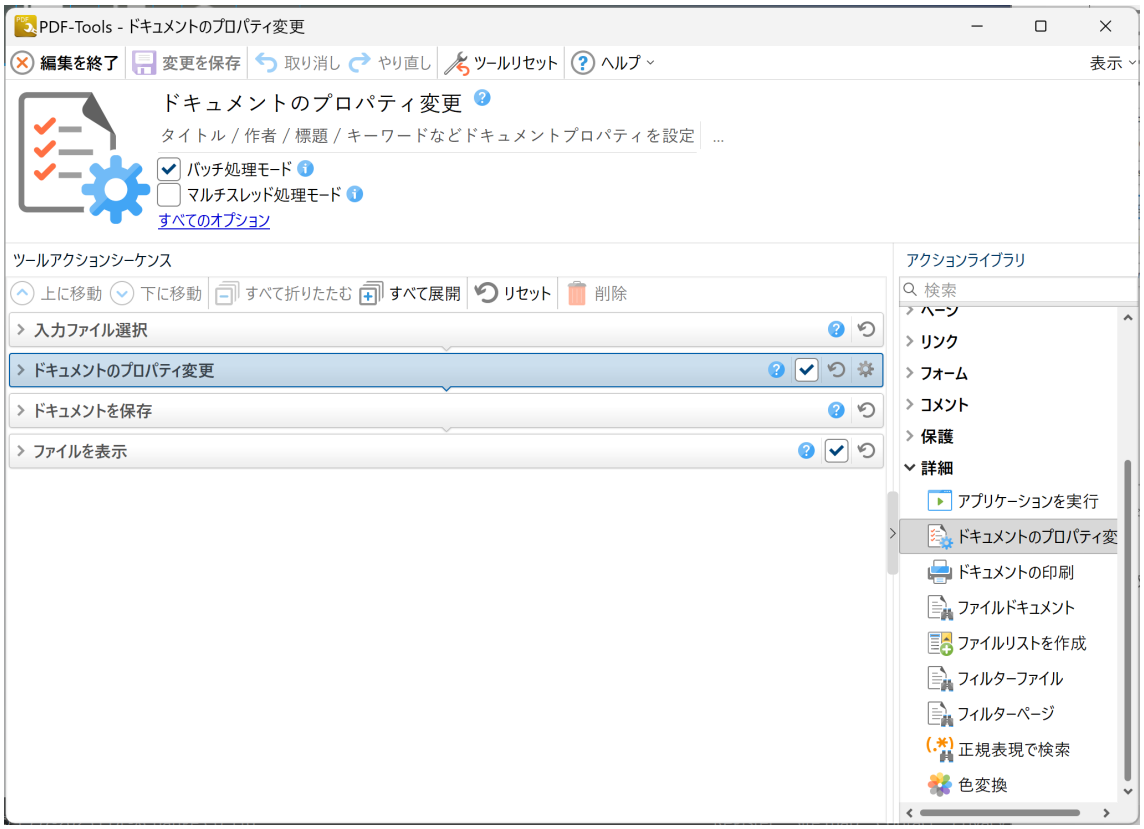

図 1. [ドキュメントのプロパティの変更]ツールアクションシーケンス

ドキュメントのプロパティの変更のツールは、次の 4 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。

2. **ドキュメントのプロパティの変更** – ドキュメントのプロパティが変更されます。

3. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

4. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-11-2. 色変換

色変換のツールは、入力ドキュメント内の色を変換するために使用します。

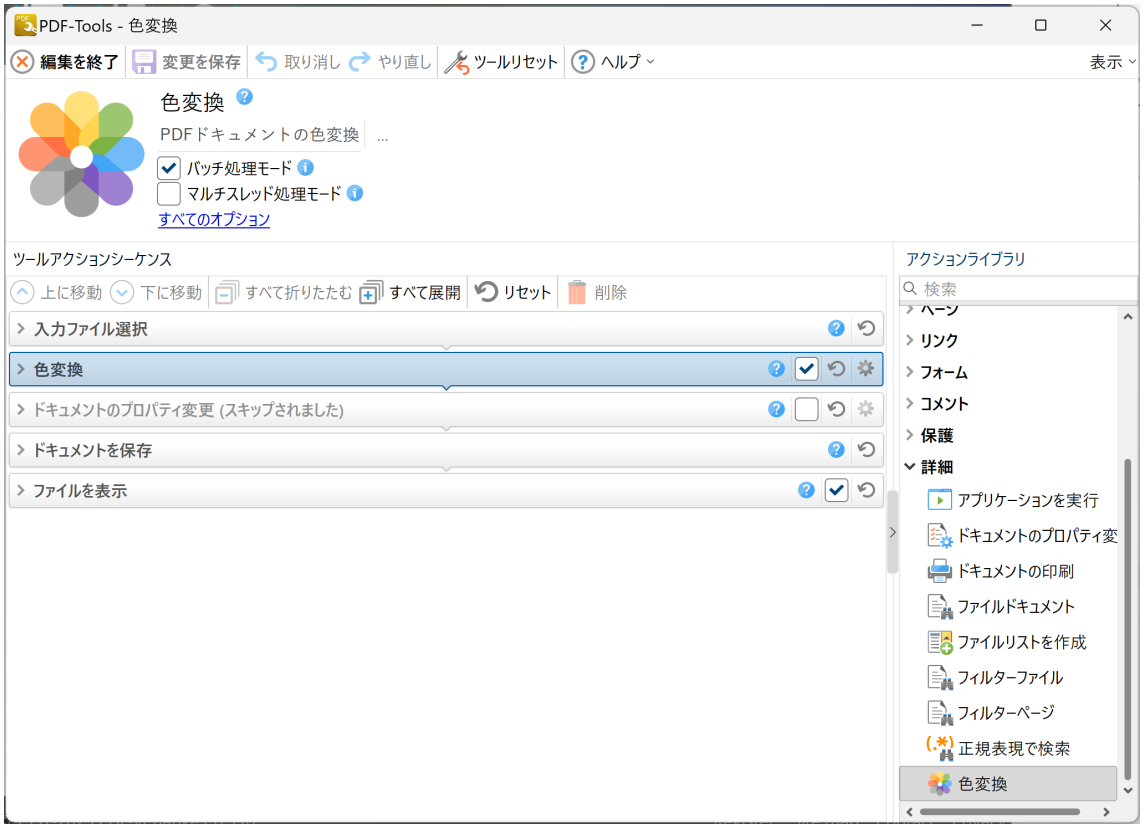

図 1. [色変換]ツールアクションシーケンス

色変換のツールは、次の 5 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **色変換** – ドキュメント内の色が変換されます。

3. **ドキュメントのプロパティの変更**（デフォルトではスキップされます）– ドキュメントのプロパティが変更されます。

4. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

5. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-11-3. 添付ファイルを抽出

添付ファイルを抽出のツールは、ドキュメントから添付ファイルを抽出するために使用されます。

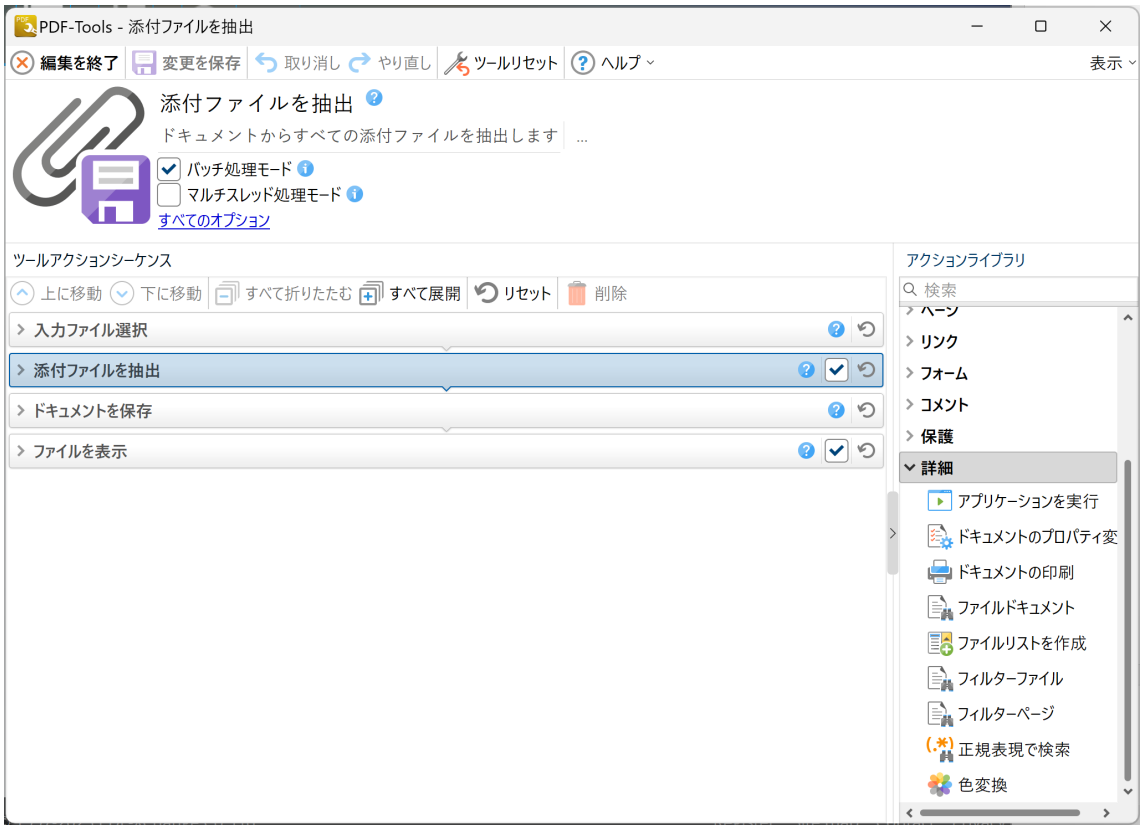

図 1. [添付ファイルを抽出]ツールアクションシーケンス

添付ファイルを抽出のツールは、次の 4 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **添付ファイルを抽出** – 添付がドキュメントから抽出されます。

3. **ドキュメントを保存** – 更新されたドキュメントが保存されます。

4. **ファイルを表示** – 新しいドキュメントが保存先フォルダに表示されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-11-4. ドキュメントを印刷

ドキュメントを印刷のツールは、入力ドキュメントを印刷するために使用されます。

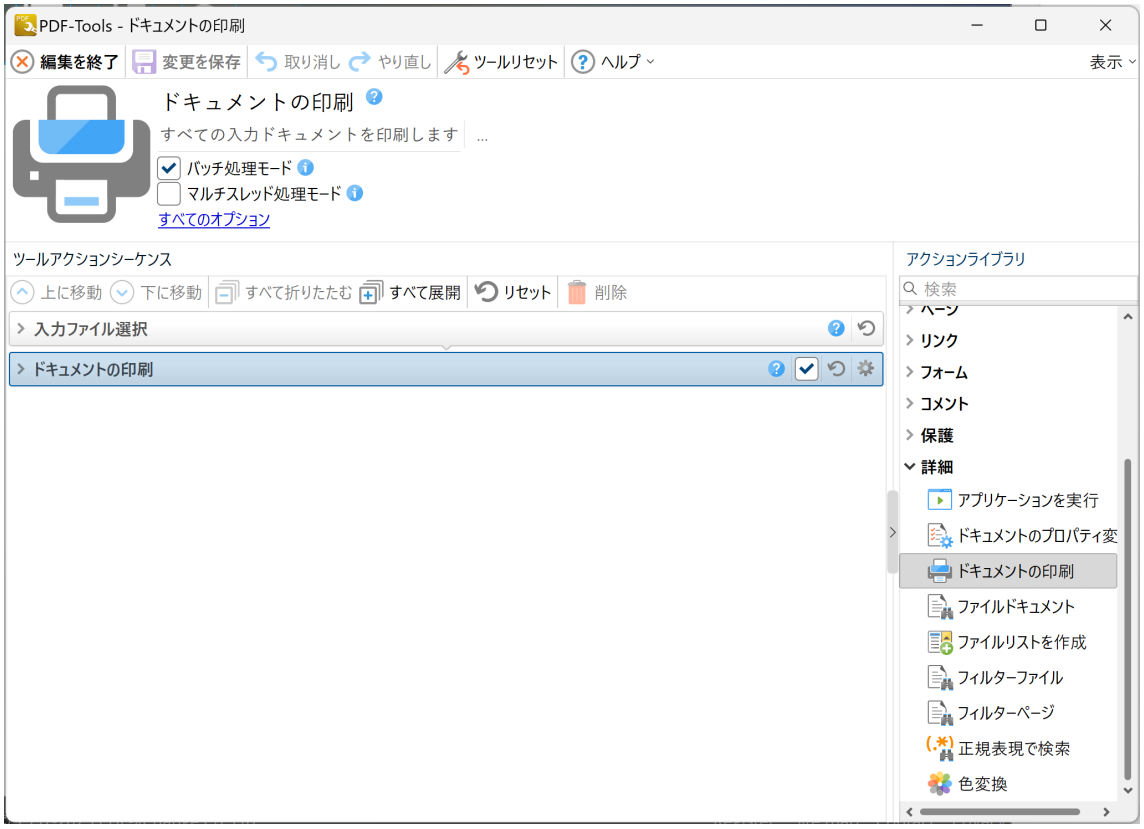

図 1. [ドキュメントを印刷]ツールアクションシーケンス

ドキュメントを印刷のツールは、次の 2 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **ドキュメントを印刷** – ドキュメントが印刷されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

8-11-5. メールを送信

メールを送信のツールは、ドキュメントを電子メールで送信するために使用されます。

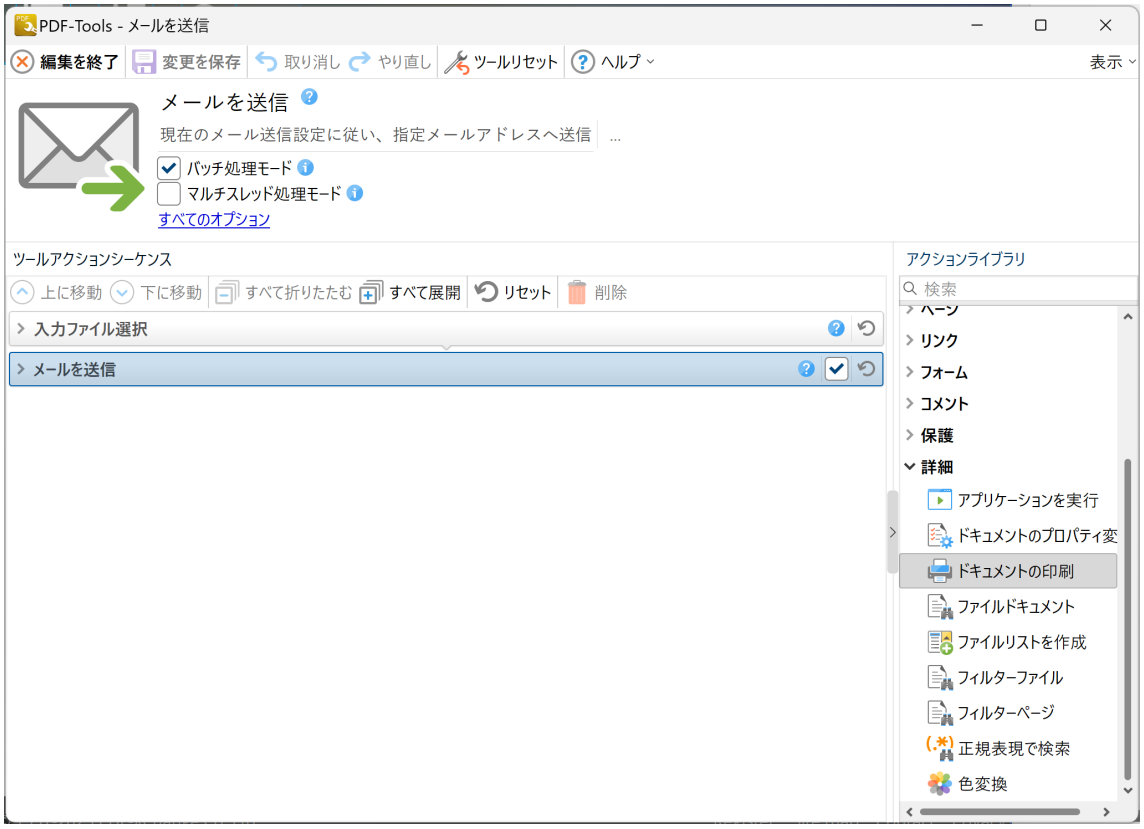

図 1. [メール送信]ツールアクションシーケンス

メールを送信のツールは、次の 2 つのツールアクションを使用します。

1. **入力ファイル選択** – 元となるドキュメントの入力を求めます。
2. **メールを送信** – ドキュメントが電子メールで送信されます。

これらアクションをクリックして、カスタマイズ可能なパラメータを表示します。さらに、**[ツール複製]**機能を使用して、ツールの複製を作成し、**ツールアクションシーケンス**からアクションを追加/削除できることに注意してください。

バッチ処理モードおよび**マルチスレッド処理モード**のチェックボックスに関する情報は、**こちら**でご確認いただけます。

---

9. 付録

この章では、**PDF-Tools** 内の設定と機能に関するその他情報について詳しく説明します。
以下にその概要を示します。

- **利用可能なファイル・フィルタ** – ファイル・フィルタとその意味に関する詳細情報。
- **Windows シェルメニューにツールを追加** – ツールを Windows のシェルメニューに追加するオプション。
- **コマンドラインオプション** – **PDF-Tools** と組み合わせて使用できるコマンドラインのオプションのリスト。
- **トリミング余白** – ボックス機能に関連するさまざまな説明も含む、トリミングの余白に関する詳細な説明。
- **バージョン 9 で追加された機能** – **PDF-Tools** のバージョン 9 で追加されたすべての機能の詳細。
- **フォントと段落のオプション** – フォントと段落のパラメータに関する詳細情報。
- **マクロ** – マクロとは何か、どのように使用されているかの説明。
- **メディアファンデーションのインストール** – Microsoft メディアファンデーションに関する詳細情報。
- **ページ範囲のオプション** – ページ範囲に関連する詳細とオプション。
- **環境設定** – **PDF-Tools** で利用可能なカスタマイズ可能なオプション。
- **フォルダモニター** – 特定のフォルダを監視し、そのフォルダに対する操作によってツールが自動的に作動する機能についての詳細。

9-1. 利用可能なファイル・フィルタ

利用可能なファイル・フィルタ・ダイアログボックスは、**PDF-Tools** で許可されるファイル形式を決定するために使用します。

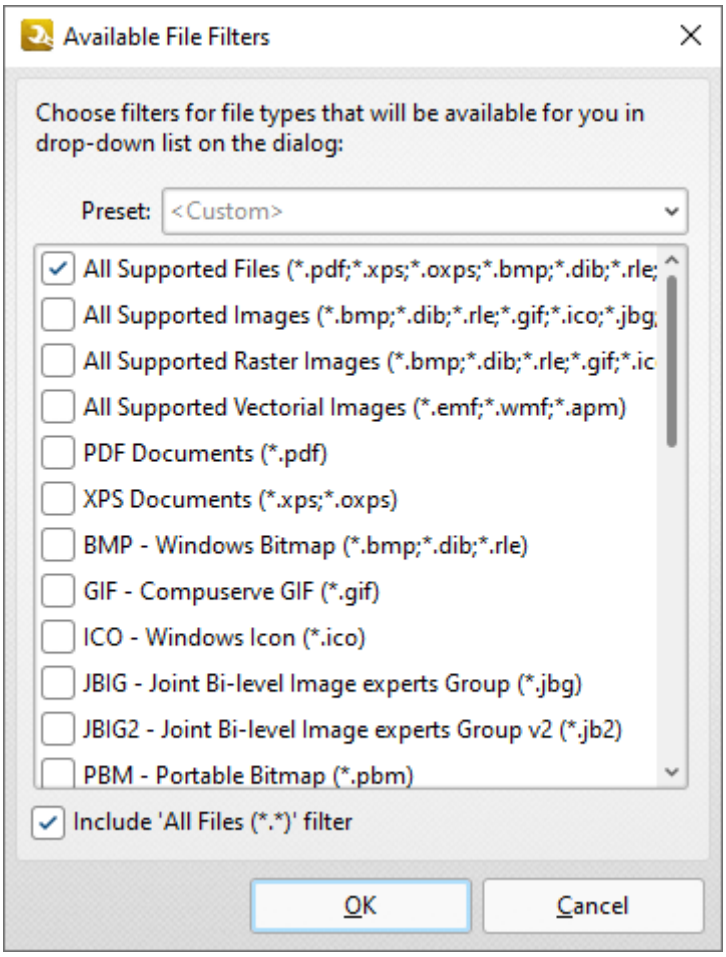

図 1. [利用可能なファイル・フィルタ] ダイアログボックス

プリセットのドロップダウンメニューをクリックしてプリセット・モードを選択するか、
ダイアログボックス内のボックスを選択して、許可するフォーマットを指定します。
以下のオプションが使用可能です。

- **サポートされているすべてのファイル** すべてのファイル形式をサポートします。
- **サポートされているすべての画像** ラスターイメージとベクター画像をサポートします。
- **サポートされているすべてのラスターイメージ** ラスターイメージのみをサポートします。
- **サポートされているすべてのベクター画像** ベクター画像のみをサポートします。
- **PDF ドキュメント** PDF(Portable Document Format)形式で保存されたドキュメントです。
- **XPS ドキュメント (*.xps)**および**(*.oxps)**の XML Paper Specification 形式で保存されたドキュメントです。
- **BMP** ビットマップ・デジタル画像です。
- **GIF** 通常アニメーションで利用されるラスター・グラフィックファイルです。
- **ICO** Microsoft Windows でアイコンとして使用するためにフォーマットされた画像ファイルです。
- **JBIG** ファックス機器が使用する可逆(ロスレス)画像圧縮規格です。
- **JBIG2** 2 値画像の画像圧縮規格です。 可逆圧縮と非可逆圧縮の両方をサポートします。
- **PBM Netbpm** によって使用および定義された Portable Bitmap 形式です。
- **PPM PBM** のピクスマップ(pixmap)画像バージョンです。
- **PGM PBM** のグレースケール・バージョンです。
- **TGA** ラスター・グラフィックファイル形式です。
- **PCX** 画像ファイル形式のひとつであり、PC Paintbrush(ペイントブラシ)のネイティブファイル形式です。
- **DCX マルチページ(Multipage)PCX** が使用するビットマップ/ラスター・グラフィックファイル形式のファイル拡張子です。
- **PNG** 可逆データ圧縮をサポートするラスター・グラフィックファイル形式です。
- **JPEG** ファイルサイズが小さい必要がある場合に写真やその他の画像ファイルに使用されます。
- **JPEG 2000** 元の JPEG 形式からいくつかの改良を加えた画像圧縮規格およびコーディングシステムです。
- **TIFF** アプリケーションプログラム間でラスター・グラフィックを交換するための一般的な形式です。

- **XDP** PDF コンテンツと XFA リソースを XML コンテナ内にパッケージ化できる XML 形式です。
- **メタファイル(*.emf;*.wmf;*.apm)** ベクター画像とビットマップコンポーネントの両方を含むことができる Portable Image 形式です。
- **Microsoft Word ドキュメント** **Microsoft Word** の標準ドキュメント形式です。
- **Microsoft Excel スプレッドシート** **Microsoft Excel** の標準ドキュメント形式です。
- **Microsoft PowerPoint プレゼンテーション** **Microsoft PowerPoint** の標準ドキュメント形式です。
- **Microsoft Visio ドローイング** **Microsoft Visio** の標準ドキュメント形式です。
- **リッチテキスト形式(*.rtf)** **Microsoft Corporation** が開発し、**マイクロソフト**製品とのクロスプラットフォーム文書交換に使用される独自の文書ファイル形式です。
- **プレーンテキスト** 読み取り可能な文字のみを表すファイル内のデータを表示します。

・選択されたすべてのフィルタを使用して複合フィルタを作成 チェックボックスをオンにして、選択したすべてのファイルタイプを含む複合フィルタを定義します。次に、チェックボックスの下にあるテキストボックスを使用して、カスタムフィルタに含める/除外する拡張子を決定することができます。**OK** をクリックして設定を保存します。

上記の **Microsoft Office** のオプションを動作させるには、**Microsoft Office** をローカルのコンピューターがインストールされている必要があり、**XPS として保存**の機能が使用中の **Microsoft Office** のバージョンで利用可能である必要があります。この機能は、**Microsoft Office 2007** で追加されています。

また、許可されるファイル形式はツールごとにカスタマイズできることにも注意してください。ツールについての**ツールアクションシーケンス**を開き、**入力ファイル選択**のドロップダウンメニューをクリックし、「…」アイコンをクリックして、許可されるファイル形式をカスタマイズします。

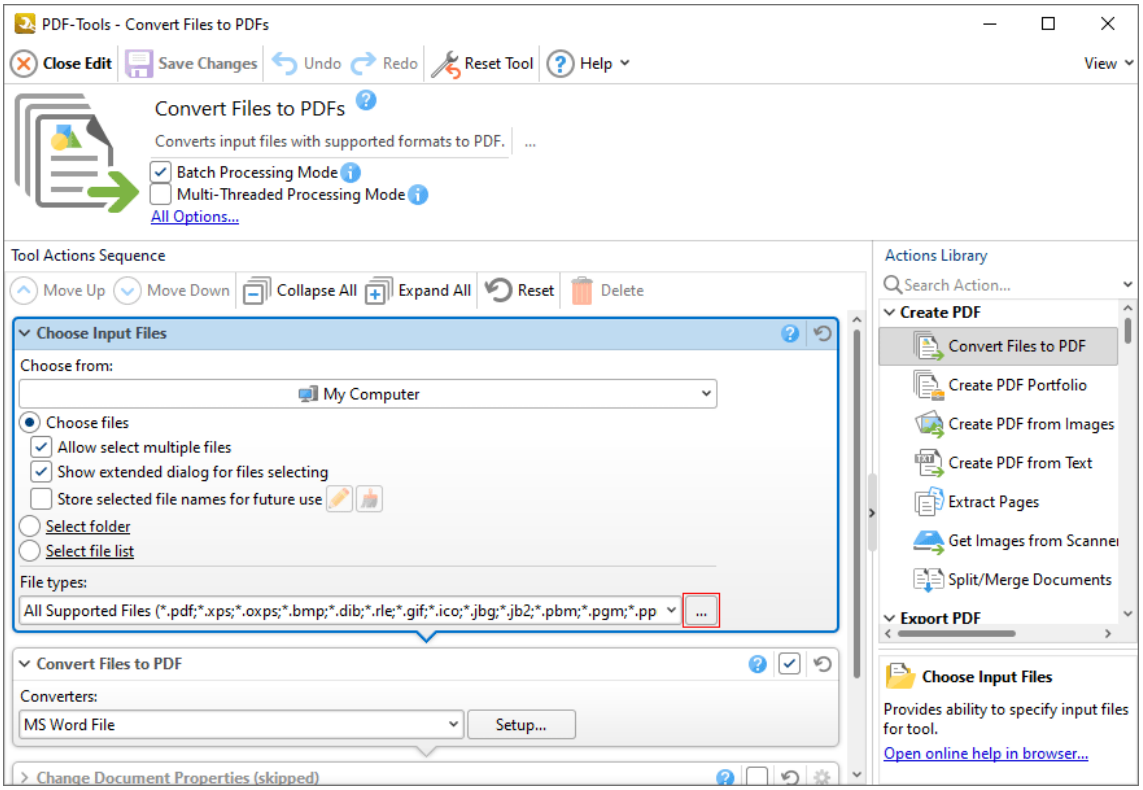

図 2. [ファイルを PDF に変換]ツールアクションシーケンス、「…」から許可されたファイル形式を編集

9-2. Windows シェルメニューにツールを追加

PDF-Tools には、ローカルマシンの **Windows** シェルメニューにツールを追加することができる機能が含まれており、**PDF-Tools** が実行されていないときでも、**Windows** のコンテキストメニューから特定のツールに直接アクセスできます。**Windows** シェルメニューにツールを追加する場合は、**PDF-Tools** を開き、ツール名の横に表示される青い **Windows** アイコンをクリックします。

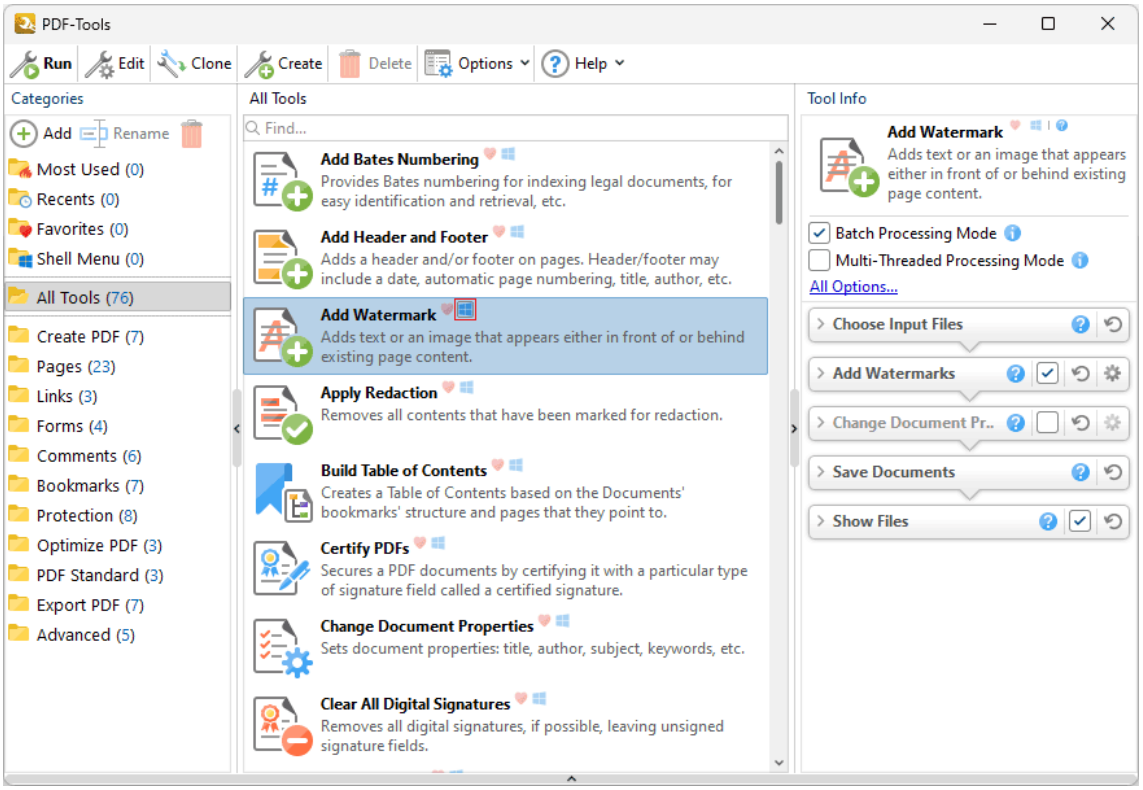

図 1. PDF-Tools のメインウィンドウ、Windows シェルメニューのアイコン

このツールは、**Windows** のファイルの右クリックメニューで使用できるようになります。

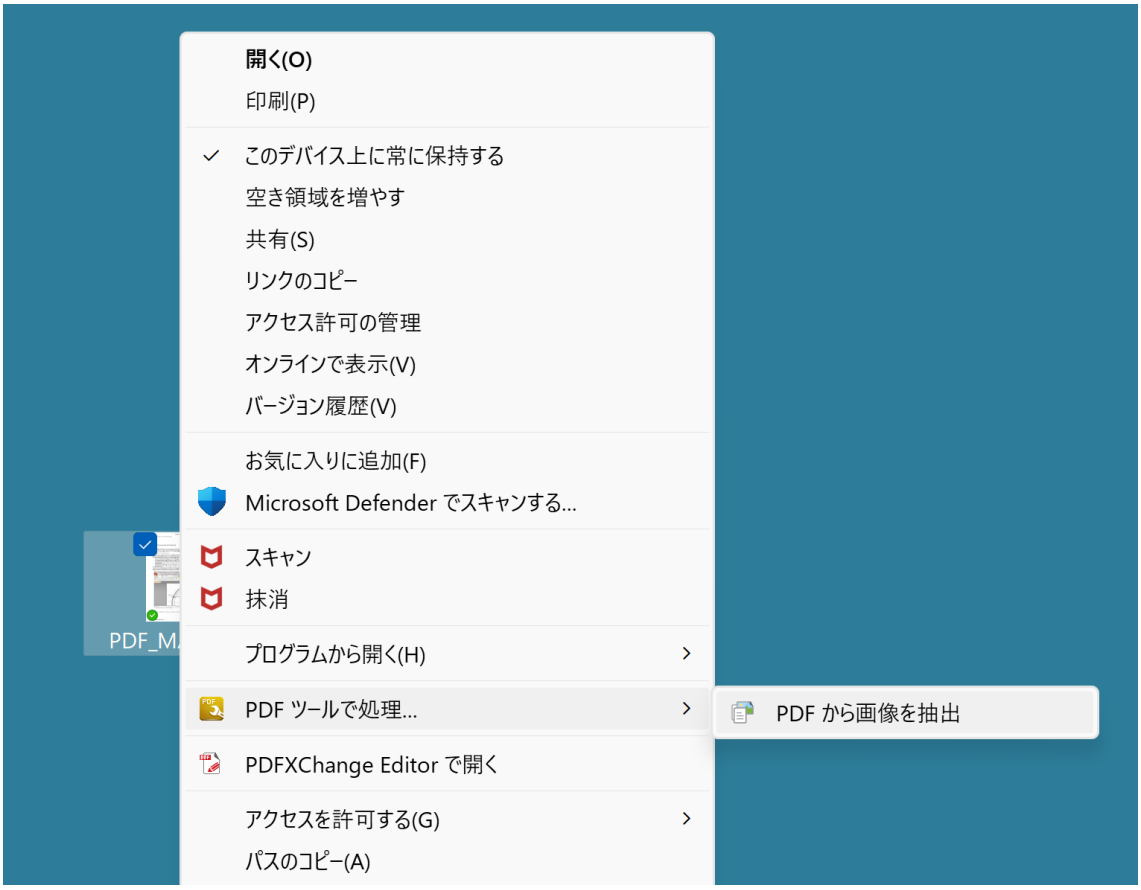

図 2. Windows シェルメニュー、追加されたツール

メニューのツールをクリックして、選択したファイルに対してツールを実行します。

9-3. コマンドラインオプション

以下のコマンドラインオプションは、**PDF-Tools** で使用できます。
ただし、

- 値にスペース、バックスラッシュ、またはスラッシュが含まれている場合は、オプションリスト全体を引用符で囲む必要があります。
- **オプションリスト・ファイル**にスペースが含まれている場合は、引用符で囲む必要があります。
- プロファイルが指定されている場合、そのプロファイルに変更が加えられます。そうでない場合、変更は現在のプリンターの設定に適用されます。
- これらのオプションは、**PDFXTools.exe** 実行可能ファイル用で、デフォルトの場所は次のとおりです。

  "C:¥Program Files¥Tracker Software¥PDF Tools¥PDFXTools.exe"

- **PDFXTools.exe** へのパスがシステム %path% 変数に追加されない限り、**PDFXTools.exe** へのフルパスを指定する必要があります。
- 複数のオプションが使用されている場合は、セミコロン(;)を使用してオプションを区切ります。

正式な構文規則

<anytext> は任意のテキスト文字列を意味します。

<a>|<b> は 〈a〉 **または** 〈b〉 を意味します。

<filename> は、ファイルへの完全パスまたは相対パスを意味します。パスに空白が含まれている場合は、引用符で囲む必要があります。たとえば、c:¥MyDocuments¥MyTestDocument.pdf は ″c:¥My Documents¥My Test Document.pdf″ である必要があります。

[expression] は、コマンドラインのオプション部分にあたります。たとえば、構文規則が **/RunTool[:showui=yes|no][:showprog=yes|no][:showrep=yes|no] <ToolID> [<filename1> [<filename2> ...<filenameN>]]** の場合、次の例が正しいです。

```
/RunTool imagesToPDF
/RunTool imagesToPDF ″c:¥picture1.png″ ″c:¥picture2.png″
/RunTool:showprog=no imagesToPDF ″c:¥picture1.png″ ″c:¥picture2.png″
```

コマンドラインオプション

/DumpCategories

このコマンドラインは、既存のすべてのツール・カテゴリの識別子をプレーンテキストファイルに保存します。

構文規則

```
/DumpCategories <filename>
```

パラメータ

- **<filename>** – 既存のすべてのツール・カテゴリの識別子が保存されるテキストファイルへのパスです。

例

```
PDFXTools.exe /DumpCategories "c:¥PDF-Tools.txt"
```

/DumpTools

このコマンドラインは、既存のすべてのツールの識別子をプレーンテキストファイルに保存します。

構文規則

```
/DumpTools <filename>
```

パラメータ

- **<filename>** – 既存のすべてのツールの識別子が保存されるテキストファイルへのパスです。

例

```
PDFXTools.exe /DumpTools "c:¥PDF-Tools.txt"
```

/ExportSettings

このコマンドラインは、すべてのプログラム設定を指定されたファイルにエクスポートします。

構文規則

```
/ExportSettings <filename>
```

パラメータ

- **<filename>** – プログラム設定が保存されるファイルへのパスです。

例

PDFXTools.exe /ExportSettings "c:¥PDF-Tools_AppSettings.pdts"

/ExportTools

このコマンドラインは、ツールとその設定を指定したファイルにエクスポートします。

構文規則

/ExportTools[:showui=no|yes|full] <filename>

パラメータ

- **showui** – 'yes'が指定されている場合、**エクスポート用のツールを選択**のダイアログボックスが表示されます。これにより、ユーザーはエクスポートするツールを手動で選択できます。'full' を指定すると、ユーザーインターフェースのメインウィンドウも表示されます。デフォルト値は'yes'です。
- **<filename>** – エクスポートされたツールが保存されるファイルへのパスです。

例

PDFXTools.exe /ExportTools:showui=full "c:¥PDF-Tools_Exchange.pdtex" – **エクスポート用のツールを選択**のダイアログボックスからツールをエクスポートし、ユーザーインターフェースのメインウィンドウを表示します。

/ImportSettings

このコマンドラインは、指定されたファイルからプログラム設定/ツールをインポートします。

構文規則

/ImportSetting[:showui=no|yes|full] <filename>

パラメータ

- **showui** – 'yes'が指定され、**<filename>**が **PDF-Tools** のエクスポートファイルへのパスである場合、**インポート用のツールを選択**のダイアログボックスが表示されます。これにより、ユーザーはインポートするツールを手動で選択できます。(設定がインポートされている場合はインポートはダイアログボックスなしで行われます)。'full' を指定すると、ユーザーインターフェースのメインウィンドウが表示され、**<filename>**が **PDF-Tools** のエクスポートファイルへのパスである場合は、**インポート用のツールを選択**のダイアログボックスも表示されます。デフォルト値は'yes'です。
- **<filename>** – プログラム設定/ツールを含むファイルへのパスです。これらは、**/ExportSettings** または**/ExportTools** のコマンド(またはユーザーインターフェースで対応する機能)を使用して作成できます。

例

PDFXTools.exe /ImportSettings "c:¥PDF-Tools_AppSettings.pdts" – "c:¥PDF-Tools_AppSettings.pdts"のファイルからすべての設定をインポートします。

PDFXTools.exe /ImportSettings:showui=full "c:¥PDF-Tools_Exchange.pdtex" – ユーザーインターフェースのメインウィンドウを表示し、**インポート用のツールを選択**のダイアログボックスを介し、**"c:¥PDF-Tools_Exchange.pdtex"**のファイルからツールをインポートします。

/ImportTools

このコマンドラインは、ツールを **PDF-Tools** にインポートします。

このツールは、エクスポートされたツールを含むファイルへのパスが**<filename>**に含まれている場合の**/Open** および**/ImportSettings** のコマンドラインオプションと同じであることに注意してください。

構文規則

/ImportTools[:showui[=no|yes|full]] <filename>

パラメータ

- **showui** – 'yes'が指定されている場合、**インポート用のツールを選択**のダイアログボックスが表示されます。これにより、ユーザーはインポートするツールを手動で選択できます。'full' を指定すると、ユーザーインターフェースのメインウィンドウも表示されます。デフォルト値は'yes'です。
- **<filename>** – 以前にエクスポートされたツールを含むファイルへのパスです。**/ExportTools** のコマンド（またはユーザーインターフェースで対応する機能）を使用して、ツールをファイルにエクスポートできます。

例

PDFXTools.exe /ImportTools "c:¥my-custom-tools.pdtex" – "c:¥my-custom-tools.pdtex"ファイルからすべてのツールをインポートします。

PDFXTools.exe /ImportTools:showui "c:¥pdf-tools.pdtex" – インポート用のツールを選択のダイアログボックスを介して、**"c:¥pdf-tools.pdtex"**のファイルからツールをインポートします。

PDFXTools.exe /ImportTools:showui=full "c:¥pdf-tools.pdtex" – インポート用のツールを選択のダイアログボックスを介して、**"c:¥pdf-tools.pdtex"**のファイルからツールをインポートし、ユーザーインターフェースのメインウィンドウを表示します。

/Open

このコマンドラインは、ファイルにエクスポートされた PDF-Tools のツール/プログラム設定をインポートします。

構文規則

/Open[:showui=no|yes|full] <filename>

パラメータ

- **showui** – 'yes'が指定され、**<filename>**が **PDF-Tools** のエクスポートファイルへのパスである場合、**インポート用のツールを選択**のダイアログボックスが表示されます。これにより、ユーザーはインポートするツールを手動で選択できます。'full'を指定すると、ユーザーインターフェースのメインウィンドウが表示され、<filename>が **PDF-Tools** のエクスポートファイルへのパスである場合は、**インポート用のツールを選択**のダイアログボックスも表示されます。デフォルト値は'yes'です。
- **<filename>** – エクスポートされたツール/プログラム設定を含むファイルへのパスです。**/ExportSettings** のコマンドまたは**/ExportTools** のコマンド（またはユーザーインターフェースで対応する機能）を使用して、これらのファイルを作成できます。

例

PDFXTools.exe /Open "c:¥my-custom-tools.pdtex" – "c:¥my-custom-tools.pdtex"のファイルからすべてのツールをインポートします。

PDFXTools.exe /Open "c:¥pdf-tools-settings.pdts" – "c:¥pdf-tools-settings.pdts"のファイルからすべてのプログラム設定がインポートされます。

PDFXTools.exe /Open:showui "c:¥pdf-tools.pdtex" – インポート用のツールを選択のダイアログボックスを介して、**"c:¥pdf-tools.pdtex"**のファイルからツールをインポートします。

PDFXTools.exe /Open:showui=full "c:¥pdf-tools.pdtex" – インポート用のツールを選択のダイアログボックスを介して**"c:¥pdf-tools.pdtex"**のファイルからツールをインポートし、ユーザーインターフェースのメインウィンドウを表示します。

/Output

このコマンドラインは、ツールの実行時にツールの出力アクションのパラメータを指定します。

構文規則

/Output[:folder=ask|source|path][;filename][;overwrite=yes|makeunique|ask|no|][;showfiles=yes|openfolder|no|]

パラメータ

- **folder** – 出力パスを決定します。'ask'が指定されている場合、ツールの実行時に**フォルダを選択**ダイアログボックスが表示されます。'source'が指定されている場合、元となる(ソース)フォルダのパスが出力パスとして使用されます。'¥"<path>¥"'が指定されている場合、<path>が出力パスとして使用されます。値を指定しない場合、出力アクションはツール設定から出力パスを取得します。**folder** のパラメータが指定されていない場合は、出力フォルダを決定するツール設定が使用されます。
- **filename** – 出力ファイルの名前を生成するための名前のテンプレートを決定します。このパラメータにはデフォルト値がないため、ユーザーは名前のテンプレートを指定する必要があります。**filename** のパラメータが指定されていない場合は、出力ファイル名を決定するツール設定が使用されます。
- **overwrite** – 出力ファイル名がすでに使用されている場合に実行されるアクションを決定します。'yes'(または値なし)が指定されている場合、既存のファイルは新しいファイルで上書きされます。'makeuniq' を指定すると、一意のファイル名が生成されます。'ask'を指定すると、上書きアクションを選択するためのダイアログボックスが表示されます。'no'を指定すると、ファイルはスキップされます。**overwrite** のパラメータが指定されていない場合は、上書きアクションを決定するツール設定が使用されます。
- **showfiles** – 出力ファイルを保存先フォルダに表示するかどうかを指定します。'yes'(または値なし)が指定されている場合、ツール設定が使用されます。'openfolder'が指定されている場合、出力フォルダが開かれ、出力ファイルが選択されます。'no'を指定すると、出力ファイルは表示されません。**showfiles** のパラメータが指定されていない場合は、ファイルの表示のアクションを決定するツール設定が使用されます。

例

PDFXTools.exe /RunTool imagesToPDF /Output:folder=¥"D:¥PDFs from images¥";filename=¥"%[Date].pdf¥";overwrite=makeuniq;showfiles=no – **画像から PDF を作成**のツールを実行し、結果を **"D:¥PDFs from images"**のパスに保存し、**"%[Date].pdf** という名前のテンプレートを使用して出力ファイルに名前を付け、一意のファイル名を自動的に生成し、出力ファイルを表示しない。

PDFXTools.exe /RunTool pdfToDOCX /Output:folder=ask;overwrite=yes;showfiles=yes – PDF を Microsoft Word ドキュメントにエクスポートのツールを実行し、ファイルを保存するフォルダを尋ね、ファイル名が既に使用されている場合は既存のファイルを上書きし、ツール設定を使用してファイルの表示アクションを決定します。

/ResetSettings

このコマンドラインは、すべてのプログラム設定をデフォルトの状態に復元します。

構文規則

/RestSettings

パラメータ

このコマンドラインのオプションに使用できるパラメータはありません。

例

PDFXTools.exe /ResetSettings

/RunFldMon

このコマンドラインは、フォルダモニターを起動します。フォルダの GUID を使用して指定する必要があります。

構文規則

/RunFldMon <FolderMonID>

パラメータ

<FolderMonID> は、起動するフォルダモニターの GUID である必要があります。フォルダモニターの GUID は、**フォルダモニター**のダイアログボックスのコンテキストメニューから取得できます。ダイアログボックスを右クリックして、このオプションを選択します。

例

PDFXTools.exe /RunFldMon {23954F34-C10B-4819-B15B-D35631D3CD94}

/RunTool

このコマンドラインは、指定されたツールを実行します。カスタムツールを使用する場合は、ツールの GUID を指定する必要があります。(上記で詳述した**/DumpTools** のコマンドラインを使用して、既存のすべてのツールとその識別子の内訳を作成できます)。

構文規則

/RunTool[:showui=yes|no][;showprog=yes|no][;showrep=always|yes|no][;sort=name|size|mdate|cdate[,dsc]][;subfolder=yes|no] <ToolID> [<foldername>|<filename1> [<filename2> …<ファイル名 N>]] [/Log[:full=yes|no][;shared] <logfilename>][/Output[:folder[=ask|source|¥"<path>¥"]][;filename=¥"<name_template>¥"][;overwrite[=ask|yes|no|makeuniq]][;showfiles=[no|yes|openfolder]]]

パラメータ

- **showui** – 'yes'が指定されている場合、ユーザーインターフェースのメインウィンドウが表示されます。デフォルト値は'no'です。
- **showprog** – 'yes'が指定されている場合、(進行状況を示す)プログレス・バーが表示されます。デフォルト値は'yes'です。**showui=yes** が指定されている場合、**showprog=no** は無視されることに注意してください。

- **showrep** – 'yes'が指定されている場合、ツールの操作中にエラー/警告が発生すると、**ツールレポート**のペインが表示されます。'always'を指定すると、**ツールレポート**のペインが常に表示されます。デフォルト値は'yes'です。
- **sort** – 入力ファイルを名前**(name)**、作成日**(cdate)**、変更日**(mdate)**、およびサイズ**(size)**でソートします。以下で例を参照してください。
- **<ToolID>** – 実行するツールを指定します。ツールを識別するには、ツールの GUID を含む文字列を使用する必要があります。(上記で詳述した**/DumpTools** のコマンドラインを使用して、既存のすべてのツールとその識別子の内訳を作成できます)。
- **<filename1>…<filenameN>** – 指定されたツールが処理する入力ファイルのオプションのリストです。フォルダを指定することもでき、その場合、ツールは対応するすべてのファイルを再帰的に処理します。
- **[<foldername> |<filename1>[<filename2>…<filenameN>]]** – フォルダへの完全パスまたは相対パスを指定したり、完全なファイル名または相対的なファイル名を指定、あるいは一覧表示したりするために使用できるオプションのパラメータです。使用するパスに空白が含まれている場合は、引用符で囲む必要があります。たとえば、**C:¥My Documents¥My Test Document.pdf** は**"C:¥My Documents¥My Test Document.pdf"**と入力する必要があります。
- **subfolder** – 'yes'(または空の値)が指定されている場合、ツールの**入力ファイル選択**のアクションは、コマンドで指定されたフォルダのサブフォルダ内の入力ファイルも検索します。'no'が指定されている場合、ツールの**入力ファイル選択**のアクションは、指定されたフォルダ内のファイルのみを検索し、ネストされたすべてのフォルダをスキップします。**'subfolder'**オプションが指定されていない場合、**入力ファイル選択**のアクションのパラメータを使用して、検索するフォルダ/サブフォルダが決定されます。

例

```
PDFXTools.exe /RunTool imagesToPDF
PDFXTools.exe /RunTool imagesToPDF "c:¥picture1.png" "c:¥picture2.png"
PDFXTools.exe /RunTool:showprog=no;showrep=no imagesToPDF
  "c:¥picture1.png" "c:¥picture2.png"
PDFXTools.exe /RunTool:showprog=no;showrep=no imagesToPDF
  "c:¥FolderWithPictures"
```

PDFXTools.exe ″/RunTool:sort=size″ imagesToPDF ″c:¥FolderWithPictures″ – **画像から PDF を作成**のツールを実行し、ファイルを最小から最大のものへ並べ替えます。

PDFXTools.exe ″/RunTool:sort=mdate,dsc″ imagesToPDF ″c:¥FolderWithPictures″ – **画像から PDF を作成**のツールを実行し、ファイルを最後に変更したファイルから並べ替えます。

/Log – ツールの実行時にログを作成し、ファイルに書き込みます。このオプションには、ログに含まれるメッセージを決定する **full** のパラメータがあります。'yes' を指定すると、すべてのアプリケーション・メッセージがログに書き込まれます。'no'を指定すると、デフォルトのメッセージ（エラー、警告、およびサマリー情報)のみがログに書き込まれます。/Log のオプションには、**shared** のパラメータがあります。このパラメータを指定すると、**<logfilename>**で指定されたファイルを、コマンドライン・モードで実行されている **PDF-Tools** の異なるインスタンス間で同時に共有できます。

ツールレポートの設定は、ログに含まれるデフォルトのメッセージを決定します。

例

PDFXTools.exe /RunTool imagesToPDF /Log:full ″c:¥pdf-tools.log″ – **画像から PDF を作成**のツールを実行し、ツールの実行時に完全なログを作成します。

PDFXTools.exe /RunTool imagesToPDF ″c:¥MyPhotos¥″ /Log:full=no ″c:¥pdf-tools.log″ – **画像から PDF を作成**のツールを実行し、**″MyPhotos″**のフォルダ内のすべてのファイルを処理し、ツールの実行時に完全なログを作成します。

PDFXTools.exe /RunTool imagesToPDF /Log:full:shared ″c:¥pdf-tools.log″ – **画像から PDF を作成**のツールを実行し、実行時に完全なログを作成し、コマンドライン・ モードで実行されている **PDF-Tools** の他のインスタンスで **pdf-tools.log** のファイルを利用できるようにします。

9-4. トリミング余白

PDF ドキュメントには、内容と外観を決定するボックスが最大 5 つあります。**出力メディア・ボックス(MediaBox)**、**トリミング・ボックス(CropBox)**、**裁ち落としボックス(BleedBox)**、**仕上がりボックス(TrimBox)**と**グラフィック・オブジェクト・ボックス(ArtBox)**です:

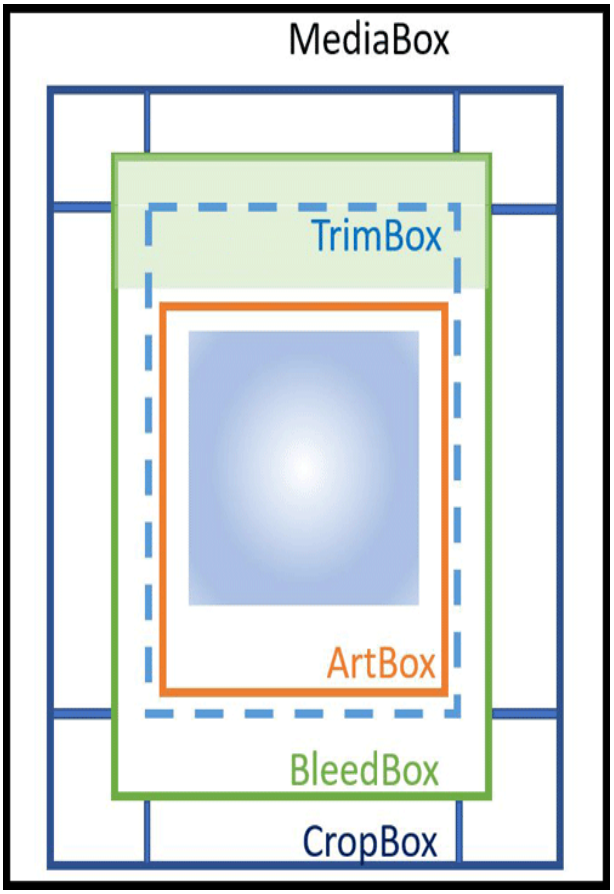

図 1. ドキュメント・ボックス

PDF-Tools は、次の 4 つのボックスを使用して、カスタマイズ可能な設定を決定します。

トリミング・ボックス(CropBox)

トリミング・ボックスは、表示または印刷の際にページ・コンテンツがトリミングされる領域を定義します。プログラムは、このボックスの寸法を画面表示と印刷に使用します。他のボックスとは異なり、**トリミング・ボックス**は使用目的やページの物理的あるいは幾何学的な面において、定義づけや意味づけはされておらず、単純にページ・コンテンツにトリミングを課すだけです。ただし、追加情報がない場合、**トリミング・ボックス**は、出力メディア上でのページ・コンテンツの位置を決定します。

裁ち落としボックス

裁ち落としボックスは、運用環境での出力時にページのコンテンツがトリミングされる領域を定義します。これには、切断、折り畳み、トリミング装置の物理的な制限に対応するために必要な「裁ち落とし領域」が含まれる場合があります。通常、**裁ち落としボックス**は**仕上がりボックス**よりも 3～5 ミリメートル大きいです。ページを印刷するときに、**裁ち落としボックス**の外側にある印刷マークが含まれる場合があります。**裁ち落としボックス**のデフォルト値は、**トリミング・ボックス**の値となります。

仕上がりボックス

仕上がりボックスは、トリミング後の完成したページについて意図する寸法を定義します。**トリミング・ボックス**とは対照的に、**仕上がりボックス**は実際のページサイズを定義するため、非常に重要です。プログラムでは、プレスシートにページを配置するための基準として**仕上がりボックス**を使用します。仕上がりボックスのデフォルト値は、**トリミング・ボックス**の値となります。

グラフィック・オブジェクト・ボックス

グラフィック・オブジェクト・ボックスは、ページの作成者が意図したとおりに、意味のあるページのコンテンツ(潜在的な空白を含む)の範囲を定義します。**グラフィック・オブジェクト・ボックス**のデフォルト値は、**トリミング・ボックス**の値です。

9-5. バージョン 10 で追加された機能

PDF-Tools の**バージョン 10** では、次の機能が追加されました。

バージョン 10.0.0.370

- マクロをサポートするすべてのフィールドで使用できるカスタム値をユーザーが定義できる**アプリケーション変数**のオプションを追加しました。アプリケーション変数は、アプリケーションの**設定**で定義できます。
- **カスタム**および**メタデータ・テンプレートの適用**のオプションを**ドキュメントのプロパティの変更**のアクションに追加しました。
- **入力ファイル選択**のダイアログボックスに**選択されたすべてのフィルタで複合フィルタを作成**のオプションを追加しました。このオプションを使用すると、ユーザーは、選択したすべてのファイルタイプを含む複合フィルタを定義し、**ここ**で詳しく説明するように、含める/除外するカスタム・ファイルタイプを指定できます。
- アプリケーションの環境設定に、**ここ**で詳しく説明するように、作成済みドキュメントの PDF 仕様を決定する **PDF 仕様**のオプションを追加しました。
- **ここ**で詳述されているように、**ドキュメントのプロパティの変更**のアクションのキーワード・フィールドでマクロを使用する機能を追加しました。
- **ドキュメントをフィルタ**、**ページをフィルタ**、および**ファイルをフィルタ**のアクションに、**上記の条件を満たさないドキュメントページ/ファイルのみを選択**、および条件間に **OR 論理演算を適用する**のオプションを追加しました。
- **正規表現で検索**のアクションに**一致する値がないドキュメントの処理をスキップするの**オプションを追加しました。

バージョン 10.0.0.380

- **ページのフィルタ**および**ドキュメントのフィルタ**のアクションに**外部リンク**と**ドキュメント情報**の検索オプションを追加しました。

・**/RunTool** コマンドラインオプションに**'showprompt'**パラメータを追加しました。

・テキストベースのファイルタイプ（*.csv、*.txt、*.ptdfl）について、**既存のドキュメントに追加**のオプションのサポートを追加しました。

・**ドキュメントのプロパティの変更**および**ドキュメントを保存**のアクションに**'%[BatesValue]'**のマクロのサポートを追加しました。

9-6. フォントと段落のオプション

フォントと段落のオプションは、**PDF-Tools** の多くのアクション/ツールで使用できます。

フォント・オプション

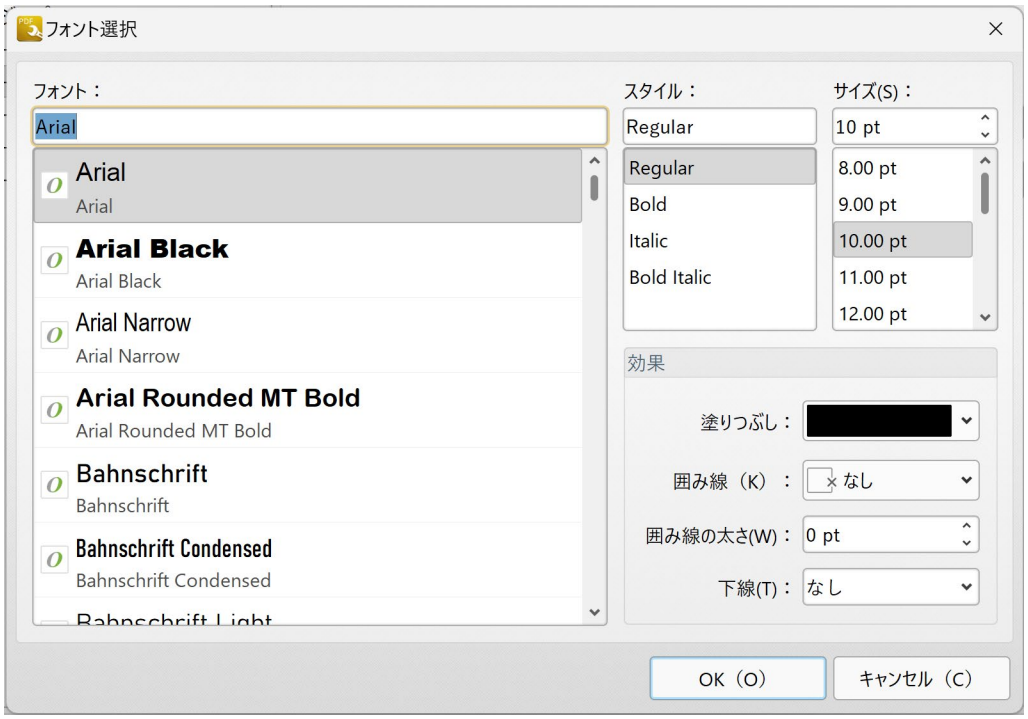

図 1. [フォント選択]ダイアログボックス

- **フォント** 使用可能なフォントがペインに表示されます。クリックしてフォントを選択するか、のテキストボックスにフォント名を入力してフォントを検索して選択します。
- **スタイル** メニューを使用して、フォントのスタイルを選択します。
- **サイズ** ドロップダウンメニューを使用して、フォントサイズを選択します。
- **塗りつぶし** ドロップダウンメニューを使用して、フォントの色を選択します。

- **囲み線** ドロップダウンメニューを使用して、フォントのアウトラインの色を選択します。（囲み線の色は、小さいサイズではフォントの色を不明瞭にする可能性があることに注意してください）。
- **囲み線の太さ** ドロップダウンメニューを使用して、囲み線の太さを決定します。
- **下線** ドロップダウンメニューを使用して、現在のフォントの下線を有効/無効にします。

OK をクリックして設定を保存します。

段落オプション

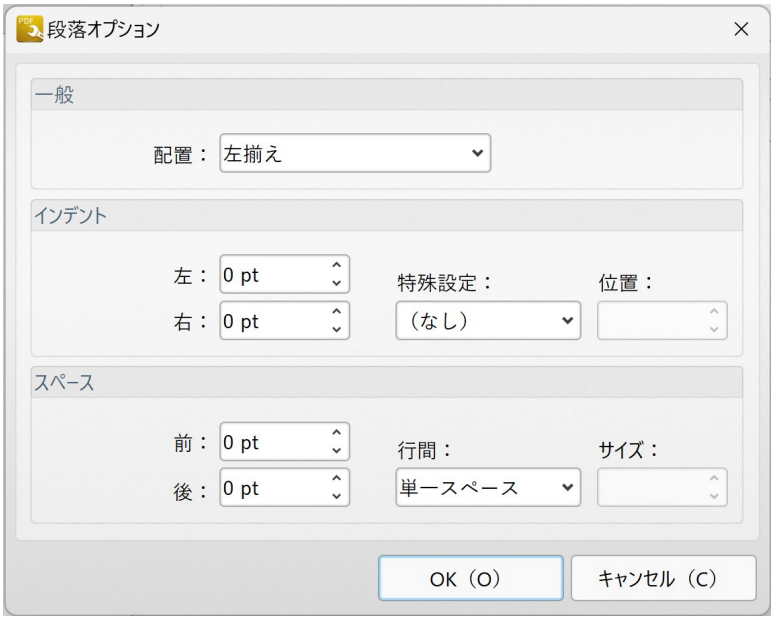

図 2. [段落オプション]ダイアログボックス

- **配置** ドロップダウンメニューを使用して、段落の配置を決定します。
- **インデント** 番号ボックスを使用して、ページの左側と右側の段落のインデントを決定します。
- **特殊設定** ドロップダウンメニューを使用して、必要に応じて**一行目**または**ぶら下げ**でのインデントを有効にします。いずれかのオプションを使用する場合は、**幅**のボックスを使用してインデントの幅を指定します。
- **間隔** 必要に応じて段落の間隔オプションを決定します。

OK をクリックして設定を保存します。

9-7. マクロ

マクロは **PDF-Tools** の全体を通して使用されます。「マクロ」は「マクロ命令」の略語で、コンピュータサイエンスにおける用語で、対応する出力を作成するために入力文字をどのように入力するかを指定するルールです。つまり、入力プロセス中に出力プロセスのコンポーネントを簡素化できるため、作業の負荷が軽減され、より動的になります。必要に応じて、複数のマクロを同時に使用できます。マクロの形式は次のとおりです。

%[<Macro Name>]またはカスタマイズ可能な場合は**%[<Macro Name>:<Parameter>]**。**<Parameter>**のステップはオプションです。

たとえば、**ページ番号**のマクロを使用して、ページ番号の形式を指定できます。**ページ番号**のマクロの構文規則は**%[Page:<Parameter>]**で、次のパラメータを使用できます。

- **'r'** 小文字のローマ数字の使用を指定します – **%[Page:r]**。
- **'R'** 大文字のローマ数字の使用を指定します – **%[ページ:R]**。
- **'L'** ページ・ラベルが指定されている場合のページ番号付け形式としてページ・ラベルを指定しまくおす。ページ・ラベルが指定されていない場合は、標準のページ番号が使用されます – **%[ページ:L]**。
- **'<integer>** 使用される最小桁数を指定します。この値は 1 から 12 までの任意の正の整数にすることができます（たとえば、**%[Page:4]**はページ番号を**"0001, 0002, 0003..."**として開始します）。

マクロは、出力ドキュメントのファイル名を決定するとき、およびマクロ・アイコンが表示されるときにも使用できます。

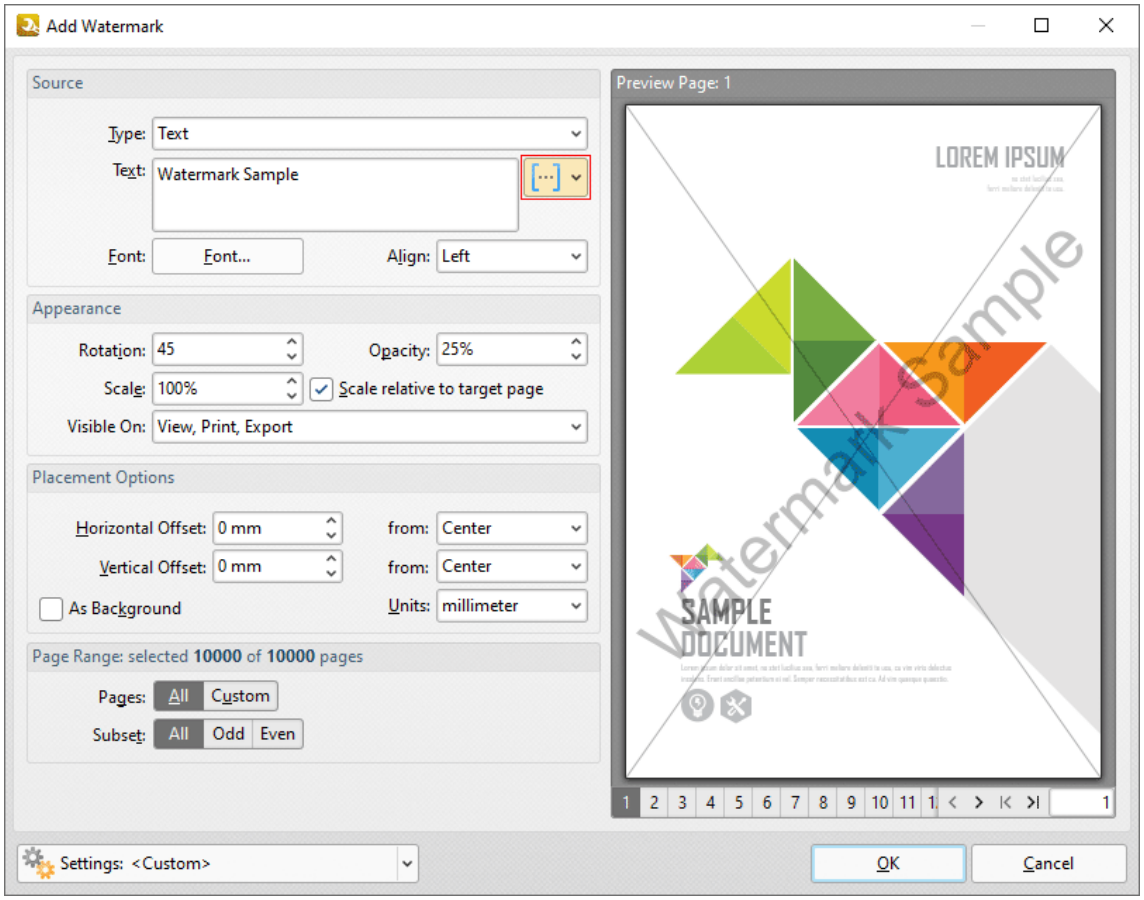

図 1. [透かしの追加]ダイアログボックス、[…]マクロ・アイコン

マクロ・アイコンをクリックして使用可能なオプションのリストを表示し、マクロをクリックしてテキストボックスに追加します。使用可能なすべてのマクロを以下に示します。

- **アプリケーションのバージョン**
- **自動採番**
- **ベイツナンバリング**
- **ベイツページ・ナンバリング値**
- **コンピューター名**
- **ユーザー名**
- **ドキュメント・インデックス**
- **ドキュメント情報**
- **ドキュメント・タイトル**
- **環境変数: ファイルの環境変数に関連する複数のオプションがあります 。**
- **ファイル名**
- **ファイル拡張子**

・フォルダ名
・フォルダ・タイトル
・日付
・年
・月
・日
・時刻
・時間
・分
・秒
・ページ数
・ページ番号
・ページナンバリング・スタイル

9-8. メディアファンデーションのインストール

PDF-Tools の **PDF からオーディオにエクスポート**のツールアクションにおいて、PDF ファイルを **(*.mp3)**形式にエクスポートする際、ローカルマシンに **Windows Media Foundation** をインストールする必要があります。この機能を使用する場合は、システムのバージョンに対応する **Media Feature Pack** をインストールする必要があります。

- **Windows 8/8.1/10/11** 用の **Media Pack のインストール**(エンドユーザーによる使用について)は、**Microsoft** の **Web サイト**で入手できます。
- **Windows Server** 用 **Media Pack のインストール**(システム管理者による使用について)は、**PowerShell** の次のコマンドを使用してインストールできます。

```
Install-WindowsFeature Server-Media-Foundation
```

- **サーバーマネージャー**用 **Media Pack のインストール**(システム管理者による使用を意図について)は、次のようにインストールできます。

1. **サーバーマネージャー**を実行し、**管理**タブをクリックし、**役割と機能の追加**をクリックします。**役割と機能の追加のウィザード**が**「始める前に」**ページで開きます。

2. **次へ**をクリックします。**インストールの種類の選択**のページが開きます。**次へ**をクリックします。

3. **移行先サーバーの選択**のページが開きます。サーバーを選択し、**次へ**をクリックします。**サーバーの役割の選択**のページが開きます。

4. 左側のリストで**機能**をクリックし、**Media Foundation** のボックスを選択します。

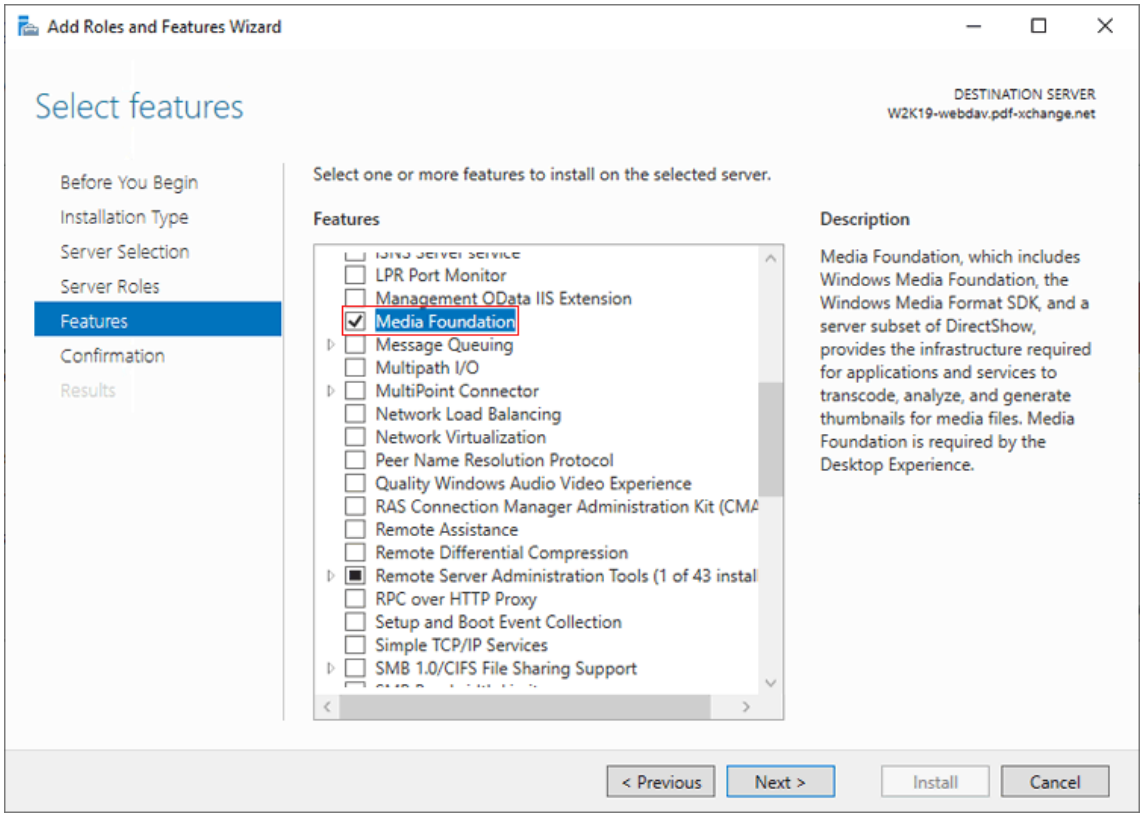

図 1. [役割と機能の追加]ウィザード、メディアファンデーション

5. **次へ**をクリックします。**インストール選択の確認**ページが開きます。**インストール**をクリックしてプロセスを完了します。

9-9. ページ範囲のオプション

PDF-Tools には、**ページ範囲**の指定をする複数の設定があります。

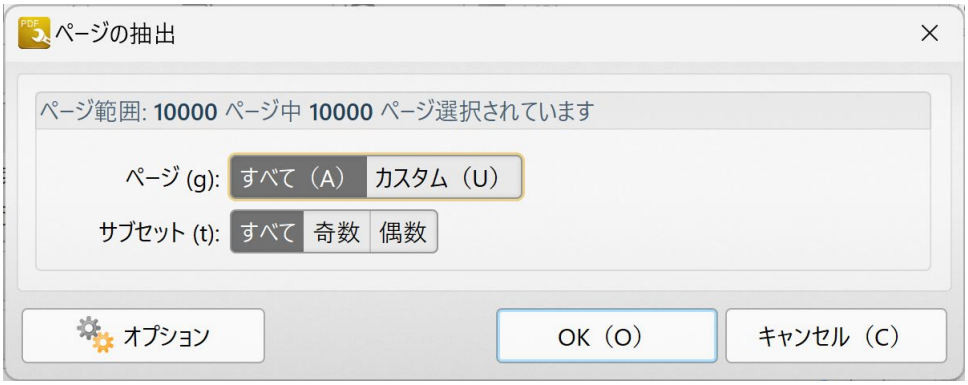

図 1. ページ範囲設定のダイアログボックス

- **ページ:すべて**　すべてのページを指定します。
- **ページ:カスタム**　任意のページ範囲を指定します。
  - ・カンマを使用して個々のページを区切ります。
  - ・ハイフンを使用してページ範囲を区切ります。
  - ・複数のページ範囲が定義されている場合は、カンマを使用してページ範囲を区切ります。
  - ・ページ番号の前にダッシュを使用すると、ドキュメントの先頭から指定したページまでのすべてのページが決定されます。たとえば、**-7** は、ドキュメントの先頭から 7 ページ目までのすべてのページを定義します。
  - ・ページ番号の後にダッシュを使用すると、指定したページから文書の末尾までのすべてのページが決定されます。たとえば、**7-**は、ドキュメントの 7 ページ目から末尾までのすべてのページを定義します。
  - ・キャレット記号（**^n**）を使用してドキュメントの末尾から n ページの位置にあるページを指定するか、（**^n-^n**）を使用してドキュメントの末尾からのページ範囲を

指定します。たとえば、**^2** はドキュメントの最後から 2 番目のページを指定し、**^1-^5** はドキュメントの最後の 5 ページを指定します。

- **サブセット** 必要に応じてカスタムページ範囲のサブセットを指定します。オプションは、**すべて**のページ、**奇数**ページ、および**偶数**ページです。
- カスタムページ範囲を指定する場合、ページの順序を連続させる必要はなく、あるいは範囲内の各値を一意にする必要はありません。

OK をクリックして変更を保存します。

例

1、3、5-7 1、3、5、6、7 ページを処理します。

1、3、5-7、 ^2-^1 1、3、5、6、7、9、10 ページを処理します(10 ページのドキュメントに適用した場合)。

3- ドキュメントの最初の 2 ページを除くすべてのページを処理します。

-5、7 1、2、3、4、5、7 ページを処理します。

-5、^3-^1 1、2、3、4、5、8、9、10 ページを処理します(10 ページのドキュメントに適用する場合)。

9-10. 環境設定

オプションタブの**設定**をクリックして、**設定**のダイアログボックスを起動します。

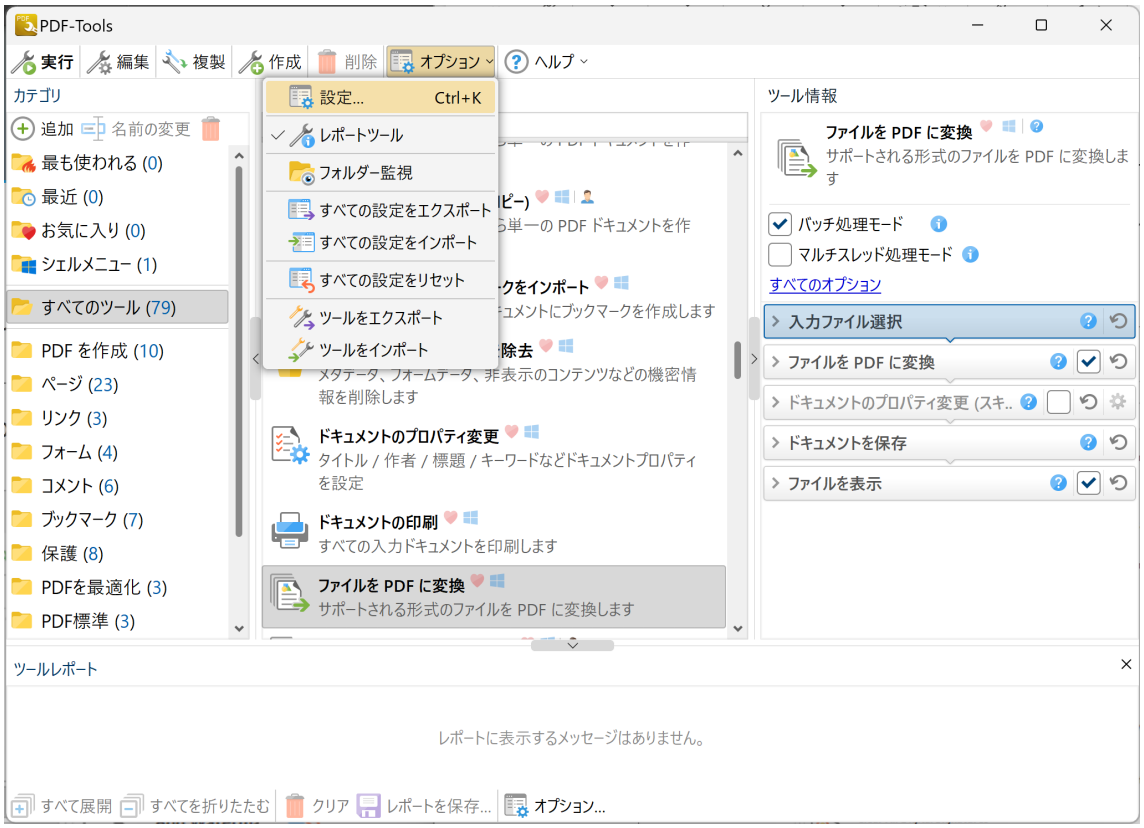

図 1. PDF-Tools のメインウィンドウ、[オプション]タブ、設定

設定ダイアログボックスが開きます。

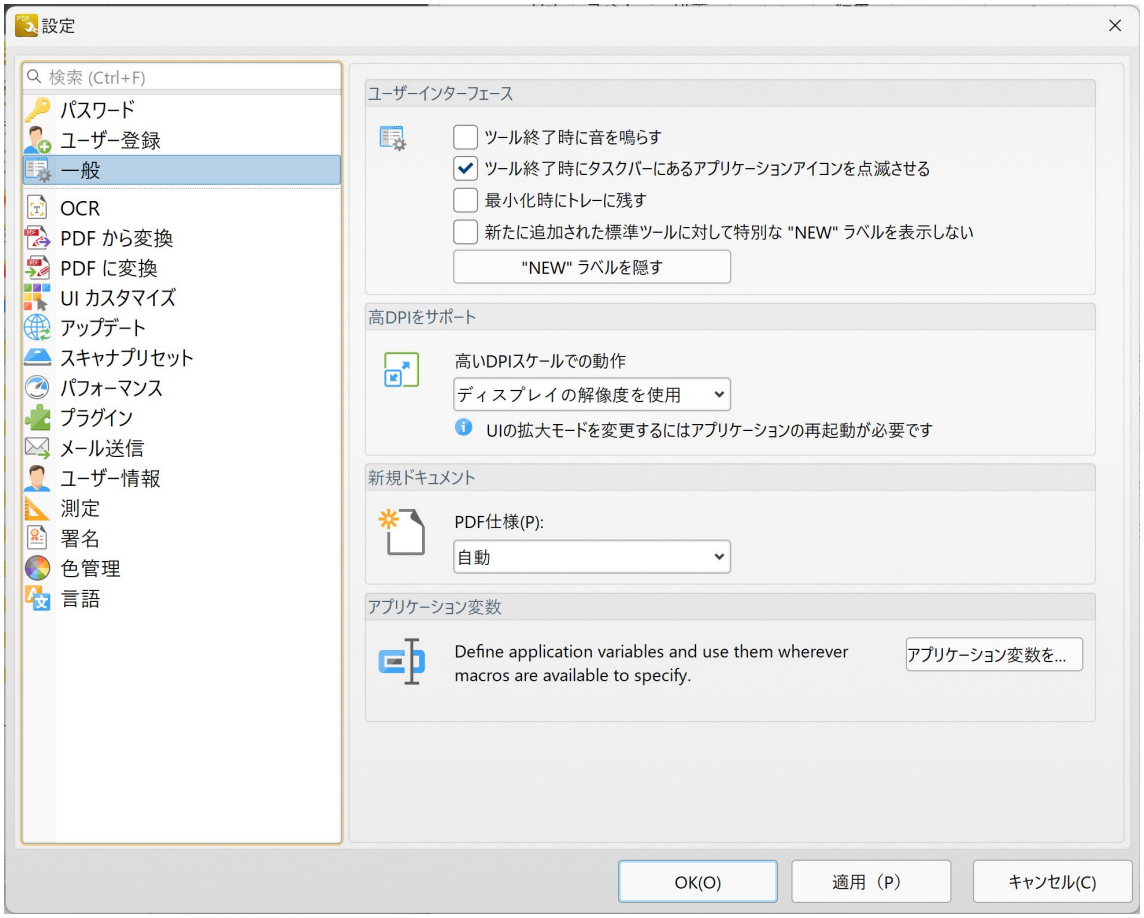

図 2. [設定]ダイアログボックス

これらのオプションは、**PDF-Tools** の一般設定をカスタマイズするために使用されます。詳細については、以下カテゴリをクリックしてください。

- **一般**
- **言語**
- **パスワード**
- **ユーザー登録**
- **カラーマネジメント**
- **PDF から変換**
- **PDF に変換**
- **UI カスタマイズ**
- **ユーザー情報**
- **測定**
- **OCR**
- **パフォーマンス**

- プラグイン
- スキャナプリセット
- メール送信
- 署名
- アップデート

9-10-1. 一般

一般の設定は、**PDF-Tools** の全般的な環境設定を決定します。

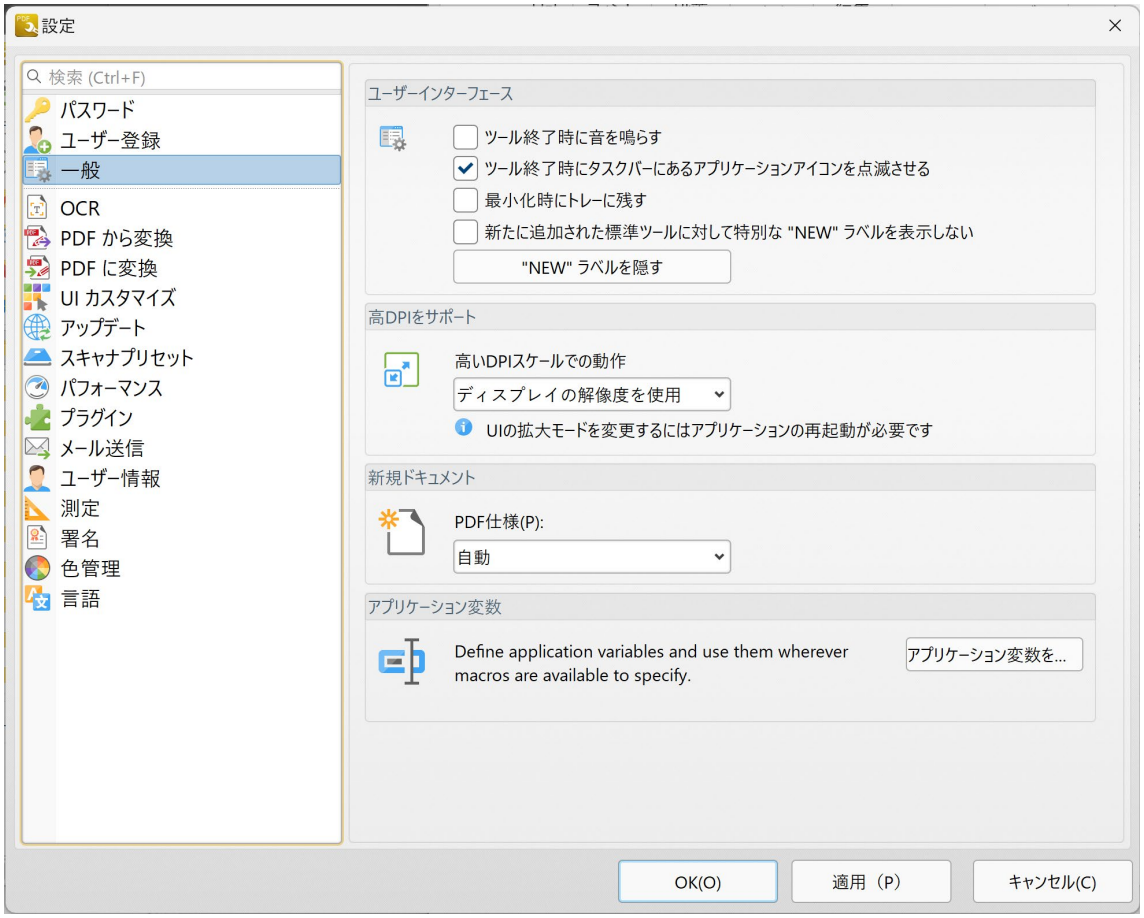

図 1. [設定]ダイアログボックス、[一般]タブ

- **ツール終了時に音を鳴らす** ボックスを選択すると、ツール処理の終了時に PDF-Tools がサウンドを再生します。

- **ツール終了時にタスクバーにあるアプリケーション・アイコンを点滅させる** ボックスを選択すると、ツールの処理が終了したときにタスクバーでアプリケーション・アイコンが点滅します。
- **最小化時にトレイに残す** ボックスを選択して、タスクバーではなくトレイに PDF-Tools を最小化します。
- **新たに追加された標準ツールに対して特別な"NEW"ラベルを表示しない** ボックスを選択して、ユーザーインターフェースの新しいツールの横に表示される"NEW"ラベルを無効にします。
- **高 DPI 拡縮動作** ドロップダウンメニューを使用して、解像度設定が異なる画面を切り替えるときにモニターに使用する UI スケールを設定します。

OK をクリックして変更を保存します。

9-10-2. 言語

言語の設定では、**PDF-Tools** のユーザーインターフェースの言語が決まります。

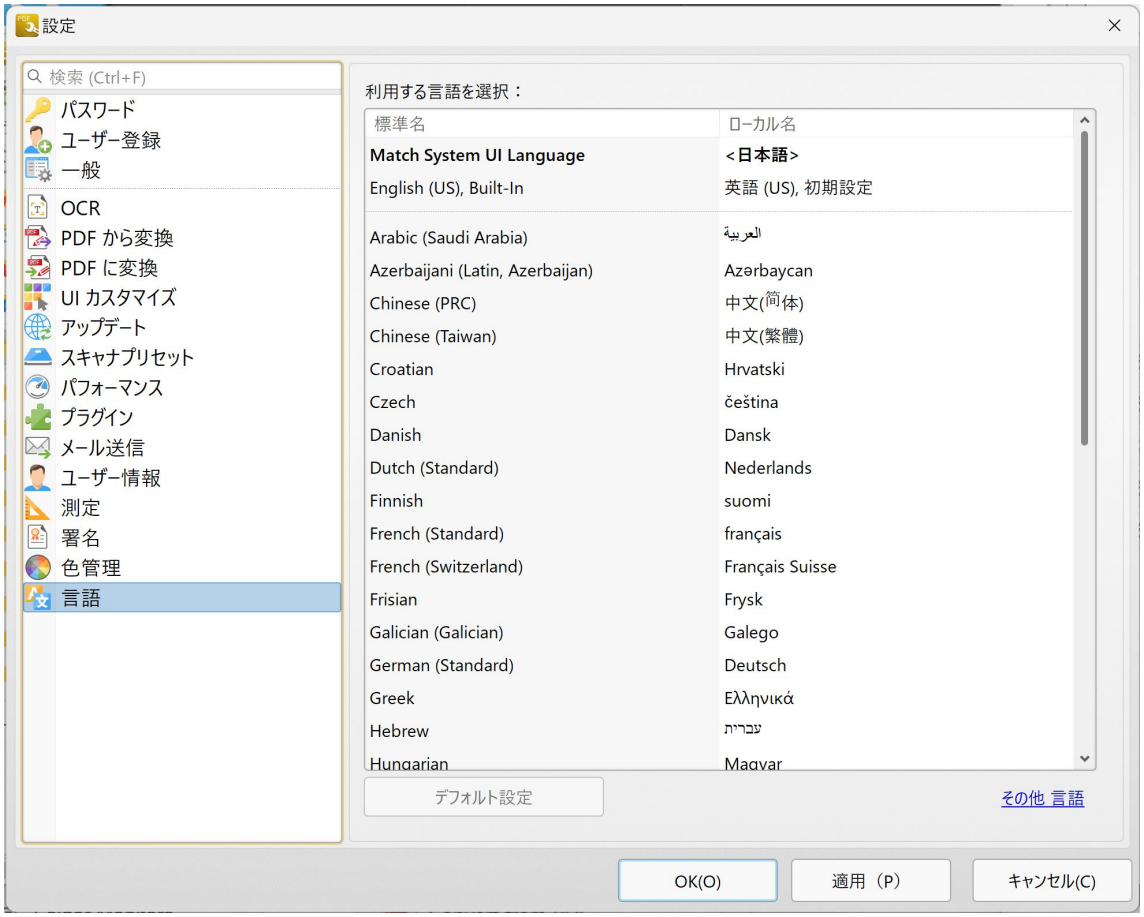

図 1. [設定]ダイアログボックス、[言語]タブ

- 言語をダブルクリックして UI 言語を変更します。
- **デフォルト設定** これをクリックして、現在の言語をデフォルトの言語として設定します。
- **その他　言語**　追加の言語オプションを表示します。

OK をクリックして変更を保存します。

9-10-3. パスワード

パスワードの設定は、**PDF-Tools** がファイルを処理しているときに使用される、保存されているパスワードのデータベースを作成するために使用されます。

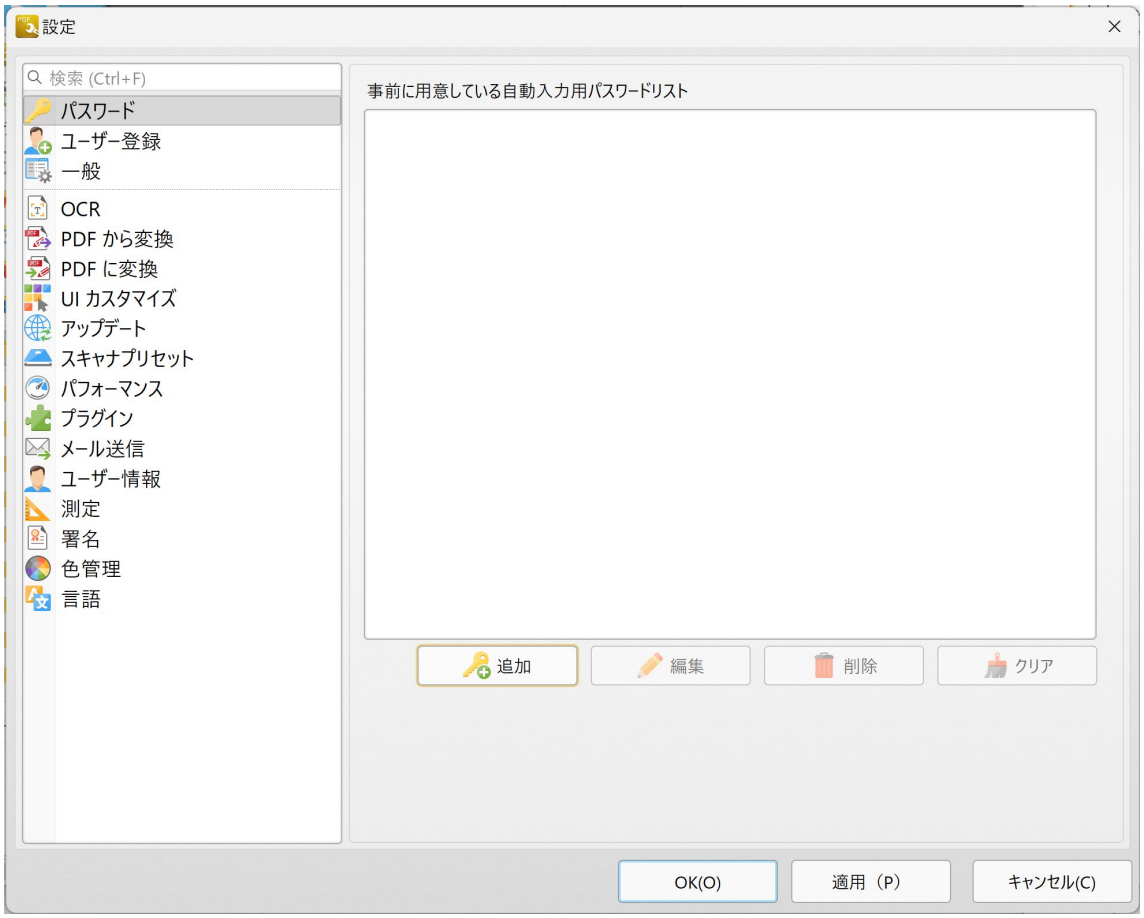

図 1. [設定]ダイアログボックス、[パスワード]タブ

処理されたファイルがパスワードで保護されており、関連するパスワードがこのリストに含まれている場合、**PDF-Tools** はパスワードの入力を求めません。

- **追加** リストに新しいパスワードを追加します。
- **編集** 既存のパスワードの名前を編集します。
- **削除** 選択したパスワードを削除します。
- **クリア** リストからすべてのパスワードを削除します。

OK をクリックして変更を保存します。

9-10-4. ユーザー登録

ユーザー登録の設定は、ライセンスキーの表示/追加/削除に使用されます。

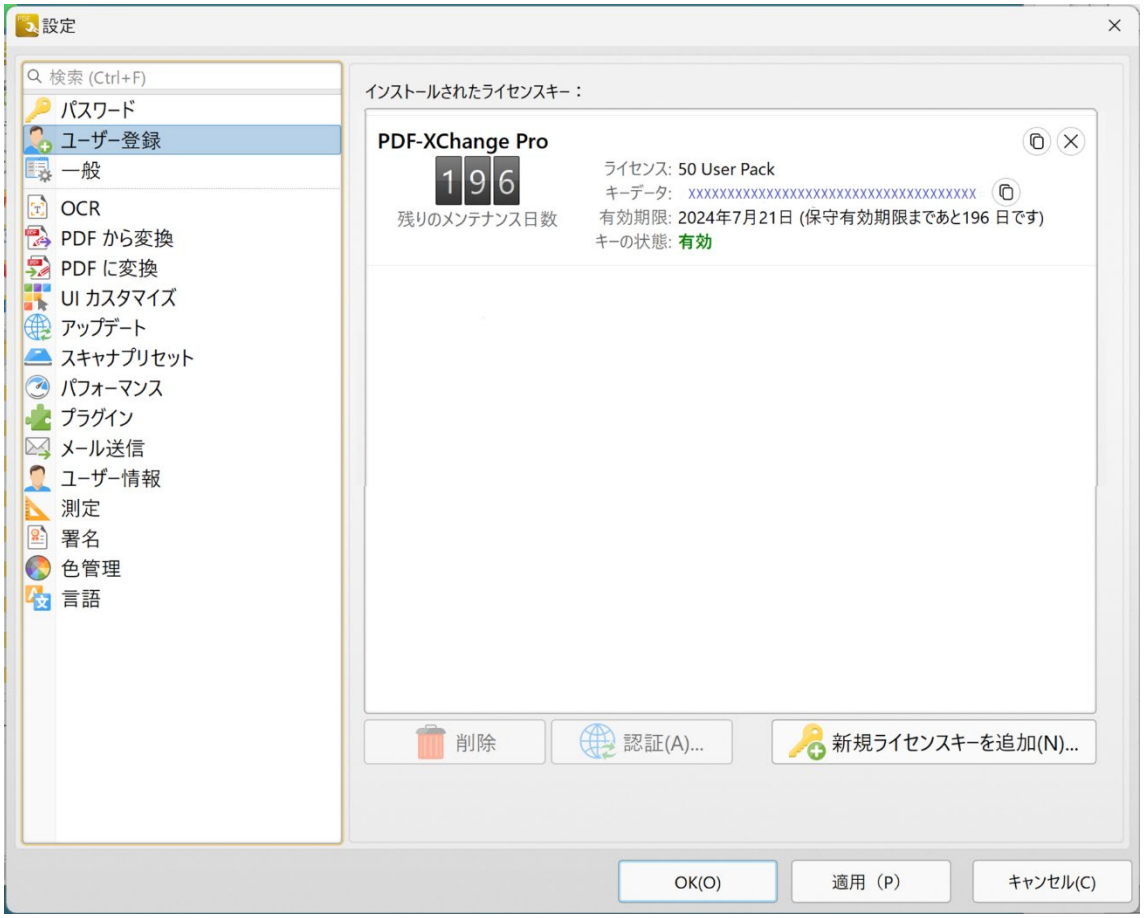

図 1. [設定]ダイアログボックス、[ユーザー登録]タブ

- **新規ライセンスキーを追加**　新しいライセンスキーを追加します。
- **削除**　選択したライセンスキーをリストから削除します。

OK をクリックして変更を保存します。

9-10-5. カラーマネジメント

カラーマネジメントの設定は、カラーマネジメント・オプションを決定するために使用されます。

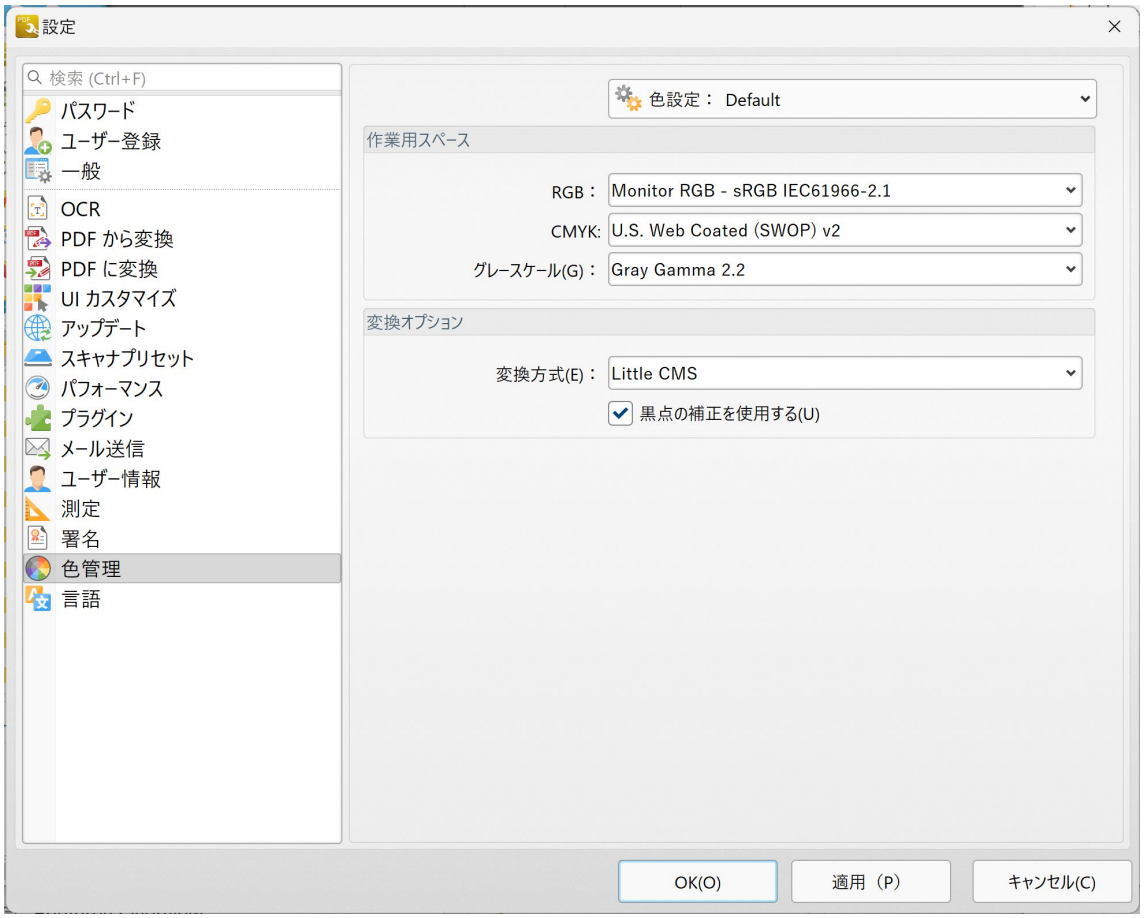

図 1. [設定]ダイアログボックス、[カラーマネジメント]タブ

- **色設定** ドロップダウンメニューからカスタマイズされたカラープロファイルを保存および管理します。このメニューを使用して、以下に詳述するオプションを使用して設定が調整されたときに設定を保存します。

- **RGB、CMYK、グレースケール** ドロップダウンメニューを使用して、これらのカラーモードの設定を決定します。
- **変換方式** ドロップダウンメニューを使用して、カラーマネジメントに使用するエンジンを決定します。
- **黒点の補正を使用する** ボックスを選択して、デジタルファイルの最大の黒色のレベルとデジタル・デバイスの黒色の機能との間の調整を作成するために、デジタル写真印刷で使用される技術である黒色の補正を有効にします。

OK をクリックして変更を保存します。

9-10-6. PDF から変換

PDF から変換の設定は、カスタマイズ可能な形式を PDF から変換する際の設定を決定するために使用されます。

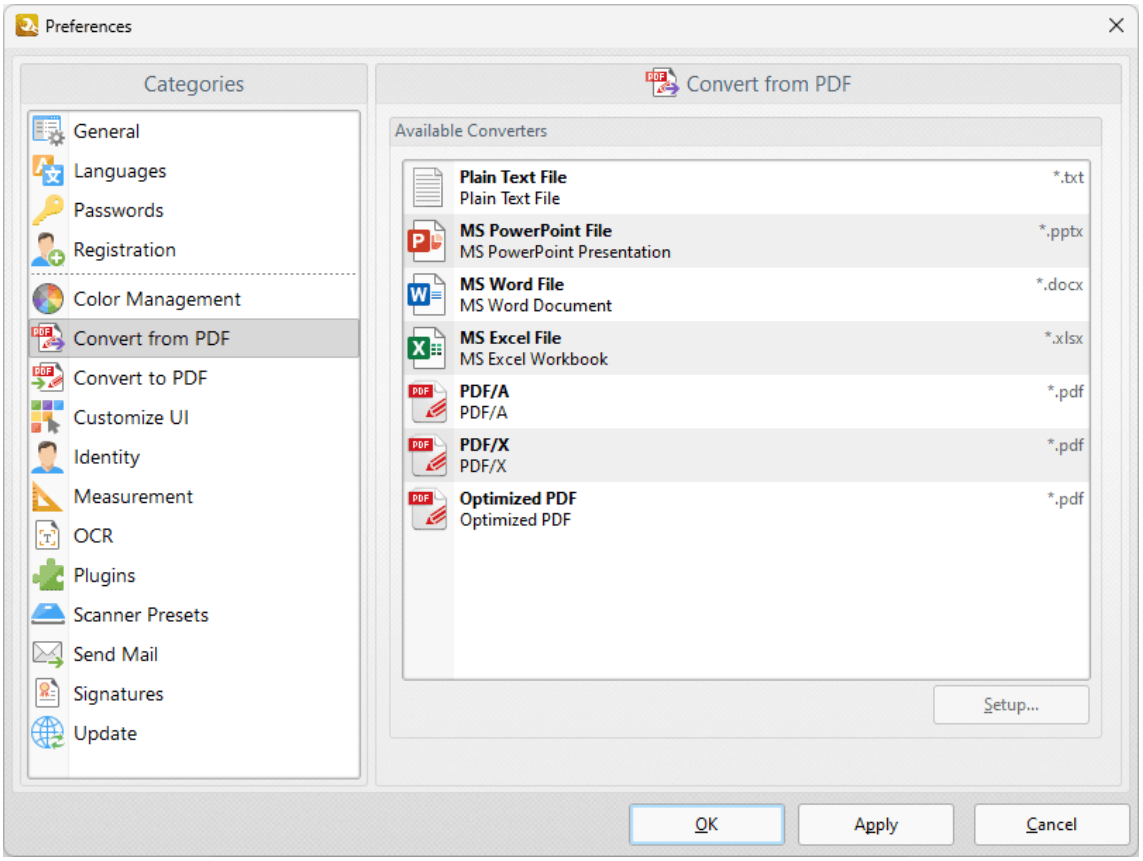

図 1. [設定]ダイアログボックス、[PDF から変換]タブ

・**利用可能な変換**　ここにある形式をダブルクリックして、設定をカスタマイズします。カスタマイズ可能な形式のみが一覧表示されていることに注意してください。**PDF-Tools** が PDF に変換できるファイル形式の完全なリストについては、**こちら**を参照してください。

OK をクリックして変更を保存します。

9-10-7. PDF に変換

PDF に変換の設定は、カスタマイズ可能なフォーマットを PDF に変換するときの設定を決定するために使用されます。

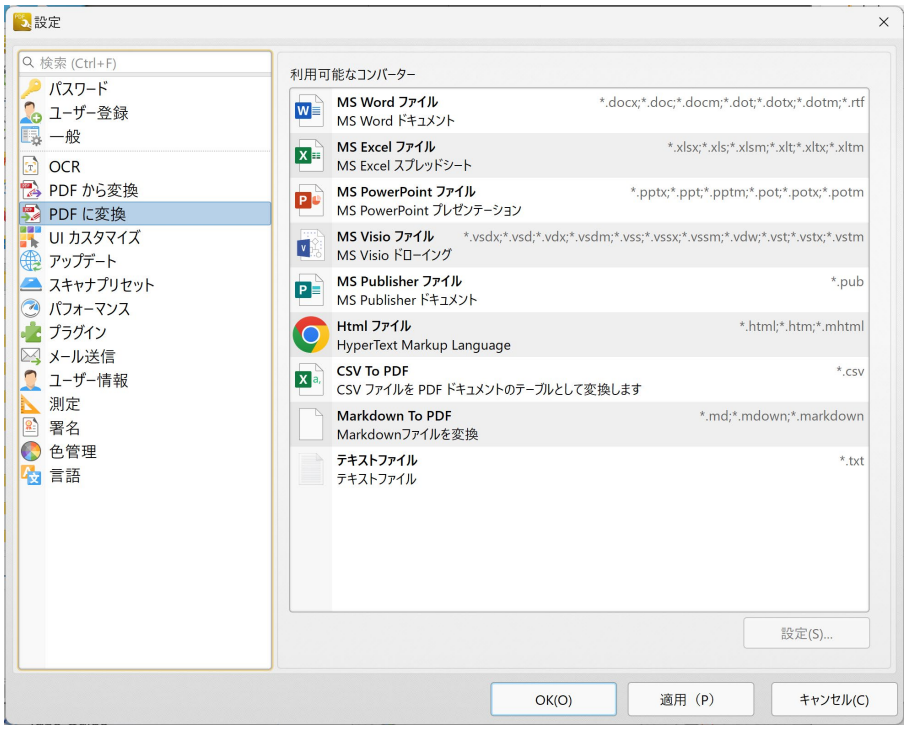

図 1. [設定]ダイアログボックス、[PDF に変換]タブ

- **利用可能な変換** ダブルクリックして、設定をカスタマイズします。カスタマイズ可能な形式のみがリストされていることに注意してください。**PDF-Tools** が PDF に変換できるファイル形式の完全なリストは、ここで詳しく説明します。

OK をクリックして変更を保存します。

9-10-8. UI カスタマイズ

UI カスタマイズの設定は、ユーザーインターフェースをカスタマイズするために使用されます。

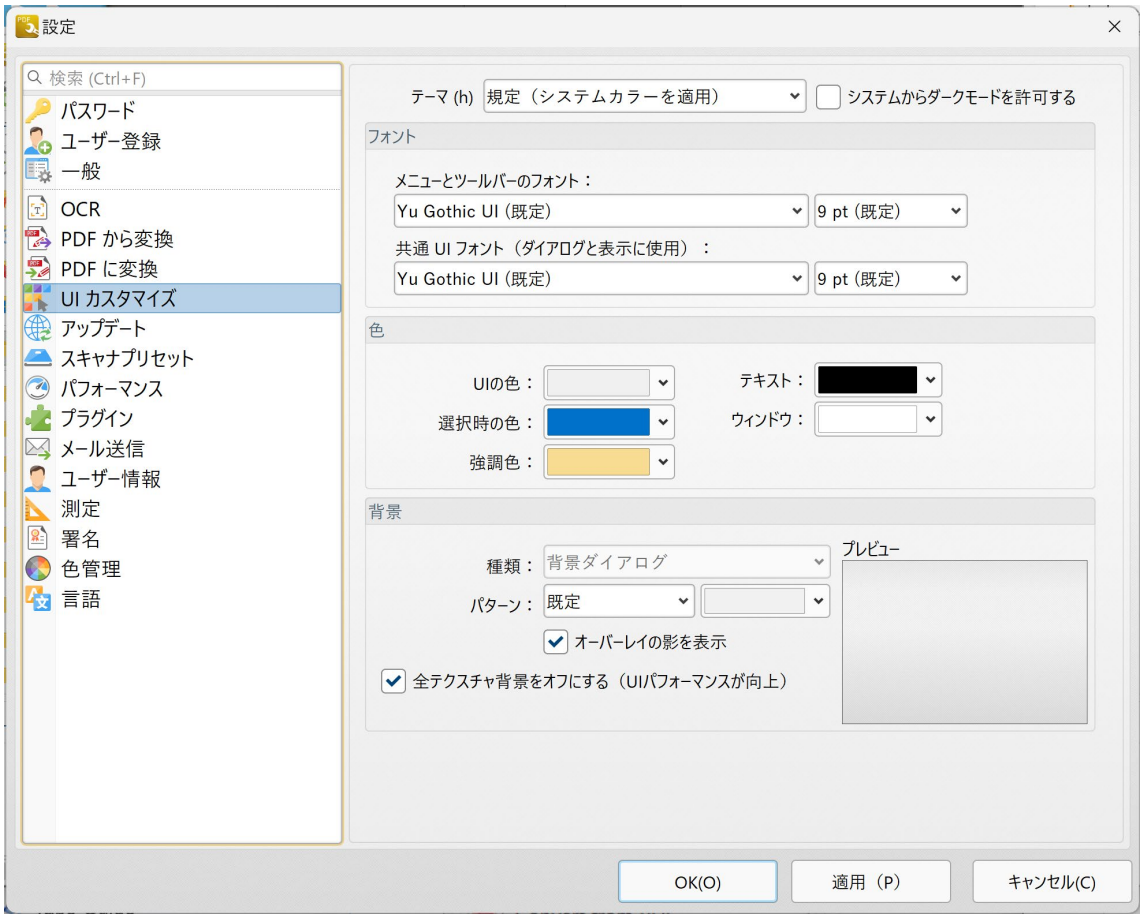

図 1. [設定]ダイアログボックス、[UI カスタマイズ]タブ

- **フォント** このセクションでメニュー、ツールバー、ダイアログボックスのフォントスタイルとサイズを決定します。
- **色** このセクションで UI の色を決定します。

- **背景**　このセクションで背景の UI 表示を決定します。
- **種類**　カスタマイズする背景を選択します。
- **スタイル/パターン**　選択した背景のスタイルと色を選択します。
- **オーバーレイの影を表示**　必要に応じて、このボックスを選択します。
- **全テクスチャ背景をオフにする**　必要に応じて、ターミナル・セッションの UI パフォーマンスを向上させるために、このボックスを選択します。

OK をクリックして変更を保存します。

9-10-9. ユーザー情報

ユーザー情報の設定では、コメント、コメント・レビュー、デジタル署名で使用される情報が決まります。

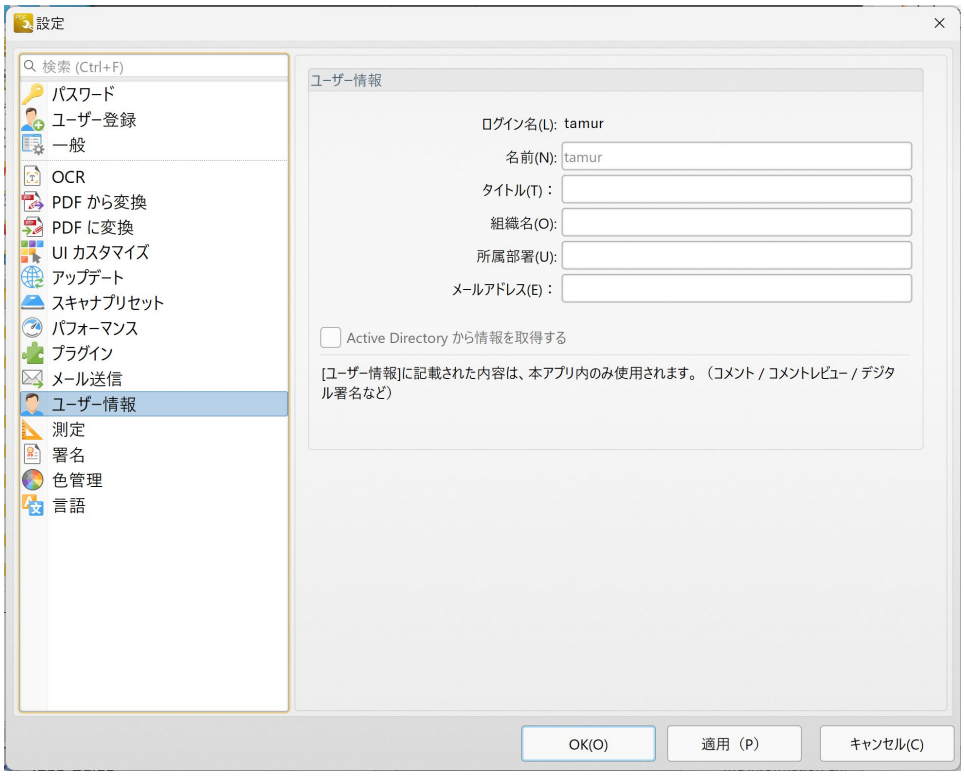

図 1. [設定]ダイアログボックス、[ユーザー情報]タブ

各テキストボックスに情報を入力するか、ボックスをオンにして **Active Directory**（アクティブ・ディレクトリ）内の情報を使用します。

OK をクリックして変更を保存します。

9-10-10. 測定

測定の設定では、**PDF-Tools** で使用される測定単位を決めます。

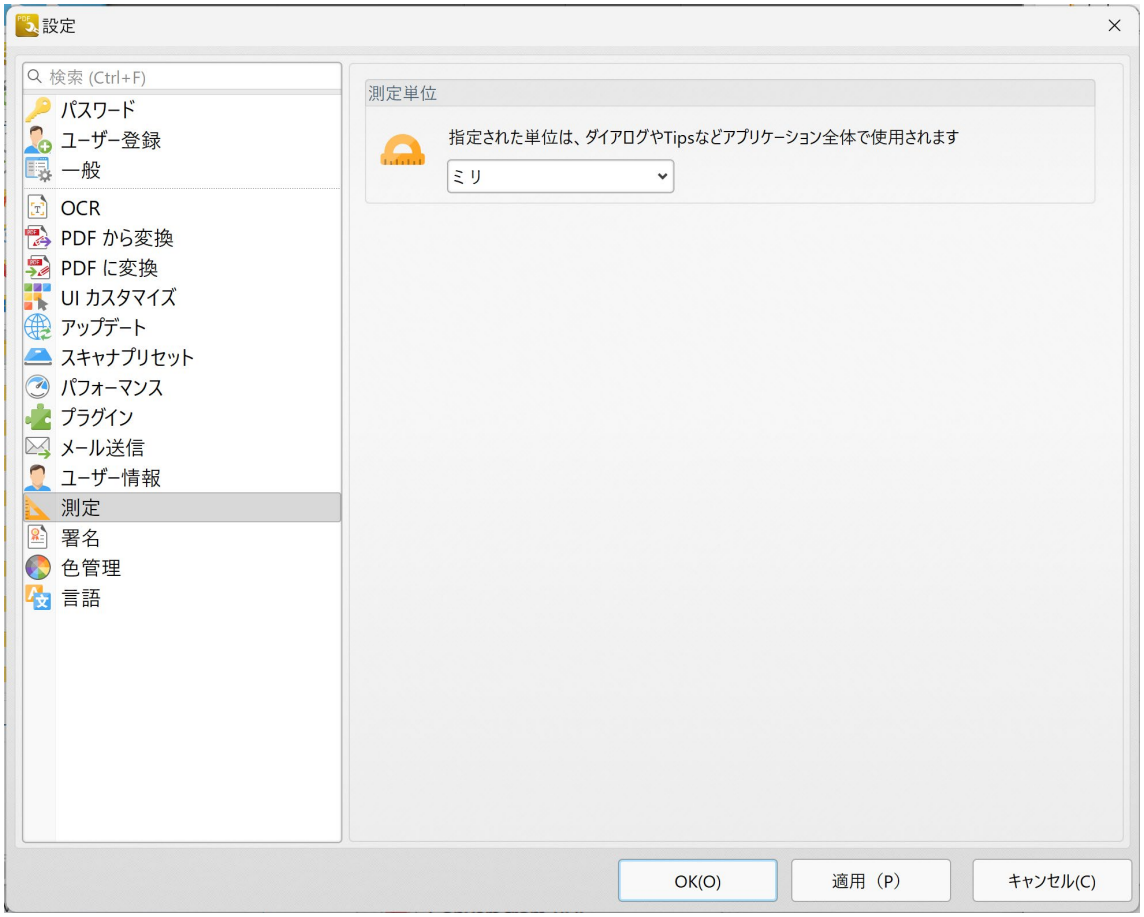

図 1. [設定]ダイアログボックス、[測定]タブ

ドロップダウンメニューを使用して、測定単位を選択します。
OK をクリックして変更を保存します。

9-10-11. OCR

OCR の設定で、PDF-Tools で使用される光学式文字認識エンジンが決まります。

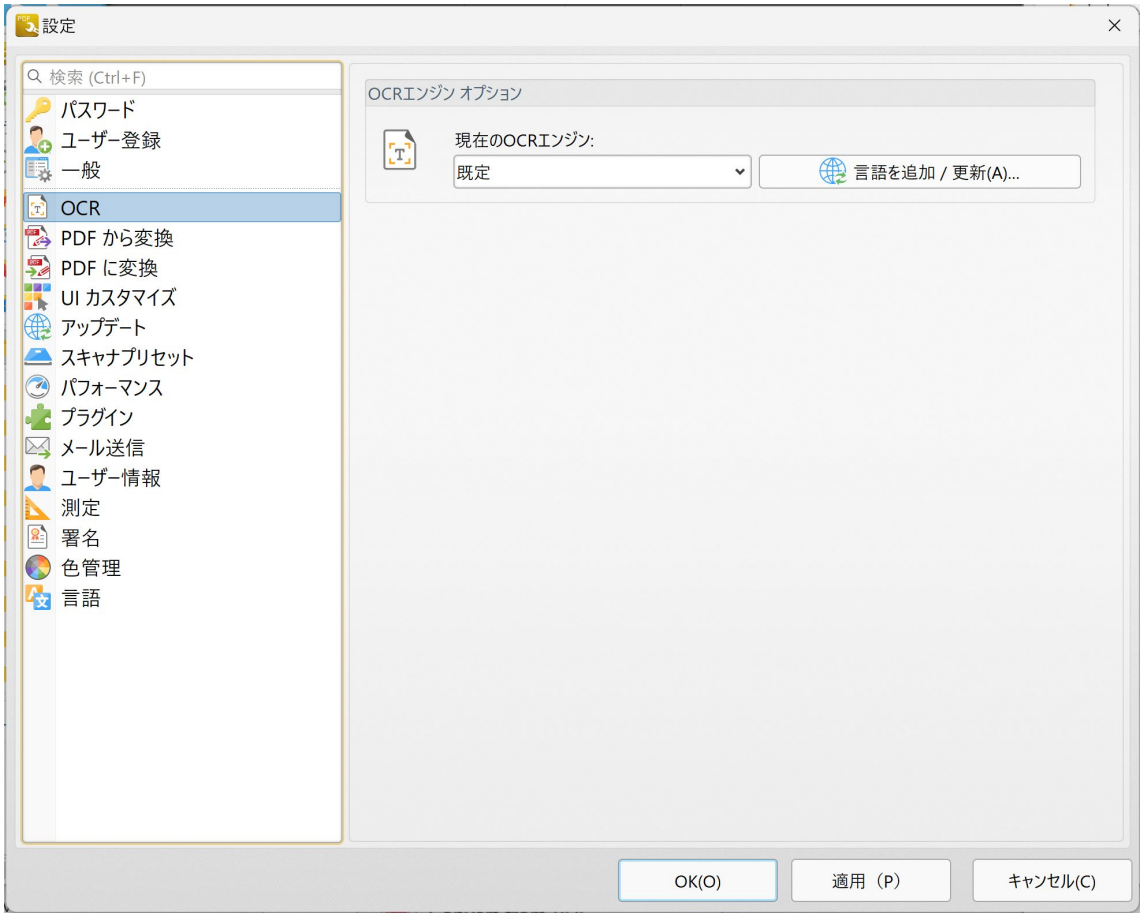

図 1. [設定]ダイアログボックス、[OCR]タブ

- ドロップダウンメニューを使用して、**デフォルト**の OCR エンジンと**高性能**(Enhanced)OCR エンジンを切り替えます。**高性能** OCR エンジンは、**PDF-Tools** のバージョン 8 で追加されたオプションであり、バージョン 9 以降は **PDF-XChange PRO** のライセンスを経た **PDF-Tools** でのみ利用可能であることに注意してください

。**高性能** OCR エンジンは、デフォルトの OCR エンジンよりも高速で、より正確で、より動的であり、いくつかの追加機能も含まれています。**高性能** OCR エンジンの詳細については、**こちら**をご覧ください。

- **言語を追加/更新**　光学式文字認識の処理で使用する言語を追加/更新します。

OK をクリックして変更を保存します。

9-10-12. パフォーマンス

パフォーマンスの設定では、**PDF-Tools** で許容されるスレッド処理の最大数を決定します。

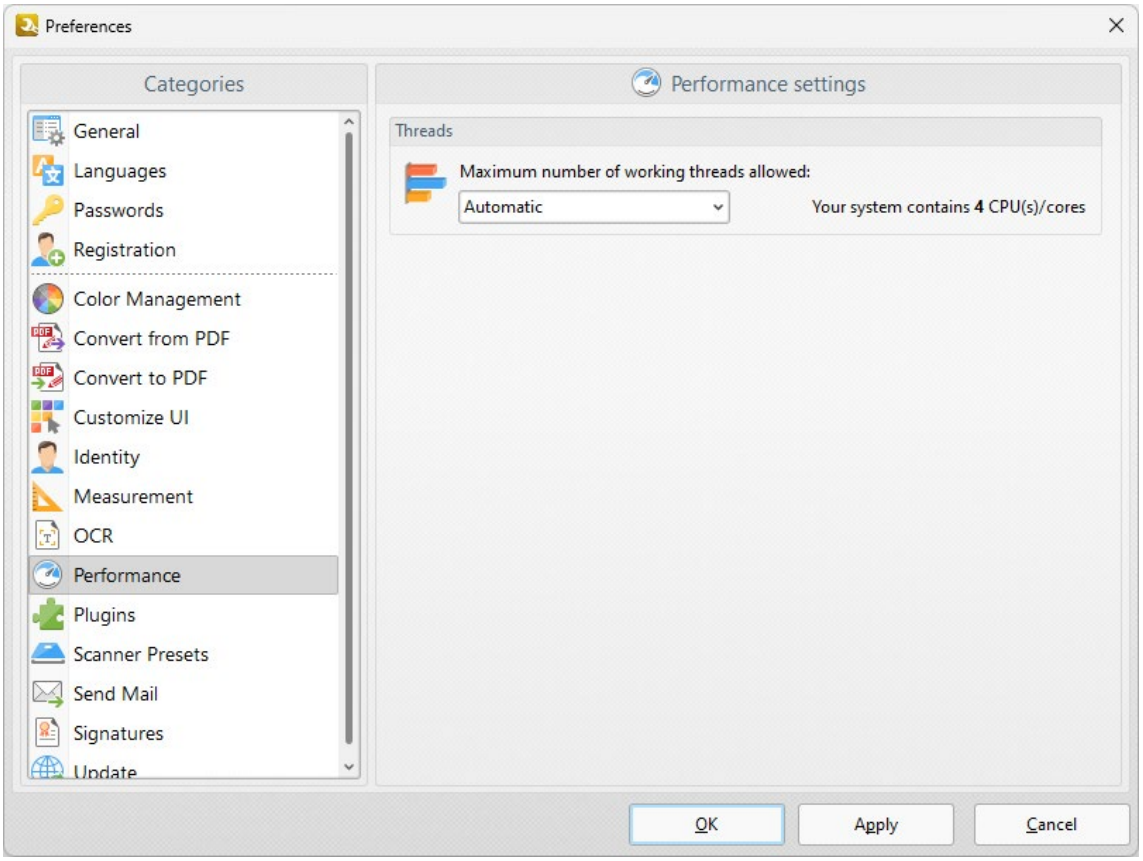

図 1. [設定]ダイアログボックスの[パフォーマンス]タブ

ドロップダウンメニューを使用して、使用できるスレッド処理の数を決定し、**OK** をクリックして変更を保存します。

9-10-13. プラグイン

プラグインを選択すると、次のオプションを使用できます。

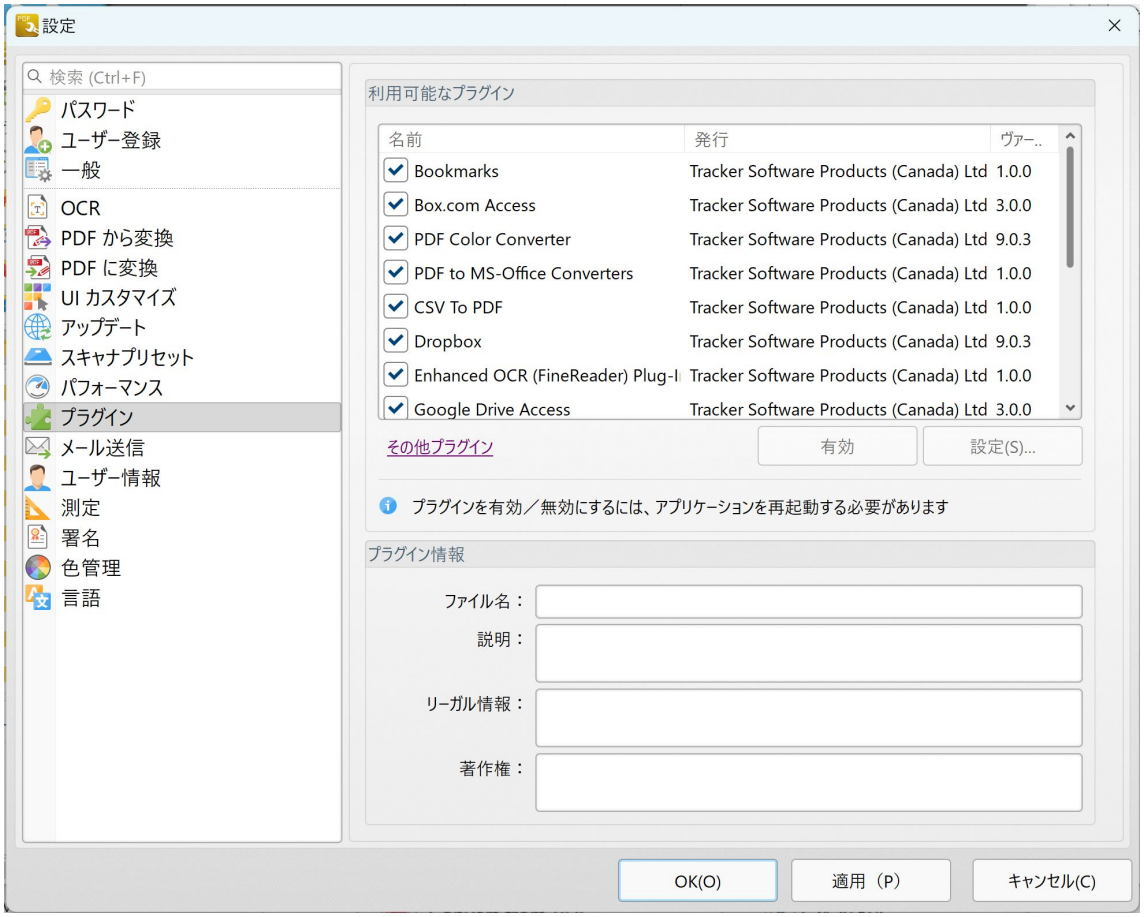

図 1. ［設定］ダイアログボックス、［プラグイン］タブ

このダイアログボックスには、**PDF-Tools** で使用できるプラグインが表示されます。

- **プラグイン情報** プラグインを選択すると、このセクションに詳細が表示されます 。

- **有効/無効**　ボタンをクリックして、選択したプラグインを有効/無効にします。
- **その他のプラグイン**　PDF-XChange から使用可能なその他のプラグインが表示されます。

適用をクリックして変更を適用し、OK をクリックして変更を保存します。

9-10-14. スキャナプリセット

スキャナプリセットの設定では、スキャナを使用するツールのプリセットを決定します。

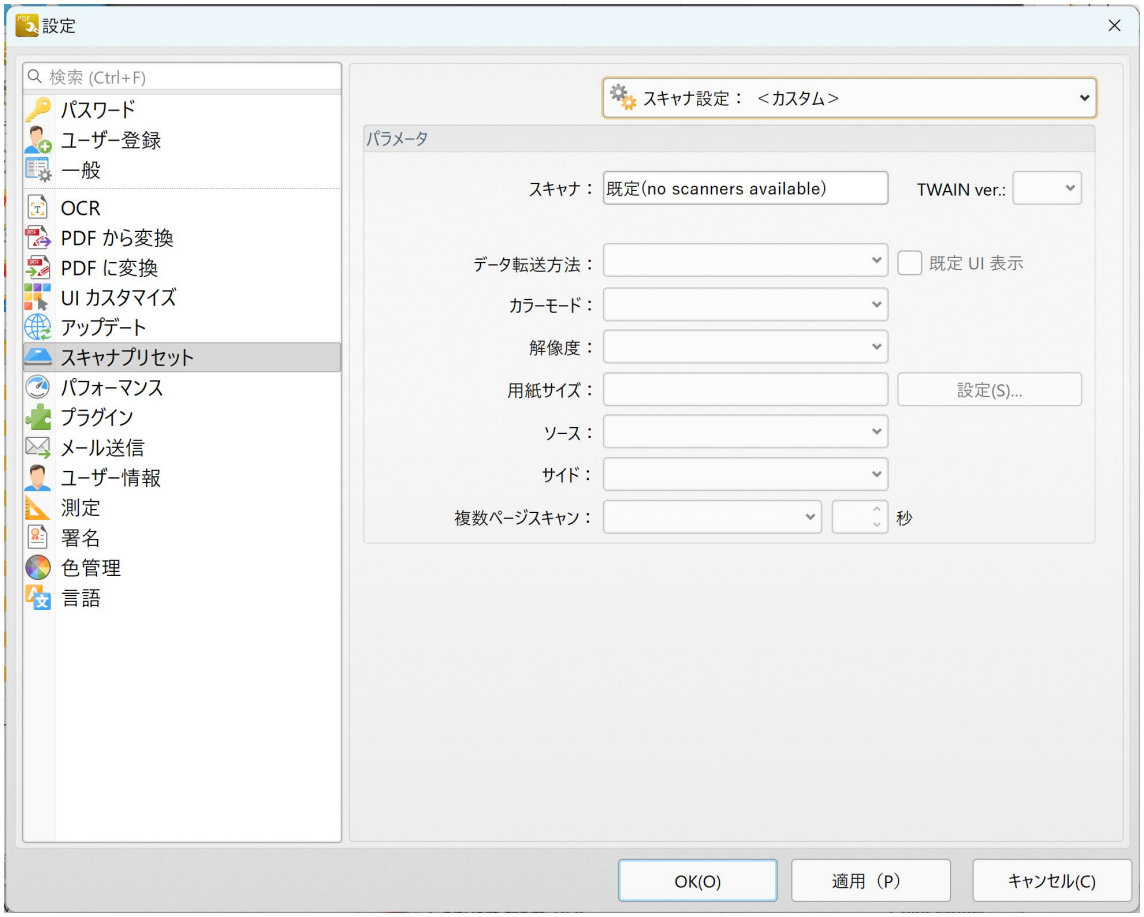

図 1. [設定]ダイアログボックス、[スキャナプリセット]タブ

これらのオプションは、スキャナを使用するツールのスキャナプリセットを決定します。

- **スキャナ設定** メニューをクリックして、プリセットのスキャン・モードまたは保存されたプロファイルを選択します。

- **スキャナ**　メニューから使用するスキャナを選択します。
- **データ転送方法**　**ネイティブモード**または**メモリモード**を選択します。
  - **ネイティブモード**　単一のメモリバッファを使用します。これはデフォルトかつ最速のモードであり、最も幅広くスキャナとの互換性があります。
  - **メモリモード**　複数のメモリバッファを使用できます。これは、メモリが不足している場合や、大きな画像がスキャンされている場合に便利な機能です。
- **ネイティブ UI の表示**　ボックスがデフォルトで選択されていると、デバイス・ドライバのユーザーインターフェースが使用されることを意味します。これは最も信頼性の高いオプションであり、スキャナはスキャンそのものの特定のパラメータ(カラーモード、解像度、用紙サイズ、ソース)を選択します。**ネイティブ UI の表示**のボックスをオフにすると、次のオプションをカスタマイズすることができます。
  - **カラーモード**　自動検出、カラー、グレースケール、白黒の 4 つのオプションがあります。
  - **解像度**　メニューをクリックして、スキャンしたドキュメントの **dpi**(ドット毎インチ)を選択します。
  - **用紙サイズ**　スキャン時に使用する用紙のサイズを指します。**設定**をクリックして、その他のオプションを表示します。
    - **自動**　用紙サイズを自動的に決定します。
    - **標準**　ISO および ANSI で使用されるような標準サイズが含まれています。
    - **カスタム**　任意の寸法を入力できます。
  - **ソース**　オート、フラットベッド、フィーダの 3 つのオプションがあります。 これらは、スキャンに使用されるスキャナのタイプを指します。
- **スキャン面**　メニューをクリックして、ドキュメントのどちらの面をスキャンするかを決定します。**シンプルスキャン**、**手動で両面**、**手動で両面の反転**の 3 つのオプションがあります。 ドロップダウン矢印をクリックすると、これらのオプションの説明が表示されます。
- **他のページをスキャン**　メニューをクリックして、追加のページをスキャンするときの設定を選択します。

スキャナ設定のドロップダウンメニューをクリックして、カスタム・プロファイルを保存/管理/削除します。

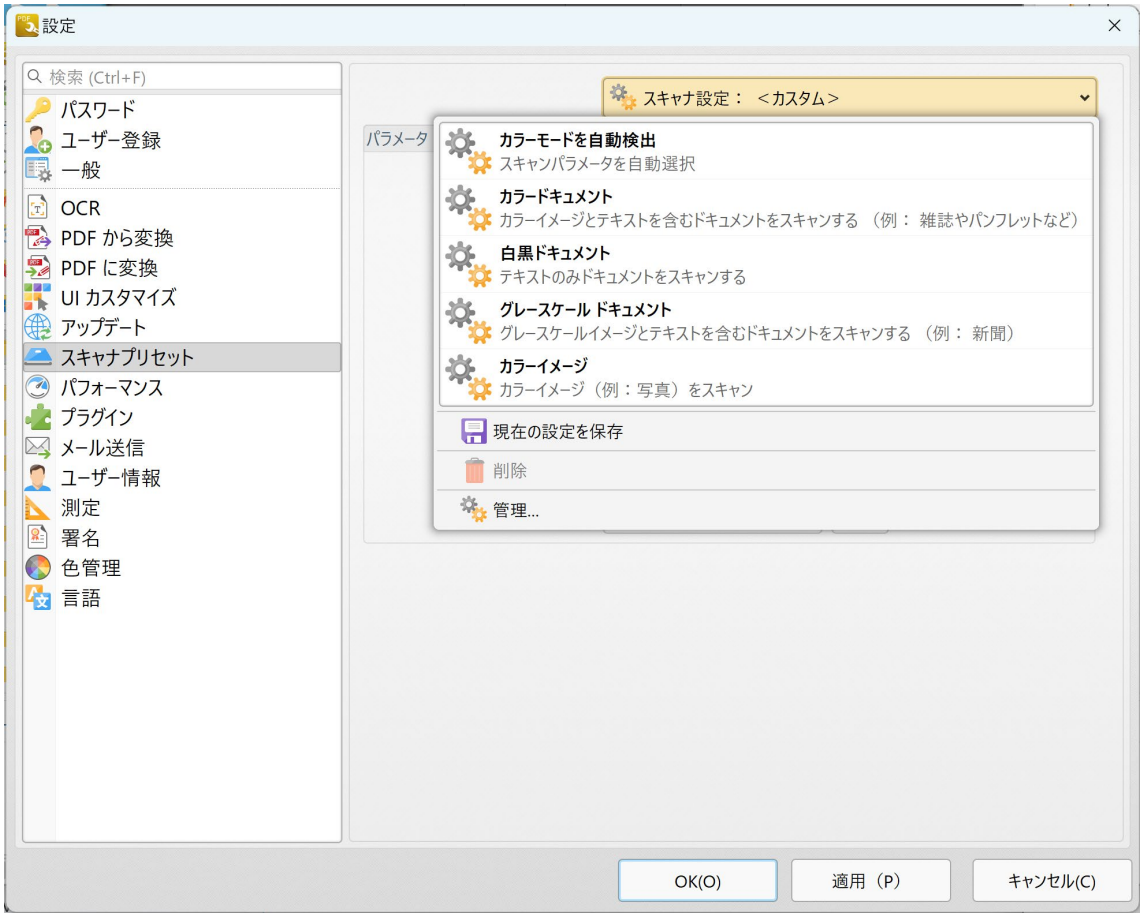

図 2. [**スキャナ設定**]カスタム・プロファイル

- **現在の設定を保存**　後で使用するためにカスタム設定を保存します。保存されたプロファイルの詳細は、**スキャナ設定**のドロップダウンメニューに表示されます。
- **削除**　選択したプロファイルを削除します。
- **管理**　保存されたカスタム設定を管理します。以下で説明するように、**プリセット管理**のダイアログボックスが開きます。

OK をクリックして変更を保存します。

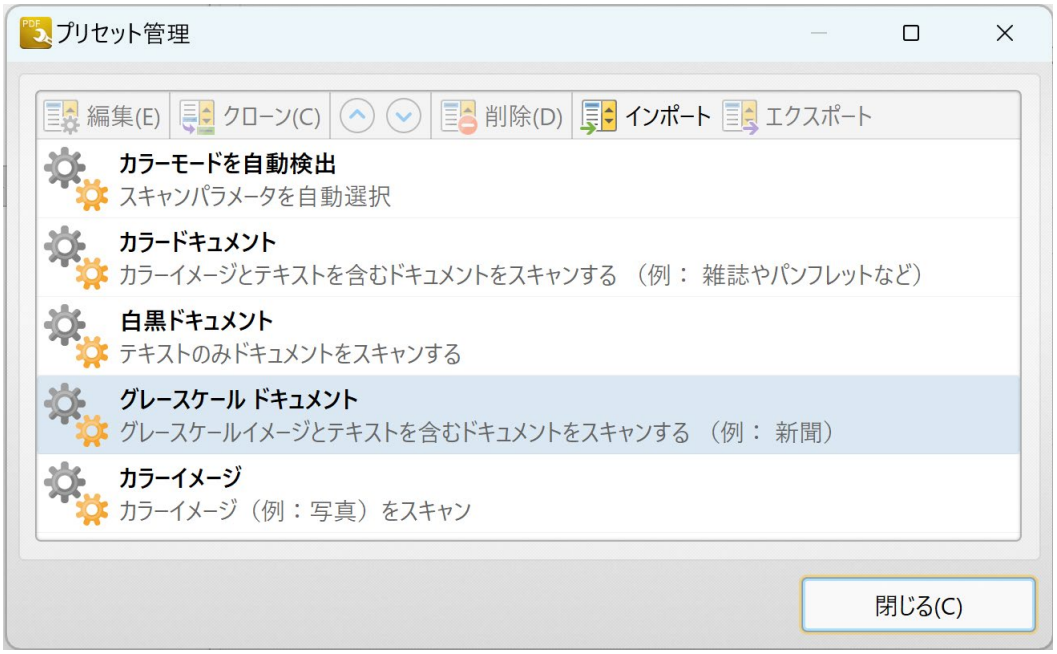

図 3. [プリセットの管理]ダイアログボックス

- **編集** 選択したプロファイルを編集します。
- **複製** 選択したプロファイルを複製します。これにより、プロファイルを複製し、既存のプロファイルとそのパラメータを保持しながら設定をカスタマイズすることができます。
- 上矢印と下矢印を使用して、選択したプロファイルをリスト内で上下に移動します。
- **削除** 選択したプロファイルを削除します。
- **インポート** 保存したファイルからプロファイルをインポートします。
- **エクスポート** プロファイルをファイルにエクスポートします。

9-10-15. メール送信

メール送信の設定では、**PDF-Tools** の**メールを送信**のツールアクションを使用してドキュメントを電子メールで送信するために使用するデスクトップ・クライアントを決めます。

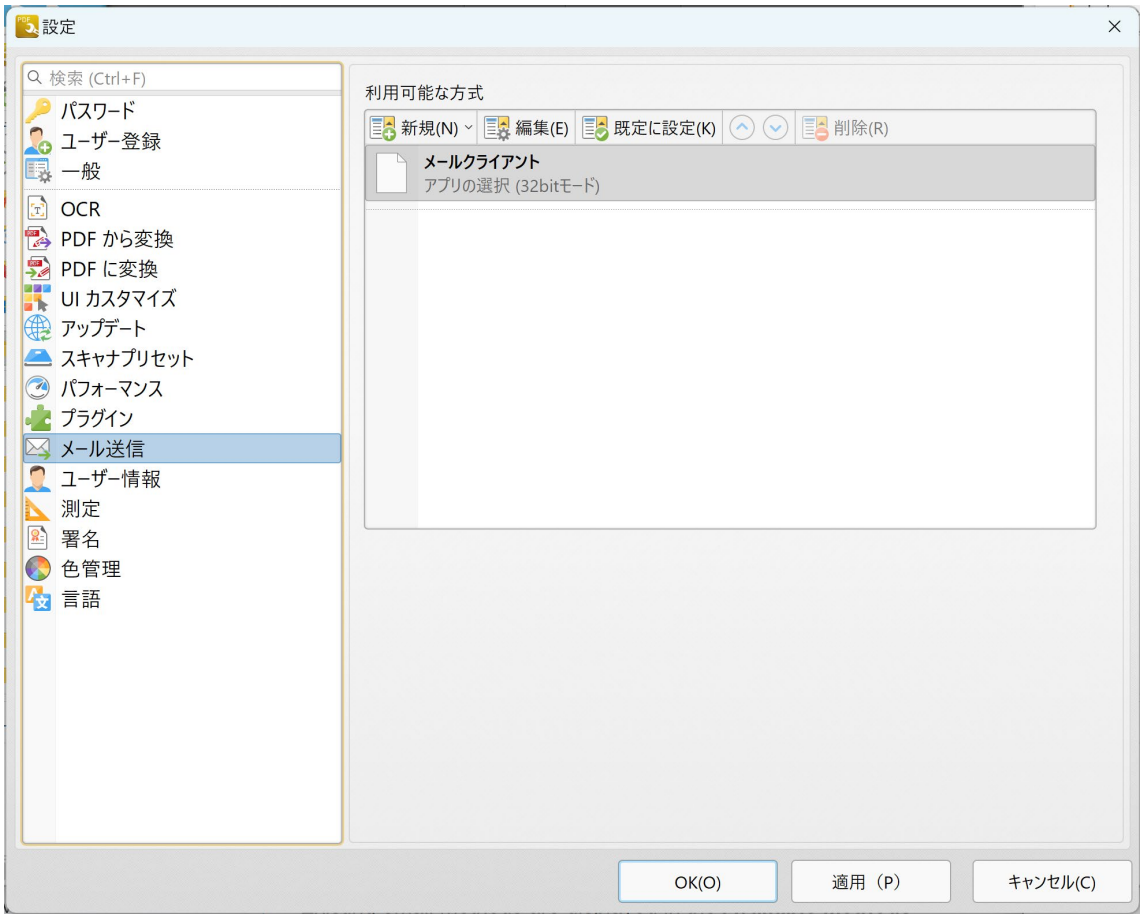

図 1. [設定]ダイアログボックス、[メール送信]タブ

利用可能な方式　既存の電子メールの方式が表示されます。

- **新規**　新しい電子メール方式を追加します。必要に応じて、SMTP、Gmail、Yahoo!、Hotmail、Outlook などを選択します。
- **編集**　選択した電子メール方式を編集します。
- **既定に設定**　選択した電子メール方式を有効にします。
- **削除**　選択した電子メール方式を削除します。

OK をクリックして変更を保存します。

9-10-16. 署名

署名の設定では、**PDF-Tools** でのデジタル署名の作成、表示、および検証の設定が決まります。

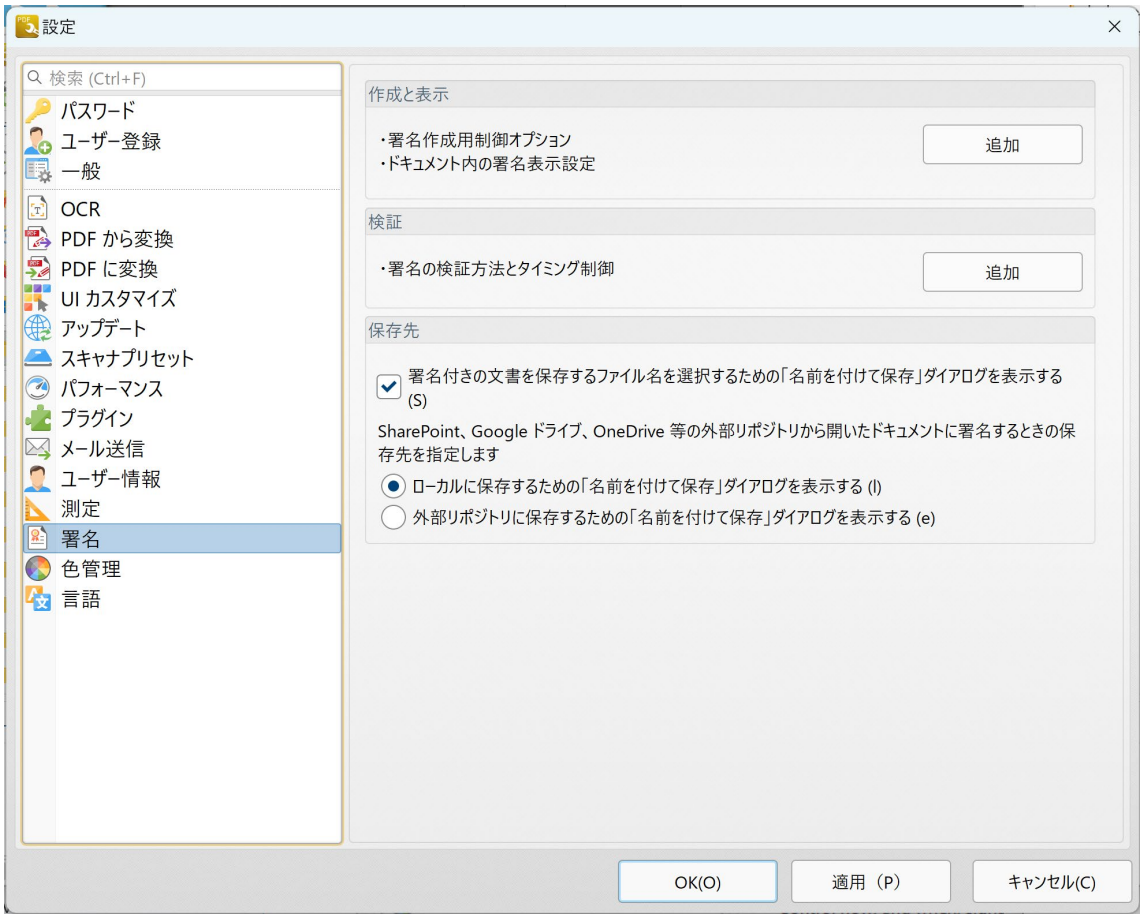

図 1. [環境設定]ダイアログボックス、[署名]タブ

これらのオプションは、デジタル署名の設定を決定します。

- **作成と表示**　以下の(**図 2.**)で詳述されているオプションが決まります。**その他**をクリックして　、これらの設定にアクセスします。
- **検証**　署名を検証する方法とタイミングを決定します。**その他**をクリックして、これらの設定にアクセスし、必要に応じてチェックボックスを選択します。
- **保存先**　ラジオボタンのいずれかを選択して、外部リポジトリから開いたドキュメントの保存方法を決定します。

図 2. [作成と表示]ダイアログボックス

作成の設定は次のとおりです。

- **デフォルトの署名方法**　メニューからオプションを選択して、デフォルトの署名方法の設定を決定します。
- **デフォルトの署名形式**　メニューからオプションを選択して、署名形式を決定します。
  - **PKCS#7 – Detached　Abstract Syntax Notation One(ASN.1)形式**の証明書をエンコードします。
  - **CAdES　eIDAS** に準拠して作成された電子署名であり、手書きの署名と同じ法的価値を持ちます。
- **署名の失効情報を含める**　必要に応じて、ボックスを選択します。このオプションを有効にすると、署名の失効ステータスがメインウィンドウに表示されます。

・**署名ボックスを適用する前に、PIN キャッシュを表示させる**　必要に応じて、を選択します。

・**その他　デジタル署名表示テンプレート**を設定します。

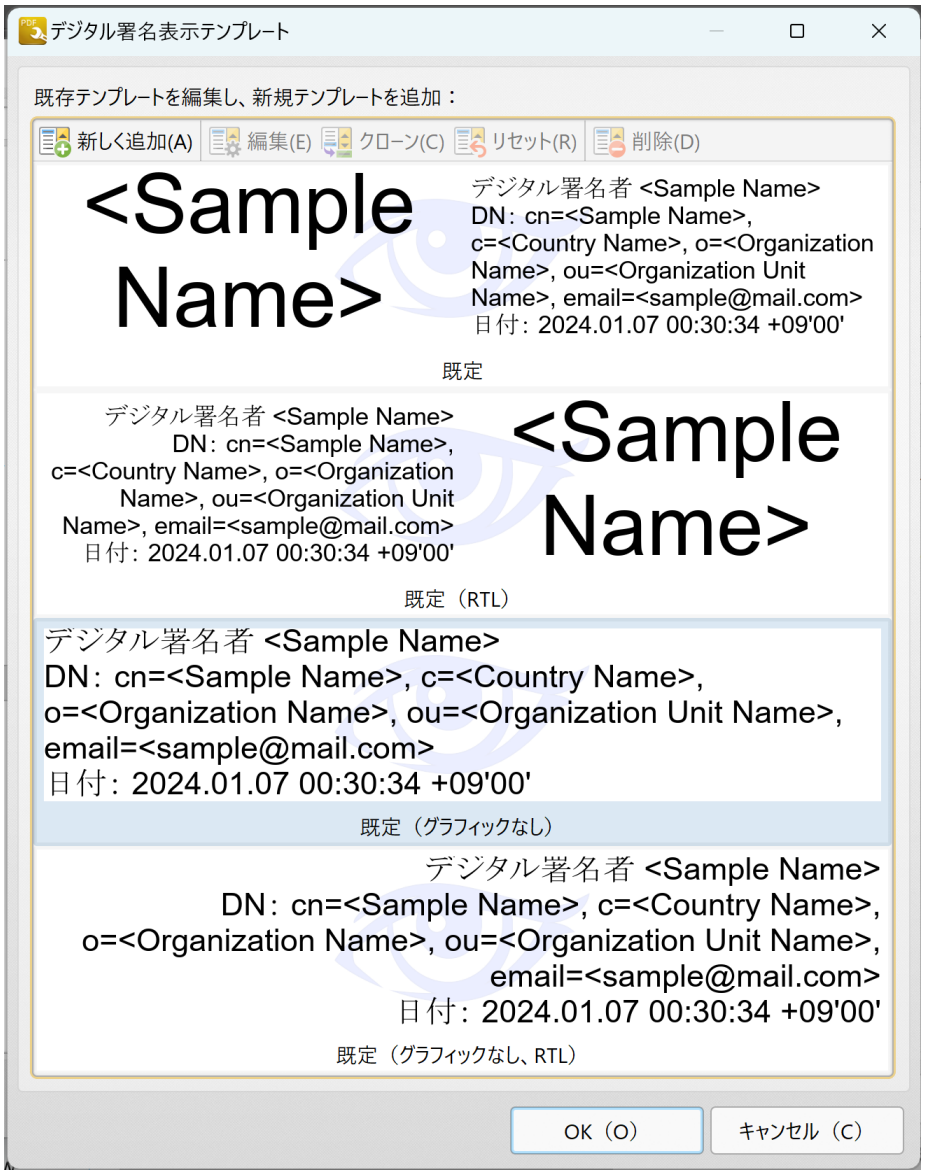

図 3. [デジタル署名の表示テンプレート]ダイアログボックス

署名テンプレートを選択し、必要に応じて**複製**/**リセット**/**編集**を選択します。

・**複製**　選択した署名テンプレートを複製します。これは、既存の署名テンプレートのパラメータを元のテンプレートを編集せずに変更および保存する必要がある場合に便利な機能です。

・**リセット**　選択した署名テンプレートの値をデフォルトの状態に戻します。

- **編集**　選択した署名テンプレートの値を調整します。

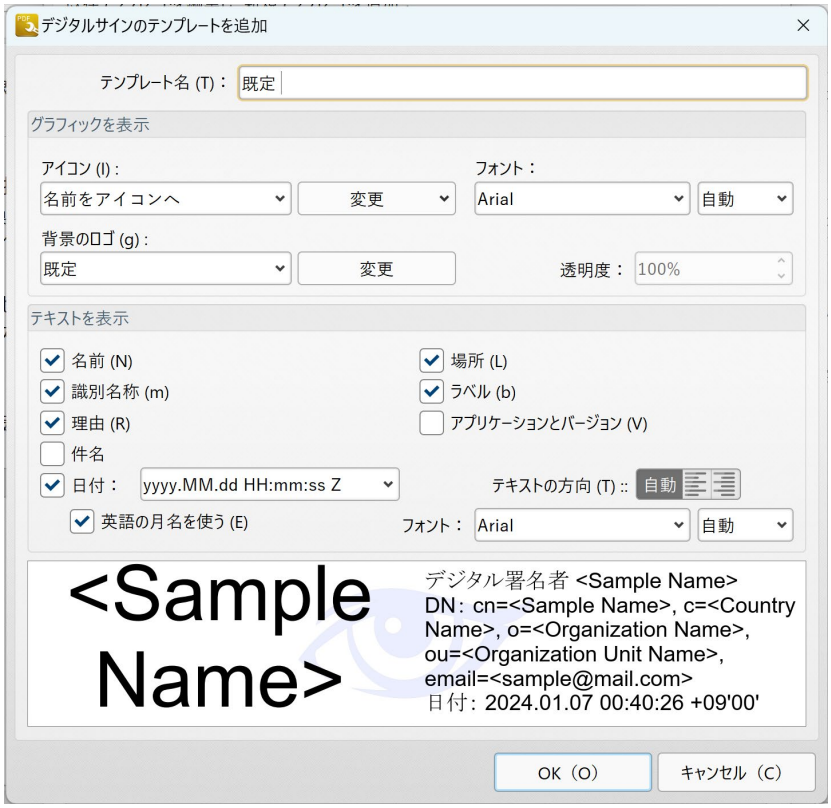

図 4. [デジタル署名のテンプレートを追加]ダイアログボックス

- **テンプレート名**　テキストボックスを使用して、署名テンプレートの名前を編集します。
- **グラフィックを表示**　オプションを使用して、テンプレートに表示されるグラフィックを決定します。
    - **名前をアイコンへ**　アイコンとして現在のユーザーの名前を使用するします。
    - **カスタム**　カスタムのアイコンを選択します。使用するファイルの名前をテキストボックスに入力するか、アイコンをクリックしてローカルのコンピューターからファイルを選択します。
- **背景のロゴ**　ボックスを選択して、署名テンプレートの背景にロゴを表示します。
- **テキストを表示**　このセクションのボックスを選択して、テンプレートに表示される情報を決定します。
- **テキスト方向**　ドロップダウンメニューを使用して、テキストの方向を決定します。

OK をクリックして変更を保存します。

9-10-17. アップデート

アップデートのオプションは、**PDF-XChange** アプリケーションの更新を確認するために使用されます。

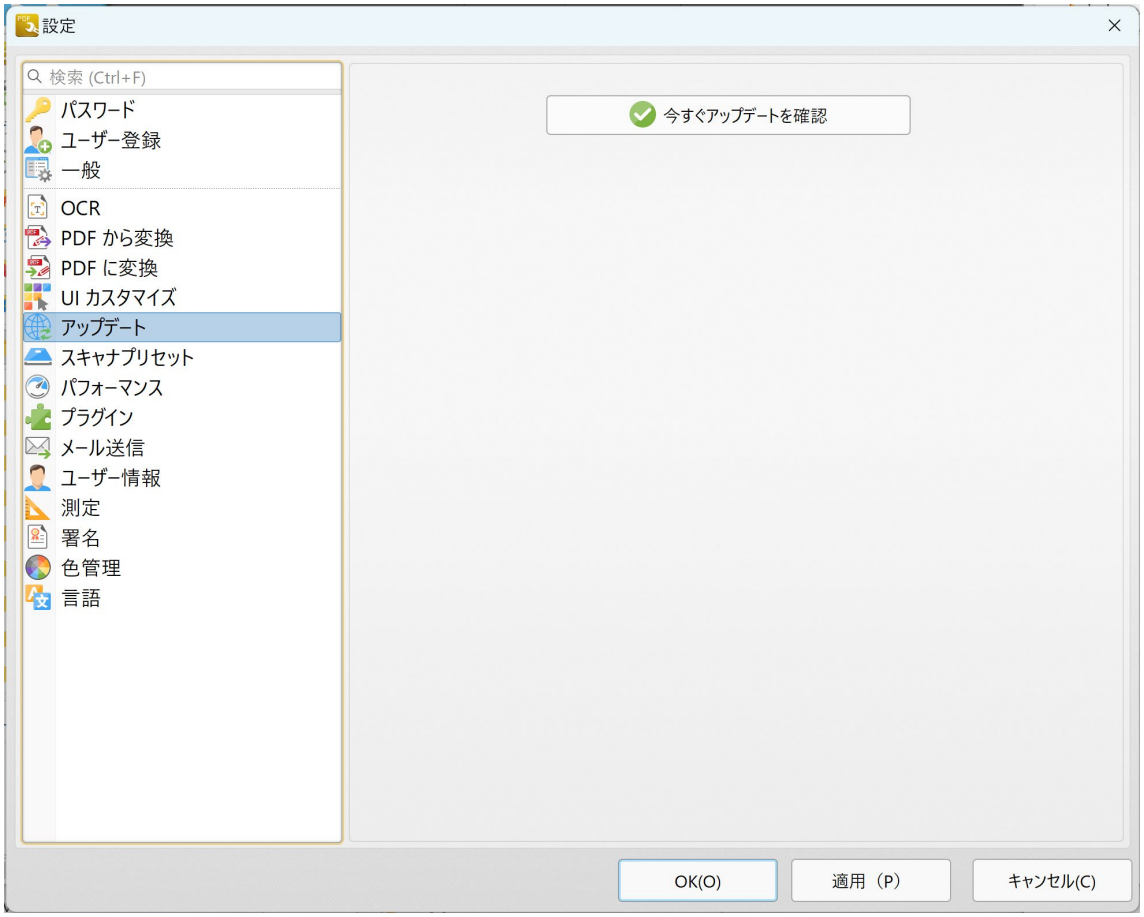

図 1. [設定]ダイアログボックス、[アップデート]タブ

今すぐアップデートを確認ボタンをクリックして、**PDF-Tools** のアップデートを確認します。

9-11. フォルダモニター

PDF-Tools の**フォルダモニター**機能は、ユーザーが指定するフォルダを監視し、新しいファイルがそのフォルダに移動されたとき、またはフォルダに含まれるファイルが編集されたときに自動的にツール操作を実行するために使用されます。**フォルダモニター**を作動させるには、**PDF-Tools** が実行されている必要があることに注意してください。**フォルダモニター**をクリックすると、**フォルダモニター**を作成/編集/削除します。

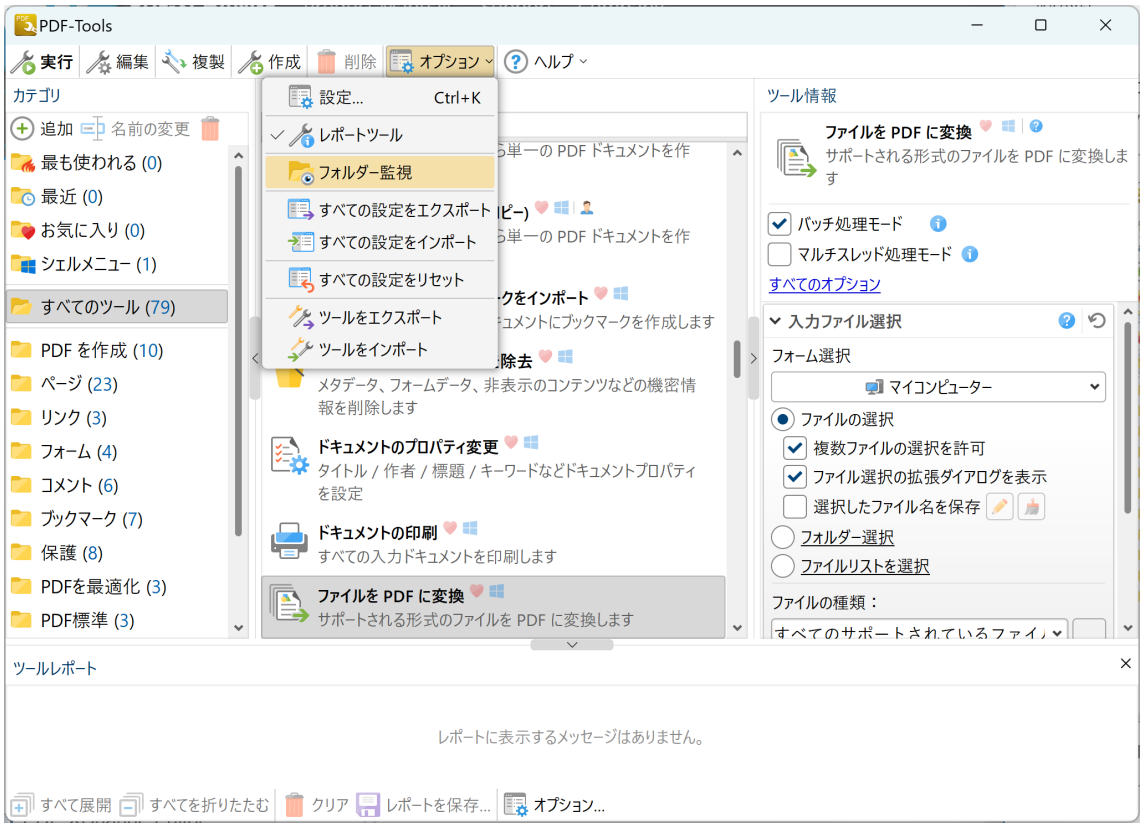

図 1. PDF-Tools のメイン・」ウィンドウ、オプションタブ、フォルダモニター

フォルダモニターのダイアログボックスが開きます。

図 2. [フォルダモニター]ダイアログボックス

- **作成** 新しいフォルダモニターを作成します。以下で説明するように、**フォルダモニターを設定**のダイアログボックスが開きます。
- **編集** 選択したフォルダモニターを編集します。モニターは、編集する前に無効にする必要があることに注意してください。
- **有効/無効/削除** 選択したフォルダモニターを有効/無効/削除します。
- ダイアログボックスを右クリックして、その他のオプションを表示します。
  - **モニター識別子をコピー** フォルダモニターの識別子をクリップボードにコピーします。識別子は、ここで説明するフォルダモニターのコマンドラインと組み合わせて使用できます。
  - **デスクトップにショートカットを作成** フォルダモニターへのデスクトップショートカットを作成します。

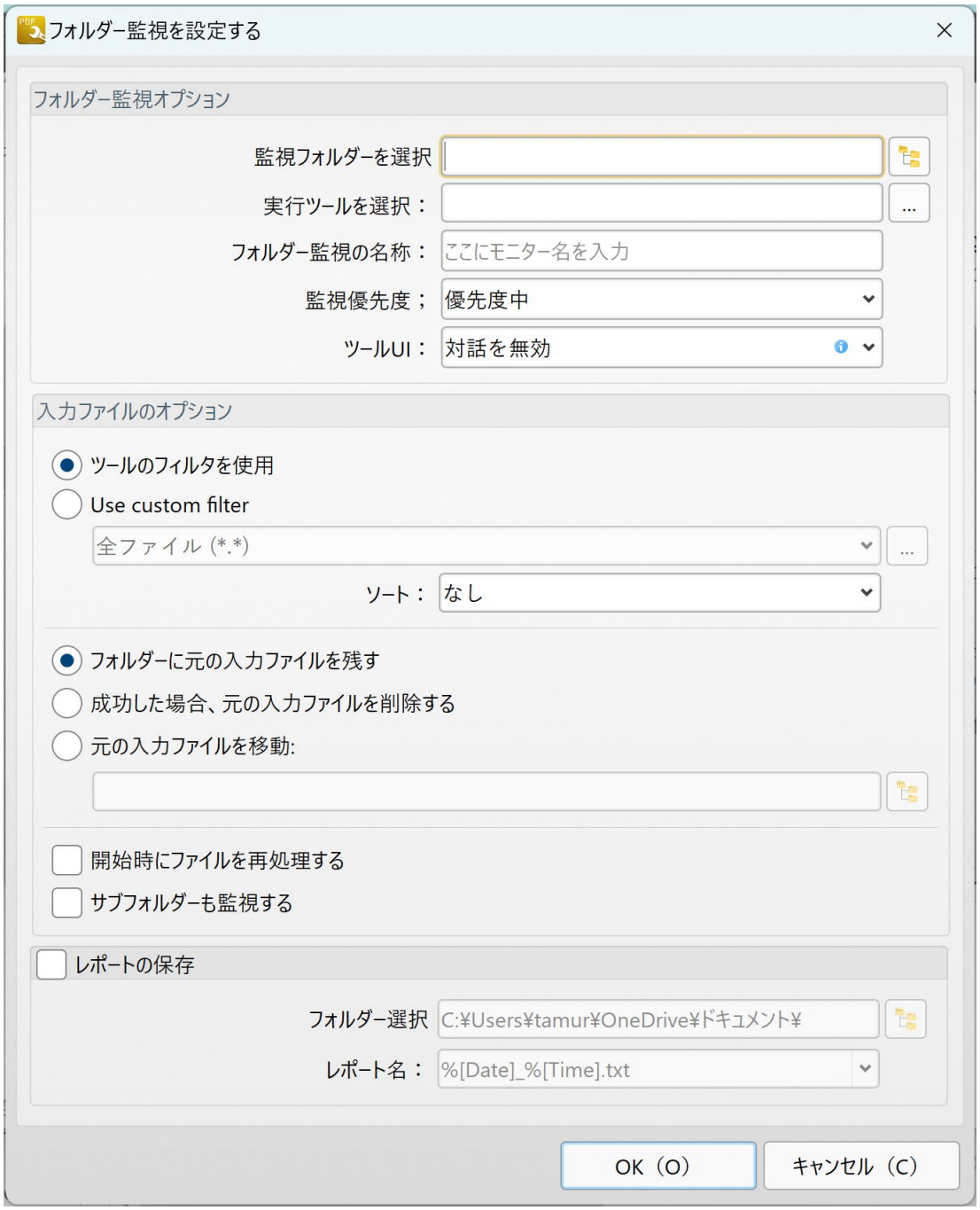

図 3. [フォルダモニターを設定]ダイアログボックス

- **監視フォルダを選択** 監視するフォルダの名前をテキストボックスに入力するか、アイコンをクリックしてファイルを手動で選択します。
- **実行ツールを選択** テキストボックスに実行するツールの名前を入力するか、[…] アイコンをクリックしてツールを手動で選択します。
- **フォルダモニター名** テキストボックスに監視するフォルダの名前を入力します。

- **監視優先度** ドロップダウンメニューを使用して、フォルダ監視の優先度を決定します。優先度が**高**に設定されている場合、プロセスは高速になりますが、より多くのメモリを使用し、その逆も同様となります。
- **ツール UI** ドロップダウンメニューを使用して、新しいファイルが監視対象フォルダにコピーされたときのツールの相互作用を決定します。
  - **インタラクションを無効化** ツール UI の起動を無効にします。**セキュリティの付加**のツールなどの一部のツールでは、実行前にいくつかの設定を決定する必要があることに注意してください。UI 設定は、これらのツールを初めて実行したときに表示され、その後は開くのが無効となります。
  - **ツール設定を使用** ツール UI を起動し、新しいファイルが監視対象フォルダにコピーされるたびに設定をカスタマイズします。
- **入力ファイルのオプション** 入力ファイルのオプションを決定します。
    - **並べ替え** ドロップダウンメニューでオプションを選択して、入力ファイルの並べ替え方法を決定します。
  - ツールの実行後に入力ファイルに対して実行されるアクションを決定するオプションを選択します。
    - **元の入力ファイルをフォルダに残す** 監視対象フォルダに入力ファイルを保持します。
    - **成功したら元の入力ファイルを削除する** 入力ファイルを削除する際に選択します。
    - **入力ファイルをフォルダに移動** 入力ファイルを別のフォルダに移動し、テキストボックスにフォルダの名前を入力するか、アイコンをクリックしてフォルダを手動で選択します。
    - **開始時にファイルを再処理する** フォルダモニターが有効になっているときにファイルを再処理します。
    - **サブフォルダも監視する** 監視対象フォルダのサブフォルダを含めます。
- **レポートの保存** ボックスを選択してツール出力レポートを保存し、**フォルダの選択**のオプションと**レポート名**のオプションを使用して、レポートの保存先フォルダとファイル名を指定します。

OK をクリックして変更を保存します。

システムの再起動後にフォルダモニターを再度有効にする必要があることに注意してください。フォルダモニターが実行されていることを確認するには、次の手順に従います。

1. PDF-Tools の UI の**オプション**タブをクリックし、フォルダモニターをクリックします。**フォルダモニター**のダイアログボックスが開きます。

2. 対象となるフォルダモニターを右クリックし、**デスクトップにショートカットを作成**をクリックします。

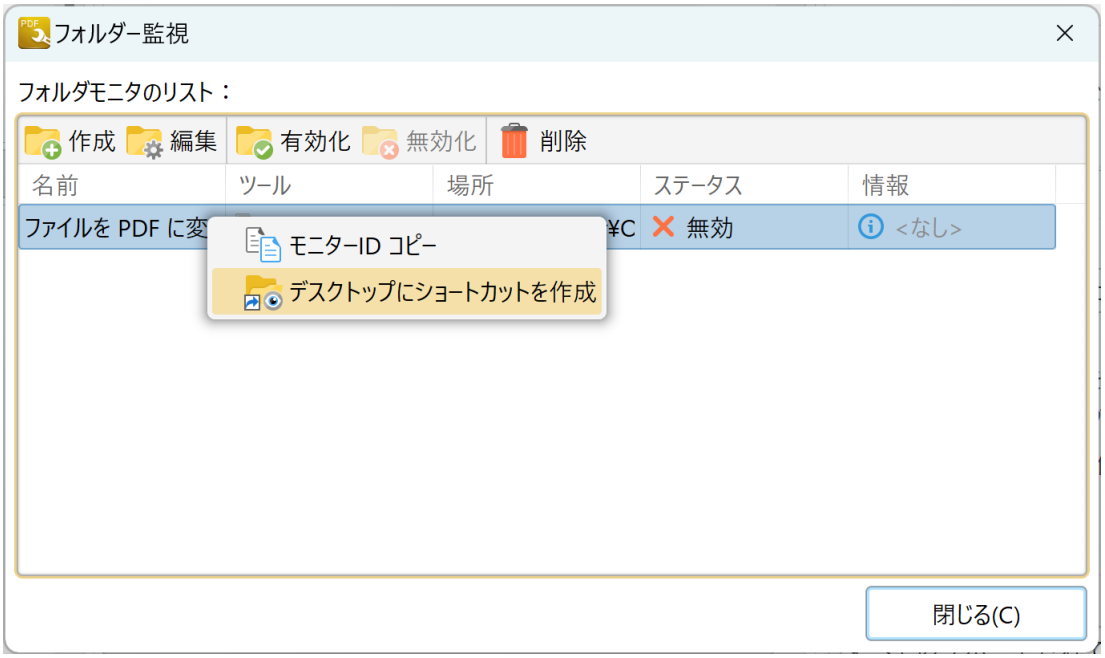

図 4. [フォルダモニター]ダイアログボックス、右クリックのショートカットメニュー

フォルダモニターへのショートカットが作成され、デスクトップにアイコンが表示されます。

3. **Windows スタートアップ・フォルダ**を開きます。これは下記にデフォルトで存在します。

%appdata%¥Microsoft¥Windows¥Start Menu¥Programs¥Startup

4. ショートカットをクリックしてデスクトップから **Windows スタートアップ・フォルダ**にドラッグします。

フォルダモニターは、**Windows** アカウントにログインするたびに有効になります。